

上曾根遺跡

第3次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第245集



2022

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



上曾根遺跡

第3次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第245集

令和4年

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区全景（南西から）



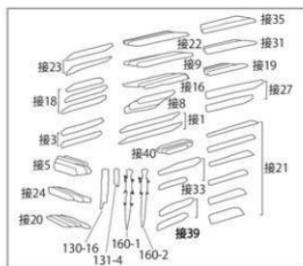
調査区全景（上空から）



出土墨書土器



出土木製品



※接○数字は接合番号を表す
 ※数字は報告書番号を表す

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、上曽根遺跡の調査成果をまとめたものです。

上曽根遺跡は、山形県の北西に位置する庄内地方北部の酒田市に立地しています。酒田市は、古くから日本海側の海上交通と最上川の舟運の要として発展してきました。江戸時代には、羽州屈指の港町として知られ、その繁栄ぶりは「西の堺、東の酒田」と言われるほどでした。肥沃な土壌と日本海の幸に恵まれ、庄内平野で育った良質な米と鳥海山の伏流水で造られる日本酒が特産品です。

この度、一般国道 344 号道路改築事業（安田バイパス）に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、上曽根遺跡の発掘調査を実施しました。当遺跡は、昭和 61 年と同 63 年にも道路改良等に係る発掘調査が実施されており、今回が 3 回目の本調査となります。

調査の結果、平安時代の集落跡の一部を構成した建物跡や井戸跡、土坑、柱列跡などが発見されました。井戸跡や土坑からは、当時の祭祀道具である齋串や墨書土器が多数出土し、当時の祭祀に関わる様相を探る上で貴重な成果を得ることができました。また、中近世の遺物も一定量が確認され、北接する古代出羽国府である国史跡「城輪柵跡」に後続する集落跡の存在なども明らかとなりました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様から感謝申し上げます。

令和 4 年 3 月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 齋藤直樹

凡 例

- 1 本書は、一般国道344号道路改築事業（安田バイパス）に係る「上曽根遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は山形県庄内総合支庁建設部道路計画課の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、植松暁彦（Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ章）・須賀井新人（Ⅰ・Ⅱ章）が担当し、齋藤稔・伊藤邦弘・高桑弘美が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ⅹ系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

SB…掘立柱建物	SE…井戸	SK…土坑	SD…溝	
SP…柱穴	SX…性格不明遺構	RP…登録土器	RW…登録木製品	RQ…登録石製品
P…土器	W…木製品			

- 7 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示し、遺物の網点は下記のとおりとした。

土器	木製品	石製品
煤：■	炭化：■	摩滅：■
黒色：■	樹皮：■	煤：■
黒色剥離：■	木釘：■	
赤彩：■	黒色付着物：■	
墨書・墨痕：■	※漆は適宜色調を図示した。	

- 8 遺物実測図の断面黒塗りには須恵器、白抜きは土師器・赤焼土器を表す。また、拓影断面図及び平面図を図化したものの配置は左から外面・断面・内面の順に掲載した。なお、外面のみの図化は断面の左側に配置している。
- 9 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。
- 10 発掘調査、整理作業および本書を作成するにあたり、下記の方々から御指導と御助言をいただいた。（敬省略）
考古形態測定学研究会 野口 淳 兵庫県立考古博物館 上田健太郎
沼田市教育委員会 渡部裕司 国立歴史民俗博物館 三上喜孝

調査要項

遺跡名	上曾根遺跡						
遺跡番号	204-076						
所在地	山形県酒田市上野曾根字上中割						
調査委託者	山形県庄内総合支庁建設部道路計画課						
調査受託者	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター						
受託期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日						
現地調査	令和元年6月4日～令和元年12月6日						
調査担当者	令和元年度	業務課長	伊藤邦弘				
		課長補佐	須賀井新人				
		調査研究専門員	齊藤主税（調査主任）				
	令和2年度	専門調査研究員	高桑 登				
		調査員	加藤津奈樹				
		業務課長	伊藤邦弘				
	令和3年度	課長補佐（兼）					
		調査研究専門員	須賀井新人				
		専門調査調査員	高桑 登（整理主任）				
	令和3年度	業務課長	須賀井新人				
		課長補佐	高桑弘美				
		専門調査研究員	楠松曉彦（整理主任）				
	調査指導	山形県教育庁文化財・生涯学習課（令和元年度）					
		山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財課（令和2年度）					
		山形県観光文化スポーツ部文化振興・文化財活用課（令和3年度）					
調査協力	酒田市教育委員会						
	日向川土地改良区						
業務委託	山形県庄内教育事務所						
	基準点測量業務	有限会社九木原測量設計（令和元年度）					
	遺構測量写真撮影業務	株式会社シン技術コンサル（令和元年度）					
	遺構測量図化業務	株式会社シン技術コンサル（令和2年度）					
	理化学分析業務	株式会社パレオ・ラボ（令和元・令和2年度）					
	遺物保存処理業務	一般社団法人文化財科学研究センター（令和2年度）					
		株式会社吉田生物研究所（令和3年度）					
発掘作業員	青山秀樹	阿彦俊光	五十嵐寿行	池田みつ江	石川喜一	内海謙二	遠田一光
	大滝昭子	大瀧美絵	岡部正明	小野寺佳子	小野山山明	黒井昌子	小林和歩
	斎藤藤功	齋藤茂	齋藤美恵	佐藤雄	庄司誠	菅原寛	菅原重明
	鈴木正	高橋道子	富樫誠	堀幸一	堀秀利	堀口要一	堀口庄一
	松田由美	三浦里志	三浦百合子	菅川正治	柳田嘉奈子	渡会里沙	（五十音順）

整理事業員 板垣牧子 大城麻衣 小川幸子 木村由紀子 齋藤まゆみ 志鎌久悦 鈴木薫
玉木良子 土屋彩 中村史子 廣瀬真理子 保科京子 (五十音順)

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法	2
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6
III 遺跡の様相	
1 遺跡の概要	11
2 遺構・遺物の分布	12
IV 遺構	
1 1 区の遺構	35
2 2 区の遺構	40
V 出土遺物	
1 古代の遺物	80
2 中近世の遺物	90
3 木製品	93
4 鉄製品	96
5 石製品	96
VI 理化学分析	
1 放射性炭素年代測定（1）	240
2 放射性炭素年代測定（2）	243
3 出土木材の樹種同定	245
4 出土大型植物遺体の同定	248
5 出土テフラの分析	250
6 出土石製品の石材同定	253
VII 総括	
1 縄文時代	258
2 奈良・平安時代	258
3 中世・近世	260
報告書抄録	巻末

表

表 1	周辺遺跡地名表	8	表 30	土器観察表 27	225
表 2	1次と3次の整合表	45	表 31	土器観察表 28	226
表 3	SE123 出土斎申状木製品形態分類	97	表 32	土器観察表 29	227
表 4	土器観察表 1	199	表 33	土器観察表 30	228
表 5	土器観察表 2	200	表 34	土器観察表 31	229
表 6	土器観察表 3	201	表 35	土器観察表 32	230
表 7	土器観察表 4	202	表 36	木製品観察表 1	231
表 8	土器観察表 5	203	表 37	木製品観察表 2	232
表 9	土器観察表 6	204	表 38	木製品観察表 3	233
表 10	土器観察表 7	205	表 39	木製品観察表 4	234
表 11	土器観察表 8	206	表 40	木製品観察表 5	235
表 12	土器観察表 9	207	表 41	木製品観察表 6	236
表 13	土器観察表 10	208	表 42	木製品観察表 7	237
表 14	土器観察表 11	209	表 43	木製品観察表 8	238
表 15	土器観察表 12	210	表 44	斎申接合資料観察表	238
表 16	土器観察表 13	211	表 45	石製品観察表	239
表 17	土器観察表 14	212	表 46	金属製品観察表	239
表 18	土器観察表 15	213	表 47	測定試料および処理 1	240
表 19	土器観察表 16	214	表 48	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 1	241
表 20	土器観察表 17	215	表 49	測定試料および処理 2	243
表 21	土器観察表 18	216	表 50	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 2	244
表 22	土器観察表 19	217	表 51	出土木材の樹種同定結果一覧	246
表 23	土器観察表 20	218	表 52	出土した大型植物遺体	248
表 24	土器観察表 21	219	表 53	テフラ試料とその特徴	251
表 25	土器観察表 22	220	表 54	テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果	251
表 26	土器観察表 23	221	表 55	4φ篩残渣中の鉱物組成	251
表 27	土器観察表 24	222	表 56	岩石同定試料とその詳細	253
表 28	土器観察表 25	223	表 57	石製品と石材の関係	254
表 29	土器観察表 26	224			

図 版

第 1 図	遺跡発掘調査計画図	4	第 11 図	遺構配置図 6	20
第 2 図	調査概要図	5	第 12 図	遺構配置図 7	21
第 3 図	遺跡位置図	7	第 13 図	遺構配置図 8	22
第 4 図	調査区全体図	13	第 14 図	遺構配置図 9	23
第 5 図	遺構配置図 1 割付図	14	第 15 図	遺構配置図 10	24
第 6 図	遺構配置図 1	15	第 16 図	遺構配置図 11	25
第 7 図	遺構配置図 2	16	第 17 図	遺構配置図 12	26
第 8 図	遺構配置図 3	17	第 18 図	遺構配置図 13	27
第 9 図	遺構配置図 4	18	第 19 図	遺構配置図 14	28
第 10 図	遺構配置図 5	19	第 20 図	遺構配置図 15	29

第 21 図	遺構配置図 16	30	第 62 図	SD 2 (2) 遺物	99
第 22 図	遺構配置図 17	31	第 63 図	SD 2 (3) 遺物	100
第 23 図	遺構配置図 18	32	第 64 図	SX 3 (1) 遺物	101
第 24 図	遺構配置図 19	33	第 65 図	SX 3 (2) 遺物	102
第 25 図	基本構字図	34	第 66 図	SX 3 (3) 遺物	103
第 26 図	1 次調査 SB 2・SB 3	46	第 67 図	SX 3 (4) 遺物	104
第 27 図	SK213	47	第 68 図	SX 3 (5) 遺物	105
第 28 図	SK210・SK 9	48	第 69 図	SX 3 (6) 遺物	106
第 29 図	SK 8・SP10・SP88・SP73	49	第 70 図	SX 3 (7) 遺物	107
第 30 図	SK52	50	第 71 図	SX 3 (8) 遺物	108
第 31 図	SX54	51	第 72 図	SD 4 (1) 遺物	109
第 32 図	SK97・SK98	52	第 73 図	SD 4 (2) 遺物	110
第 33 図	SP207・SP208・SP209・SP211・SP249・SP261	53	第 74 図	SD 4 (3) 遺物	111
第 34 図	SX 3 (1)	54	第 75 図	SD 5・SK 7・SK 8・SK 9・SP10 遺物	112
第 35 図	SX 3 (2)	55	第 76 図	SK12・SK13・SK15・SD17 遺物	113
第 36 図	SD89	56	第 77 図	SD17・SD18 (1) 遺物	114
第 37 図	SD 4	57	第 78 図	SD18 (2) 遺物	115
第 38 図	SD18 (1)	58	第 79 図	SD18 (3) 遺物	116
第 39 図	SD18 (2)	59	第 80 図	SD18 (4) 遺物	117
第 40 図	SD78・SD206・SD257	60	第 81 図	SD18 (5) 遺物	118
第 41 図	SP219・SP224(225)・SP226・SP227・SP228・ SP229・SP231・SP235a～c	61	第 82 図	SD19・SK29・SK36・SK46・SK49・SK51・ SK52 (1) 遺物	119
第 42 図	SB163 (1)	62	第 83 図	SK52 (2)・SD53 遺物	120
第 43 図	SB163 (2)	63	第 84 図	SX54 (1) 遺物	121
第 44 図	SE123 (1)	64	第 85 図	SX54 (2) 遺物	122
第 45 図	SE123 (2)	65	第 86 図	SX54 (3) 遺物	123
第 46 図	SE126 (1)	66	第 87 図	SX54 (4) 遺物	124
第 47 図	SE126 (2)・SE162	67	第 88 図	SK56・SK61・SP63・SD72・SP73・SK75・SK77・ SD78・SD82・SD83・SP84・SP88 遺物	125
第 48 図	SK244・SD124	68	第 89 図	SD89・SP90 遺物	126
第 49 図	SD238	69	第 90 図	SK95・SK97 (1) 遺物	127
第 50 図	SA152 (1)	70	第 91 図	SK97 (2)・SK98・SK101 遺物	128
第 51 図	SA152 (2)	71	第 92 図	SK104・SD105 (1) 遺物	129
第 52 図	SA152 (3)	72	第 93 図	SD105 (2) 遺物	130
第 53 図	SA152 (4)	73	第 94 図	SK108・SK111・SK113・SK115・SD116・ SD117 遺物	131
第 54 図	SA152 (5)	74	第 95 図	SD118・SD119・SK120 遺物	132
第 55 図	SA152 (6)	75	第 96 図	SK122・SE123 (1) 遺物	133
第 56 図	SK122・SK127・SK106・SK134・SK137・SK120	76	第 97 図	SE123 (2) 遺物	134
第 57 図	SD 2・SD159・SD138・SD119・SD139・SD140	77	第 98 図	SD124 (1) 遺物	135
第 58 図	SX 1	78	第 99 図	SD124 (2)・SX125 遺物	136
第 59 図	SX154・SX155・SD156・SE162	79	第 100 図	SE126 (1) 遺物	137
第 60 図	平行四辺形並布集成	97	第 101 図	SE126 (2) 遺物	138
第 61 図	SX 1・SD 2 (1) 遺物	98			

第102回	SE126 (3) 遺物	139	第139回	SE123 (9) 木製品	176
第103回	SE126 (4)・SK132・SK134・SD143・SD144・SX154 遺物	140	第140回	SE123 (10) 木製品	177
第104回	SX155 (1) 遺物	141	第141回	SE123 (11) 木製品	178
第105回	SX155 (2)・SD156・SD159・SE162・SK205・SP207・SP209・SK210 (1) 遺物	142	第142回	SE123 (12) 木製品	179
第106回	SK210 (2)・SK212・SK213 (1) 遺物	143	第143回	SE123 (13) 木製品	180
第107回	SK213 (2)・SD214・SK216・SP231・SD238 (1) 遺物	144	第144回	SE123 (14) 木製品	181
第108回	SD238 (2) 遺物	145	第145回	SE123 (15) 木製品	182
第109回	SD238 (3)・SP242・SK244 (1) 遺物	146	第146回	SE123 (16) 木製品	183
第110回	SK244 (2)・SK245・SK246・SK247・SP249・SP255・SD257・SP266 遺物	147	第147回	SE123 (17) 木製品	184
第111回	1区グリッド (1) 遺物	148	第148回	SE123 (18) 木製品	185
第112回	1区グリッド (2) 遺物	149	第149回	SE123 (19) 木製品	186
第113回	1区グリッド (3) 遺物	150	第150回	SE123 (20) 木製品	187
第114回	1区グリッド (4) 遺物	151	第151回	SE123 (21) 木製品	188
第115回	1区グリッド (5) 遺物	152	第152回	SE123 (22) 木製品	189
第116回	1区グリッド (6) 遺物	153	第153回	SE123 (23) 木製品	190
第117回	1区グリッド (7) 遺物	154	第154回	SE123 (24)・SE126 (1) 木製品	191
第118回	1区グリッド (8)・1区調査区遺物	155	第155回	SE126 (2) 木製品	192
第119回	2区グリッド (1) 遺物	156	第156回	SE126 (3) 木製品	193
第120回	2区グリッド (2) 遺物	157	第157回	SE126 (4) 木製品	194
第121回	2区グリッド (3) 遺物	158	第158回	SE126 (5) 木製品	195
第122回	2区グリッド (4) 遺物	159	第159回	SE126 (6)・SE162・EP167・SK211・木製品	196
第123回	2区グリッド (5)・2区調査区遺物	160	第160回	SK213・SP219・SP224 (1) 木製品	197
第124回	SD 2・SX 3・SD 4・SK 7・SD18 石製品	161	第161回	SP224 (2)・SP231・SP235・SK237・SK244・EP271・2区グリッド木製品	198
第125回	SD89・SD214・SP227・SD238・SP259 石製品	162	第162回	暦年校正結果 (1)	242
第126回	1区・2区グリッド石製品・SX155 石器・SG 6・SD18・SK127・2区グリッド金属製品	163	第163回	暦年校正結果 (2)	244
第127回	SX 3・SD 4 (1) 木製品	164	第164回	出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真	247
第128回	SD 4 (2)・SD 5 (1) 木製品	165	第165回	出土した大型植物遺体	249
第129回	SD 5 (2)・SK 9・SP10・SD18 (1) 木製品	166	第166回	火山ガラスの屈折率測定結果	251
第130回	SD18 (2)・SK52・SX54 (1) 木製品	167	第167回	4φ残渣中のチフラ粒子の偏光顕微鏡写真	252
第131回	SX54 (2)・SD116・SE123 (1) 木製品	168	第168回	遺跡と周辺の地質	255
第132回	SE123 (2) 木製品	169	第169回	各石製品のマイクロスコープ写真 (1)	256
第133回	SE123 (3) 木製品	170	第170回	各石製品のマイクロスコープ写真 (2)	257
第134回	SE123 (4) 木製品	171	第171回	墨書・刻書土器集成 (1)	262
第135回	SE123 (5) 木製品	172	第172回	墨書・刻書土器集成 (2)	263
第136回	SE123 (6) 木製品	173	第173回	墨書土器変遷図 (1)	264
第137回	SE123 (7) 木製品	174	第174回	墨書土器変遷図 (2)	265
第138回	SE123 (8) 木製品	175	第175回	墨書土器字種分布図	266
			第176回	照内の特殊な畜串一覧	267
			第177回	SE123 井戸跡出土畜串形態	268
			第178回	山形県内の塚状遺構集成	269

写真図版

巻頭写真1	調査区全景		SK246 土層断面・完掘状況
巻頭写真2	調査区全景	写真図版 25	SP10 土層断面・礎板出土状況、SP73 遺物出土状況、SP87 柱根出土状況、完掘状況、SP88 遺物出土状況、SP99 土層断面、SP100 土層断面
巻頭写真3	出土墨書土器		SP219 遺物出土状況・完掘状況、SP223 土層断面、SP224 精査状況・柱根出土状況・完掘状況、SP226 土層断面、SP227 礎出土状況
巻頭写真4	出土木製品		SP228 土層断面・遺物出土状況、SP231 土層断面・遺物出土状況、1 区北端部柱穴部完掘状況
写真図版 1	調査区全景	写真図版 26	SP235 遺物出土状況、SP251 検出状況、SP255 土層断面、SP264 土層断面、SP265 土層断面、SK269 土層断面、SP271 土層断面・完掘状況
写真図版 2	調査区全景		写真図版 29
写真図版 3	2 区全景、1 区北半部・2 区南半部全景		1 区西端部完掘状況、SD 2 精査状況・南ベルト土層断面・SD 2 RP104・105 出土状況
写真図版 4	1 区中央～南半部全景	写真図版 27	SD 2 RP88・107・108・RQ106 出土状況、SD 2 (SD156)・SD159 完掘状況・SD159 土層断面
写真図版 5	1 区北半部・2 区全景		写真図版 30
写真図版 6	2 区全景		SD238 遺物出土状況、RP83～102 出土状況・土層断面、SD238・SD 2・SK244 完掘状況
写真図版 7	1 区・2 区調査前状況		写真図版 31
写真図版 8	1 区南半部・北半部・北端部・西端部水路南地区西側東側部検出状況		SD238RP92～102 出土状況、SD257 完掘状況
写真図版 9	1 区中央～南半部・北半部完掘状況	写真図版 29	SD238RP92～102 出土状況、SD257 完掘状況
写真図版 10	2 区水路地区・西半部・中央部・東半部検出状況・1 区北半部・2 区西端部完掘状況	写真図版 30	SX 1 完掘状況・SX 1 RP122・123 出土状況、1 区中央部精査状況
写真図版 11	2 区中央部・南半部完掘状況		写真図版 33
写真図版 12	1 区北半部 (SD89)・2 区中央部 (SE123) 基本層序	写真図版 32	SX 3 白色火山灰出土状況、検出状況・土層断面・遺物出土状況、RP20・29 出土状況
写真図版 13	SB163 精査状況・完掘状況	写真図版 33	SX 3 RP27・28・30・31・38 出土状況、SX 5 精査状況、SX54RP53-1・2・13 出土状況
写真図版 14	SB163 精査状況・SB163EP164 土層断面・完掘状況、SB163EP165 土層断面・完掘状況	写真図版 34	SK 7 土層断面・完掘状況、SK 8 土層断面・完掘状況、SK49 炭化物出土状況・土層断面、SP207 完掘状況、SP208 完掘状況
写真図版 15	SB163EP166～169 土層断面・完掘状況	写真図版 35	SP209 完掘状況、SP211 土層断面・完掘状況、SP249 土層断面、SP261 土層断面、SK52 完掘状況、SK51 土層断面・完掘状況
写真図版 16	SB163EP170～173 土層断面・完掘状況		写真図版 38
写真図版 17	SE123 土層断面・精査状況・井戸枠材出土状況・RW 出土状況・番車出土状況	写真図版 36	SD89 完掘状況・周辺・西半部土層断面・RP103 出土状況、SD 4・SD18 精査状況
写真図版 18	SE123 番車出土状況・遺物出土状況・RW73 出土状況・井戸枠出土状況・完掘状況・RW89 出土状況	写真図版 37	SD 4・SD18 完掘状況、SD 4 精査状況・西側ベルト土層断面、東側ベルト土層断面、内礎板出土状況、SD18 東ベルト土層断面・西ベルト土層断面
写真図版 19	SE126 完掘状況・RP19 出土状況・土層断面・板材出土状況	写真図版 39	SD18RP11・48・49 出土状況、SD 5 南側土層断面、SD 5・SD17c-c' ベルト土層断面、SD89・SD 4・SD18 完掘状況、SD17f ベルト土層断面
写真図版 20	SE126RW21・23 出土状況・完掘状況、SE162 完掘状況・土層断面、SE162・SX155 完掘状況	写真図版 40	SK120・SK122-SA152 精査状況、SK120 精査状況、SK122 遺物出土状況・土層断面、SK127 土層断面
写真図版 21	SK 9 土層断面・完掘状況、SK52 遺物出土状況・RP24-1～32 出土状況・土層断面・完掘状況	写真図版 41	
写真図版 22	SK97 土層断面、RP126～132 出土状況、SK98 遺物出土状況、SK210・SK213 土層断面・遺物出土状況		
写真図版 23	SK212 土層断面・完掘状況、SK213 土層断面・完掘状況・番車出土状況・RW133・134 番車下遺物出土状況、SK216 土層断面		
写真図版 24	SK244RP109～117 出土状況・土層断面・完掘状況、		

写真図版 42	SD119・SD138～SK142 完掘状況、SD124RP75 ～87・RP147～149 出土状況	写真図版 77	SK56・SK61・SP63・SD72・SP73・SK75・ SK77・SD78・SD82・SD83・SP84・SP88
写真図版 43	SA152 精査状況、検出状況、完掘状況	写真図版 78	SD89・SP90
写真図版 44	SA152 北半部・北半～中央部・中央～南半部検出 状況・EP 1～8 完掘状況	写真図版 79	SK95・SK97 (1)
写真図版 45	SA152EP 7～38 完掘状況	写真図版 80	SK97 (2)・SK98・SK101
写真図版 46	SA152EP 1～20 土層断面	写真図版 81	SK104・SD105 (1)
写真図版 47	SA152EP21～38 土層断面・南端 SX 撈乱検出状 況	写真図版 82	SD105 (2)
写真図版 48	SD105・SD107・SD117 (撈乱) 精査状況、SD117 西側完掘状況・SD105・117 精査状況、SD117 東 端土層断面、SD159 土層断面	写真図版 83	SK108・SK111・SK113・SK115・SD116・ SD117
写真図版 49	SD159RP124 出土状況、SK134 土層断面、SK137 土層断面・完掘状況、SX155 精査状況・完掘状況・ RP118・119 出土状況	写真図版 84	SD118・SD119・SK120
写真図版 50	SX 1・SD 2 (1)	写真図版 85	SK122・SE123 (1)
写真図版 51	SD 2 (2)	写真図版 86	SE123 (2)
写真図版 52	SD 2 (3)	写真図版 87	SD124 (1)
写真図版 53	SX 3 (1)	写真図版 88	SD124 (2)・SX125
写真図版 54	SX 3 (2)	写真図版 89	SE126 (1)
写真図版 55	SX 3 (3)	写真図版 90	SE126 (2)
写真図版 56	SX 3 (4)	写真図版 91	SE126 (3)
写真図版 57	SX 3 (5)	写真図版 92	SE126 (4)・SK132・SK134・SD143・SD144・ SX154
写真図版 58	SX 3 (6)	写真図版 93	SX155 (1)
写真図版 59	SX 3 (7)	写真図版 94	SX155 (2)・SD156・SD159・SE162・SK205・ SP207・SP209・SK210 (1)
写真図版 60	SX 3 (8)	写真図版 95	SK210 (2)・SK212・SK213 (1)
写真図版 61	SD 4 (1)	写真図版 96	SK213 (2)・SD214・SK216・SP231・ SD238 (1)
写真図版 62	SD 4 (2)	写真図版 97	SD238 (2)・SP242
写真図版 63	SD 4 (3)	写真図版 98	SK244
写真図版 64	SD 5・SK 7・SK 8・SK 9・SP10	写真図版 99	SK245・SK246・SK247・SP249・SP255・ SD257・SP266・1区グリッド (1)
写真図版 65	SK12・SK13・SK15・SD17 (1)	写真図版 100	1区グリッド (2)
写真図版 66	SD17 (2)・SD18 (1)	写真図版 101	1区グリッド (3)
写真図版 67	SD18 (2)	写真図版 102	1区グリッド (4)
写真図版 68	SD18 (3)	写真図版 103	1区グリッド (5)
写真図版 69	SD18 (4)	写真図版 104	1区グリッド (6)
写真図版 70	SD18 (5)	写真図版 105	1区グリッド (7)
写真図版 71	SD19・SK29・SK36・SK46・SK49・SK51・ SK52 (1)	写真図版 106	1区グリッド (8) 1区調査区
写真図版 72	SK52 (2)・SD53	写真図版 107	2区グリッド (1)
写真図版 73	SX54 (1)	写真図版 108	2区グリッド (2)
写真図版 74	SX54 (2)	写真図版 109	2区グリッド (3)
写真図版 75	SX54 (3)	写真図版 110	2区グリッド (4)
写真図版 76	SX54 (4)	写真図版 111	2区グリッド (5)・2区調査区
		写真図版 112	石製品 (1) SD 2・SX 3・SD 4・SK 7・SD18
		写真図版 113	石製品 (2) SD89・SD214・SP227・SD238・

	SD259	写真図版 134	木製品 SE123 (16)
写真図版 114	石製品 (3) 1区グリッド・2区グリッド、石器 SX155・金属製品 SG 6・SD18・SK127・ 2区グリッド	写真図版 135	木製品 SE123 (17)
写真図版 115	木製品 SX 3・SD 4 (1)	写真図版 136	木製品 SE123 (18)
写真図版 116	木製品 SD 4 (2)・SD 5 (1)	写真図版 137	木製品 SE123 (19)
写真図版 117	木製品 SD 5 (2)・SK 9・SP10・SD18 (1)	写真図版 138	木製品 SE123 (20)
写真図版 118	木製品 SD18 (2)・SK52・SX54 (1)	写真図版 139	木製品 SE123 (21)
写真図版 119	木製品 SX54 (2)・SD116・SE123 (1)	写真図版 140	木製品 SE123 (22)
写真図版 120	木製品 SE123 (2)	写真図版 141	木製品 SE123 (23)
写真図版 121	木製品 SE123 (3)	写真図版 142	木製品 SE123 (24)・SE126 (1)
写真図版 122	木製品 SE123 (4)	写真図版 143	木製品 SE126 (2)
写真図版 123	木製品 SE123 (5)	写真図版 144	木製品 SE126 (3)
写真図版 124	木製品 SE123 (6)	写真図版 145	木製品 SE126 (4)
写真図版 125	木製品 SE123 (7)	写真図版 146	木製品 SE126 (5)
写真図版 126	木製品 SE123 (8)	写真図版 147	木製品 SE126 (6)・SE162・EP167・SK211
写真図版 127	木製品 SE123 (9)	写真図版 148	木製品 SK213・SP219・SP224 (1)
写真図版 128	木製品 SE123 (10)	写真図版 149	木製品 SP224 (2)・SP231・SP235・SK237・ SK244・EP271・2区グリッド
写真図版 129	木製品 SE123 (11)	写真図版 150	齧申接合 (1)・(2)
写真図版 130	木製品 SE123 (12)	写真図版 151	齧申接合 (3)・(4)
写真図版 131	木製品 SE123 (13)	写真図版 152	墨書土器集成 (1)
写真図版 132	木製品 SE123 (14)	写真図版 153	墨書土器集成 (2)
写真図版 133	木製品 SE123 (15)	写真図版 154	発掘作業状況
		写真図版 155	整理作業状況

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

国道 344 号は秋田県湯沢市を起点とし、山形県金山町まで国道 13 号に重複しながら内陸部を縦貫した後、日本海側へ横断して酒田市を終点とする一般国道である。

酒田市上野曾根～安田地内においては幅員が狭小な集落内道路であり、特に冬期には路肩への堆雪により通行速度の低下が著しい。さらに、集落内では歩道が未整備のため、通学児童等が車道にはみ出での歩行に対する危険性が指摘されている。また、当該地区は旧八幡町～酒田間における唯一の未改良区間でもある。

八幡地区から通勤・通学で約 4 割が、買い物等で約 8 割が酒田市街地へ流動しており、平成 17 (2005) 年の市町村合併を踏まえ、就業・通学・医療等の円滑な結びつきを進めていくための道路整備が求められてきた。

これらの諸課題を解決するため、道路幅員の拡幅や集落内の安全な生活環境の確保、合併市町村の地域連携支援などの機能を有したバイパスの整備が要望された。

安田バイパス改築は現集落北側の水田地帯にルートが設定され、片側 1 車線で延長 3,080 m の整備事業である。計画路線は既存の道路や農道を組み入れることで、水田を斜め横断するルートを最短化する工夫がなされ、農地の生産性にも配慮したことが窺われる。事業期間は平成 27 (2015) 年度から 10 年間の予定で、完成後の幅員は現況の 6.7 m から 12 m に拡幅される。地域間流動において大幅な機能強化が図られ、バイパス化により集落内における交通事故の抑制に繋がることも期待される。

山形県教育委員会では安田バイパスの事業計画を受けて、事業用地に係る遺跡詳細分布調査を平成 27 年度より実施してきた。当年 10 月の表面踏査では上曾根遺跡周辺と事業用地の東端で古代の土器片が採取されたため、これら 2 地区は遺跡可能性地として把握された。

翌年 11 月に上曾根遺跡周辺地区の試掘調査が行われ、遺構・遺物の存在が確認できた。上曾根遺跡東側に隣接した地域であり、上曾根遺跡と同時期の所産と考えられ

たことから、新規発見の遺跡とするより上曾根遺跡の広がりやさらに北東側へ続いているものとみなして、遺跡範囲の修正が妥当と判断された。一方の事業予定地東端の可能性地は平成 29 (2017) 年 6 月に試掘調査が行われたが、11 本設定したトレンチから遺構・遺物は確認されなかった。

上曾根遺跡は奈良・平安時代～近世の集落跡として登録されており、昭和 61 (1986) 年に農村基盤総合パイロット事業に伴い第 1 次調査を行い、平安時代の建物跡や井戸跡、多数の墨書土器などが発見された。

昭和 63 (1988) 年には県道酒田遊佐線道路改良事業に起因した第 2 次調査が行われ、平安時代の建物跡や溝跡、墨書土器と共に、人面線刻画がある砥石や中世のかわらけなどが確認された。

今回の事業主体の庄内総合支庁建設部道路計画課では、開発計画の変更は困難なことから、平成 31 (2019) 年 2 月に文化財保護法第 94 条に基づく公共事業による土木工事の通知を県教委に行ったのに対し、記録保存のための発掘調査の勧告が出された。発掘調査の実施機関である当センターでは、県教委からの依頼により年度毎の調査経費を積算し、同年 3 月に回答した。

平成 31 年 4 月 1 日付けで「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約」を締結し、6 月初旬からの現地調査開始に備えての諸準備に着手した。4 月下旬には県教委あて法 92 条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の届出」を行い、同年 5 月 8 日付けで届出に対する通知を受理した。

発掘調査開始前の 5 月 24 日には事業者をはじめ酒田市教育委員会等の関係機関と、調査期間や方法等の実施計画と現状での課題や問題点等について打ち合わせを行っている。なお、この打ち合わせで、今回の第 3 次の調査区が第 1 次調査区と一部重なる部分があるが、当時の調査区は平面直角座標系に基いていないため、調査区境界の把握が難しい。また、前回調査では近世の溝跡などの未掘部分もあることから、第 1 次調査を行った地区も表土を除去し、第 1 次調査の遺構も確認し、第 3 次調査との関連などから適宜調査を行うことになった。

2 調査の方法

A 発掘調査

調査区

遺跡に係る計画路線 5,400 m²を調査対象とした。掘削によって生じる残土は調査区の北側へ集積するしかなかったが、調査区南端から 200 m 程の距離があった。掘削までの往復にかなりの時間を要することや、周辺は水田耕作地であり、流出等を考慮してあまり高く積み上げられない等の諸事情から、調査区の中間部も当初の残土置き場とした。

これにより調査区を南側（1区）と北側（2区）に分割して、中間部には1区の残土を集積した。1区では南端部の調査を先行させ、終了後に中間部の残土を移動し、この区域の表土除去を行う2段工程で調査を実施した。

グリッド設定

平面直角座標系第X系のX = -260,000、Y = -120,000を原点として40km方眼の大グリッドを設定した。原点から北及び東へ向かってX軸（南北）とY軸（東西）にアルファベットを付し、X軸Y軸のアルファベット2文字を大グリッド名とした。交点の第1象限がグリッド名の示す範囲である。

大グリッドを400m方眼に分割し、中グリッドを設定した。大グリッドの交点を基準として00から99の数字を付し、X軸とY軸の数字を合わせた4桁の数字と、大グリッド名を繋げたものを中グリッド名とした。400m方眼の中グリッドをさらに4m方眼に分割し、中グリッドと同じルールで設定した4桁の数字と中グリッド名をハイフンで繋いだものを小グリッド名とした。

第4図に今回の中グリッドのDA5894・DA5895の位置を例示している。今回の調査区が中グリッドDA5894・5895の範囲が2つにまたがるため、遺構や遺物、実測図などには、中グリッド・小グリッドで表した。但し、調査区内では上記の2つのDA5894グリッドの西端、DA5895グリッドの東端にあたり、両者の小グリッドで同じグリッド番号が重複しないため、遺構図版や表中では煩雑さを防ぐために、小グリッド名のみを記載した。

遺構の登録

検出した遺構にはその種別を問わずし番号を付し、合計247基の遺構を登録した。但し、調査区を2区に分けて分割して調査したため、1区はNo.1～100、No.201～274、2区はNo.101～173とし煩雑さを防いだ。遺構種別の記号は凡例に記載したが、調査中または整理作業中に記号を変更したものもある。

遺物の登録・取り上げ

完形品や報告書掲載を前提とした特徴的な遺物などには登録番号を付し、微細図または三次元座標を記録した。遺構内出土遺物は遺構毎に、包含層出土のものとはグリッド毎に、層位を確認しながら取り上げた。

調査工程

現地調査は令和元（2019）年6月4日に開始した。調査区設定後に1区より重機を導入して表土除去を実施し、並行して遺物包含層の掘り下げを行った。6月18日に表土除去が終了し、土色変化が見られるもののプラン検出が困難な箇所については手掘りによる掘り下げを行って、遺構検出作業を進めた。梅雨の時期で周囲が水田ということもあり、降雨がなくても日常的な排水を余儀なくされたが、7月から遺構の掘り下げを開始した。

委託業務により基準点を設置し、前述の4mグリッドの設定を経て半載時の土層断面、遺物出土状況や完掘状況等について、随時図面作成と写真撮影を実施した。2区の井戸跡から多数の畜串が出土し、記録作業と並行して掘り進めた。また、1区・2区の各々一区画では検出面が上下2層からなることが判明し、慎重に精査した。

9月26日に委託業務による1区の空中写真測量を実施した。翌27日から中間部に集積してあった1区の残土を移動させ、この区域の表土除去を行った。この部分の調査を2区の遺構精査と並行しながら、前段同様にグリッド設定→遺構検出→半載等掘り下げ→完掘の過程で調査に当たった。

10月31日に2区を対象に2回目の空中写真測量を実施した。11月8日には事業者である庄内総合支庁建設部道路計画課からの依頼により、上層根遺跡発掘調査現場で関係職員の研修会が開催され、検出遺構や出土遺物について説明した。

翌9日に調査説明会を開催し、40名の参加者があった。同月22日には1区北側に係る3回目の空中写真測量を実施した。翌週の最終週では、遺構内遺物の取り上

げと諸記録作業及び後片付けを行い、11月29日に機材を撤収した。その後調査区を埋め戻し、事業者への引き渡しを経て12月6日に現地調査を終了した。

B 整理作業

作業工程

整理作業は現地調査終了後の令和元年12月初旬～令和3（2021）年度に亘って実施した。

令和元年度は、遺物の洗浄から開始し、併せて図面・写真等の記録類の整理を行った。洗浄では墨書土器や木製品が多いため柔らかいブラシを使用し、削痕や墨の消失などに留意した。

年明けの1月からは順次洗浄作業と共に、注記も並行させた。注記は遺跡名称と調査次数で「上ソネ3」と略し、包含層取り上げ遺物にはグリッドを示す番号を4桁表記で、遺構内出土遺物には種別記号及び番号に加えてグリッド番号を併記した。なお、整理中にSX3の特に下層遺物の上下を表すため、「1700、1800」から一部「1700、1800下層」に注記を改めた。

なお、1月に上層遺跡出土の近世陶磁器や木製品の知見を得るために出光美術館、東京都埋蔵文化財センターに資料比較検討を行った。2月に県内では特異な畜串状木製品についての兵庫県砂入遺跡などとの比較のため兵庫県立考古博物館・兵庫県立考古博物館に、資料比較検討を行い、多くの知見を得た。

令和2年度は4月当初より保存処理を必要とする木製品の実測に着手し、同月後半からはトレースも並行して実施し、479点の実測が6月上旬に終了した。

次に、土器類の接合に取り掛かった。包含層出土遺物を対象とするグリッドとその周囲の8グリッド（12×12m）の範囲で、その範囲を重複させながら対象グリッドを移動し、接合する遺物を探した。遺構内出土遺物については、当該遺構が所属するグリッド出土遺物も対象に接合作業を行った。

7月中旬から復元作業に入り、欠損部分などはエレフオンなどを充填し、8月下旬に終了した。

その中から遺構内出土遺物を中心に、実測図上で器形が窺えるものなど、なるべく多くの遺物を報告書に掲載する意図から、1,255点を抽出した。

8月下旬よりこれらの実測を開始し、9月下旬からは

トレースを並行させた。

11月中旬には、土器の拓本を採録し、画像の取り込みと色調の補正作業を経て、実測トレース図へ配置した。

1月からは報告書掲載土器につき、写真撮影に備えて完形に近いまで再度復元を行った。3月まで同様の作業を実施し、次年度へ引き継いだ。なお、資料比較検討は、9月に緑釉陶器について城輪圃出土品との比較検討を行い、渡部裕司氏（酒田市教育委員会）より産地及び年代に関する御指示をいただいた。

令和3年度は、報告書掲載遺構図面の原図作成、及び遺構写真の抽出から開始した。4・5月は、遺構写真は、トリミングを施しながら版組を行い、大きく区ごとに分けて、主な遺構順に頁数を固めた。また、遺物には墨書土器が多く見られたが、判読できるものは少ないため、赤外線カメラで文字の判読に努め、実測を実施した。6月に入り報告書掲載遺物を写真撮影し、土器、石製品、金属製品の順に、立面写真後に俯瞰写真を撮影した。写真撮影後は、写真データへ実測番号の注記を行った。また、写真撮影中に一部図の修正箇所も確認され、図やトレースの修正なども行った。

8月には、大まかな土器・石製品のトレース図の版組、写真データの切抜き、版組を行った。遺構写真の版組・編集、遺構図の原図作成を継続した。遺構図・平面図・断面図の合成作業の他に、断面図のエレベーションの作成、登録遺物の平面分布図と垂直分布図の作成も行い、資料の視覚化に努めた。なお、遺構番号は、煩雑さを防ぐため発掘時のものを踏襲し、一部遺構記号を変えた。

9・10月には、遺構図に基き、遺構のトレース作成を行った。木製品などの写真版組・編集なども行った。11・12月に入り、原稿執筆・観察表作成などに取り掛かり、一部特殊な畜串状木製品の接合や、遺跡の特徴である墨書土器や木製品の集合写真などを撮影した。

なお、資料比較検討は、11月に判読が難しい墨書土器を主に、国立歴史民俗博物館の三上喜孝氏に依頼し、最終的な字種の確定を行った。

その後、頁毎の編集作業を経て、1月の入稿に至った。報告書の入稿後は、写真・図面等の諸記録類をまとめ、出土遺物は報告書掲載と未掲載に区分して収納した。なお、報告書掲載遺物については、後の検索・活用を考慮し、図版番号を追加して注記している。



第1図 遺跡発掘調査計画図



第2図 調査概要図

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

山形県の北西部に位置する庄内平野は、出羽丘陵の西に展開する海岸平野である。県内最大の平坦地でその面積は585㎓を測り、日本有数の穀倉地帯である。東は出羽丘陵に接し、西は日本海に面して直線的な海岸線に沿った砂丘帯が発達しており、南北約50km・東西6～16kmで、北部が狭く南部で広がる地形を呈する。酒田市が所在する北半部の地形は、東側の出羽丘陵地帯と西側の庄内北部平野地帯に大別される。

出羽丘陵地帯はあまり高度はないが、開析がかなり進んでおり起伏が比較的大きいため、その谷を利用した溜池等が散在している。平野地帯はさらに東から、河間低地・三角州・砂丘に細分され、平野の大半は河間低地に属しており、その中には幾多の自然堤防や後背湿地を含んでいる。平野のほぼ中央を西流する最上川沿いには記蓋原があって、所々に旧河道の痕跡である河跡湖が見られる。平野部はほとんど水田化されており、特に後背湿地帯では水害時の冠水が懸念される。三角州地帯は市街化が進められているが地耐力が乏しいため、防災上は慎重な配慮が必要とされる。庄内砂丘はメロンやスイカ栽培などの農業的利用のほか、近年の市街地化や工業用地化により、土地利用の変化が最も大きい地区である。

気候は日本海式気候の海洋型に属するため比較的寒暖の差が小さく、内陸部と比較すれば夏・冬とも過ごしやすい。降水量は秋期から冬期にかけて多い。日照時間は夏に長く冬は短い状況を示しており、この傾向は内陸部と比較してより顕著である。また、海岸部のため季節風の影響を強く受け、特に冬期の北西風は時折視界を遮るほどの地吹雪をもたらすが、春から夏にかけては東風が卓越しやすいために、高温・乾燥した好天に恵まれる日が多くなる。

山形県は気候との関係で冷温帯性植物が植生の多くを占め、圧雪に耐える柔軟性を備えた低木性のものが多いが、庄内地方の日本海岸沿いの一部には、対馬海流の影響で一月の平均気温が零度を下回らない地域があり、暖

地系植物も認められる。草木類においては、暖地系のものが寒さに耐えられるように分化したことや、寒地系のものが南下したと考えられている。

最上川河口に位置する酒田は、古くから海水運都市として発展してきたことが知られている。2005年11月には近隣3町と合併したことで、人口約11万人の庄内北部における中心都市となっている。

上曽根遺跡は酒田市役所の北東約5kmに所在し、河間低地を南西方向に伸びる自然堤防の北縁部に立地する。現在の地目は水田で、標高は7m前後を測る。自然堤防は遺跡の北側を流れる日向川や荒瀬川沿いに発達しているほか、遺跡近郊の安田・漆曾根・布目の集落付近にも認められるが、高度が低いために不明瞭なものが多い。自然堤防上の遺跡は城輪跡をはじめ数遺跡が存在するが、古代を中心とした遺跡の多くは河間低地に立地していると言える。三角州地帯や東部丘陵地に沿った後背湿地に所在する遺跡はほとんど見られず、立地に適さなかったことを示すものと理解される。

上曽根遺跡周辺地帯にはグライ層が分布しており、地表から約50cm下層にグライ層が存在する。土性は砂質で上層は灰色を呈する。肥力が小さく有効態養分が欠乏しているため、生産力は低いとされる。

2 歴史的環境

酒田市では250ヶ所を超える遺跡の存在が知られている。特に平安時代の遺跡が多く見られ、最上川以北の日向川・荒瀬川までの平野部と、これに接した酒田東部丘陵の西辺に集中して分布する。庄内北部の遺跡分布を概観すれば、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡は丘陵や高位段丘上に立地しており、弥生時代以降、平野の縁辺部にも集落遺跡が見られるようになる。砂丘地の黒森地区などに縄文時代の遺跡が立地することは、砂丘が古くから生活の場として活用されていたことが窺える。

以下に周辺の主な遺跡を取り上げながら、歴史的な環境について時代ごとに記述する。



帝國土地地理院発行5万分の1地形図「酒田」を使用

第3図 遺跡位置図

II 遺跡の立地と環境

表 1 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	種別	時期	番号	遺跡名	種別	時期
1	上曾根遺跡	集落跡	平安・中世	58	本川遺跡	集落跡	平安
2	梵天塚遺跡	集落跡	中世	59	福島遺跡	散布地	平安・鎌倉
3	中谷地遺跡	集落跡	平安	60	熊手島遺跡	散布地	平安
4	向田遺跡	集落跡	平安	61	天神堂遺跡	散布地	平安・鎌倉
5	若王寺遺跡	集落跡	平安	62	砂越城跡	城館跡	室町
6	泉史跡・新田目城跡	城館跡	中世	63	飛鳥遺跡	集落跡	平安・鎌倉
7	新田目 A 遺跡	集落跡	中世	64	飛鳥神内遺跡	散布地	平安・鎌倉
8	新田目 B 遺跡	集落跡	平安	65	門出遺跡	散布地	平安
9	明成寺遺跡	集落跡	平安	66	塚淵 B 遺跡	散布地	平安・鎌倉
10	前田遺跡	集落跡	平安・中世	67	塚淵 A 遺跡	集落跡	平安・鎌倉
11	庭田遺跡	集落跡	平安	68	芹田橋跡	城館跡	
12	安田遺跡	集落跡	平安	69	古橋跡	城館跡	
13	豊原遺跡	集落跡	平安・中世	70	橋の腰 A 遺跡	集落跡	縄文
14	豊原 B 遺跡	集落跡	平安	71	根音寺城跡	城館跡	
15	国史跡・城輪櫓跡	官衙跡	平安	72	八森 A 遺跡	集落跡	旧石器・縄文
16	郷崎遺跡	包蔵地	平安	73	八森 C 遺跡	集落跡	平安
17	茅針各地遺跡	集落跡	平安	74	一條橋跡	城館跡	平安
18	樋掛遺跡	集落跡	平安	75	小平遺跡	集落跡	平安
19	国史跡・堂の前遺跡	集落跡	平安	76	小平 5 遺跡	包蔵地	平安
20	後田遺跡	集落跡	平安・鎌倉	77	小平 2 遺跡	集落跡	旧石器・平安
21	八森遺跡	官衙跡	縄文・平安・中世	78	盛沢遺跡	散布地	平安
22	沼田遺跡	集落跡	平安	79	盛沢宮跡	宮跡	平安
23	依田遺跡	集落跡	平安	80	原敷田遺跡	集落跡	平安
24	上ノ田遺跡	集落跡	平安	81	艾田 A 遺跡	散布地	平安・鎌倉
25	境野野遺跡	集落跡	平安	82	艾田 B 遺跡	散布地	平安・鎌倉
26	門能寺経塚	鎌倉	鎌倉	83	野野遺跡	集落跡	平安
27	北田遺跡	集落跡	平安	84	蛭橋遺跡	集落跡	平安
28	関 B 遺跡	集落跡	平安・中世	85	家原遺跡	散布地	平安
29	北境遺跡	集落跡	平安	86	榎荷 1 遺跡	集落跡	平安
30	土崎遺跡	集落跡	平安	87	伊勢塚遺跡	散布地	平安
31	東刺遺跡	散布地	平安・鎌倉	88	村東遺跡	集落跡	平安
32	津曾根遺跡	集落跡	平安	89	榎荷 2 遺跡	集落跡	平安
33	船止遺跡	包蔵地	平安・鎌倉	90	下中刺遺跡	集落跡	平安
34	新青波遺跡	集落跡	平安	91	津曾根館	城館跡	
35	南興野遺跡	集落跡	平安	92	大多遺跡	散布地	中世・近世
36	熊野田遺跡	集落跡	平安	93	萩島遺跡	散布地	平安
37	早塚遺跡	集落跡	平安	94	門能寺村東遺跡	集落跡	奈良・平安
38	手蔵田 1 遺跡	集落跡	平安	95	分遺跡	散布地	奈良・平安
39	手蔵田 2 遺跡	集落跡	平安	96	北田 2 遺跡	集落跡	平安
40	手蔵田 3 遺跡	集落跡	平安	97	北境 2 遺跡	散布地	平安
41	手蔵田 4 遺跡	集落跡	平安	98	瀬倉遺跡	包蔵地	平安
42	手蔵田 5 遺跡	集落跡	平安	99	入の沢遺跡	集落跡	弥生
43	手蔵田 6・7 遺跡	集落跡	平安	100	小倉山遺跡	包蔵地	縄文・弥生・平安
44	手蔵田 9・10・11 遺跡	集落跡	平安・中世	101	間道遺跡	集落跡	平安
45	手蔵田 12 遺跡	集落跡	平安	102	矢口遺跡	集落跡	平安
46	高阿弥院遺跡	集落跡	平安	103	生石 1 遺跡	包蔵地	平安
47	朝日山城	城館跡	中世	104	延命寺跡	寺院跡	
48	横代遺跡	集落跡	平安	105	山橋 2 遺跡	包蔵地	縄文
49	大槻新田遺跡	集落跡	平安・鎌倉	106	榎橋橋跡	城館跡	中世
50	生石 2 遺跡	集落跡	弥生～平安	107	飛鳥遺跡	散布地	平安・鎌倉
51	生石 4 遺跡	集落跡	弥生～平安	108	泉興野 2 遺跡	散布地	奈良・平安
52	山橋橋跡	城館跡	戦国	109	泉興野 1 遺跡	散布地	奈良・平安
53	山橋遺跡	集落跡	平安・鎌倉	110	天神堂大塚遺跡	散布地	奈良・平安
54	桜林興野遺跡	集落跡	平安	111	石名坂遺跡	散布地	縄文・平安
55	西田遺跡	集落跡	平安	112	石名坂館跡	城館跡	中世
56	桜林遺跡	集落跡	平安・鎌倉	113	阿畑遺跡	集落跡	縄文(前期)
57	早稲田遺跡	集落跡	平安・鎌倉				

旧石器時代

旧石器時代の遺跡では、酒田東部丘陵の北端に立地する八森A遺跡(72)が挙げられる。大形の槓先形尖頭器と片刃の局部磨製石斧をはじめ、ナイフ形石器や石刃など200点余りの旧石器が出土した。これらは組成から判断して、県内では旧石器時代最終期の範疇で捉えられている(八幡町教委2003)。

小平2遺跡(77)は八森遺跡の南方約2kmの丘陵上に位置し、農道整備事業を原因として平成14年度に発掘調査が行なわれ、ナイフ形石器と彫刻刀形石器が出土している。後期旧石器時代の所産と推定され、近隣に遺物集中地点の存在が示唆された(山形理文2004a)。

他にも近郊には、荒瀬川の支流で標高約200mの河岸段丘上に立地する大蒸野遺跡があり、ナイフ形石器・先刃形挿器・石刃などが採集されている。

縄文時代

縄文時代の遺跡数は多くないものの、そのほとんどが東部丘陵上で確認されている。ここでは、これまでの発掘調査によって明らかになった事例を述べる。

相沢川右岸の丘陵地帯では、1990年代に国営農地開発に係る大規模な発掘調査が行われた。

山谷新田遺跡は丘陵の縁辺部に立地し、遺構の存在は未確認ながらも、中期前葉の大木7b～8b式土器に加えて北陸地方の新保・新崎式土器が伴出している。97点出土した石器のうち篋状石器が多くを占めており、他に土偶3点も出土した。隣接する山海窯跡群の調査では、中期前葉の所産と目される6基のフラスコ状土坑が検出されている(山形県教委1991b)。

山海窯跡群の北側に位置する山橋7・山橋8遺跡(53)においても、羽状縄文を施文する深鉢体部片や篋状石器を主とした石器群が出土しており、2基の陥し穴を検出している(山形県教委1992)。山橋3遺跡(53)からは床面での検出ながら、床床戸と柱穴群の在り方により竪穴住居跡4棟が確認された。周辺では前期～中期に比定される縄文土器や石器剥片がまとめて出土しており、集落跡の存在が窺われた(山形理文1994a)。

前掲の小平2遺跡からは、早期中葉頃の貝殻沈文系土器と篋状石器や剥片が出土している。遺構は陥し穴1基が確認された。隣接する小平3遺跡でも早期末～前期初頭に比定される縄文土器や磨製石斧と、中期半ばの北

陸地方の影響を受けた土器群が出土している。小平4遺跡は前期末葉～後期中葉の集落跡であり、土坑や土器捨て場が見つかった(山形理文2005)。

弥生時代

弥生時代の遺跡は確認数が少ないが、平野の縁辺部に集落遺跡が見られるようになる。

東部丘陵際に位置する生石2遺跡(50)では、砂沢系と遠賀川系及びその折衷系の多数の土器が出土した。精緻が毀された土器や、炭化米なども出土し注目された。遺構は、完形の甕形土器が横位に置かれた墓壇1基が検出されている。亀ヶ岡文化の伝統と西日本の遠賀川様式の影響を受けた土器が出土したことで、弥生文化が西日本にさほど遅れることなく当地まで達したことが明らかとなった(山形県教委1985・1986・1987)。

中谷地遺跡(3)は酒田市街地北東部の三角州地帯に立地する奈良・平安時代の集落跡であるが、遺構確認面下から甕形土器2個体が押し潰された状態で出土した。墓壇に伴う埋設土器と考えられ、生石2遺跡出土土器と同様、砂沢式に併行するものである(山形理文1996)。

古墳時代

最上川以北ではこの時代の遺跡は極端に少なく、酒田市内では南部の古荒新田古墳が遺跡地図に登録されているに過ぎない。

ほ場整備事業に係る関B遺跡(28)発掘調査中、付近での表面採集遺物であるが、古式土師器がまとめて出土した。すでに整地され、包含層や遺構の確認には至らなかったが、当地における4世紀代の痕跡を証明する重要な手かかりと評価できよう(山形県教委1983)。

庄内平野は場所によって堆積の度合いが不規則であり、地層深く弥生時代や古墳時代の痕跡が存在する可能性がある。

奈良・平安時代

最上川以北の平野部の開発は、平安時代以降に進められたと理解される。文献資料によれば出羽国は和銅5年(712年)に越後国の出羽部が昇格して建国され、国府的な機能は出羽棚が果たしていたと考えられているが、出羽棚に該当する遺跡はまだ確認されていない。いわゆる「征夷」の進展と共に天平5年(733年)になると出羽棚は秋田へ移り、天平宝字4年(760年)には秋田城が文献上で確認できる。その後、蝦夷との紛争激化

から秋田城は廃止され、「河辺府」に移されている。延暦年中には「出羽国井口」に国府が建設されており、仁和3年(887年)になると「旧府高敷の地」に移転したことが解る。現在、城輪柵跡(15)を国府に比定する説や、「高敷の地」の擬定地として八森遺跡説と城輪柵跡説などの諸説があるが、いずれも決定的な決め手には欠ける。

最上川以北では井口への国府移転を契機に本格的に開発が始まったものと考えられ、城輪柵跡周辺の堂の前遺跡(19)や八森遺跡、生石2遺跡や熊野田遺跡(36)などで囲郭施設や倉庫群が検出されたことにより、官衙関連遺跡と位置付けられている。相沢川北側の丘陵には幾つかの古窯跡群が点在し、官衙をはじめ諸集落に須恵器や瓦を供給していたことが知られる。中でも泉森窯跡からは、城輪柵跡の軒丸瓦と同范品が出土したことにより、供給元であったことが判明した(山形理文2004b)。これら窯跡のほとんどは平安時代に入ってから操業したものであり、平野部の集落遺跡の形成も9世紀以降に進展するようになる。

上曾根遺跡をはじめとする最上川以北の古代集落は、律令政府の政策により計画的に配置されたと考えられ、

官衙との結び付きが非常に強かったと推測される。

中世

鎌倉から戦国時代にかけては庄内北部に多くの城館が築かれ、この地域で確認されている城館の7割は山城あるいは平山城である。一方で新田目城や亀ヶ崎城は平野部に築かれた平城であり、河川に接した場所に立地している。

亀ヶ崎城は最上川河口の新井田川合流地点と低湿地に囲まれた水城の機能を有しており、中世に築かれた最上川以北の城の中で唯一、江戸時代末まで存続した。これまで都合5次に及ぶ発掘調査が実施され、二の丸内の城代屋敷跡などの検出や、日本海交易でもたらされた貿易陶磁器などの出土から、往時の上級武士の生活の様子が伺われた(山形県教委1991a、山形理文1994・1995・2009)。

集落遺跡では中谷地遺跡の南方に位置する梵天塚遺跡(2)で、戦国期の墓域約200基の検出が特筆される。墳内には下駄や櫛などの木製品が多く遺存し、刀子や古銭も出土している。また、溝跡からは1,800枚余りの一括埋納銭が出土し、銭種により16世紀以降の所産と報告されている(山形理文1996)。

引用・参考文献

- 酒田市 2000 『第一編 出羽の国と酒田城のあけぼの』『酒田市史 改訂版・上巻』p.1～p.154
 前田光彦・佐藤好一監修 2006 『自然編』『庄内ふるさと百科』p.25～p.56 郷土出版社
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994a 『山橋3遺跡・山橋4遺跡・山橋5遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第4集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994b 『亀ヶ崎城跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第17集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1995 『亀ヶ崎城跡第3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第28集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1996 『土橋遺跡・梵天塚遺跡・中谷地遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第42集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004a 『小平2遺跡・小平3遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第128集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004b 『泉森窯跡・坂ノ下遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第129集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2005 『小平4遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第139集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2009 『亀ヶ崎城跡第4・5次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第180集
 八幡町教育委員会 2003 『八森遺跡 先史編』八幡町埋蔵文化財調査報告書第13集
 山形県 1978 『土地分類基本調査 酒田 国土調査』
 山形県教育委員会 1983 『関B遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第68集
 山形県教育委員会 1985 『生石2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第89集
 山形県教育委員会 1986 『生石2遺跡(2)発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第99集
 山形県教育委員会 1987 『生石2遺跡(3)発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第117集
 山形県教育委員会 1991a 『亀ヶ崎城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第169集
 山形県教育委員会 1991b 『山谷新田遺跡・山崎山跡群発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第170集
 山形県教育委員会 1992 『山崎山跡群第2次・山橋7遺跡・山橋8遺跡・山橋柵跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第172集

III 遺跡の様相

1 遺跡の概要

上曽根遺跡は、酒田市街北東部約5kmに位置し、酒田市大字上野曽根字上中割に所在する。標高は、約7.5mを測る。遺跡の北方約4kmには日向川、南方約2.5kmには新井田川がそれぞれ東から西へ流れている。現在遺跡周辺には、用水路等を除いて小さな河川は認められないが、庄内北部河間低地を南西方向にのびる自然堤防の北側縁付近に立地する。地目は、水田、畑地である。

遺跡付近の地形は、北東から南西にかけて極めて緩やかな傾斜を示すが、ほぼ平坦な土地である。

上曽根遺跡は山形県遺跡地図に奈良・平安時代～近世の集落跡として登録されている周知の遺跡であり、前章でも触れたとおり過去に2度の発掘調査が実施されている。

今回の調査原因となった国道344号の安田バイパス改築は、第2次調査を行った県道酒田遊佐線を北東部へ延長した計画ルートである。

試掘調査の結果、遺跡範囲がさらに北側へ広がるのが判明し、2018年12月に県教育委員会より遺跡範囲修正の通知が出された。これにより遺跡範囲は、東西方向370m・南北方向105mに及ぶ楕円形状の広がりに変更された。これまでの調査区域が遺跡範囲の西半部に相当し、今回の調査区域は東半部に当たることになる。

遺跡内の地目は水田で標高6.7～7.5m程を測り、北東から南西にかけて緩やかな傾斜を示す。遺跡を覆う基本層序は耕作土と遺構検出面である青灰色シルト層の間に、20cm以下の暗灰色シルト層を挟む。地山直上の遺物包含層に当たり、場所によっては耕作土直下が検出面になる区域も見られる。

本遺跡の基本層序は、大別Ⅰ～Ⅲ層に分けられ、遺物はⅡ層から、遺構はⅢ層上面が確認面である。

各層は、Ⅰ区とⅡ区でやや異なり、Ⅰ区はⅠ層が暗褐色シルト（耕作土）、Ⅱ層は暗褐色砂質シルト、Ⅲ層は青灰色細砂質土（地山）の砂質土主体である。Ⅱ区はⅠ層が暗褐色シルト（耕作土）、Ⅱ層は黒褐色粘土等、Ⅲ

層は青灰色粘土（地山）の粘質土主体である。

これらは、県教育委員会の遺跡詳細分布調査の試掘結果などから、調査区南北方向では、遺構が多く確認される4・5トレンチで現地表から浅く地山が確認され、調査区南北両端で地山が深くなる。

東西方向でも調査区東側の2区にあたる9・11トレンチでは地山が深く下がる傾向があり、概ね遺跡の東端が知れよう（第25図）。

なお、一部Ⅰ区と調査区が重複する1次調査では、Ⅰ層が耕作土、Ⅱ層が青灰色粘質土、Ⅲ層が黒色粘質土、Ⅳ層が褐色粘土（炭化物・遺物を含む）、Ⅴ層がⅣ層と同じ褐色粘質土（均一・遺構確認面）などで、今回の調査より層準が複数あるが、第1次調査後の基盤整備などの削平による包含層の消失などが推測される。

以下には、第1・2次調査成果の概要を記しておく。

第1次調査

1986年7月～9月の期間、トレンチを含めて約3,900㎡の発掘調査が行われた。3ヶ所の拡張区（A～C区）から掘立柱建物跡3棟のほか井戸跡や土坑などが検出され、出土遺物により平安時代から近世に係る集落跡の一端が明らかとなった。

また、事業範囲内には1町（約108m）間隔で、方形を呈する壇状の塚3基が遺存している。十字状のトレンチ調査の結果、基底面から平安時代の遺構が確認されたことや出土した磁器類から判断して、近世以降の所産と認識された。

遺物は須恵器・土師器の供器形態が多く出土しており、9世紀～10世紀前葉を主体とするものである。縦板・横板構造の井戸跡や中世の土坑内からは、箸や木匙や下駄などの木製品が出土している。

第2次調査

1988年5月下旬から約2ヶ月半の期間、遺跡範囲に係る県道改良部分について発掘調査を行っている。第1次調査拡張区の西側に位置し、トレンチ調査の結果、遺構・遺物が集中する約1,600㎡の区画を2区に分けて精査された。

掘立柱建物跡2棟や井戸跡5基などが検出され、建物跡の柱穴内には礎板を有するものも認められた。柱痕の覆土が中世の包含する遺構の堆積土と同一なため、当該期の建物跡と考えられた。

出土遺物では赤焼土器が圧倒的多数を占め、形態的特徴から9世紀末葉～10世紀前半の年代が与えられる。

中世の土坑内からは一括出土した箸と共に、線刻によって人面が描かれた砥石が出土している。人面は研磨面と裏面の両面に描かれ、研磨面には男性人面の口髭や顎髭も観察されるほど写実的な描写である。

前述したとおり事業区の県道酒田遊佐線は、今次調査の原因である一般国道344号安田バイパスに組み込まれることになる。

2 遺構・遺物の分布

遺構・遺物が分布する範囲は、第1・2次調査や遺跡詳細分布調査の結果から、東西約370m、南北約140mに及ぶ、東西にやや長い遺跡範囲が推測される。

今回の調査は、その北東部にあたり、概ね地山が安定する調査区中央部から建物跡や井戸跡など主体的な遺構が検出された。調査区は、南側の1区、北側の2区に分け、大きく古代と中近世の遺構が確認された。

古代では、調査区が重複する第1次調査の分も含めて、掘立柱建物跡が3棟（うち2棟が1次調査）、井戸跡が4基（うち1基が1次調査）、大小の土坑、溝跡などが確認された。これらは、主に1区の中央～北半部、2区の中央部～南半部から確認され、建物跡の主軸などもやや異なり、時期幅も推測された。

調査区の北端部では、36基の柱穴が隣り合わせて直線的に並ぶ柱列が認められ、さらにその西側内部では掘立柱建物跡1棟と井戸跡3基のほか、土坑や溝跡が検出された。

建物跡の主軸は、櫛列跡と推定される柱列とほぼ平行しており、3基の井戸跡のうち2基は建物跡と近接した位置関係にある。なお、建物跡として組み合わせられなかったが、柱穴の中には礎板を伴うものが何基も存在した。

溝跡は近世に帰属するものを含め、東西及び南北または北東から南西方向に延びる3種に分かれ、調査区全域に認められる。このうち、調査区中央部で検出した南北方向に平行する2条は、約14m幅を測る道路跡の可能

性が考えられる。

出土した遺物は、土器や陶磁器と木製品・鉄製品・石製品などがあり、石鏝などの縄文時代と考えられる石器類も数点が認められた。整理箱61箱に及ぶ。

遺物の多くは、土器で遺構内から出土しており、主体となる古代に属する遺物の分布状況では、3基の井戸跡と調査区中央部に位置する土坑や溝跡、及び1区南側の窪地状の鞍部に多く認められた。木製品は井戸跡に伴うものが多く、杵材をはじめ箸や曲物の底板などの日常用具と、祭祀具である斎串が多く出土している。包含層出土の遺物についても、これらの遺構の周辺で取り上げたものが多かった。また、第1・2次調査に続いて墨書土器も多くを数える。

これらは、遺物相から前述した主体の古代でも時期幅があることが首肯された。奈良時代末～平安時代の8世紀末～9世紀前半の遺物は、1区中央部のSX3とその周辺遺構を主に須恵器類が多く出土する傾向があった。

9世紀後半は、1区でも散見されるが2区で多く認められた。SE126では須恵器環の「足」墨書土器が集中して出土した。「足」墨書土器は、特殊な平行四辺形の奇形状木製品が多量に出土したSE123井戸跡やSE126の周辺の遺構群からも出土し、SE126との同時期性の証左になる。また軸線が同じ南北方向であるSB163とした2×3間の建物跡や、SA152の柱列もある。

古代の最終段階の9世紀末～10世紀前半は、両区で単発的に土坑や溝跡から赤焼土器が主に出土し、集落がやや縮小したようである。

中近世は、第1次調査でも確認された1区の東西方向の3条の溝跡がある。北からSD89（第1次調査のSD64）、SD4（同SD51・92）、SD18（同SD50）となり、主体時期は異なるが、中世前半～近世までの遺物が散発的に出土した。

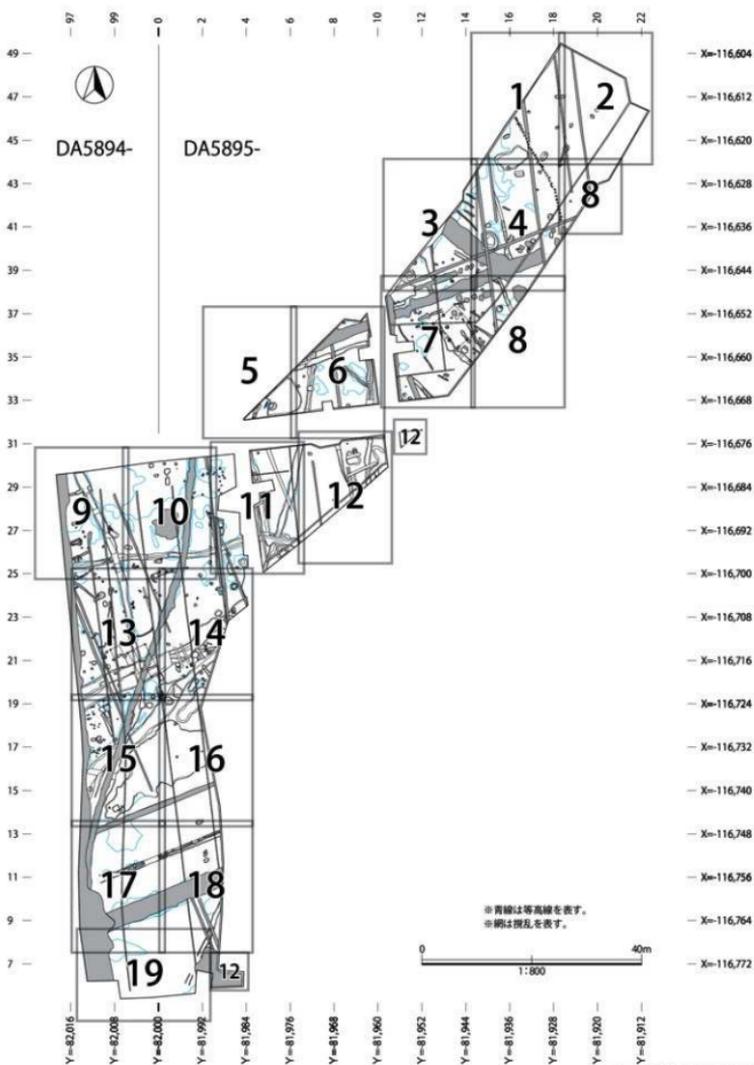
2区では、南端部と中央部～北半部に土坑や溝跡、畝状溝跡などの遺構があり、これらの遺構は、グリッド出土を含め中世・近世の遺物の出土域と概ね重なる。

遺物は、中世前半（13～15世紀）の珠洲の甕・播鉢、白磁・青磁の碗皿類、中世後半（16世紀）の瀬戸美濃・青花の碗皿類など、近世前半（17世紀）の肥前陶器・磁器の碗皿類、近世後半（18世紀以降）の肥前磁器の碗皿類などが主体的に出土し、変遷が認められる。

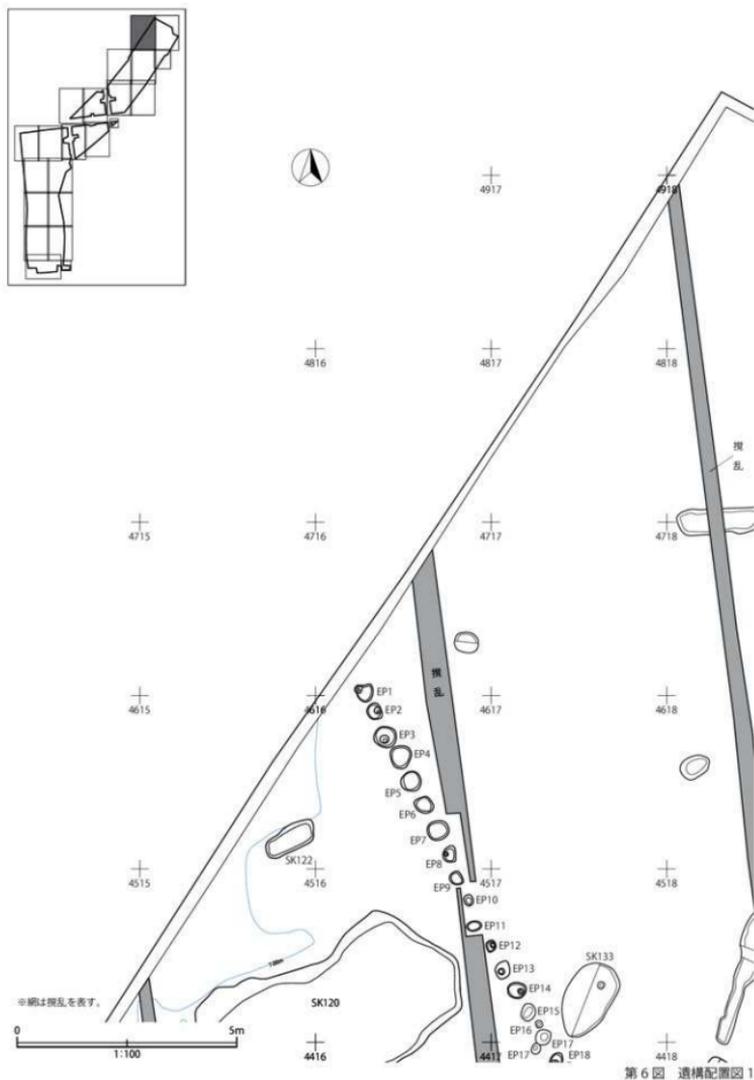


第4図 調査区全体図

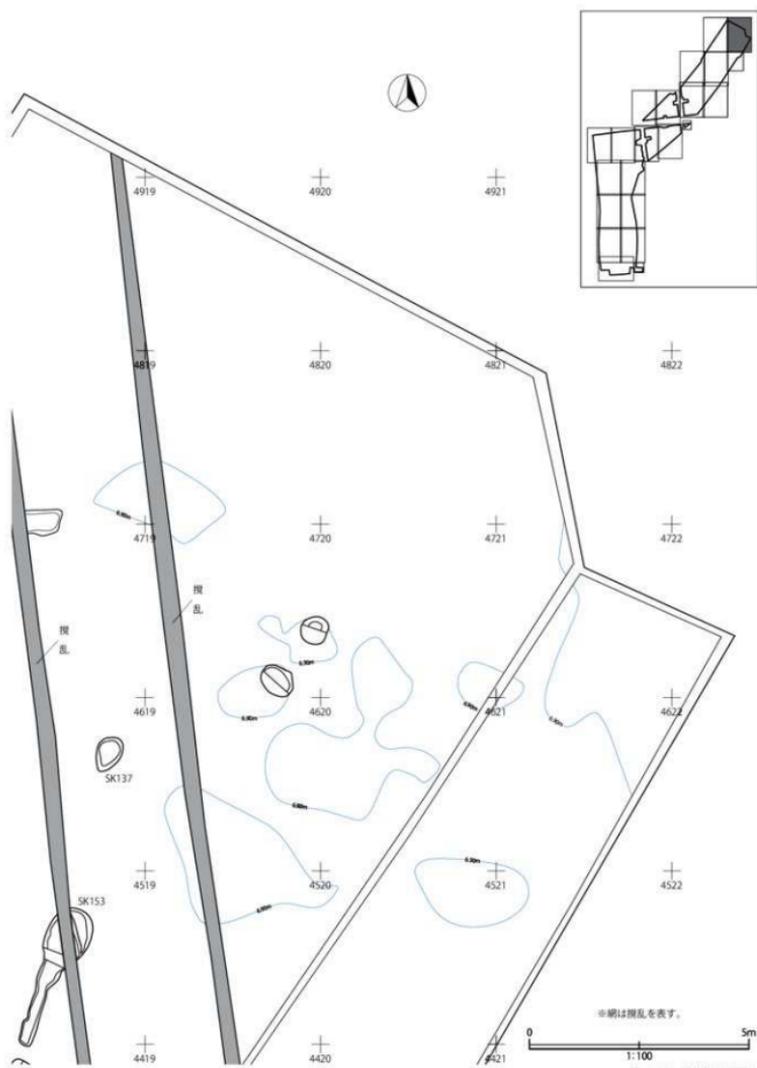
III 遺跡の様相



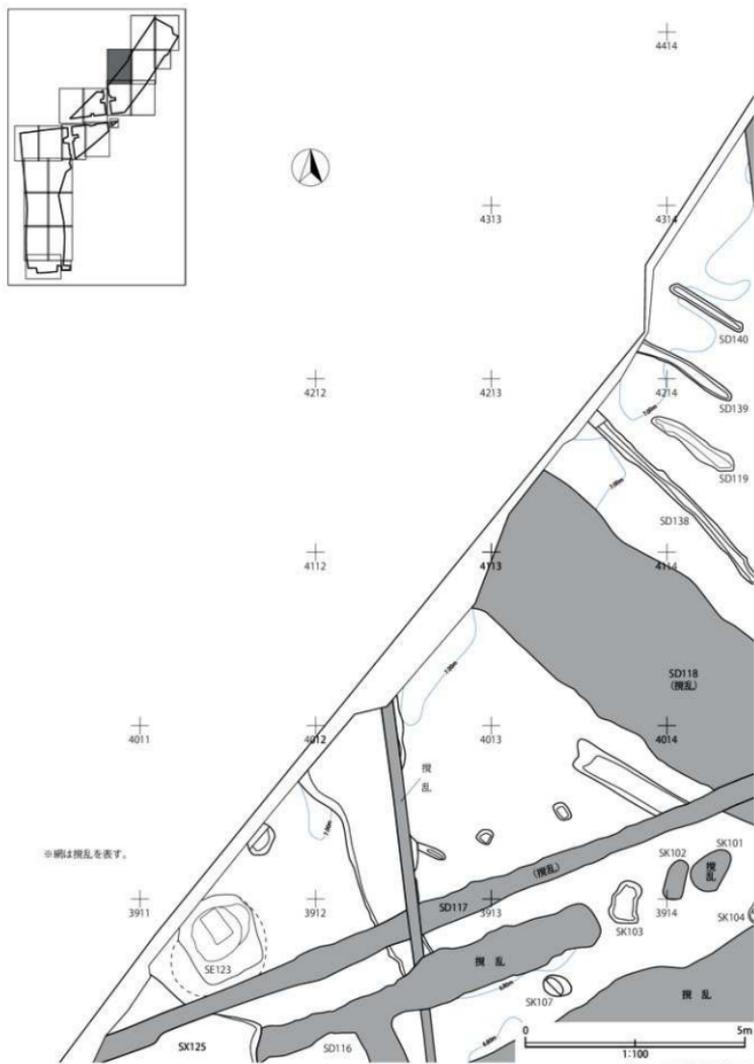
第5図 遺構配置図(附付図)



III 遺跡の様相

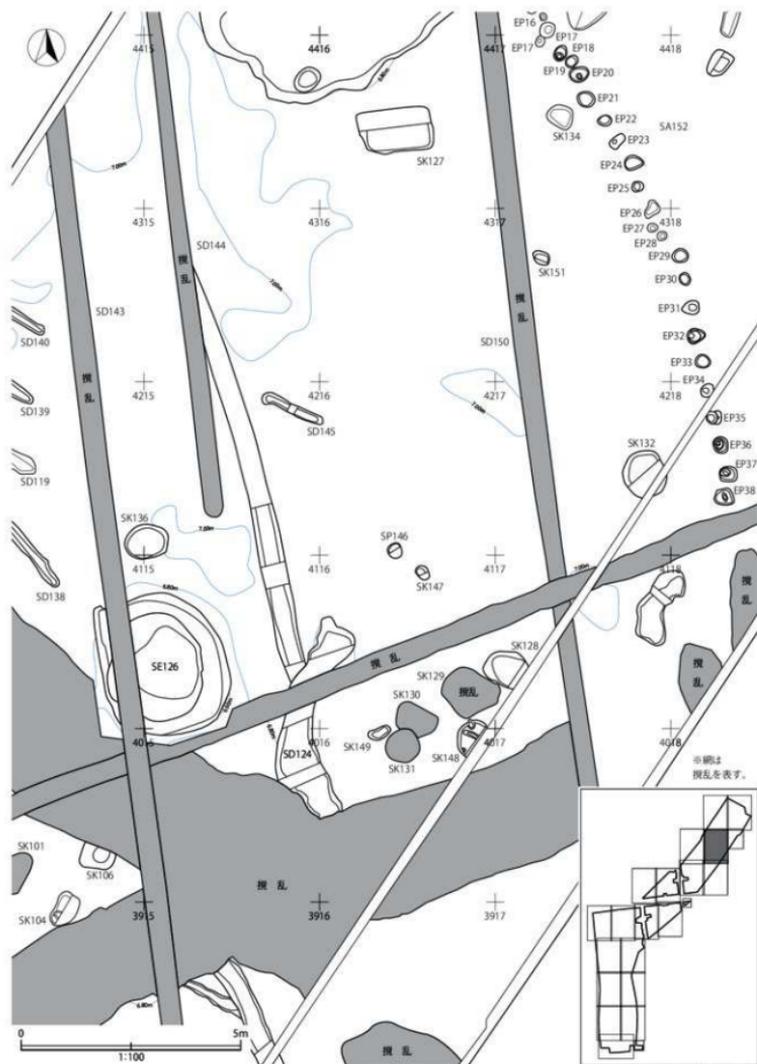


第7図 遺構配置図2

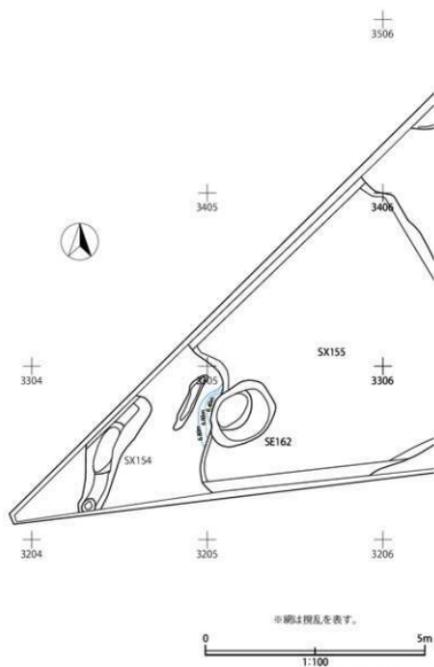
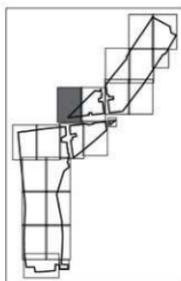


第 8 図 遺構配置図 3

III 遺跡の様相

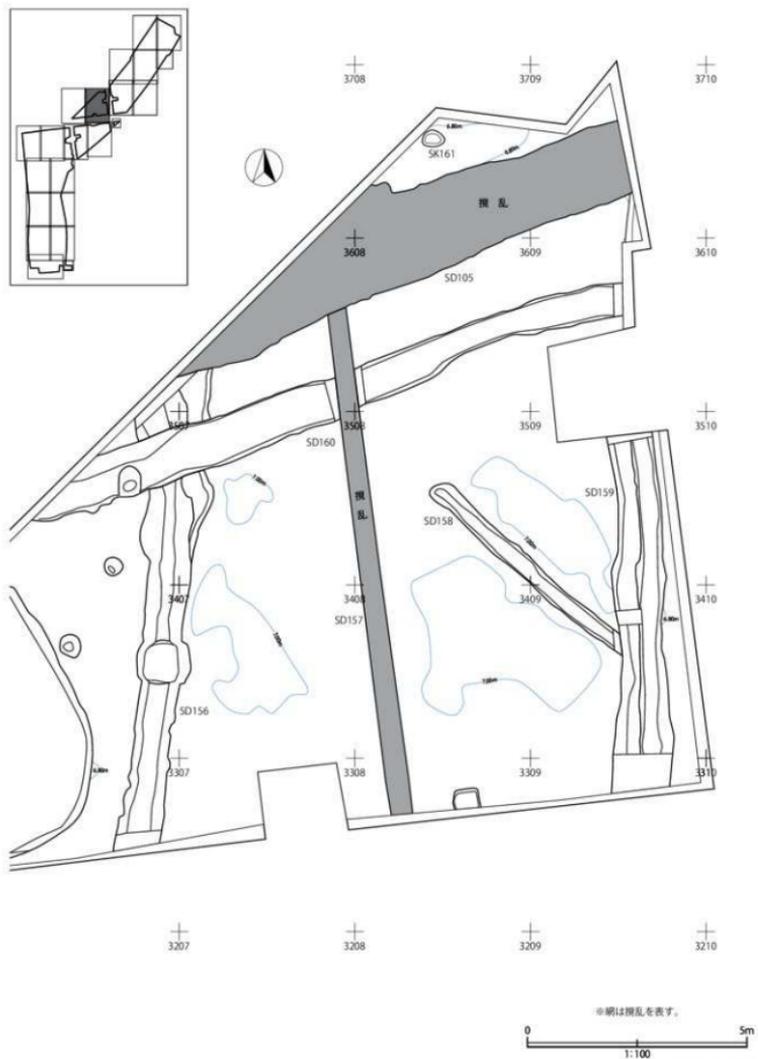


第9図 遺構配置図4

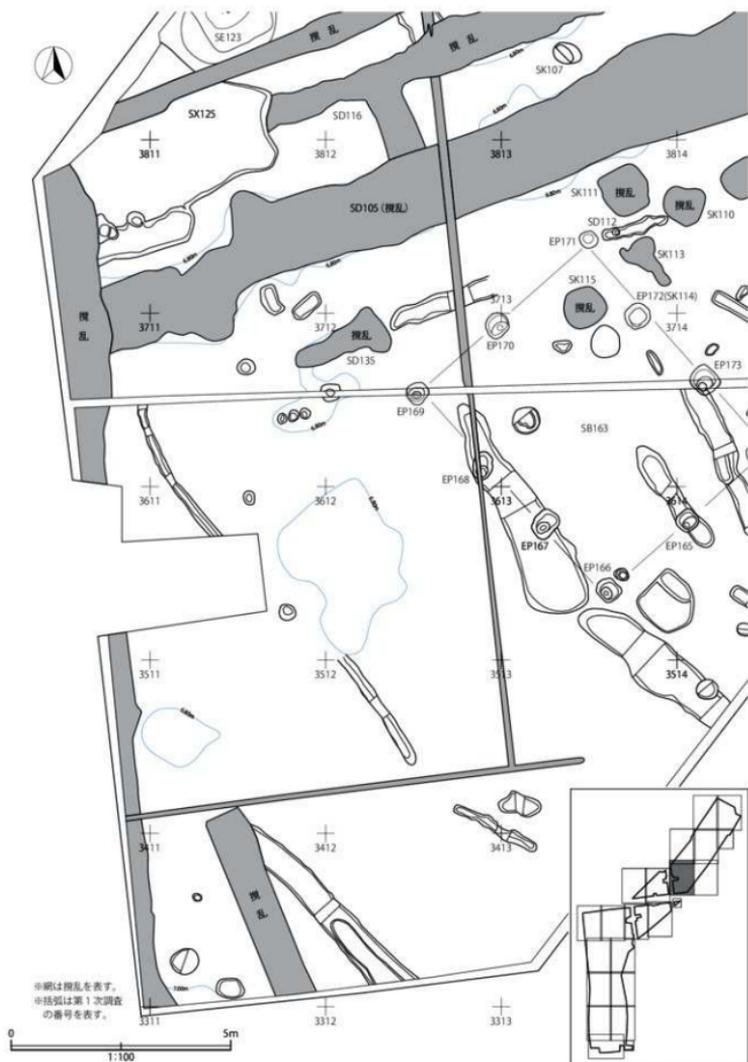


第10図 遺構配置図5

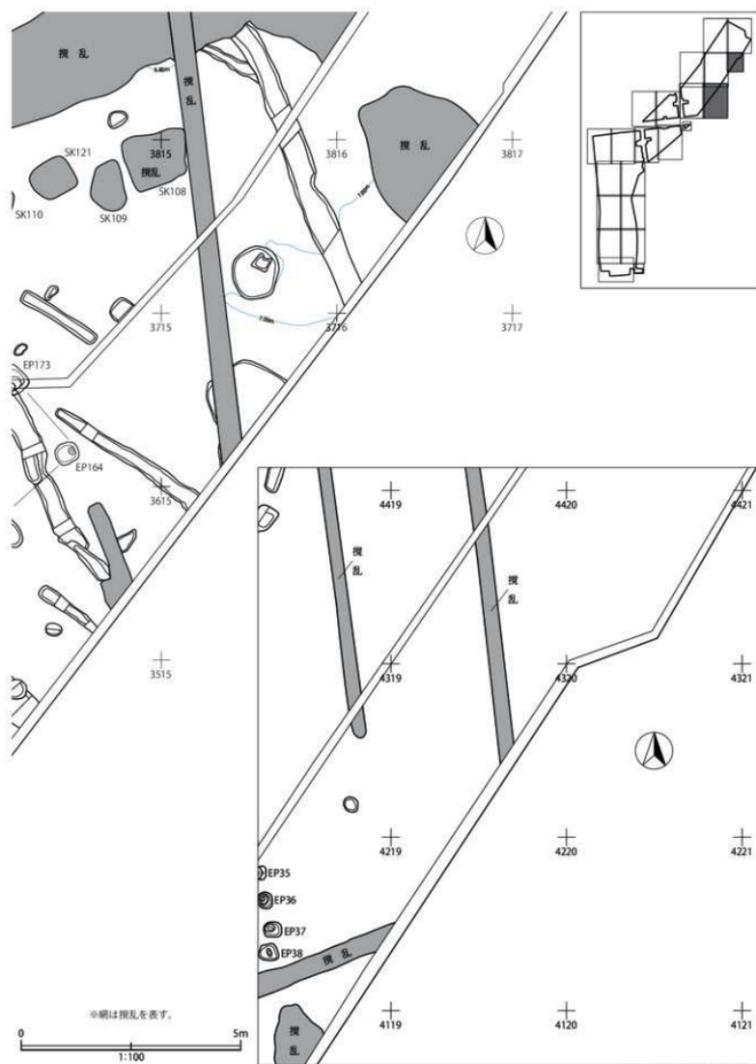
III 遺跡の様相



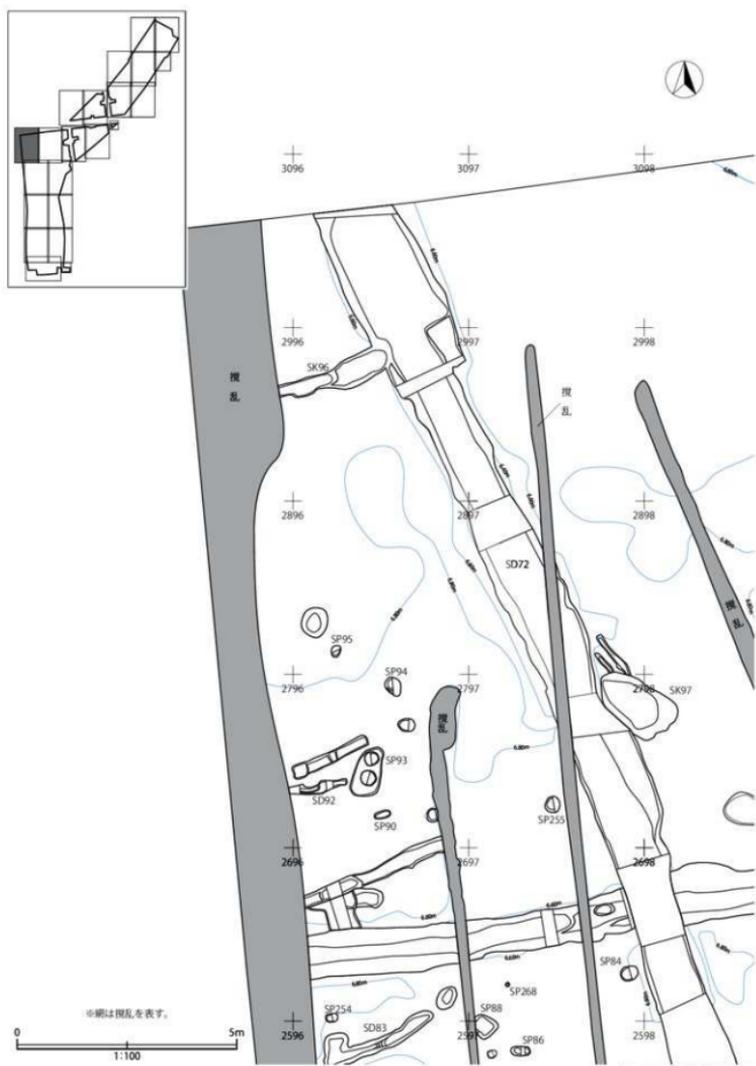
第 11 図 遺構配置図 6



III 遺跡の様相



第13図 遺構配置図8

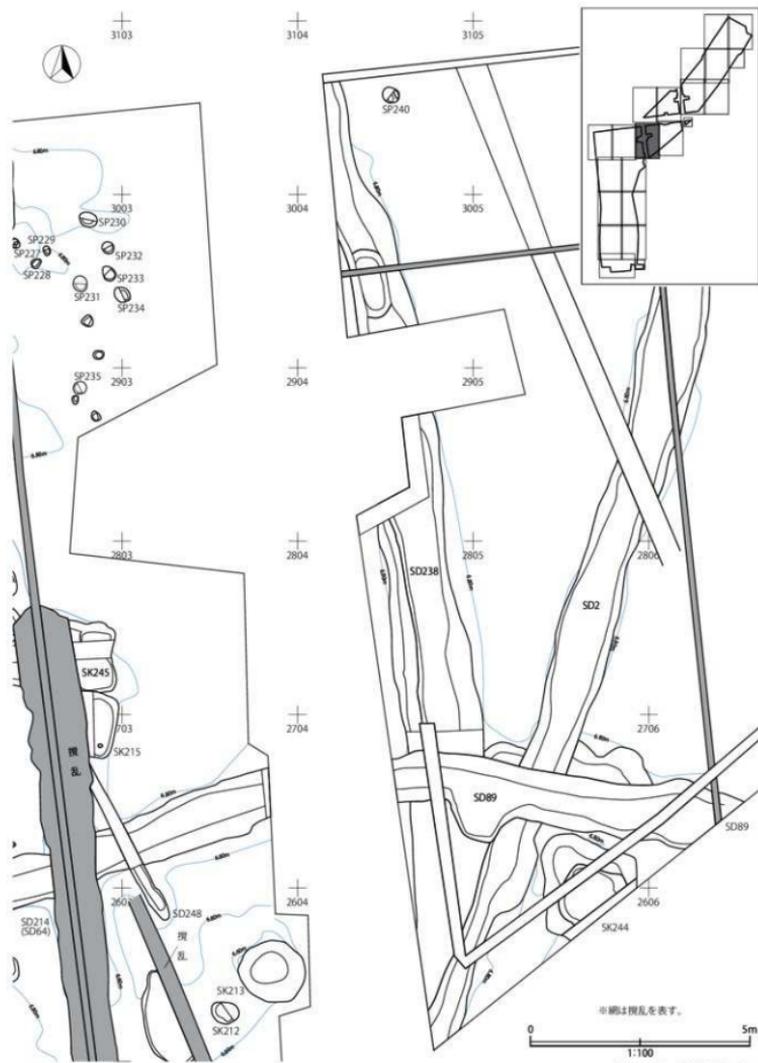


第14図 遺構配置図9

III 遺跡の様相

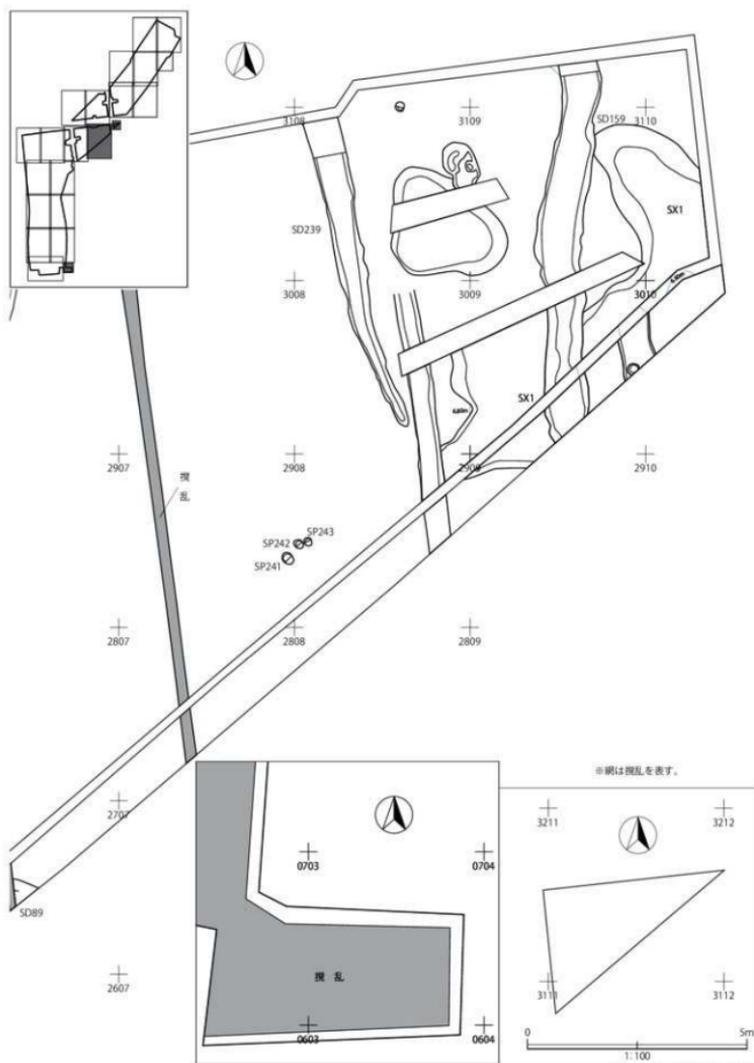


第15図 遺構配置図 10

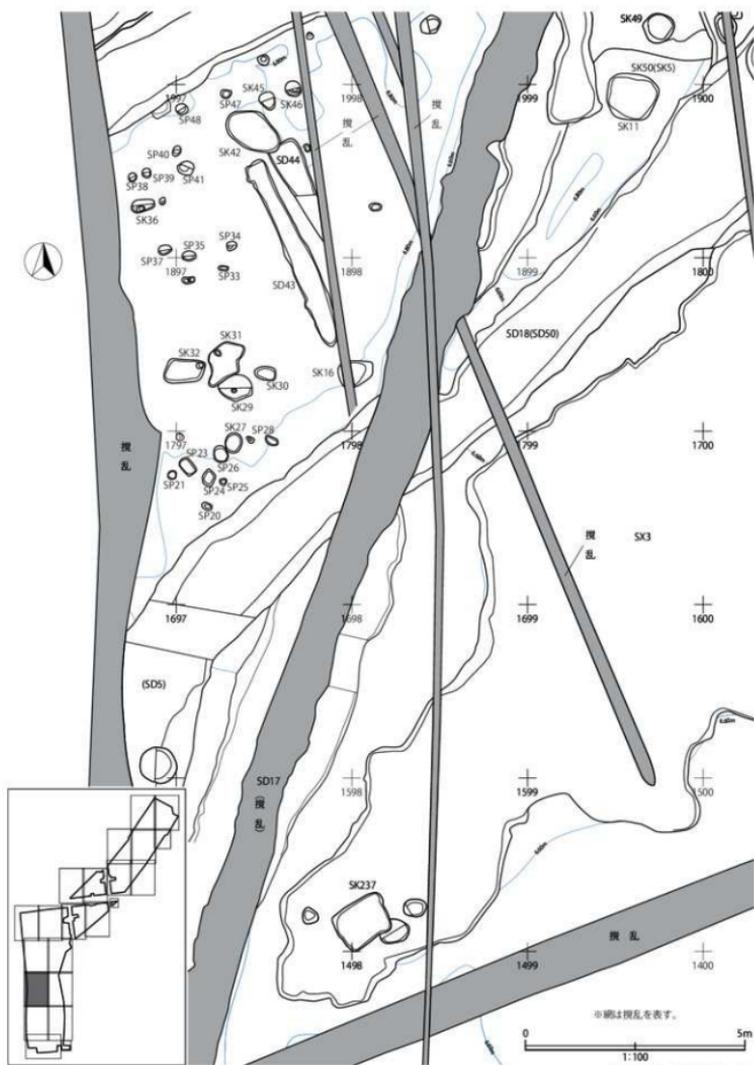


第 16 図 遺構配置図 11

III 遺跡の様相

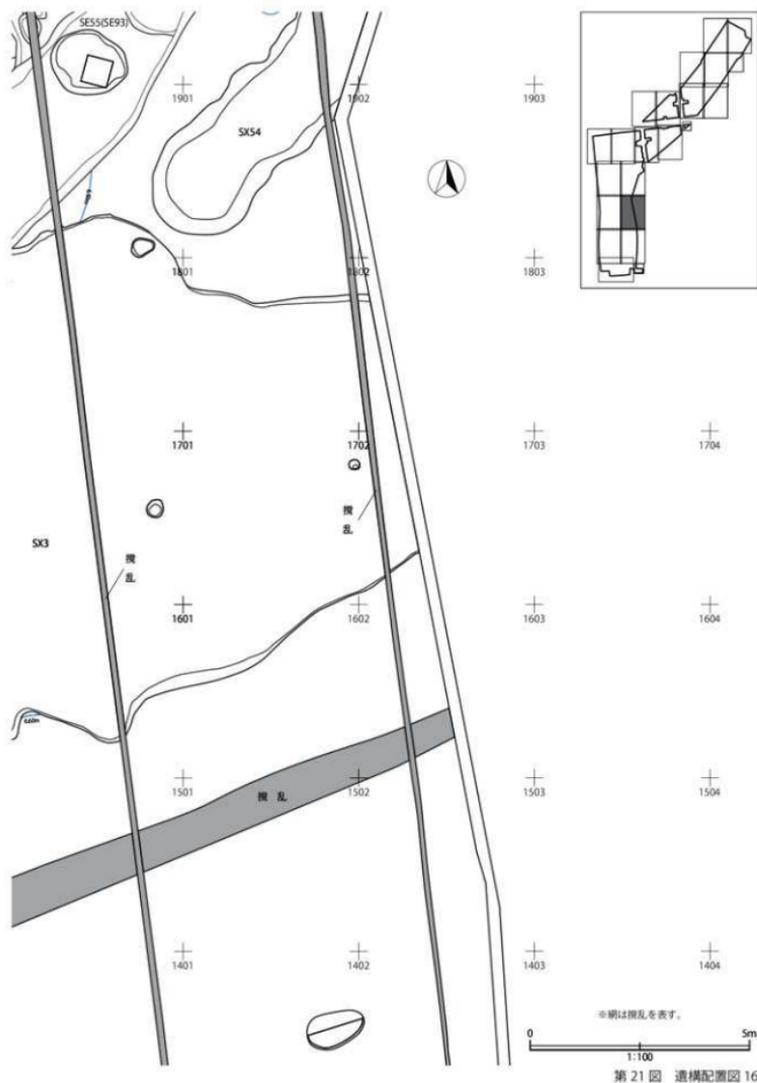


第17図 遺構配置図12

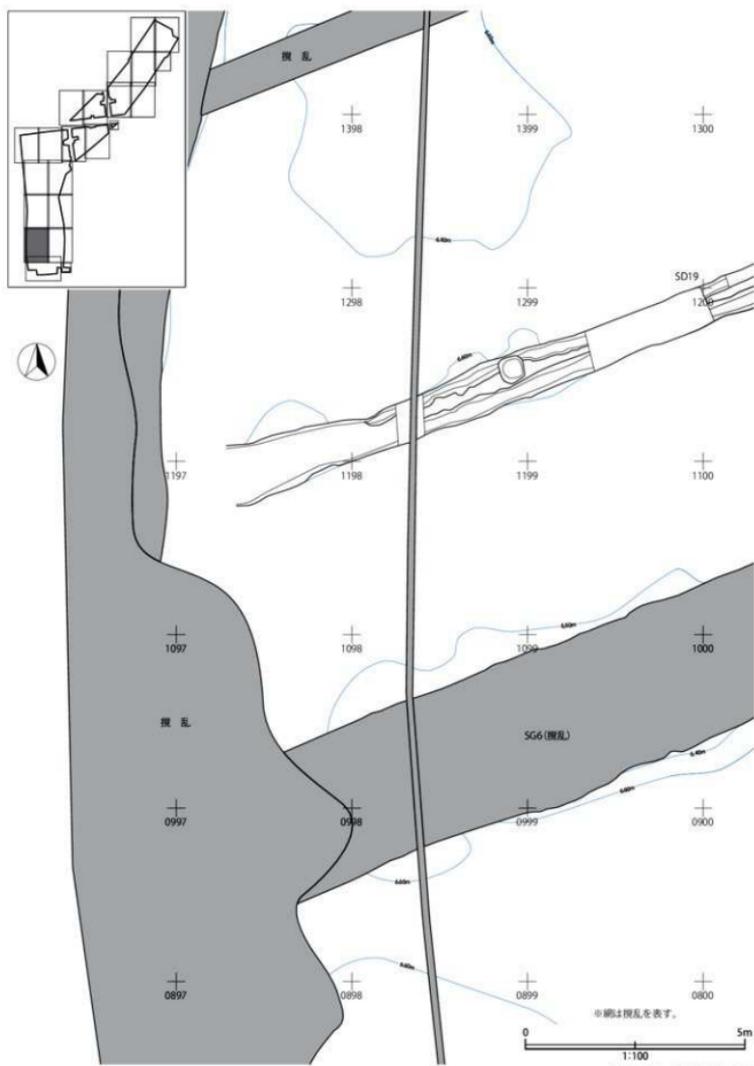


第20図 遺構配置図 15

III 遺跡の様相

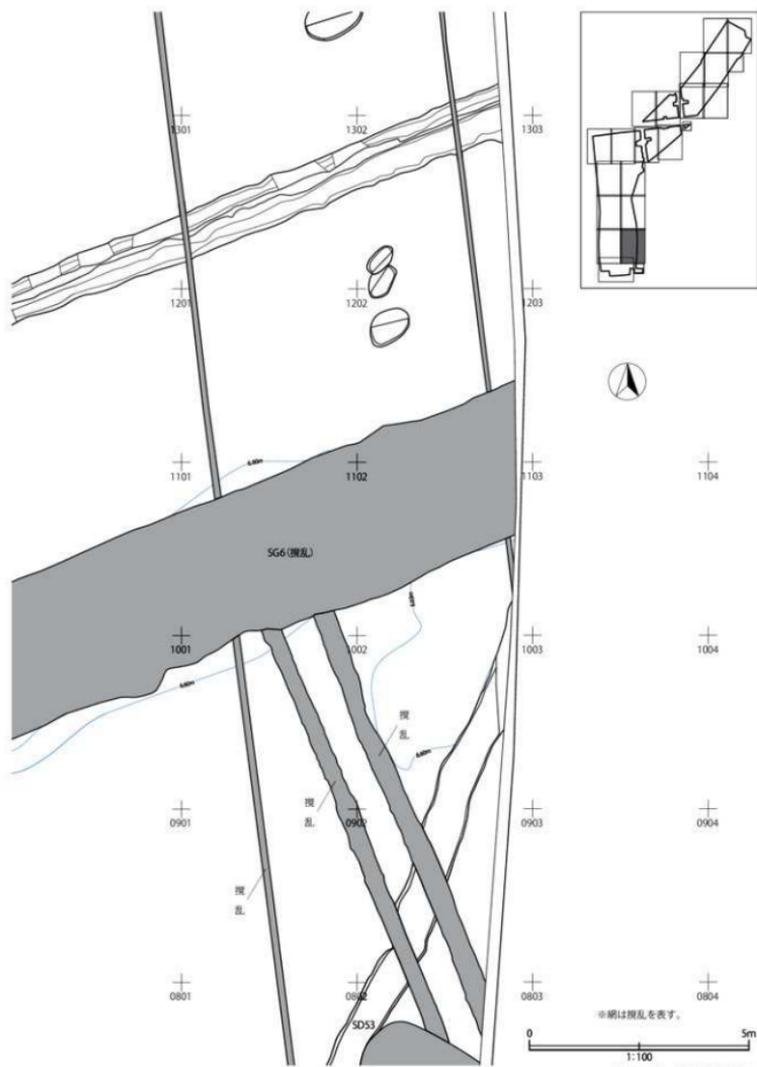


第 21 図 遺構配置図 16

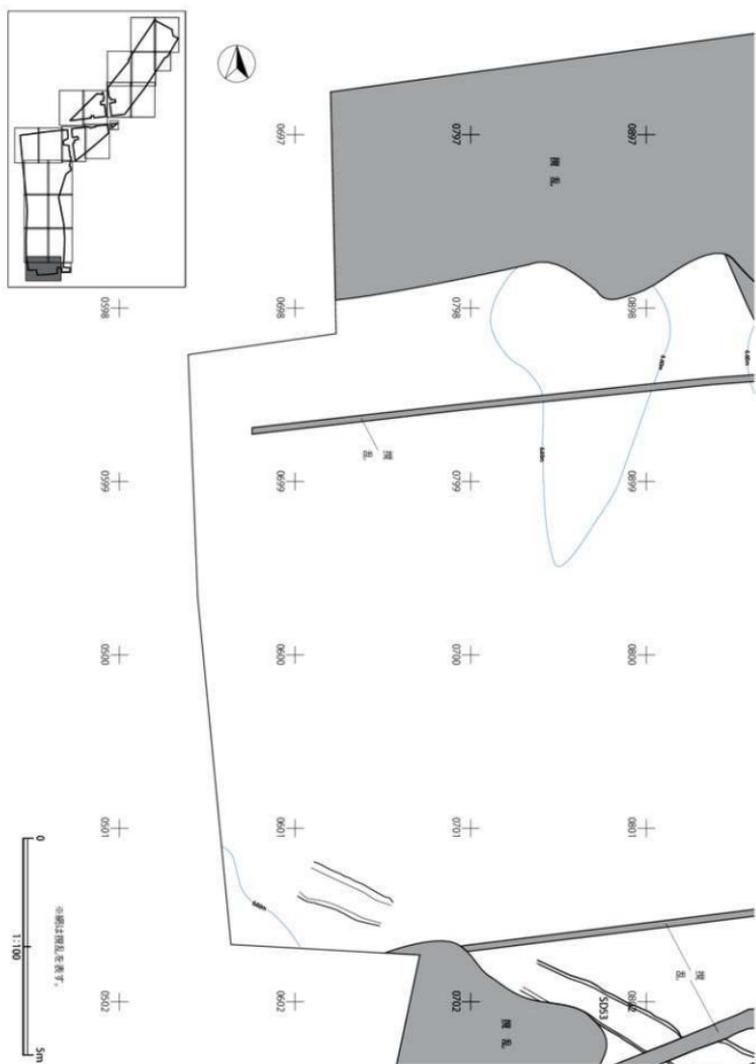


第 22 図 遺構配置図 17

III 遺跡の様相



第 23 図 遺構配置図 18



第 24 図 遺構配置図 19

IV 遺 構

上曾根遺跡3次調査では、大きく古代と中近世の遺構が発見された。古代については、掘立柱建物跡や井戸跡、柵列跡、土坑跡、溝跡、柵列痕、落込み状遺構、中近世については、土坑跡や溝跡、畝状遺構などが確認された。

以下に、今調査区の南半部にあたり、一部第1次調査区と重なる1区と、調査区北半分にあたる2区に分けて、主な遺構を時代毎に分けて述べる。

1 1 区 の 遺 構

1区では、主に古代の遺構が多く検出された。中近世の遺構は、第1次調査でも確認された東西の溝跡などに限られる。以下に、主体的な古代の遺構から順に述べる。

A 古代の遺構

古代の遺構では、主に掘立柱建物跡3棟、井戸跡3基、柵列跡1列、多数の土坑跡、溝跡6条、落込み状遺構3基などが確認された。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、2棟確認され、これは第1次調査でSB2・SB3として登録されたものである。第1次調査では、土層断面などの記録はあるが完掘作業まで至らないものがあつたようで、2区で確認された建物との主軸方向や時期の比較などのため、本報告では今調査で確認された柱穴を主に図上復元し概要を再録する。

SB2(第26図) 1区中央部の98～00・20～21グリッドのⅢ層上面で検出された。SB3と北西部で重複し、第1次調査時にも検出されたSD4(第1次調査SD64)、それ以後のSD17・SD72に切られる。

建物は、梁行3.6m、桁行6.1mの2間×3間規模の総柱建物である。第1次調査でも確認されており、今調査では南北の梁行で柱穴3基(EP114・SP256〔第1次調査のEP109に相当〕・113)を確認した。しかし、削平により平面規模が縮小し、柱穴の深さも下部のみの残存であった。他の柱穴は、既に削平により消失している。主軸は、N-27.5°-Wである。

柱間は、柱穴が今調査において全て描われないため不明

瞭だが、今調査で確認された柱穴を第1次調査時の平面図に合わせて検討すれば、梁行の北面梁行のEP114・111間、EP111・SP256〔=EP109〕間で1.8m(約6尺)を各々測る。桁行の柱間も第1次調査で遺損状況が良い西面桁行から、EP114・115間で2.4m(約8尺)、EP115・EP300間、EP300・EP116間で2.1m(約7尺)を各々測り、等間である。

柱穴の掘方は、小形の楕円形のものも多く、径は30～45cm内外のものが大半である。断面形は第1次調査ではU字形を呈し、底面は平坦か丸底である。覆土は大別2層で、柱痕跡と考えられる黒色粘土と埋土の明褐色～青灰色シルトを主とする。今調査では、柱穴の下端部が確認されたことから、第1次調査と比べると概ね20～30cmほどの削平を第1次調査後に受けたと理解された。

今調査では遺物は出土しなかったが、第1次調査においてはEP114から遺物が少ないが出土している。図示はされていないが、平安時代の所産と報告されている。

SB3(第26図) 1区中央部の98～00・20～21グリッドのⅢ層上面で検出された。SB2と南東部で重複し、第1次調査時にも検出されたSD4(第1次調査SD51・92)、それ以後のSD72に切られる。

建物は、梁行3.9m、桁行4.2mの2間×2間規模の総柱建物である。第1次調査で確認されており、今調査では西面桁行などの柱穴3基(EP80・EP104・EP85〔第1次調査と同一番号で登録〕)を確認した。しかし、削平により平面規模が縮小し、柱穴の深さも下部のみの残存であり、他の柱穴は既に削平により消失していた。主軸は、N-25°-Wである。

柱間は、柱穴が今調査において第1次調査時で確認されたものが既に削平などを受け、全て描われないため不明瞭だが、今調査で確認された柱穴を第1次調査時の平面図に合わせて検討すれば、明瞭な梁行の北面梁行のEP80・105間、105・106間で2.1m(約7尺)を各々測り、南面桁行も同等である。桁行の柱間についても第1次調査で遺損状況が良い西面桁行からEP80・104間で1.9m(約6尺)、EP104・南西角EP間で2.3m(約8尺)

を各々測り、東面桁行も同等である。

柱穴の掘方は、小形の楕円形のものが多く、径は30～75cm内外が大半である。断面形は第1次調査でU字形を呈し、底面は平坦か丸底である。覆土は大別2層で柱痕跡と考えられる黒色粘土と埋土の明褐色～青灰色シルトを主とする。今調査では、この柱穴の下端部が確認されたことから、第1次調査と比べると概ね20～30cmほどの削平を第1次調査後に受けたと理解された。

今調査において遺物は出土しなかったが、第1次調査で図示されないが、報文でEP85・104・106・107から遺物が出土し、SB2と同じく平安時代の所産とされる。EP85に近接するSP84からは底径が4.8cmと小さい赤焼土器環が出土し、9世紀後半の可能性が有る。

土坑

1区では、土坑が10数基確認された。土坑は、形態的に大・中・小形のもの、溝状のものがある。分布は調査区全体に及ぶが、大形の土坑などはSB2・3など主な建物の東側周辺に集中的に分布する。溝状の土坑は、SX3落込み状遺構などに近接して分布する。

SK213 (第27図) 1区北東部の25-03～04グリッドのⅢ層上面で検出された大形の土坑である。平面不整な円形で、規模は長径1.80m、短径1.38mである。確認面からの深さは0.93mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦だが中央部に長方形形状の凹部がある。覆土は、上～中層が黒褐色シルト、下層が暗緑灰色砂質シルトを主とする9層からなる。

遺物は、登録遺物3点で、最下層から赤焼土器のRP138の環(106-11)、木製品の県内では類例が少ないRW133・134の斎串(160・1・2)などが出土した。時期は、概ね9世紀末葉～10世紀初頭と考えられる。

SK210 (第28図) 1区北東部の24-03グリッドのⅢ層上面で検出された大形の土坑である。平面不整な円形で、規模は長径1.27m、短径1.18mである。確認面からの深さは0.54mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦だが中央部に長方形形状の凹部がある。覆土は、黒褐色シルトを主とする7層からなり、下位ににぶい黄褐色シルトブロックを混入する。

遺物は、登録遺物1点だが、下層からRP125の赤焼土器環(106-5)・須恵器有台環(106-1)などが出土した。時期は、概ね9世紀中～後葉であろう。

SK9 (第28図) 1区北東部の20-96～97グリッドのⅢ層上面で検出された中形の土坑である。

平面不整な円形で、規模は長径0.88m、短径0.77mである。確認面からの深さは0.50mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦だが中央部に隅丸長方形形状の凹部がある。覆土は、上層が黒色シルト、中～下層が黒色粘質シルトを主に6層で、間層に暗緑灰色ブロックなど含む。

遺物は、赤焼土器の長胴甕片(75-16)などが出土した。時期は、赤焼土器が隆盛する9世紀代であろう。

SK8 (第29図) 1区北東部の20-97グリッドのⅢ層上面で検出された中形の土坑である。平面不整な円形で、規模は長径0.96m、短径0.82mである。確認面からの深さは0.14mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦だが中央部に隅丸長方形形状の凹部がある。覆土は、黒褐色シルトを主に3層からなる。

遺物は、赤焼土器の長胴甕の平底部片(75-15)などが出土した。時期は、概ね9世紀代と考えられる。

SP10 (第29図) 1区北東部の20-96グリッドのⅢ層上面検出の小形のピット状の深身のある土坑である。なお、遺構番号は整理時の煩雑さを防ぐため、調査時の登録番号を踏襲している。東接して楚板のある柱穴がある。平面不整な円形で、規模は長径0.45m、短径0.31mである。確認面からの深さは0.33mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦だが中央部に隅丸長方形形状の凹部がある。覆土は不明である。

遺物は、底部で離し回転系切りの赤焼土器環の破片(75-17)などが出土した。9世紀中葉～後半であろう。

SP88 (第29図) 1区北東部の24-96～97グリッドのⅢ層上面で検出された小形の土坑である。平面不整な円形で、規模は長径0.66m、短径0.57mである。確認面からの深さは0.16mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦だが中央部に隅丸長方形形状の凹部がある。覆土は、上層が黒褐色シルト、下層が黒色シルトの2層である。

遺物は、口縁部を強く引き出す須恵器の有台皿(88-19)、口縁下端がやや肥厚する赤焼土器の小形甕片(88-20)などが出土した。9世紀後中～後葉であろう。

SP73 (第29図) 1区北東部の21-96グリッドのⅢ層上面で検出された小形で深身の土坑である。平面不整な円形で、規模は長径0.33m、短径0.26mである。確認面からの深さは0.19mである。断面形は箱形を呈し、底

面は平坦だが中央部に隅丸長方形の凹部がある。覆土は、不明である。

遺物は、登録遺物6点で、器形の判るものが上層からRP139の須恵器環(88-6)、RP140の赤焼土器環(88-8)、下層からRP141の赤焼土器甕(88-10)、RP142・143の赤焼土器環(88-9)、RP143の須恵器環片(88-7)などが出土した。時期は9世紀中～後葉であろう。

SK52 (第30図) 1区北東部の21-01グリッドのⅢ層上面で検出された溝状の土坑である。平面不整な円形で、規模は長径2.58m、短径0.97mである。確認面からの深さは0.33mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は、黄灰色砂質シルトを主に4層である。

遺物は、登録遺物32点で、概ね中層からまとも出土し、RP24の枝番で登録した。主な完形・半完形品は、須恵器の環類のRP24-6(82-11)、同-18(82-10)、有台皿の同-10(82-14)、同-32(82-13)と、赤焼土器の環のRP24-1(82-23)、同-13・15(82-22)、同-7・26(82-24)、同-16・17・28(82-20)、同-24(83-6)、新相の同-6(82-21)、有台皿の同-4(83-1)などがある。登録遺物では、他にも赤焼土器環の口縁部片や須恵器甕片が多く、複数が接合して同一個体になる状況が看取される。なお、82-19など体部に記号を付した墨書土器も出土した。時期は、概ね9世紀中葉からや後葉にかけての時期と推測される。

SX54 (第31図) 1区北東部の19-00～02グリッドのⅢ層上面検出の溝状の土坑である。平面不整な楕円形で、長径7.90m、短径2.43mである。深さは0.40mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は、暗灰黄色砂質シルトに黄褐色砂質シルトが粒状に混入し、炭化物を含み、粘性やしまりが中程度である。

遺物は、出土量が多く、登録遺物13点で、最下層からまとも出土し、RP53の枝番で登録した。主な完形・半完形品は、須恵器の環RP53-12(85-1)、有台環の同-7(85-9・10)、蓋の同-1(84-3)と、赤焼土器の環RP53-2(86-1)、同-6(86-3)、同-7(86-9)、同-10(86-4)、甕の同-3(86-18)、鍋の同-9・10・11(87-1)がある。登録遺物は、他にも須恵器の環口縁部片や甕片などがある。墨書土器では、須恵器類に「十」・「豊」・「竹」・「井」などがあり、SX54とSX3の土器が接合するものが散見されることもあり、埋没時の重

複した時期も想定された。時期は須恵器環類の主体から9世紀前葉～中葉であろう。

SK97 (第32図) 1区北東部の27-97～98グリッドのⅢ層上面検出の大形で浅い土坑である。第1次調査でも未登録だが遺構として確認され、遺物が一部残存する。

平面不整な円形で、規模は長径1.90m、短径1.00mである。確認面からの深さは0.22mである。断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は、上層が黒褐色シルト、下層が黒色シルトとに黄褐色砂質シルトの互層を主に8層からなる。

遺物は、登録遺物7点で、概ね下層からまとも出土し、RP126～132として登録した。赤焼土器の環RP129(90-5)、RP130(90-6)、甕RP132(91-1)、RP126・131(91-6)、鍋RP131(91-2)などがある。時期は、高径指数の低下した赤焼土器環や赤焼土器主体であることから、9世紀後半～末葉と考えられる。

SK98 (第32図) 1区北東部の26-98グリッドのⅢ層上面で検出された中形の土坑跡である。平面は楕円形で、規模は長径1.41m、短径0.65mである。確認面からの深さは0.09mである。断面形は緩やかな逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。覆土は、不明である。

遺物は、登録遺物3点で、概ね中～下層からまとも出土し、RP136～138として登録した。赤焼土器が主体で、赤焼土器の環RP136(91-11)、小形甕RP137(91-13)、有台鉢の高台RP135(91-14)などが出土した。他にも赤焼土器環の破片が多く、器高や底径の縮小化から、時期は9世紀末葉～10世紀初頭が推測される。

ピット群

1区では、古代と考えられる柱穴やピットが集中する地点が北東部に確認されたが、調査区外にも延びる可能性もあり、建物と判断するまでは至らなかった。

SP207・208・209・249・211 (第33図) 1区北東部の04～05-25グリッドのⅢ層上面で検出された柱穴群である。特にSP207、208、209・249は直線状に並び、SP211・SP261はSP207に直交する。第1次調査でも確認されているが、特に記載がない。SP207・208・209の主軸は、N-54°・Wである。なお、SP207・208間は2.2m(約7尺)、SP208・209間は2.1m(7尺)であり、SP207・211間は3.0m(10尺)を測る。

これら柱穴は、平面不整な円形や隅丸方形で、規模は

長径 0.45～0.95 m、短径 0.40～0.85 m である。確認面からの深さは 0.10～0.58 m である。断面形は概ね箱形やU字形で、底面は平坦である。覆土は、概ね 1～4 層で、黒褐色シルトなどを主に、柱痕跡は判然としなない。

遺物は、実測可能なもので、SP207 から須恵器器有台坏 (105-11)、SP209 から平底であろう赤焼土器甕片 (105-12)、SP249 から須恵器壺片 (110-12) などが出土し、概ね SP207 や SP209 出土の土器形態から 9 世紀前半頃の所産と考えられる。

落込み状遺構

1 区中央部では、古代の落込み状遺構と考えられる長大な不整形な浅い落込みが確認された。特に落込みからは、遺物が集中して出土し、第 1 次調査の A 区南端部でも包含層中からまとまった遺物の出土や、今調査で北接する溝状の SK52・54 などとも軸方向や遺物出土状況が類似し、関連が窺える。

SX 3 (第 34・35 図) 1 区北東部の 13～18-97～

02 グリッドのⅢ層上面で検出された大形で浅い落込み状遺構である。第 1 次調査の南端部と同様の様相を呈する。

平面は不整な楕円形で、規模は長径 24.0 m 以上、短径 3.50～11.0 m である。確認面からの深さは 0.16～0.52 m である。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。覆土は、大別 2 層で、上層が黒色シルト主体、下層が火山灰などを含むぶい黄褐色粘質シルトで、一部確認面から深い底面のところで細分層される。

遺物は、登録遺物 30 点と今調査で最も多く、概ね上層と下層の間からまとまって出土する。主な完形・半完形品は、須恵器の坏で古相の底部切離しへら切りの RP42 (64-16)、RP20 (64-14・12)、RP32・34・35・39 (65-2)、RP28・29 (64-9)、RP66 (65-13)、RP60 (65-6) と多く、新相の回転系切りは RP27・43 (66-12)、RP63 (66-16) の 2 点のみである。

有台坏は、浅身の RP46 (67-7)、RP45 (67-10)、RP38 (67-8)、RP53-2・61 (67-12)、RP25 (68-5)、RP40 (68-2) と、深身の RP30 (67-14) などがある。須恵器蓋では RP51 (64-4)、RP62 (64-1) がある。

土師器の坏は、RP36 (69-17)、赤焼土器の坏は RP64・65 (69-3)、RP44 (69-11) などがある。

その他の登録遺物は、赤焼土器の甕や鍋、須恵器の甕などが僅かに出土した。また、複数の「十」「豊」、単体

で「夔」「得」「申」「守」「百」「生」が墨書された土器が出土し、板材などの木製品も若干出土した。

時期は、土器形態からやや幅が認められ、古相が須恵器環類の底径の大きい一群の存在から 8 世紀末～9 世紀前葉、新相が須恵器環の底径縮小化や赤焼土器環の増加から 9 世紀中葉の時期幅が推測される。下層には、古相が多いようである (1700.1800 グリッド下層の注記)。

B 中近世の遺構

中近世の遺構は、遺物が少なく不明瞭だが、特に今調査区中央部で検出された第 1 次調査で確認された 3 条の溝跡の延長部から遺物が出土した。他にも、方形の区画溝跡やピットから散発的に遺物が出土した。

溝跡

溝跡は、第 1 次調査で検出された東西方向の 3 条の大形溝跡の未掘部分や東西両端の延長部分から、第 1 次調査と同様に主に当該期の遺物が一定量出土した。

SD89 (第 36 図) 1 区北東部の 25～26-96～05

グリッドのⅢ層上面で検出された大形の溝跡である。第 1 次調査の SD64 にあたり、今調査ではその未掘部分や東西両端の延長部分を調査したことになる。

溝跡の規模は、長軸 41.4 m 以上、短軸 9.5～14.5 m である。確認面からの深さは 0.16～0.76 m である。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。底面は全体的に東から西に向かって標高が下がる。主軸は、N-84°-E である。

覆土は、黒褐色シルトの単層だが、第 1 次調査において褐色粘土や暗青灰色粘土を主に 5 層が確認されており、第 1 次調査後に削平されたことが考えられる。

遺物は、第 1 次調査と同じ中世と古代の遺物が出土した。登録遺物 3 点で、RP92・103・145 である。

中世の遺物は、13～15 世紀の珠洲の甕 (89-3) がある。また、古代の可能性もあるが、青磁の碗 (89-1)・皿 (89-2) もある。古代の遺物は、破片資料が多く、土師器の内面黒色の有台坏で底部や体部「×」の線刻が入る RP145 (89-24)、須恵器の甕 RP92 (89-29)・壺 RP103 (89-31) がある。その他の破片はやや時期幅があり、9 世紀代を過ぎた時期と捉えられる。

SD89 は、第 1 次調査でも中世の溝跡 (第 1 次調査表 2) とされるが、今回の調査で RP145 (89-24) などの半完

形遺物の出土状況より、古代から溝が開口していた可能性はないか。概ね中世前期を下がる遺物が出土しないため、埋没の最終時期は、第1次調査と同じく15世紀以降であろう。

SD 4 (第37図) 1区北東部の18～22-96～04グリッドのⅢ層上面で検出された大形の溝跡である。第1次調査のSD51・92にあたり、今調査ではその未掘部分や東西両端の延長部分を調査したことによる。

溝跡の規模は、長軸35.2m以上、短軸2.3～4.3mである。確認面からの深さは0.16～0.36mである。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。底面は全体的に東から西に向かって標高が下がる。主軸は、N-60°-Eである。

覆土は、大別南側が黄灰色砂質シルトを主とし3層、北側が黒褐色砂質シルトを主に地区によって3～4層に分けられる。第1次調査ではSD51が灰褐色粘土を主に6層、SD92が灰褐色粘土の単層で、今回の調査の南側がSD51、北側がSD92に相当しよう。

遺物は、第1次調査と同じ近世以降の遺物と共に、中世の遺物も出土した。また、古代の土器も破片が多いが一定量出土した。登録遺物は2点でRP6・8である。

中世の遺物は、古相の珠洲の甕(72-6)、搦鉢(72-7)、鋤連弁文の青磁碗(72-3)、瀬戸美濃の大窯4段階の折縁皿(72-4)など、近世の遺物は、RP登録した九州陶磁編年Ⅱ期頃の肥前磁器皿RP6(72-1)、同Ⅴ期の肥前磁器碗RP8(72-2)、他に同Ⅱ期の肥前陶器碗(72-5)などが出土した。

古代の遺物は、破片が多いが、須恵器有台杯のRP7(72-19)や、半完形品で須恵器の杯(72-14・16・17)、有台皿(73-16)、蓋(72-8)、瀬戸美濃の甕(73-17)などが出土した。72-16は「十」が墨書される。

SD 4は、第1次調査でも古代の遺物が出土するが、磁器が出土する近世以降の溝跡(第1次調査-表2)とされた。今回の調査でも古代・中世の遺物が一定量出土した。時期は、古代については、遺物が破片で一定量あり、概ね9世紀代に渡る。中世については、珠洲・青磁が中世前半、瀬戸美濃の大窯段階の中世後半、古相の肥前磁器・陶器がある。また最終の幕末～近代の肥前磁器もあることから時期幅があり、長期間に渡り機能した溝跡と考えられる。

SD18 (第38・39図) 1区北東部の14～21-96～02グリッドのⅢ層上面で検出された大形の溝跡である。第1次調査のSD50にあたり、今調査ではその未掘部分や東西両端の延長部分を調査したことによる。

溝跡の規模は、長軸33.4m、短軸1.40～3.00mである。確認面からの深さは0.12～0.38mである。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。底面は全体的に東から西に向かって標高が下がる。主軸は、N-46°-Eである。

覆土は、上～中位が黒褐色砂質シルト、下位が暗灰黄色シルトを主とし、地区によって3～4層に分けられる。なお、第1次調査では、上位に灰褐色シルト、下位に暗灰褐色シルト質粘土を主とした5～9層からなる。

遺物は、第1次調査で陶器が出土したため近世以降とされた。一方で今回の調査では、近世の遺物と共に中世の遺物が若干、さらに古代の土器が一定量出土した。

中世の遺物は、登録遺物で珠洲の甕(77-9)、新相の珠洲編年Ⅳ期の搦鉢(77-10)などがある。近世では産地不明の陶器RP47(77-8)や砂目のある古相の肥前陶器碗(77-7)などがあり、第1次調査で指摘された明確な近世磁器は、今回の調査において認められなかった。古代の遺物は、破片資料が多く、登録遺物で須恵器有台杯RP48(78-24)、赤焼土器杯RP49(79-12)がある。他に器形の分かるものは、須恵器の杯(77-16・17・78-3)、有台杯(78-18)で総じて径の大きい古相の形態である。新相の赤焼土器も多く、時期幅が認められる。

SD18は、中近世の遺物が少ないものの、北接し東側で合流するSD4出土遺構とも組成が類似する。そのため同時期での機能、埋没なども推測される。なお、今調査で江戸時代初期の遺物が最も新しい。

方形区画溝跡

方形区画溝跡は、第1次調査でも確認されるが、一部は当時の調査区外にも延びており、今調査で改めてその様相が確認された。そのため、近接する建物群との主軸方向などと検討することから、本報告において再録する。

SD78・206・257 (第40図) 1区北東部の22～23-97～99グリッドのⅢ層上面で検出された。北にコの字形に開口した溝跡群で、西辺のSD78・南辺のSD206・東辺のSD257で構成される。南辺と東辺は第1

次調査でも確認されているが、特に遺構登録はされていない。今調査では、南辺に直交する可能性のあるSD78が確認され、対向する東辺SD257とも主軸方向が類似し、北に開口した方形の区画溝とした。但し、区画内部にはビットなどが区画中央部に単発的にあるだけで、明確な建物などの検出には至らなかった。

区画溝の規模は、南北が約8.36m、東西が約7.96mの方形をなす。各々の溝跡の規模は、長軸3.52～7.10m、短軸0.24～0.81mである。確認面からの深さは0.18～0.04mである。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。底面は全体的に東から西に向かって標高が下がる。主軸は、N-10°-Wである。覆土は、不明である。

遺物は、SD78から須恵器蓋の摘み部(88-15)、SD257から底径の大きい須恵器灰片(110-15)、底径の小さい赤焼土器灰片(110-16)などがある。時期は、数量が少なく小片で難しいが、最も新しい110-16から9世紀後半が推測される。

ビット群

1区では、中近世のビットと推測されるものが多数確認されたが、明確に建物跡と組めるまでには至らなかった。但し、1区北東部では礎板や柱根、根固め石を含むビット群が集中して確認され、弧状に廻る様相が看取された。

SP219・224・226～・229・231・235a～d (第41図)

1区北東部の28～29-01～03グリッドのⅢ層上面で検出された柱穴群で、直径約4mの弧状に廻る柱穴群である。特にSP224・231・235b・219は礎板などが配置され、SP227は根固め石と推測される川原石を含む。

これら柱穴は、各々約0.7～10m(約2.5～3.3尺)の不規則な間隔で弧状に廻り、南西側にはSP219のみと分布が希薄になる。

柱穴は、平面形は円形で、規模は長径0.22～0.49m、短径0.17～0.40mである。深さは0.07～0.26mである。断面形はU字形を呈し、底面は平坦である。覆土は、SP231で黒色シルトと黒褐色シルトである。

遺物は、SP231から須恵器甕の口縁部(107-11)が出土した。時期は9世紀代と考えられる。

2 2区の遺構

2区は、第1次調査や今調査1区の北東隣にあたり、

主に古代の遺構が多く検出され、中近世の遺構も土坑や溝跡などを主に一定量認められる。以下に、主体的な古代の遺構から順に述べる。

A 古代の遺構

古代の遺構は、主に掘立柱建物跡1棟、井戸跡3基、柵列跡1列、多数の土坑跡、溝跡2条、落込み状遺構が数基確認された。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、2区南西部で1棟確認される。

SB163 (第42・43図) 2区西西部の35～37-12～14グリッドのⅢ層上面で検出された。建物と同軸方向の数条の溝状遺構と一部重複する。梁行5.05m(約17尺)、桁行6.3m(約21尺)の2間×3間規模の側柱建物である。主軸はN-41°-Wである。

柱間は、北面梁行のEP169・170間では2.3m(約8尺)、EP170・171間で2.75m(約9尺)を各々測り、南面桁行のEP166・165間で2.5m(約8尺)、EP165・164間で2.55m(約8尺)を各々測る。

東面桁行は、EP171・172間で2.0m(約7尺)、EP172・173間で2.2m(約7尺)、EP173・164間で2.1m(約7尺)を各々測り、西面桁行のEP169・168間で2.3m(約7尺)、EP168・167間で1.9m(約6尺)、EP167・166間で2.1m(約7尺)を各々測る。

柱穴の掘方は、小形の楕円形のものも多く、径は40～65cm内外のものが大半である。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦か柱痕跡のあったところが凹部になる。

覆土は2層のものが大半で、暗オリーブ灰色砂質シルト、黄灰色砂質シルトを主とし、柱痕の可能性のあるものはEP171・173など少ない。土層断面を勘案すれば、柱根の抜き取りが多いことが窺える。

柱穴からの出土遺物はなく、時期は判然としないが、近接するSE123の井戸枠、1区の第1次調査のSB2・3やSE92の井戸枠なども主軸方向が類似し、概ね9世紀後半頃の可能性がある。

井戸跡

2区では、中央部や西西部で井戸跡が3基確認された。そのうち井戸枠などの施設を伴うものが1基、素掘りのものが2基確認された。

SE123 (第44・45図) 2区北東部の38-11グリッド

のⅢ層上面で検出された大形の井戸跡である。南側が一部暗渠などに切れ、北側が調査区外に一部延びる。なおSE123は、調査時に湧水が著しく、土圧で土層断面の壁などが崩落し、崩落土中から遺物を取り上げたこともあった。また、調査時には、井戸枠内の遺物を「井戸枠内」、「枠内堆積土」と考え注記し取り上げたが、整理段階で井戸枠外の畜串との接合資料も認められ、上記の崩落土などが影響した可能性があり、明確な出土地は判然としない。

掘方は、平面形不整な隅丸方形で、規模は長径上端1.85 m、下端2.15 m、短径上端1.77 m、下端2.16 mである。確認面からの深さは1.10 mである。断面形は箱形から逆台形を呈し、掘方下端が開口部よりオーバーハングし、特に西側で大きい。底面は、平坦だが、中央部の縦板による井戸枠部で凹部状になる。

覆土は、大別上層（1～5層）、中層（6～11・25・26層）、下層（12～17層）に分けられる。上層は主に黒褐色粘土～砂質シルトと、にぶい黄褐色粘質土や褐灰色砂質シルトの互層で、自然堆積による埋没も推測された。

中層はオリブ黒色砂質シルトの6層と、下層と同じ緑灰色砂質シルトの11層が掘方全体に堆積し、この段階で井戸の廃棄や井戸枠の抜き取りなどが推測される。

下層では、黒色シルトの17層が井戸枠内の堆積土と考えられ、緑灰色砂質シルトやオリブ黒色砂質シルトが主体の12～16層が井戸枠を固定した当初の埋土と推測された。そして、概ねこの下層部のみが当時の井戸の構築や機能した時期を表しているものと考えられた。

この掘方の内部には、特に下層で縦板により構成された長方形の井戸枠の存在が推測された。具体的な縦板材は、抜き取りのため判然としないが、断面などで確認できる南面・東面、平面で確認できる北面の一部（RW89）などから、概ね長辺69 cm（約2.3尺）、短辺45 cm（約1.5尺）の長方形の井戸枠と考えられた。井戸枠長辺の主軸方向は、N-34°-Wである。

縦板は、腐朽などで形態や規模が不明である。但し、一部土層断面に残り中層の堆積時も残存した縦板からは、長さ60 cm以上、幅10～15 cm、幅1～2 cmの規模が推測される。なお、井戸枠内覆土は、前述した下層17層の黒色シルトである。

遺物は、土器と共に木製品が多量に出土し、特に下層から倒壊した井戸枠の縦板材（151-13～152-2）、掘方

の下層（構築時期）から県内では特異な畜串群（131～151図）が井戸枠外の南面際などに集中して出土した。

畜串群の登録遺物は、RW68（139-13）～RW74（140-9）、RW22-1（138-1）～RW22-15（139-5）の23点で、井戸枠外の掘方下位から出土し、一部は集中した出土状況を示す。一方、この中には接合資料（RW70～73・RW22-2～7・14）もあるが、相互に接合するものはRW73の一部（140-6～8。接合資料10）に限られ、概ね製作加工直後に廃棄された可能性が窺える。

土器類では、掘方や覆土から多く出土した。器形の判断できるものは、須恵器の坏（96-7）、有台坏（96-8）、赤焼土器坏（96-10・12）、土師器坏（96-13）など少ない。井戸枠内からは、須恵器の甕（97-4・96-17）などが出土したのみである。須恵器蓋（96-4）や96-13には、「足」墨書されているのが認められる。

構築時期は、掘方の坏類の形態や「足」墨書土器の共通性から9世紀中～後葉と考えられる。一方で井戸枠の機能した時期は、須恵器甕片のみで判然としないが、9世紀後半頃であろう。

SE126（第46・47図） 1区北東部の40-14～15グリッドのⅢ層上面で検出された中形の井戸跡である。南側をSD118掘削、西側を暗渠に切られる。当初平面プランが不明瞭であったため段どりをした後、掘下げを行った。

平面は楕円形で、規模は長径3.22 m、短径2.82 mである。確認面からの深さは1.04 mである。断面形は緩やかな逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。覆土は、上層が黒褐色砂質シルト、中～下層が暗緑灰色ブロックとオリブ黒色砂質シルトブロック、炭化物の混合土を主とする5層からなる。

遺物は、登録遺物5点で、中層から須恵器坏RP19（101-1）、下層から木製品の畜串RW21（158-1）や板状の木製品RW23-1・2（157-11・12）などである。

他に101-1と同形態の須恵器坏や、赤焼土器坏が多く出土し、須恵器の大平と赤焼土器の一部の底部に「足」と墨書されたものが多く認められた。

時期は、須恵器形態や坏の底部切離しがほぼ回転系切などから、概ね9世紀中～後葉と推測される。

SE162（第47図） 1区北東部の32-05グリッドのⅢ層上面で検出された小形の井戸跡である。

平面は円形で、規模は長径1.70 m、短径1.30 mである。

確認面からの深さは0.80mである。断面形は箱形状で中央部に凹部があり、底面は緩やかに傾斜する。西側には楕円形の凹部がある。覆土は、上～中層がオリーブ褐色砂質シルト、下層が緑灰色砂質シルトを主とする。最下層の凹部は下層より混入物のない緑灰色砂質シルトである。

遺物は、赤焼土器の体部下半にケズリを行う坏片(105-8)、口縁部が屈曲し直立的に立ち上がり口唇部が突る甕(105-9)などがある。板状(159-3・7)や棒状(159-4～6)木製品が出土したが、井戸枠かは判然としない。

時期は、概ね9世紀初頭～前葉と考えられる。

土坑

2区の土坑は、西半部や東半部に単発的に確認されるが、中近世の遺物を含まない明確な古代と考えられるものは、西半部の1区に近接するSK244に限られる。

SK244 (第48図) 1区北東部の25～26-05グリッドのⅢ層上面で検出された中形の土坑である。南半部が調査区外に延びる。

平面は楕円形で、規模は長径2.34m、短径2.10mである。確認面からの深さは0.42mである。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。覆土は、上～中層が黒褐色粘質シルトと灰黄褐色粘質土の互層で、下層にぶい黄褐色砂質シルトと灰黄褐色シルトを主とする。最下層は黒褐色粘質シルトである。

遺物は、登録遺物6点で、上～中層出土の赤焼土器の甕RP109(110-4)、須恵器の有台環RP110・113(109-14)・壺RP111(109-15)がある。下層出土遺物は、須恵器環RP112(109-9)・RP117(109-10)、赤焼土器甕RP114(110-3)がある。環類の底部径が全体的に大きく古相で、9世紀前半であろう。

溝跡

2区では、小規模なものも含め中央部と西半部で2条の南北方向の溝跡を確認した。但し、主軸方向は各々やや異なる。

SD124 (第48図) 2区中央部の39～40-15～16グリッドのⅢ層上面検出の小形の溝跡である。南半をSD118や暗渠に切られ、やや弧状に東側に湾曲する。

溝跡の規模は、長軸4.68m以上、短軸0.62～1.20mである。確認面からの深さは0.07～0.30mである。断面形は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。底面は全体的に北から南に向かって標高が下がる。主軸はや

や湾曲するが、溝両端を結ぶラインは、概ねN-4°-Wである。覆土は、不明である。

遺物は、登録遺物14点で、検出面～上層出土のRP77～87、溝北端部の下位から出土のRP147～149となる。器形が分かるものは前者で須恵器環RP77(98-2)・RP83(98-6)、有台皿RP76(98-9)、蓋RP81・82(98-1)、赤焼土器環大形品のRP75(98-13)・RP78(98-16)、小形品RP80(98-14)・RP87(98-15)・RP84(99-5)などがある。後者では赤焼土器環の大形品RP147(98-17)・RP148(99-8)、小形品のRP147・149(99-3)などがある。

時期は、98-6がやや古相ながら、他の須恵器環の形態や底部切離し回転糸切で、SE126・123と同じ「足」墨書土器(98-3・2・9)の存在し、さらに赤焼土器環の増加などから、概ね9世紀中葉と推測される。

SD238 (第49図) 1区東半部の25～30-04グリッドのⅢ層上面で検出された中形の溝跡である。南北両端が調査区外に延びる。また、南端部で複数の溝跡と重複し、南北方向のSD124→SD156→東西方向のSD238の新旧関係が窺える。

溝跡の規模は、長軸2180m、短軸1.15～1.85mである。確認面からの深さは0.54～0.62mである。断面形は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。底面は全体的に北から南に向かって標高が下がる。主軸はやや湾曲するが、溝両端を結ぶラインは、概ねN-8°-Wである。覆土は、灰黄褐色シルトを主体とする4層である。

遺物は、登録遺物11点で、同一層位から出土したRP91～101・103である。

主な遺物は、須恵器の環で底部切離しヘラ切りが認められる古相のRP91(107-13)・底部切離し回転糸切のRP93(107-16)がある。赤焼土器は同一形態である環RP94(108-3)・RP97(108-1)・RP100(107-18)・RP101(108-4)・RP102(108-2)、甕類は大形品RP99(108-9)・小形品のRP102(108-7)などがある。時期は、一部古相の須恵器環も混入するが、赤焼土器環の器高低下から、9世紀末葉～10世紀初頭であろう。

柱列跡

2区北端では、南北方向に延びる柱列跡が確認された。概ね南東から北西方向に複数の小形の柱穴が直線状に並び、大きくは南北の両端は調査区外に延びる。

SA152 (第50～55図) 2区東端部の41～46-16～18グリッドのⅢ層上面で検出された。38基以上の柱穴は直線状に並び、最北端のEP1とEP38を結ぶラインの長さが20.90m以上である。なお、EP1とEP38を結ぶラインの主軸は、N-23°-Wである。

一方、柱列ラインは、精密な直線ではなく、EP1～14(第51図)、EP14～EP28(第52図)、EP29～38(第53図)の間隔でやや蛇行し、また主軸がやや東に傾くところもある。各柱穴の間隔は、一部に約30～60cmとやや幅があるところがあるもの、大半は約50cm前後で、主軸の偏りによる差異は認められない。

柱穴の形態は、柱痕跡があるものと無いものがあり、またライン毎の粗密や規則性などは判然としない。柱穴は、小形の楕円形のものも多く、径は14～54cm内外のものが大半で、確認面からの深さが4～34cmを測り、全体的に浅いものが多い。断面形は逆台形を呈し、底面は大半が平坦な柱痕跡部分が凹部になる場合もある。

覆土は大別2層で、柱痕跡が黒色シルト、掘方が黒褐色シルトに灰色シルト質砂がまだらに混入するもので、柱痕跡があれば1・2層、無い場合は2層のみである。

出土遺物はなく、時期が判然としないが、東側に近接するSB1と主軸方向が平行するようにも見えることから、概ね同時期の古代のものと捉えておく。

中近世の遺構

2区の中近世では、土坑や溝跡、畝状遺構、落込み状遺構などが確認された。分布状況としては、北端部において土坑が集中して認められるものの、他の遺構は、2区全体に単発的な分布となっている。

土坑・ピット

2区北端部を主に確認され、浅い方形の形態など類似点がある。他に小形のピット状のものもある。

SK120 (第56図) 2区北東端部の43～44-15～16グリッドのⅢ層上面で検出された大形の土坑である。近接して同形態で、主軸がほぼ同じ東西方向の小形のSK122・127がある。

平面は不整形な隅丸長方形で、規模は長径6.40m、短径2.56mである。確認面からの深さは0.28mである。断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。主軸方向は、N-62°-Eである。覆土は、SK122・127と類似するようである。

遺物は、覆土中から赤焼土器(95-19)が出土した。他に須恵器の「足」黒書のある有台杯RP16(95-17)や須恵器環の内面に漆付着のもの(95-16)、赤焼土器有台皿(95-20)などがある。

時期は、近接したSK122・127と類似した形態などから中世期が推測された。また、主軸がほぼ同一であることから前述したSK群と共に墓坑などの可能性もある。

SK127 (第56図) 2区北東端部の43-16グリッドのⅢ層上面で検出された中形の土坑である。近接して同形態の規模の異なるSK120・122などがある。

平面は隅丸長方形で、規模は長径1.56m、短径1.00mである。確認面からの深さは0.33mである。断面形は緩やかな逆台形状で、底面は平坦である。主軸方向は、N-82°-Eである。

覆土は、大別3層で、上層が黒色シルト、中～下層が黄灰色砂、最下層が黒色シルトが壁際に堆積する。地山ブロックが全体的に混入していることから、人為的堆積とも考えられる。床面には植物質(藁か)が堆積する。

遺物は、寛永通宝の古銭(126-11)が出土した。概ね近世と考えられ、近接したSK120・122と類似した時期や形態、主軸方向などに墓坑の可能性もある。

SK122 (第56図) 2区北東端部の45-15グリッドのⅢ層上面で検出された小形の土坑である。近接して同形態の規模の異なるSK120・122などがある。

平面は隅丸長方形で、規模は長径1.24m、短径0.48mである。確認面からの深さは0.20mである。断面形は緩やかな逆台形状で、底面は平坦である。主軸方向は、N-62°-Eである。覆土は、上層の灰色シルト、下層のオリブ灰色砂などに分けられる。

遺物は、RP17(96-1)の「十」黒書された須恵器有台皿があるが、遺構の時期は形態が近接したSK120・127と類似していることから、同時期の近世頃と考えられる。

SK106 (第56図) 2区中央部の39-14グリッドのⅢ層上面検出の小形の土坑である。北側を暗渠に切られる。平面は隅丸長方形で、規模は長径0.74m、短径0.70mである。確認面からの深さは0.16mである。断面形は緩やかな逆台形状で、底面平坦である。覆土は不明である。遺物は図示していないが、覆土中から近世陶磁器が出土しており、時期も同様と推測される。

SK137 (第56図) 2区北端部の45-18グリッドのⅢ

層上面で検出の小形の柱根を有するピット状を呈する。

平面は隅丸長方形で、規模は長径 0.78 m、短径 0.58 m である。確認面からの深さは 0.16 m である。断面形は緩やかな逆台形状で、底面は平坦である。覆土は、上層、柱根部が暗灰黄色シルト、柱根部の埋土が灰オリーブ色シルトである。

遺物は、図示していないが、柱根が出土した。時期は判然としなが、周辺の遺構と同じ中近世の可能性もある。

SK134 (第56図) 2区北端部の43-17グリッドのⅢ層上面で検出された小形の土坑である。

平面は円形で、規模は長径 0.62 m、短径 0.50 m である。確認面からの深さは 0.12 m である。断面形は緩やかな船底状で、底面は平坦である。覆土は、上層が黄灰色砂質シルト、下層がオリーブ灰色シルト質砂である。

遺物は、瀬戸美濃の丸皿(103-8)が出土した。時期は、概ね15世紀前半頃の所産と考えられる。

溝跡

2区の溝跡は、西端部に溝跡が2条あり、約6m前後の間隔で平行に南北に走行するが、やや南端で間隔が開く様相も窺える。

SD 2 (SD156) (第57図) 2区西端部の25～34-4～6グリッドのⅢ層上面で検出された中形の溝跡である。1区検出時はSD2、2区検出時にSD156として登録した。南北両端が調査区外に延び、南端部でSD124→SD2(SD156)→SD238の新旧関係が推測される。

溝跡の規模は、長軸 41.4 m、短軸 0.7～1.4 m である。確認面からの深さは 0.12～0.24 m である。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。底面は全体的に東から西にほぼ同じ標高である。主軸は、N-11°-W である。覆土は、大別2層で上層が黒色シルト、下層が黒褐色シルトで、一部最下層に地山様のにぶい黄褐色シルトを含む。

遺物は、覆土中などから中世と古代の遺物が出土し、RP 1・104・105・108 を登録した。具体的には、中世の白磁皿(61-16)、古代の古相を示す須恵器の杯(61-17)、有台形で体部を円形に打ち欠いた RP 1(61-24)、赤焼土器の口縁部やや外反する杯 RP104(61-25)などが出土した。時期は、白磁が出土したことから中世としたが、古代に属する土器の多さや完形の61-24などの出土状況からは、古代から溝として機能していた可能性も窺

る。

SD159 (第57図) 2区西端部の29～36-09グリッドのⅢ層上面で検出された中形の溝跡である。南北両端が調査区外に延び、南端部で落込み状のSX1を切る。

溝跡の規模は、長軸 23 m、短軸 0.8～1.2 m である。確認面からの深さは 0.18～0.22 m である。断面形は緩やかな舟底状を呈し、底面は平坦である。底面は全体的に東から西にほぼ同じ標高である。主軸は、N-2°-W である。覆土は、大別3層で上層が黒褐色シルト、中層が黒色シルト、下層がにぶい黄褐色粘質シルトで、ややSD2の覆土とも類似する。

主な遺物は、図示していないが、近世の肥前磁器片が出土した。他は古代の土器片で、RP登録した須恵器製のRP124(105-7)などが少量ある。SD159と西側に南北に並走するSD2(北側でSD156)は、中近世の遺物が僅かに出土し、その時期を充てる。一方で古代の土器が多く出土しており、溝跡の埋没は近世まで下がる、溝として機能した時期は古代まで遡る可能性もある。

畝状遺構

2区の北端部で、数条の小溝が同一方向に等間隔で並ぶことが確認され、畝状溝跡群とした。

SD119・138・139・140 (第57図) 2区北端部の41～42-13～14グリッドのⅢ層上面で検出された小形の同一方向に並走する溝跡群である。一部SD138・139が北側で調査区外に延びる。近接する同一方向のSD145も同じ性格を有する可能性がある。

溝跡の規模は、全体に長軸 1.94～5.40 m 以上、短軸 0.24～0.40 m が主体である。確認面からの深さは 0.04～0.08 m である。断面形は緩やかな舟底形を呈し、底面は平坦である。主軸は、溝によってやや異なるが N-45°～57°-W と、約 50°前後西に傾く。覆土は不明である。

遺物は、SD119から15世紀代の青磁碗(95-10)、瀬戸美濃の大窯編年第4段階の折縁皿(95-9)といった中世の遺物が出土した。また古代の須恵器杯の高台片なども出土した。時期は、出土した遺物から中世後半の15～16世紀末が比定され、並行する他の溝跡群も同様の時期であろう。

落込み状遺構

2区では西端部の南(SX1)・北(SX53)で2ヶ所の浅い落込みが確認された。北側のSX53は一定の掘り

込みがあり、長大な土坑の可能性もある。しかし、両者とも浅く不整形な形態から、本報告では落込み状遺構とした。

SX 1 (第 58 図) 2 区西端部の 29 ～ 30・8 ～ 9 グリッドのⅢ層上面検出の大形の浅い落込み状遺構である。SD159・暗渠に切れ、南側と東側が調査区外に延びる。

本遺構は、検出時から散発的に遺物 (RP123) が出土し、平面形が大形の円形プランを検討していた。一方で精査の結果、包含層との区別が困難であり、平面が不整形で南側に傾斜する底面のあり方から落込み状遺構と判断した。

規模は南北 4.68 m 以上、東西 8.04 m 以上である。確認面からの深さは 0.40 m である。断面形は非常に緩やかな舟底形で、底面はほぼ平坦である。南に向かい緩やかに標高が低く傾斜し落ち込む。覆土は不明である。

遺物は、近世と古代のものがあり、特に古代の土器が多い。近世初頭は、九州陶磁編年 I 期の肥前陶器類 (61-1) がある。古代の遺物は、古相の須恵器の坏 (61-4・6・7)、壺 (61-9)、蓋 (61-3)、赤焼土器甕 (61-10・11) がある。

SX 1 は、2 区南端に位置し不整形な平面で、第 1 次調査の調査区南端でも確認された、土器集中地点と同じ

包含層的な落込み状遺構の可能性が考えられる。時期は、近世遺物の周辺からの混入や流れ込みの可能性もあるが、古代を主体とし、近世までの時期幅を推測しておく。

SX155 (第 59 図) 2 区西端部の 32 ～ 34・4 ～ 6 グリッドのⅢ層上面で検出の大形の浅い落込み状遺構である。SE162 を切り、北側が調査区外に延びる。また、西接して SX154 とした溝状遺構があり、SX155 を中間に挟み、南北の SD156 と同一方向に走行し、関連も窺える。

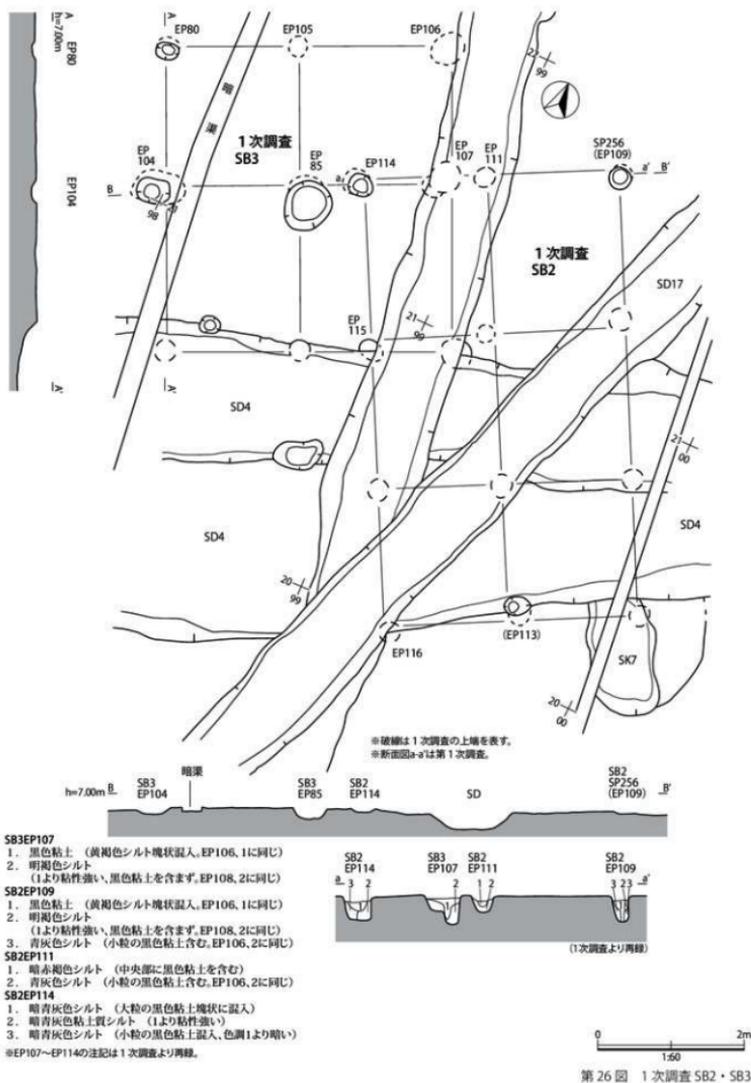
平面形は、不整な楕円形で、規模は南北 5.60 m 以上、東西 6.60 m 以上である。確認面からの深さは 2.20 m である。断面形は緩やかな舟底形で、底面は平坦である。覆土は、不明である。

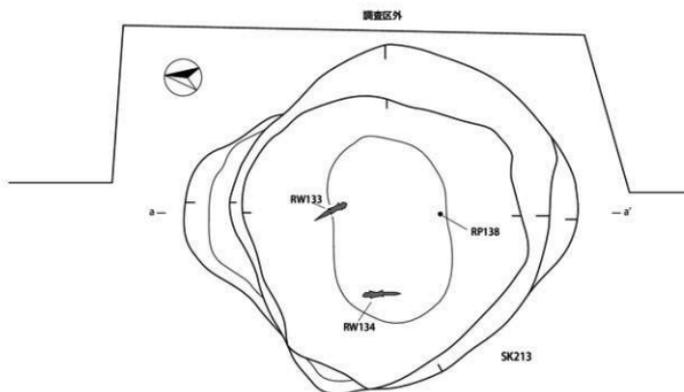
遺物は、中世と古代のものがあり、特に古代が多い。登録遺物は 3 点で、下層～床面で RP118 ～ 120 である。

中世の遺物は、珠洲の 15 世紀代の播鉢 (104-1) が出土し、図示していないが他の陶磁器片も出土する。古代の遺物は、RP 登録した古相の須恵器の坏 RP118 (104-5)、甕 RP119 (105-1)、RP120 (104-2) があり、他に出土した須恵器坏類には、底部切離しがヘラ切りから回転糸切まで認められることから、時期幅が推測される。本遺構の時期は、古代を主体とし、中近世までと捉える。

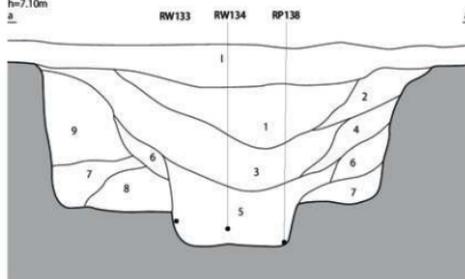
表 2 1 次と 3 次の整合表

1次調査時の 遺構番号	3次調査時の 遺構番号	備考	1次調査時の 遺構番号	3次調査時の 遺構番号	備考
SK5	→ SK11	3次SK50とSK11同一遺構か	EP73	→ SP263	
SK7	→ SK7		EP80	→ 未登録 SP	
SK8	→ SD18		EP81	→ 未登録 SP	
SD50	→ SD18		EP82	→ 未登録 SP	
SD51, SD92	→ SD4		EP85	→ 未登録 SP	
EP55	→ SP261		SE93	→ SE55	
EP56	→ 未登録		EP96	→ SP204	重複なし
SK58	→ SP249		EP96	→ SP253	
SK59	→ SP209		EP109	→ SP256	
EP60	→ SP208		EP112	→ SP266	所在不明
EP61	→ SP207		EP114	→ SP250	
SK62	→ SP211		未登録 SP	→ SK8	
SK65	→ SK98		未登録 SD	→ SD206, SD257	
SD69	→ SD89	1次SD64	未登録	→ SK97	
EP70, EP71	→ SD82 内 SP				





SK213
h=7.10m
a

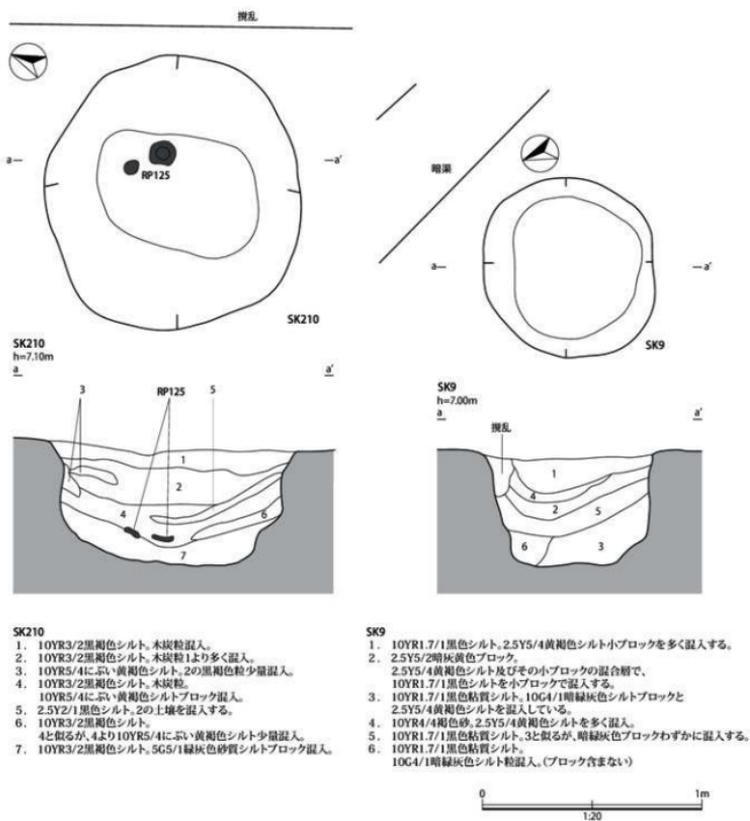


SK213

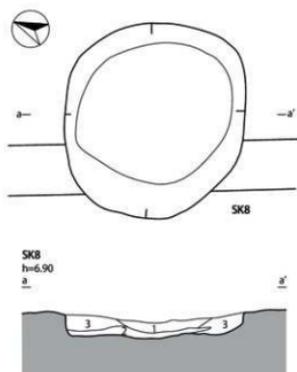
1. 2.5Y2/1黒色シルト。
2. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/4に赤い黄褐色砂質シルト多く混入。軟弱である。
3. 10YR3/2黒褐色シルト。しりりあり。炭化物粒混入。10YR5/4に赤い黄褐色粒少量混入。
4. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/4に赤い黄褐色シルト粒ブロック多量に混入。
5. 10G3/1暗緑灰色砂質シルト混入。
6. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/4に赤い黄褐色シルト多く混入。4と似るが、ブロックの形が違う。
7. 5G5/1緑灰色砂質シルト、10G3/1暗緑灰色砂質シルトわずかに混入。
8. 10G3/1暗緑灰色砂質シルト、5G5/1緑灰色砂質シルトわずかに混入。5より少ない。
9. 10YR5/4に赤い黄褐色シルト、10YR3/2黒褐色シルトをわずかに混入する所もあり。



第27図 SK213

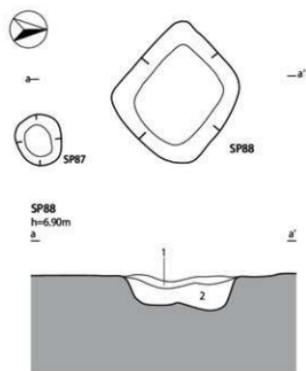
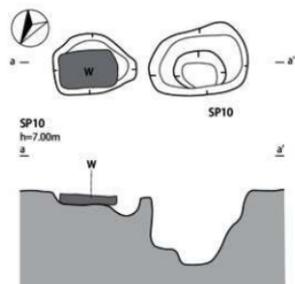


第 28 図 SK210・SK9



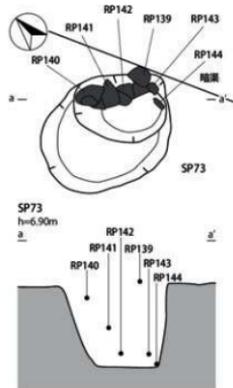
SK8

- 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物と10YR5/4にふい、黄褐色ブロックを少量混入。
- 10YR3/2黒褐色シルト、2.5Y2/1黒色シルト、10YR5/4にふい、黄褐色シルト(地山)を多量に混入。
- 10YR3/2黒褐色シルト、2.5Y2/1黒色シルト少量混入。



SP88

- 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物少量混入。
30°10YR5/4にふい、黄褐色シルト粒少量混入。
- 2.5Y2/1黒色シルト。炭化物混入。
10YR5/4にふい、黄褐色シルト粒を少量混入。

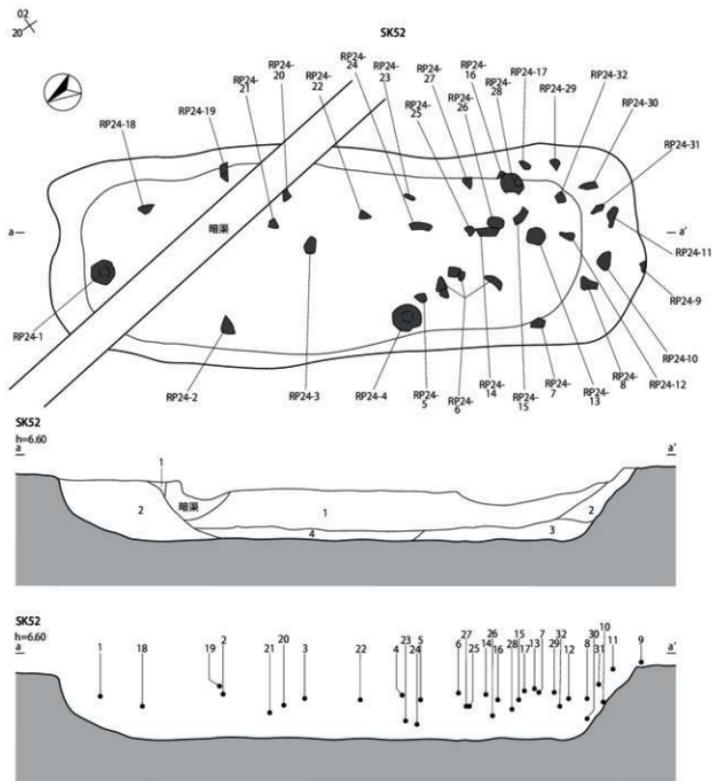


SP73

h=6.90m

0 50cm
1:100 1m
(SK8-SP10-88)
1:20

第29図 SK8・SP10・SP73・SP88



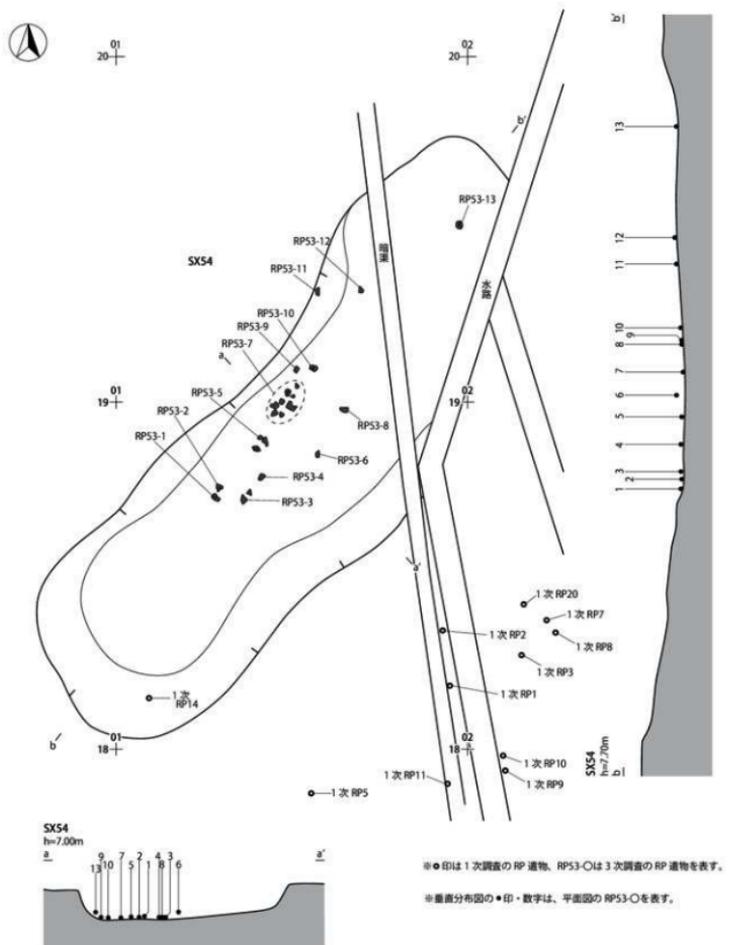
※遺構分布図の●印・数字は、平面図のRP24-○を表す。

SK52

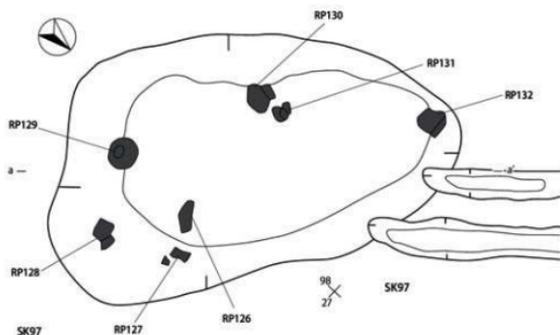
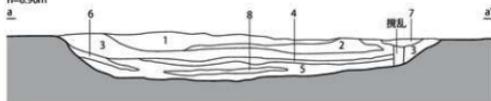
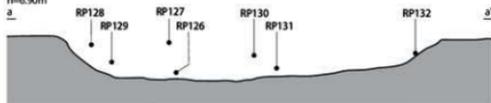
1. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに2.5Y5/1黄灰色砂がまだら状に、7.5Y5/1灰色シルト質砂が粒状に混入。炭化物、土器片を含む。粘性中、しまり中。
2. 7.5Y5/2灰オリブ色シルトに7.5Y5/2灰オリブ色砂がまだら状に多量に混入。粘性弱、しまり中。
3. 5Y3/1オリブ黒色シルトに7.5Y4/1灰色シルトと7.5Y4/1灰色砂がブロック状に多量に混入。粘性弱、しまり中。
4. 7.5Y3/1オリブ黒色シルトに2.5GY4/1暗オリブ灰色シルトがブロック状に少量混入。炭化物を含む。粘性中、しまり中。



第30図 SK52

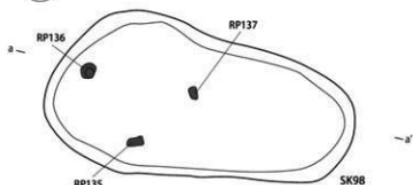
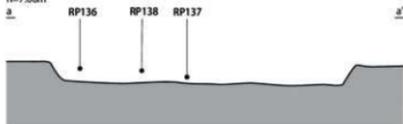


第31図 SX54

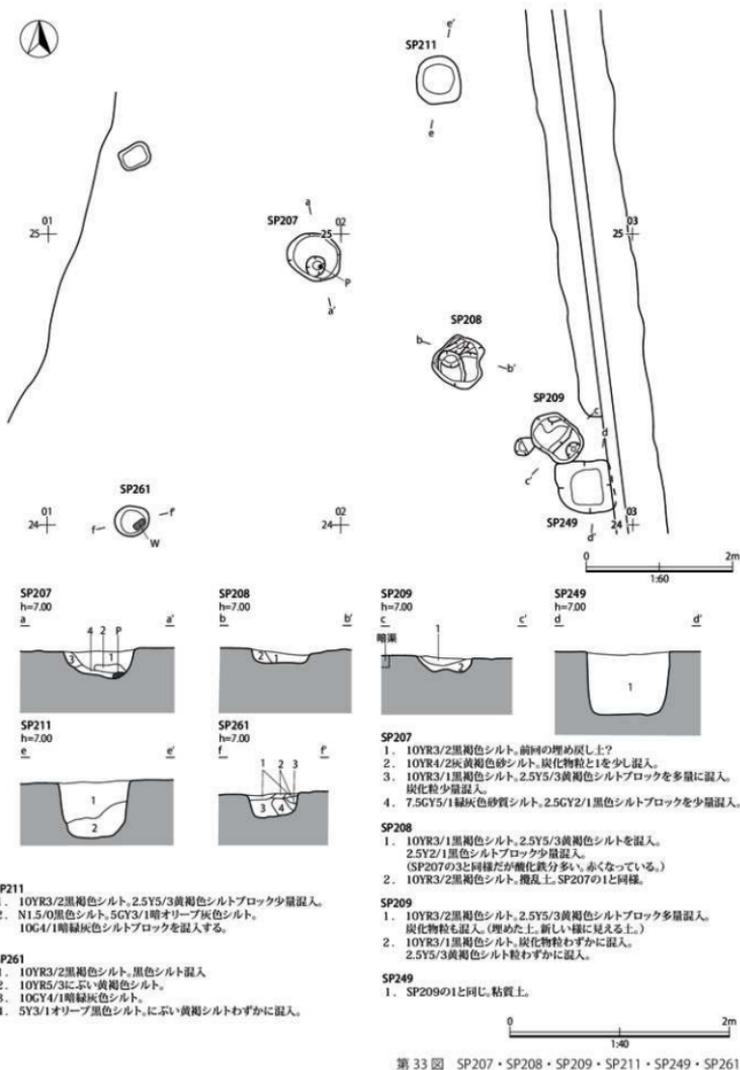
SK97
h=6.90mSK97
h=6.90m

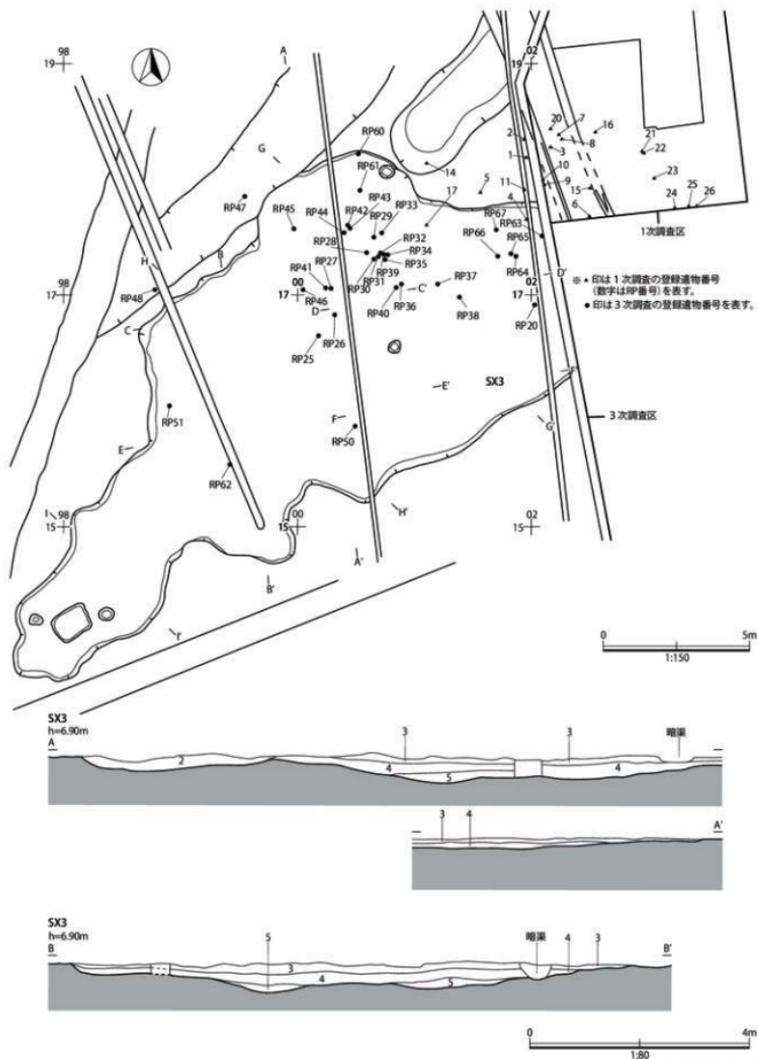
SK97

1. 1OYR3/1黒褐色シルト、炭化物粒多く混入。
2. 1OYR3/1黒褐色シルト。
3. 1OYR5/3に多い黄褐色粘質土ブロック多量混入。(地山)
3. 1OY2/1黒色シルト、炭化物多量に混入。
4. 1OYR5/3に多い黄褐色粘質土粒混入。
4. 1OYR3/1黒褐色砂質シルト。
5. 1OYR5/3に多い黄褐色粘質土粒少量混入。
5. N1.5/0黒色シルト。
- 3に似るが、に多い黄褐色粘質土粒少ない部分多い。
6. N1.5/0黒色シルト、灰多量に混入(N5/0灰色)。(灰層?)
7. 1OYR5/3に多い黄褐色粘質土。(地山土?)
8. 1OYR5/3に多い黄褐色砂質シルト、炭化物少量混入。

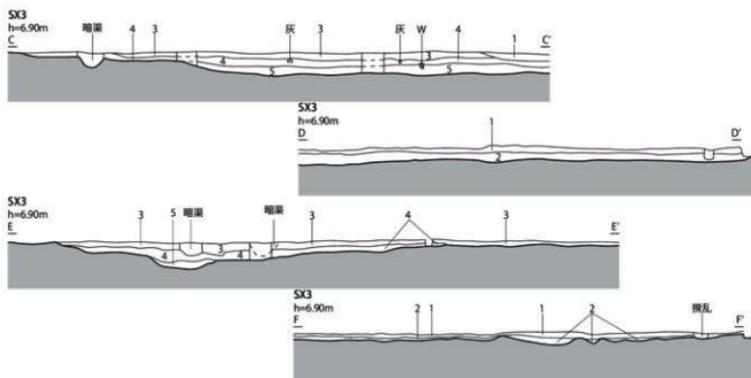
SK98
h=7.00m

第 32 図 SK97・SK98





第34図 SX3 (1)



SX3 (A-A'~C-C', E-E')

- 2.5Y3/2黒褐色砂質シルトに2.5Y5/6黄褐色シルトを粘状に含む。粘性中、しまり中。(2次調査時の埋土か)
- 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト。粘性中、しまり中。SD1位の埋土
- 10YR2/1黒色シルト。粘性中、しまり中。下位は不整合。平面プランは直径10cm程度の円形の落ち込みが多数分布する。
- 10YR5/3に赤い黄褐色粘質シルト。粘性強、しまり中。火山灰?が5mm程度の帯状に混入する。ひび割れへの2次堆積か。
- 7.5YR4/2灰褐色粘質シルトに7.5YR2/2黒褐色シルトがまだら状に多量に混入。未分解の木片を多量に含む。粘性中、しまり弱。部分的に2.5Y5/4黄褐色粗砂をまだらに含む。

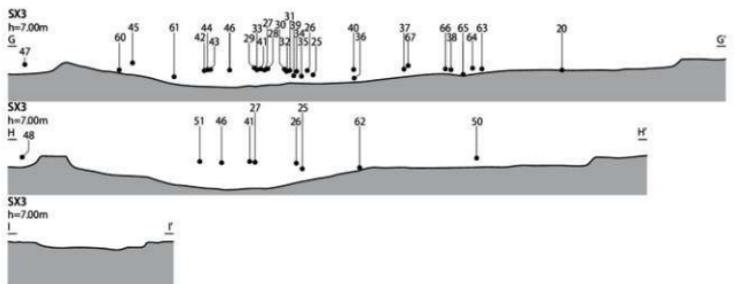
SX3東西ベクト① (D-D')

- 2.5Y4/4オレンジ褐色シルト質砂に2.5Y2/1黒色シルトがまだら状に多量に混入。粘性中、しまり中。
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルトに2.5Y7/2灰黄色火山灰が帯状に混入。粘性強、しまり中。

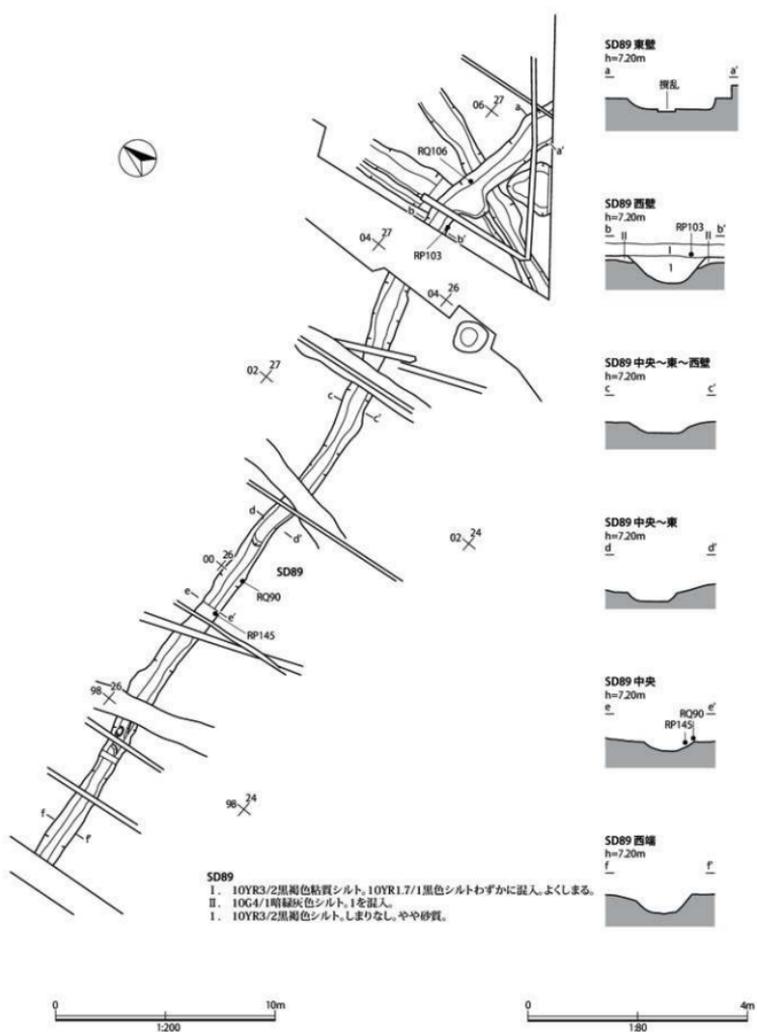
SX3東西ベクト② (F-F')

- 2.5Y4/4オレンジ褐色シルト質砂に2.5Y2/1黒色シルトがまだら状に多量に混入。粘性中、しまり中。
- 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルトに2.5Y7/2灰黄色火山灰が帯状に混入。粘性強、しまり中。(ベクト①の2と同じだが、やや砂が多い。)

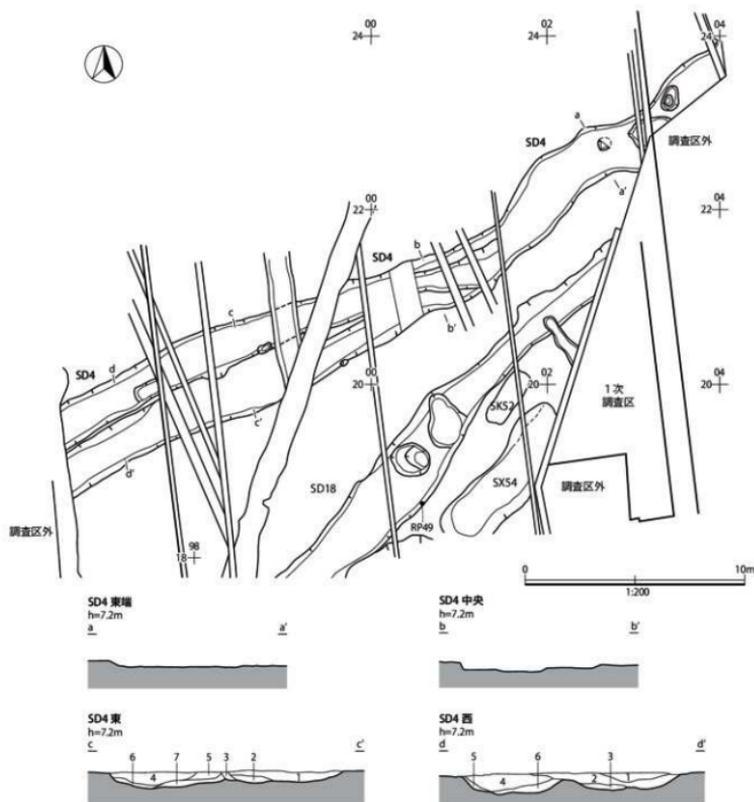
※断面分布図の●印・数字は、平面図3次調査のPP番号を表す。



第35図 SX3 (2)



第 36 図 SD89



SD4 東端

h=7.2m

a



SD4 東

h=7.2m

c



SD4 中央

h=7.2m

b



SD4 西

h=7.2m

d



SD4東

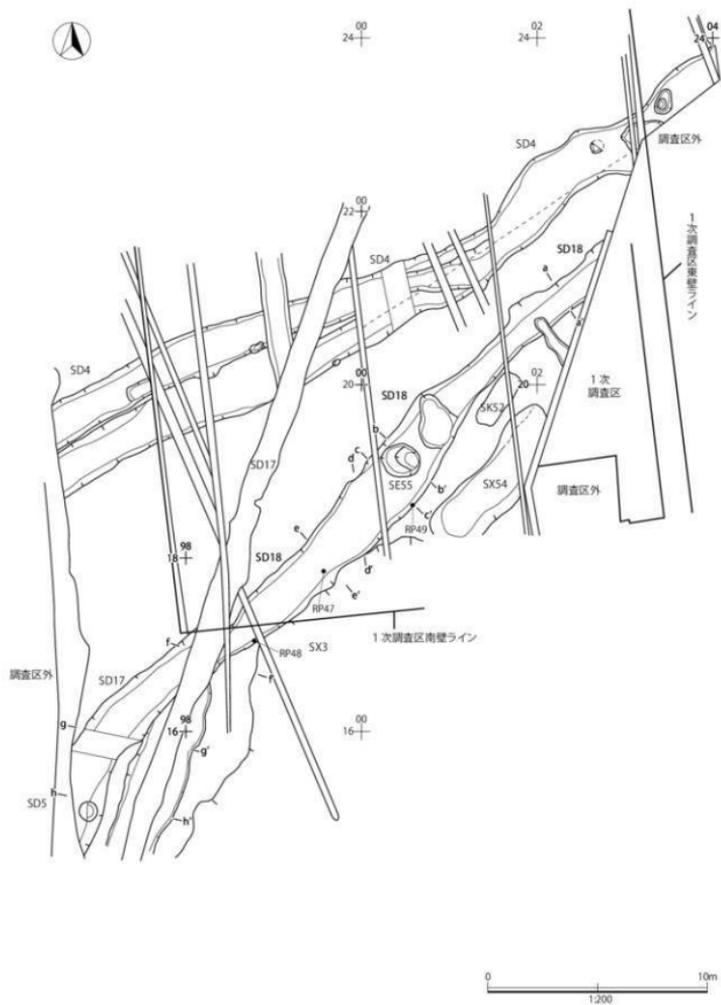
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに2.5Y4/4オリーブ褐色砂が粒状に少量混入。炭化物を含む。粘性弱。しまり中。
- 2.5Y5/4黄褐色砂に2.5Y4/2暗灰黄色シルトがブロック状に多量に混入。粘性中。しまり中。
- 2.5Y4/2暗灰黄色シルト。粘性中。しまり中。
- 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト。粘性中。しまり中。
- 2.5Y3/2黒褐色砂質シルトに2.5Y4/4オリーブ褐色砂が粒状に少量混入。粘性中。しまり中。
- 2.5Y4/1黄灰色シルトに2.5Y4/4オリーブ褐色砂が粒状に粘性強。しまり中。
- 2.5Y3/2黒褐色シルトに2.5Y4/4オリーブ褐色砂がブロック状に多量に混入。粘性中。しまり中。

SD4西

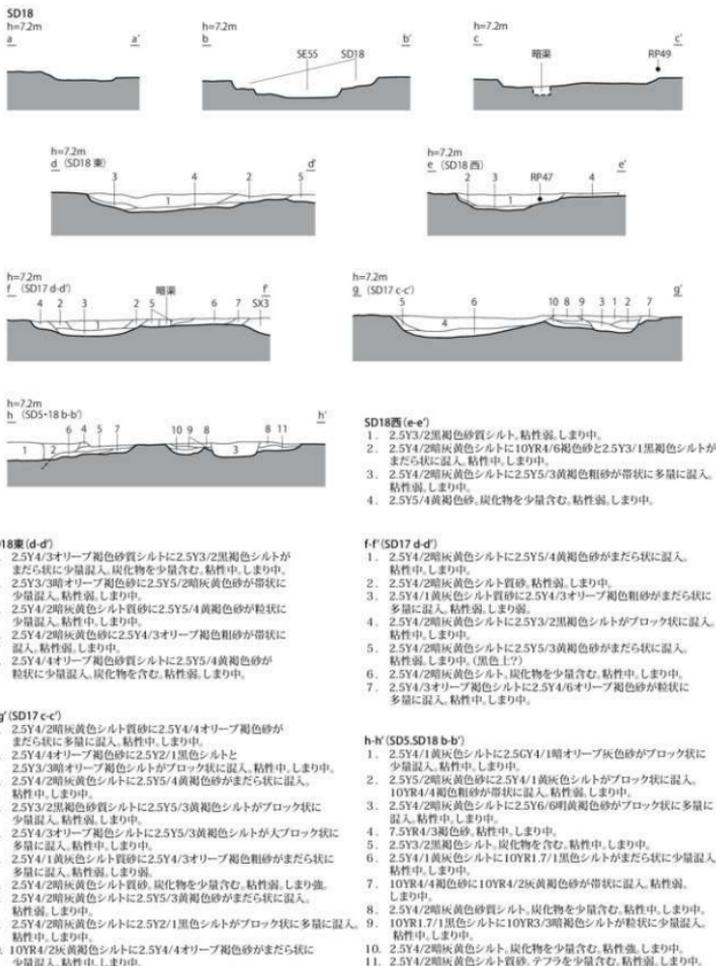
- 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト。炭化物を少量に含む。粘性弱。しまり中。
- 2.5Y4/1黄灰色シルトに2.5Y6/3にふい黄色砂が帯状に少量混入。炭化物を少量含む。粘性弱。しまり強。
- 2.5Y4/2暗灰黄色シルト。粘性中。しまり中。
- 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト。粘性中。しまり中。
- 2.5Y4/2暗灰黄色シルトに2.5Y2/1黒色シルトがまだら状に多量に混入。粘性強。しまり強。
- 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂に2.5Y5/4黄褐色砂がまだら状に多量に混入。粘性弱。しまり中。



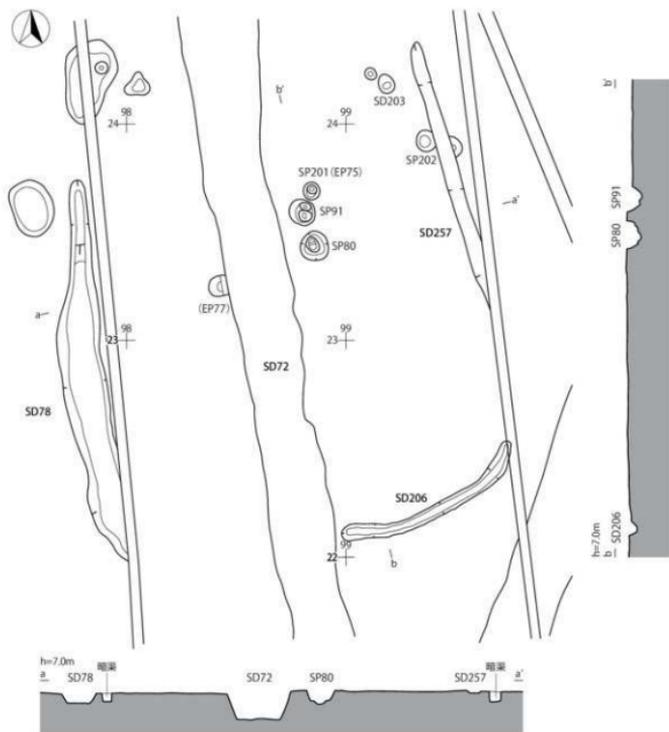
第 37 図 SD4



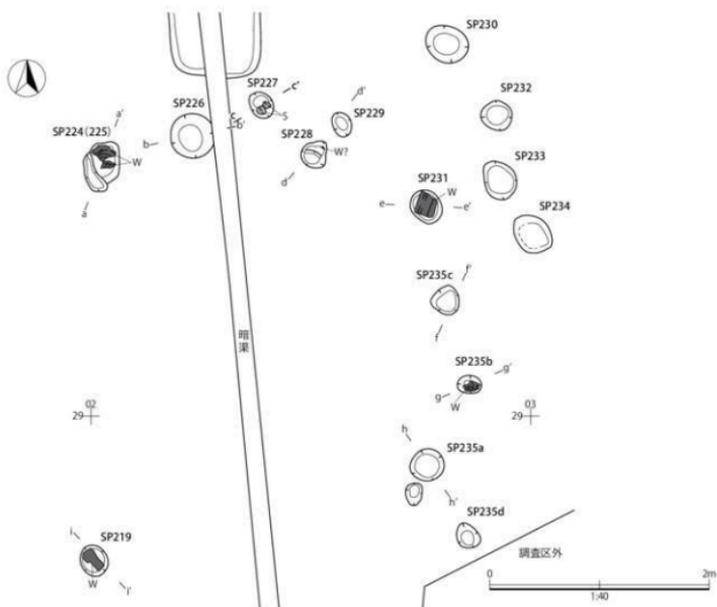
第38図 SD18 (1)



第 39 図 SD18 (2)



第40図 SD78・SD206・SD257



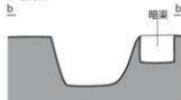
SP224 (225)

h=6.90m



SP226

h=6.90m



SP227

h=6.90m



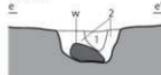
SP228-SP229

h=6.90m



SP231

h=6.90m



SP235c

h=6.90m



SP235b

h=6.90m



SP235a

h=6.90m



SP219

h=6.90m

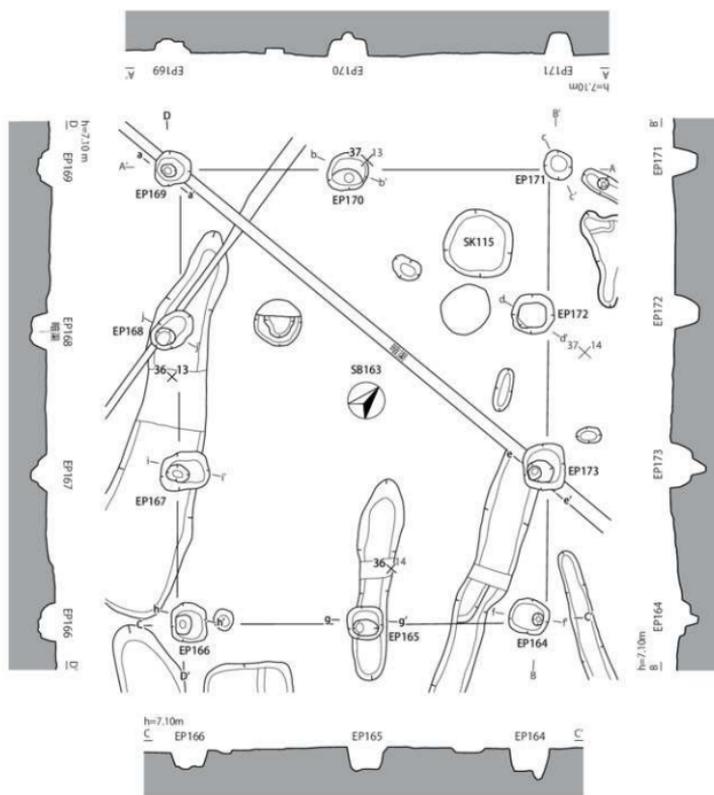


SP231

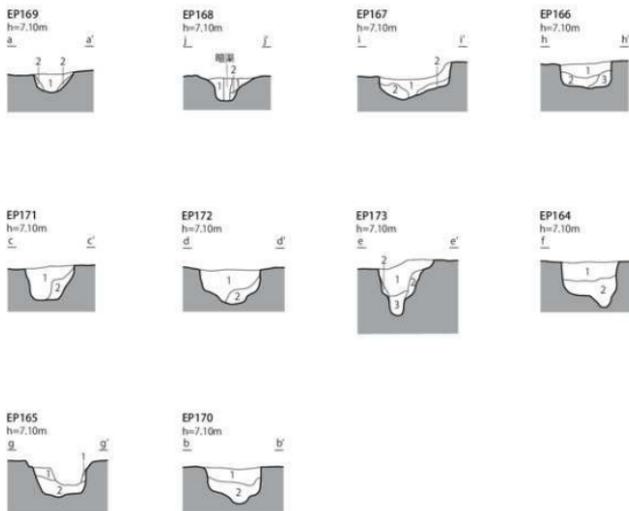
1. 10YR1.7/1黒色シルト。
2. 10YR3/2黒褐色シルト、炭化物粒、2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒混入。



第 41 図 SP219・SP224 (225)・SP226・SP227・SP228・SP229・SP231・SP235a～c



第42図 SB163 (1)



EP164

- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y4/2暗灰黄色土が多量に混入。粘性中、しまり弱。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに炭化物が少量混入。粘性中、しまり弱。

EP165

- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y4/2暗灰黄色土が多量に混入。粘性中、しまり弱。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト。粘性中、しまり弱。

EP166

- 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルトに炭化物が少量混入(3より多い)。粘性中、しまり弱。
- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y4/2暗灰黄色土が多量に混入。粘性中、しまり弱。EP164の1と同じ。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに炭化物が少量混入。粘性中、しまり弱。EP164の2と同じ。

EP167

- 2.5GY3/3暗オリーブ褐色砂質シルト。粘性中、しまり弱。
- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y3/1黒褐色砂質シルトがまだらに混入。粘性中、しまり弱。

EP168

- 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトに2.5Y3/1黒褐色砂質シルトが少量混入。粘性強、しまり弱。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト。粘性強、しまり弱。

EP169

- 2.5Y5/4黄褐色砂質シルトに2.5Y3/2黒褐色砂質シルトが多量に混入。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト。粘性中、しまり弱。

EP170

- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに炭化物が少量混入。粘性中、しまり弱。
- 2.5GY3/1暗オリーブ灰色砂質シルト。粘性強、しまり弱。

EP171

- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y4/2暗灰黄色土が多量に混入。粘性中、しまり弱。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに炭化物が少量混入。粘性中、しまり弱。

EP172

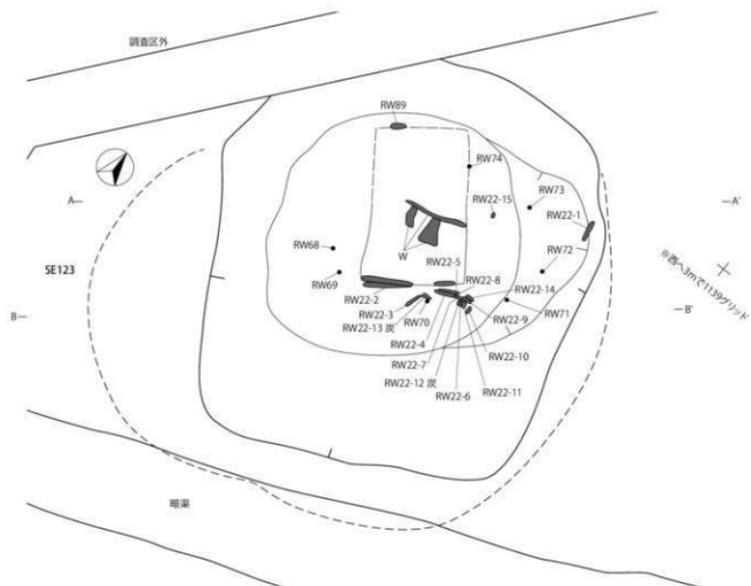
- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y4/2暗灰黄色土が多量に混入。粘性中、しまり弱。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに炭化物が少量混入。粘性中、しまり弱。

EP173

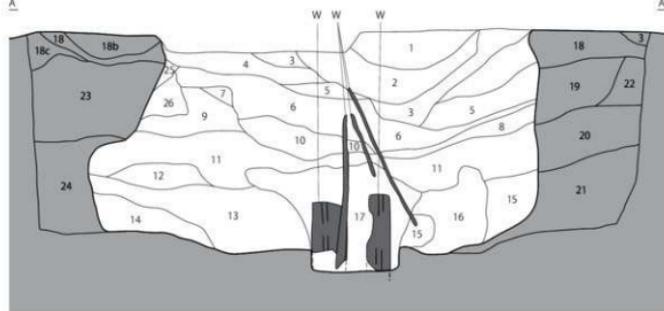
- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルトに2.5Y4/2暗灰黄色土が多量に混入。粘性中、しまり弱。
- 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルト。粘性中、しまり弱。
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトに炭化物が少量混入。粘性中、しまり弱。



第43図 SB163 (2)



SE123
1m=7.10m
A



0 1:20 1m

第 44 図 SE123 (1)

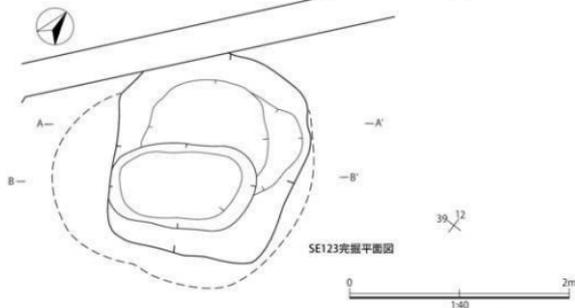
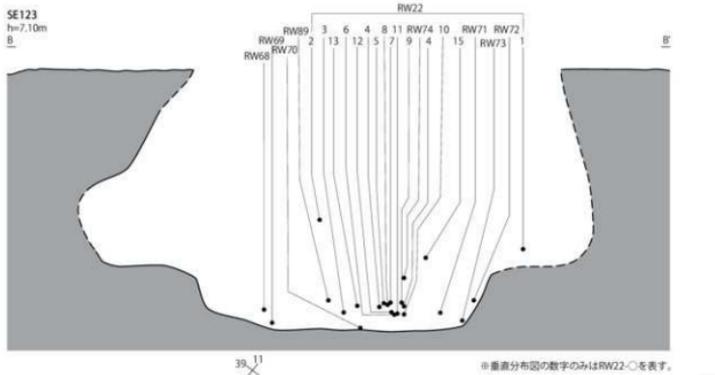
SE123

1. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土、炭化物粒を少量混入。
2. 10YR3/1黒褐色粘土、炭化物粒を少量混入。
3. 10YR4/1緑灰色砂質シルト、炭化物を少量混入。
4. 10YR3/2黒褐色砂質シルト。
5. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト及び同ブロックを混入する。
6. 10YR3/2黒褐色砂質シルト。
7. 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト。
8. 10YR5/3にふい黄褐色砂質シルトのブロックを混入しない。
9. 10YR5/3にふい黄褐色砂質シルト。
10. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土を混入。
11. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土。
12. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土。
13. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土。
14. 10G5/1緑灰色砂質シルト、砂質強い。
15. 10G5/1緑灰色砂質シルト、5Y2/1黒色砂質シルトの小ブロック(1cm以下)を混入。木片様の植物質等混入。
16. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトと10G5/1緑灰色シルトの混合層。
17. 5Y2/1黒色シルト、10G5/1緑灰色砂質シルトブロックを少量混入。
18. 10YR5/3にふい黄褐色砂質シルト。
- 18b. 10YR5/3にふい黄褐色砂質シルト。
- 18c. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土を混入。
- 18d. 10YR5/3にふい黄褐色粘質土。
19. 10G5/1緑灰色砂質シルト。
20. 5Y2/1黒色シルトブロック(6cm×0.5cm)を少量混入。
21. 10G5/1緑灰色砂質シルト、5Y2/1黒色シルトをわずかに混入。
22. 5Y4/2灰オリーブ色砂を多量に混入。
23. 10G5/1緑灰色砂質シルト、木質物等をやや多く混入。
24. 10G5/1緑灰色砂質シルト。
25. 19と似たところあるが5Y2/1黒色シルトブロックをわずかに混入。
26. 10G5/1緑灰色砂質シルト、20-21と似たが混入物全く見られない。
27. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト、6と同様だが炭化物やや少ない。
28. 10G5/1緑灰色砂質シルト、9と同様だが9よりも7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトの小ブロックを少量混入する。

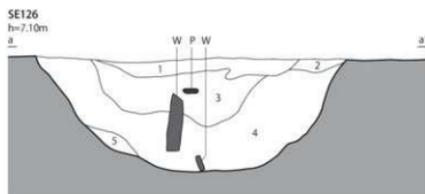
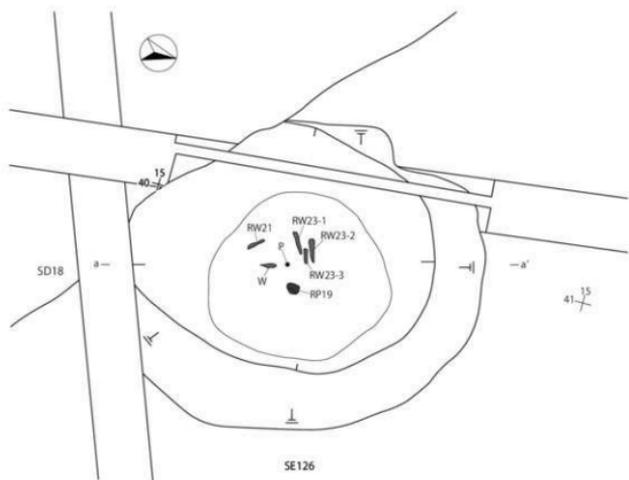
SE123

h=7.10m

B



第45図 SE123 (2)

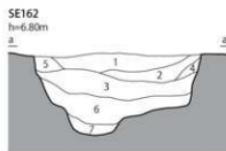
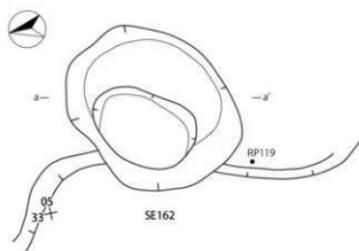
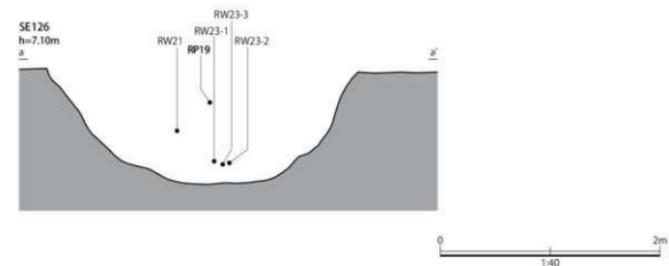


SE126

1. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト、炭化物ブロック、同粒を多量に混入。
7.5Y1/4灰色シルトブロックを多量に混入。土器片を混入。
2. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト、7.5Y1/4灰色シルトブロックと2.5Y4/2暗灰黄色シルトブロックを多量に混入。
炭化物をわずかに混入。
3. 10GY4/1暗緑灰色シルトブロックと10Y3/1オリーブ黒色砂質シルトブロック、炭化物の混合層。
土器・木製品を混入する。
4. 10GY4/1暗緑灰色シルトブロックと10Y3/1オリーブ黒色砂質シルトブロック、炭化物の混合層。
3と少し異なるが3と比べ、10Y3/1オリーブ黒色砂質シルトが少なく10GY4/1暗緑灰色シルトブロックが多い。
炭化物も3に比べ少ない。土器・木製品を混入する。
5. 10GY4/1暗緑灰色シルトブロックと10Y3/1オリーブ黒色砂質シルトブロック、炭化物の混合層。
4と異なるが、オリーブ黒色砂質シルトをわずかに含む。



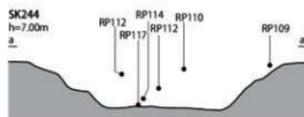
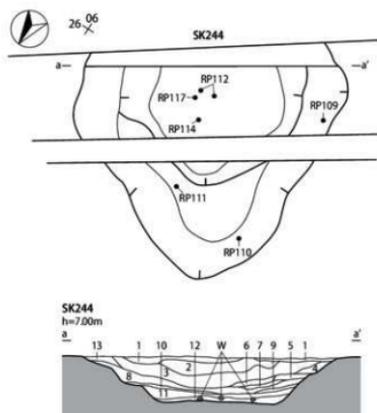
第 46 図 SE126 (1)



SE162

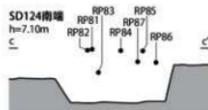
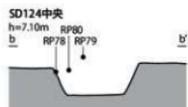
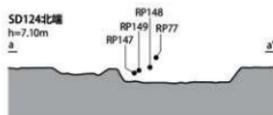
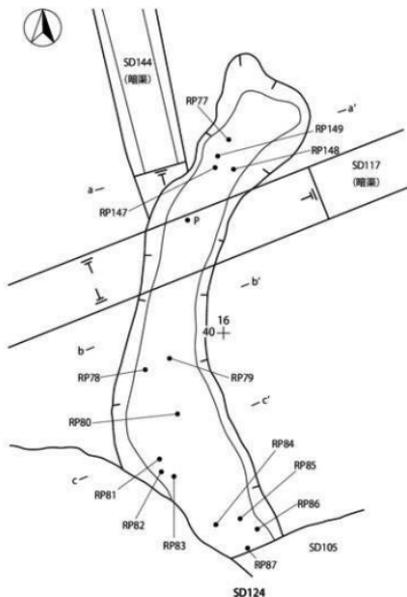
- 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト、炭化粒、5G5/1緑灰色シルトブロック多量に混入。
- 10G3/1暗緑灰色砂質シルト、5G5/1緑灰色シルト、2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを多量に混入、炭化物も混入する。
- 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト、2の10G3/1暗緑灰色砂質シルトと木質物多量に混入、5G5/1緑灰色シルトブロックを少量混入。
- 5G5/1緑灰色砂質シルト、2の10G3/1暗緑灰色砂質シルトを少量混入。
- 5G5/1緑灰色砂質シルト、4と似るが、2の10G3/1暗緑灰色砂質シルト混入、4より少ない。
- 5G5/1緑灰色砂質シルト、10G3/1暗緑灰色砂質シルト多量に混入、木など混入。
- 5G5/1緑灰色砂質シルト、混入物なし。

第 47 図 SE126 (2)・SE162

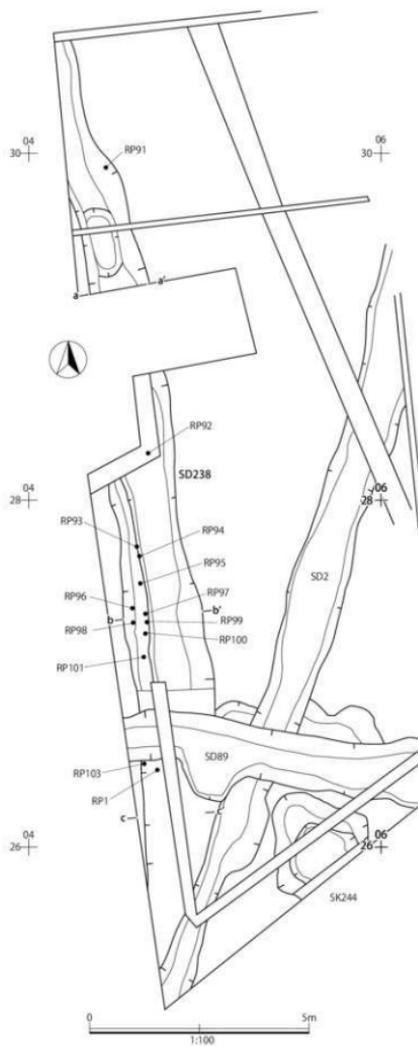
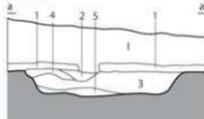


SK244

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト。
2. 10YR4/2灰黄褐色粘質土。
3. 10YR3/1黒褐色シルト。炭化物多量に混入。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂。地1に似る。
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂。
6. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト。炭化物、白色土粒混入。
7. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト。炭化物多量に混入。
(白色土粒なし)
8. 10YR4/3にぶい黄褐色砂。4と似るが、炭化物少量混入。
9. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト。
1&8と似るが、8より炭化物多い。
10. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト。炭化物層が混入する。
11. 10YR4/2灰黄褐色シルト。炭化物粒わずかに混入。
12. 10YR3/2黒褐色粘質シルト。炭化物粒わずかに混入。
13. 10YR3/1黒褐色砂質シルト。炭化物粒わずかに混入。



第 48 図 SK244・SD124

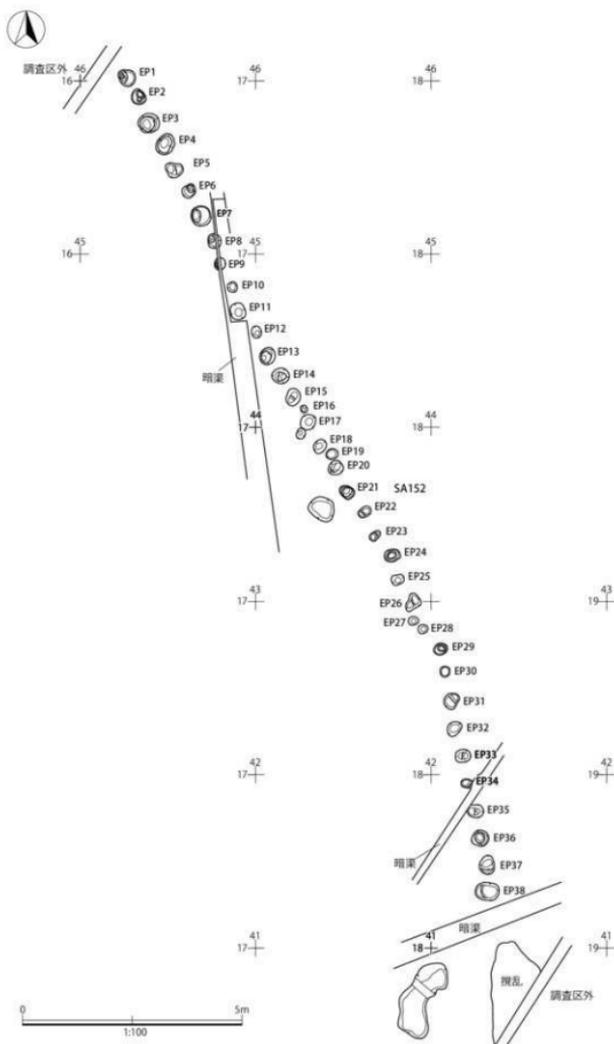
SD238北
h=7.40m

SD238

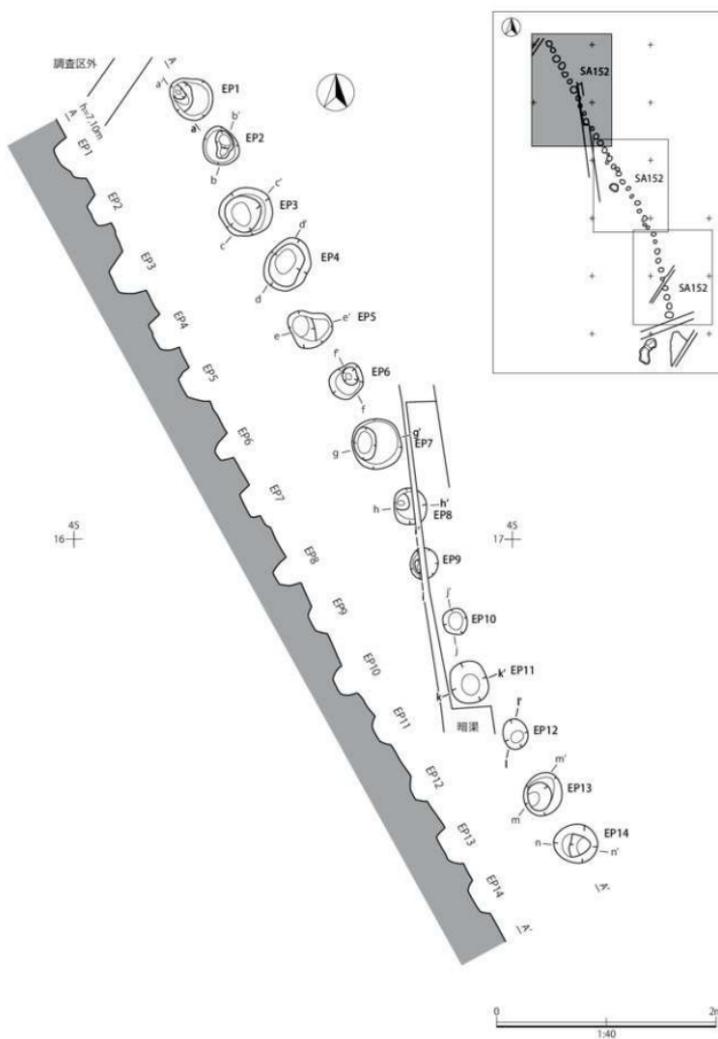
1. 10YR3/2黒褐色シルト、増見上とみられる。
10YR5/4にふい黄褐色シルトブロック多量に混入。
2. N1.5/0黒色シルト、3と炭化粒、白色粒を混入する。
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト。
10YR2/1黒色シルト小ブロック少量混入。
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト、3と取るが、3より
10YR2/1黒色シルトをやや多く混入している。
5. 10YR4/3にふい黄褐色砂質シルト、3と取る砂質。
10YR2/1黒色シルトブロックわずかに混入。

SD238中央
h=7.40mSD238南
h=7.40m

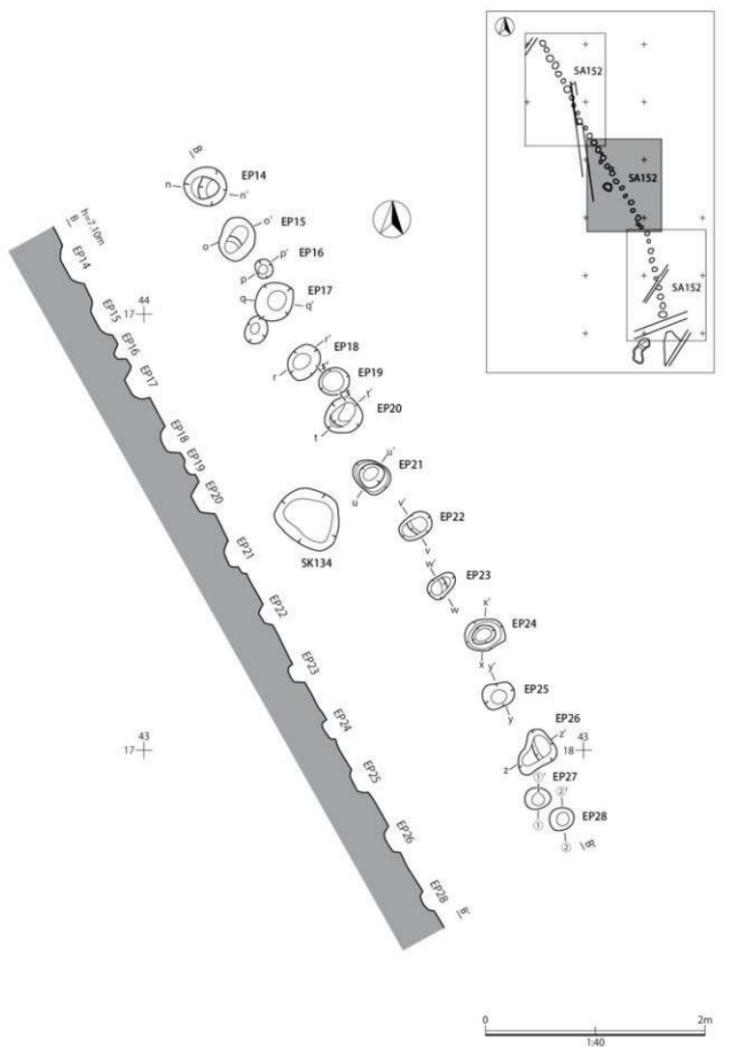
第49図 SD238



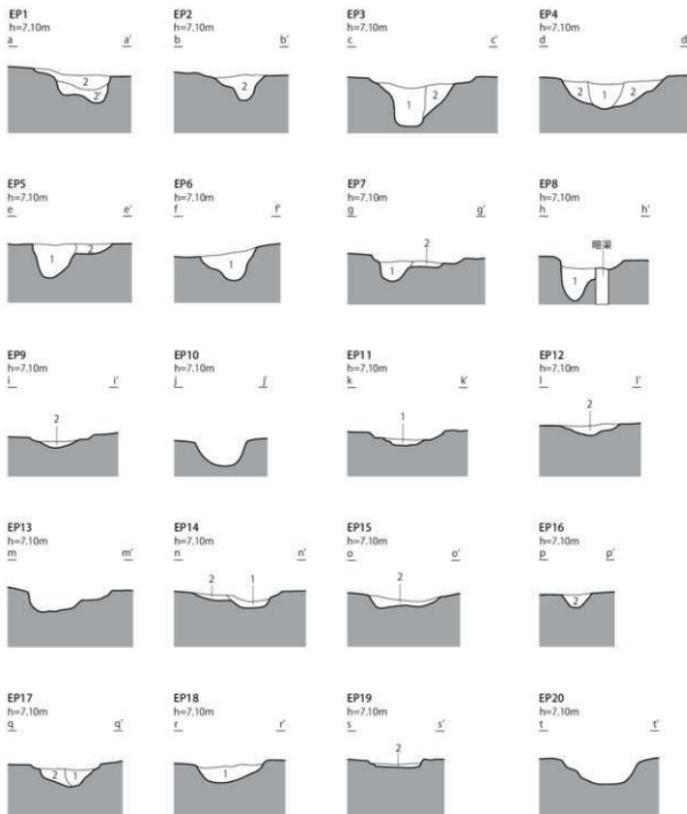
第50図 SA152 (1)



第51圖 SA152 (2)



第52図 SA152 (3)

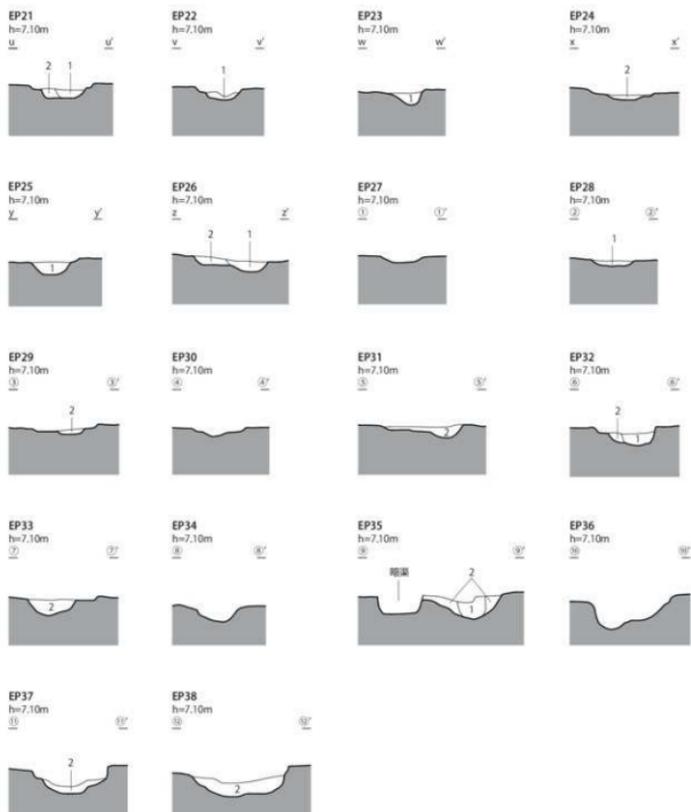


SA152-EP1~20

1. 2.5Y2/1黒色シルトに10YR1.7/1黒色シルトがまだら状に混入、粘性中、しまり中、アタリ。
2. 2.5Y3/2黒褐色シルトに10Y4/1灰色シルト質砂がまだら状に混入、粘性中、しまり中、振り方。
- 2'. 2.5Y3/2黒褐色シルトに10Y4/1灰色シルト質砂がまだら状に混入、粘性中、しまり中、1より10Y4/1が多い。



第54図 SA152 (5)

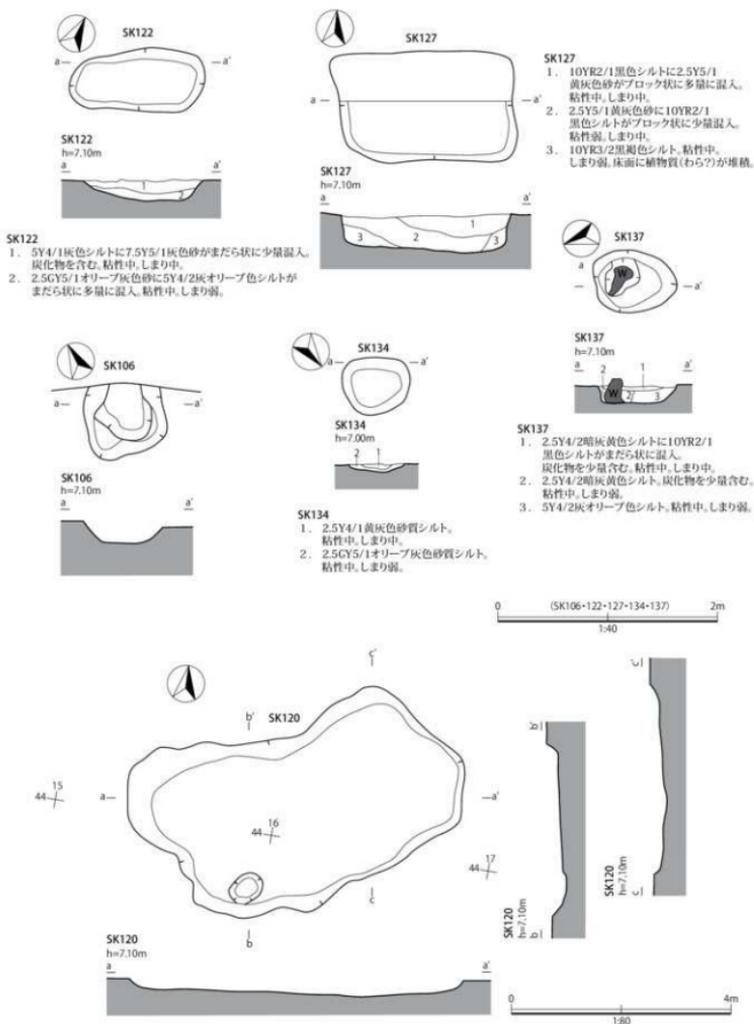


SA152-EP21~38

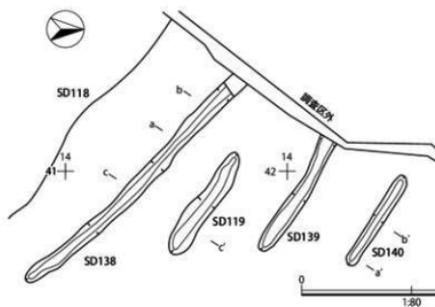
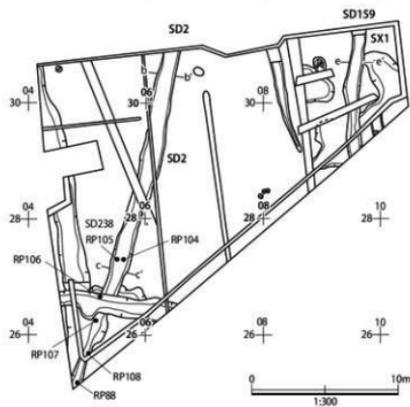
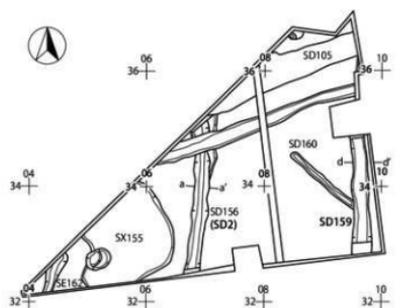
1. 2.5Y2/1黒色シルトに10YR1.7/1黒色シルトがまだらに混入、粘性中、しまり中、アタリ。
2. 2.5Y3/2黒褐色シルトに10Y4/1灰色シルト質砂がまだらに混入、粘性中、しまり中、配り方。



第55図 SA152 (6)



第 56 図 SK122・SK127・SK106・SK134・SK137・SK120



SD2北
h=7.20m
a



SD2中央
h=7.20m
b



SD2
h=7.20m
c



SD2

1. 10YR1.7/1黒色シルト。
10YR4/3にふい黄褐色シルトを少量混入。
2. 10YR3/2黒褐色シルト。1の黒色を少量混入。
3. 10YR5/3にふい黄褐色シルト。2を少量混入。地1Hに近い。

SD159北
h=7.20m
d

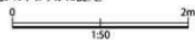


SD159南
h=7.20m
e



SD159

1. 10YR3/2黒褐色シルト。しまりあり。2を少量混入。
2. N1.5/0黒シルト。1をわずかに混入。
3. 10YR4/3にふい黄褐色粘質シルト。
2の黒色シルトわずかに混入。



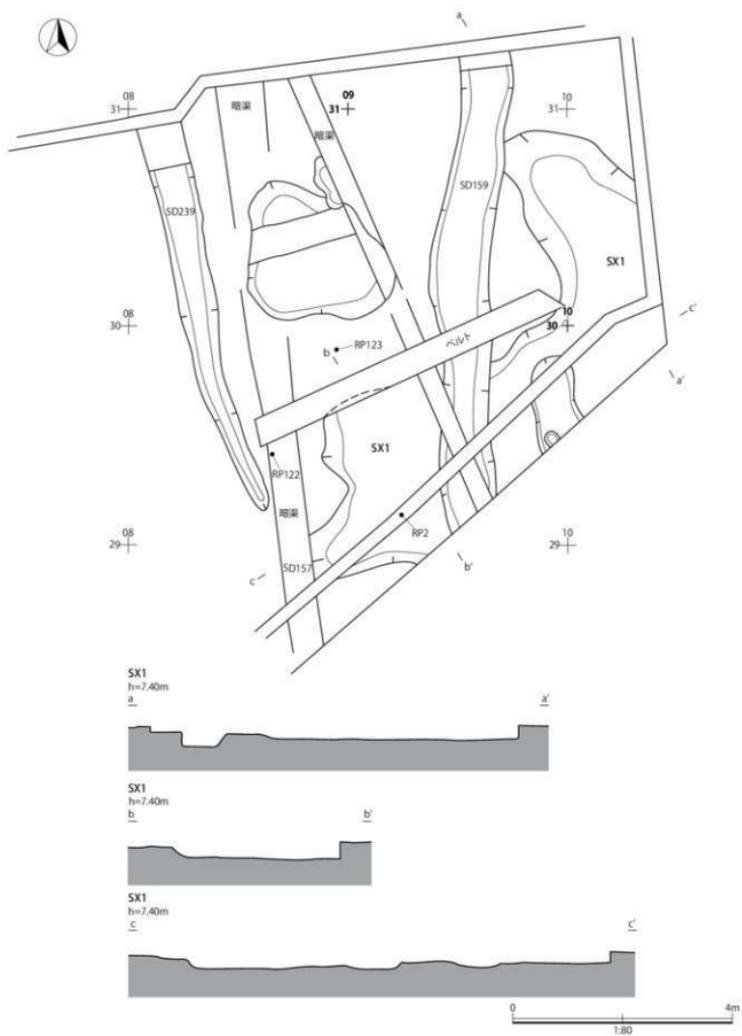
h=7.10m
a SD138 SD119 SD139 SD140 a'

h=7.10m
b SD138 SD139 SD140 b'

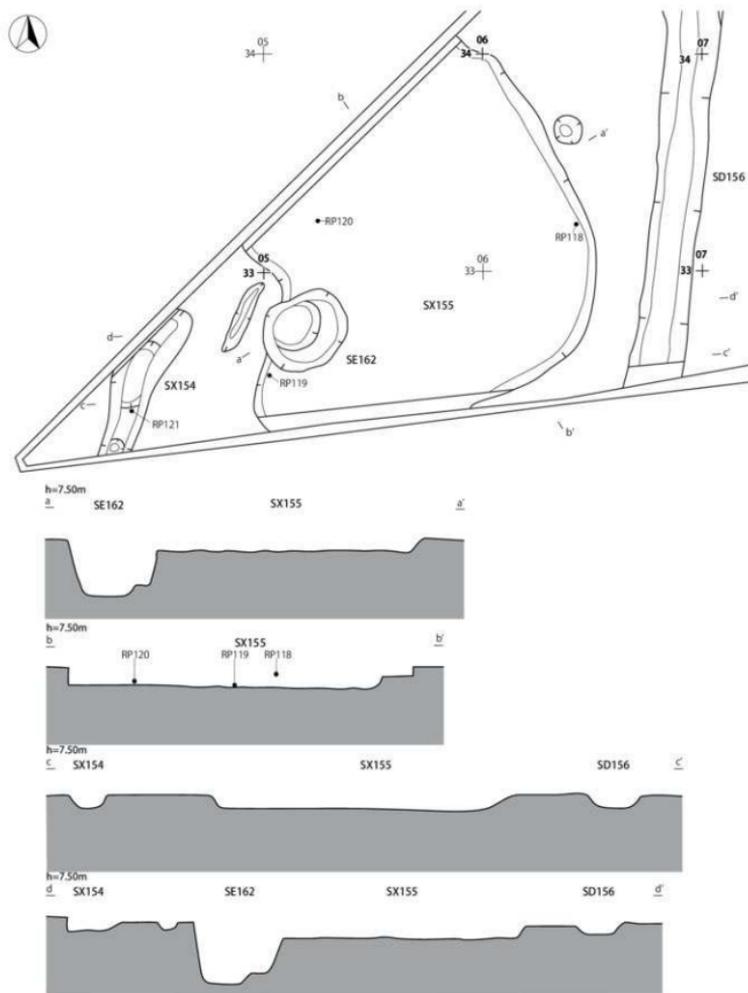
h=7.10m
c SD138 SD119 c'



第 57 図 SD2・SD159・SD138・SD119・SD139・SD140



第 58 図 SX1



0 1:80 4m
第 59 图 SX154・SX155・SD156・SE162

V 出土遺物

1 古代の遺物

上曾根遺跡3次調査では、大きく1区が1次調査と一部重複し、2区が1区の北東側に続く調査区となる。調査では、主に井戸跡や土坑、溝跡などからまとまった古代の遺物が出土した。以下に、一括性の高い土器群を中心に、最初に主な器種を分類し、遺構毎に古順に概述する。

SX 3 落ち込み状遺構 (第 64 ~ 71 回) SX 3は、下層を主にやや時期幅のある土器が出土した。SX 3は、1次調査区南半部の包含層としてまとまって土器が出土した地点と隣接し、同様な低地への土器溜まり状を呈する。

SX 3 出土土器は、他の時期のものがあるもの、古相を示す土器を中心としている。これらの土器群を基準として、一部最古相と最新相の土器形態を一定のまとまりのある出土土器が認められたSX155、SK52・SE126・SD124の別遺構出土土器を補充した上で、分類を行う。

供膳器

供膳器では、須恵器(A類)・土師器(B類)・赤焼土器(C類)があり、環(1類)・有台環(2類)がある。これらは、器形や法量、高径指数などから細別される。

須恵器(A類) 須恵器は、還元焙焼成のロクロ成形で、貯蔵具ではタタキやアデによる調整が施される。

須恵器環(A1類)は、最も多く出土し、主体的な供膳器である。以下に分類される。

A1ai類：器形が浅い箱形～逆台形を呈し、口径が約13～15cm、底径が約7～8cm大と大きい。底部切離しがヘラ切りで、器高が約3cm前後と低い、高径指数(口径/器高×100%)が約20～25前後の一群(64・10・14・15、65・1)である。

A1aii類：器形が逆台形状を呈し、A1ai類に比して、口径・底径が同等で底部切離しもヘラ切りながら、器高が約3.5cm前後に上がる高径指数が約25前後の一群(64・12・65・2)である。

A1b類：器形はA1a類と同じく逆台形状を呈し、底部切離しもヘラ切りが主体で一部糸切もある。A1b類と比べ口径が約13～14cm前後、底径が約7～6cm前後にや

や縮小し、器高が約3.5～4cmにやや増加し、高径指数が約25～30を測るもの(64・9)である。

A1ci類：器形がA1b類の系譜を引き、底部から直線的に立ち上がり器高が4cm台へと高くなる逆台形(67・1)や、やや緩やかに立ち上がり浅い碗状のもの(66・13・16)で、両者とも口径が13cm前後、底径が約6cm前後に縮小する。底部切離しが回転糸切で、高径指数は約25～30の一群である。

A1cii類：また、器形はA1ci類と類似するが、A1ci類より底径が約5cm台と縮小し底部切離しが回転糸切を主体で、器高が約4cm台と増加し、高径指数が約33前後となる一群(66・12)である。A1ci類より高径指数が増加し、後述する先行研究から後出と考えられる。

A1d類：最新相のA1d類は、SX155に認められ、器形はA1ci類と類似し、底径は約5cm大と縮小、底部回転糸切は同じだが、器高が約5cm前後に増加する。高径指数37.6と指数35を超えるもの(104・10)である。

須恵器有台環(A2類)では、前述した環類の浅身のA1a～A1c類が付くものが多い。これら有台環の器形では、以下に分類される。

A2ai類：A1ai類に類似の坏身が付き、高台が広く高径指数が30前後で、底部ヘラ切り主体のもの(67・11)。

A2aii類：A1aii類に類似の坏身が付き、高台がA2ai類よりやや縮小する高径指数が40前後で、底部ヘラ切り主体のもの(67・8・12)。

A2b類：A1b類に類似の坏身が付き、高台がA2b類より更に縮小する高径指数が35前後で、底部のもの(A2c類：67・7・9・10)。これらの底部切り離しはヘラナデが主体で、不明なものが多い。

A2c類：高径指数は不明だが、高台径が小さい一群の径が約6cm台で、底部糸切り主体のもの(68・6・13)。

A2d類：高径指数は不明ながら、高台径がA2d類よりさらに小さい一群で、高台径が約5cm台で、底部糸切り主体のもの(68・14・15)。

A2e類：深身の一群で、箱型の坏部で、高径指数が45前後の、高台径が9cm前後と大きいもの(67・13)。

これには、口径・器高は不明ながら形態が類似し高台径が8cm台と大きい67-16・18も含まれるだろう。

A2f類：深身の一群で、体部が下端に段を有し、直線的に斜めに立ち上がり、高径指数が50前後の、高台径6～7cmに縮小した、底部へら切り主体のもの(67-15)。

A2g類：深身の一群で、体部が碗状を呈し、高径指数が50前後と高台径が6～7cmに縮小するのはA2f類と類似するが、底部系切り主体のもの(67-14)。

A2h類：深身の一群で、碗状を呈し、高径指数は不明だが、高台径が5cm台に縮小し、底部系切りのもの(68-13)。

有台皿(A3類)は、口縁部が強く引き出され、高径指数23と浅く、高台径は約5.9cmで、底部は系切り主体のものがある(67-20)。

蓋(A4類)は、口径が15cm前後を測る大振りなもの(A41類、64-2・4)と、口径13cm前後の小振りなもの(A42類、64-1・3・5)がある。蓋とセットになる環の法量から前者が古相、後者が新相と推測される。前者は切り離しがへら切りで、後者が系切りが主であることから、前述した新旧の差と考えられる。

土師器(B類) 土師器は、前代の系譜を引く酸化焙焼成で、環類は内面など黒色処理される。ミガキやハケメ調整が施される。

環類(B1類)は、以下に分類される。SX3では資料数が少ない。

B1a類：碗状で、高径指数は不明だが大振り、底径が6cm前後で、底部系切り主体のもの(69-19・20)。

B1b類：碗状で、高径指数40前後を指し、底径が5cm前後で、底部系切り主体と推測されるもの(69-17)。

全体的には、須恵器・赤焼土器より数量が少なく、底径がやや大きいB1a類が組成のやや主体を占める。

赤焼土器(C類) 赤焼土器は、酸化焙焼成のロクロ成形で、環類は非黒色処理で、煮炊き具はタタキ・アテ、ケズリ調整がある。

環類(C1類)は以下に分類される。SX3では破片が多く、SK52・SE126・SE162・SD124などに形態が限定的である。

C1a類：SE162で確認され、碗状で、高径指数・底径は不明だが、底部系切り離して、体部下端にケズリを施すもの(105-8)。底部小径で新相の可能性もあるが、後述するケズリを施さない一群よりも先行するであろう。

C1b類：SK52で確認される。緩やかな碗状で、器高が約5cm台と高く、高径指数が45前後で、底径が5cm前後、底部系切りの一群(82-20・24)。SX3の底径がやや大きい69-9・10も同等かもしれない。

C1c類：SX3の碗状で、器高が4.5～5cm前後へ器高が低下し、高径指数40前後で、底径が5cm前後で、底部系切りのもの(69-1・3)。前述のSK52の82-19・22が相当しよう。

C1ci類：器高が5cm台を切るものが多く器高が低下し、高径指数も35前後に低下する。底径が5cm前後で、底部系切りのもの。SE126(101-19・102-1)・SD124(99-1～3)が該当する。一部SD124には高径指数は同等だが、口径が16cm前後、器高が6cm前後の大振りの一群(98-13・16・17)があり、法量分化した大形品と考えられる。

C1d類：前述したSK52の浅い碗状で、器高は4cm前後と低下し、高径指数も30前後に下がるもの(82-21)。底径は5cm前後だが、5cmを切るSK213の106-11、SD238の108-1など底径の縮小化も窺える。

C1e類：SK52の皿状のものである。口径が13cm前後で、器高は2cm前後と低く、高径指数は17.6を測る。底径が5.2cmの回転系切のもの(83-1)。

赤焼土器有台皿(C2類)では、SK120の95-20が該当する。口径13.6cm、器高2.9cmの高径指数21.3ほどで、底径が6.8cmで回転系切のもの。

赤焼土器の供膳器は、一定量あり、C1c・d類が多く、C1a・b類が僅かに組成を占める。

これらは、先行研究(植松1999、阿部・高桑2000、植松2008)から、一般に供膳器環類での須恵器→赤焼土器へ、器形(須恵器)が箱形→逆台形→碗形へ、底部切離しがへら切り→回転系切へ、高径指数(須恵器)の低→高への移行・変遷が知られている。

したがって、SX3を中心とする供膳器には、やや時期幅が認められる。そして、前述した供膳器の分類や先行研究からは、数量が多い須恵器や赤焼土器の環類を主に、以下の変遷で組成するであろう。

8世紀後半～末葉：A1ai類(高径指数25以下)

8世紀末葉～9世紀第1四半期：A1ai類(高径指数20～25前後)・A2a類・A2e類・C1a類

9世紀第2四半期：A1b類(高径指数25～30前後)・

A2b類・A2f類・B1a類・C1b類 (高径指数45)
 9世紀第3四半期:A1c類 (高径指数25～35前後)・
 A2c類・A3類・B1b類・C1c類 (高径指数40)
 9世紀第4四半期:A1d類 (高径指数35前後)・A2d類・
 C1d類 (高径指数35)
 10世紀第1～2四半期:C1e類 (高径指数30)
 これらからは、SX 3は、調査区内で古相の一群を含む
 8世紀末～9世紀前半の須恵器環が多く、9世紀後半の
 須恵器環と赤焼土器環が一定量あることが分かる。

煮炊具

煮炊具では、赤焼土器 (C類) の甕・銅類があり、破片が多く、器形・法量に分かるものは少ない。

甕類では、長胴形で、口縁部～体部上半がロクロメやカキメを有し、体部下半に外面に平行タタキ、内面に同心円アテ痕を有するものが大半である (71・10～13)。口縁部は屈曲し、口縁部下端がやや肥厚し、緩やかに立ち上がり、口唇部は小さく丸まるものが多い (71・7・18)。

銅類は、口縁部資料のみで、口縁部は直立して立ち上がり、口縁部は肥厚し、口唇部が細く短いもの (71・9)、口縁部が屈曲し、口縁部が肥厚し、口唇部が丸みを有するもの (71・19・20) があり、他遺構の供伴関係からは後者が新相と考えられる。

煮炊具は、概ね甕類は9世紀前半、銅の口縁部が直立状に立ち上がるものが9世紀前半、肥厚して丸くなるタイプが9世紀後半頃と考えられる。その他に、赤焼土器 (C類) の甕が主に若干出土し、SD238の108・8やSP209の105-12など体部下半にケズリ調整を施すものがある。内面にハケメ (105-12) を施すが、破片で時期は判断としない。

貯蔵具

貯蔵具は、須恵器 (A類) の甕・甍類があり、甕類の破片が多い。甍類は、大形品と考えられ、外面が平行タタキ、内面が同心円アテ痕のあるもの (70・1～4・6・7) が大半である。

甍類では、長頸面が多く、口径が10cm前後のもの (70・8) や頸部片 (70・9・10) が認められる。

その他に、SX 3の特徴的な遺物の墨書土器は、須恵器の環・有台の底部を主に、環類の体部や蓋に墨書される。判読可能なものに、8世紀末～9世紀前半に主な古相の「十」(64・10、65・7、67・2・7・14)、「〇」(65・

4)、「二」(64・12)、「寔」(64・9)、「生」(67・9)、「万」(67・8) がある。9世紀後半では、「申」(64・1)、「得」(66・12)、「豊」(66・17・15、68・5・6)、「守」(66・14) がある。

なお、「生」は吉祥文字の可能性もあるが、「生王部」(みぶべ)、「守」は国司の四等官「守」の可能性もあるが、新潟県胎内市船戸川遺跡出土土簡や墨書土器には「守部」があり、両者はウジ名の一部とも推測される。

「寔」は、全国的にも類例に乏しく、近接する羽国府城輪跡跡の国司が関わった饗宴に用いられた可能性もあるが、現状「この地で饗宴が行われていること自体は認めてもよく、その場合は、単なる宴会という意味ではなく、在地の有力者の主導のもとに行われた農耕儀礼に伴った共同飲食の可能性を考えてみる必要がある」(三上喜孝氏のご教示による)。さらに、畜産など祭祀具の他に、曲物や箸など木製品も出土していることから、それを示唆するものであろう。

他に「豊」・「得」・「万」は、後述する「足」・「利」などの字種と共に、「十分な収穫を願う意味を込めて、農耕儀礼に伴う共同飲食の際に書かれた文字」(三上氏による)の可能性も窺える。また、「第1次調査の墨書土器「時」・「田」は水稻耕作との関連を示唆し、8世紀末～9世紀初頭以降に羽国では田地の開発が進み(『類聚三代格』[延暦22(803)年])、それに伴う新たな祭祀や儀礼の導入が積極的に進められてきたことを墨書土器や木製品は示しているのではないか」(三上氏による)。

また、墨書土器は、見込みの摩滅が著しく転用痕 (66・16・20) やその可能性のあるもの (68・6) がある。他に摩耗が著しい使用痕跡 (64・13、67・6・19) もある。他に、内面に漆付着が認められる環 (68・20、69・20) が散見される。

SX 3の遺物は、一部最新相の10世紀前半のものを除き、概ね後述する今調査の出土土器の形態の範囲に収まる。そのため、前述した分類が今調査の基準にでき、SX 3で破片資料のものも他の遺構の一括資料で補充することが可能であることから、他遺構でもこの分類を援用する。

SE162 井戸跡 (須105 図)

SE162は、素掘りの井戸跡で覆土中から古相の遺物が出土した。赤焼土器の環 (C1類) は、破片で口径など法量は不明だが、全体に小振りて外面下半にケズリ痕跡が

残り、前述した遺構群では出土しない古相のタイプとも考えられる (C1a 類: 105・8)。

煮炊具では、赤焼土器の長胴甕があり、口縁部が屈曲し、下端が肥厚し直立して立ち上がり、口唇部が尖る。体部上半はロクロで、内面にカキメが残る。

時期は、土器が少なく不明瞭だが、赤焼土器の坏体部下半のケズリ、甕口縁部の形態や精緻な作りから、9世紀初頭で、9世紀第1四半期頃と考えられる。

SK244 土坑 (第 109～110 図)

SK244 は、下層を主に遺物がまぎって出土した。

供膳器である須恵器環 (A1 類) は、浅い逆台形で底径が 8 cm 前後と大きい A1ai (109・10)・A1aii 類 (109・11) と、やや器高が高く底径が 6～7 cm ほどに縮小する A1b 類 (109・9・13) がある。A1a 類は底部へら切りで、A1b 類はへら切りと糸切り離しが認められる。

有台坏は、大振りの高径指数 46.4 の A2e 類 (109・14) がある。

蓋では、口径が 16 cm を超える大形のもの (109・5) と、14 cm 前後を測るやや中形のもの (109・6) がある。

煮炊具は、赤焼土器の長胴甕や鍋があり、口縁部が屈曲し、下端があまり肥厚しないものの、直立気味に立ち上がる。体部は、外面に平行タタキ、内面に同心円アテ痕のあるもの (110・5・3) と、外面・内面共に平行のタタキ・アテ痕 (110・4) がある。貯蔵具では、須恵器の甕片 (110・7) があり、内外面平行のタタキ・アテ痕が認められる。小振りだが底径 6.8 cm の壺 (109・15) がある。判読可能な墨書土器は、須恵器の蓋の「利」(109・5)、坏底部の「山か」(109・10) がある。

時期である須恵器環類の古相の形態などから、9世紀第1～第2四半期頃の所産と考えられる。

SX54 土坑 (第 84～87 図)

SX54 は、SX 3 落込み状遺構と北接する同軸方向の溝状の遺構で、まぎって遺物が出土した。なお、一部中世の蓮弁文のある青磁片 (84・1) が単独で出土したが、RP 登録された土器は古代でまぎり、SX 3 との接合資料もあり、概ね SX 3 と同じ古代が主体時期と考えられる。

供膳器である須恵器環 (A1 類) は、高径指数 23 の A1ai 類 (84・7)・同 30 の A1aii 類 (84・9) など、高径指数が低い古相の一群である。

一方で、RP 登録したものを観察すれば、底径が 6 cm

と小さい底部切り離しがへら切りのもの (84・10) や底径 5.2 cm と更に小さく底部切り離しが糸切りのもの (85・1) があり、全体に底径からは前者が A1c 類、後者が A1d 類に類似し、新相と看取される。なお、新相とした 85・1 は「豊」墨書があり、先に述べた SE126 でも多量の「足」墨書と共に「豊」墨書が出土しており、時期的にも同様の時期が推測される。

他の底径の破片資料でも、前述した古相の A1ai 類の底径に近い底径が 8 cm 前後の大きいもの (84・12・15)、A1aii 類に近い底径が 7 cm 前後のもの (84・8・17)、底径が 6.5 cm 前後の古相と新相の中間的な A1b 類と考えられるもの (84・13・16)、新相とした A1c 類に類似の底径 6 cm 前後のもの (84・14)、A1d 類に類似の底径 5 cm 前後のもの (85・2) などがある。なお、底部切り離しは A1a～b 類がへら切り、A1c 類は一部へら切り、A1d 類は糸切りである。これは、前述した時期幅が破片でも認められ、新相も一定量あり、古相の混入や埋没時期がこの新相の時期になると捉えられる。

有台坏 (A2 類) は、破片資料が多いが、高台径が 7.5 cm 前後とやや広い A2ai 類と考えられる古相のもの (85・10) がある。一方で、全体器形が分かる高径指数 37 で小振りの高台径 6.5 cm 前後の A2aii 類 (85・7) の一群 (85・5・11)、高台径 6 cm の A2b 類 (85・9) があり、全体では新相の土器群が主体を占める。

蓋では、口径 13～14 cm (84・3・4) の笠形状のものが多い。但し、蓋口縁部が外反して立ち上がり環蓋状の体部をもつもの (84・5) があり、古相であろう。

土師器の環 (B1 類) では、内面黒色処理した底径が 4.5 cm～5 cm 台と小さく底部切り離しが糸切りの B1b～c 類に類似するものがある (86・17)。

赤焼土器の環類 (C1 類) は、口径が判断できるものは、全体的に小振りな口径 12 cm 前後の C1c 類に類似のもの (86・11・13) に限られる。底部破片は、一定量あり、RP 登録などされた底径が 6～7 cm 台とやや大きい C1b 類の底径と類似するもの (86・3・4) とやや小さい一群 (86・2・6・8)、底径 5 cm 前後で C1c 類に類似するもの (86・1・9)、底径が 4.5 cm 以下の C1d 類と同等のもの (86・5・10) などがある。これらからは、一部に底径の大きいやや古相 (86・3・4) もあるが、一方で底径が小さい新相 (86・1・9) も一定量あり、須恵器

環類と類似した時期幅が認められる。他に、湯飲み状で小形の筒形の土器(86-22)があり、底部径4.2cmと小さく、類例は少ないが、他の主体的な環類と同じ新相と考えられる。

煮炊具では、RP登録されたものに、赤焼土器の長胴甕(86-18・19)や鍋(87-1)がある。この両者は口縁部が口唇部まで全体に肥厚し、口唇部が丸身を有する形態で、口縁部下端の肥厚や直立的な口縁部の立ち上がりなどのある長胴甕(86-20)や鍋(87-2)より口縁部の簡略化された新相と考えられる。

貯蔵具では、RP登録されたものに、須恵器の甕片で、外面平行タタキ、内面同心円アテのもの(87-3)と、外面平行タタキ・内面アテ痕のもの(87-7)などがある。

壺では、口縁部(87-10)、体部(87-9)などがあるが、破片資料で年代を判断するまでには至らない。

判読可能な墨書土器は、SX3と類似した文字が出出し、「十」がややまとまって出出し、須恵器環(84-8・9)・有台環(85-5・6)、蓋(84-3)の底部や体部などに墨書される。他に須恵器環の底部に「十」・「豊」、蓋の体部に「井」の墨書土器があり、また小破片で判読できない墨書土器が複数ある。

SX54は、SX3との接合品が多く、同様の落込み状遺構の性格が推測される。時期は、古相のもの8世紀末～9世紀前半と考えられるが、新相が9世紀中葉～後半で主体を占める。

SD124 溝跡(第98～99図)

供膳器である須恵器環(A1類)では、やや浅い逆台形で口径指数27.4で、底径が7cm前後のヘラ切り離しのやや古相のA1ai類(98-6)、器形は98-6と類似するが、口径指数25～30で底径がやや大きく6cm前後だが底部糸切り離しのA1b類(98-3・4)、器高がやや高く口径指数31.7で底径が5cm台の底部糸切り離しのA1c類(98-2)などがある。有台皿(A3類)は、口径指数21.6で口縁部が強く引き出す形態で、高台径は6.8cmとやや大きい。蓋(A4類)は、口径14.8cmで体部上面に切り離し時の糸切り痕が残る。

土師器の黒色処理の環(B1類)は、碗状で底部径が5cmほどでB1b類に近いもの(99-11・12)がある。

赤焼土器の環類(C1類)では、大振りで口径16cm・器高6cm前後の高径指数約35で底部径6cm前後のC1a

類に近い一群(98-13・16・17)と、小振りで口径13cm・器高5cm前後の高径指数35～40で底部径5cm台のC1b類の一群(98-14・15、99-1・3)がある。両者とも底部切り離しは糸切りである。

貯蔵具は破片で、須恵器の甕片(99-14)があり、外面平行タタキ、内面同心円アテ痕である。他に口縁部下端が肥厚する長胴甕片(99-15)がある。

墨書土器は、須恵器の環類の底部・蓋に「足」(98-2・3・9)がある。須恵器環内面に漆付着のもの98-6がある。

時期は、須恵器環に一部古相のものもあるが、他の須恵器環は底部が広いが糸切り形態や、赤焼土器の法量の異なる環の多さから9世紀第2～第3四半期であろう。

SE126井戸跡(第100～103図)

SE126は、中層～下層を主に遺物がまともに出し、「足」が墨書された墨書土器がまともに出した。

供膳器である須恵器環(A1類)では、一部高径指数が35を超えるもの(100-3・6)が僅かにあるが、全体的には高径指数30前後(高径指数28～33)が大半で、35を超えるものも含め、形態的にはA1c類に相当する。

但し、このA1c類には、底部から直線的に立ち上がり器高が4cm台と高く、底部も6cm前後とやや大きい逆台形一群(A1ci類:100-2～4・10・12)と、やや緩やかに立ち上がりで浅い碗状の一群(A1cii類)に細分される。さらに、A1cii類は、底部径で5.5～6cm台のもの(100-6～8・11、101-2・3)と、底部径が5cm前後と輪小したもの(100-1・5・9、101-1)により細分される。本遺構出土環類は、A1cii類が主体的であり、A1ci類が前系譜の残存かもしれない。有台環は少量で不明瞭だが、口径が15.6cmと大きく深身で体部が直線的な立ち上がる(101-12)A2g類と推測される。

土師器(B類)の内面黒色処理された環類(B1類)は、口径12.8cm、器高5.6cmの高径指数43.7とやや法量の大きく、底部径が6cm前後のB1a類(103-1)と、法量がやや小振りの底部径が5cm前後のB1b類(103-2・4)がある。

赤焼土器の環類(C1類)は、全体に小振りの口径13cm前後で器高5cm前後、底径約5cmの高径指数35～40のC1c類(101-18・19・20、102-1)が多い。これは、破片資料でもこの範疇のものが大半で、一部底径

が5cm以下に縮小したC1d類に近いもの(102-2・9・12)がある。皿(C3類)は、口径14.3cmの有台(102-19)で、口縁部が引き出される形態は須恵器皿の模倣などが推測される。

貯蔵具は、須恵器の甕片があり、外面平行タタキ、内面同心円アテのもの(103-5)と、内外面平行タタキ・アテ痕のもの(103-6)がある。

墨書土器は、特に「足」須恵器環の底部(100-1～10-12、101-8)や土師器環の体部(103-2)、赤焼土器環の底部(101-19、102-3～6)などに「足」と墨書されたものがまとまって出土した。これらのうち、須恵器環で比率が高い。他に須恵器環の底部に「豊」(100-11)、赤焼土器環の底部に「伴」(102-2)がある。なお、「伴」は、「ウジ名」大伴」から弘仁4(823)年の「伴」の改姓が知られる(三上氏による)。

また、「足」墨書土器には、内面見込みの摩滅が著しく転用碗の可能性のあるもの(100-1・2)や、摩耗が著しく使用痕跡(100-3～5・9・10)と考えられるものがある。他に、同じ「足」墨書土器などのあるSK120(95-17)やSE123(96-4)にも見込みの摩滅・摩耗が著しい使用碗や使用痕が推測されるものがある。

SE126は、「足」墨書土器が集中して出土し、須恵器や赤焼土器も供膳器の環に限定的で、祭祀に関わる墨書土器の可能性も窺える。時期は、9世紀第3四半期と考えられる。

SK210土坑(第105～106図)

SK210は、大形の土坑で、近接して同タイプで特殊な斎舎が出土したSK213がある。下層を主に出土した。

供膳器である須恵器環(A1類)は底部片で、底径6～7cmの底部切離しがヘラ切りもの(105-14・15)があり、概ねA1a～b類と考えられる。有台環(A2類)も破片資料だが、高台径が6.4cmのA2c類に類似のもの(106-1)がある。

蓋(A4類)もあるが、破片資料で法量不明だが、体部が山笠状で、端部が厚く短く下降する(105-13)。

赤焼土器の環類(C1類)は、口径が13～14cmの中形で、器高は5cm台である。底部が6cmのもの(106-5)、5cm前後と小さいもの(106-3)があるが、両者とも底部切離し回転系切りで、高径指数40ほどのC1c類と同等である。他の底部破片も底径が5cm大で底部は小さい。

煮炊具は、底部径が7cm前後の長胴甕の底部片(106-6)がある。

貯蔵具は、須恵器の甕片で、外面平行タタキ、内面同心円アテのもの(106-7)と、外面平行タタキ・内面平行アテ痕のもの(106-8)などがある。壺は、頸部径5～6cmの長頸壺(106-2・9)がある。

SK210は、やや古相の須恵器環類も混入するが、RP登録された小径の須恵器有台環(106-1)、赤焼土器環(106-5)の高径指数40前後など高いことから、9世紀中葉でも後出の9世紀第3四半期と考えられる。

SE123井戸跡(第96～97図)

SE123は、「足」墨書土器が多く出土したSE126の北西に近接する縦板の井戸枠のある井戸跡である。掘方の遺物が大半で、特に下層で「足」墨書土器を含む土器群や木製品が多く出土し、中～上層は縦板材の抜取り後などに、井戸枠内と掘方を含め全体に埋土や堆積土が覆う。最初に掘方の遺物、次に井戸枠内の遺物を概述する。

SE123掘方 供膳器は、須恵器環(A1類)で口径13.4cm、器高4.3cmの高径指数32で、底部径5.2cmの回転系切りのA1c類(96-7)がある。有台環(A2類)では、高台片で高台径7cm前後のもの(96-8)がある。皿(A3類)は、口縁部片(96-9)で、SX3の有台皿と同じく口縁部を強く引き出し、口縁端が下がる。

蓋(A4類)は、口径が分かるものはないが、体部上面に平坦面をもつ山笠形のもの(96-3・5)で、96-4は平坦をケズリ、「足」墨書がある。

土師器の環(B1類)は、内面黒色処理した口径11.7cm、器高4.9cmの高径指数42で、底部径4.1cmの底部切離し回転系切り(96-13)で、B1b類である。

赤焼土器の環類(C1類)は、口径12.6cm、器高4.3cmの高径指数34で、底部径4.8cmの底部切離し回転系切りと考えられるもの(96-10)で、C1ci類に類似する。口縁部径が96-10と同等の13.2cmの破片資料(96-12)も同様の形態であろう。

煮炊具は、赤焼土器の長胴甕片(96-16)、鍋の口縁部片(96-15)などがあり、鍋の96-15は口縁部下端がやや肥厚し直立気味に立ち上がり口唇部は実る。

貯蔵具は、須恵器の大甕で、外面平行タタキ、内面同心円アテのもの(97-2・3)と、外面平行タタキ・内面平行アテ(97-1・5～7)などがある。

墨書土器は、須恵器の蓋外周(96-4)の「足」、土師器内黒環の底部に墨書されたもの(96-13)がある。

SE123 井戸枠内 明確な井戸枠内の遺物は全体的に少ない。貯蔵具の須恵器の大甕の破片があり、外面平行タタキ、内面が平行と同心円アテのもの(96-17)と、外面平行タタキ・内面平行アテ痕のもの(97-4)などがあり、同一個体の可能性もある。

SE123は、掘方の遺物が多く、土器形態やSE126と同じ「足」墨書土器の存在から、構築時期はSE126と同時期か後出の可能性があり、概ね9世紀中～後葉の時期で9世紀第3四半期頃の構築と考えられる。

井戸枠内の土器は、須恵器甕片のみで明確な時期は判断できず、井戸の機能時期は、構築以後の9世紀後半としておく。

SP73 ビット (第88図)

SP73は、小形な規模ながら供膳器がまとまって出土し、RP遺物登録した。

供膳器である須恵器環(A1類)は、口縁部が欠損し、底部径が6cmほどのヘラ切り離して、体部が直線的な立ち上がりもの(88-6)で、A1c～d類に類似する。

赤焼土器の環類(C1類)は、全体の器形が分かる資料が少ないが、全体的に小振りで、口径12cm前後のC1c類に類似のもの(88-9)、底部径が4.4cmと小さいC1d類に類似するもの(88-8)がある。

煮炊具は、赤焼土器の長胴甕(88-10)の上半部がある。口縁部が屈曲し、口縁部下端があまり肥厚しないものの、直立して口縁部が立ち上がり、口唇部が実る。

時期は、須恵器環などはやや古相の感もあるが、小振りな赤焼土器の過多や赤焼土器甕の口縁形態などからはやや新相への過渡期の時期とも捉えられ、概ね9世紀中葉～後半で、9世紀第3期が推測される。

SK52 土坑 (第82～83図)

SK52は、SX3落込み状遺構や同軸方向のSX54とした溝状遺構に北接する。一定量のまとまりを持って遺物が出土した。なお、一部はSX3・SX54との接合資料もあり、概ねSX3・SX54と同時に存在や、両遺構の時期幅の一端の共有も考えられた。更にRP登録した遺物に限定すれば、概ね須恵器環類の減少と赤焼土器環の卓越など一定のまとまりが推測され、SX3やSX54より新相の土器組成が窺えた。

供膳器である須恵器環(A1類)は、器形が明かなものはないが、底部径が7cm前後の底径がやや大きく底部切り離しがヘラ切りでA1b類に類似するもの(82-11)や、底部径が6cm前後の系切りでA1c類に類似するもの(82-10)がある。有台皿(A2類)も破片が多く、概ね高台径が6～7cm前後とやや大きく底部切り離しが主にヘラ切りのA2b類に近いもの(82-13・15)がある。

有台皿(A3)は、高台が細く長い形態で、高台径が約6cm前後の底部切り離しが系切りのもの(82-14)があり、底部切り離しから、環や有台皿よりやや新相であろう。

土師器の環(B1類)は、内面黒色処理した口縁部片(83-14)があるが、小破片で詳細は不明である。

赤焼土器の環類(C1類)は、最も多く出土し、全体的に口径が12cm前後、器高が5cm前後の高径指数が40前後で、底径が5～5.5cmと小形のもの(82-19・20・22～24)が多い。これらは器形的に概ねC1b～c類だが、小振りな形態や底部切り離しが全て系切りと後出である。底部径はやや広いが5cm前後のものが主体で、C1c類の範疇であろう。なお、口径16cmの大振りなもの(83-6)は半体であり、口縁部破片(83-5・7・8、82-20)の法量を観察しても、SD124の大形品と小形品の組成はしないようである。一方、口径や底径はC1c類と大きな差異はないが、器高が4cm台に低下し、口径指数30前後のもの(C1d類:82-21)がある。

赤焼土器皿(C1e類)でも、無台ながら底部が浅く挟まれた柱状をなし、高台風のもの(83-1)がある。口径12.5cm、器高2.2cmで高径指数17.6と低い中形である。底部径は5.2cmと須恵器有台皿とそれほど差異はなく、概ね須恵器模倣の皿と推測される。同様な器高の低下などから、概ねC1d類と併行するものと考えられる。

煮炊具は、赤焼土器の長胴甕片(83-15～18)が少量あり、特に83-15の口縁部は屈曲するが、全体に肥厚し、口唇部が面や丸身を持つ形態である。

貯蔵具は、須恵器の甕片や壺片で数量が少ない。甕は外面平行タタキ、内面同心円アテのもの(83-19・20)がある。壺はやや大形の体部(83-21・22)がある。

墨書土器は、明確に判読できるものは少ないが、82-19は体部の口縁部上位に「○」を描き、それと対向して2本の縦線を描き、その上に斜位に直線を描く。これは「川」とも考えられるが、上の「○」を中心に、その

下に2本対になった柱を対向させ、その上に屋根を掛け下図柄にも見え、意匠などが注目される。

SK52は、SX3・SX54との接合品もあり、やや時期が重複する可能性もあるが、新たな形態で高径指数30前後に低下した赤焼土器環(82-21)や赤焼土器皿(83-1)の存在、赤焼土器環類の増加からSX3やSK54より新相と考えられる。時期は、9世紀第3四半期～第4四半期が推測される。

SD238 溝跡(第107～109図)

SD238は、SK244やSE162の西側に走行する南北の溝跡で、特に南側の覆土下位から遺物が出土した。

供膳器である須恵器環(A1類)は、一部古相の箱形で高径指数32の底部径7.1cmと大きいA1aii類の環片(107-13)がある。主体的には口径13.2cm、器高4.5cmと高く、高径指数34で、底部切離しが回転系切りの新相のA1cii類(107-16)である。他の底径5cm前後で回転系切りの底部片(107-14・15)も、同様な形態と考えられる。

蓋(A4類)は破片(107-12)で、形態が不明である。

土師器の環(B1類)は、内面黒色処理したやや大振りな口縁部片(108-6)があるが、他は小片で不明である。

赤焼土器の環類(C1類)は、口径が12～13cm、底径が5～6cmと同等ながら、器高が4.5cmほどで高径指数35前後のものC1cii類(108-2)と、器高が4cm前後と縮小し、高径指数が30前後に低下するC1d類の一群(107-18、108-1・3)があり、後者が主体を占める。これらは、内面を主に煤や炭化物が付着するものが多い。

煮炊具は、赤焼土器の長胴甕がある。口縁部は屈曲し全体に肥厚し口唇部が丸くなるもの(108-9・10)、体部上半はロク口目やカキメがあるもの(108-11、109-2)、体部下半は平行タタキ・平行アテ痕があるもの(109-1)がある。他に、赤焼土器の長胴甕と同じロク口成型で、口縁部形態が類似する小形の甕(108-7)もあり、口縁部13.9cm、器高11.8cmとほぼ同じ比率の小形甕である。一方で、県内の内陸地方に一般的な長胴甕である、体部下半にケズリが施される(108-8)のものもある。

貯蔵具は、須恵器の甕片で、外面平行タタキとカキメ、内面同心円アテのもの(109-3)がある。

SD238は、全体に器高が低下した高径指数が30前後の赤焼土器環が多く、須恵器環が逆に器高がやや高くな

り、高径指数35前後のものが残存する。9世紀後葉～末葉で、9世紀第4四半期が推測される。

SK213 土坑(第106～107図)

SK213は、最下層から県内では数少ない形態の甕串と共に完形の土器が出土した。供膳器は、須恵器でやや高台径が7cm前後と広い古相の有台形の底部片(107-1)がある。赤焼土器環(C1類)は、甕串と近接して出土した完形品で、口径12.5cm、器高3.8cmの高径指数30前後と低いもの(106-11)で、底部径も5cm前後に縮小し、底部切離しが回転系切りのC1d類である。他の赤焼土器底部片も6cm前後とやや小さく回転系切りのもの(107-2)で、106-11と同様の形態の可能性もある。

煮炊具は、赤焼土器の長胴甕の体部下半で丸底状になると推測されるもの(107-3・4)があり、内外面平行タタキ・アテ痕がある。一方で、平底で赤焼土器の長胴甕の可能性のあるもの(107-5)もある。底部切離しは回転系切りである。貯蔵具は、須恵器の甕片(107-7)があるが小片で不明である。

SK213は、甕串と106-11が近接して出土し、小振り度高径指数30と低下する赤焼土器環が主体で、9世紀末～10世紀前半葉頃である。

他の遺構出土の遺物

今回の調査区では、前述した一定のまとまりのある遺構の他に、幾つかの遺構で特徴的な遺物が出土した。区毎に古い順に主なものを概説する。

1区

SK8土坑(第75図)

赤焼土器の甕(75-15)の底部片である。内面にカキメ状の痕跡が残る。内陸地方に多い赤焼土器の平底で、8世紀末～9世紀代であろう。

SP207・209・249柱穴(第105・110図)

SP207・209・249は、1区北東部で直線的に並ぶ柱穴群と考えられる。SP207からは須恵器有台形(105-11)が出土。高台径が5.7cmとやや小さいが、高台が張りだすA2a～b類で9世紀前半頃と考えられる。SP209からは赤焼土器の甕(105-12)が出土。県内内陸部に主体的な外面ケズリのある長胴甕片と考えられ、8世紀末～9世紀前半と推測される。SP249では須恵器の高台が付く甕(110-12)が出土。全体に資料は少ないが、古相のものが多く概ね9世紀前半頃の所産であろう。

SD78・SD257 溝跡 (第 88・110 区)

北側が開口した方形状に廻る区画溝跡の一群で、SD78からは須恵器蓋(88-15)で低い宝珠形の掴み部、SD257からは底径が大振りのA1a類の須恵器環(110-15)、底径が5.5cm前後の中形の赤焼土器環(110-16)が出土した。110-16がやや新しいが、9世紀前半頃の所産と考えられる。

SP88 ビット (第 88 区)

須恵器の有台皿(88-19)があり、口径12.8cmで高径指数29、底径5.5cm。SX3の67-20などと同類の口縁部を強く引き出すA3類で、施釉陶器模倣の皿と推測される。9世紀第3四半期と考えられる。

SK97 土坑 (第 90～91 区)

赤焼土器主体の一定のまとまりを持つ土器群が出土した。須恵器環(90-2)は、底径5cm前後と小さい底部切離し回転糸切りのA1d類である。主体的となる赤焼土器環は、口径13～14cmのもので、器高が高い高径指数35～40のC1c1類(90-4～6)と器高がやや低下し、高径指数30前後のC1d類(90-3)がある。破片では口クロ目が著しい90-13など新相も出現する。土器では内面黒色の短い張出状の高台が付くもの(90-16)がある。

煮炊具の赤焼土器では、口縁部が屈曲し下端がやや肥厚し直立状に立ち上がり、裏や鍋の破片では口唇部が尖るもの(91-3)が一部あるが、主体的には口唇部がやや丸味を持つもの(91-1・2)となる。

全体に口クロ目の目立つ90-13や高径指数が低い90-3などは新たな要素で、9世紀第4四半期であろう。

SK98 土坑 (第 91 区)

赤焼土器が主体で、環(91-9)は口径13cm前後で高径指数30前後と低く、底径も5.6cmと小さいC1d類で、他の底部片も底径5cm前後と縮小化したものが多い(91-10・11)。91-14は大形の高台が出土し、第1次調査の22-21の台付鉢と類似するが、類例に乏しい。9世紀第4四半期～10世紀前半の所産であろう。

SD18 溝跡 (第 77～81 区)

1区南側の東西方向の大形溝跡で、その北側にある1区中央のSD89・1区北側のSD4と同じ方向である。また、前述した古代の時期幅があるSX3に北接する。時期は後述する中近世まで下るが、第1次調査と今調査におい

て古代の土器が一定量出土した。環類では、須恵器が赤焼土器より数量がやや多い。

須恵器の環は、破片資料が多いが、古い順にA1ai類(77-16)、A1aii類(77-17・18、78-1・7)、A1b類(78-6・8・15)、A1c類(78-13・16)、A1d類(78-9・14)など底径の縮小化と共に、底部切離しがへら切りから糸切りに変化する8世紀末～9世紀代のものが多い。須恵器環類は、新相のA1c・d類の9世紀後半～10世紀前半は少量で、全体にはA1a～b類の古相のものも多く、一部完形・半完形も認められ、主体は9世紀前半と考えられる。墨書土器は、須恵器の高台が張る有台環(78-19)の底部に「○」記号が墨書され、9世紀前半と推測される。他にも散見(78-20・21)されたが、破片で判読できない。78-9など複数が転用履と考えられる。

赤焼土器の環では、破片だが底径が6cm前後のもの(79-13・14・17)が多く、底径5.5cm前後のもの(79-15・16・18)が一定量ある。底径5cmを切る小径のもの(79-12・9)とやや少なく、器形が分かる79-12は高径指数37.5とやや高くC1c類である。

赤焼土器の裏・鍋類は、口縁部が屈曲し下端が肥厚し口唇部が尖るもの(80-9～11・16・18)と、口縁部が屈曲し全体が肥厚し、口唇部が丸みのあるもの(80-6～8・17)が認められ、前者の丁寧な口縁部の造作など古相を示すものが一定量あり、環類と同じ主体的な9世紀前半に廻るものが多いと推察できる。

SD4 溝跡 (第 72～74 区)

SD89と同じく1区中央の東西方向の大形溝跡で、時期は後述する中近世まで下るが、第1次調査でも古代の土器が一定量出土した。

環類は、須恵器より赤焼土器の数量がやや多い。但し、須恵器の環には破片資料ながら底径が大きく古相のA1a類(72-14・18)から古い順に、A1b類(72-15)、A1c類(72-16)、A1d類(72-17)と底径の縮小化と共に、底部切離しがへら切りから糸切りに変化する9世紀前半～後半に至る。前述したSD89と同じ時期幅が認められる。須恵器有台皿(73-16)も、口縁部をやや引き出す形態から67-20と同様の時期であろう。同蓋(72-8)は、口径13cm程で、内面に墨痕があり、転用履の可能性はある。やや小振りの口径からは9世紀中～後半が推測される。

墨書土器は、底径が大きい回転系切の須恵器環に墨書された「十」がある(72-16)。72-8などが転用礎と考えられる。

赤焼土器の環では、破片だが底径が6cm前後と大きく、やや古相のC1b類類似のもの(73-6・8)もあるが、主体は底径約5cm以下の小径のC1c～d類(73-7・9～12)の9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。赤焼土器の甕や鍋類も口縁部が全体に肥厚し、口唇部が丸み(73-17～19)や面を有する(73-21・22)などがある。前述した環類と同じ様相からは、新相への過渡的なものも多く、同じ時期が比定される。

SD89 溝跡 (第89図)

I区北側の東西方向の大形溝跡で、時期は後述する中近世まで下がるが、第1次調査と今調査において古代の土器が一定量出土した。環類は、須恵器と赤焼土器の数量が同程度で、全体的には、9世紀前半の古相主体のSX3に近接するSD18→SD4→SD89の順に須恵器類が減少し、赤焼土器類が増加する傾向が窺える。

須恵器環には底部径の大きい環(89-5)や底部切離しヘラ切り(89-6・7)のA1a類など一部古相と、回転系切りで底部径が5cm前後の新相のA1c～d類(89-8・9)がある。前者は9世紀前半、後者は9世紀後半と時期幅がある。赤焼土器環類でも底径が大きいもの(89-19)もあるが、全体的には底部径が4～5cmに縮小したC1c～d類(89-20～23)の回転系切りが主体で、須恵器環と同様に新相の9世紀後半～10世紀前葉の組成を示す。他に、土師器有台環で内面黒色の89-24には、底部と体部外面に「×」の線刻がある。須恵器壺(89-31)は頸部が太い器形で、類例に乏しい。両者は古相の可能性もあるが、環類で主体的な9世紀後半かもしれない。

2区

SX1 落込み状遺構 (第61図)

SX1は、I区東端の前側の落込み状遺構で、後述する肥前陶器が単体で出土したため、近世としたが、古代の土器の出土が一定量認められた。須恵器の環(61-4・5・7)は底径が大きく底部ヘラ切りのA1a類で、他の破片も同様の形態と考えられる。蓋も口径14.6cmと大振り、口径の大きいA1a類の環に伴うものと推測される。壺(61-9)は底径が6cmとやや小振りだが深身である。赤焼土器の甕(61-10・11)は、口縁部が屈曲し下端が

やや肥厚し、直立して立ち上がり、口唇部が尖る。全体的に古相のまとまりが窺え、8世紀末～9世紀前葉であろう。

SD2 溝跡 (第61～63図)

SD2は、I区東端・2区西端(2区ではSD159で登録)の南北方向の溝跡で、後述する白磁が出土したことから中世としたが、古代の時期幅のある土器が一定量出土した。須恵器の環(61-17・18・20)は底径が大きいA1a類が多いが、やや小振りな底部切離し回転系切のA1d類もある(61-21)。前者が多く主体的で8世紀末～9世紀前葉、後者は新相の9世紀後葉であろう。有台環(61-24)は、高台部のみを残し、体部を円盤状に打ち欠く。赤焼土器の環(61-25)は、口径13cmで、高径指数33.8で、底径5cm前後のC1d類に近い。概ね須恵器の61-21と近接した9世紀と推測される。

SD159 溝跡 (第105図)

SD159は、前述したSD2と東側並走する溝跡で、図示しないが小片の肥前磁器が出土したため、近世としたが、古代の土器片が僅かに散見された。105-5は須恵器の有台環と考えられ、9世紀前葉の所産であろう。

SK122 土坑 (第96図)

須恵器の有台皿(96-1)と同甕片(96-2)がある。96-1は口径が13.5cmで高径指数23.7とやや高く、体部が口縁部まで直線的に外傾し大きく開くもので、高台もやや長く張り出す形態である。底部に「十」墨書される。概ね9世紀第2～3四半期と推測される。

SK120 土坑 (第95図)

須恵器の環片(95-16)は底部切離し回転系切で、内面に漆が付着する。同有台環(95-17・18)は高台径6cm前後のA2c類で、95-17が底部にSE126と同じく「足」と墨書される。赤焼土器環(95-19)は底部径5.5cmのやや小径のかわらけ状を呈し、9世紀前半の古相の可能性もある。有台皿(95-20)は丁寧な作りの口径13.6cm、高径指数21.3とSX3の67-20と類似した口縁部を強く引き出すもので、施釉陶器模倣と考えられる。9世紀第3四半期頃と推測される。

SD119 溝跡 (第95図)

SD119は、後述する中世陶器出土から中世の畝状遺構としたが、古代の土器も散見された。須恵器有台環(95-11)は、底径が6.4cmで、高台が面を持つA2b類

に近い形態で、概ね9世紀中葉と考えられる。

SK155 落込み状遺構 (第104～105図)

SK155は、1区東端の北側の落込み状遺構で、後述する珠洲が単体で出土したため中世としたが、下位から前述した9世紀前半のSE126も確認され、全体的に古代の土器が多く認められた。須恵器の環は、底径が7～9cmと大きく、底部切離しがへら切りのA1a類(104・5～9)と、底径が5～6cmに縮小し、回転糸切のA1c・d類(104・10～12)がある。前者は大きく9世紀前葉、後者は9世紀後半である。

赤土土器の環(104・14・15)は、全体に底径5cmを切る小径のものが多く新相で、概ね須恵器環の後者と同様の9世紀後半の時期が推測される。なお、104・17は赤土土器の皿で、口縁部を強く引き出す形態であり、SK120の95・20に類似する施釉陶器模倣の有台皿と考えられる。概ね9世紀後半と推測される。

遺構外の遺物(グリッド・調査区:第111～123図)

グリッドや調査区出土の遺物は、区毎に種別で特徴的な土器を概説する。また、当初遺構登録したものの、現代遺物が出土したことにより、攪乱扱いになったところから出土した古代の遺物も本項に含む。

施釉陶器 当初SD105とした攪乱溝から、緑釉陶器の水注の体部破片が出土した。外面に3条の縦線線刻があり、内面に弧状の細い帯が彫る。9世紀後半であろう。

墨書土器 須恵器環類の底部を主に、墨書土器が確認された。判読可能なものは、1区で底部径が大きく底部切離しがへら切りのA1a・b類に「十」(112-19、113-6)、「吉カ」(113-8)、底部小径で糸切のA1c・d類に「豊」(113-19・20)、2区では、A1c・d類に「得」(120-16)、「足」(120-17～20)、有台皿の回転糸切り底部に「吉」(122-4)などがある。「足」・「豊」・「吉」などの字種は複数あり、遺構出土品にも認められる。他は単体の字種である。113-20、120-17・18は見込みに使用痕がある。

転用硯 1区で須恵器の環(113-9・15)の見込み、同有台環(113-24)の高台底部などを転用したものがあり、使用痕との差異は判断が難しいが、各々墨痕などが確認される。113-9は9世紀前半、113-15は9世紀後半で、各々墨書土器の主體的年代に対応しよう。

漆附着 1区で、赤土土器環の内面に漆附着(118-17)がある。遺構では、SX3、SD5、SK120、SD124の供

器の内面に多く、色調や質感などの漆の状態の差異から、用途の違いが推測される。

打ち欠き土器 今回の調査では、須恵器の有台環の高台や蓋の摘み部を残し、円形状や円盤状に打ち欠くものが確認された。用途不明だが、遺構出土のものを「打ち欠き土器」として抽出した。1区では蓋の体部を打ち欠き、摘み部を残し、それも上下から打ち欠き、小形の円盤状とするもの(112-1～4)、有台環の高台を残し体部を円形状に打ち欠くもの(114-7)がある。2区でも同様に前者の蓋の摘み(120-2～4)や、後者の有台環(121-11・12)が同様に打ち欠きが行われていると考えられる。

2 中近世の遺物

中近世は、溝跡や土坑、落込み状遺構などから遺物が出土した。特に溝跡や土坑などから一定量出土したが、古代の土器を含む遺構も多い。他に、散発的にグリッドや調査区、現代のガラスなどが出土する溝跡や暗渠などの攪乱遺構からも、当該期の遺物が出土した。

以下に、主な遺構毎の古い順に出土遺物を概説する。また、攪乱やグリッド・調査区出土は種別毎に概略を記す。

中世

中世は、溝跡や土坑から主に遺物が出土した。近世の遺物が出土しない中世の遺構分布は、1区中央～北半部・2区北東部などにやや集中する傾向が看取られる。

SK54 土坑 (第84図)

SK54は、1区東部のSX3と同方向や土器の接合関係がある落込み遺構で、覆土主体は前述した古代だが、流れ込み状に単体で青磁の碗(84-1)の体部片が出土。84-1は、外面に竊蓮弁文(Ⅱ類)があり、概ね13世紀後半と推測される。

SD89 溝跡 (第1次調査SD64) (第89図)

SD89は、1区中央部の北側の東西方向の大溝で、第1次調査でSD64に該当し、中世陶器のみが出土するとされた溝跡である。青磁の碗(89-1)、皿(89-2)の口縁部片が出土した。両者とも小片で形態は判然としなが、89-1は見込みに稜花の可能性のある文様がある。時期は、14～15世紀と考えられる。

他に珠洲の裏(89-3)の体部片があり、外面タタキ・内面アテ痕がある。時期は、小片で判然としなが、他

の珠洲の甕類と外面タタキなど類似し、珠洲編年Ⅳ～Ⅴ期の14～15世紀であろう。

SK155 落込み状遺構 (第104図)

SD155は、2区西端部の不整形な落ち込みで下位から古代のSE162が検出された。その影響が、古代の土器も多く出土する。珠洲の播鉢(104-1)の体部片が出土した。内面摩滅が著しいが、やや密な節目から珠洲編年Ⅴ期頃が推測され、15世紀代と考えられる。

SK134 土坑 (第103図)

SK134は、2区北東端部の小形の土坑で、覆土中から瀬戸美濃の丸皿(103-8)が出土した。口径10.4cm、器高2.6cm、高台径5.8cmで、口縁部がやや緩やかに外反し、高台内輪は所謂下手底である。大窟編年第3段階後半と推測され、15世紀後～末葉の時期が比定される。

SD119 溝跡 (第95図)

SD119は、2区北東部の同一方向の畝状溝跡群の一つで、覆土中から青磁の碗(95-10)、瀬戸美濃の折縁皿(95-9)が出土した。95-10は体部片で判然としないが、外面の無文や緩やかな体部外傾などから15世紀代と推測される。95-9は、見込みの蓮弁状の文様や器高がやや低下した形態から大窟編年の第4段階頃が推定され、概ね15世紀末～16世紀初頭頃であろう。

SD 2 (SD156) 溝跡 (第61図)

SD 2は、1区の東端の中形溝跡で、2区ではSD156としたもので、約10m東側にSD159が南北に並走する。SD 2からは、中世後半の白磁の皿(61-16)の高台部が出土し、径が5.2cmとやや大きく薄い高台からE類と考えられる。時期は16世紀代と推測される。

近世

近世は、溝跡や落込み状遺構などに散発的に出土し、中世の遺物も含まれることが多く、溝や落込み状遺構の開口時期や埋没時期との関連が窺われる。他に、グリッド(包含層)や攪乱・暗渠などからも散見され、1区・2区共に調査区全体で遺物が分布する。

SK104 土坑 (第92図)

SK104は、2区中央部の小形の土坑で、攪乱遺構が周辺に多いが、近世の古相の遺物が出土する。覆土から肥前磁器の小壺(92-3)が出土。外面には植物文が施され、底径4cmほど緩やかな高台が付き、形態から九州陶磁編年Ⅰ期の16世紀末頃が比定される。肥前陶器で

は、皿(92-1)や壺(92-2)が出土。92-1は、見込みに3ヶ所の砂目があり、短い輪高台で、92-2も口縁部が短く直立気味に立ち、口唇部が面を持ち肩が張る壺で、両者は九州陶磁編年Ⅱ期の17世紀前半であろう。

SD18 (第1次SD50) 溝跡 (第77図)

SD18は、1区の中央部～南半の東西大溝である。当初、溝跡の西側部をSD 5で登録したが、調査の結果、SD18の一連の溝跡と判断された。また、SD18は第1次調査のSD50と同一の遺構でもある。

SD18 (SD 5) では、第1次調査と同じく古代の土器が多く出土したが、中世の珠洲の甕・播鉢が、溝の西側のSD 5(75-1～3)、東側～中央部のSD18(77-9・10)から出土した。77-10以外は甕の体部片である。これらは、体部破片が多く、時期の判断が難しい。しかし、77-10の播鉢がやや密な節目などから珠洲編年Ⅳ期の14世紀代が推測される。おそらく他の破片についても概ね同様の時期であろう。

また、近世の肥前陶器の碗(77-7)があり、見込みに砂目が認められ、九州陶磁編年Ⅱ期に相当することから、17世紀前半である。他に産地不明の小形の瓶状のもの(77-8)がある。1区調査区でも外面上給付けした人形の可能性がある肥前磁器(118-19)が出土し、上給付けなどから概ね同編年Ⅲ期の17世紀後半が推測される。

SD18(第1次調査ではSD50)は、北接するSD 4(第1次調査ではSD51・92)が近世の「磁器」が出土するのに対し、中近世の「陶器」が主体的に出土することが報告され、SD 4よりやや古相の溝跡として報告されている(名和1987)。

今回の調査では、第1次調査で中近世の「陶器」が主体とされたSD18(第1次調査ではSD50)から、近世磁器が出土した新発見が得られた。ただし、近世磁器はごく少数で時期も九州陶磁編年Ⅱ～Ⅲ期の17世紀代に留まる。

SD 4 (第1次SD51・92) 溝跡 (第72図)

SD 4は、前述した通り1区中央部の東西大溝で、第1次調査のSD51・92とされた溝跡である。第1次調査の報告では近世磁器が主体の溝跡として報告されたが、中世の遺物が出土した。

具体的に、珠洲の甕(72-6)・播鉢(72-7)、青磁の碗(72-3)、瀬戸美濃の折縁皿(72-4)が出土した。

珠洲甕の 72-6 は口縁部内面に線刻があり、形態などから珠洲編年Ⅱ～Ⅲ期の 13 世紀代と考えられる。同播鉢の 72-7 は粗い卸目で、72-6 と同様の時期である。

一方、青磁碗の 72-3 は、外面が鋳造弁文（B 類。小野 1982）で、概ね 15 世紀前半の所産と考えられ、瀬戸美濃折縁皿の 72-4 は、口縁部の強い屈曲などから大塚編年第 4 段階が推定され、概ね 15 世紀末～16 世紀初頭で、珠洲の一群とはやや時期差がある。

この他近世では、肥前陶器の碗（72-5）、肥前磁器の皿（72-1）・碗（72-2）がある。72-5 は見込みに砂目痕跡の可能性があり、肥前陶器編年Ⅱ期の 17 世紀前半と考えられる。肥前磁器の 72-1 も内面植物文が施され、小さい高台から古相であろう。72-5 と同様のⅡ期と推測される。

一方、72-2 は器厚が厚手の所謂くらわんかタイプで、最新相の同編年のⅤ期で、18 世紀末～19 世紀前半であろう。SD 4 は中近世の遺物に時期幅があり、断続的な遺物の混入と溝跡の機能があったと考えられる。

遺構外の中近世遺物

遺構外の中近世は、グリッド出土や調査区出土の遺物を取り上げる。また、当初遺構で登録したが、現代の遺物が出土し、攪乱遺構と判断されたものも含める。

これらは、数量が少なく、破片資料が多いことから、時期など詳細は不明な点が多いが、攪乱遺構でも周辺に中近世の遺構があった可能性もあり、大きく中世と近世に分け、種別毎に古い順に出土区に関連させて概述する。

中世の遺物 中世の遺物は、青磁・白磁・青花の輸入陶磁器、珠洲・須恵器系陶器・越前（瓦系陶器）・瀬戸美濃など陶器類が出土した。これらは、1 区で攪乱の東西方向の溝跡（SD19）、2 区の東西方向の溝跡（SD17）と南北方向の溝跡（SD18）などから僅かに出土する。また、1 区・2 区の包含層からも一定量出土する。両区とも概ね同じ陶磁器構成だが、越前は 1 区、青花は 2 区などに限定的で、時期も一部異なるところもある。

青磁（第 111・119 図） 1 区で碗（111-17・19）、皿（111-5）、2 区では碗（119-16・17）、皿（119-13）などがある。1 区の 111-5 は桃花皿、111-17 は桜だが、両者とも外面鋳造弁文（Ⅱ類）があり、13 世紀後半が推測される。一方、2 区の 119-17 は外面に刻花雷文（C 類）を描き、14～15 世紀代と推測される。119-13 は桃花

皿で、内面に帯描文を描き、青磁編年で 15 世紀後半頃と考えられる。119-16 は小片だが口縁形態から 15 世紀代であろう。青磁は、全体に 1 区と 2 区でやや時期差があり、1 区に古相のものが多く。

白磁（第 76・119 図） 1 区の攪乱である SD17 の皿（76-14）、2 区の皿（119-12）が出土した。小片だが形態から 119-12 は白磁編年の D 類、76-14 は同 E 類で、前者が 15 世紀後半、後者が 16 世紀代と考えられる。

青花（第 119 図） 2 区の碗（119-3）、皿（119-1）が出土した。119-3 は外面に重弧状の唐草文が施され、中国染付編年の B 群であり、15 世紀前半頃に該当するであろう。119-1 は内面植物文が施され、形態から同 E 群であり、16 世紀後半と推測される。両者とも景徳鎮産と考えられる。

珠洲（第 76・82・95・103・111・119 図） 甕や播鉢が 1・2 区共に出土し、1 区の SD17 の甕（76-19）、SD19 の播鉢（82-2）、2 区の SD118 の甕（95-1）、SD143 の甕（103-10）などが攪乱から出土した。1 区では、甕（111-27）、播鉢（111-24・25）、2 区では、甕（119-28・30）、播鉢（119-24）が包含層から出土した。これらは、小片で時期の判断が難しいが、形態や卸目の粗密などから、111-24 が珠洲編年Ⅳ期、111-25 と口縁部に波状文がある 119-24、卸目密な 82-2 が同Ⅴ期である。珠洲は、全体的に新相でⅣ期の 14 世紀代・Ⅴ期の 15 世紀代の時期幅が考えられた。

須恵器系陶器（第 111・119 図） 須恵器系陶器は、珠洲に類似した焼成や技術のもので、胎土や形態などから分類した。1 区の甕（111-26）、2 区の甕（119-29、123-15）が出土し、小片で時期不詳だが、珠洲と同様の時期が推測される。

越前（第 111 図） 所謂瓦器系陶器の色調が赤褐色のもので、可能性のあるものも含め 1 区の播鉢（111-22・23）・甕（111-28）などが出土した。播鉢は卸目が密なものが主で、概ね 16 世紀代と推測される。

瀬戸美濃（第 76・94・111・119 図） 1 区で古相の所謂古瀬戸の内外面軸刺離した瓶（111-20）が出土し、概ね 14～15 世紀代と推測される。それ以外の大半は、後出の大塚期と考えられ、概ね 16 世紀代と推測された。

攪乱からは、SD17 とした所から皿（76-15・16）・丸碗（76-18）、SD17 とした所から皿類（94-15）が出土した。

76-18は小振りな底径などから大窩編年の第1段階が推測され、15世紀末～16世紀初頭が考えられる。

1区では、包含層から天目茶碗(111-18)、皿類(111-4・10～13)、折縁皿(111-7・8)が出土した。111-18は胎土などから越中瀬戸の可能性があり、同第3段階に相当する16世紀後半が推測される。111-7・8の折縁皿の口縁形態や、111-4の内面ソギのある皿高台などは、同第4段階の16世紀末～17世紀初頭であろう。

2区では、天目茶碗(119-18・19)、皿類(119-15)などが出土した。119-15は見込みにトチン痕跡があり、同第3段階の15世紀後半の可能性もある。

近世の遺物 近世の遺物は、染付の所謂肥前磁器、肥前陶器などがあり、一部産地不明の陶器類も含まれる。これらは、1区では中近世のSD18などと同一東西方向の攪乱の溝跡(SD19)、2区の攪乱としたSK101・111、SD105・116・117・118・144などから若干出土した。包含層では、両区とも一定量出土した。九州陶磁編年の最古相の1期は1区に、次期Ⅱ期は2区に多いなどやや偏りも窺える。

肥前陶器(第76・82・91・92・94・103・111・119図)

肥前陶器は、碗・皿類を主に、鉢・瓶など多様な器種で、中世末から継続する古相のものが両区で一定量あることが注目される。但し、小片が多いため、形態などから時期が推測されるものを主に、九州陶磁編年の古い順に概述する。

最古相の1期は、1区では、攪乱としたSD17の天目茶碗の可能性のある碗(76-17)、SD19の皿(82-1)、包含層の皿類(111-6・9)がある。2区では、攪乱としたSD105の皿(92-9)、壺(92-7)、SD116の瓶(94-7)、SD144の皿(103-12)がある。2区の包含層では、皿類(119-4～9・14)を主に、内面卸目のある鉢(119-25)、片口皿(119-8)、鉢(119-27)などがある。

Ⅰ期は、皿の見込みに胎土目がある最古相の時期である。当該時期の遺物は、1区より2区に多い傾向があり、これは両区で検出された中近世の遺物数でも同じ傾向が窺える。概ね、16世紀末頃の年代が推測される。

Ⅱ期は、1区で包含層出土の肥前陶器の搦鉢(111-21)、肥前磁器の皿(111-2)・碗(111-14)・瓶(111-16)、産地不明だが底径が小さく111-14と同形態のもの(111-15)がある。2区では攪乱としたSD105の見込みに砂

目のある肥前陶器の皿(92-8)、包含層から肥前磁器の底径の小さい皿(119-2)、肥前陶器の皿(119-10・11)があり、外面に印花文のある瓶(119-22)も佐賀県武雄市豊屋4号窯例から当該期であろう。

Ⅲ期は、皿の見込みに砂目に残る時期である。当該時期の遺物は、包含層で1区において遺物がやや多く認められ、中近世遺構(SD4・5・18)でも当該期の遺物が散見される。2区では、当該期の遺物がやや減少していることから、当該期主体が2区から1区へ移動した可能性はないか。17世紀前半である。

Ⅳ期では、1区では包含層から肥前陶器の皿(111-3)、2区では攪乱としたSK101から肥前磁器の厚手の外面唐草文の皿(91-15)、包含層の肥前陶器のタタキ成形で内面格子状のアテ痕がある瓶(119-20・23)がある。Ⅲ期は、両区とも形態の分かる遺物が少なくなる傾向がある。時期は17世紀後半である。

Ⅴ期は、1区で遺物が不明瞭で、2区で肥前陶器の見込み蛇の目軸割し、重ね焼痕が残る碗(94-2)などが散見される。17世紀末～18世紀後半であろう。

Ⅵ期では、1区で攪乱としたSD17の肥前陶器の卸目がやや密な搦鉢(76-20)、2区で攪乱SK111の肥前磁器の内面蛇の目軸割しで植物文の文様が描かれる波佐見産の皿(94-3)などが散見されるほどである。Ⅶ期もⅣ期と同じく遺物が少なく、時期は幕末期の18世紀末～19世紀前半と考えられる。

3 木製品

木製品では、井戸跡や土坑、溝跡、落込み状遺構などから斎串などの祭祀具、箸・曲物・櫛などの生活具、板材・柱材・加工木など建築部材と考えられるものが出土した。主なものを遺構毎に概述する。

SX3(第127図) 棒状木製品(127-1)や箸(127-3・6・9)、板材の先端に炭化した付け木の破片などが若干出土した。樹種は杉材が多い。

SD4(第127・128図) 大形の長さ25cm以上の礎板(127-13)や杭(127-11・12)、樽側板(128-1)があり、他に曲物底板(128-4)や円板状木製品(128-7)、箸(128-3・5)が出土した。杉材が多く、他にニレ属がある。

SD5(第128・129図) 18～20cmの箸(128-8・

13) や中央部に両側縁に対向して切込みがある木筒状の木製品 (128-11)、径 8 cm 程の曲物底板 (128-12)、円孔が穿たれた加工木 (129-1) が出土した。杉材が多く、他にアスナロ属、モミ属が認められる。

SP10 (第 129 図) 長さ 24 cm の礎板 (129-3) が出土し、幅や厚さは腐朽著しく不明である。杉材である。

SD18 (第 129・130 図) 長さ 28 cm 以上の先端を加工した棒状木製品 (129-5) や櫛 (129-4)、薄手で平面長方形の木筒状の木製品 (129-7)、長さ約 6 cm で平面正方形の板の両角に木釘を 2ヶ所打込む板状製品 (129-11)、長さ約 24 cm 以上の大形の板状木製品 (130-4) が出土した。他に、外面赤色漆・内面黒色漆の漆器機片 (130-2)、用途不明の黒色赤色漆が塗布の加工木 (130-3) が出土した。樹種は杉材が多いが、棒状製品はアスナロ属、櫛はサクラ属、漆付着品はカエデ属、アスナロ属である。

SX52 (第 130 図) 長さ 10 cm 以上の黒色漆の曲物底板 (130-12) や箸 (130-10) が出土し、すべて杉材である。

SX54 (第 130・131 図) 斎串 2 点 (130-16、131-4) が出土した。130-16 は、長さ 13 cm 以上で幅 1.9 cm、厚さ 4 mm のもので、頭部が平坦で、両肩部に複数の斜めの切込みが入られた。131-4 は、長さ 5 cm 以上で幅 1.4 cm、厚さ 3 mm のもので、頭部が三角形だが、体部上半が欠損しており、切込みなどの形態は不明である。他に、長さ 12 ~ 15 cm 以上の先端が尖る棒状の木製品が複数 (130-13、131-1・3) あるが、用途は判然としない。また、長さ 5 cm 以上の付け木が一定量出土している。樹種は、概ね杉材で、他に松属がある。

SE123 (第 131・154 図) 県内では出土例が少ない平面形が平行四辺形の斎串と考えられる木製品が大小合わせて 247 点出土した。当初、先端が斜めの形状から櫛などの用途も考えられたが、一定の長さや規則性のある平行四辺形の形状、後述する製作方法のあり方、井戸枠外でのまとまった数量の出土状況、県内や他県での類似などを勘案し、本稿では先端が斜めの形状で、一定の長さを有するものを斎串として扱う。

これは、長さ形状から幾つかの分類が可能であった。最初に、斎串の長さのまとまりから大別分類が可能と考えられた。

I 類：長さ約 21 cm (約 7 寸) 以上のもの。

II 類：長さ約 18 cm (約 6 寸) 前後のもの。

III 類：長さ約 15 cm (約 5 寸) 前後のもの。

IV 類：長さ約 12 cm (約 4 寸) 前後のもの。

V 類：長さ約 9 cm (約 3 寸) 前後のもの。

VI 類：長さ約 6 cm (約 2 寸) 前後のもの。

VII 類：長さ約 3 cm (約 1 寸) 前後のもの。

VIII 類：先端など欠損し長さが不明なもの。

次に、細長い板状の両端の平面形態から細分類された。
a 類：両端を斜位に対向して切り平面形が平行四辺形を呈するもの。

b 類：両端の片方は概ね長軸に直交して平坦面を作り、もう片方のみ斜位に切るもの。

c 類：両端を同じ側から切り平面形が台形状のもの。

d 類：先端は斜め加工されるが、もう片方は欠損し、形状不明なもの。なお、長さの下限は知ることができる。

他に、a ~ c 類の断面形態は、斜位にケズリ加工される面を幅とした場合、幅より厚さが薄いもの (断面が板状) が多く、幅と厚さが同等のもの (断面が角状) が一定量ある。一部明らかに幅より厚さがあるもの (断面が長方形状) も散見され、更に細分できる可能性がある。

これら分類を整理したものが、表 3 である。欠損品 (35 点) を除いたものでは V 類 (約 9 cm) が最も多く 45 点ある。ついで、その前後の IV 類 (40 点)・VI 類 (34 点) も約 30 点前後の数量があるが、大形の I (3 点)・II 類 (13 点) はやや少ない。最も小形の VII 類は 17 点となる。但し VIII 類は、VI 類以上の長さ調整のために先端を切った際の破片の可能性もある。

また、形状では、I ~ VII 類の中で a 類が最も多い。一方で、b 類も一定の割合で存在し、c 類が僅かに組成の一角を占めるようである。最も数量の多い V 類 (45 点) では a 類が 73.3% (33 点)、b 類が 24.4% (11 点)、c 類 2.2% (1 点) となる。この比率は、長さの各分類でも多少の差異はあるが概ね同等となる。

これらの中的主要な a 類は、西日本で散見され、兵庫県砂入遺跡 (兵庫県 1997) などで確認されている。県内では従来確認されていなかったが (山内 2008)、近年村山市柳田遺跡で類似品が出土している (斎藤 2017)。

本遺跡において特に注目されるのは、この特徴的な斎串 42 個体の接合資料が認められることである (表 44・写真図版 150 ~ 151)。

接合資料には、a類齋串の2～3点が幅広の平坦面で接合し、平行四辺形の板状になり、接合した際の長さが20cm以上の大形のもの（接合資料1・9・16）、同じく長さが15～20cmの中形（接合資料2・4・7・8・14・15・18・22・23・28）、15cm以下の小形（接合資料6・25・29・33・34・39・40）があり、特に中形が多い。

これらは、ほぼ同じ長さの齋串が接合したことから、素材の平行四辺形の板材を薄く割り、齋串を作製したものと考えられた（接合Aタイプ：写真図版150（2）～151（4））。Aタイプは、平面平行四辺形を基調にし、a類などが接合し、板状の一端が斜位に、もう一端も側面を斜位に削られるものである。なお、製作段階で斜位面が対向しないもの（接合資料13）や、接合するa類の一部が未製品的にケズリ途中のもの（接合資料17）も含まれた。

一方、このような接合はb類でも認められ、幅広の平坦面や、幅と同じ厚さの平坦面で接合し、先端が斜位に切れ、もう一端が垂直に並ぶものである。接合した平面形は、上端は斜位で、下端が長方形になる台形状の板材になる（接合Bタイプ。写真図版150（1））。Bタイプは、平面台形状で、I類が全て接合し大形になる（接合資料12）。他も2～3点が接合するものは、長さが異なるII類とIII類、II・III・IV類が連続して接合する中形のもの（接合資料10・19・21・27・31）、長さが異なるV・VII類、V・VI類、VI・VII類が接合する小形のもの（接合資料1・5・30）がある。これは、素材の板材の上端のみ斜位に加工し、それを薄く分割し、齋串を作製したことが推測される。

他方、全体形状は平行四辺形基調で、一端は斜位に加工するが、反対側の先端は長さを異にし段状に斜位で加工するもの（接合5・7・24・20・26・32：写真図版150（2））がある。これは、板材の一端を斜位に加工し、その後薄く側面から割った後に、各々長さを違えて斜位に加工し、a類やb類の齋串を作出したものである（接合Cタイプ：写真図版151（4））。このCタイプは、製作の順番が接合資料から理解され、概ね製作当時に、この平行四辺形の形状と長さが特に意識され、加工されたことが窺える。

最後に、末端が欠損し、長さや形状が不明な接合資料（接合資料10・25・28・41）は、接合Dタイプとした。

なお、これら齋串類の樹種は杉材が大半だが、1点ア

スナロ属（134・2）がある。

他に、木製品では、板状や棒状製品が多い。しかし、大半が腐朽などで先端が欠損しており、規模は不明なものが多い。また、長さ60cm以上、幅10～15cm内外、厚さ1～1.5cmの大形で井戸枠材の縦板と考えられる板材（151-13～154-3）が一定量あり、多くが先端を腐朽・欠損する。小形の板材（133-1・14、134-1・6・9・13、135-9、136-2・9・10・11、137-5・8～10・12・15、143-9・15、144-10）は、長さ5～20cm以上、幅1～1.5cm内外、厚さ0.5～1.5cmが多い。

角材の棒状製品（149-10、150-5・8・14）は、長さ10cm以上、幅1～1.5cm内外のものが多い。

大形の丸材（143-1）は、長さ10cm以上、径4cm以上である。小形の丸材の棒状製品（135-13、141-11、143-11・16、151-10）は、長さ5cm以上、幅1～1.5cm内外のものが多い。

不定形な加工木（139-3、142-5、144-2）は、長さ5cm以上、幅1.5cm内外、厚さ0.5cmほどで、小形品が多く、用途不明である。付け木（136-3）は、先端が炭化し、長さ18cm、幅3cmの大形である。

全体に板材や丸材、加工木とも杉材が大半で、他にアスナロ属、エゴノキ属、柳属などがある。

SE126（第154図～159図） 井戸枠の可能性のある大形の長さ40～50cm以上、幅5～7cm、厚さ1cm程の板材（158-12・13）や中形の板片材、長さ25cm以上、幅2cm、厚さ1.5cm程の角材（156-16）も一定量出土した。但し、不朽が著しく、出土状況からも規則性はなく用途は判然としない。他に曲物の側板（156-22、157-2・5）、榎状の加工のある板片材（157-15）、平行四辺形の齋串の可能性のあるもの（157-18）などが出土した。また、多量の齋も出土したが、破損品が多く、全形を窺えるものは154-4・156-13・157-9・158-9などである。それらは、長さ17cm以上～26cm程で、幅・厚さ0.5cmである。樹種の多くは杉材で、他に漆属や柳属などがある。

SE162（第159図） 井戸枠などの可能性もある長さ16～18cm、幅1.1～4.7cm、厚さ0.2～1.0cm程の板材（159-3・7）や先端を尖らせた棒状木製品（159-4～6）などが若干出土した。板材は杉材、棒状木製品はモクレン属、他にケヤキ属がある。

EP167（第159図） 両端を斜位にケズリ側面が台

形状になる加工木（159-10）が出土した。杉材である。

SP211（第159図） 箸（159-11・13）、棒状木製品（159-12・14）が出土し、箸は杉、他はモクレン属。

SK213（第160図） 県内では数少ない齋串（160-1・2）が出土した。両者とも長さ18cm、幅3.6～3.9cm、厚さ0.3cmほどである。頭部は山形を呈し、先端が細くなる塔壺形で、上半部上位に上から複数の斜めの細かい切込み、上半部下位に下から複数の斜めの細かい切込みが入る。更に、160-1は下半部上位に上から複数の斜めの細かい切込みが入り、160-2は下半部上位に上から複数の斜めの細かい切込み、下半部下位に下から複数の斜めの細かい切込みを入れた痕跡が確認される。

この上下から切込みを入れる齋串は、県内では類例が数少なく、土曾根遺跡周辺の酒田市後田遺跡、同新青渡遺跡、佐佐町大坪遺跡に限られる。樹種は杉材である。

SP219（第160図） 大形の長さ約25cm、幅約18cm、厚さ4.5cmの礎板（160-3）がある。杉材である。

SP224（第160・161図） 大形の長さ約20cm、幅約14cm、厚さ7.5cmの礎板（160-4）や径20cmの柱根（160-5）、小形板材（161-1）がある。樹種は杉材。

SP231（第161図） 大形の長さ約19cm、幅約18cm、厚さ6cmの平面正方形の礎板（161-2）で杉材である。

SP235（第161図） 大形の長さ約9.4cm、径約16cm以上の柱根（161-3）がある。樹種は杉材である。

SP237（第161図） 大形の径22.6cm、厚さ0.6mmの曲物底板（161-4）がある。樹種は杉材である。

SP244（第161図） 長さ19cm以上の角材の棒状木製品（161-6）や長さ11.8cm以上の付け木（161-5）などがある。樹種は棒状木製品は杉材、付け木は松属である。

グリッド（第161図） 3815グリッドで先端が凸状になる板状木製品（161-9）がある。杉材である。

4 鉄製品

鉄製品では、溝跡や土坑などから、銅製の古銭やキセルが僅かに出土した。

古銭（第126図） 古銭が1区のSD18溝跡（126-10）やSG6川跡（126-9）、2区のSK127（126-11）から出土した。全て径7cmの寛永通宝だが、126-9・11は裏面に「丈」がある。

キセル（第126図） キセル（126-12）が3811グリッ

ド（攪乱）から出土し、長さ8.5cm、幅1.5cmの銅製で、概ね古銭と同じ近世の所産と考えられる。

5 石製品

石製品では、溝跡やピット、落込み状遺構、包含層などから、紡錘車、砥石、摺石、礎石などが出土した。摺石が大半で、次に砥石が多く、他は散発的である。

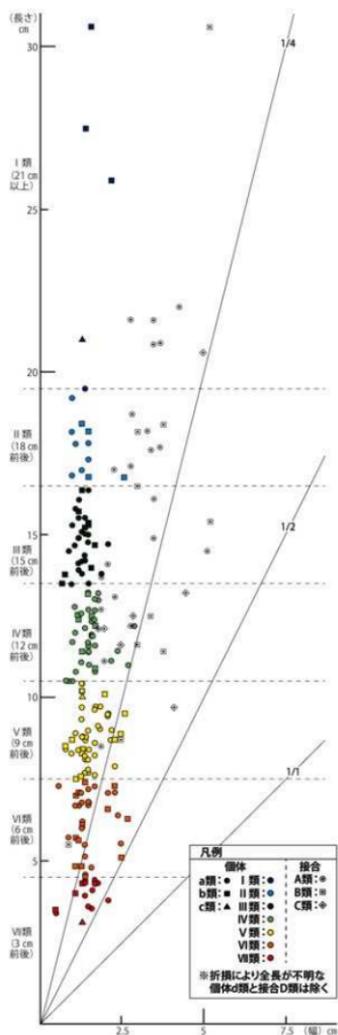
紡錘車（第126図） 紡錘車（126-7）は、2区北半から出土し、径5.6cm、幅1.9cmの円盤状で、中央に径0.5cmの孔が穿たれる。石材はシルト質泥岩製である。

砥石（第125・126図） 砥石は、6点が出土し、SD89やSP259など遺構からも出土するが、包含層出土のものが多い。板状や撥状を呈し、一部欠損するものもある。大きさは、長さ約10cm以上の大形品（125-1・6）と長さ約10cm以下の小形品（126-1～3・6）があり、小形品が多い。砥面は上面や全面を使用するものがあり、126-6は砥面平坦面に直交して穿孔があり、125-1は使用痕の可能性もある線刻が砥ぎ面にある。石材は泥質・シルト質凝灰岩製を主体としたものが多い。

摺石（第124～126図） 摺石は、11点が出土し、SD2・SD4など溝跡から多く出土した。不定形な川原石の一面などに摺面を持つものを摺石として抽出した。大きさは、長さ約10cm以上の大形品（126-4）と長さ約10cm未満の小形品（124-1・2・4・5、125-2～5、126-5）で、大半が7～9cm大のものである。上面のみと上面・側面、全面の平坦面に摩滅痕が認められ、多様である。安山岩かデイスイト製を主体とする。

板状石製品・礎石（第124・125図） 他に、124-7は、板状石製品としたもので、長さ約10cm、幅約8.7cm、厚さ約5.0cmの厚手の方形状を呈する。上面にノミ痕跡があり、煤が付着するもので、用途は判然としない。124-6は、礎石と考えられるもので、SK7から出土する。長さ約21cm、幅約16cm、厚さ約10cmの厚手の方形状を呈する。外面の一部に被熱を受け、煤が付着する。デイスイト製。

石鏝（第126図） 126-8は有茎の石鏝で、SX155から出土。長さ約2.5cm、幅約1.6cm、厚さ約4.5mmだが、基部先端は欠損する。石材は頁岩である。有茎の形態から縄文時代後～晩期と考えられる。他に、頁岩製の刮片や礎がSD72・SD105、20-96グリッドなどから僅かに出土した。

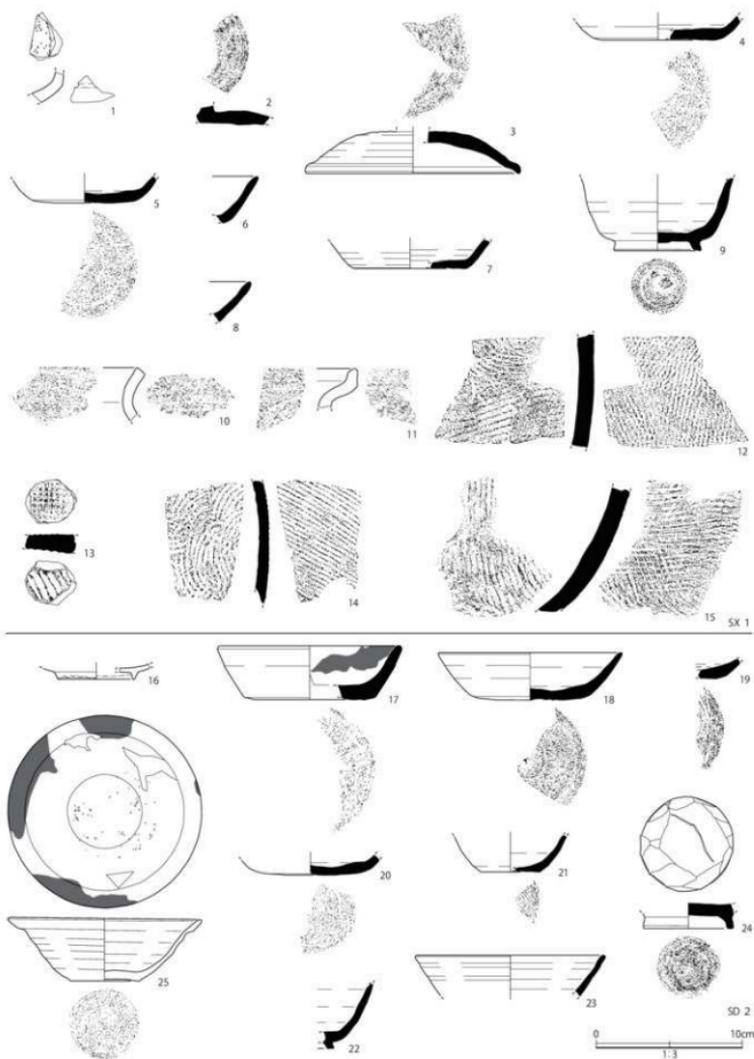


第 60 図 SE123 出土斎串の規模

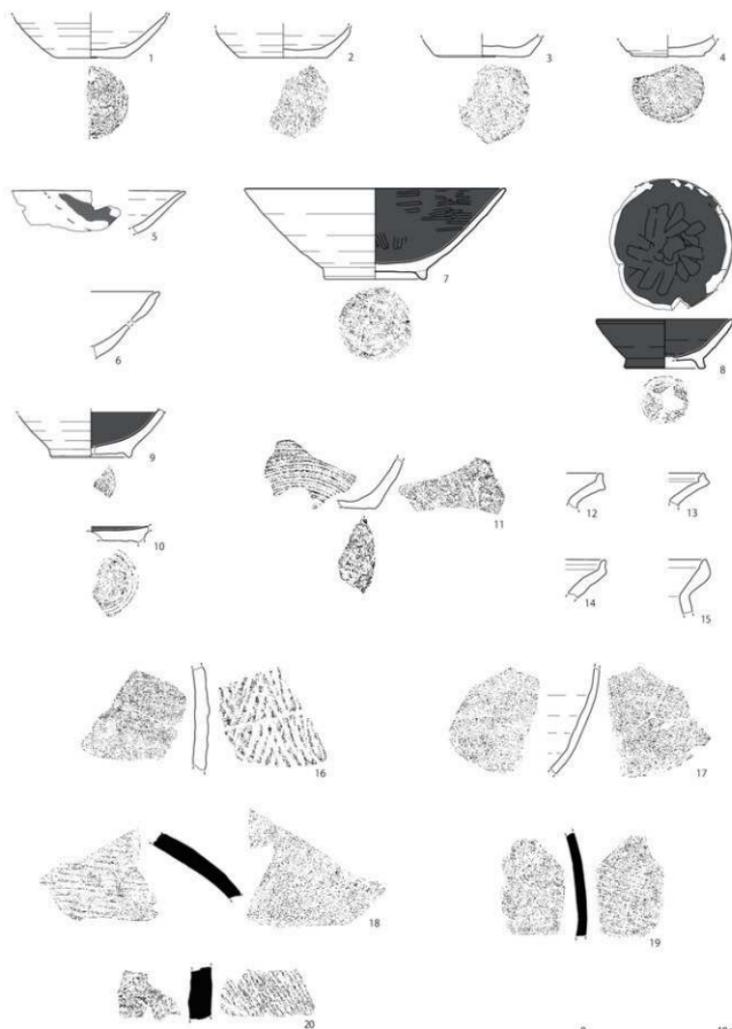
表 3 SE123 出土斎串の形態分類

長さ (cm)	完形品の形態 (点数)			折損 d 類	合計	
	a 類	b 類	c 類			
I 類 21 cm (約 7 寸) 以上	0	3	0	3	0	3
組成比 (%)	0.0	100.0	0.0	100.0		
(接合)	0	3	0	3	0	3
接合 (%)	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
II 類 18 cm (約 6 寸)	8	4	1	13	4	17
組成比 (%)	61.5	30.8	7.7	100.0		
(接合)	7	4	0	11	2	13
接合 %	53.8	30.8	0.0	84.6	15.4	100.0
III 類 15 cm (約 5 寸)	24	9	0	33	1	34
組成比 (%)	72.7	27.3	0.0	100.0		
(接合)	19	5	0	24	0	24
接合 %	79.2	20.8	0.0	100.0	0.0	100.0
IV 類 12 cm (約 4 寸)	32	8	0	40	10	50
組成比 (%)	80.0	20.0	0.0	100.0		
(接合)	18	8	0	26	7	33
接合 %	54.5	24.2	0.0	78.8	21.2	100.0
V 類 9 cm (約 3 寸)	33	11	1	45	11	56
組成比 (%)	73.3	24.4	2.2	100.0		
(接合)	17	10	0	27	5	32
接合 %	53.1	31.3	0.0	84.4	15.6	100.0
VI 類 6 cm (約 2 寸)	22	12	0	34	18	52
組成比 (%)	64.7	35.3	0.0	100.0		
(接合)	5	11	0	16	2	18
接合 %	27.8	61.1	0.0	88.9	11.1	100.0
VII 類 3 cm (約 1 寸)	12	3	1	16	19	35
組成比 (%)	75.0	18.8	6.3	100.0		
(接合)	0	0	0	0	0	0
接合 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総計	131	50	3	184	63	247
組成比 (%)	71.2	27.2	1.6	100.0		
(接合)	66	41	0	107	16	123
接合 %	53.7	33.3	0.0	87.0	13.0	100.0

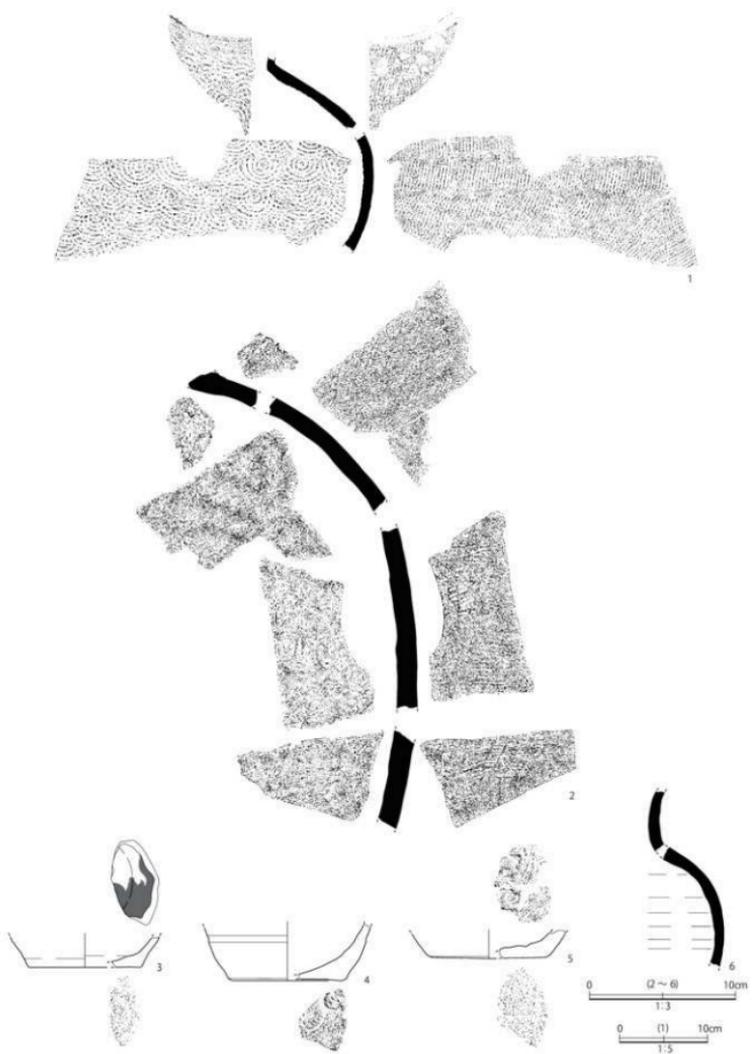
V 出土遺物



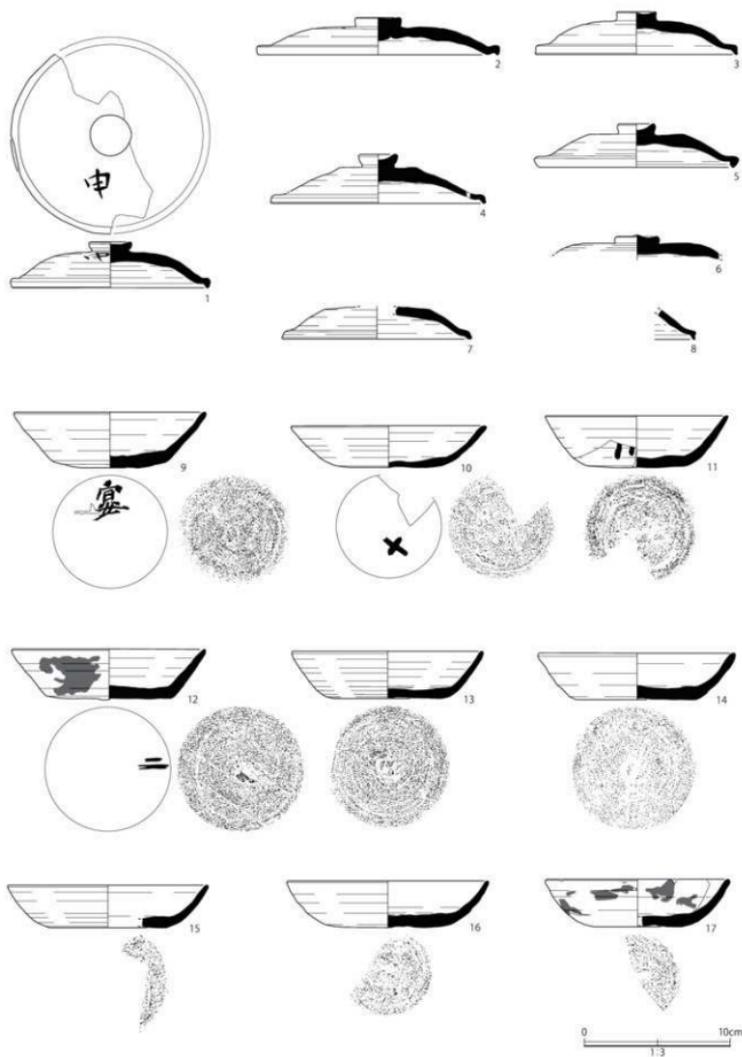
第 61 図 SX 1・SD 2 (1) 遺物



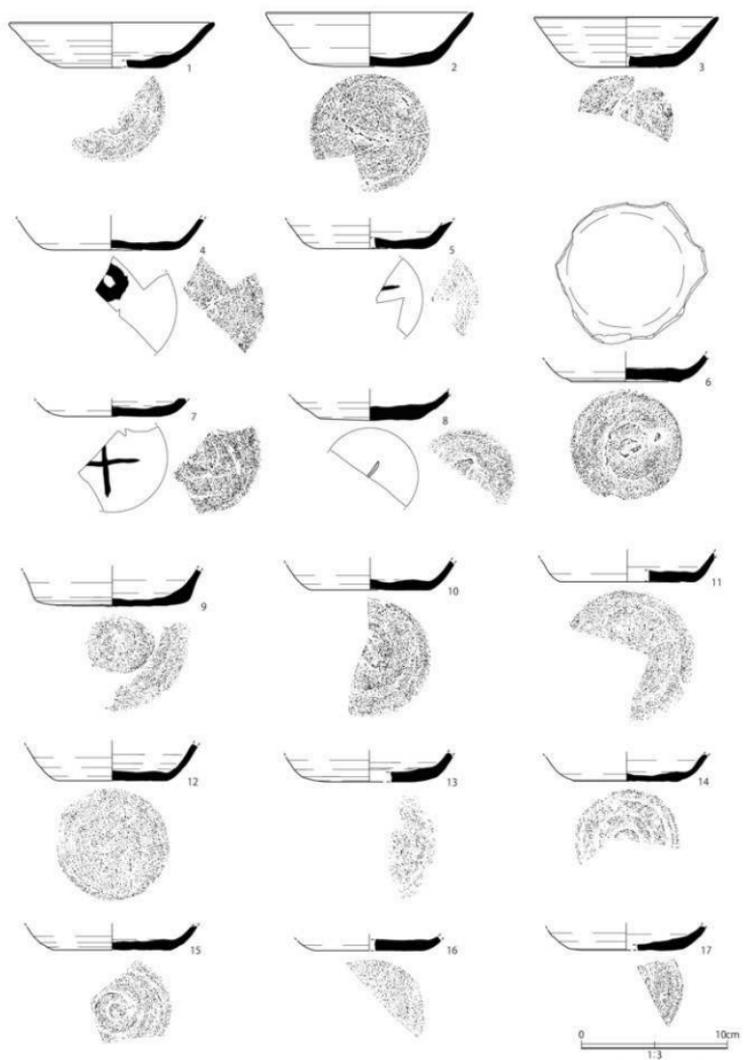
第62圖 SD 2 (2) 遺物



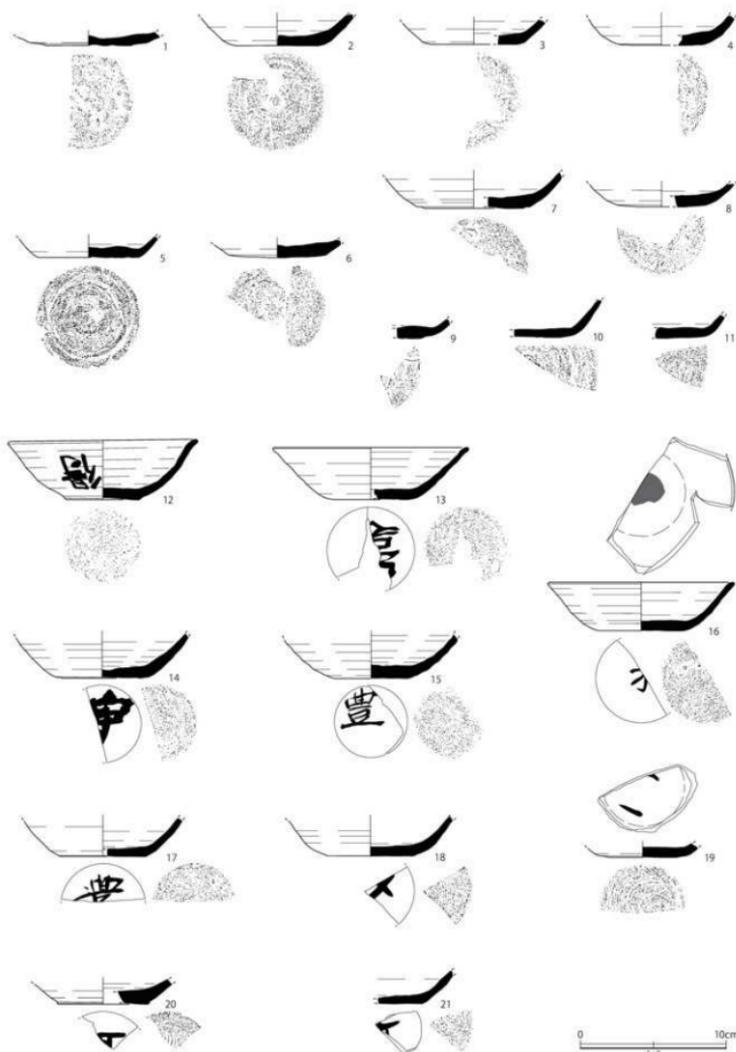
第 63 図 SD 2 (3) 遺物



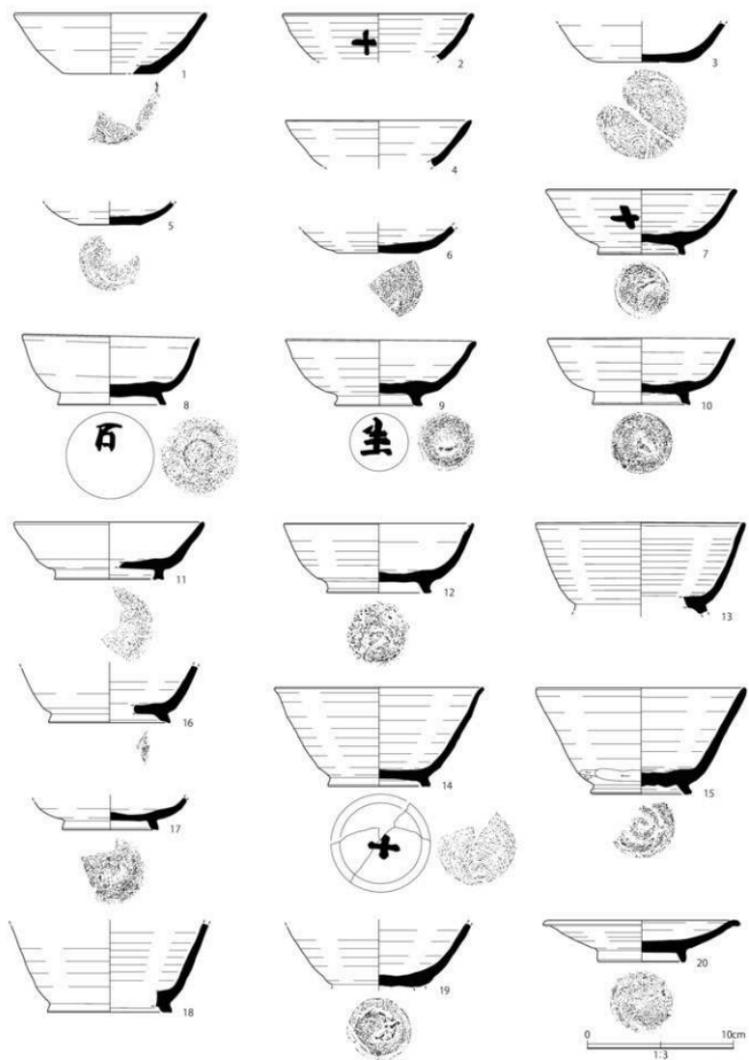
第64圖 SX 3 (1) 遺物



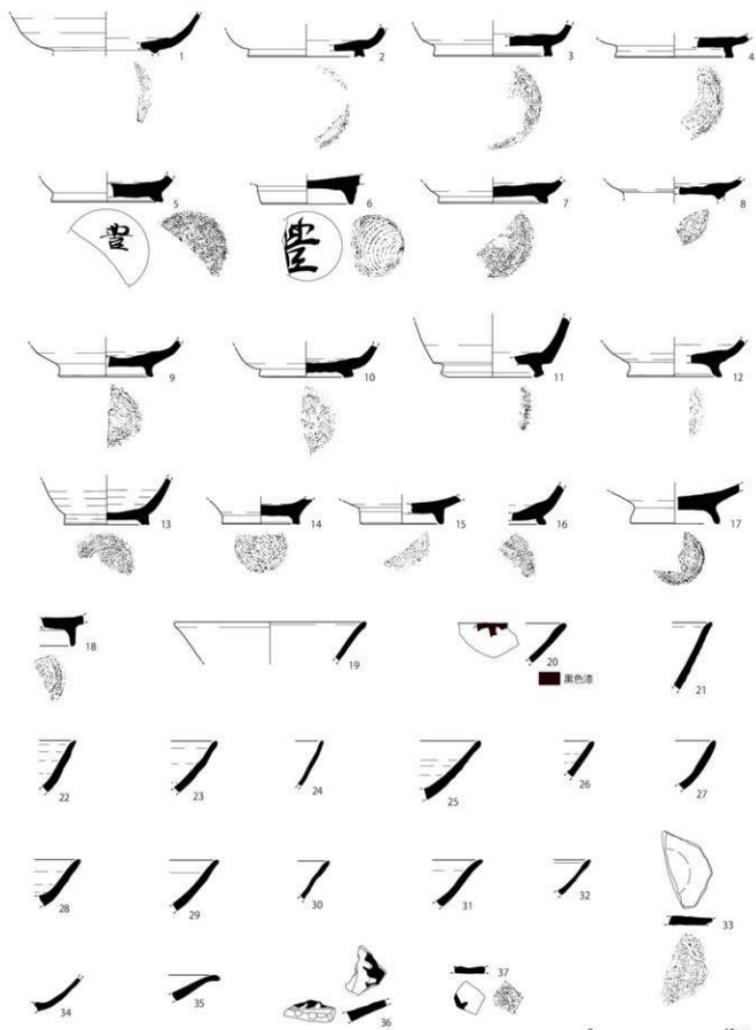
第 65 図 SX 3 (2) 遺物



第66圖 SX 3 (3) 遺物



第 67 図 SX 3 (4) 遺物

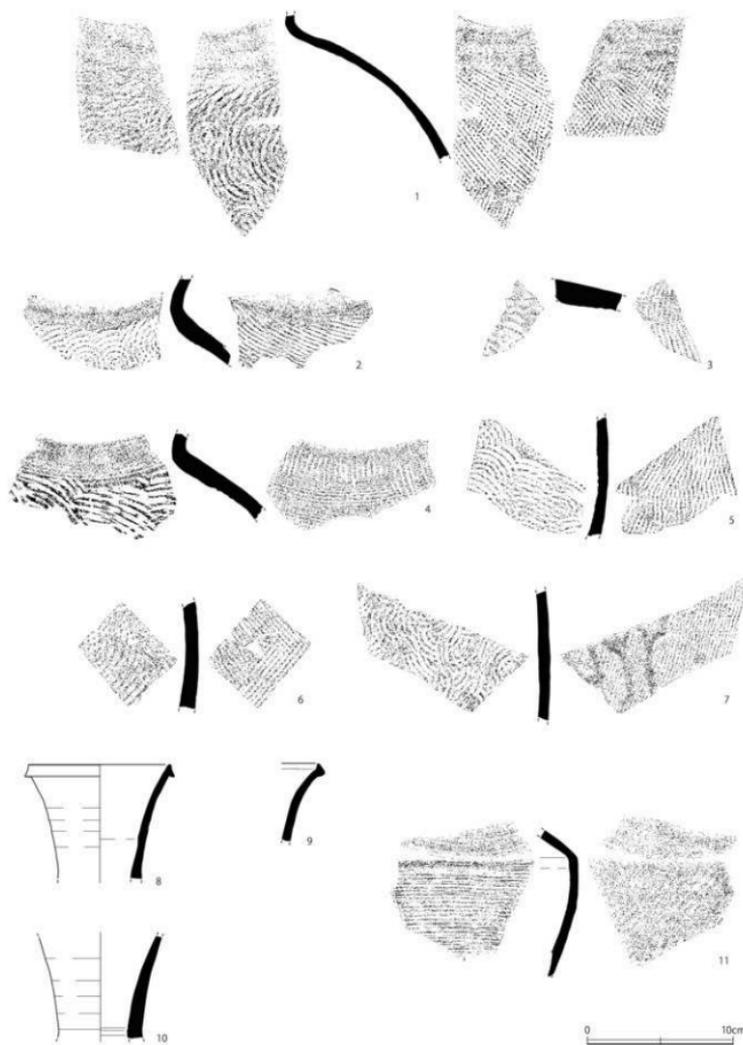


第68圖 SX 3 (5) 遺物

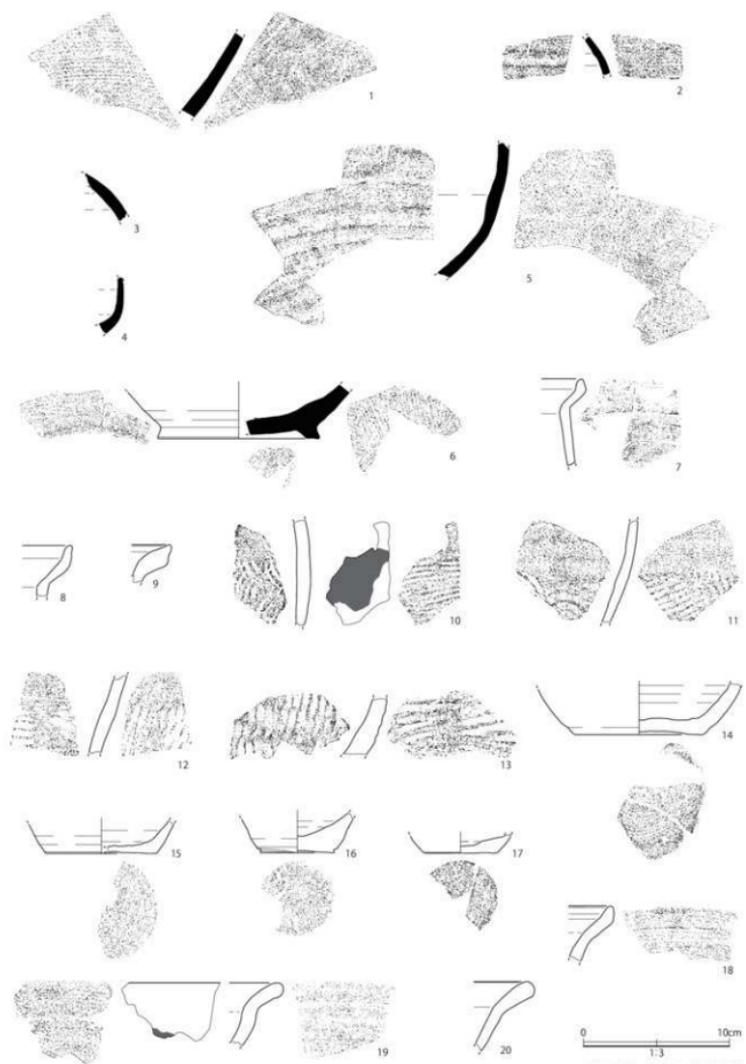
V 出土遺物



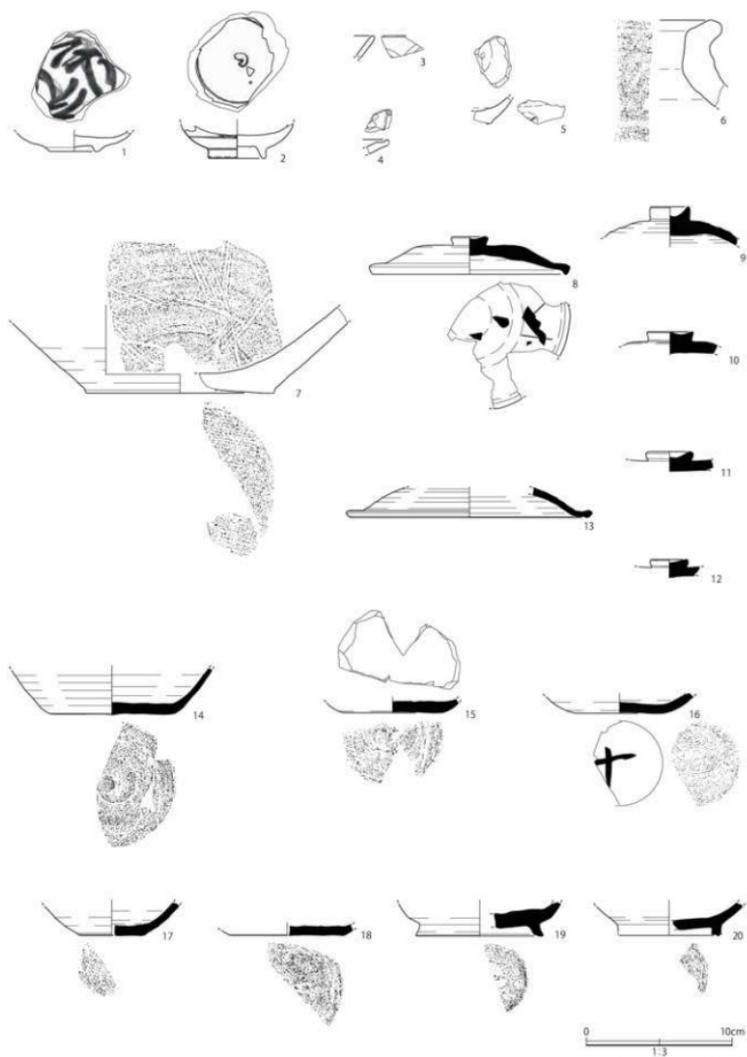
第69圖 SX 3 (6) 遺物



第70圖 SX 3 (7) 遺物



第71図 SX 3 (8) 遺物

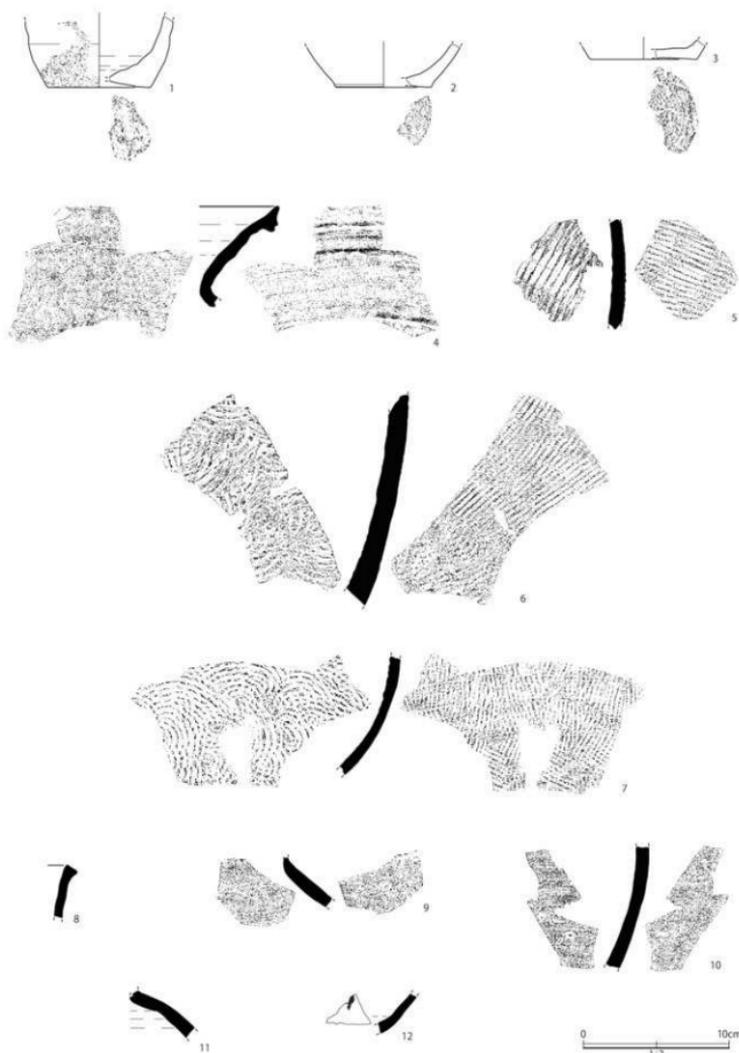


第72圖 SD 4 (1) 遺物

V 出土遺物

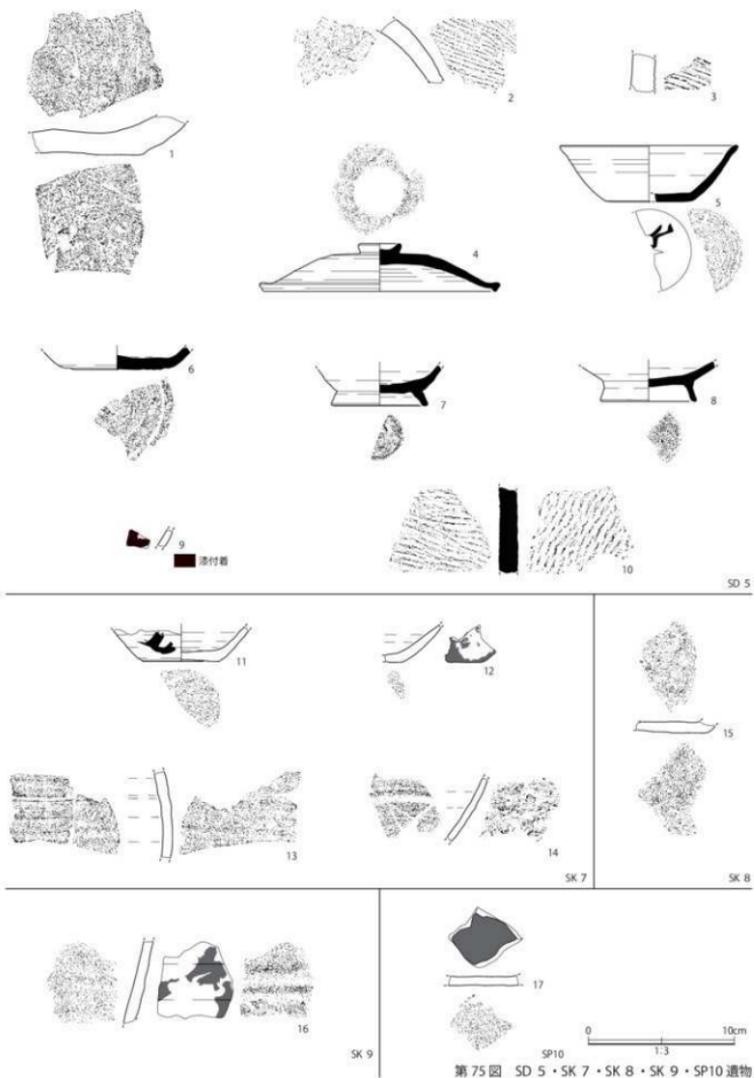


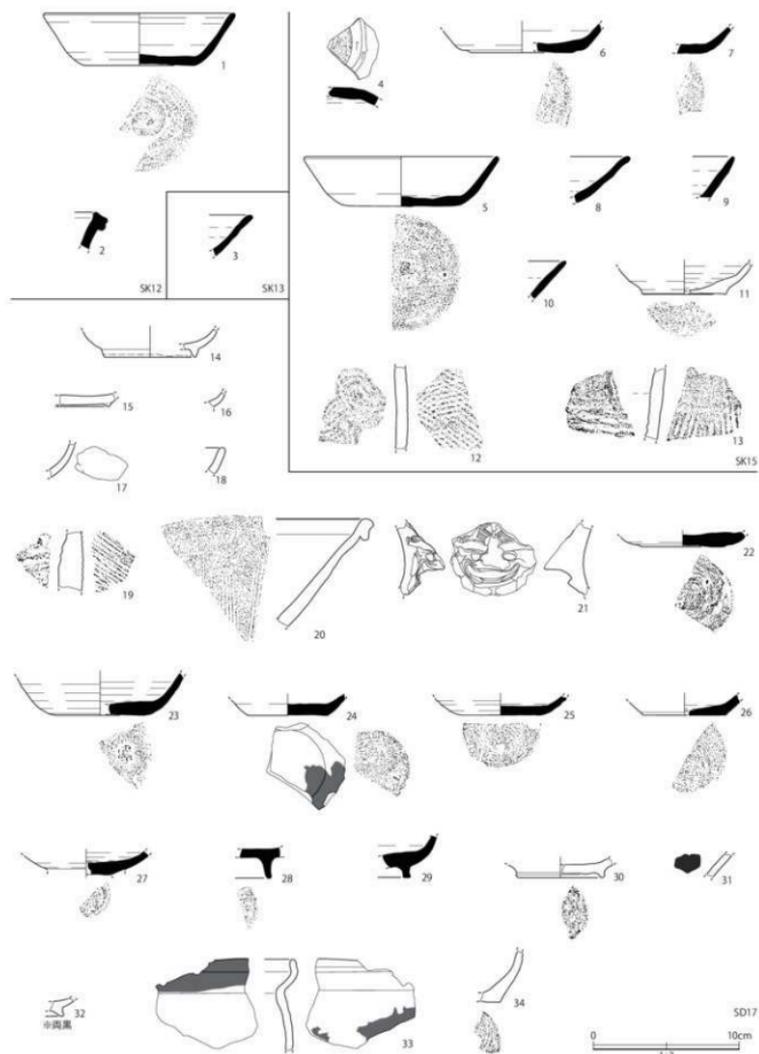
第73図 SD 4 (2) 遺物



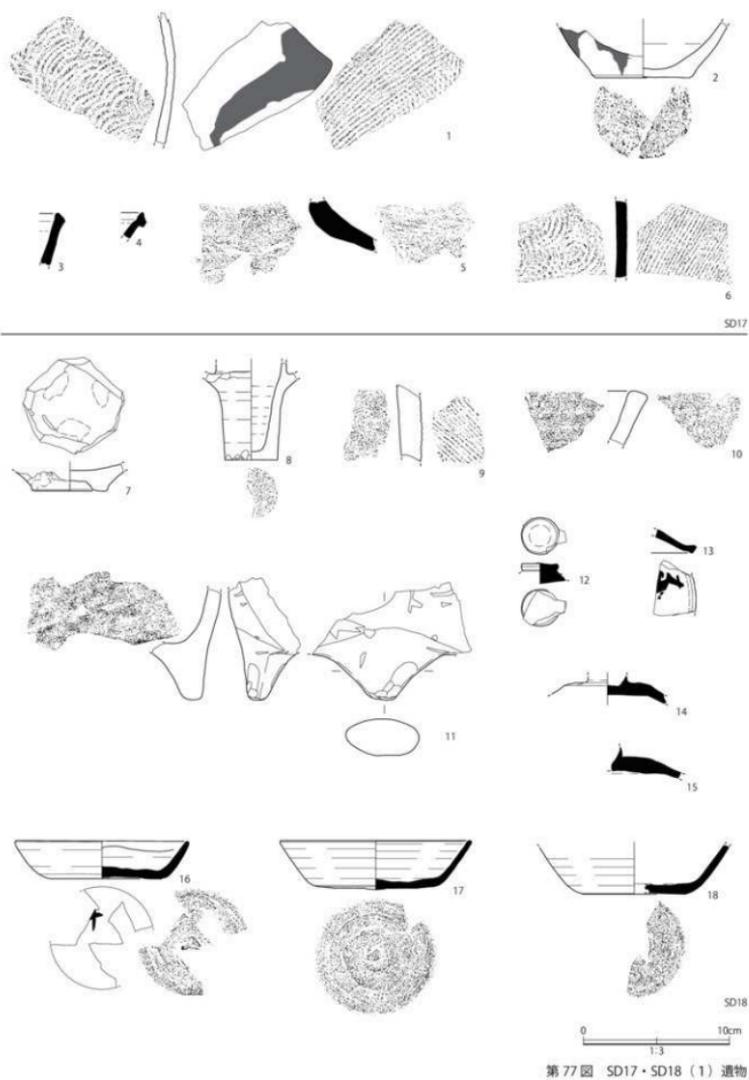
第74回 SD 4 (3) 遺物

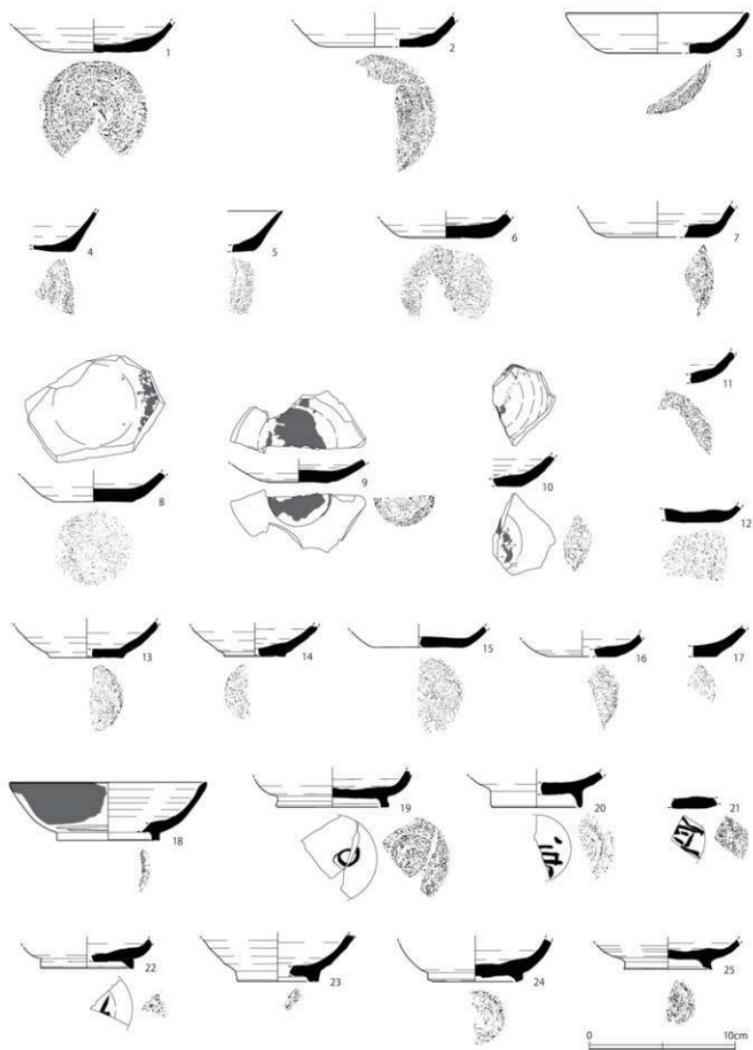
V 出土遺物





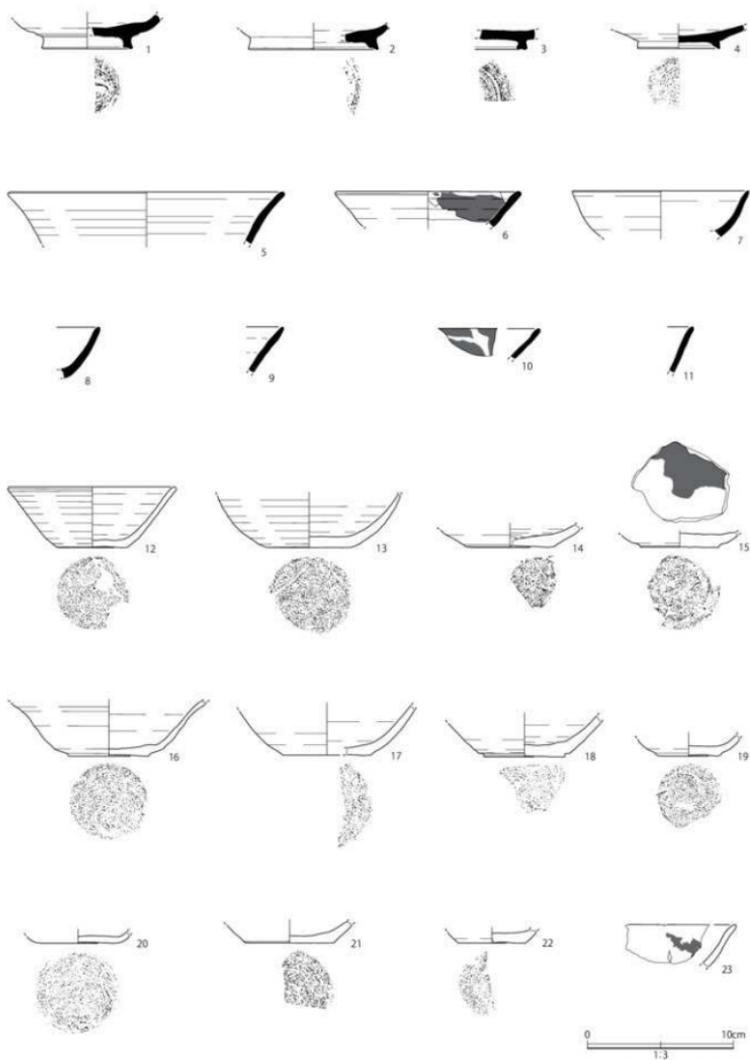
第76図 SK12・SK13・SK15・SD17



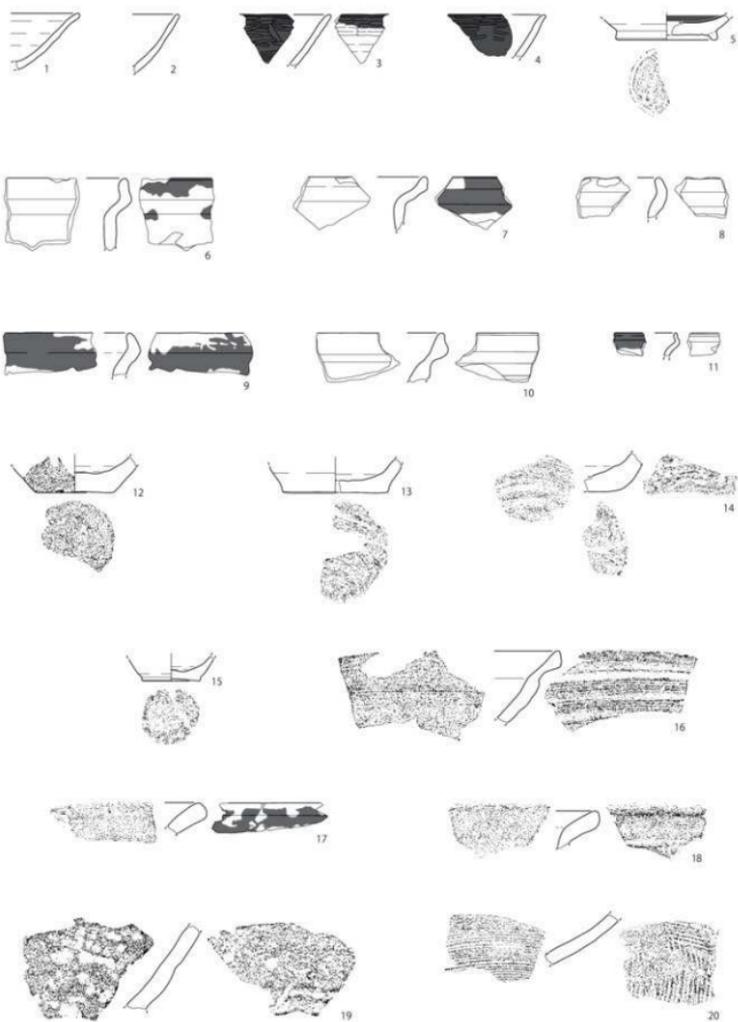


第78圖 SD18(2)遺物

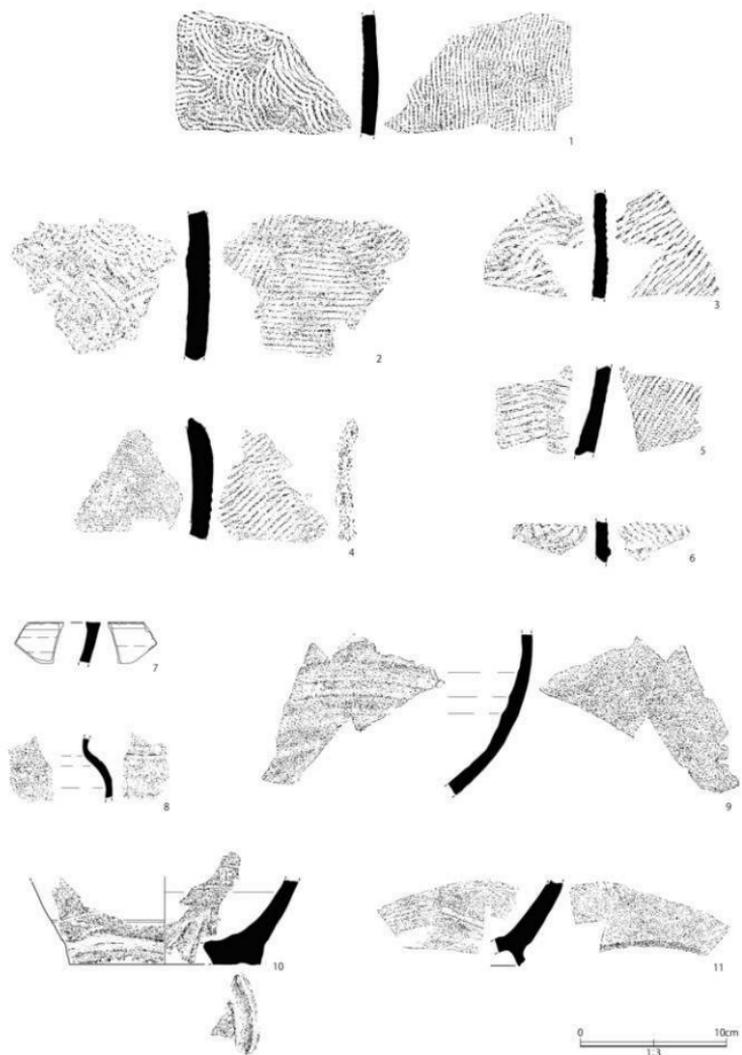
V 出土遺物



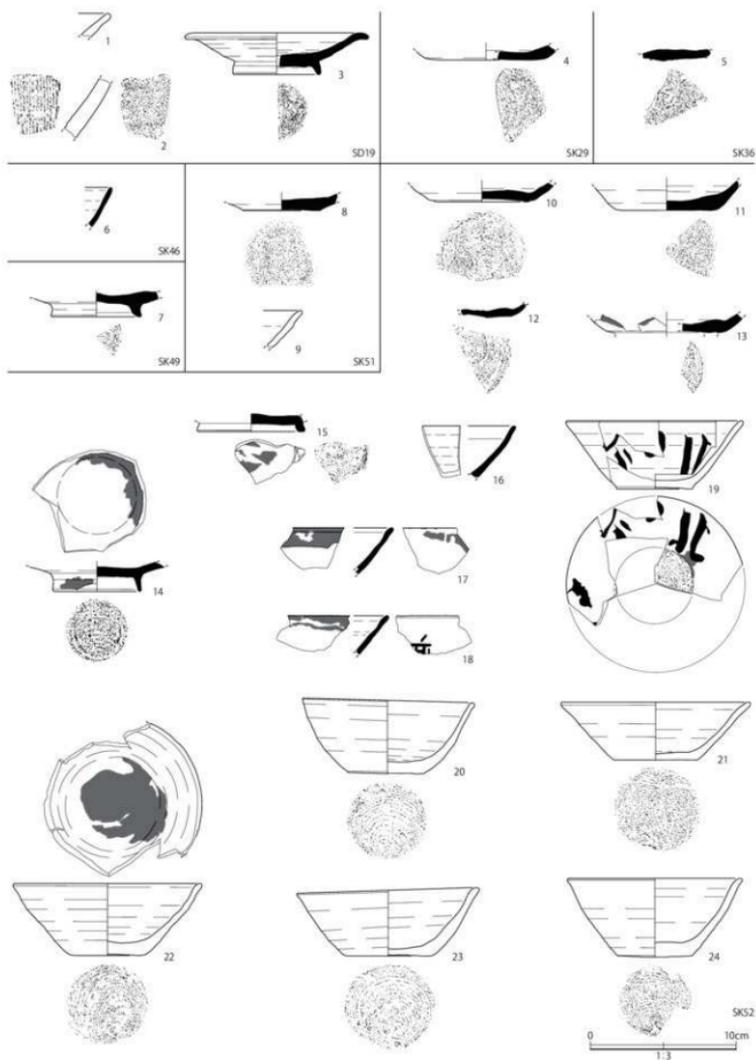
第79圖 SD18(3)遺物



第80圖 SD18 (4) 遺物

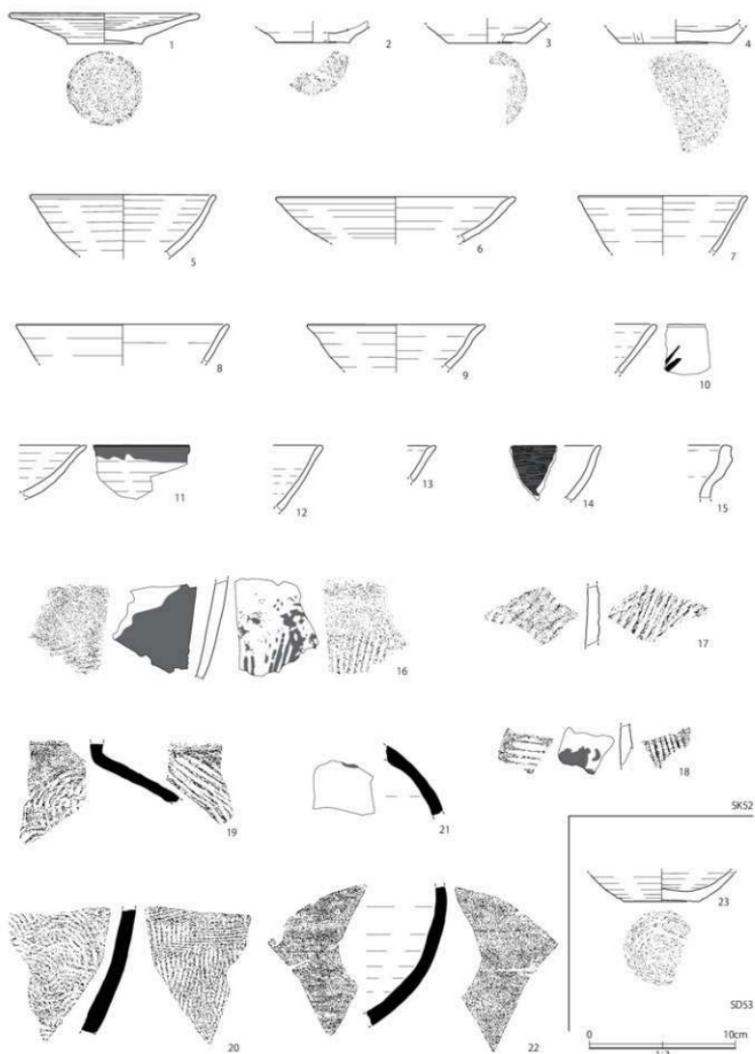


第81圖 SD18 (5) 遺物

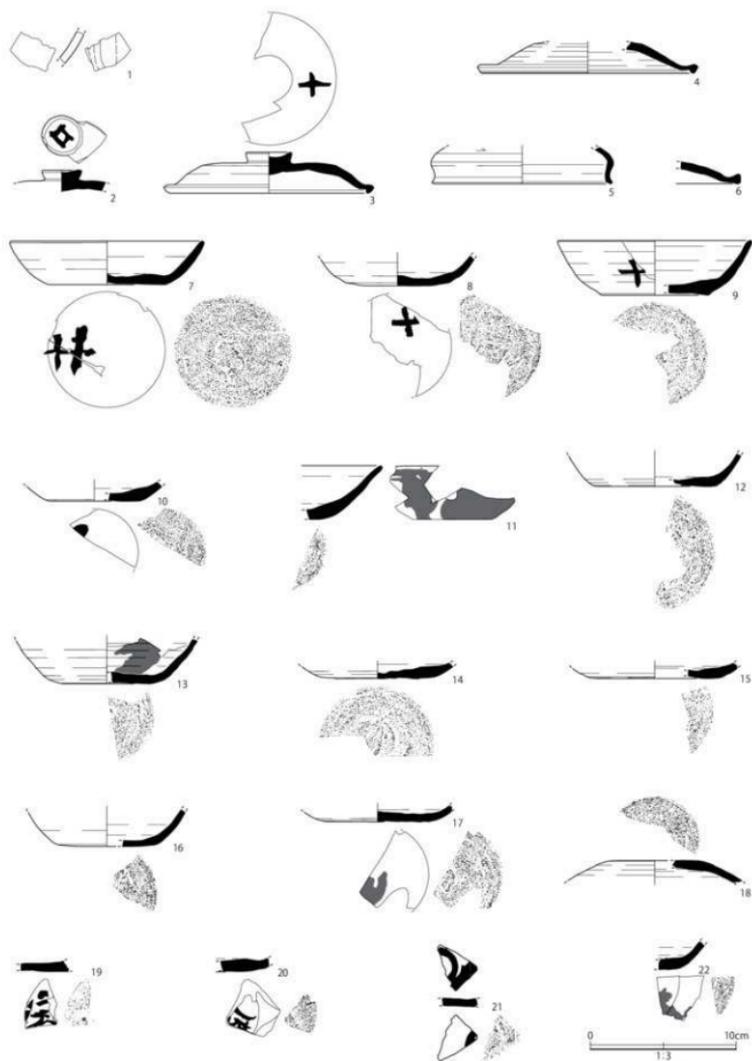


第 82 図 SD19・SK29・SK36・SK46・SK49・SK51・SK52 (1) 遺物

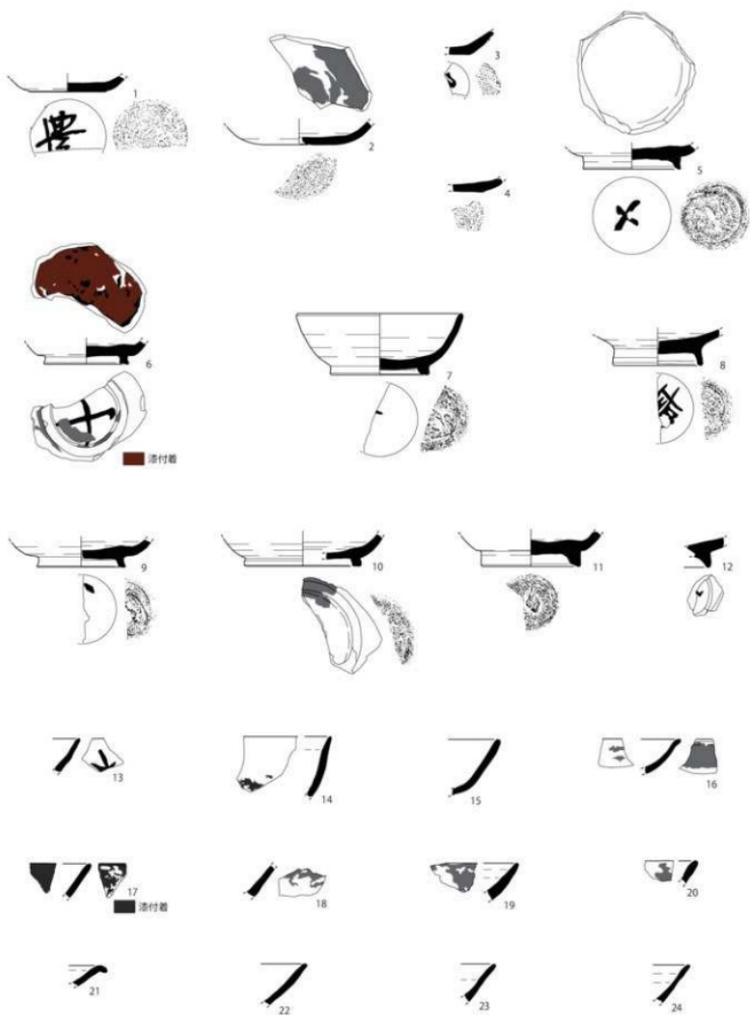
V 出土遺物



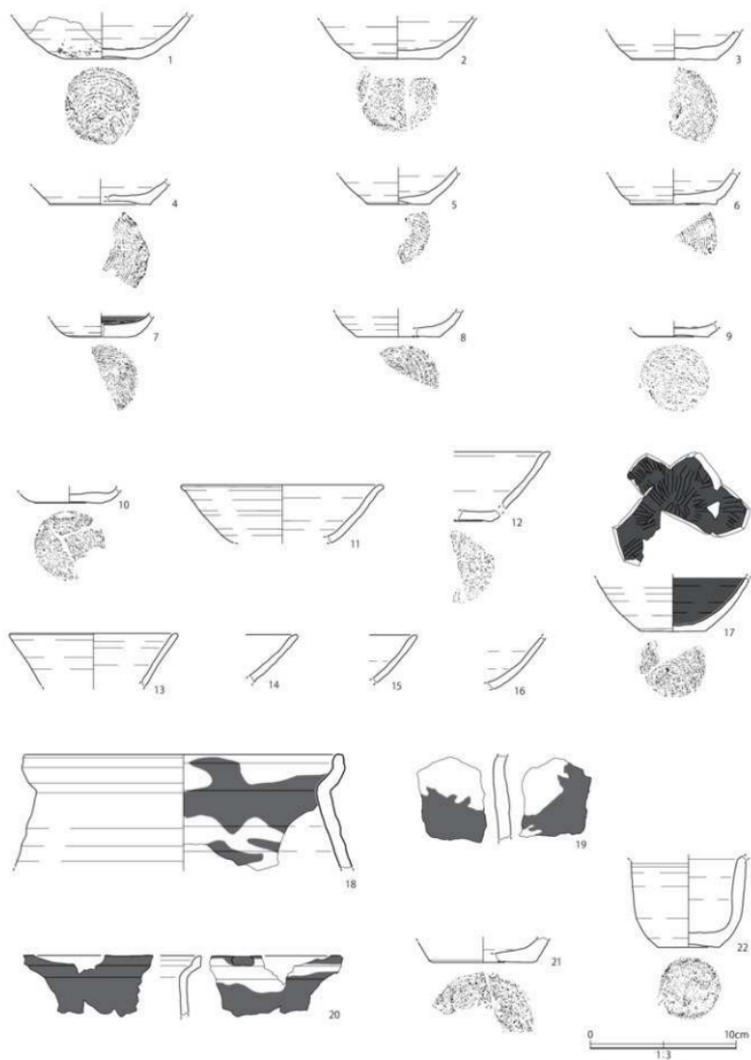
第 83 圖 SK52 (2)・SD53 遺物



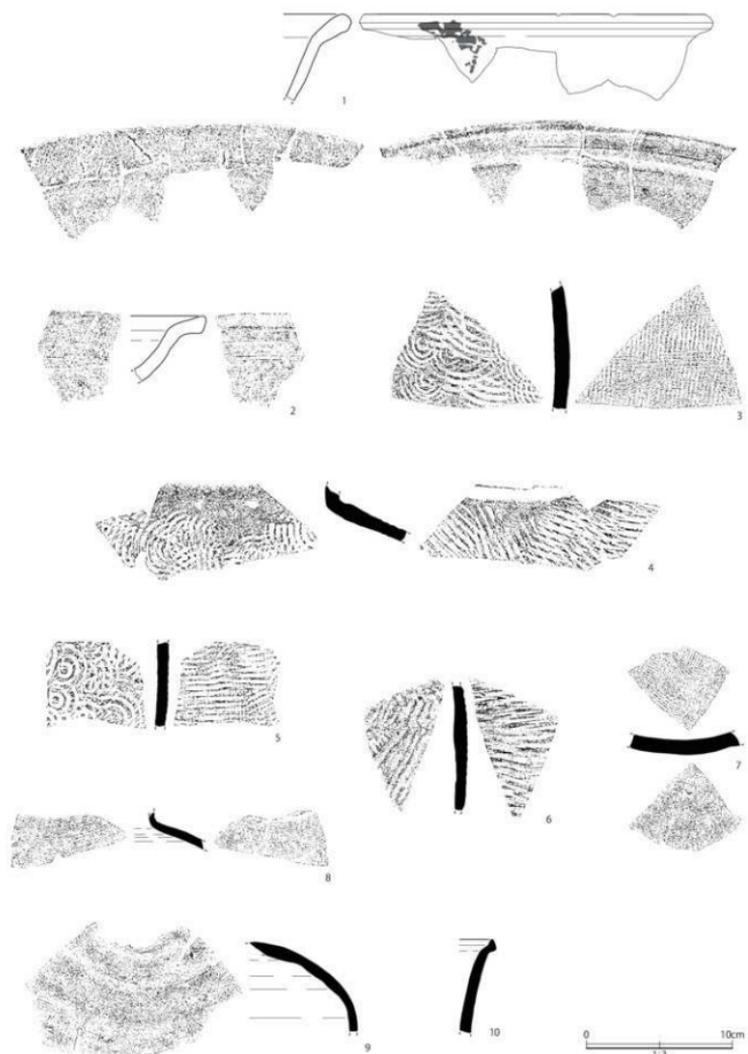
第84圖 SX54(1)遺物



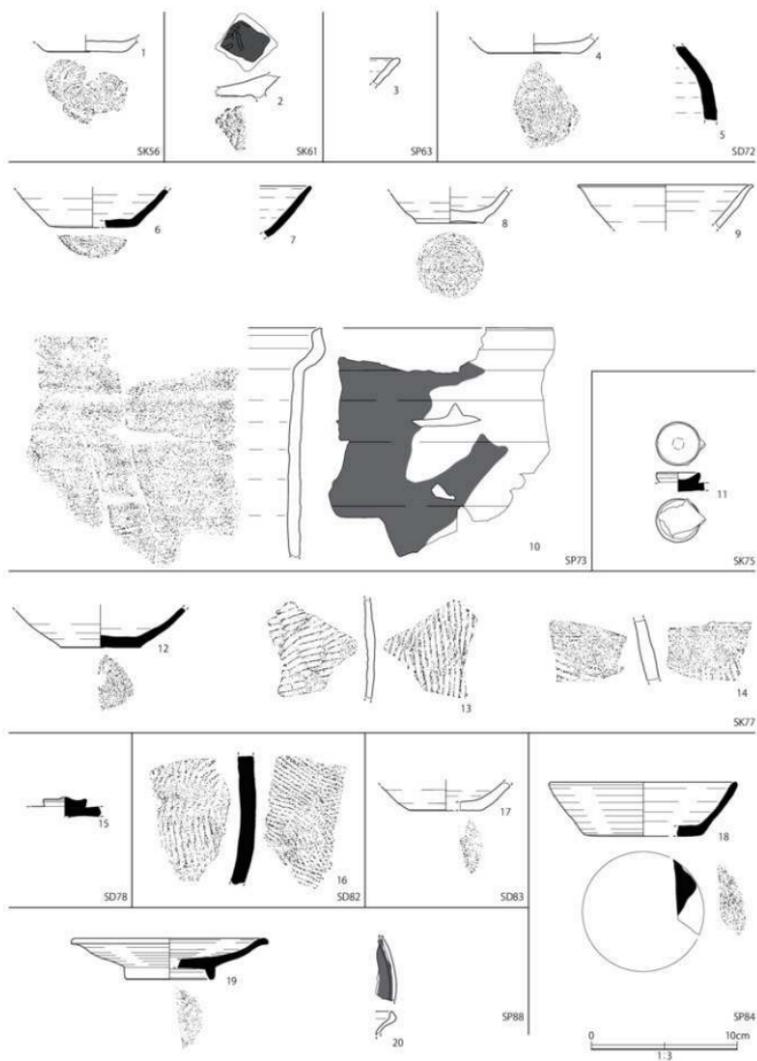
第 85 図 SX54 (2) 遺物



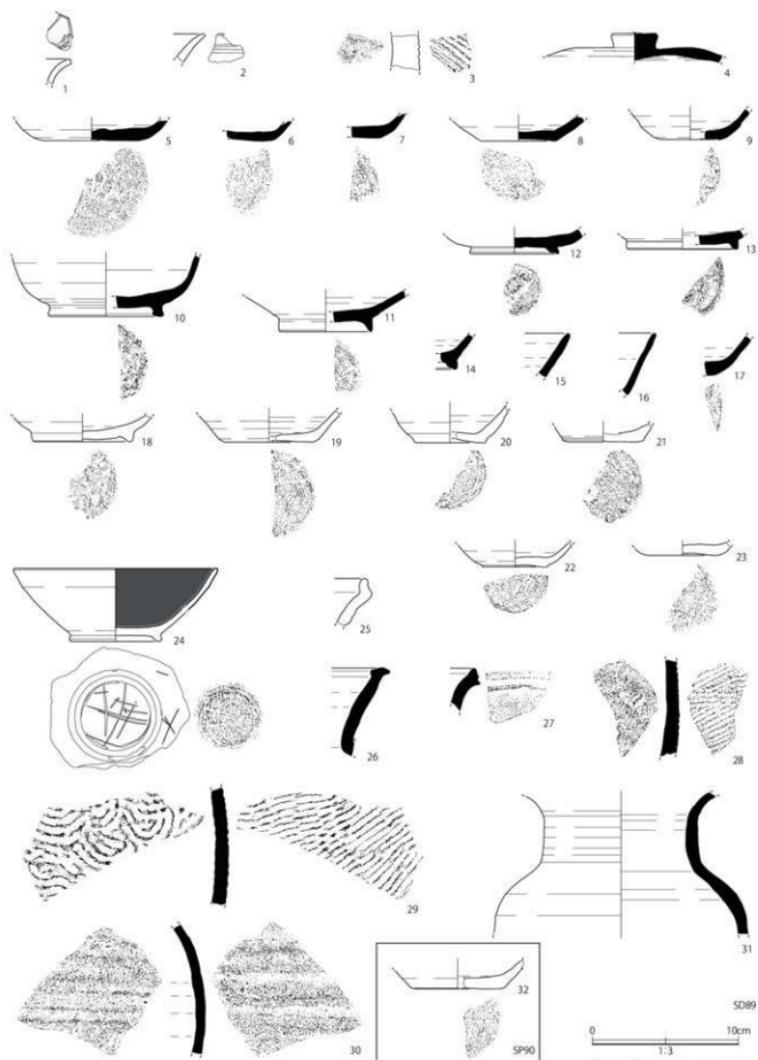
第 86 圖 SX54 (3) 遺物



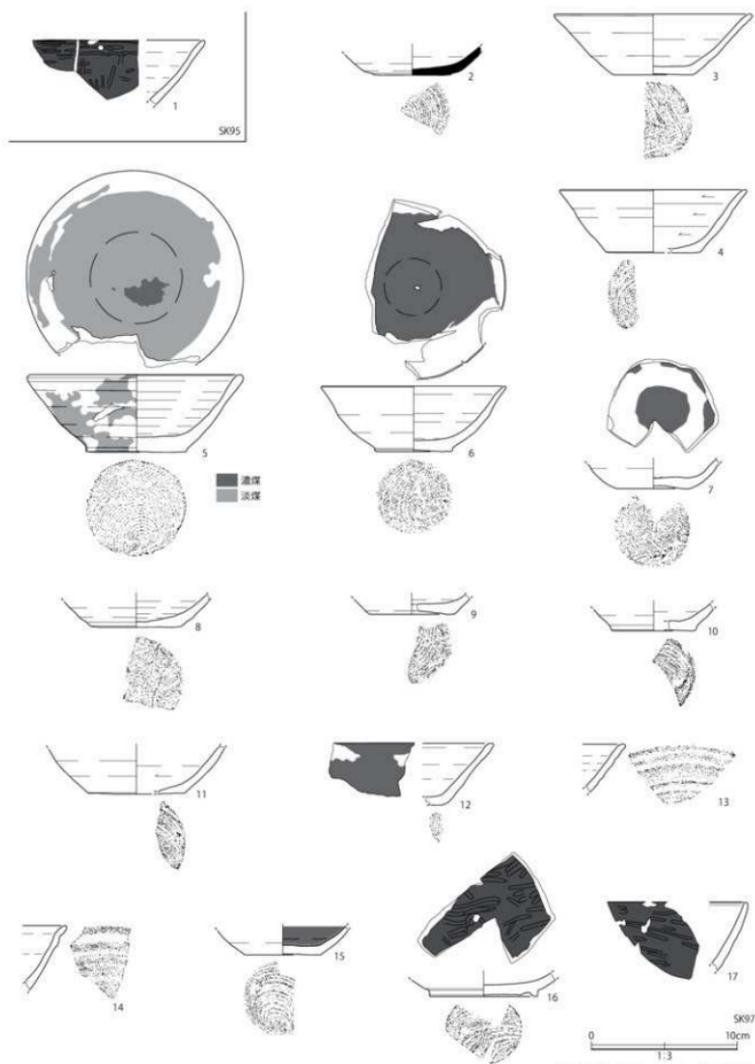
第87圖 SX54(4) 遺物



第 88 図 SK56・SK61・SP63・SD72・SP73・SK75・SK77・SD78・SD82・SD83・SP84・SP88 遺物

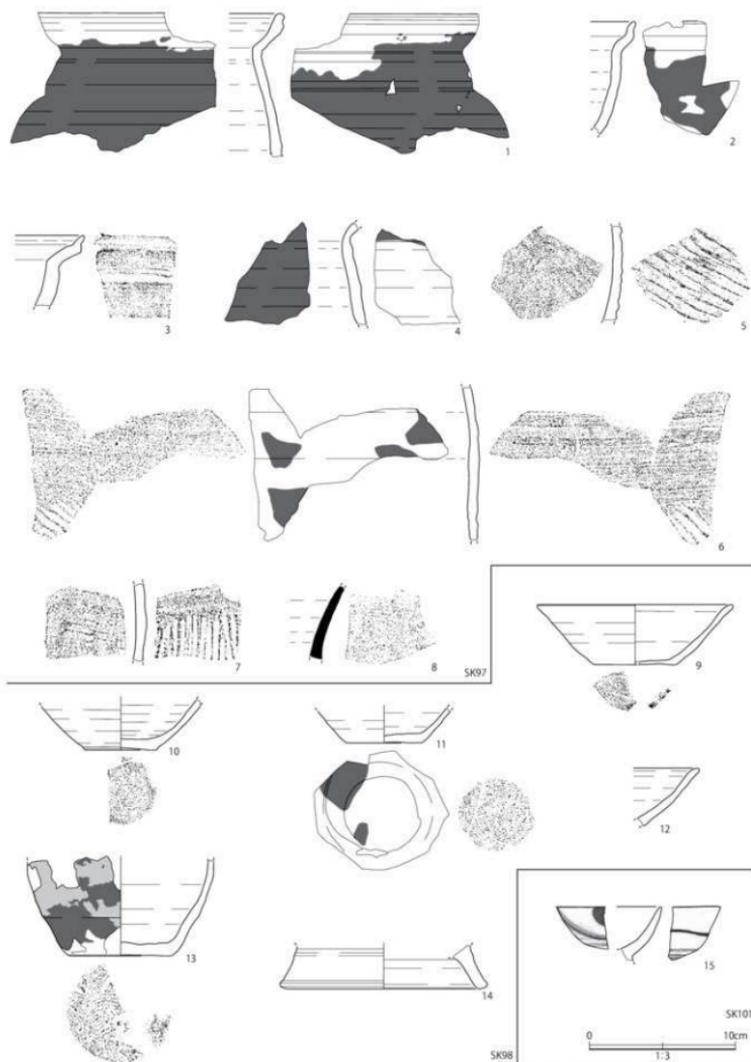


第 89 圖 SD89・SP90 遺物

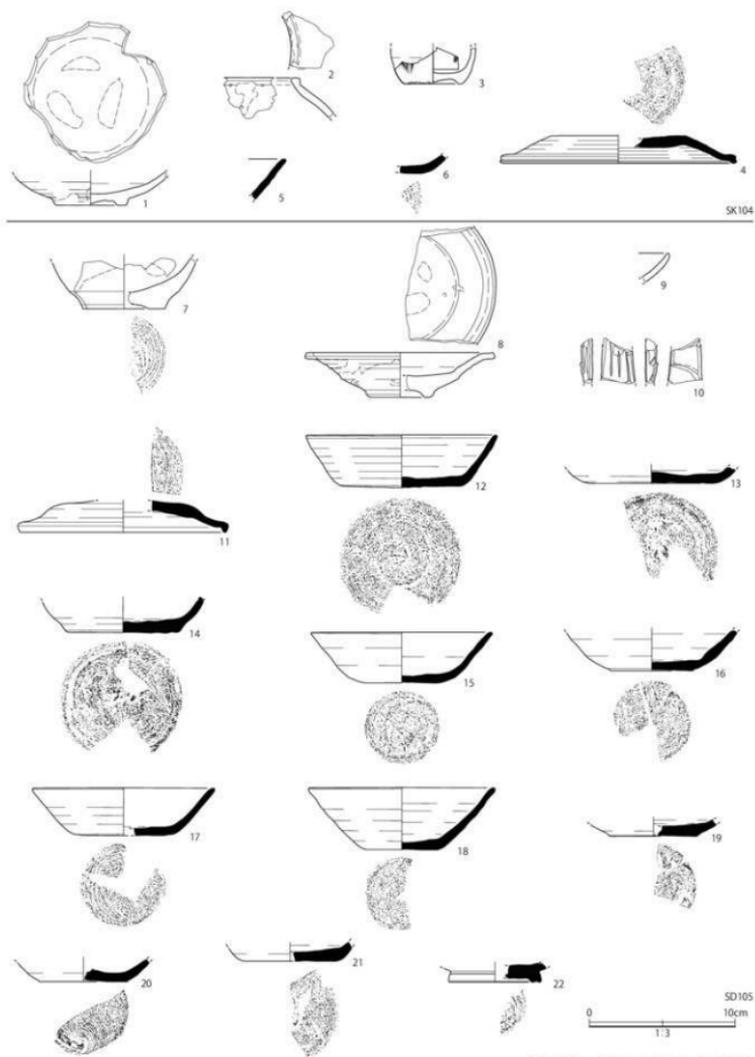


第90圖 SK95・SK97(1)遺物

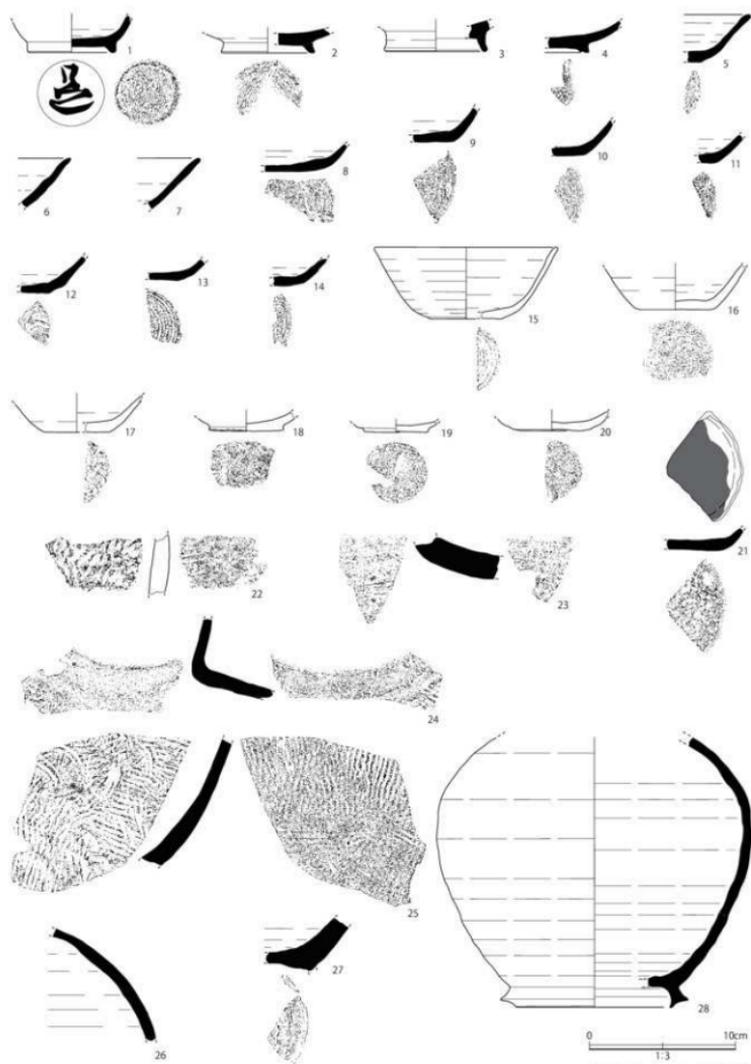
V 出土遺物



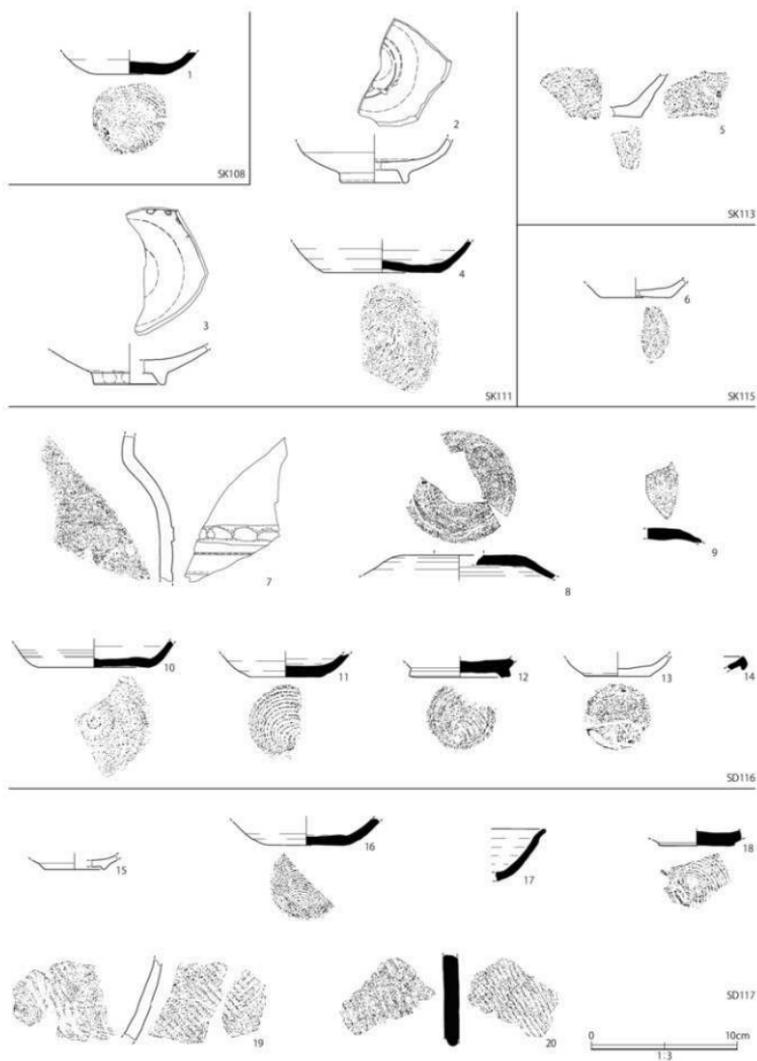
第91圖 SK97(2)・SK98・SK101遺物



第 92 圖 SK104・SD105 (1) 遺物

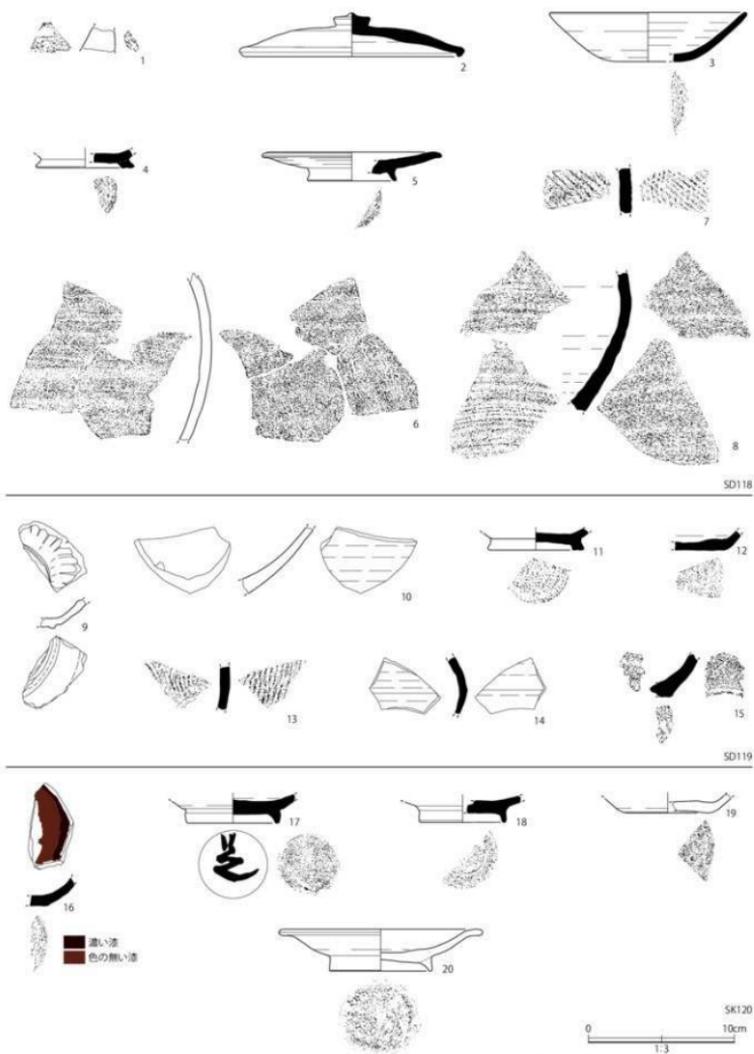


第93圖 SD105 (2) 遺物

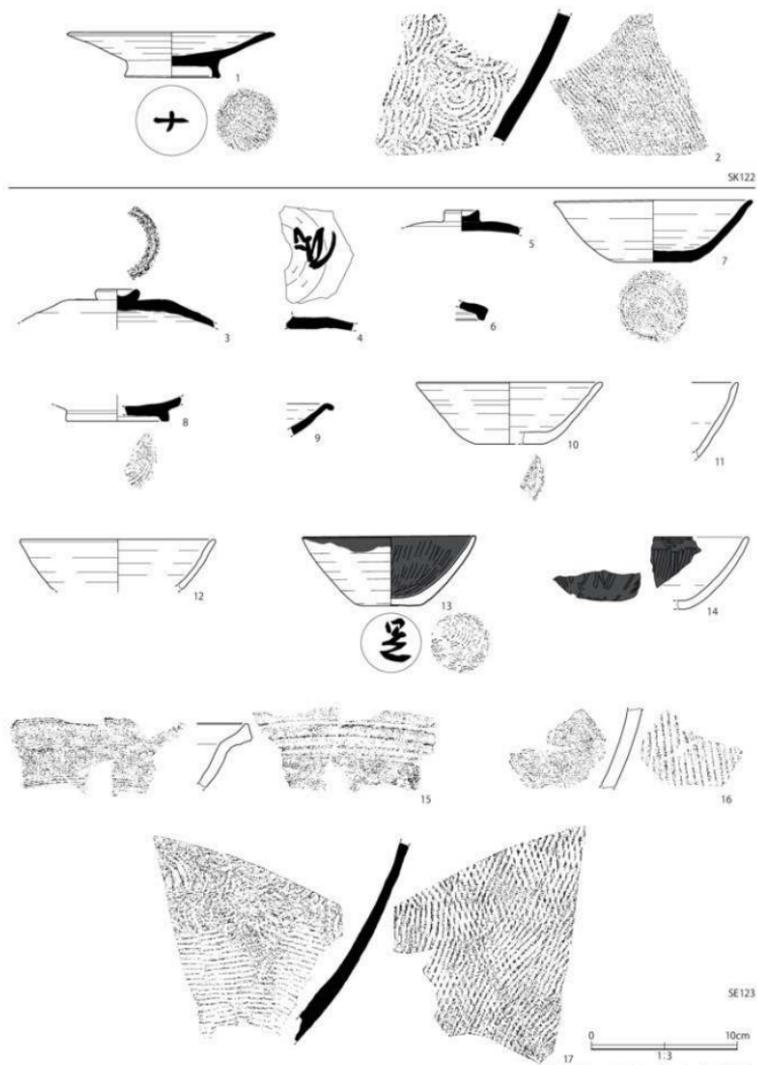


第 94 図 SK108・SK111・SK113・SK115・SD116・SD117 遺物

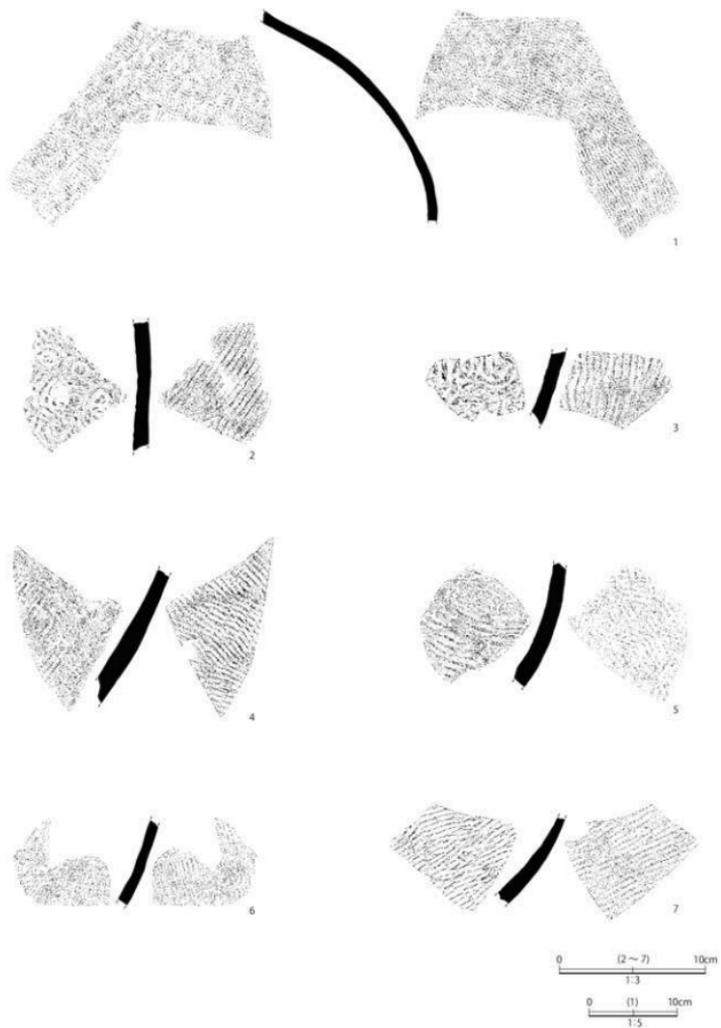
V 出土遺物



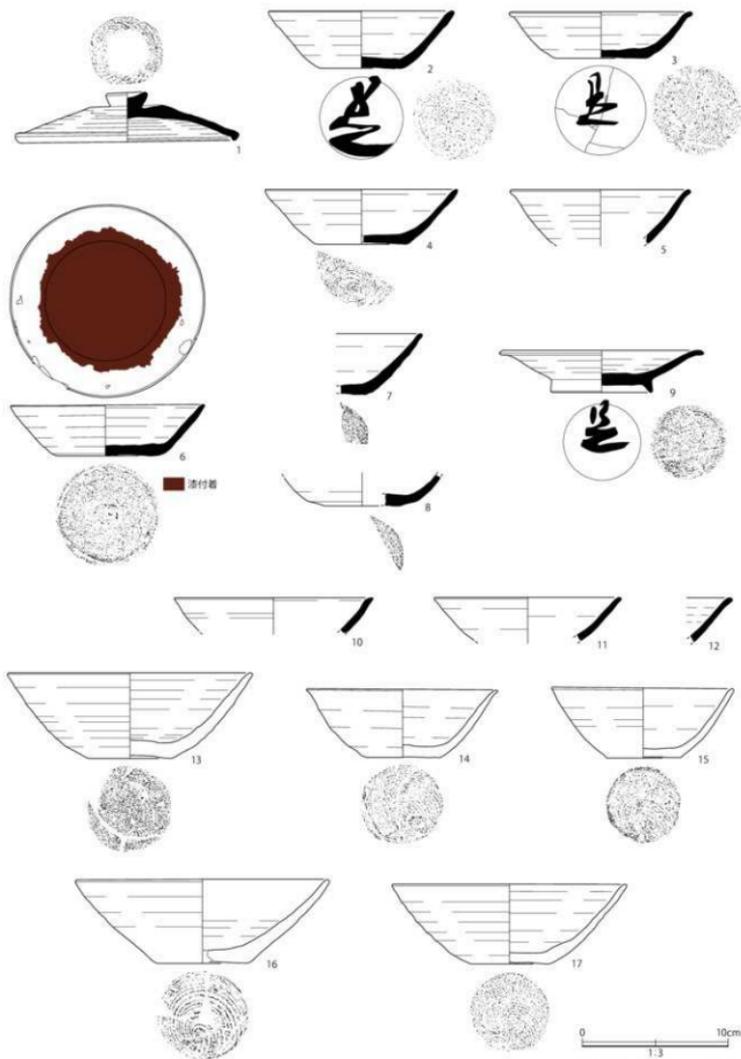
第 95 図 SD118・SD119・SK120 遺物



第96圖 SK122・SE123(1) 遺物

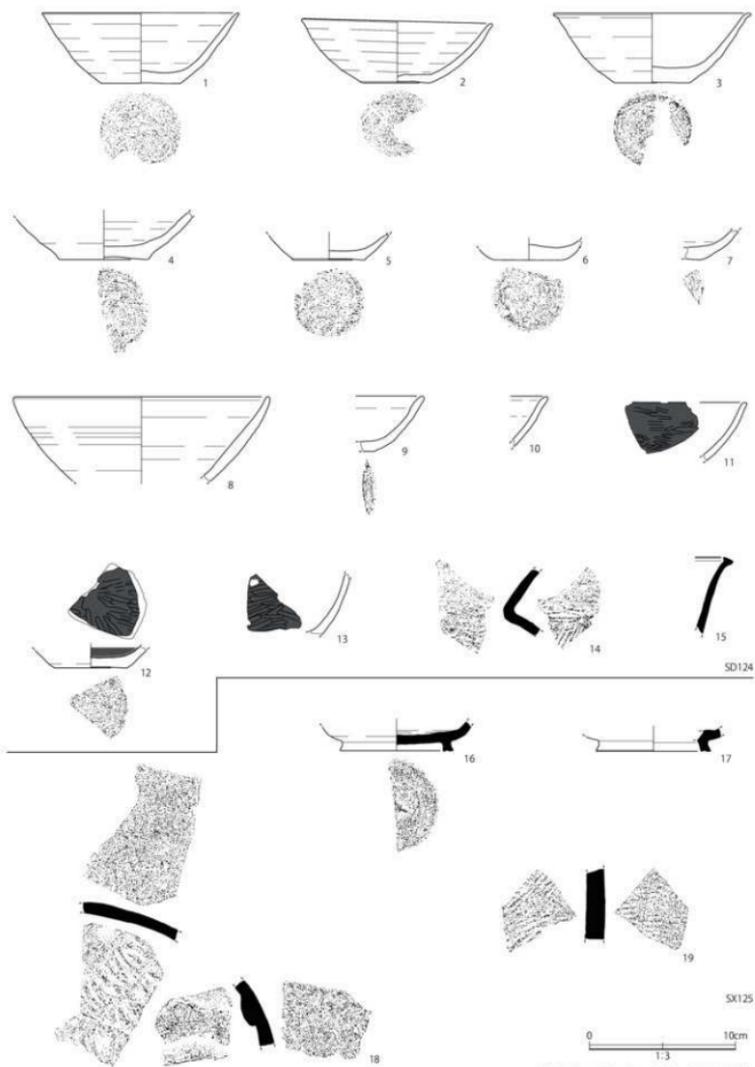


第 97 図 SE123 (2) 遺物

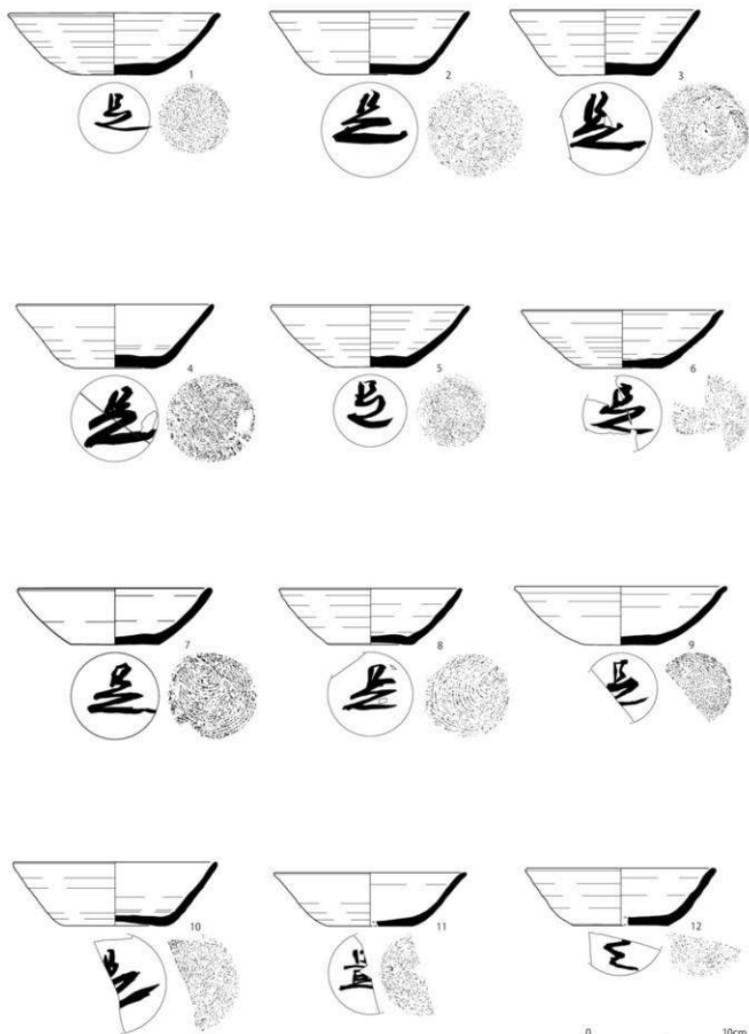


第98図 SD124(1)遺物

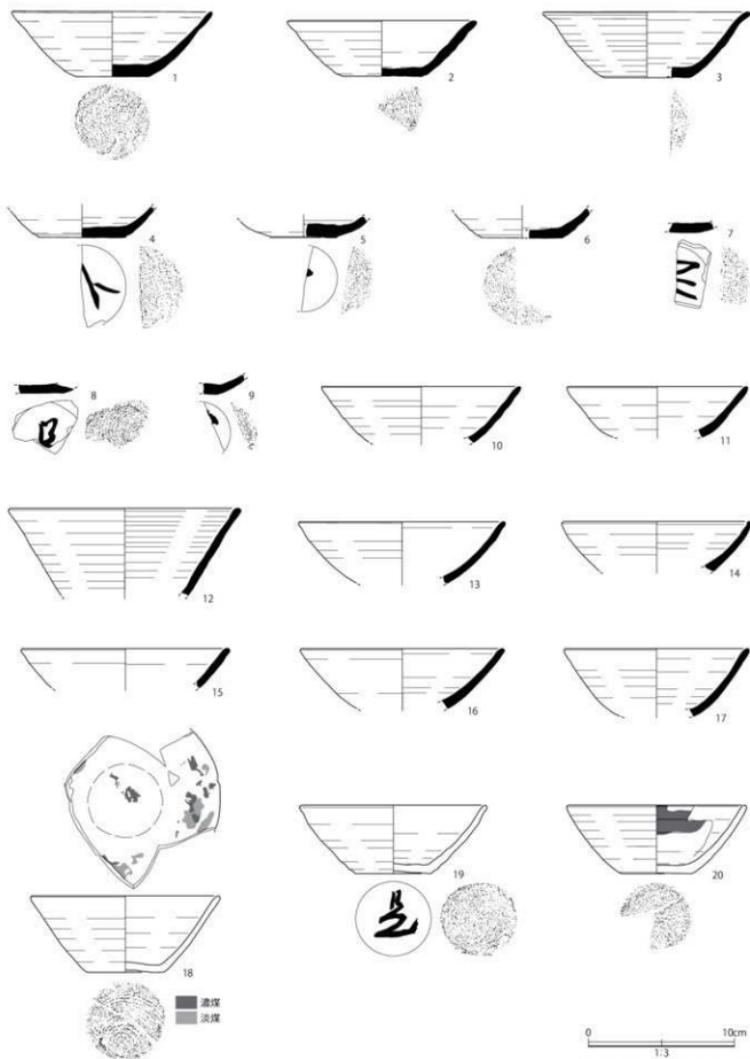
V 出土遺物



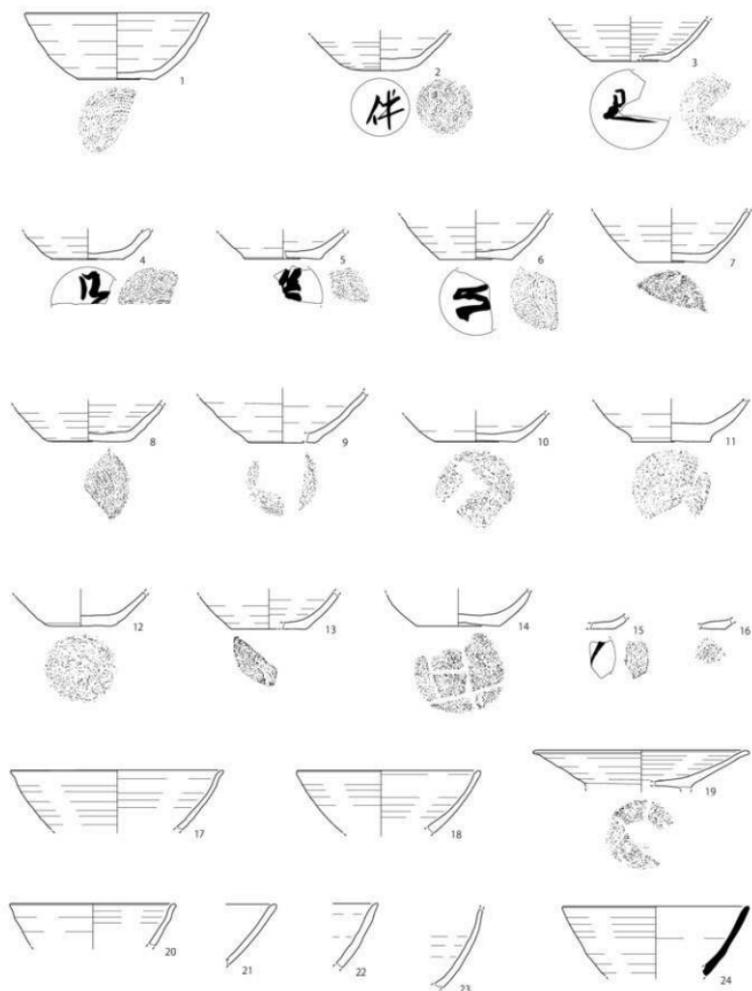
第 99 圖 SD124 (2)・SX125 遺物



第 100 图 SE126 (1) 遺物

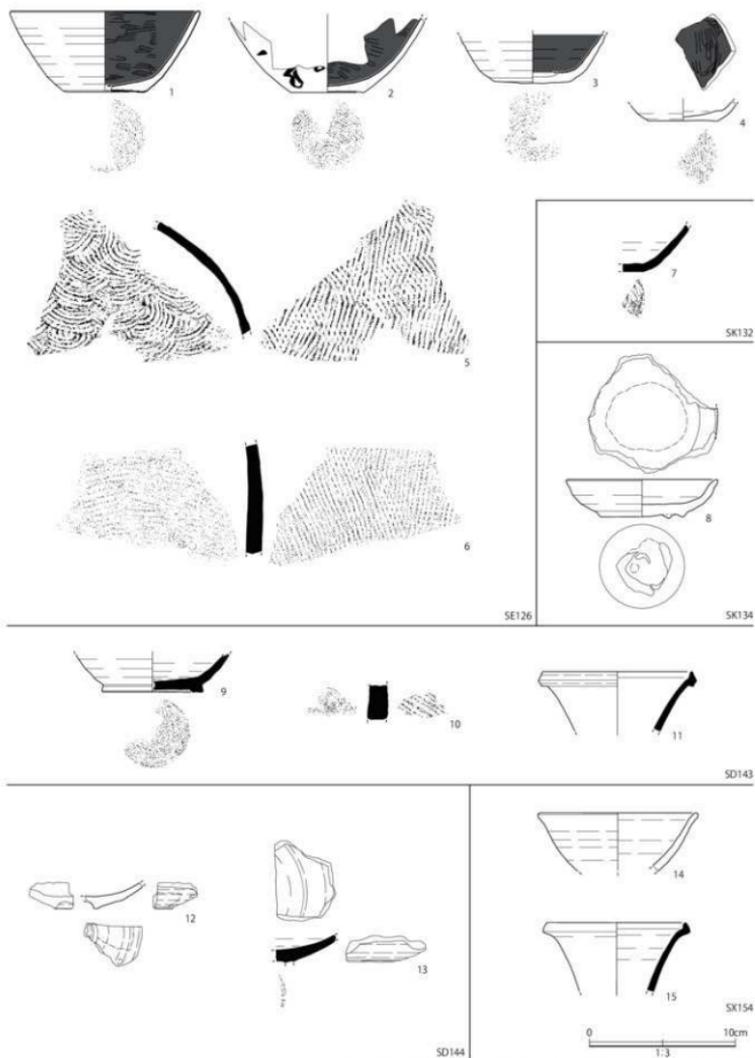


第 101 圖 SE126 (2) 遺物

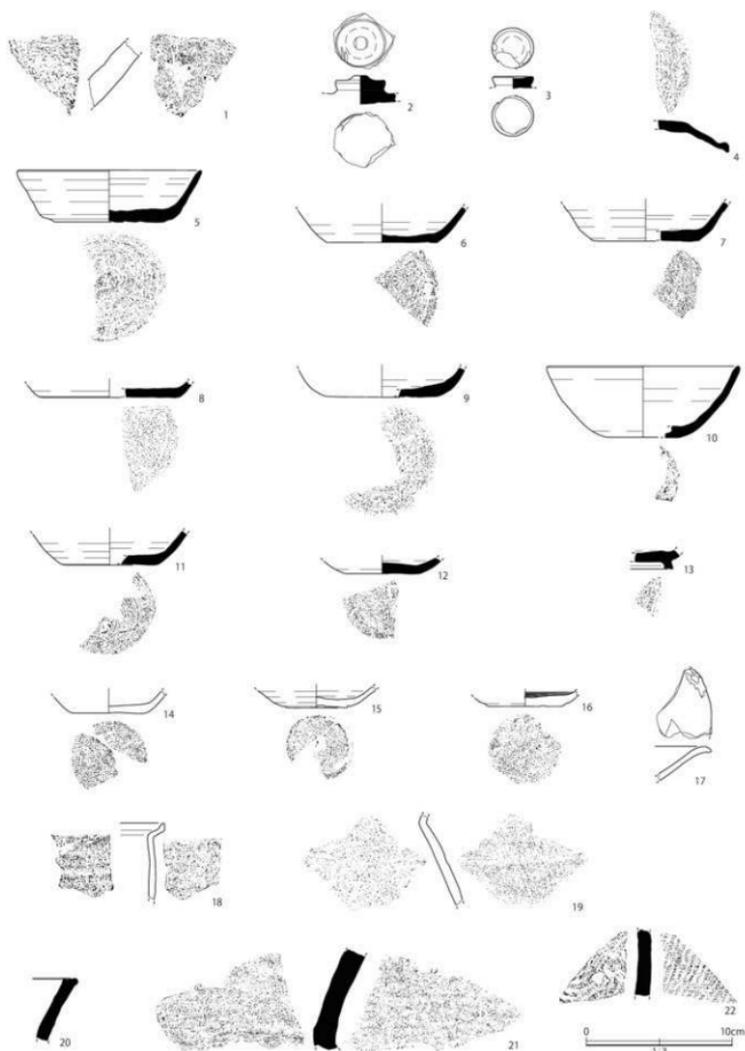


第102圖 SE126(3)遺物

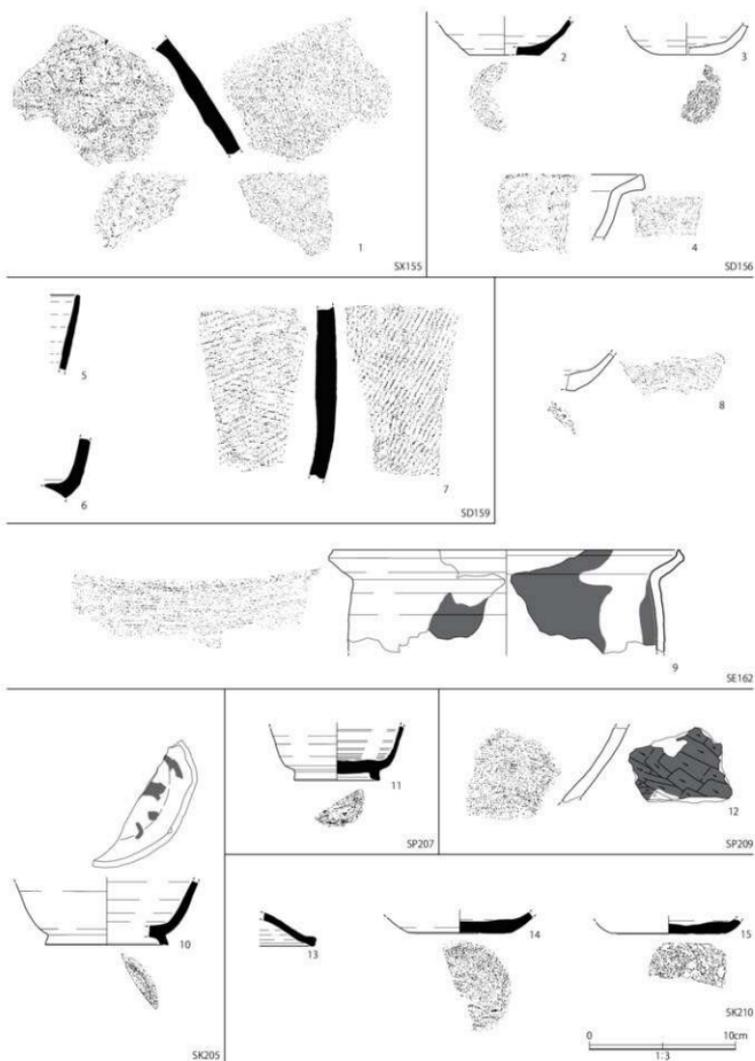
V 出土遺物



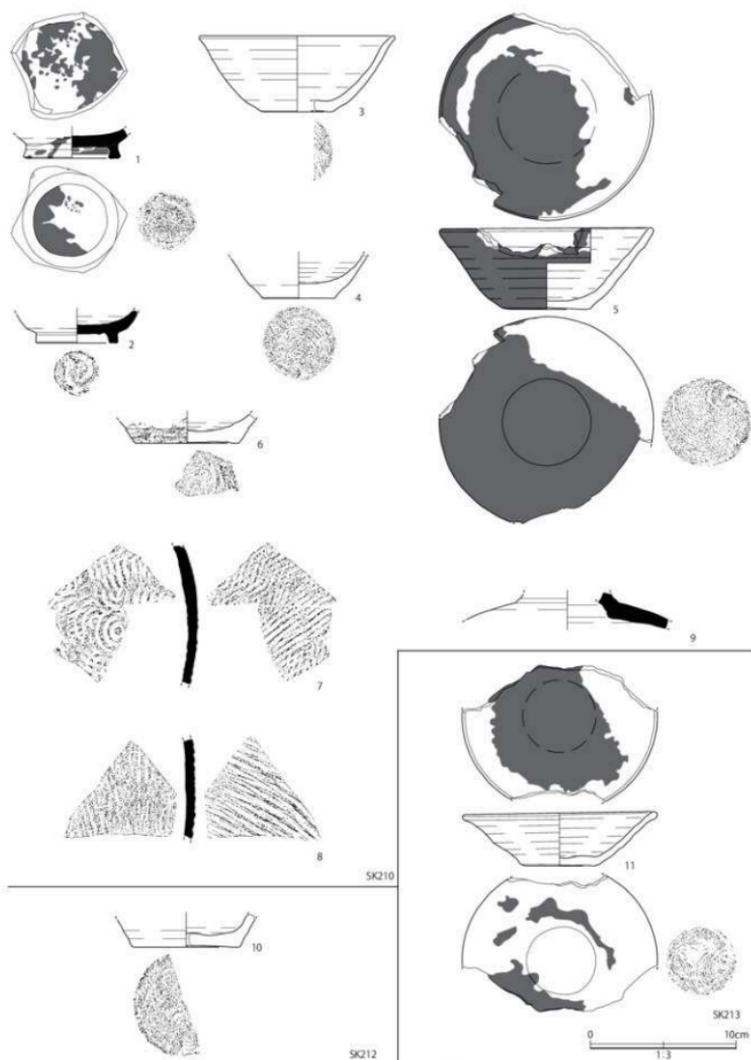
第 103 図 SE126 (4)・SK132・SK134・SD143・SD144・SX154 遺物



第104圖 SX155(1)遺物

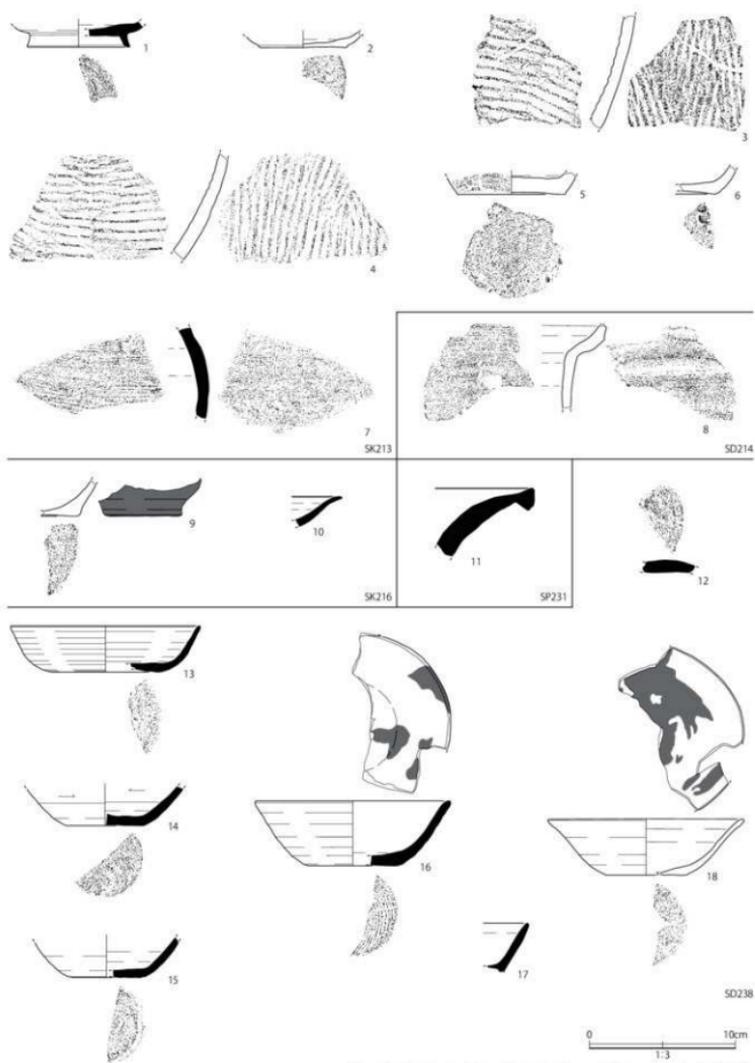


第105図 SK155 (2)・SD156・SD159・SE162・SK205・SP207・SP209・SK210 (1) 遺物

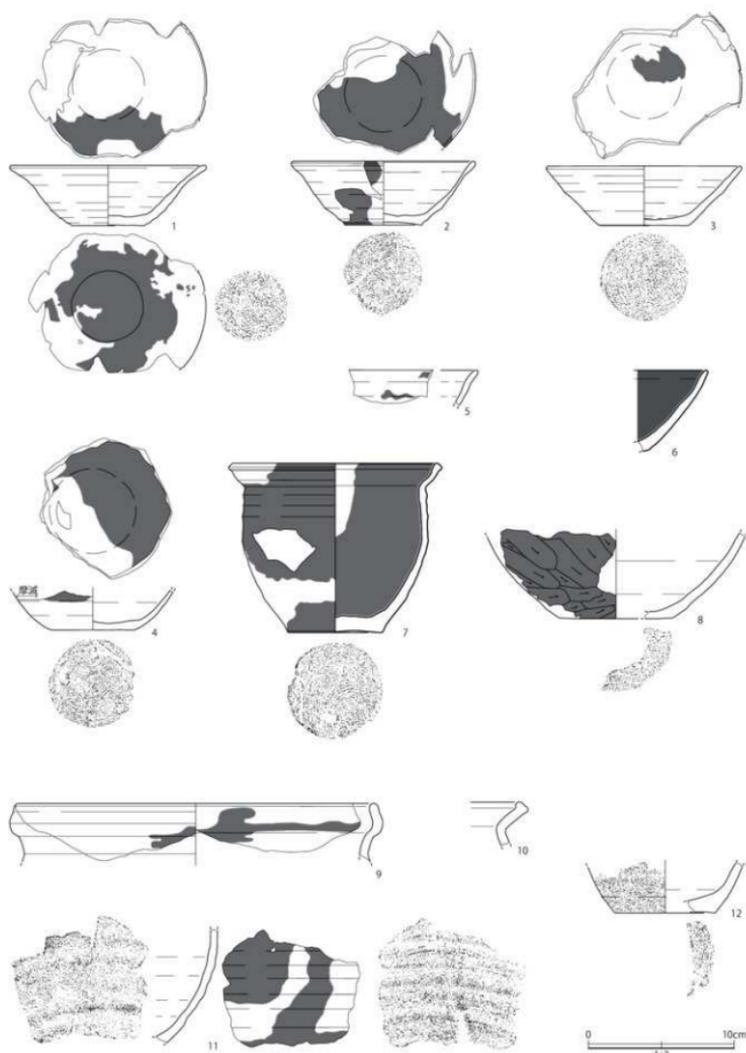


第106図 SK210 (2)・SK212・SK213 (1) 遺物

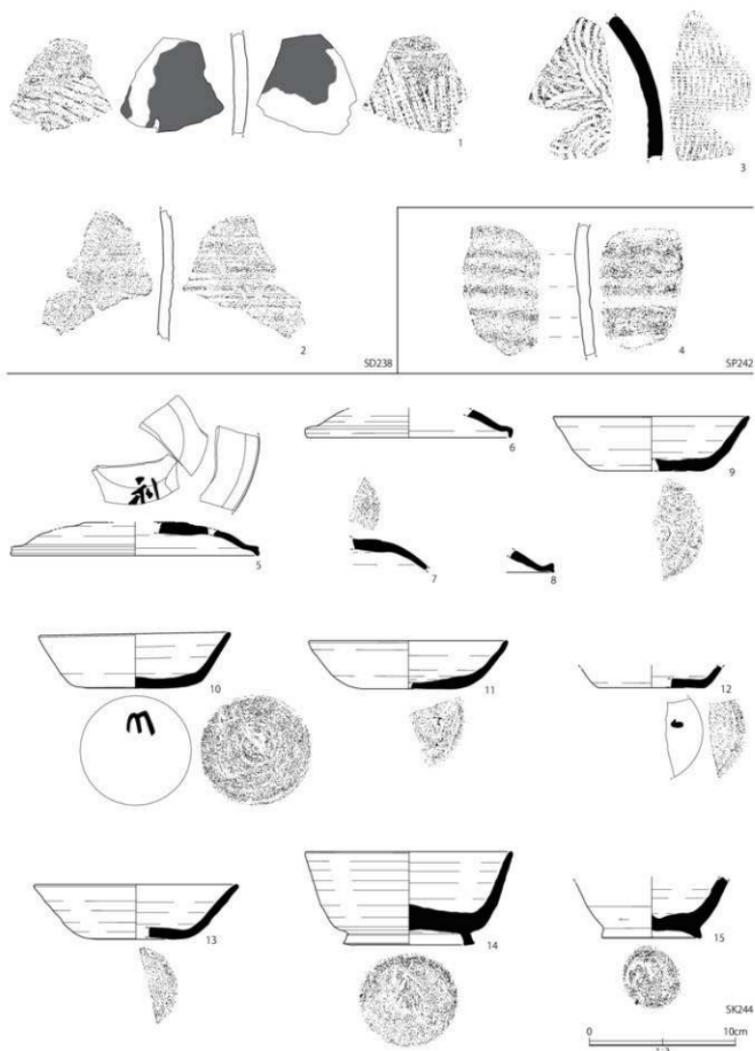
V 出土遺物



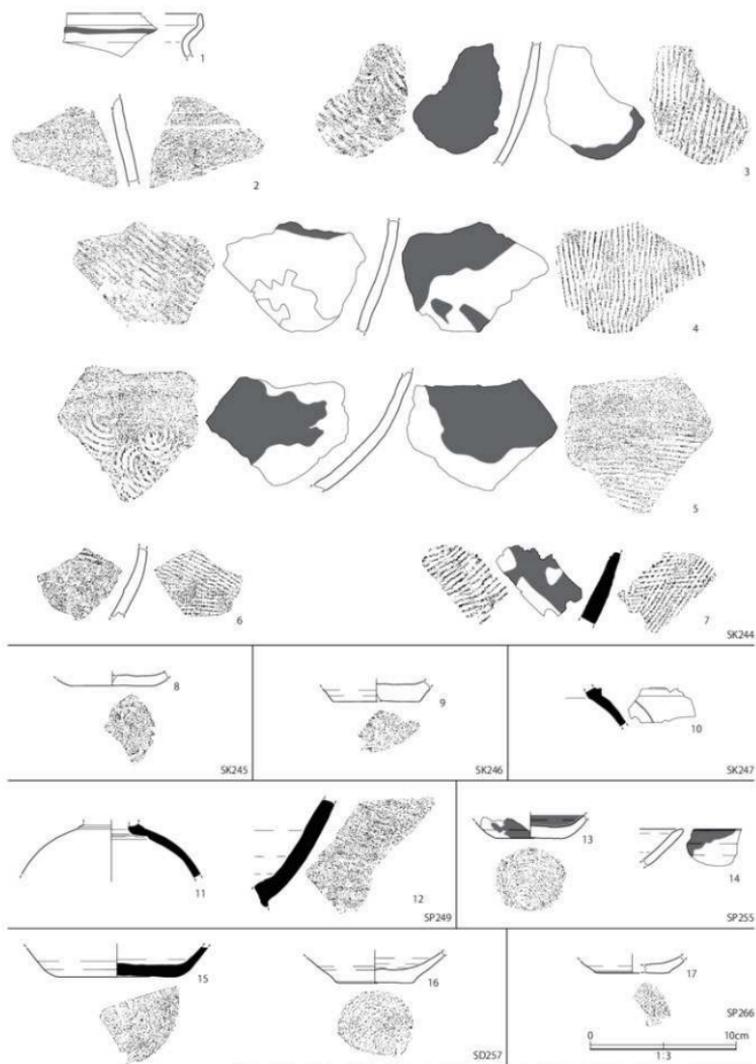
第107図 SK213 (2)・SD214・SK216・SP231・SD238 (1) 遺物



第108圖 SD238(2)遺物

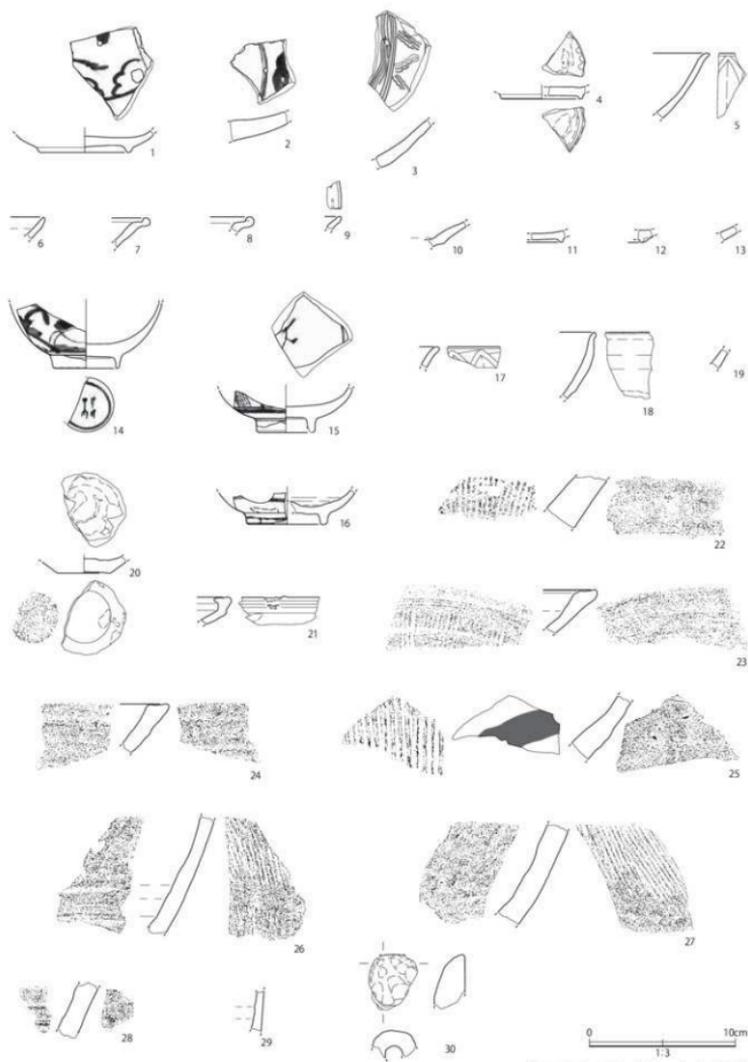


第 109 図 SD238 (3)・SP242・SK244 (1) 遺物

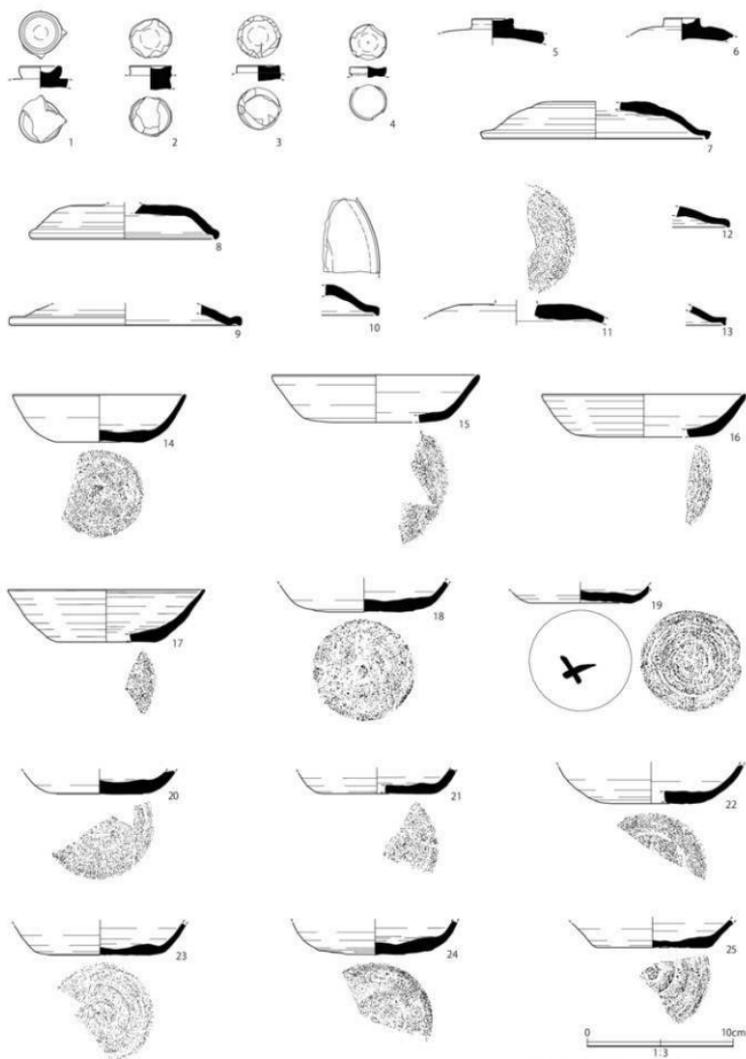


第110圖 SK244 (2)・SK245・SK246・SK247・SP249・SP255・SD257・SP266遺物

V 出土遺物

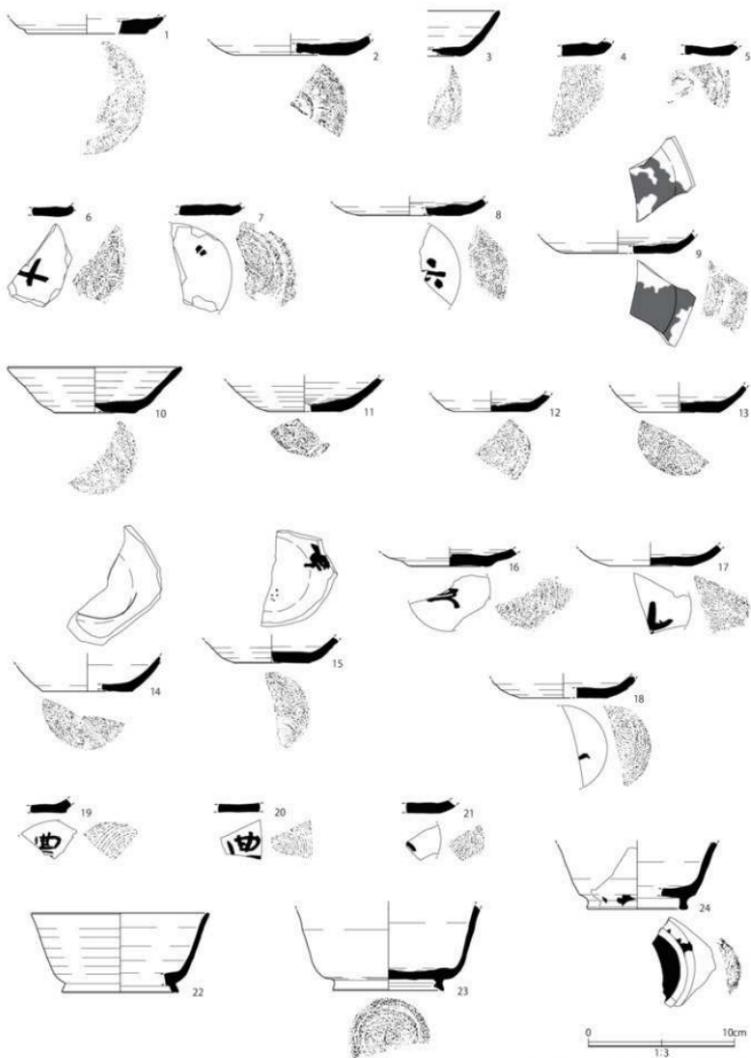


第111図 1区 グリッド(1) 遺物

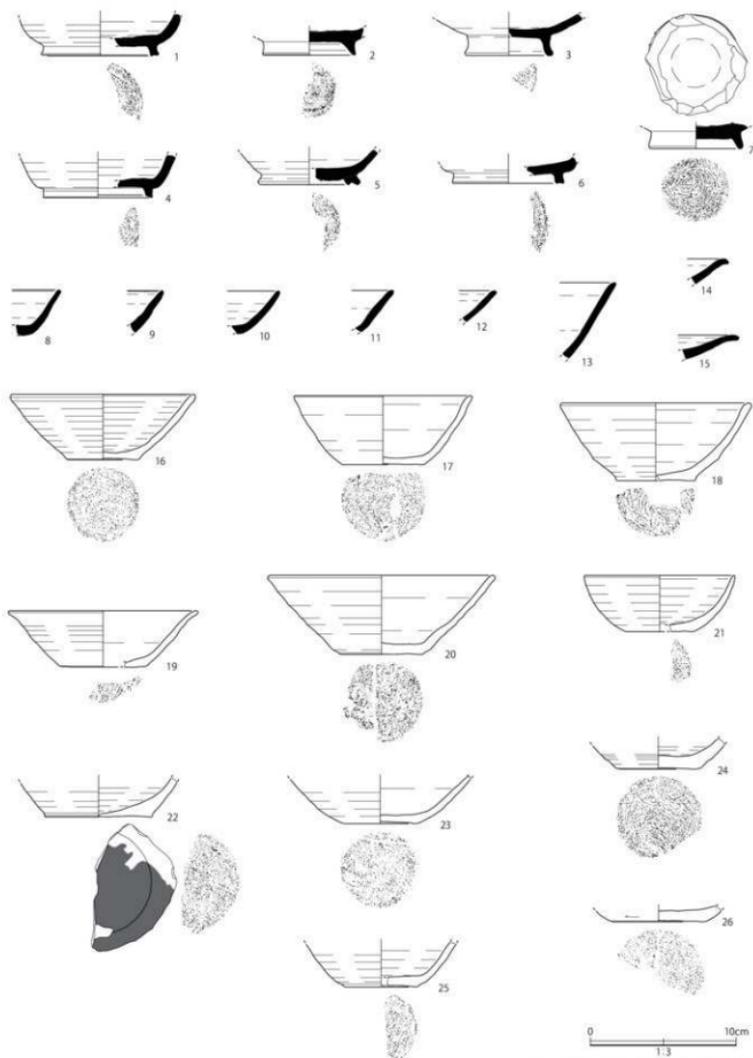


第112図 1区 グリッド(2) 遺物

V 出土遺物

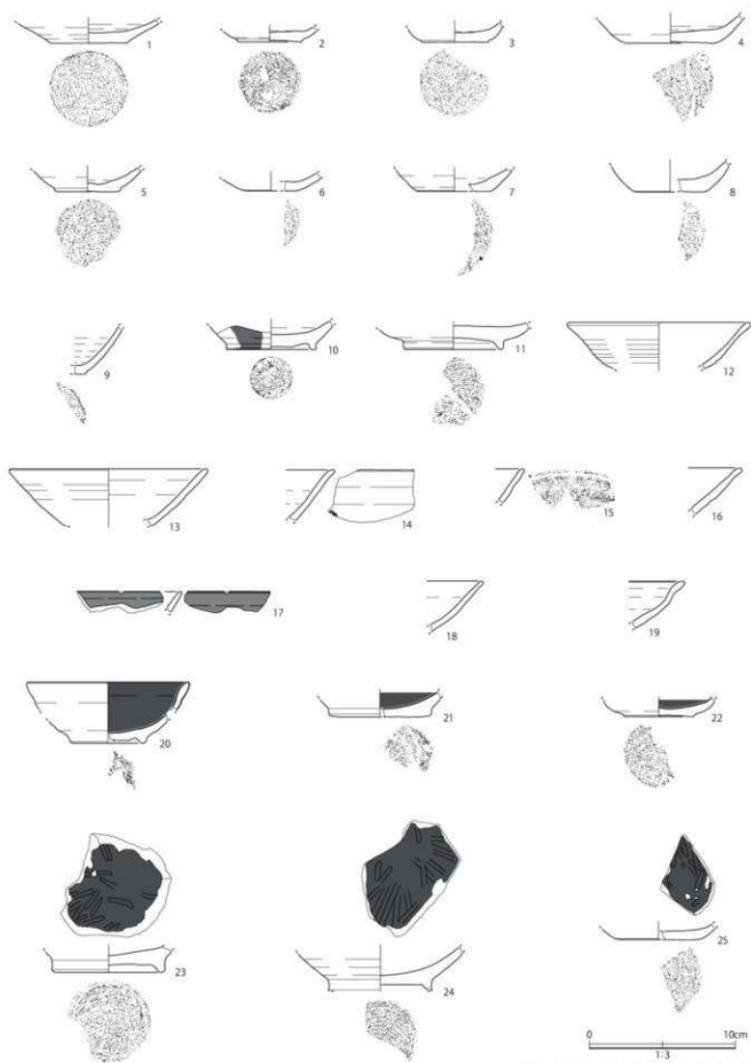


第113図 1区 グリッド(3) 遺物

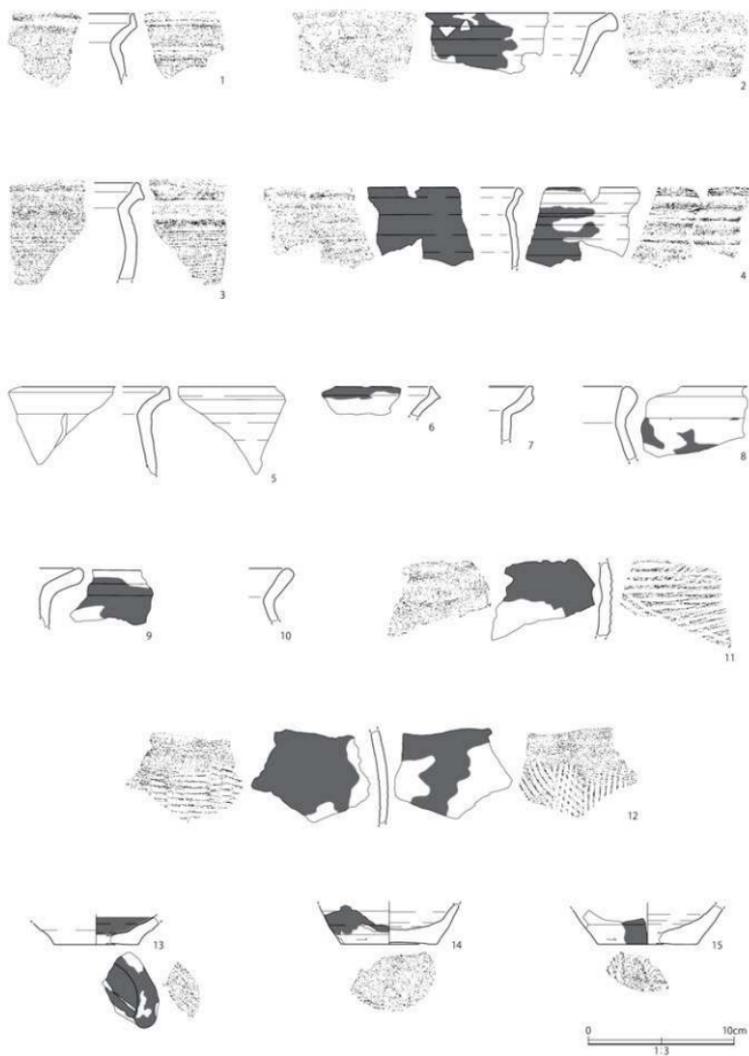


第114図 1区 グリッド(4)遺物

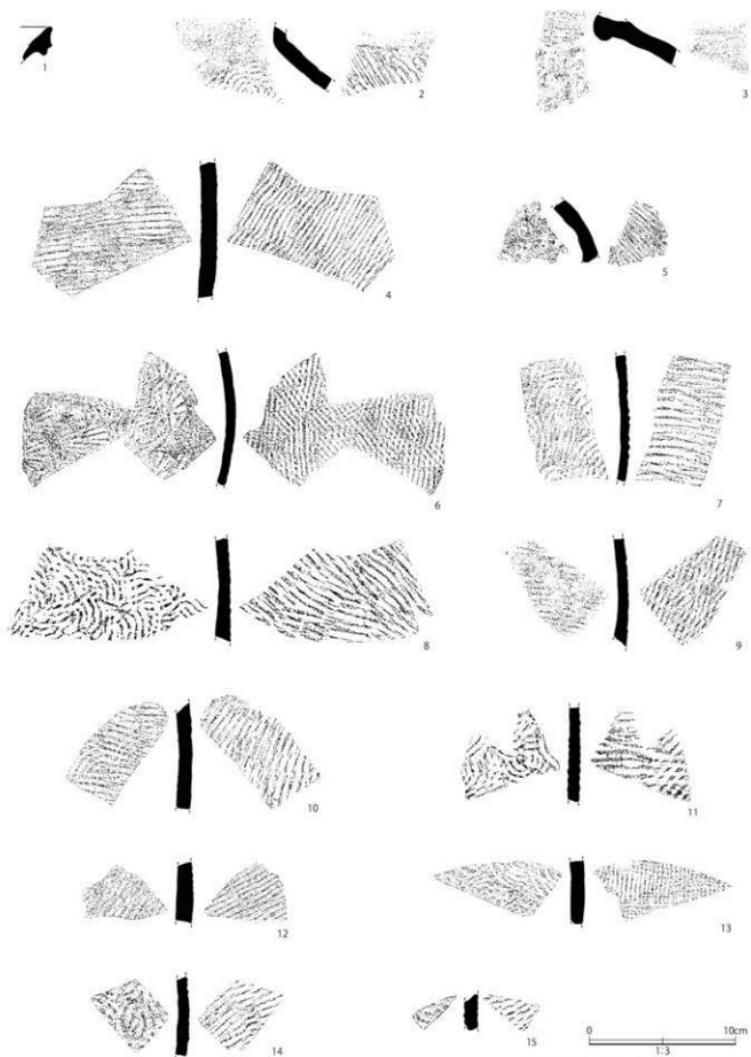
V 出土遺物



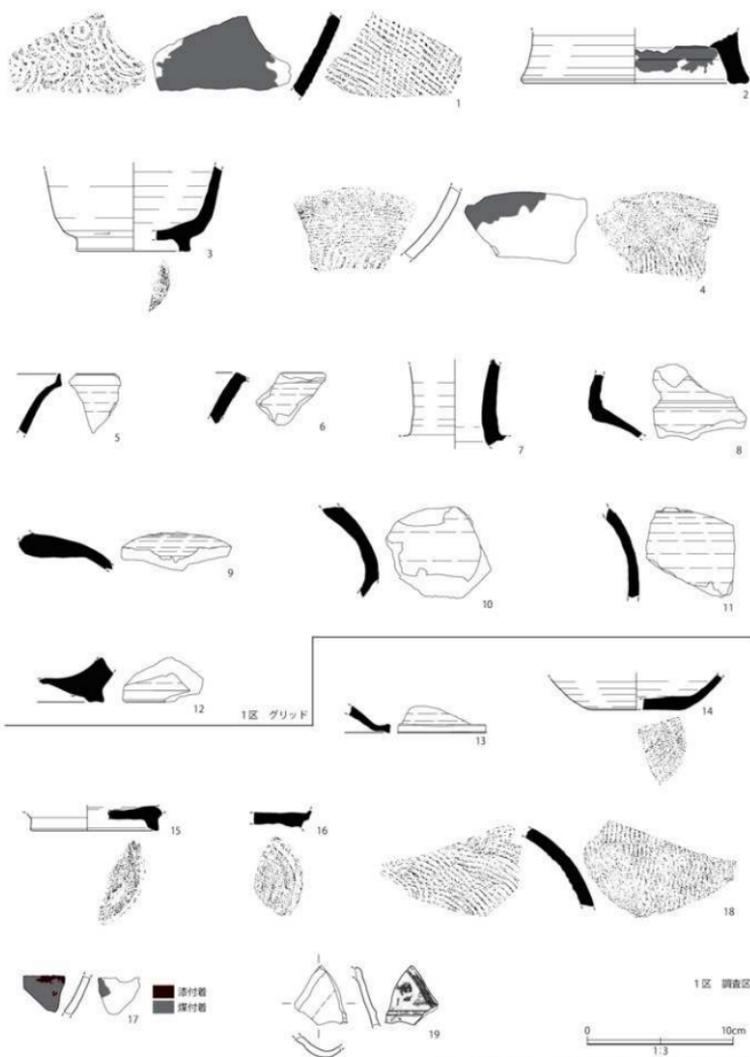
第115図 1区 グリッド(5) 遺物



第116図 1区 グリッド(6)遺物

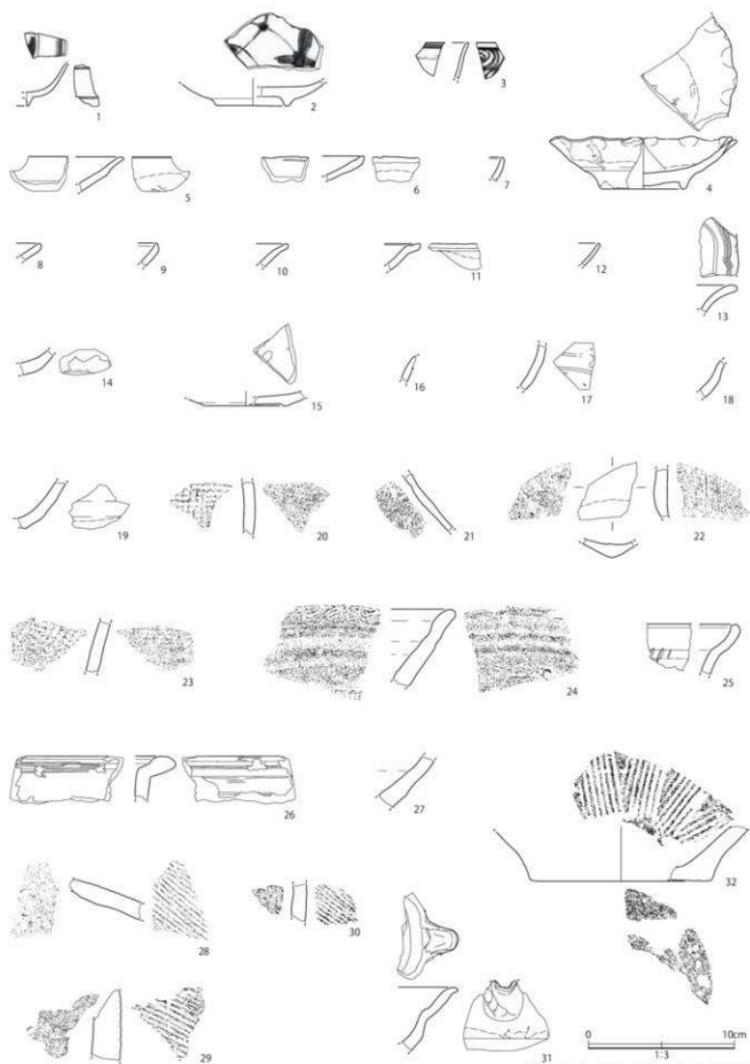


第117図 1区 グリッド(7) 遺物

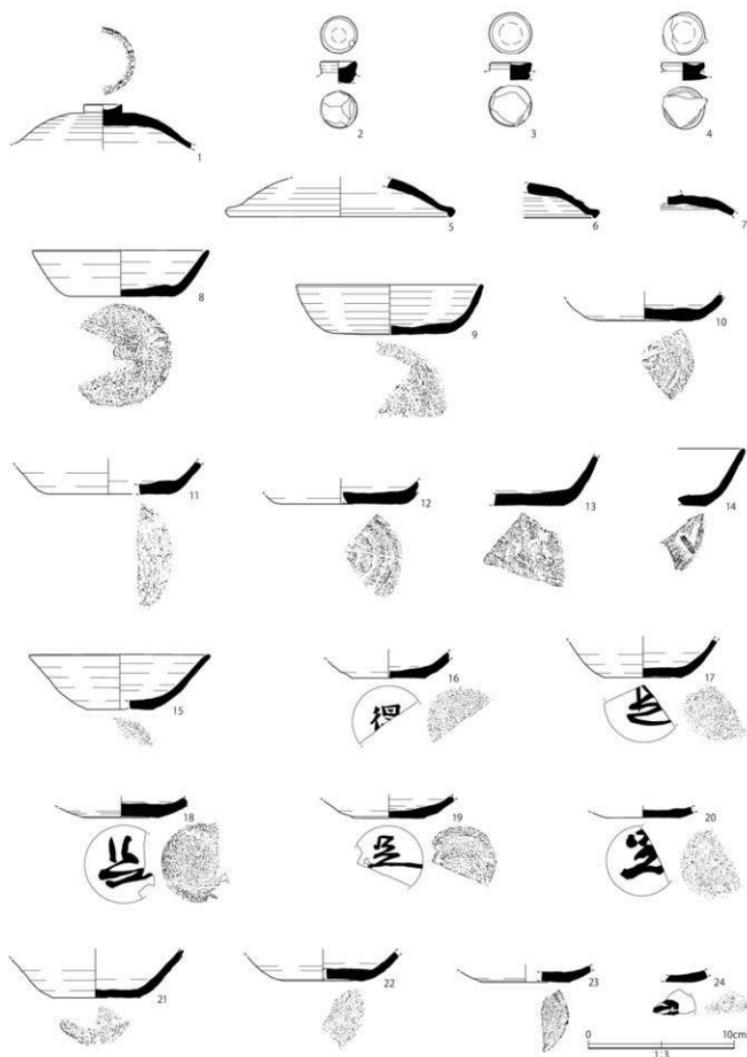


第118図 1区 グリッド(8)・1区 調査区遺物

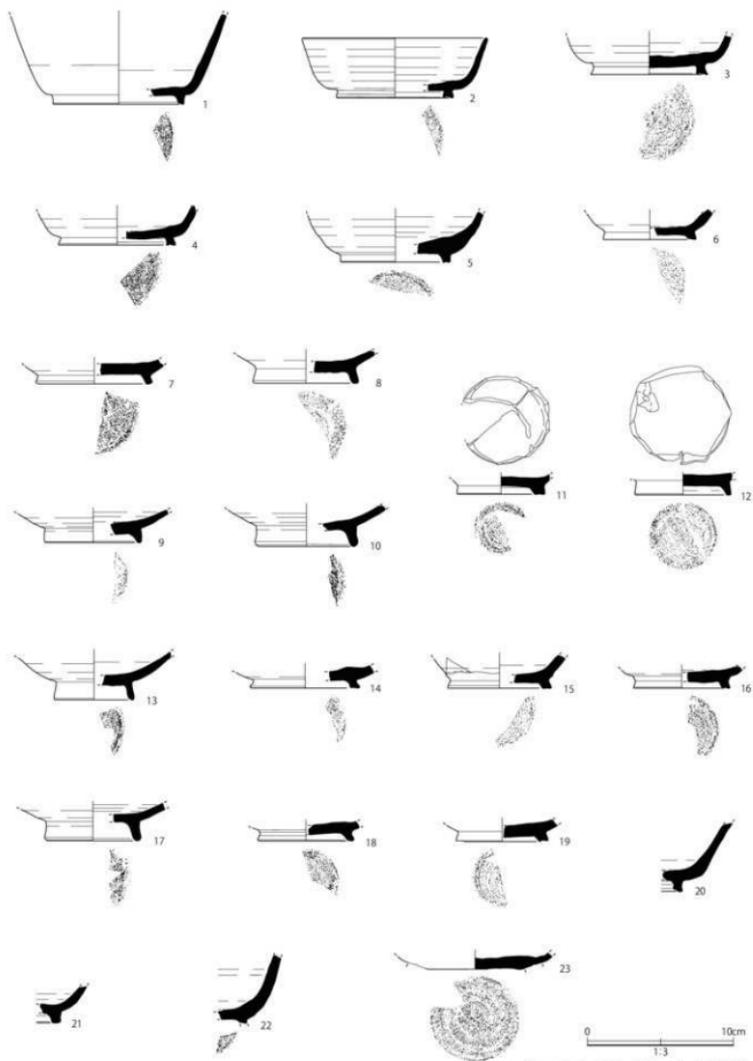
V 出土遺物



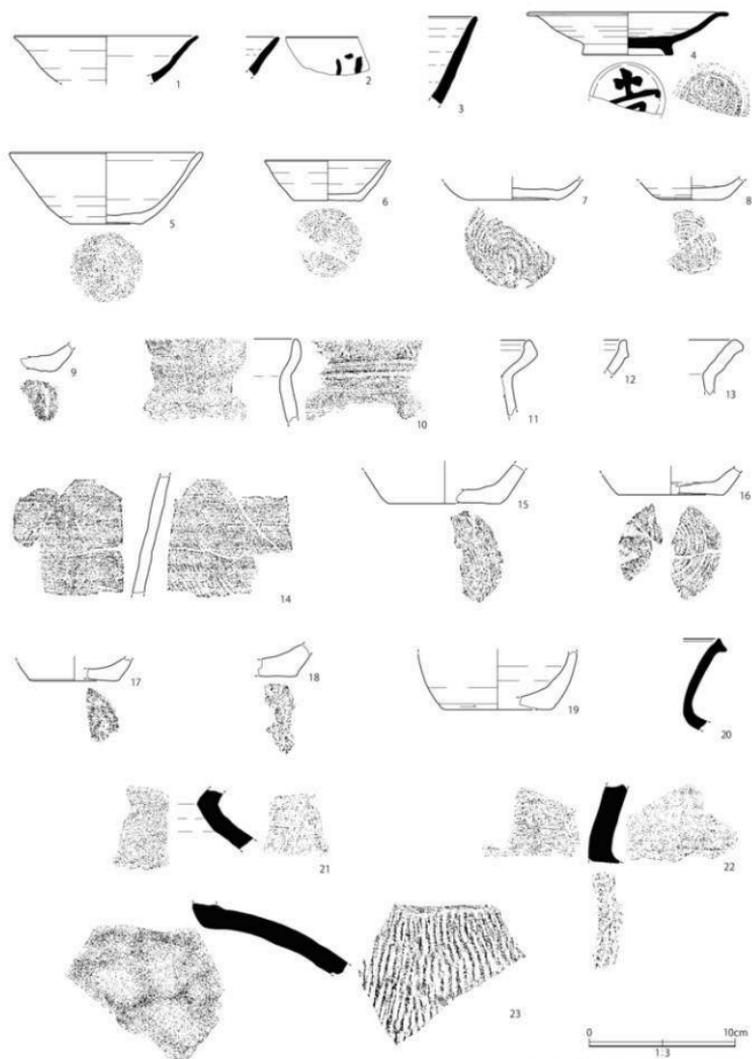
第119図 2区 グリッド(1) 遺物



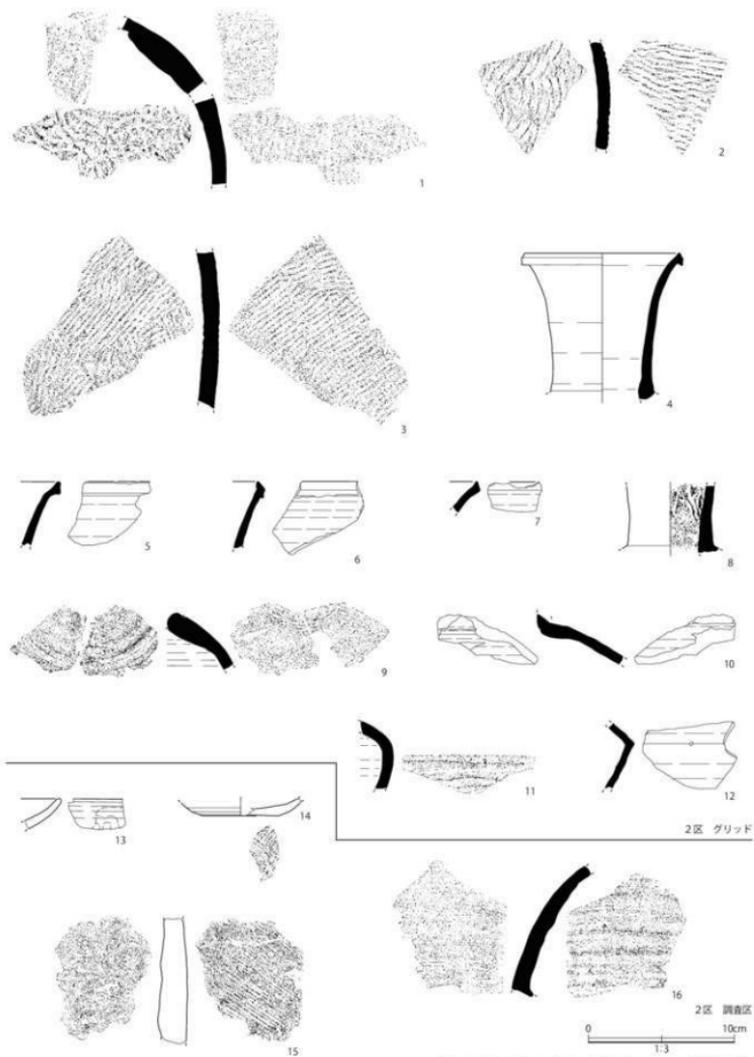
第120図 2区 グリッド(2) 遺物



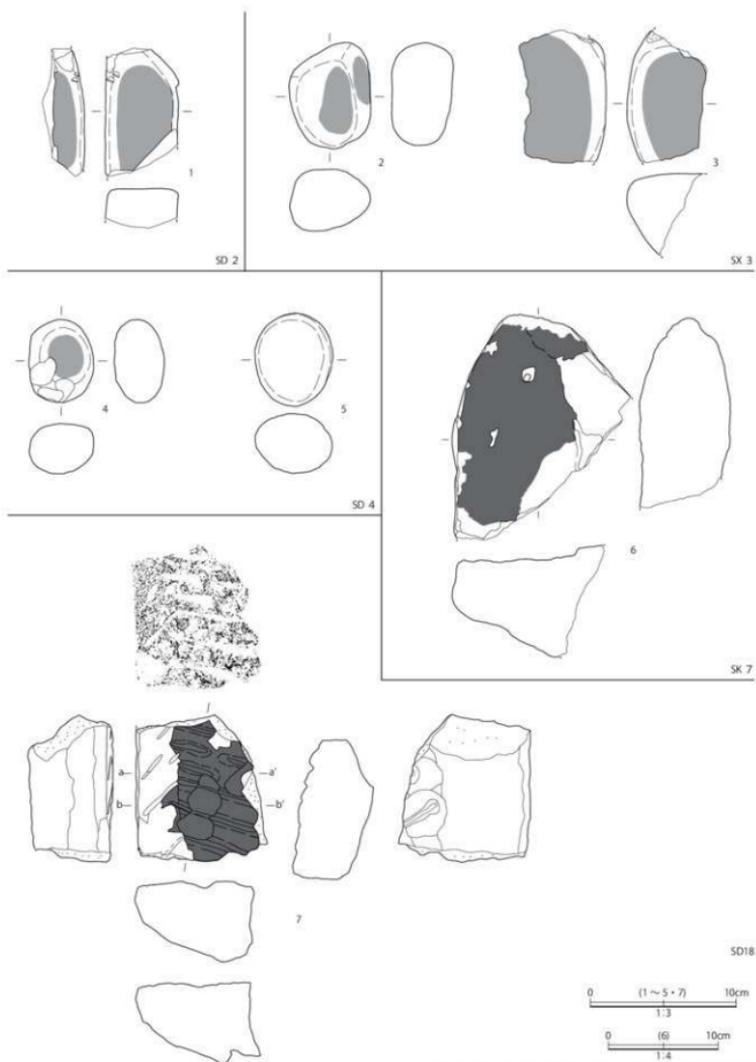
第121図 2区 グリッド(3) 遺物



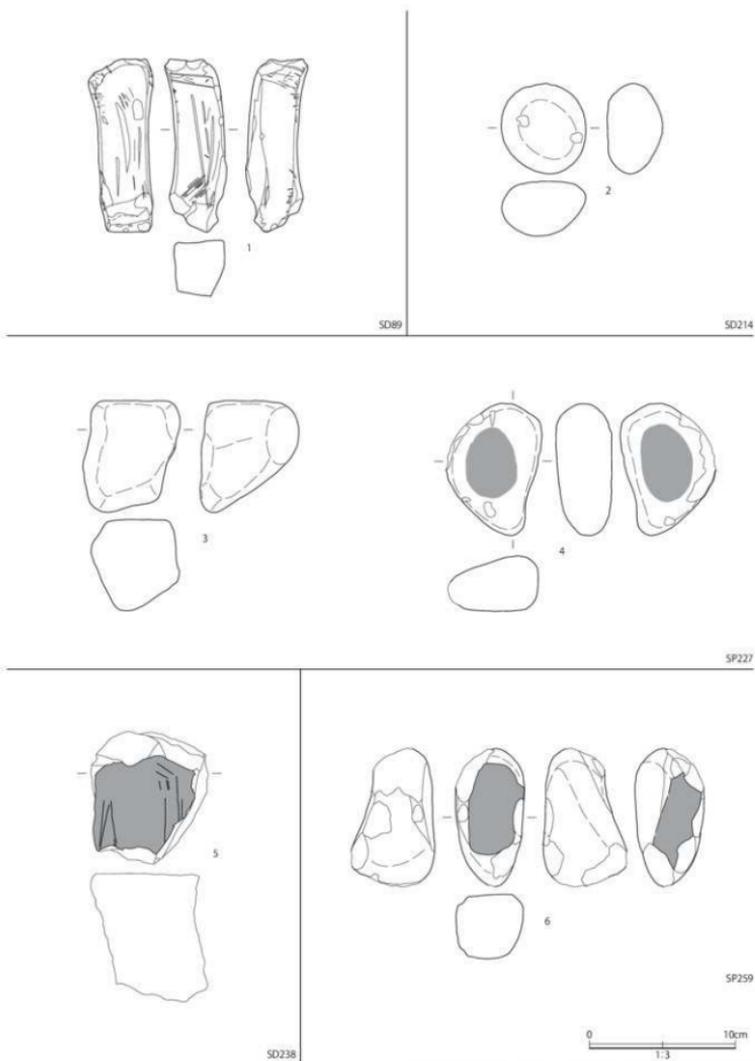
第122図 2区 グリッド(4) 遺物



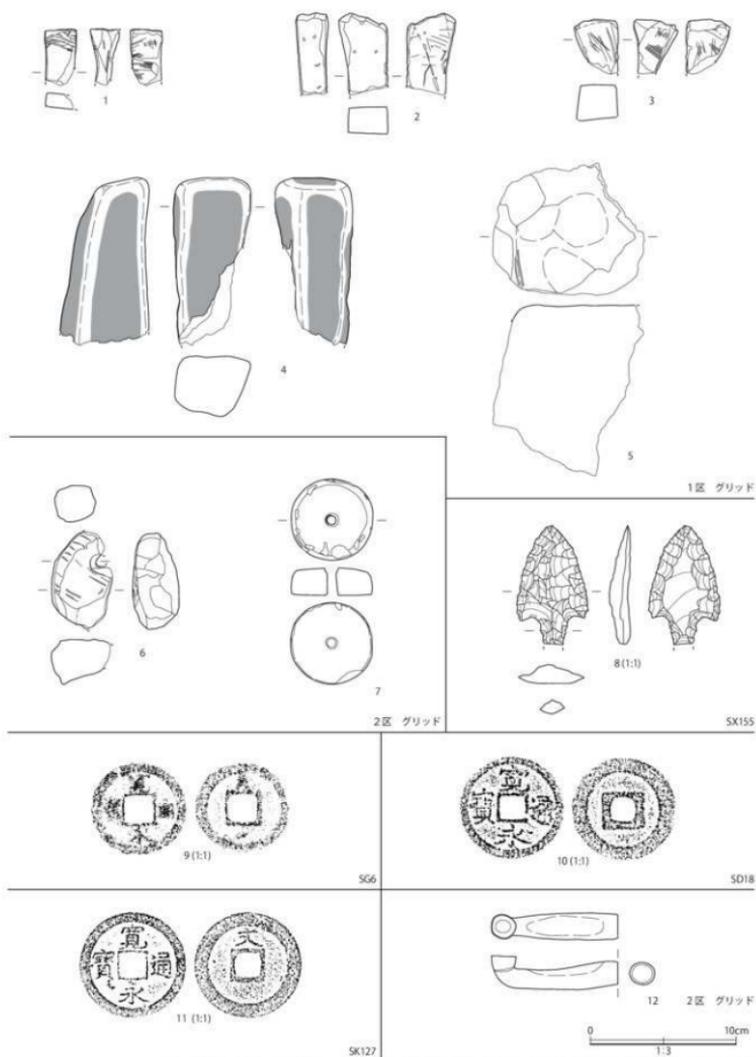
第123図 2区 グリッド (5)・2区 調査区遺物



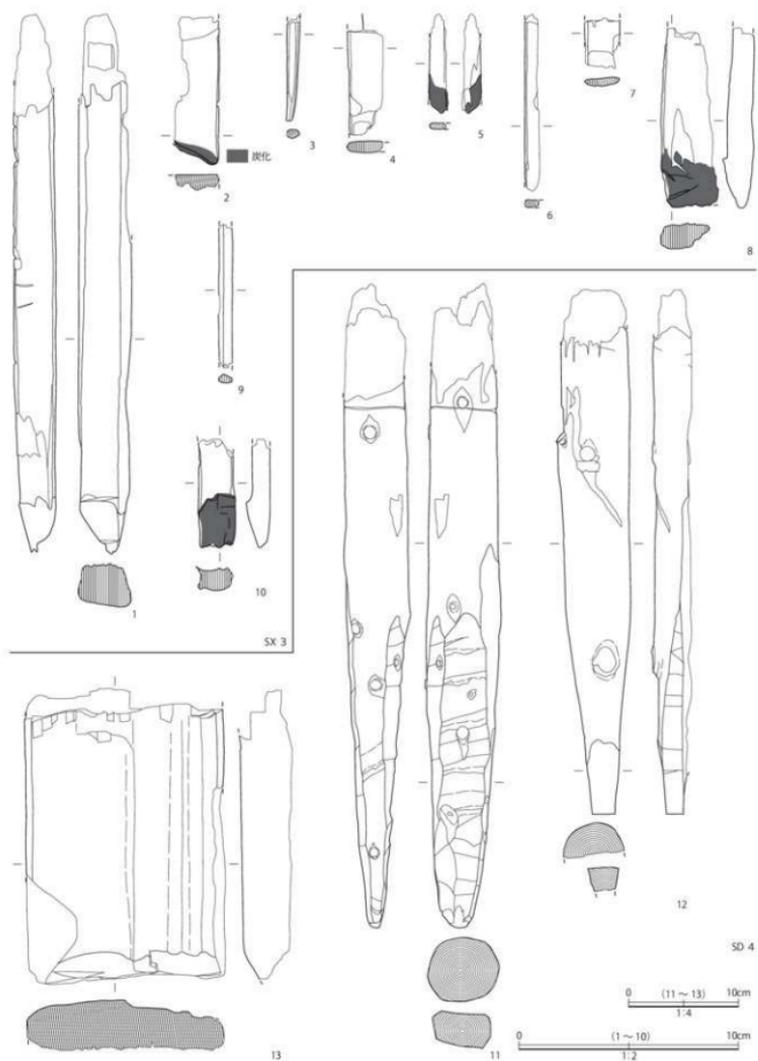
第124図 SD 2・SX 3・SD 4・SK 7・SD18 石製品



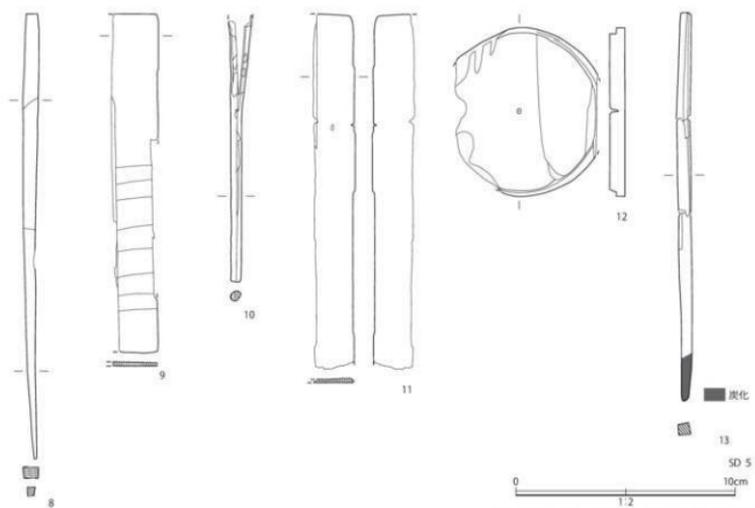
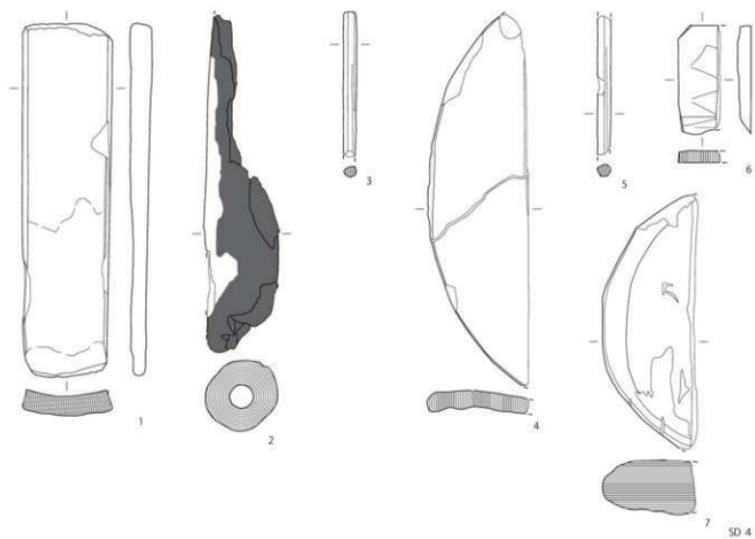
第 125 図 SD89・SD214・SP227・SD238・SP259 石製品



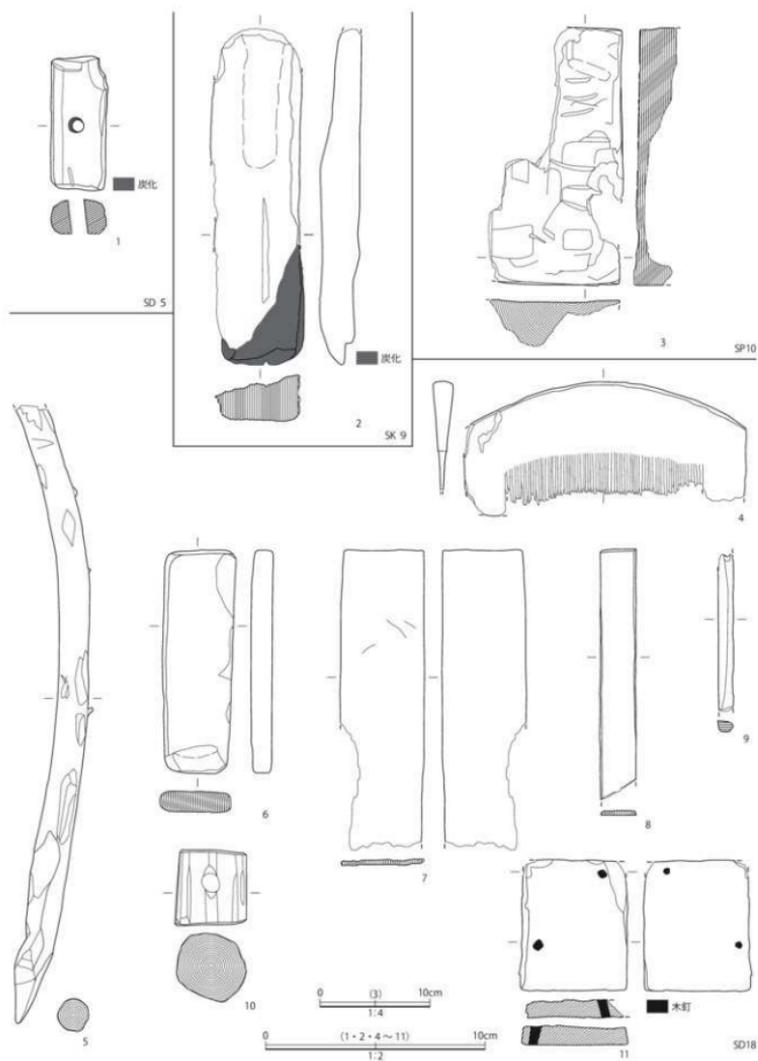
第126図 1区・2区グリッド石製品・SX155石器・SG 6・SD18・SK127・2区グリッド金属製品



第127図 SX 3・SD 4 (1) 木製品

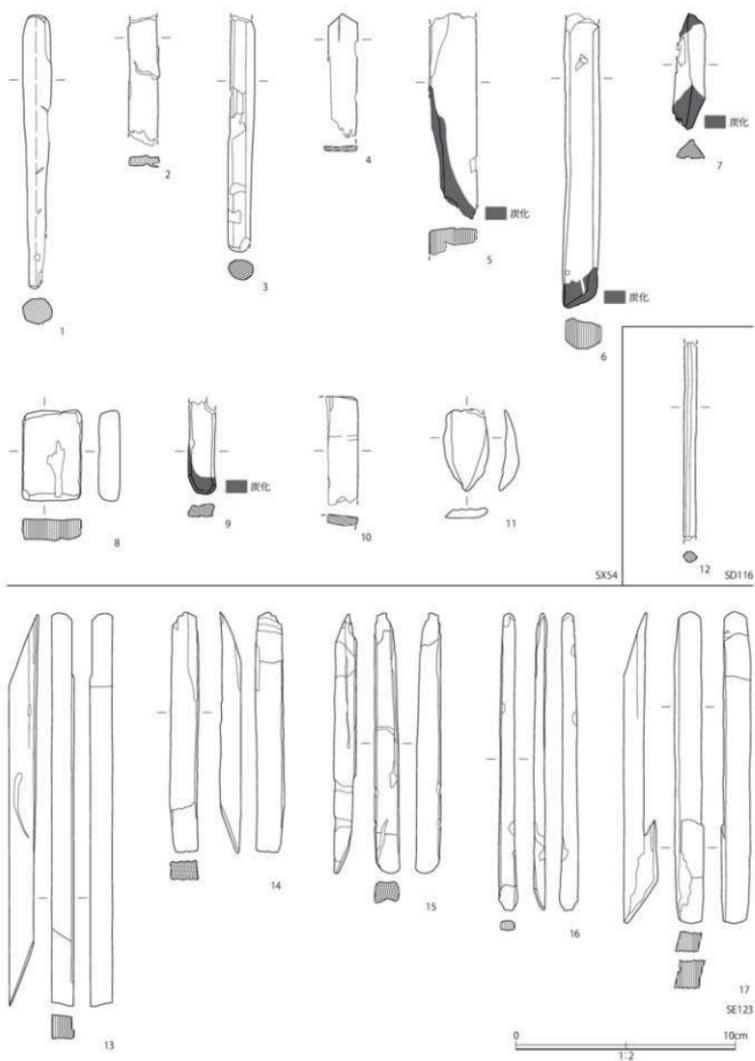


第128図 SD 4 (2)・SD 5 (1) 木製品

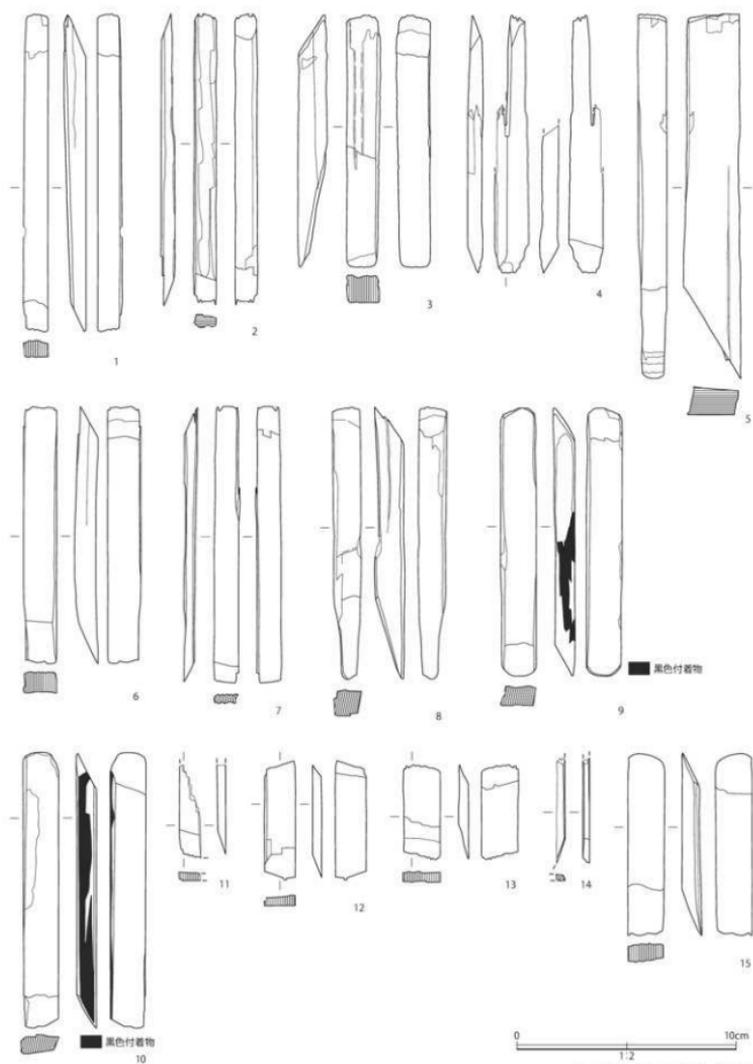


第129図 SD 5 (2)・SK 9・SP10・SD18 (1) 木製品

V 出土遺物

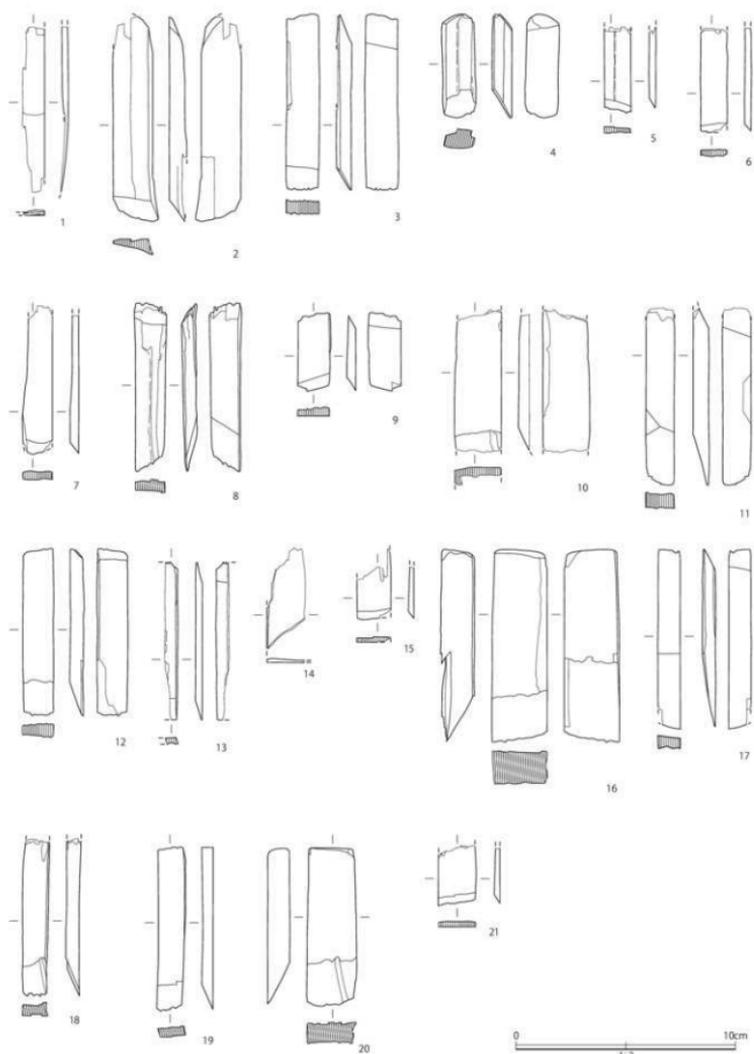


第 131 図 SX54 (2)・SD116・SE123 (1) 木製品

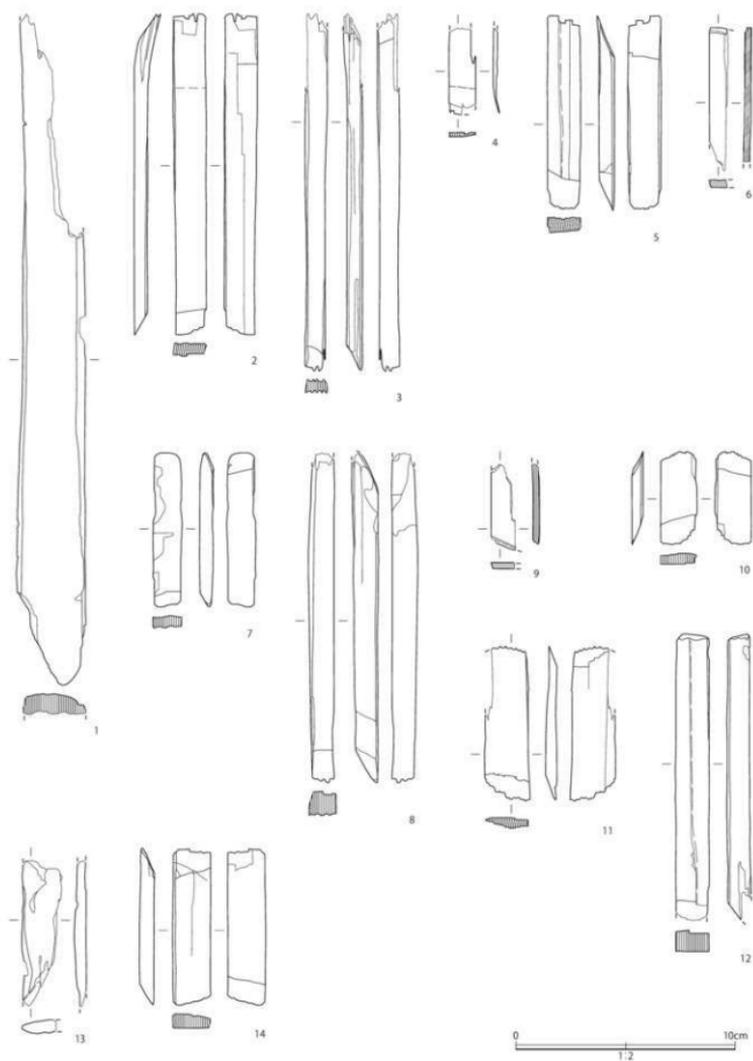


第 132 図 SE123 (2) 木製品

V 出土遺物

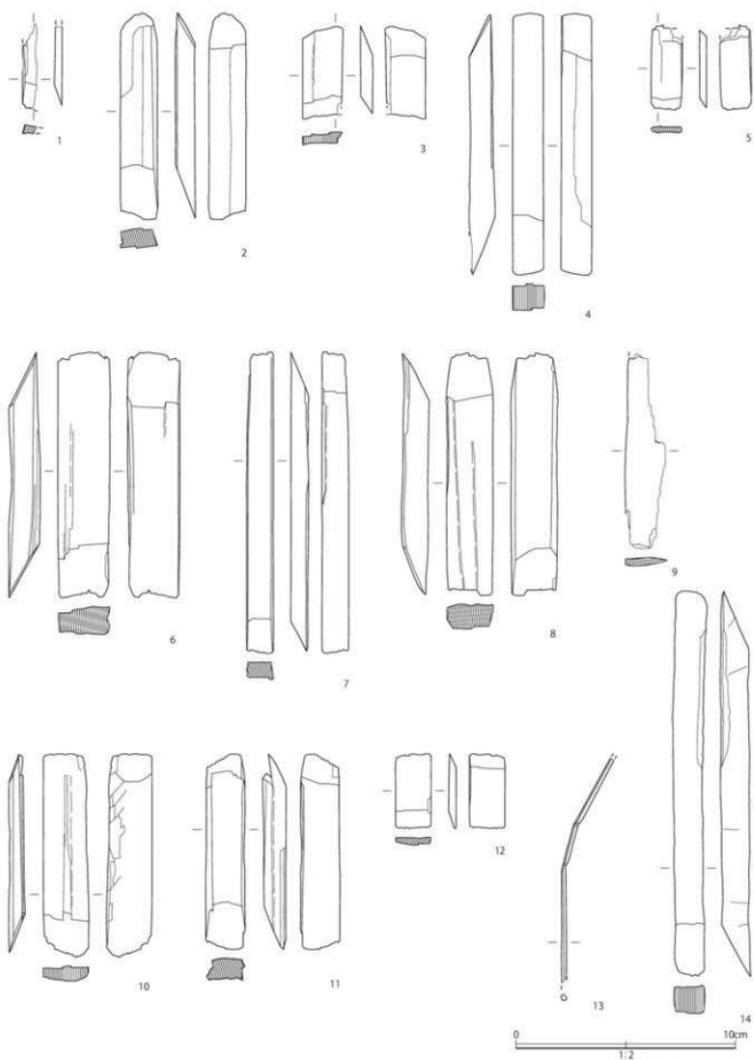


第133図 SE123(3) 木製品

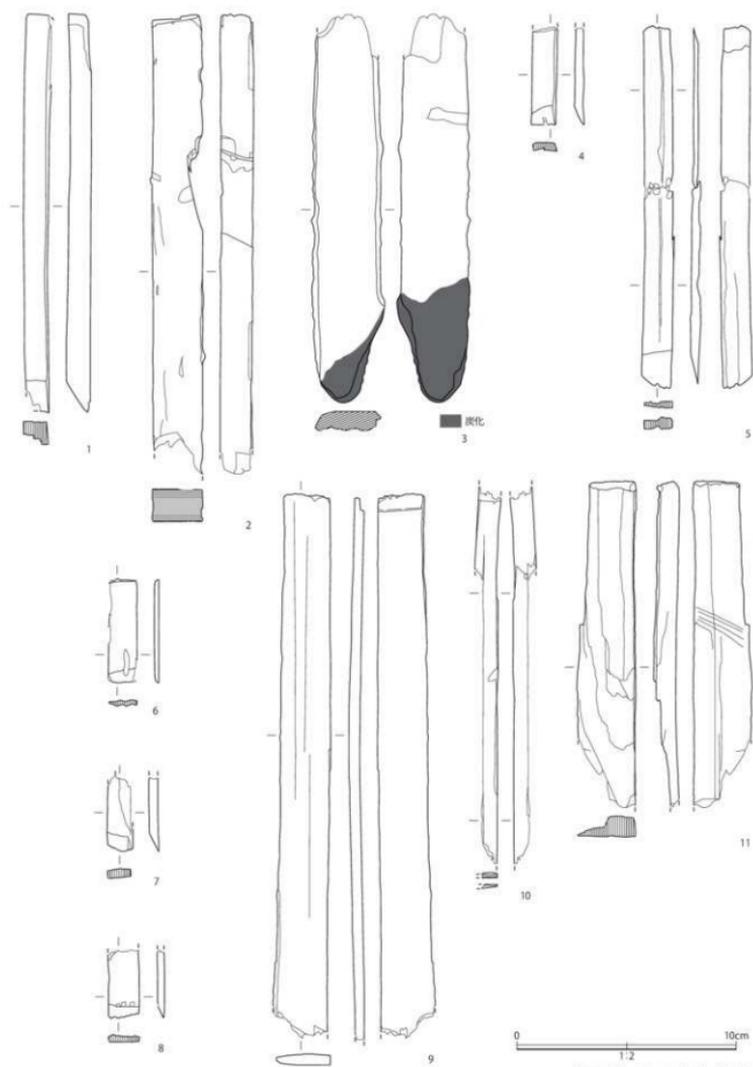


第134圖 SE123 (4) 木製品

V 出土遺物

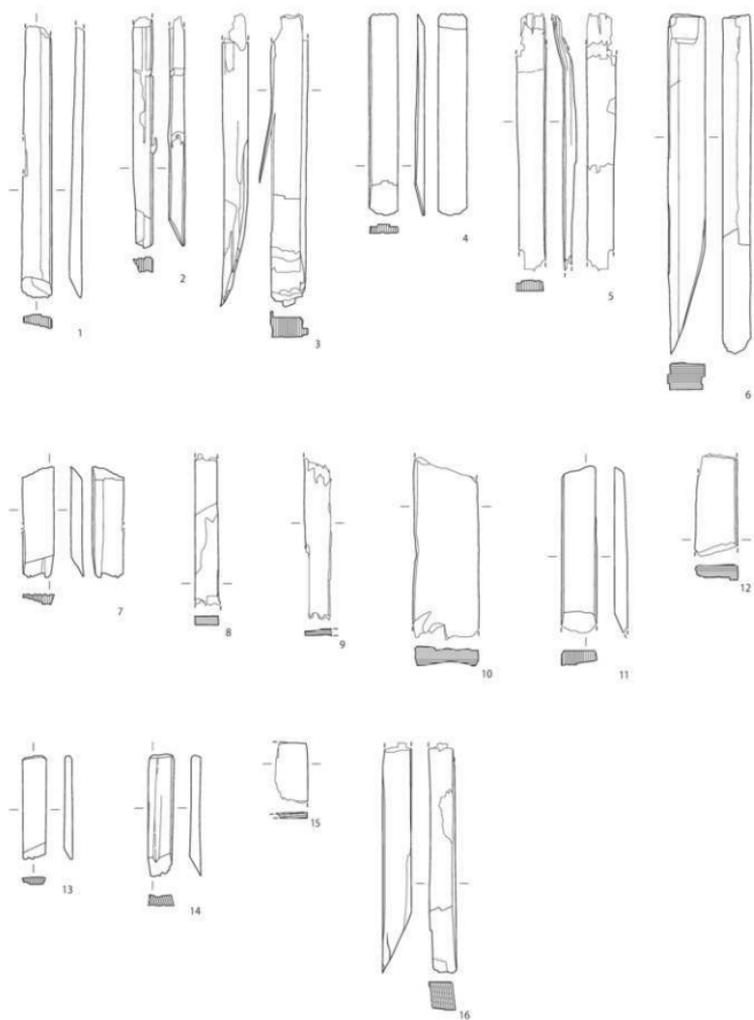


第135図 SE123 (5) 木製品

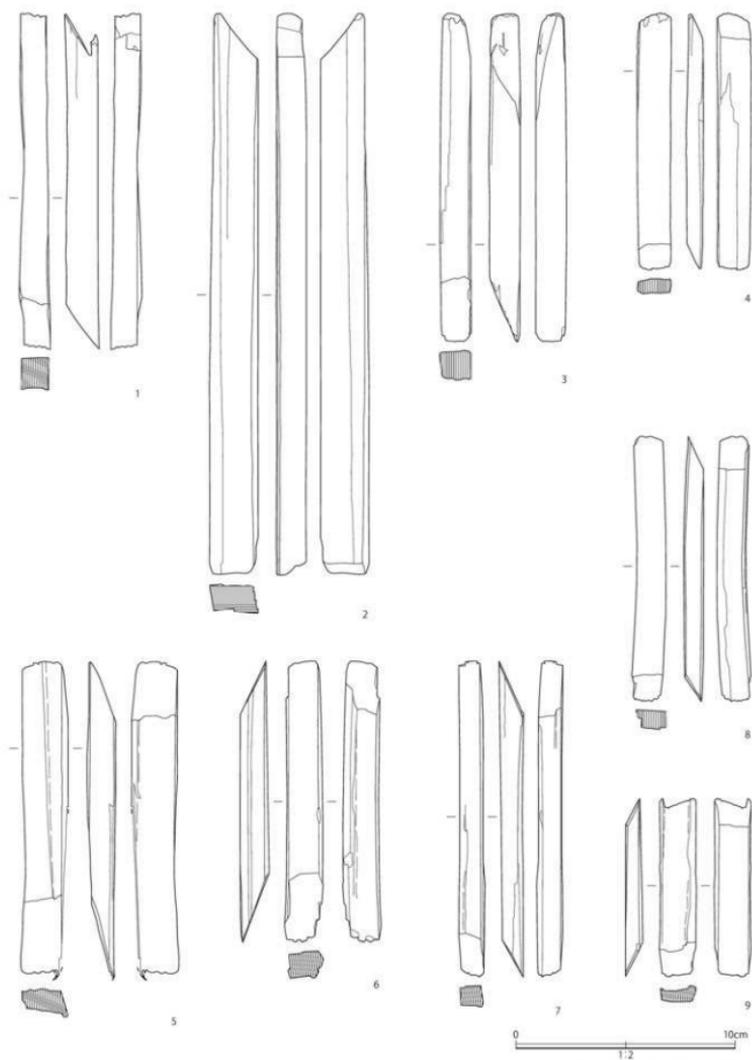


第136圖 SE123 (6) 木製品

V 出土遺物

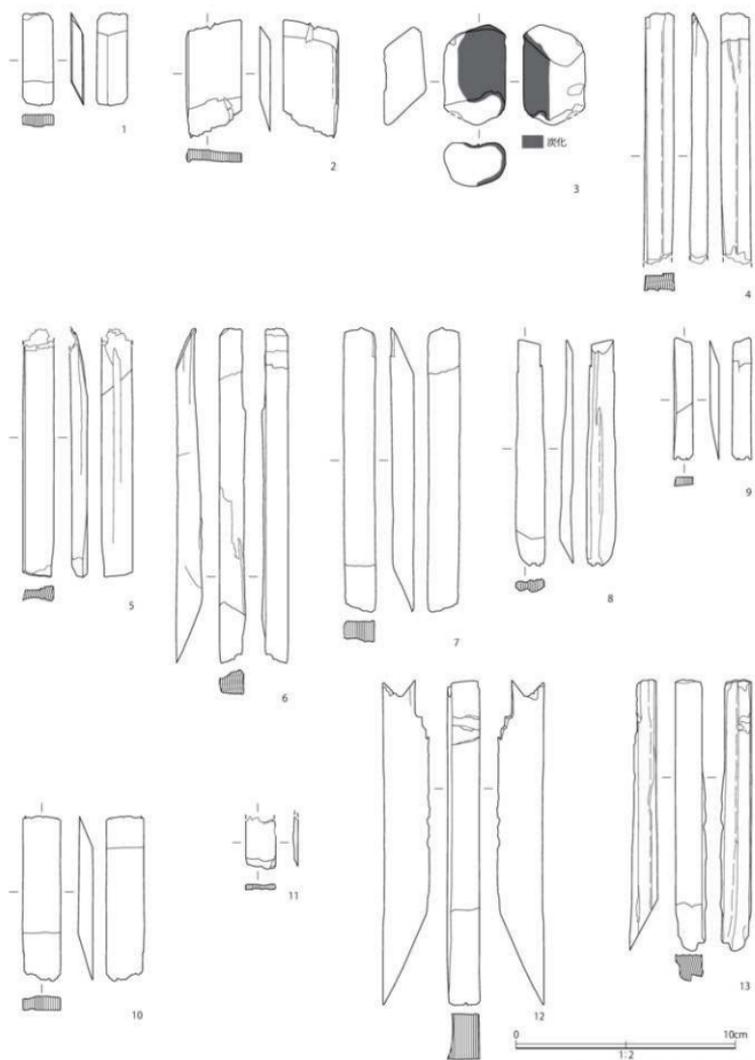


第137図 SE123(7)木製品

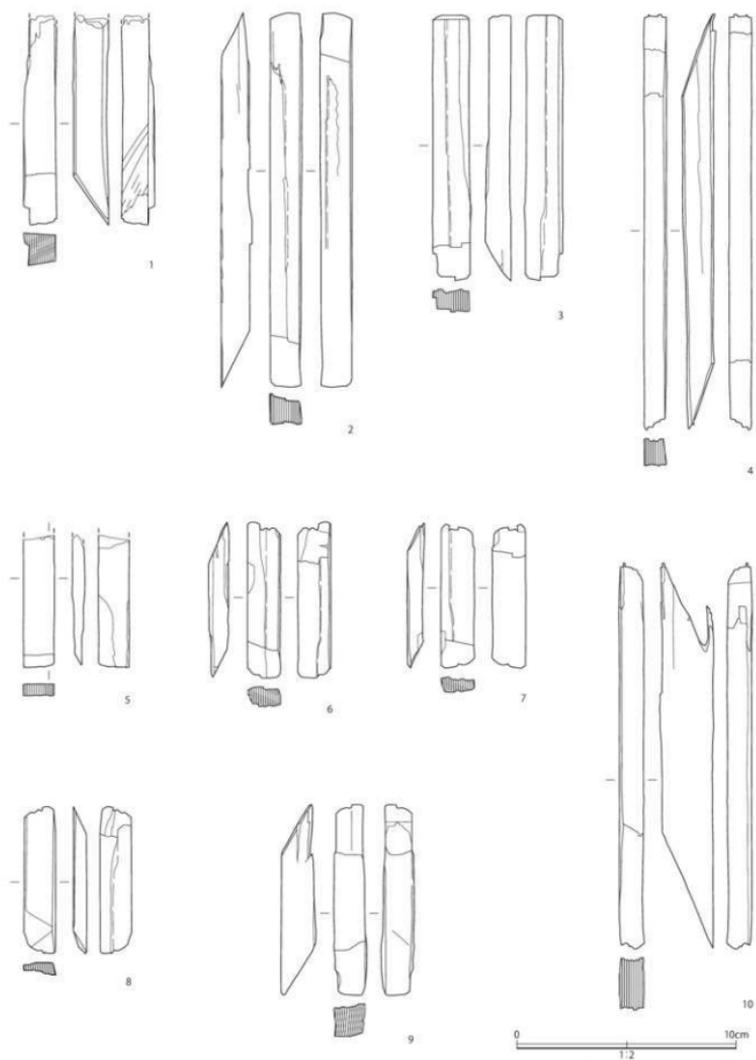


第138圖 SE123 (8) 木製品

V 出土遺物

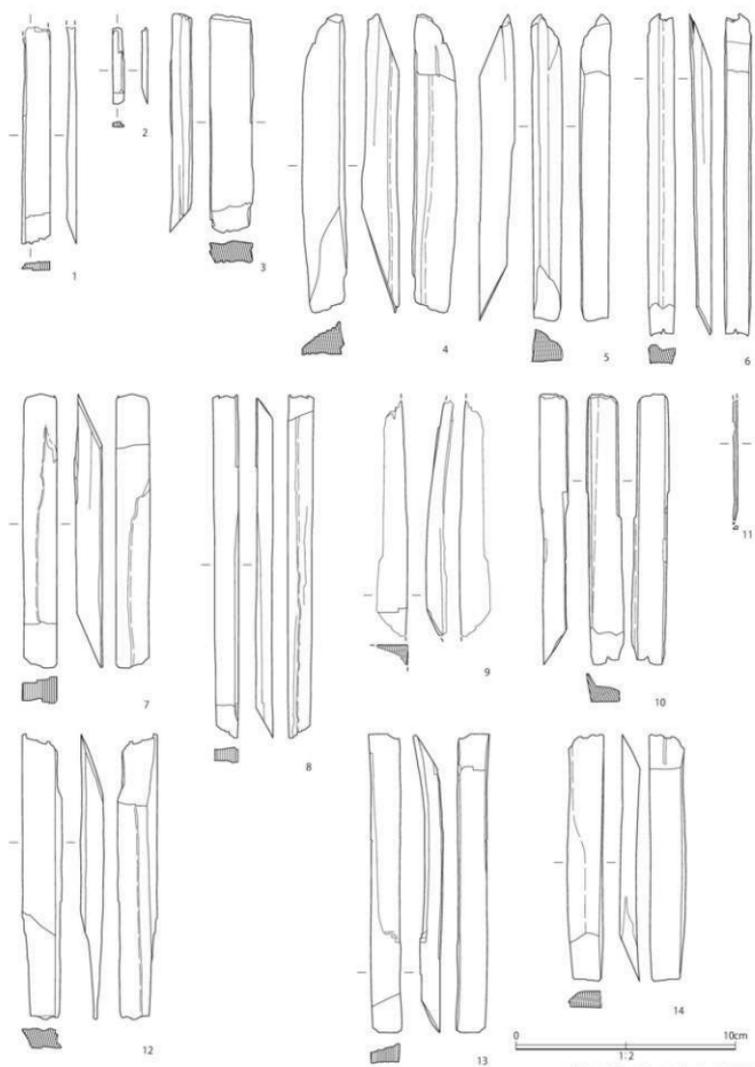


第139圖 SE123(9)木製品

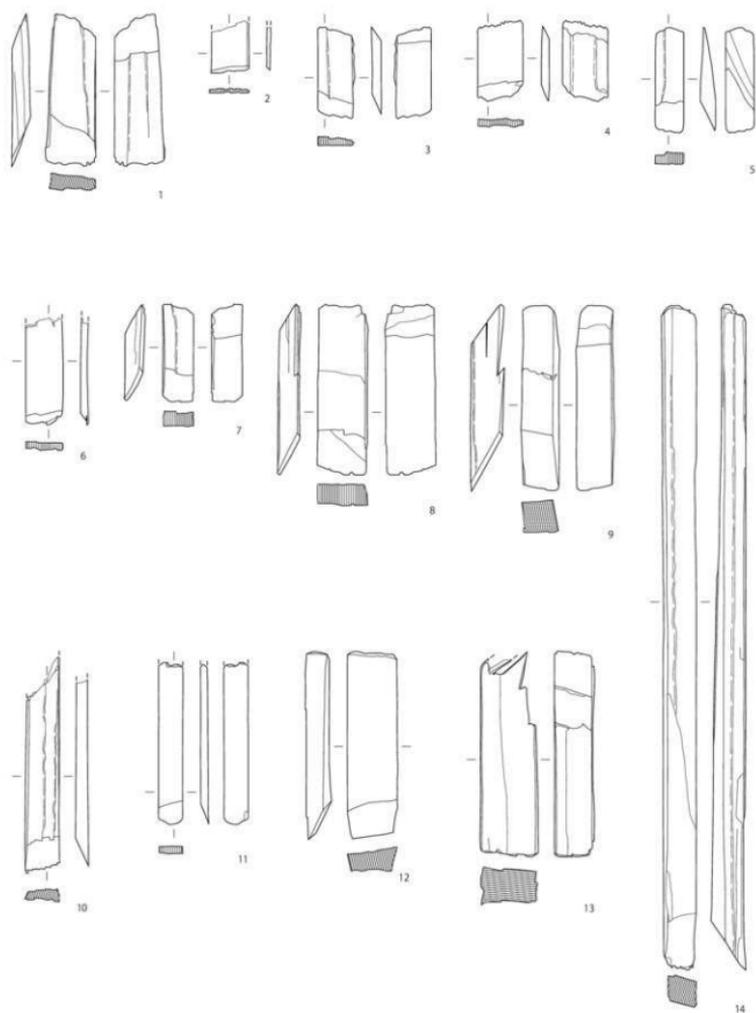


第140圖 SE123 (10) 木製品

V 出土遺物

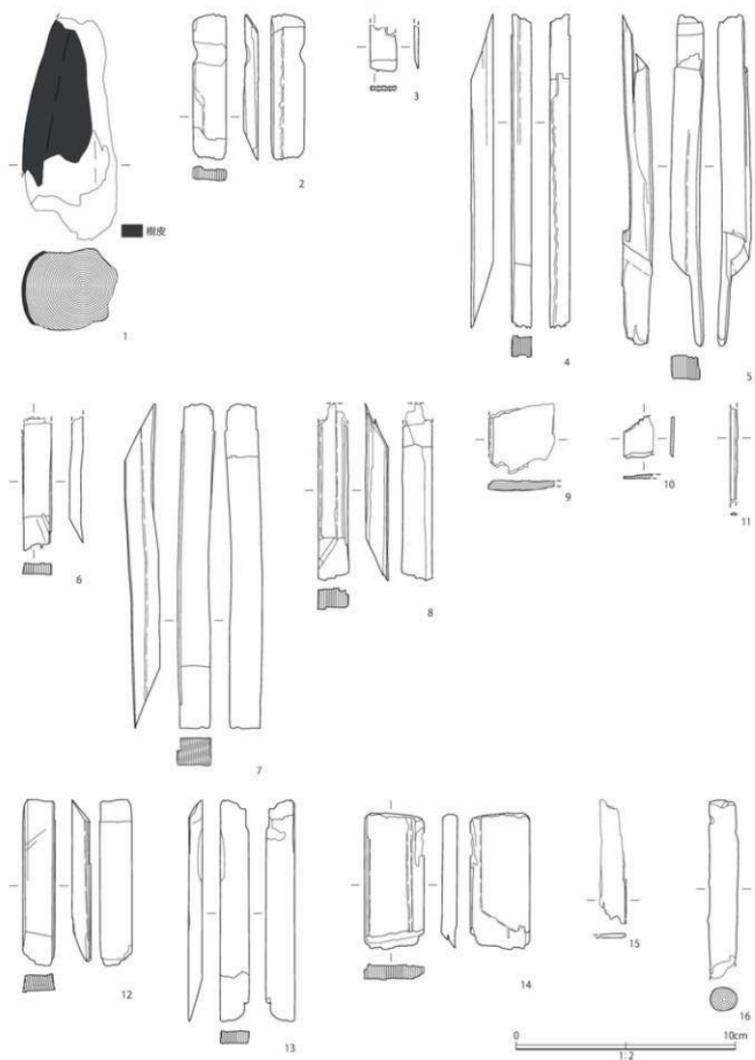


第141図 SE123 (11) 木製品

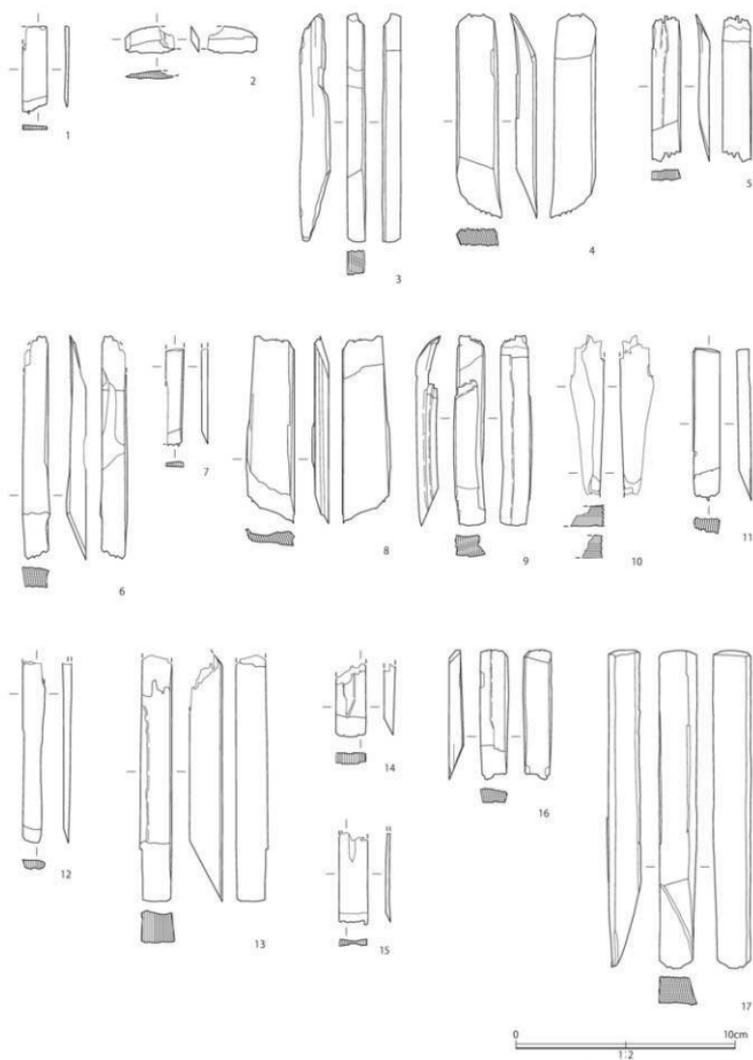


第142圖 SE123 (12) 木製品

V 出土遺物

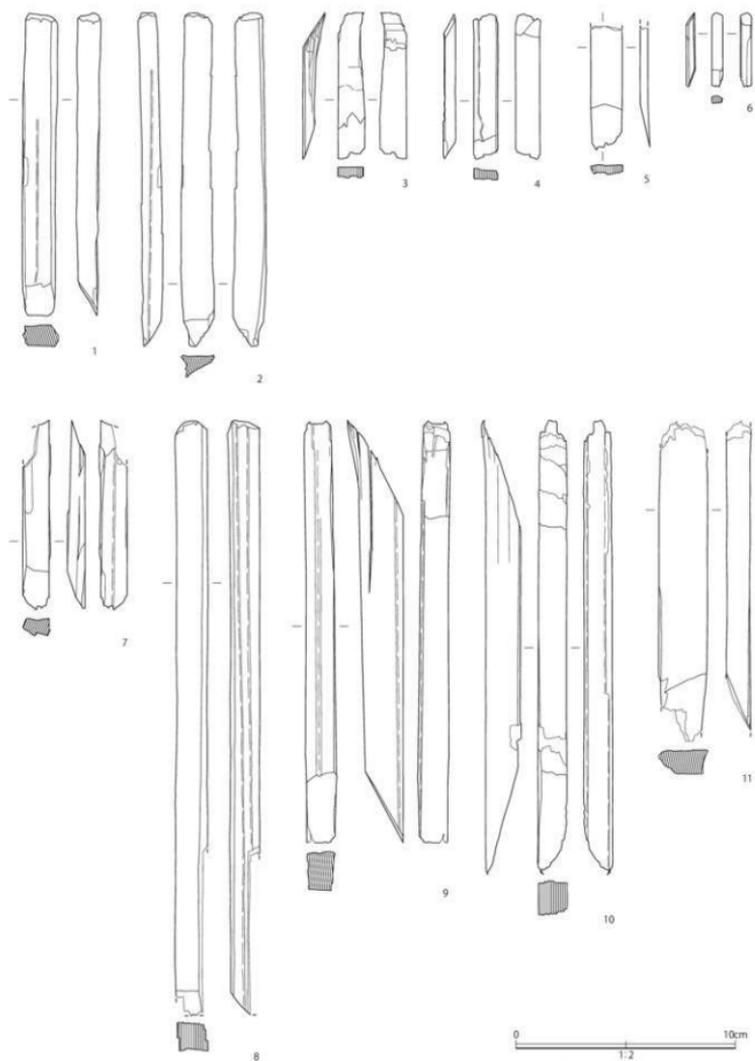


第143圖 SE123 (13) 木製品

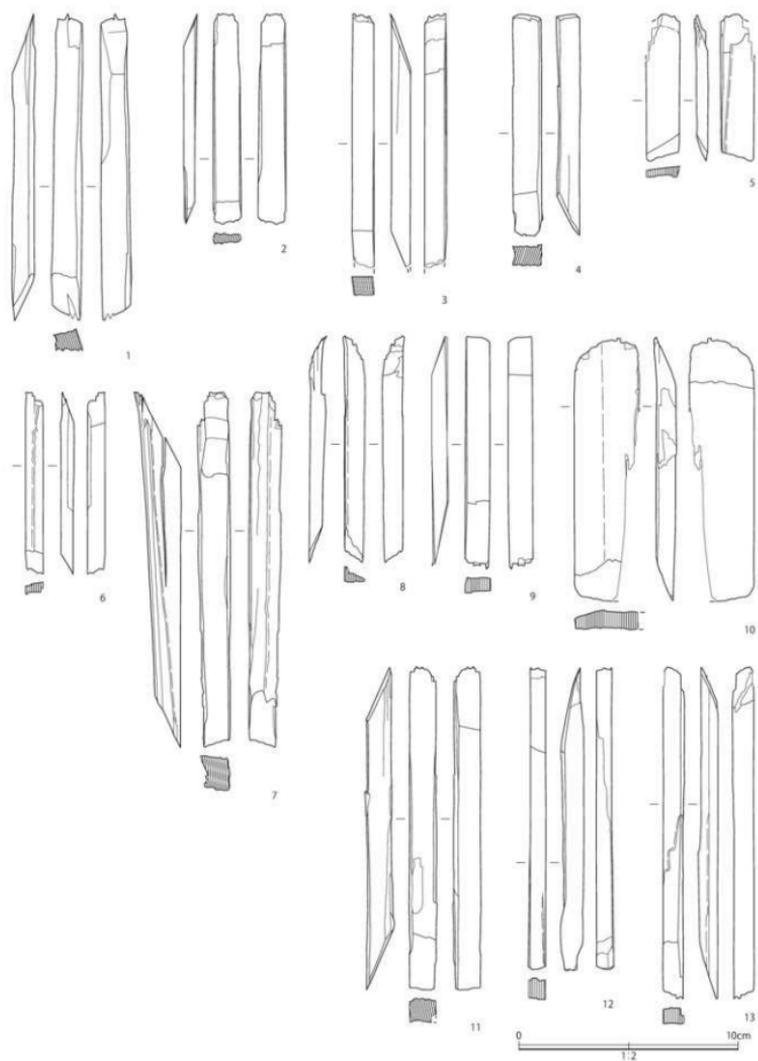


第144圖 SE123 (14) 木製品

V 出土遺物

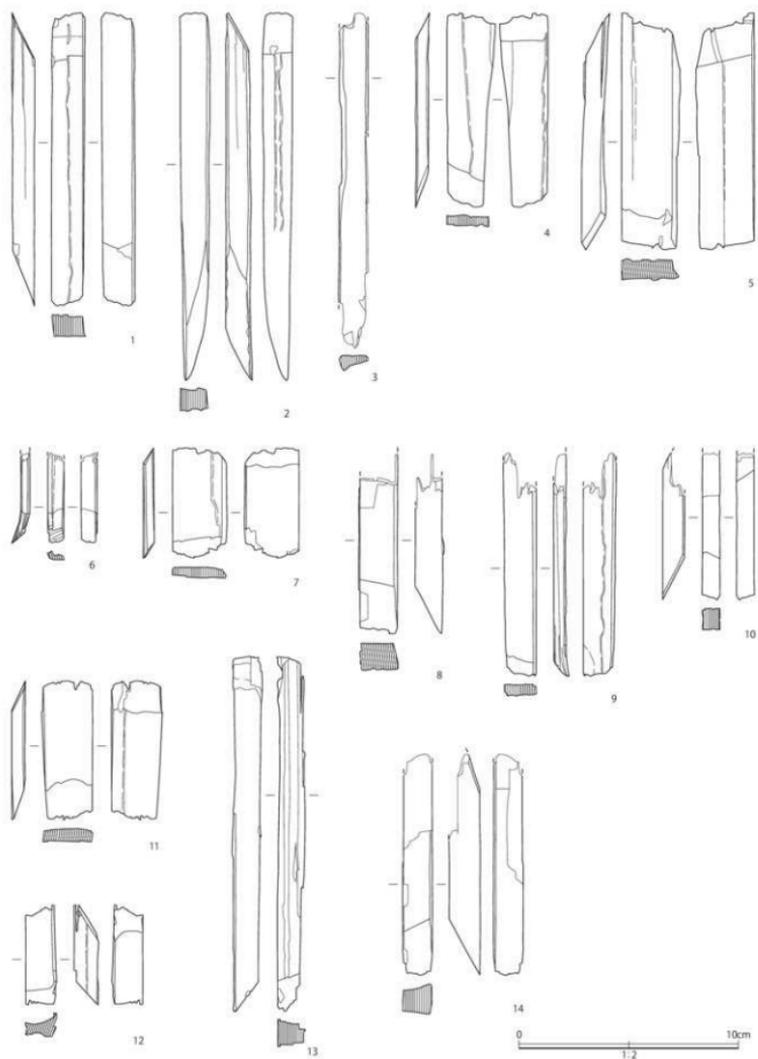


第145図 SE123 (15) 木製品



第146圖 SE123 (16) 木製品

V 出土遺物

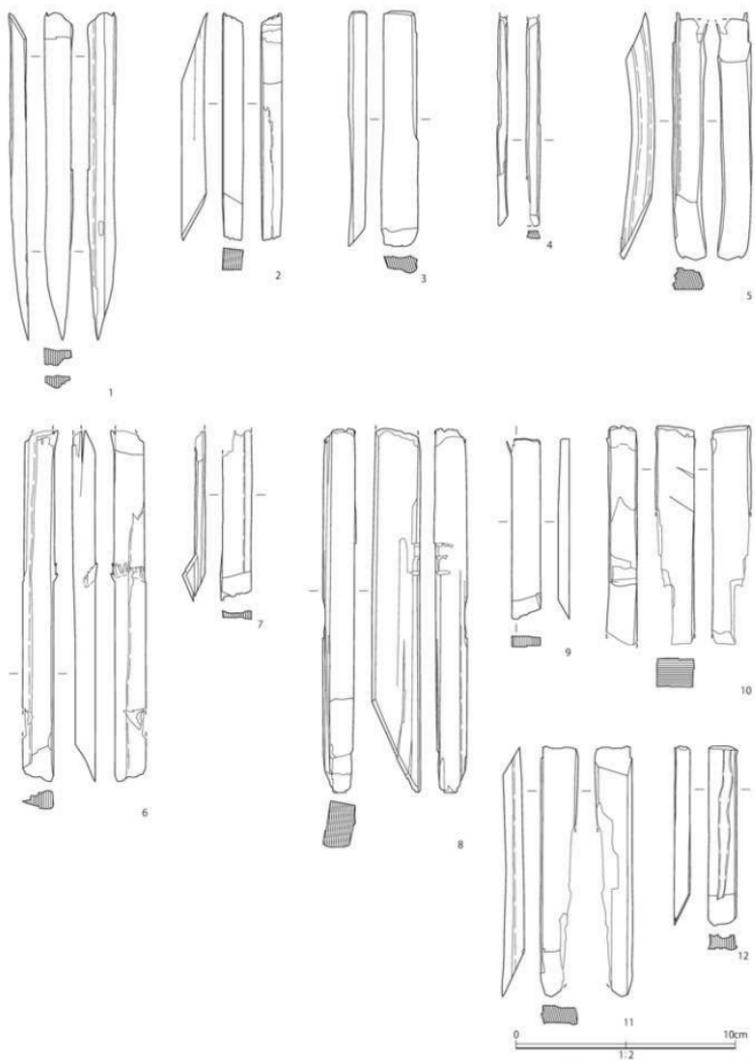


第147図 SE123 (17) 木製品

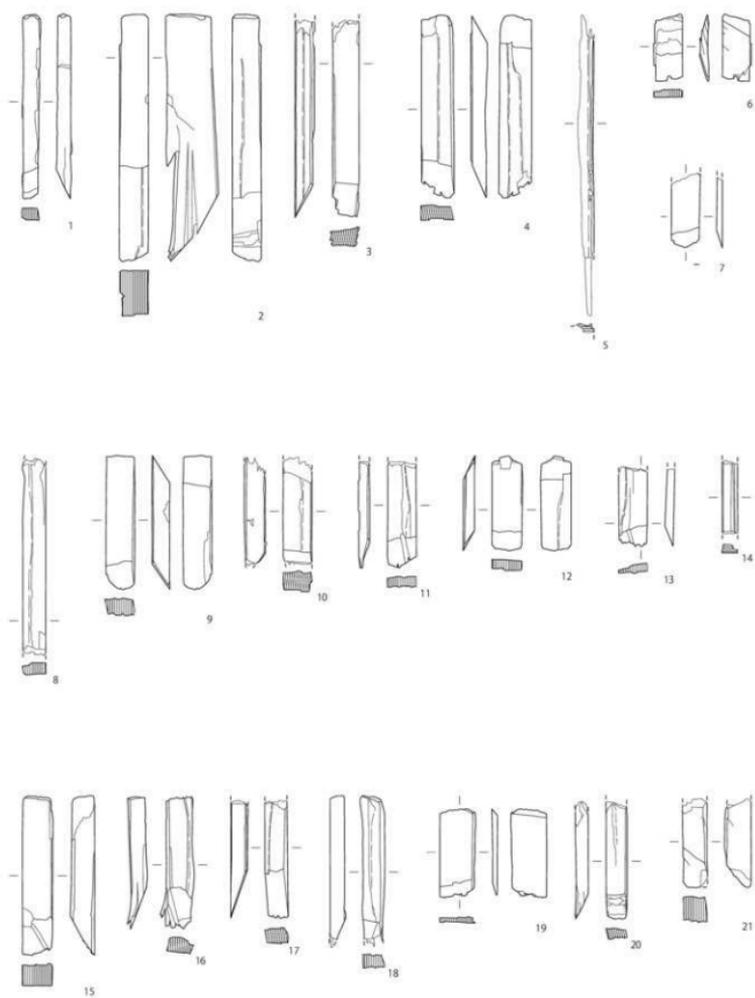


第 148 圖 SE123 (18) 木製品

V 出土遺物

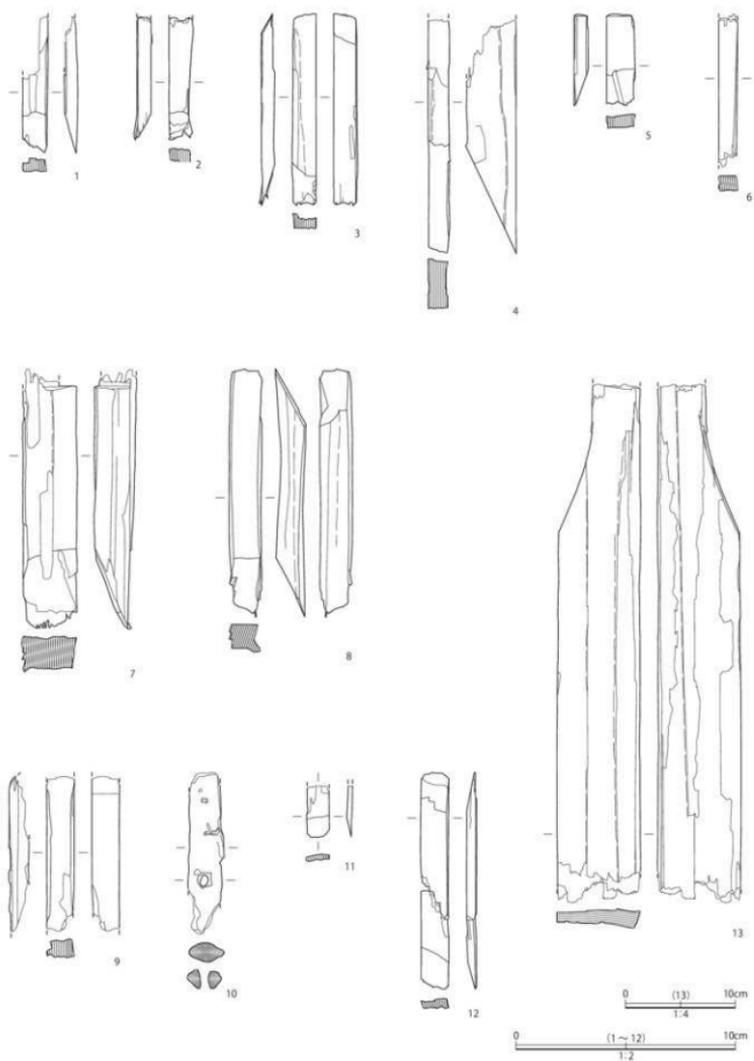


第149図 SE123 (19) 木製品

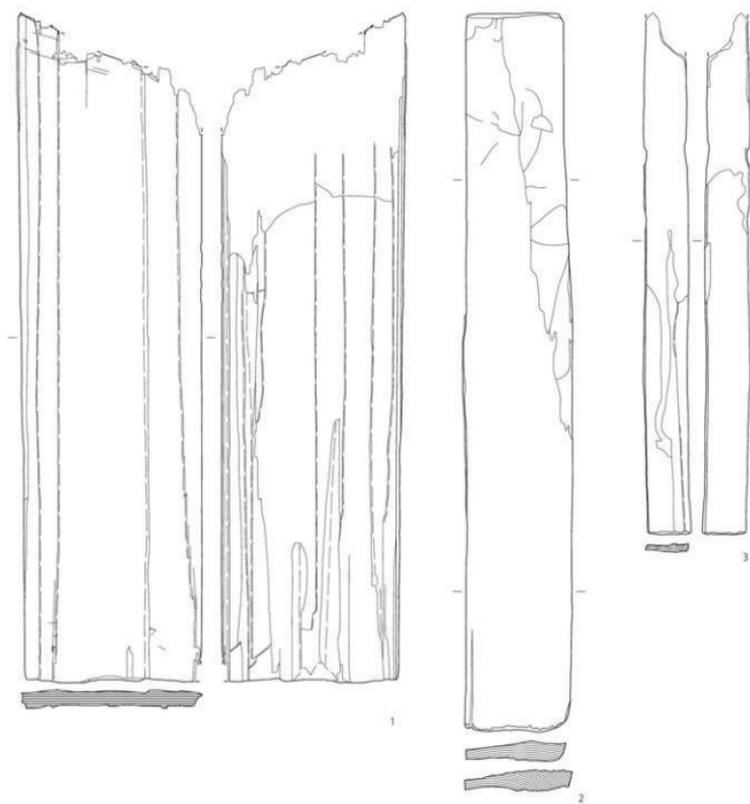


第 150 圖 SE123 (20) 木製品

V 出土遺物



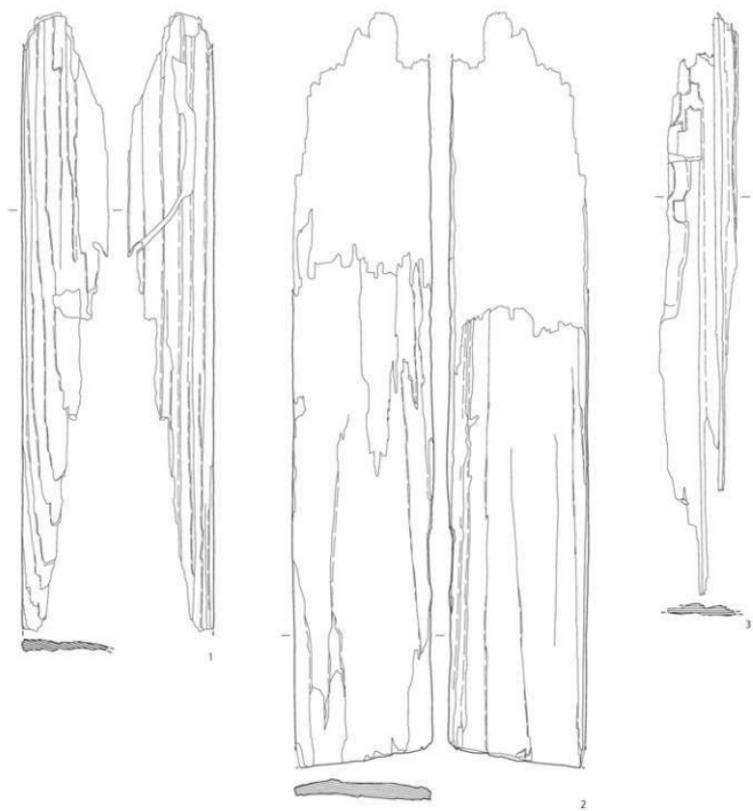
第151図 SE123 (21) 木製品



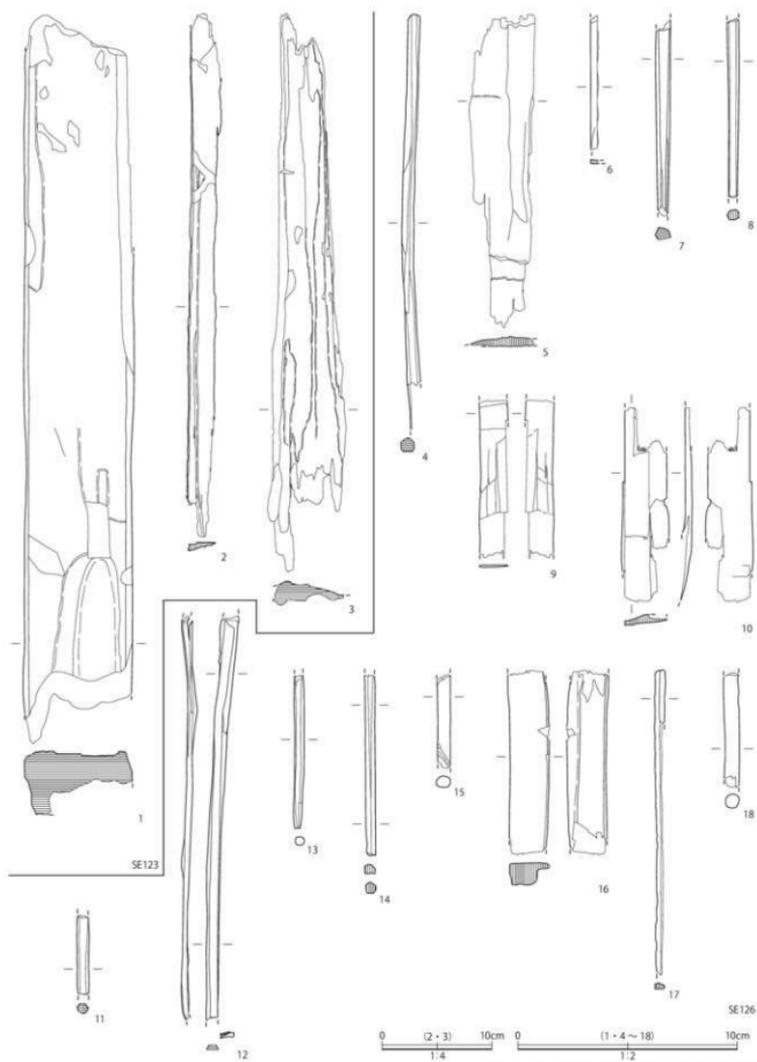
0 10cm
1:4

第152圖 SE123 (22) 木製品

V 出土遺物

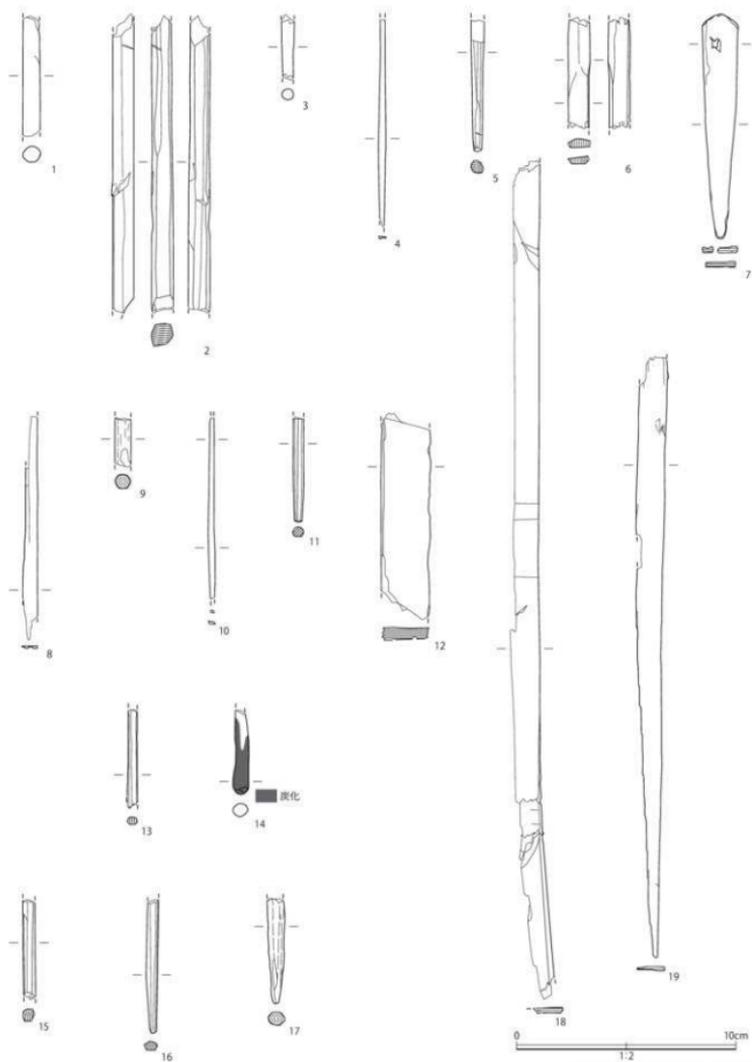


第153図 SE123 (23) 木製品

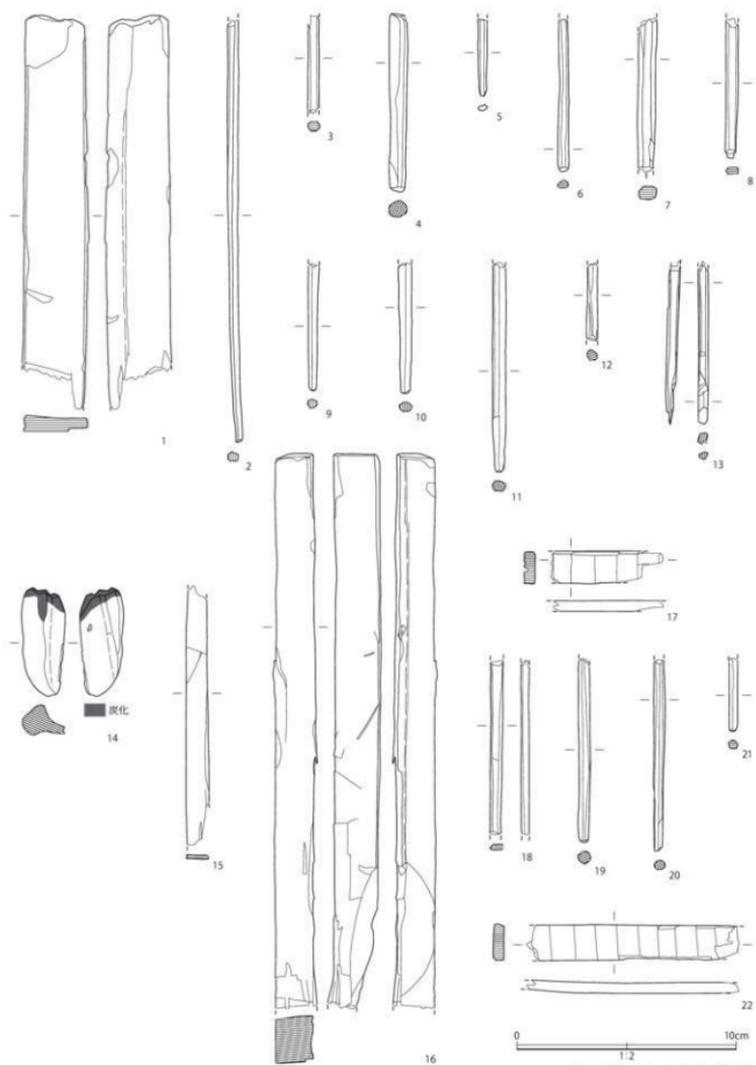


第154圖 SE123 (24)・SE126 (1) 木製品

V 出土遺物

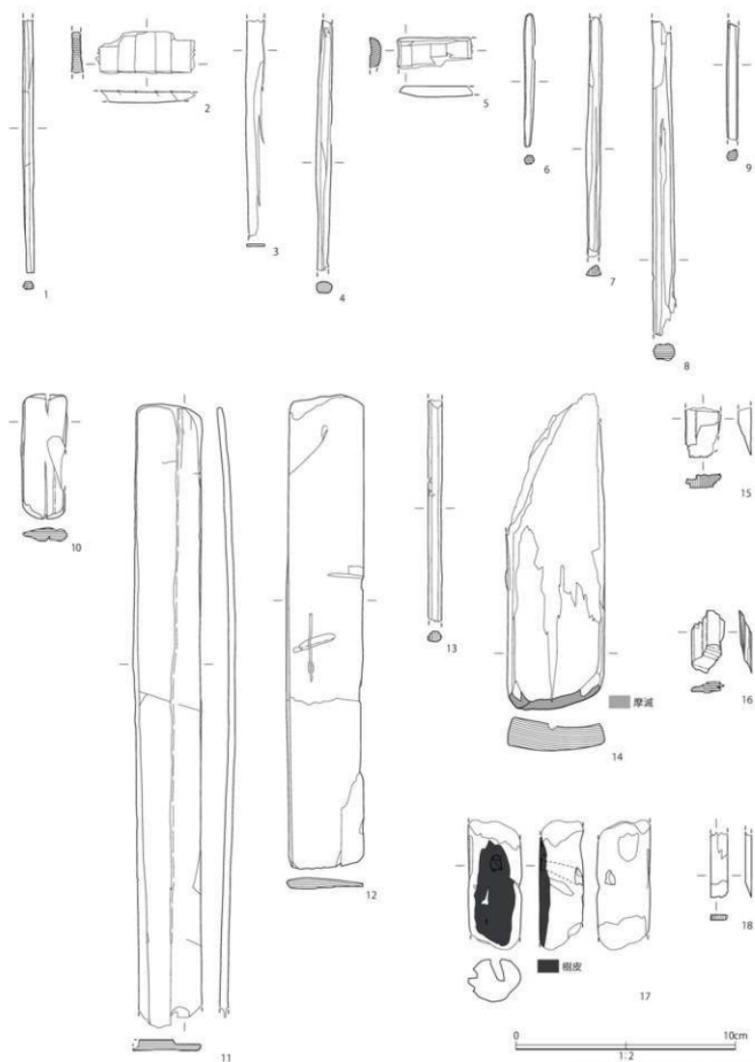


第155図 SE126(2)木製品

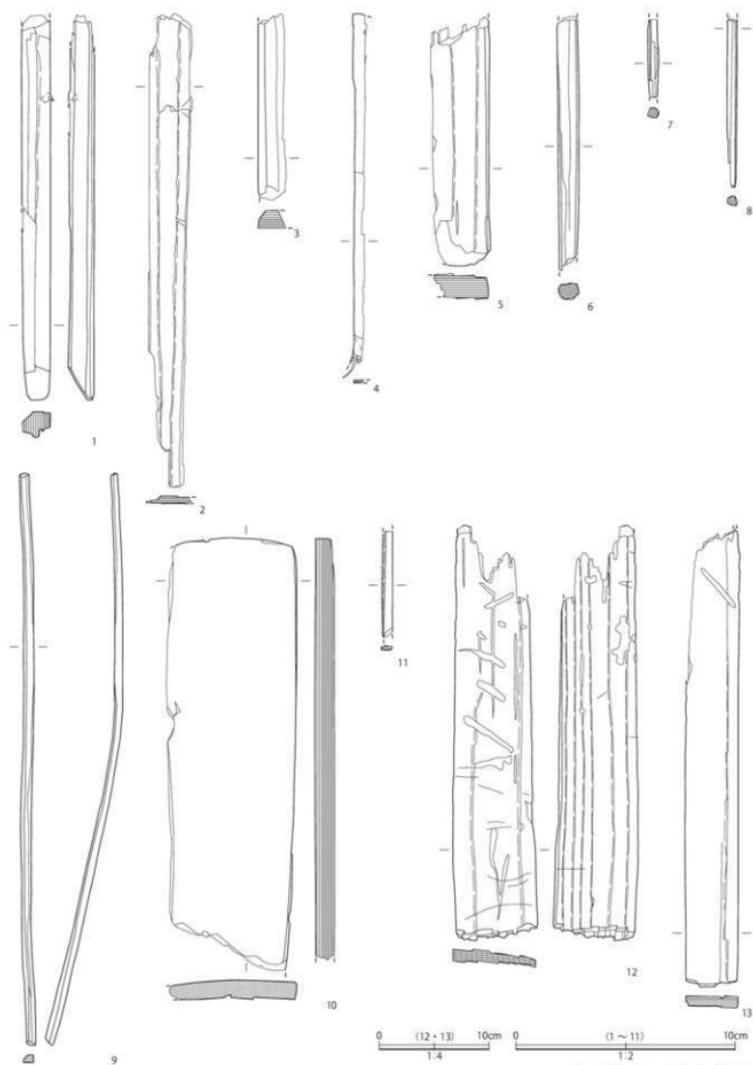


第156圖 SE126(3)木製品

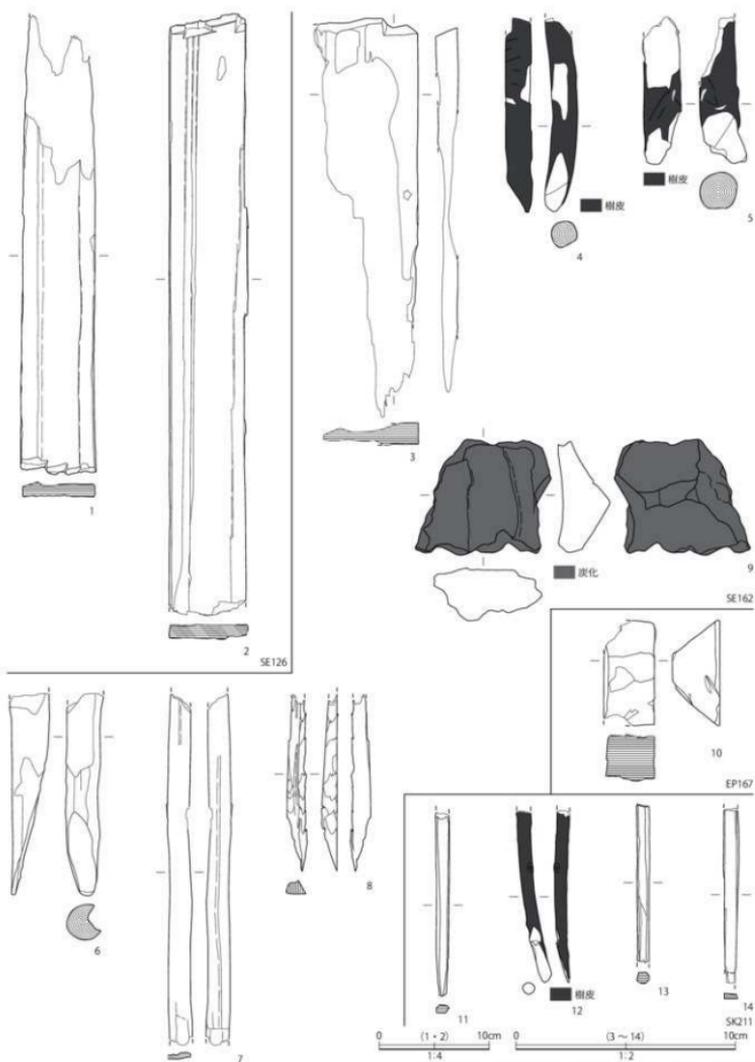
V 出土遺物



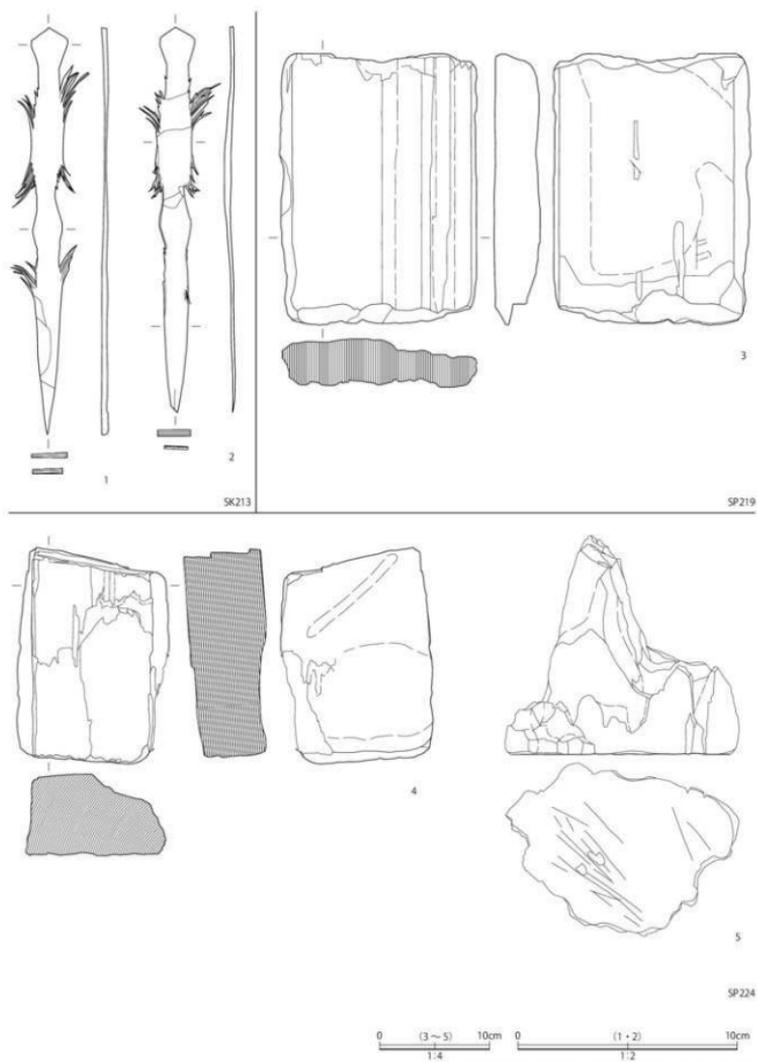
第157圖 SE126(4)木製品



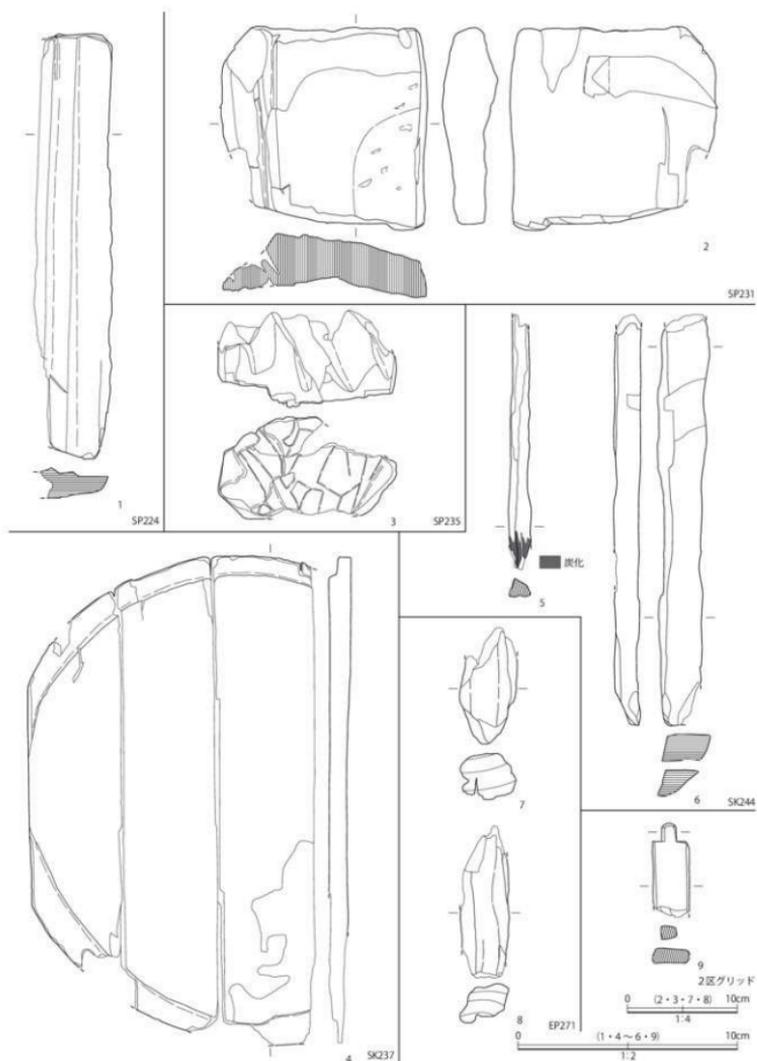
第158圖 SE126 (5) 木製品



第159図 SE126(6)・SE162・EP167・SK211木製品



第160圖 SK213・SP219・SP224 (1) 木製品



第161図 SP224 (2)・SP231・SP235・SK237・SK244・EP271・2区グリッド木製品

表4 上曾根遺跡 土器観察表 1

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
61	1	50	肥前陶器	瓶	SX1	RP2		外面ケズリ / 内面口クロナデ	1期か
	2	50	須恵器	蓋	SX1 上面			内外面口クロナデ / 外面ケズリか	内面摩滅
	3	50	須恵器	蓋	SX1 (3009)・2908 検出・3305		口径 (146)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面灰軸
	4	50	須恵器	坏	SX1・SX1 上面	RP2	底径 (89)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	5	50	須恵器	坏	SX1	RP2	底径 72	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	6	50	須恵器	坏	SX1・SX1F	RP2		内外面口クロナデ	
	7	50	須恵器	坏	SX1 (2909)		底径 78	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	8	50	須恵器	坏	SX1 ベルト			内外面口クロナデ	
	9	50	須恵器	壺	SX1	RP122・RP2	底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	10	50	赤埴土器	甕	SX1 上面			内外面口クロナデ	
	11	50	赤埴土器	甕	SX1	RP2		内外面口クロナデ	
	12	50	須恵器	甕	SX1・SD2・2707	RP2・RP1		外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕	
	13	50	須恵器	甕	SX1	RP2	長さ 35 / 幅 31 / 厚さ 13	外面平行タタキ / 内面平行ア字痕	円板状土製品か
	14	50	須恵器	甕	SX1・2908 検出	RP2		外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕	
	15	50	須恵器	甕	SX1	RP123		外面平行タタキ / 内面平行ア字痕	
	16	50	白磁	皿	SD2	RP1	底径 (52)		土類
	17	50	須恵器	坏	SD2F・2705・2905		口径 (122) / 底径 (76) / 器高 37	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面覆付着
	18	50	須恵器	坏	SD2	RP108	口径 (130) / 底径 (80) / 器高 32	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅 使用痕か
	19	50	須恵器	坏	SD2 (2606)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	20	50	須恵器	坏	SD2F		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅
	21	50	須恵器	坏	SD2・SD89 (2605)		底径 40	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	22	50	須恵器	有台坏	SD2 (2906)			内外面口クロナデ	
	23	50	須恵器	坏	SD2 (2705)・SD2F (2705)		口径 (128)	内外面口クロナデ	
	24	50	須恵器	有台坏	SD2	RP1	底径 60	内外面口クロナデ / 底部ナデ	体部打ち欠きか
	25	50	赤埴土器	坏	SD2・SD2F (2705)	RP104	口径 130 / 底径 48 / 器高 44	内外面口クロナデ / 底部回転系	口縁部・内面覆付着
62	1	51	赤埴土器	坏	SD2	RP1	底径 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	2	51	赤埴土器	坏	SD2	RP107	底径 60	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	3	51	赤埴土器	坏	SD2F (2705)		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部回転系か	
	4	51	赤埴土器	坏	SD2F		底径 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	5	51	赤埴土器	坏	SD2	RP1		内外面口クロナデ	内面覆付着 サンドイッチ状構成
	6	51	赤埴土器	坏	SD2	RP1		内外面口クロナデ	口縁に沈線あり
	7	51	土師器	有台坏	SD2・2605・2705	RP1	口径 (176) / 底径 68 / 器高 63	外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理 / 底部ナデ	
	8	51	土師器	有台坏	SD2	RP88	口径 92 / 底径 52 / 器高 34	内外面ミガキ・黒色処理 / 底部ナデ	
	9	51	土師器	有台坏	SD2F (3006)		底径 54	外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理 / 底部回転系	
	10	51	土師器	有台坏	SD2			外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理	
	11	51	土師器	甕	SD2 ベルト			外面ケズリ / 内面ハケメ	
	12	51	赤埴土器	甕	SD2F	RP1		内外面口クロナデ	
	13	51	赤埴土器	甕	SD2F			内外面口クロナデ	
	14	51	赤埴土器	甕	SD2F (2906)			内外面口クロナデ	
	15	51	赤埴土器	甕	SD2 (2606)			内外面口クロナデ	
	16	51	赤埴土器	甕	SD2F (2705)			外面平行タタキ / 内面ナデ	
	17	51	赤埴土器	甕	SD2F (2705)			内外面口クロナデ	
	18	51	須恵器	甕	SD2	RP1		外面平行タタキ / 内面平行ア字痕	跡か
	19	51	須恵器	壺	SD2・SD89 (2605)			外面タタキ・ケズリ / 内面ナデ	
	20	51	須恵器	甕	SD2 (2806)			外面平行タタキ / 内面アテ痕	焼成不良中世陶器か

表5 上曾根遺跡 土器観察表2

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
63	1	52	須恵器	甕	SD2・SD238・ SD238F(2704)・2704	RP1・ RP96		外面平行タタキ・カキメ/ 内面同心円アテ痕	
	2	52	須恵器	甕	SD2・SK244 ベルト・ 2908 検出・2908	RP105・ RP1		外面平行タタキ/内面アテ痕	
	3	52	赤焼土器	甕	SD2(2906)		底径(76)	内外面口クロナデ/底部回転系	内面煤付着
	4	52	赤焼土器	甕	SD2F(2606)		底径(81)	内外面口クロナデ/底部回転系	
	5	52	赤焼土器	甕	SD2F(2705)		底径(78)	内外面ナデ/底部板目道	内面煤付着
	6	52	須恵器	甕	SD2	RP1		内外面口クロナデ	
64	1	53	須恵器	蓋	SX3 下層	RP62	口径(133)/器高32	内外面口クロナデ	内面厚減 体部外面黒書「申」
	2	53	須恵器	蓋	SX3 ベルト・ SD18 ベルト・ SD18(1799)(1899)・ 1700 下層・1700,1800・ 1800		口径164/器高26	内外面口クロナデ/外面ケズリ	
	3	53	須恵器	蓋	SX3(1701)・ SX3 東半下層(1601)・ SX3 下層(1599)・1701		口径(136)/器高30	内外面口クロナデ/外面回転系	内面黒痕か 転用痕か
	4	53	須恵器	蓋	SX3 下層・SX3 東半(1800)	RP51	口径(146)/器高29	内外面口クロナデ	内面厚減 転用痕か
	5	53	須恵器	蓋	SX3 下層(1601)・ 1701 下層		口径132/器高30	内外面口クロナデ/外面回転ヘラ	内面厚減
	6	53	須恵器	蓋	SX3(1599)・ SX3 下層(1599)・ 1499 検出			内外面口クロナデ/外面回転ヘラ	
	7	53	須恵器	蓋	SX3 東半下層(1801)・ SX54(1801)・ 1701 下層・1800		口径(128)	内外面口クロナデ/外面回転ヘラ	内外面厚減
	8	53	須恵器	蓋	SX3 下層(1701)・ SX54(1801)			内外面口クロナデ	
	9	53	須恵器	坏	SX3 下層	RP28・ RP29	口径(130)/ 底径78/器高39	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	底部黒書「窓」 内面厚減
	10	53	須恵器	坏	SX3(1800)・SD18(1899)・ 1700,1800 下層・1800		口径(154)/ 底径72/器高29	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	底部黒書「十」
	11	53	須恵器	坏	SX3 下層(1799)・ 1700,1800 下層・1800		口径(124)/ 底径68/器高36	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	体部外面黒書「口」
	12	53	須恵器	坏	SX3 下層	RP20	口径132/ 底径86/器高35	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	底部黒書「二」 体部外面煤付着 底部厚減
	13	53	須恵器	坏	SX3 東半下層(1801)・ SX54(1801)・ 1700,1800 下層・1800		口径(130)/ 底径73/器高33	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	内面厚減 使用痕か
	14	53	須恵器	坏	SX3 下層	RP20	口径133/ 底径80/器高32	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	内面厚減
	15	53	須恵器	坏	SX3 下層・SD18(1799)・ 1700,1800 下層・ 1700,1800		口径(136)/ 底径(80)/器高30	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	内面厚減
	16	53	須恵器	坏	SX3 下層・ SX3 下層(1699)・ SD17(1798)・ 1700,1800 下層	RP42	口径(136)/ 底径60/器高32	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	内面厚減
	17	53	須恵器	坏	SX3(1799)・SK52・ SX54(1801)・1700,1800 下層・1901 周辺		口径(124)/ 底径(58)/器高33	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	内外面煤付着 内面厚減
65	1	54	須恵器	坏	SX3(1800)・ SX3 下層(1601)・ SX54(1801)		口径(140)/ 底径(76)/器高31	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ	

表6 上曾根遺跡 土器観察表3

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
65	2	54	須恵器	坏	SX3・SX3 下層・ SX3(1500)・SX3(1800)	RP32・ RP34・ RP35・ RP39	口径(140)/ 底径 84/ 器高 38	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ・ナデ	
	3	54	須恵器	坏	SX3(1700)・SX3 ベルト・ SX54(1801)		口径(125)/ 底径 65/ 器高 35	内外面口クロナデ/ 回転ヘラ	
	4	54	須恵器	坏	SX3(1800)・SD18(1899)		底径 90	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	底部墨書「□」か
	5	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1799)・ SK12 床面		底径 (72)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	底部墨書「□」
	6	54	須恵器	坏	SX3 下層	RP60	底径 75	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	内面摩滅 体部打ち欠きか
	7	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)・ SX3 ベルト・ 1700,1800 下層		底径 (76)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	内面摩滅
	8	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)		底径 66	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	内面摩滅 底部刻書 「□」 転用破か
	9	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)(1799)・ SX54 下層 (1801)		底径 (103)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	古根
	10	54	須恵器	坏	SX3 東半 (1601)・1602		底径 82	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
	11	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)・SX3 東 半下層 (1701)・1800		底径 86	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
	12	54	須恵器	坏	SX3 ベルト・ SX3 下層 (1700)・ SD18(1899)・ SX54(1801)・1700 下層・ 1700,1800 下層・1800		底径 76	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
	13	54	須恵器	坏	SX3 東半下層	RP66	底径 92	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ・ナデ	底部摩滅
	14	54	須恵器	坏	SX3(1800)・ 1700,1800 下層		底径 72	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
	15	54	須恵器	坏	SX3 東半下層 (1701)		底径 (80)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	胎土緻密
	16	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1601)		底径 (74)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
	17	54	須恵器	坏	SX3 ベルト		底径 (76)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
	66	1	54	須恵器	坏	SX3 下層 (1799)		底径 68	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ
2		54	須恵器	坏	SX3(1601)・1701・ 1701・1801 下層・1801		底径 64	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
3		55	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)(1799)		底径 (58)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
4		55	須恵器	坏	SX3 下層	RP61	底径 (58)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
5		55	須恵器	坏	SX3(1701)・SD18(1798) (1899)・1700 下層		底径 68	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	内面墨痕か
6		55	須恵器	坏	SX3(1800)・ SX3 東半下層 (1601)・ 1700,1800 下層		底径 66	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	転用破か
7		55	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)・ 1901 周辺		底径 (66)	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ・ナデ	
8		55	須恵器	坏	SX3 東半下層 (1801)・ SD5F(1696)・1697・ SX54(1801)		底径 60	内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
9		55	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)			内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
10		55	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)			内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	内面摩滅
11		55	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)			内外面口クロナデ/ 底部回転ヘラ	
12		55	須恵器	坏	SX3・ SX3 下層 (1600)(1601) (1699)(1700)(1701)	RP27・ RP43	口径 127/ 底径 53/ 器高 42	内外面口クロナデ/ 底部回転軸	体部外面墨書「得」 (逆位)
13		55	須恵器	坏	SX3・SX3(1600)		口径(134)/ 底径 60/ 器高 36	内外面口クロナデ/ 底部回転軸	底部墨書「□」 内面摩滅

表7 上曾根遺跡 土器観察表4

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
66	14	55	須恵器	坏	SX3 下層	RP50	底径 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「守」か
	15	55	須恵器	坏	SX3(1599)・ SX3 下層 (1599)		底径 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「豊」
	16	55	須恵器	坏	SX3(1601)・SX3 東半 (1601)・SX3 東半下層	RP63	口径(128)/ 底径 62/ 器高 34	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部「□」内面厚 減・磨蝕 転用痕
	17	55	須恵器	坏	SX3F(1601)		底径(58)	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「豊」
	18	55	須恵器	坏	SX3 下層 (1598)		底径 60	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「十」か 内面厚減
	19	55	須恵器	坏	SX3 下層 (1498)		底径 57	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減か 転用痕
	20	55	須恵器	坏	SX3 下層 (1600)		底径(63)	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「□」 転用痕 (磨蝕か)
	21	55	須恵器	坏	SX3 下層 (1701)			内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 底部黒書「□」
67	1	56	須恵器	坏	SX3 下層 (1400)・ SX3 下層 (1601)・ SX3 下層 (1799)	RP30・ RP31	口径(132)/ 底径(66)/ 器高 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
	2	56	須恵器	坏	SX3・SX3(1700)(1800) SX3 下層・SX3 下層 (1701)		口径 128	内外面口クロナデ	体部黒書「十」
	3	56	須恵器	坏	SX3F(1700)・ SX3 下層 (1700)・ SX3 下層 (1799)・SK13F		底径 58	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	4	56	須恵器	坏	SX3 下層 (1701)・ SX3 東半下層 (1701)・ 1701 下層		口径(126)	内外面口クロナデ	
	5	56	須恵器	坏	SX3F(1700)・ SD5(1696・1697)		底径 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 転用痕か
	6	56	須恵器	坏	SX3 ベルト・1699 下層		底径(56)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 使用痕か
	7	56	須恵器	有台坏	SX3 下層・SK13F・ SD17(1597)	RP46	口径(128)/ 底径 58/ 器高 45	内外面口クロナデ / 底部切離し不 明	体部外面黒書「十」
	8	56	須恵器	有台坏	SX3・SX3(1500)・ SX3 下層 (1601)・ SX3 下層 (1701)・ SX3 東半 (1601)・ SX3 東半下層 (1601)		RP38	口径 121/ 底径 74/ 器高 49	内外面口クロナデ / 底部回転へう
	9	56	須恵器	有台坏	SX3 ベルト・ SX3 下層 (1599)・ SX3 東半下層 (1701)・ 1700,1800 下層・1800			口径 128/ 底径 58/ 器高 46	内外面口クロナデ / 底部回転へう
	10	56	須恵器	有台坏	SX3(1699)・SX3(1701)・ SX3F(1701)・SX3 下層・ SD18(1799)	RP45	口径(126)/ 底径 66/ 器高 46	内外面口クロナデ / 底部回転へう	内面厚減
	11	56	須恵器	有台坏	SX3(1699)・SX3(1701)・ SX3 東半下層 (1601)・ SX3 下層 (1700・1800)・ 1800			口径(128)/ 底径(64)/ 器高 40	内外面口クロナデ / 底部回転へう
	12	56	須恵器	有台坏	SX3・SX3(1700)・ SD18(1899)・SX54・ SX54(1801)・1800	RP53・2・ RP61	口径(128)/ 底径 64/ 器高 48	内外面口クロナデ / 底部回転へう	内面厚減
	13	56	須恵器	有台坏	SX3(1498)・SX3(1599)・ SX3 下層 (1498)・ SX3 下層 (1598)・ SX3 下層 (1599)・ SX3 下層 (1600)・1697		口径(141)	内外面口クロナデ	
	14	56	須恵器	有台坏	SX3・SX3 下層 (1701)・ SX3 東半下層 (1801)・ 1700,1800 下層・1800	RP30	口径(141)/ 底径 68/ 器高 69	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「十」

表8 上曾根遺跡 土器観察表5

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
67	15	56	須臾器	有台杯	SX3(1699)・SX3F(1699)・SK15・SD18(1798)・SX54(1801)・XO		口径 141/ 底径 60/ 器高 74	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	16	56	須臾器	有台杯	SX3(1498)・SX3 下層 (1598)		底径 (82)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	17	56	須臾器	有台杯	SX3 東半 (1701)・SX3 東半下層 (1701)・SD18(1800)・1700.1800 下層		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	18	57	須臾器	有台杯	SX3F(1600)・1699 下層		底径 (84)	内外面口クロナデ	
	19	57	須臾器	有台杯	SX3(1400)・SX3(1599)・SX3 下層 (1599)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	有台外れ 使用痕か
20	57	須臾器	皿		SX3F(1500)・SX3 東半 (1601)・SX3 東半下層 (1601)・1499 検出		口径 (128) / 底径 59/ 器高 29	内外面口クロナデ / 底部回転糸	内面摩滅 転用痕か
	68	1	57	須臾器	有台杯	SX3 東半下層 (1801)・SX54(1801)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ
	2	57	須臾器	有台杯	SX3 下層・SX54(1801)	RP40	底径 (79)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	3	57	須臾器	有台杯	SX3(1700)・SK12 床面		底径 80	内外面口クロナデ / 底部ナデ	内面摩滅
	4	57	須臾器	有台杯	SX3 下層 (1799)		底径 (80)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅
	5	57	須臾器	有台杯	SX3 下層	RP25	底径 74	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	底部墨書「豊」
	6	57	須臾器	有台杯	SX3 東半下層 (1801)・SX54(1801)		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転糸	内面摩滅 底部墨書「豊」 転用痕か
	7	57	須臾器	有台杯	SX3 下層・1698 下層		底径 (73)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	8	57	須臾器	有台杯	SX3(1700)			内外面口クロナデ / 底部切離し不明	内面摩滅 有台外れ
	9	57	須臾器	有台杯	SX3 下層 (1700)		底径 (62)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	内面摩滅
	10	57	須臾器	有台杯	SX3 下層 (1600)		底径 (53)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	11	57	須臾器	有台杯	SX3 東半下層 (1601)		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	12	57	須臾器	有台杯	SX3F 下層 (1601)		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	内面摩滅
	13	57	須臾器	有台杯	SX3 東半下層 (1801)		底径 (58)	内外面口クロナデ / 底部回転糸	
	14	57	須臾器	有台杯	SX3 東半 (1601)		底径 (52)	内外面口クロナデ / 底部回転糸	
	15	57	須臾器	有台杯	SX3(1800)		底径 (54)	内外面口クロナデ / 底部回転糸	内面摩滅 転用痕か
	16	57	須臾器	有台杯	SX3 東半下層 (1601)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	
	17	57	須臾器	有台杯	SX3 東半下層 (1701)・1797・1897		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転糸	内面摩滅
	18	57	須臾器	有台杯	SX3F(1700)			内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	19	57	須臾器	杯	SX3F(1701)・SX3(1799)		口径 (132)	内外面口クロナデ	
	20	57	須臾器	杯	SX3(1800)			内外面口クロナデ	口縁部塗付着か
	21	57	須臾器	杯	SX3 下層 (1600)・SX3 下層 (1799)・1700.1800 下層			内外面口クロナデ	
	22	57	須臾器	杯	SX3 下層 (1701)			内外面口クロナデ	
	23	57	須臾器	杯	SX3 下層	RP32		内外面口クロナデ	
	24	57	須臾器	杯	SX3 下層 (1799)			内外面口クロナデ	胎土緻密
	25	57	須臾器	杯	SX3 下層 (1799)			内外面口クロナデ	
	26	57	須臾器	杯	SX3(1800)・1700.1800 下層			内外面口クロナデ	
	27	57	須臾器	杯	SX3 東半下層 (1701)			内外面口クロナデ	
	28	57	須臾器	杯	SX3 下層 (1700)			内外面口クロナデ	
	29	57	須臾器	杯	SX3 ベルト			内外面口クロナデ	外面摩滅

表9 上層根遺跡 土器観察表6

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
68	30	57	須恵器	坏	SX3(1799)・ SX3 下層 (1799)			内外面ロクロナデ	
	31	57	須恵器	坏	SX3 下層 (1799)・1200			内外面ロクロナデ	
	32	57	須恵器	坏	SX3 下層 (1700)			内外面ロクロナデ	
	33	57	須恵器	坏	SX3 東半下層 (1701)			内面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	内面厚減 円板状に打ち欠きか
	34	57	須恵器	坏	SX3F(1699)・1698 下層			内外面ロクロナデ	胎土緻密
	35	57	須恵器	皿	SX3F(1599)・1697			内外面ロクロナデ	サンドイッチ状焼成
	36	57	須恵器	皿	SX3 下層 (1700)			内外面ロクロナデ	内面厚減 内面厚減 底部黒書「十」か
37	57	須恵器	坏	SX3 下層 (1500)			内面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	内面厚減	
69	1	58	赤焼土器	坏	SX3 東半下層 (1701)・ SX3F(1701)・1701		口径 (110) / 底径 50 / 器高 43	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	2	58	須恵器	坏	SX3 下層 (1701)		底径 (48)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	
	3	58	赤焼土器	坏	SX3 東半・ SX3 東半下層・1701	RP64・ RP65	口径 (126) / 底径 52 / 器高 51	内外面ロクロナデ / 底部回転系	口縁部内外面一部厚 付着
	4	58	赤焼土器	坏	SX3(1600)・SX3F(1600)・ SX3 下層 (1600)(1699)		底径 50	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	5	58	赤焼土器	坏	SX3 下層 (1700)・ SX3 東半 (1701)・ SX54(1801)		底径 50	内外面ロクロナデ / 底部回転系	外面厚減
	6	58	赤焼土器	坏	SX3 下層 (1702)・ 1602・1701		口径 (120) / 底径 (46) / 器高 50	内外面ロクロナデ / 底部切離し不明	
	7	58	赤焼土器	坏	SX3(1700)・SX3(1800)・ SX54(1801)・1800		底径 50	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	8	58	赤焼土器	坏	SX3F(1699)		底径 48	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	9	58	土師器	坏	SX3 下層 (1799)・1800		底径 (53)	内面黒色処理 / 底部回転系	
	10	58	赤焼土器	坏	SX3F(1700)		底径 53	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	11	58	赤焼土器	坏	SX3 下層	RP44	底径 (46)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	12	58	赤焼土器	坏	SX3F(1700)		底径 (46)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	13	58	赤焼土器	有台坏	SX3		底径 66	内外面ロクロナデ / 底部切離し不明	
14	58	土師器	坏	SX3 下層	RP26		内外面ロクロナデ	内面厚付着	
15	58	土師器	皿	SX3F(1700)			内面黒色処理	かわらけ状	
16	58	土師器	坏	SX3 下層 (1701)			内面黒色処理	内面ミガキか	
17	58	土師器	坏	SX3・SX3(1700)・ SX3 下層 (1700)	RP36	口径 (114) / 底径 (48) / 器高 45	内外面ミガキ・黒色処理		
18	58	土師器	坏	SX3 下層 (1598)(1699) SX3F(1699)・SD5F(1496) SD5F(1696・1697)		底径 57	外面ロクロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	ミガキ不明瞭	
19	58	土師器	坏	SX3 下層	RP26		外面ロクロナデ / 内面ミガキ・黒色処理		
20	58	土師器	坏	SX3 下層 (1701)・ SX3 東半下層 (1601)		底径 58	外面ロクロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	内面漆付着	
70	1	59	須恵器	甕	SX3 下層・SK244・ SK244F			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	2	59	須恵器	甕	SX3 東半下層 (1701)			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	3	59	須恵器	甕	SX3F(1700)			外面平行タタキ・カキメ / 内面同心円アテ痕	
	4	59	須恵器	甕	SX3 東半 (1701)・1602			外面平行タタキ・カキメ / 内面ナデ・同心円アテ痕	
	5	59	須恵器	甕	SX3 東半下層 (1701)・ SD18(1800)			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	6	59	須恵器	甕	SX3F(1699)・SX3 下層 (1701)・SD18(1798)・ 1700,1800 下層			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	

表 10 上曾根遺跡 土器観察表7

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
70	7	59	須恵器	甕	SX3(1701)・SX3 下層	RP37		外面平行タタキ/ 内面同心円アテ痕	外面灰釉
	8	59	須恵器	甕	SX3 下層 (1599)		口径 (92)	内外面口クロナデ	
	9	59	須恵器	甕	SX3(1700)・ SX3 下層 (1799)			内外面口クロナデ	
	10	59	須恵器	甕	SX3(1600)・ SX3 下層 (1600)			内外面口クロナデ	
	11	59	須恵器	甕	SX3(1500)・ SX3 ベルト下層			外面平行タタキ+ナデ/ 内面力キメ	
71	1	60	須恵器	甕	SX3 下層 (1800)			外面平行タタキ+ナデ+ケズリ/ 内面力キメ	
	2	60	須恵器	甕	SX3 ベルト・SX3(1700)			内外面口クロナデ	
	3	60	須恵器	甕	SX3(1701)・ SX3 下層 (1701)			内外面口クロナデ	外面灰釉
	4	60	須恵器	甕	SX3(1599)・ SX3 下層 (1699)			内外面口クロナデ	
	5	60	須恵器	甕	SX3F(1700)・ SD18(1799)・XO			内外面口クロナデ	
	6	60	須恵器	甕	SX3 東平下層 (1701)・ SD17(1798)・1602		底径 (110)	外面平行タタキ+ナデ/ 内面ハケメ/底部切り離し不明	
	7	60	赤境土器	甕	SX3 下層 (1701)・ SX54(1801)			内外面口クロナデ	
	8	60	赤境土器	甕	SX3(1701)			内外面口クロナデ	
	9	60	赤境土器	甕	SX3(1701)			内外面口クロナデ	ナデか
	10	60	赤境土器	甕	SX3 下層 (1799)			外面平行タタキ/ 内面同心円アテ痕	
	11	60	赤境土器	甕	SX3(1700)			外面力キメ・平行タタキナデ/ 内面力キメ・同心円アテ痕	内外面煤付着
	12	60	赤境土器	甕	SX3 下層 (1700)			外面ナデ・平行タタキ/ 内面ナデ・平行アテ痕	
	13	60	赤境土器	甕	SX3 東平下層 (1601)			外面平行タタキ/内面平行アテ痕	
	14	60	赤境土器	甕	SX3(1700)・SX3 下層・ SD17F(1497)	RP33	底径 (82)	内外面口クロナデ/底部回転系	
	15	60	赤境土器	甕	SX3 下層 (1599)		底径 (76)	内外面口クロナデ/底部回転系	
	16	60	赤境土器	鉢	SX3 下層 (1600)		底径 50	内外面口クロナデ/底部回転系	底部小径で厚い
	17	60	赤境土器	鉢	SX3F(1700)		底径 50	内外面口クロナデ/ 底部切り離し不明	底部小径で厚い
	18	60	赤境土器	甕	SX3 東平下層	RP67		内外面口クロナデ	
	19	60	赤境土器	甕	SX3 下層 (1400)			内外面口クロナデ	内面煤付着
	20	60	赤境土器	甕	SX3(1799)・SX3 東平下 層 (1801)・SX54(1801)・ 1701 下層			内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成
72	1	61	肥前磁器	皿	SD4	RP6	底径 30		内面輪物文 II 期
	2	61	肥前磁器	碗	SD4	RP8	底径 38	外面圈線+植物文 見込圈線+不明文	V 期
	3	61	青磁	碗	SD4(1996・1997)			外面輪連律文 B 類	15 世紀前半
	4	61	瀬戸美濃 折縁皿 (ソギ)		SD4(1998)			外面ケズリ	大塚第 4 段階
	5	61	肥前陶器	碗	SD4(1998)			外面口クロナデ+ケズリ/ 見込砂目か	II 期か III 期か
	6	61	珠洲	甕	SD4(2099)			内外面ナデ/口縁部内面線割か	II～III 期か
	7	61	珠洲	鉢鉢	SD4(1997)・ SD4(1996・1997)		底径 (128)	内外面口クロナデ/底部静止系/ 内面粗い御目	II～III 期か
	8	61	須恵器	蓋	SD4(2099)・SD4 東平		口径 (132)/ 器高 26	内外面口クロナデ/外面ケズリ	内面厚・墨痕転用磁
	9	61	須恵器	蓋	SD4(1997)			内外面口クロナデ/外面ケズリ	
	10	61	須恵器	蓋	SD4	RP5		内外面口クロナデ/ 外面回転ヘラ+ナデ	
	11	61	須恵器	蓋	SD4(2098)			内外面口クロナデ	構み部

表 11 上管根遺跡 土器観察表 8

図版番号	写真図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
72	12	61	須恵器 蓋	SD4 東平 (2101)			内外面ロクロナデ	損傷部	
	13	61	須恵器 蓋	SD4(2303)		口径 (161)	内外面ロクロナデ		
	14	61	須恵器 環	SD4 東平 (2100)・		底径 (86)		内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	
				SD18(1800)・1799・1800					
	15	61	須恵器 環	SD4 東平 (2101)・SD18(1899)		底径 66	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	内面厚減 底部打ち欠きか	
	16	61	須恵器 環	SD4(2303)		底径 (59)	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
	17	61	須恵器 環	SD4(2099)		底径 46	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
	18	61	須恵器 環	SD4(1996・1997)		底径 (80)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ		
	19	61	須恵器 有台環	SD4	RP7	底径 (86)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ		
	20	61	須恵器 有台環	SD4(2099)			内外面ロクロナデ / 底部回転系		
	73	1	62	須恵器 有台環	SD4 東平 (2100)		底径 (72)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	
		2	62	須恵器 有台環	SD4 東平 (2101)		底径 (70)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
		3	62	須恵器 有台環	SD4(2099)			内外面ロクロナデ / 底部回転系・ナデ	
		4	62	須恵器 環	SD4 東平 (2101)			内外面ロクロナデ / 底部切り離し不明	
		5	62	赤焼土器 環	SD4(2304)		底径 54	内外面ロクロナデ / 底部回転系	内面覆付着
		6	62	赤焼土器 環	SD4 東平 (2100)		底径 60	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
		7	62	赤焼土器 環	SD4(1998-2099)		底径 (48)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
		8	62	赤焼土器 環	SD4(2098)		底径 (58)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
		9	62	赤焼土器 環	SD4(1998-2099)		底径 (52)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
		10	62	赤焼土器 環	SD4(2304)		底径 43	内外面ロクロナデ / 底部回転系	底径極小
11		62	赤焼土器 環	SD4(1996)		底径 44	内外面ロクロナデ / 底部切り離し不明		
12		62	赤焼土器 環	SD4(2303)		底径 50	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
13		62	赤焼土器 有台環	SD4 東平 (2101)		底径 (57)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	有台短脚	
14		62	赤焼土器 環	SD4(2304)			内外面ロクロナデ		
15		62	赤焼土器 環	SD4(2304)			内外面ロクロナデ	皿状	
16		62	須恵器 有台皿	SD4(2303)		口径 (137)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	底部厚減「十」か 内面厚減 転用疑か	
17		62	赤焼土器 甕	SD4 東平 (2101)・SD18 東平 (2002)・SP251F・1901		口径 (186)	内外面ロクロナデ	内面覆付着	
18		62	赤焼土器 甕	SD4(2303)			内外面ロクロナデ		
19		62	赤焼土器 甕	SD4(2099)			内外面ロクロナデ		
20		62	赤焼土器 甕	SD4(2303)			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕		
21	62	赤焼土器 甕	SD4 東平 (2101)			内外面ロクロナデ			
22	62	赤焼土器 甕	SD4(2303)			内外面ロクロナデ	外面覆付着		
23	62	赤焼土器 甕	SD4(2303)		底径 72	外面ロクロナデ / 底部回転系	内面厚減 内面覆付着		
24	62	赤焼土器 甕	SD4	RP4	底径 (82)	内外面ロクロナデ / 底部回転系			
74	1	63	赤焼土器 鉢	SD4(1996・1997)		底径 (70)	内外面ロクロナデ / 底部切り離し不明		
	2	63	赤焼土器 甕	SD4(1997)		底径 (66)	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
	3	63	赤焼土器 甕	SD4(1998-2099)		底径 (74)	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
	4	63	須恵器 甕	SD4(1996・1997)・SX54(1801)・1608 下層			内外面ロクロナデ / 外面タタキ	サンドイッチ状焼成	
	5	63	須恵器 甕	SD4(2303)			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕		
	6	63	須恵器 甕	SD4(2303)			外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕		
	7	63	須恵器 甕	SD4 東平 (2101)・SD18(1798)(1800)(1899)1700.1800 下層・1800			外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕		
	8	63	須恵器 壺	SD4(2001)			内外面ロクロナデ		
	9	63	須恵器 壺	SD4(1996)			内外面ロクロナデ		

表 12 上曾根遺跡 土器観察表 9

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
74	10	63	須恵器 壺	SD4(2304)・2002			内外面ロクロナデ	外面灰輪	
	11	63	須恵器 壺	SD4 東半 (2101)			内外面ロクロナデ		
	12	63	須恵器 坏	SD4(1998)			内外面ロクロナデ	内面煤付着	
75	1	64	珠洲小 甕	SD5	RP10		内外面ナデ		
	2	64	珠洲 甕	SD5F(1696・1697)			外面タタキ / 内面アテ直		
	3	64	珠洲 甕	SD5(1596)			外面タタキ / 内面ナデ		
	4	64	須恵器 蓋	SD5F(1696・1697)・1198			口径 (158) / 器高 33	内外面ロクロナデ / 外面回転系	
	5	64	須恵器 坏	SD5F(1697・1698) SD18(1798)・ 1699 下層・XO			口径 (122) / 底径 58 / 器高 39	内外面ロクロナデ / 底部回転系	底面墨書「□」
	6	64	須恵器 坏	SD5F(1696・1697)			底径 (60)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅
	7	64	須恵器 有台坏	SD5(1696・1697)			底径 (62)	内外面ロクロナデ / 底部切離し不明	
	8	64	須恵器 有台坏	SD5F(1696・1697)			底径 (64)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	内面摩滅 転用痕か
	9	64	赤境土器 坏	SD5(1596)				内外面ロクロナデ	内面煤付着
	10	64	須恵器 甕	SD5(1596)				外面平行タタキ / 内面平行アテ直	
	76	11	64	赤境土器 坏	SK7	RP3	底径 (54)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	外面墨書「□」 内面煤付着
12		64	赤境土器 坏	SK7F			内外面ロクロナデ / 底部回転系	外面煤付着	
13		64	赤境土器 甕	SK7			内外面ロクロナデ		
14		64	赤境土器 鉢	SK7F			内外面ロクロナデ	外面剝離	
15		64	土師器 甕	SK8F				内面ハケメ / 底部砂底	
16		64	赤境土器 甕	SK9				内外面ロクロナデ	
17		64	赤境土器 坏	SP10W ビット				内面ロクロナデ / 底部回転系	内面煤付着
1		65	須恵器 坏	SK12F・SD18(1899)			口径 (126) / 底径 (74) / 器高 36	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	内外面摩滅
2		65	須恵器 壺	SK12F				内外面ロクロナデ	
3		65	須恵器 坏	SK13F				内外面ロクロナデ	
4		65	須恵器 蓋	SK15				外面ロクロナデ・ケズリ / 内面ロクロナデ / 外面回転系	
5		65	須恵器 坏	SK15・SD18(1798)			口径 (131) / 底径 80 / 器高 35	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	内面摩滅
6		65	須恵器 坏	SK15・1800			底径 (76)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	
7		65	須恵器 坏	SK15				内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ	
8		65	須恵器 坏	SK15・1698 下層				内外面ロクロナデ	
9		65	須恵器 坏	SK15				内外面ロクロナデ	
10		65	須恵器 坏	SK15				内外面ロクロナデ	
11	65	赤境土器 坏	SK15			底径 (58)	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
12	65	赤境土器 甕	SK15				外面平行タタキ / 内面アテ直	外面煤付着	
13	65	赤境土器 甕	SK15				外面平行タタキ / 内面平行アテ直		
14	65	白磁 皿	SD17(1798)			底径 (62)		E 類	
15	65	瀬戸美濃 皿	SD17(1798)				底部ケズリ	大塚	
16	65	瀬戸美濃 皿	SD17(2300)					大塚	
17	65	肥前陶器 か	甕 SD17F(1597)				外面ケズリ	天目か	
18	65	瀬戸美濃 丸碗	SD17(2401)					大塚	
19	65	珠洲 甕	SD17(2400)				外面タタキ / 内面剝離か		
20	65	肥前陶器 播鉢	SD17(2801・2901)				内外面ロクロナデ	内面印目 V 階か	
21	65	瓦質土器 瓶掛か	SD17(2200)			長さ [50] / 幅 [59] / 厚さ [27]		サンドイッチ状嵌成 近世	
22	65	須恵器 坏	SD17F(1497)			底径 (56)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ		
23	65	須恵器 坏	SD17(2501)			底径 (70)	内外面ロクロナデ / 底部回転ヘラ		
24	65	須恵器 坏	SD17F(1497)			底径 (54)	内外面ロクロナデ / 底部回転系	内面摩滅 底部・外 面煤付着 転用痕か	
25	65	須恵器 坏	SD17(1798)・SD18(1798)			底径 52	内外面ロクロナデ / 底部回転系		
26	65	須恵器 坏	SD17(1798)			底径 (56)	内外面ロクロナデ / 底部回転系		

表 13 上曾根遺跡 土器観察表 10

図版番号	写真図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
76	27	65	須恵器 有台坏	SD17(2300)			内外面口クロナデ / 底部切離し不明		
	28	65	須恵器 有台坏	SD17F(1497)			内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減	
	29	65	須恵器 有台坏	SD17(1798)			内外面口クロナデ / 底部切離し不明		
	30	65	赤堊土器 有台坏	SD17(1798)		底径 (56)	内外面口クロナデ	有台短脚	
	31	65	赤堊土器 坏	SD17F(1497)			外面口クロナデ	内面漆付着	
	32	65	土師器 有台坏	SD17(1998)			内外面黒色処理	有台短脚	
	33	65	赤堊土器 甕	SD17(2601・2701)			内外面口クロナデ	内外面漆付着	
34	65	赤堊土器 鉢	SD17(1798)			内外面口クロナデ / 底部回転系			
77	1	66	赤堊土器 甕	SD17(2001)			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	外面漆付着	
	2	66	赤堊土器 甕	SD17(1497)・1497			内外面口クロナデ / 底部回転系	外面漆付着	
	3	66	須恵器 壺	SD17(1497)			内外面口クロナデ		
	4	66	須恵器 壺	SD17(1798)			内外面口クロナデ		
	5	66	須恵器 甕	SD17(1798)			外面平行タタキ / 内面ナデ		
	6	66	須恵器 甕	SD17(1497)			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕		
	7	66	肥前陶器 碗	SD18 東平 (2002)		底径 49	外面口クロナデ・ケズリ / 底部ケズリ	砂目 内面厚減 II 期	
	8	66	産地不明陶器	不明	SD18	RP47	底径 36	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	9	66	珠洲 甕	SD18(1799)			外面タタキ / 内面アテ痕		
	10	66	珠洲 龍鉢	SD18(1800・1899)			内外面口クロナデ	IV 期	
	11	66	瓦質土器 火鉢	SD18(2001)			内外面ナデ	近世	
	12	66	須恵器 蓋	SD18 東平 (1901)		直径 25 / 厚さ 14	内外面口クロナデ	掘み部	
	13	66	須恵器 蓋	SD18(1800)			内外面口クロナデ	内面塗膜 転用疑か	
	14	66	須恵器 蓋	SD18(2001)・2002			内外面口クロナデ / 外面ケズリ		
	15	66	須恵器 蓋	SD18(1899)			内外面口クロナデ / 外面ケズリ		
78	16	66	須恵器 坏	SD18(1800)・SD18(RP49 周辺)・1700.1800 下層・1800		口径 117 / 底径 78 / 器高 26	内外面口クロナデ / 底部回転へラ	底部塗書「十」 口縁部内面線刻か	
	17	66	須恵器 坏	SD18(1800)・SX54(1801)・1800・1700.1800 下層		口径 (129) / 底径 64 / 器高 34	内外面口クロナデ / 底部回転へラ		
	18	66	須恵器 坏	SD18(1899)・1800		底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転へラ		
	1	67	須恵器 坏	SD18(1800)・SD18(1899)・1800・1901 周辺		底径 71	内外面口クロナデ / 底部回転へラ		
2	67	須恵器 坏	SD18(1899)・1700.1800 下層		底径 (84)	内外面口クロナデ / 底部回転へラ			
3	67	須恵器 坏	SD18 東平 (2002)		口径 (124) / 底径 (70) / 器高 28	内外面口クロナデ / 底部回転へラ			
4	67	須恵器 坏	SD18(RP49 周辺)			内外面口クロナデ / 底部回転へラ			
5	67	須恵器 坏	SD18(1799)			内外面口クロナデ / 底部回転へラ			
6	67	須恵器 坏	SD18(1798)・1597		底径 62	内外面口クロナデ / 底部回転へラ・ナデ	転用疑か		
7	67	須恵器 坏	SD18 東平 (2002)		底径 (68)	内外面口クロナデ / 底部回転へラ・ナデ			
8	67	須恵器 坏	SD18(1800)		底径 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 内面漆付着・使用痕か		
9	67	須恵器 坏	SD18(1899)・2002		底径 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 内面・底部漆付着 (黒痕か) 底部極小 転用疑		
10	67	須恵器 坏	SD18(1800)		底径 (46)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内外面漆付着		
11	67	須恵器 坏	SD18 東平 (2002)・SX54(1801)			内外面口クロナデ / 底部回転へラ			
12	67	須恵器 坏	SD18(1799)			内外面口クロナデ / 底部回転へラ	内面厚減		

表 14 上曾根遺跡 土器観察表 11

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
78	13	67	須恵器	坏	SD18(1799)	底径 (50)	内外面口コナデ / 底部回転糸	
	14	67	須恵器	坏	SD18(1799)	底径 (42)	内外面口コナデ / 底部回転糸	底径極小
	15	67	須恵器	坏	SD18(1800)・ 1700,1800 下層	底径 (60)	内外面口コナデ / 底部回転糸	内面厚減 転用痕か
	16	67	須恵器	坏	SD18(1799)	底径 (48)	内外面口コナデ / 底部回転糸	外面厚減 転用痕か
	17	67	須恵器	坏	SD18(1800・1899)		内外面口コナデ / 底部回転糸	胎上織さ
	18	67	須恵器	有台坏	SD18(1799)・SD18(1899)	口径 (134) / 底部切離し不明	内外面口コナデ / 底部切離し不明	内外面厚減 外面煤付着
	19	67	須恵器	有台坏	SD18(1798)・SD18(1799)	底径 (78)	内外面口コナデ / 底部回転糸	底部墨書「〇」か
	20	67	須恵器	有台坏	SD18(1798)	底径 (60)	内外面口コナデ / 底部回転糸・ナデ	底部墨書「□」
	21	67	須恵器	坏	SD18(1798)		内外面口コナデ / 底部回転糸	底部墨書「□」
	22	67	須恵器	有台坏	SD18(2001)	底径 (62)	内外面口コナデ / 底部切離し不明	底部墨書「十」か 内面厚減
	23	67	須恵器	有台坏	SD18(1899)・2101 周辺	底径 (54)	内外面口コナデ / 底部切離し不明	
	24	67	須恵器	有台坏	SD18・SP73	RP48 底径 46	内外面口コナデ / 底部回転糸	
25	67	須恵器	有台坏	SD18(1799)	底径 (60)	内外面口コナデ / 底部回転糸・ナデ	内面厚減	
79	1	68	須恵器	有台坏	SD18 東平 (2002)	底径 (62)	内外面口コナデ / 底部回転糸	内面厚減
	2	68	須恵器	有台坏	SD18(1800)	底径 (88)	内外面口コナデ / 底部切離し不明	
	3	68	須恵器	有台坏	SD18(1799)		内外面口コナデ / 底部回転糸	
	4	68	須恵器	有台坏	SD18(1798)	底径 (56)	内外面口コナデ / 底部回転糸	内面厚減 三日月高 台か 転用痕か
	5	68	須恵器	坏	SD18(1800・1899)・ SD72(2398)・2096 検出	口径 (186)	内外面口コナデ	
	6	68	須恵器	坏	SD18(1800)	口径 (125)	内外面口コナデ	胎上織さ 内面染痕
	7	68	須恵器	坏	SD18(1800)	口径 (120)	内外面口コナデ	
	8	68	須恵器	坏	SD18(1800)		内外面口コナデ	外面厚減
	9	68	須恵器	坏	SD18(1798)		内外面口コナデ	
	10	68	須恵器	坏	SD18(2001)		内外面口コナデ	内面煤付着
	11	68	須恵器	坏	SD18(1799)		内外面口コナデ	
	12	68	赤埴土器	坏	SD18・1700,1800 下層・ 1700,1800	RP49 口径 (112) / 底径 48 / 器高 42	内外面口コナデ / 底部回転糸	歪み大
	13	68	赤埴土器	坏	SD18 ベルト	底径 58	内外面口コナデ / 底部回転糸	
	14	68	赤埴土器	坏	SD18(1899)	底径 (61)	内外面口コナデ / 底部回転糸	
	15	68	赤埴土器	坏	SD18 東平 (2002)	底径 54	内外面口コナデ / 底部回転糸	内面煤付着
	16	68	赤埴土器	坏	SD18(1800)	底径 55	内外面口コナデ / 底部回転糸	
	17	68	赤埴土器	坏	SD18(1800)	底径 (60)	内外面口コナデ / 底部回転糸	
	18	68	赤埴土器	坏	SD18 東平 (2002)	底径 (54)	内外面口コナデ / 底部回転糸	
19	68	赤埴土器	坏	SD18(2001)	底径 44	内外面口コナデ / 底部回転糸	底部極小	
20	68	赤埴土器	坏	SD18 東平 (2002)	底径 52	内外面口コナデ / 底部回転糸		
21	68	赤埴土器	坏	SD18(2001)	底径 (60)	内外面口コナデ / 底部回転糸	底部へ切り取りで小	
22	68	赤埴土器	坏	SD18 東平 (2002)	底径 (46)	内外面口コナデ / 底部回転糸	底部煤付着	
23	68	赤埴土器	坏	SD18(2001)・SK52		内外面口コナデ	内面煤付着	
80	1	69	赤埴土器	坏	SD18 東平 (2002)		内外面口コナデ	
	2	69	赤埴土器	坏	SD18(1800)		内外面口コナデ	
	3	69	土師器	坏	SD18(1800・1899)		外面口コナデ・口縁部ミガキ・ 黒色処理 / 内面ミガキ・黒色処理	
	4	69	土師器	坏	SD18 東平 (2002)		外面口コナデ / 内面ミガキ・黒色処理	
	5	69	土師器	有台坏	SD18(2001)	底径 (66)	外面口コナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転糸	内面ミガキ不明瞭
	6	69	赤埴土器	甕	SD18(1800)		内外面口コナデ	外面煤付着
	7	69	赤埴土器	甕	SD18(2001)		内外面口コナデ	外面煤付着
	8	69	赤埴土器	甕	SD18(1798)		内外面口コナデ	
	9	69	赤埴土器	甕	SD18(2001)		内外面口コナデ	内外面煤付着

表 15 上曾根遺跡 土器観察表 12

図版番号	写真図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考		
80	69	赤焼土器	甗	SD18(1799)			内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成		
	69	赤焼土器	甗	SD18(1798)			内外面口クロナデ	内面覆付着 小型甗		
	12	69	赤焼土器	甗	SD18(1800)・SD18(1899)		底径(52)	内外面口クロナデ/底部静止系か		
	13	69	赤焼土器	甗	SD18(1799)		底径 70	内外面口クロナデ/底部回転系	750 と接合	
	14	69	赤焼土器	甗	SD18(RP49 周辺)			内面カキメ	外面・底部剥離	
	15	69	赤焼土器	小形甗	SD18(2001)・SD18 東半(2002)		底径 38	内外面口クロナデ/底部ケズリ		
	16	69	赤焼土器	甗	SD18(1799)			内外面口クロナデ・外面カキメ		
	17	69	赤焼土器	甗	SD18(1800)・1800			内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成 外面覆付着	
	18	69	赤焼土器	甗	SD18(1799)			内外面口クロナデ		
	19	69	赤焼土器	甗	SD18ベルト			内外面ナデ		
	20	69	赤焼土器	甗	SD18 東半(2002)			外面平行タタキ・ケズリ/ 内面カキメ		
	81	1	70	須恵器	甗	SD18(1799)			外面平行タタキ/ 内面同心円アテ痕	
		2	70	須恵器	甗	SD18(2001)			外面平行タタキ/ 内面同心円アテ痕	
		3	70	須恵器	甗	SD18(1799)・SP262			外面タタキ/内面アテ痕	
		4	70	須恵器	甗	SD18(1800)・1899			外面平行タタキ/内面カキメ	割付口厚減
		5	70	須恵器	甗	SD18 東半(2002)			外面平行タタキ/内面平行アテ痕	
		6	70	須恵器	甗	SD18(1899)			外面平行タタキ/ 内面同心円アテ痕	外面欠損
		7	70	須恵器	鉢	SD18(1798)			内外面口クロナデ	
		8	70	須恵器	壺	SD18	RP49		内外面口クロナデ	
		9	70	須恵器	壺	SD18(1799)・SD18(1899)			内外面口クロナデ	
10		70	須恵器	壺	SD18(1800)		底径(130)	外面ナデ・ケズリ/内面ナデ/ 底部欠損し不明		
11		70	須恵器	壺	SD18(1800)・1899)・SK54	RP53.8		外面ナデ・ケズリ/内面ナデ/ 底部欠損し不明	サンドイッチ状焼成	
82	1	71	肥前陶器	皿	SD19 東半(1101-1201)				I期か	
	2	71	珠洲	捕鉢	SD19F(1199)			外面口クロナデ	内面脚目 V 形か	
	3	71	須恵器	皿	SD19 珠面(1200)		口径(110)/ 底径(58)/器高 29	内外面口クロナデ/ 底部回転系+ナデ	使用痕か	
	4	71	須恵器	坏	SK29		底径(80)	内外面口クロナデ/底部回転へラ		
	5	71	須恵器	坏	SK36			内面口クロナデ/底部回転へラ		
	6	71	須恵器	坏	SK46			内外面口クロナデ		
	7	71	須恵器	坏	SK49F		底径(60)	内外面口クロナデ/ 底部欠損し不明		
	8	71	須恵器	坏	SK51F		底径 53	内外面口クロナデ/底部回転系		
	9	71	赤焼土器	坏	SK51			内外面口クロナデ		
	10	71	須恵器	坏	SK52	RP24-18	底径 60	内外面口クロナデ/底部回転系		
	11	71	須恵器	坏	SK52	RP24-6	底径 70	内外面口クロナデ/底部回転へラ	内面厚減	
	12	71	須恵器	坏	SK52	RP24-31		内外面口クロナデ/底部回転へラ		
	13	71	須恵器	有台坏	SK52	RP24-32		内外面口クロナデ/ 底部欠損し不明	外面覆付着	
	14	71	須恵器	有台皿	SK52	RP24-10	底径(58)	内外面口クロナデ/底部回転系	内面・高台外面 覆付着	
	15	71	須恵器	有台坏	SK52		底径(62)	内外面口クロナデ/底部へラ	内面厚減 底部覆付着	
	16	71	須恵器	坏	SK52	RP24-22		内外面口クロナデ	内面厚減 胎土緻密	
	17	71	須恵器	坏	SK52	RP24-23		内外面口クロナデ	内外面覆付着	
	18	71	須恵器	坏	SK52			内外面口クロナデ	82.18 と同一個体か 口縁部内面覆付着	
	19	71	赤焼土器	坏	SK52	RP24-17	口径(120)/ 底径(52)/器高 48	内外面口クロナデ/底部回転系	外面覆付着 外面器書「□」	

表 16 上曾根遺跡 土器観察表 13

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
82	20	71	赤焼土器	坏	SK52	RP24-16・ RP24-17・ RP24-28	口径 116/ 底径 50/ 器高 52	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	21	71	赤焼土器	坏	SK52	RP24-6	口径 (128)/ 底径 57/ 器高 40	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面下半ケズリか
	22	71	赤焼土器	坏	SK52	RP24-13・ RP24-15	口径 (128)/ 底径 52/ 器高 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面煤付着
	23	71	赤焼土器	坏	SK52・SK52F	RP24-1	口径 123/ 底径 57/ 器高 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	24	71	赤焼土器	坏	SK52・SK52F・1901	RP24-7・ RP24-26	口径 (118)/ 底径 48/ 器高 55	内外面口クロナデ / 底部回転系	
83	1	72	赤焼土器	皿	SK52	RP24-4	口径 125/ 底径 52/ 器高 22	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	2	72	赤焼土器	坏	SK52・SK52F		底径 (50)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	3	72	赤焼土器	坏	SK52・SK52F	RP24-2	底径 (54)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	4	72	赤焼土器	甕	SK52	RP24-8	底径 (75)	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面ケズリか
	5	72	赤焼土器	坏	SK52	RP24-14・ RP24-25・ RP24-27	口径 125	内外面口クロナデ	内外面黒斑
	6	72	赤焼土器	坏	SK52	RP24-24	口径 (160)	内外面口クロナデ	芯み大 口径不明瞭
	7	72	赤焼土器	坏	SK52	RP24-3	口径 (114)	内外面口クロナデ	
	8	72	赤焼土器	坏	SK52F・1901		口径 (144)	内外面口クロナデ	
	9	72	赤焼土器	坏	SK52F		口径 (119)	内外面口クロナデ	
	10	72	赤焼土器	坏	SK52	RP24-18		内外面口クロナデ	外面黒書「□」
	11	72	赤焼土器	坏	SK52・SK52F			内外面口クロナデ	外面煤付着
	12	72	赤焼土器	坏	SK52・1901			内外面口クロナデ	
	13	72	赤焼土器	坏	SK52	RP24-28		内外面口クロナデ / 外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理	
	14	72	土師器	坏	SK52			内外面口クロナデ	
	15	72	赤焼土器	甕	SK52			内外面口クロナデ	
	16	72	赤焼土器	甕	SK52			外面平行タタキ・タタキ / 内面ナデ・平行アテ甕	内外面煤付着
	17	72	赤焼土器	甕	SK52			外面平行タタキ / 内面平行アテ甕	
	18	72	赤焼土器	甕	SK52			外面平行タタキ / 内面平行アテ甕	内面煤付着
	19	72	須恵器	甕	SK52	RP24-19		外面平行タタキ / 内面同心円アテ甕	サンドイッチ状焼成
	20	72	須恵器	甕	SK52	RP24-2		外面平行タタキ・カキメ / 内面同心円アテ甕	
	21	72	須恵器	甕	SK52	RP24-6		内面口クロナデ	外面煤付着 外面灰蝕
	22	72	須恵器	甕	SK52	RP24-12・ RP24-30		外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ	
	23	72	赤焼土器	坏	SD53(0802)		底径 52	内外面口クロナデ / 底部回転系	
84	1	73	青磁	碗	SX5(1801)			外面筋連弁文 Ⅱ 類	13 世紀後半
	2	73	須恵器	蓋	SX5(1801)			内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ	内面厚減 ツマミ部黒書「廿」
	3	73	須恵器	蓋	SX5・SX54(1801)	RP53-1	口径 (134) / 器高 28	内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ	内面厚減 外面黒書「十」
	4	73	須恵器	蓋	SX5(1801)・1901 周辺		口径 (144)	内外面口クロナデ	
	5	73	須恵器	蓋	SX5(1801)		口径 (120)	内外面口クロナデ / 外面ケズリ	体部黒書
	6	73	須恵器	蓋	SX5(1801)			内外面口クロナデ	
	7	73	須恵器	坏	SX5(1801)		口径 (130)/ 底径 80/ 器高 30	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	底部黒書「廿」か 使用痕か
	8	73	須恵器	坏	SX5(1801)・1800			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面厚減 底部黒書「十」
	9	73	須恵器	坏	SX5(1801)・ 1701・1901		口径 (130)/ 底径 74/ 器高 39	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	体部黒書「十」

表 17 上曾根遺跡 土器観察表 14

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
84	10	73	須恵器	坏	SX54	RP53-5	底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転へう	内外面厚減 底部「□」 転用痕か
	11	73	須恵器	坏	SX54	RP53-7	器高 37	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	内外面厚減 外面旋付着
	12	73	須恵器	坏	SX54(1801)		底径 (83)	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	
	13	73	須恵器	坏	SX54(1801)・1700,1800 下層・1800		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	内面旋付着
	14	73	須恵器	坏	SX54(1801)		底径 (78)	内外面口クロナデ / 底部回転へう	
	15	73	須恵器	坏	SX54(1901)		底径 (80)	内外面口クロナデ / 底部回転へう	
	16	73	須恵器	坏	SX54(1801)		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転へう	
	17	73	須恵器	坏	SX54(1801)		底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転へう	内外面厚減 外面旋付着 使用痕か
	18	73	須恵器	蓋	SX54(1801)		口径 (58)	内外面口クロナデ / 外面回転へう	内面厚減 底部墨書「□」
	19	73	須恵器	坏	SX54(1801)・1901			内面口クロナデ / 底部回転へう	内面厚減 底部墨書「□」
	20	73	須恵器	坏	SX54(1801)			内面口クロナデ / 底部回転へう	底部墨書「□」
	21	73	須恵器	坏	SX54(1801)			内面口クロナデ / 底部回転へう	底部墨書「□」
	22	73	須恵器	坏	SX54(1901)			内外面口クロナデ / 底部回転へう	外面旋付着
	85	1	74	須恵器	坏	SX54	RP53-12	底径 52	内外面口クロナデ / 底部回転系
2		74	須恵器	坏	SX54(1901)・1901 周辺		底径 (52)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 内面旋付着
3		74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ / 底部回転系	底部墨書「□」
4		74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
5		74	須恵器	有台坏	SX54	RP53-4	底径 66	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	内面厚減 底部墨書「十」 底部削り欠きか
6		74	須恵器	有台坏	SX54	RP53-7	底径 58	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	内面厚減 外面・底部旋付着 底部墨書「十」
7		74	須恵器	有台坏	SX54(1801)		口径 (116) / 底径 66 / 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	内面厚減 底部墨書「□」
8		74	須恵器	有台坏	SX54(1801)		底径 59	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	底部墨書「□」
9		74	須恵器	有台坏	SX54	RP53-7	底径 60	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	底部墨書「□」 内面厚減
10		74	須恵器	有台坏	SX54	RP53-7	底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転へう・ナデ	底部・割れ口煤付着
11		74	須恵器	有台坏	SX54	RP53-13	底径 66	内外面口クロナデ / 底部回転へう	内面厚減 底部墨書「□」
12		74	須恵器	有台坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	外面墨書「□」
13		74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内面厚減
14		74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内面厚減
15		74	須恵器	坏	SX54(1901)			内外面口クロナデ	内面厚減
16		74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減
17		74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減
18	74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
19	74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
20	74	須恵器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
21	74	須恵器	皿	SX54(1801)			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
22	74	須恵器	坏	SX54(1801)・1901 周辺			内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
23	74	須恵器	坏	SX54・SX54(1801)	RP53-7		内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
24	74	須恵器	坏	SX54	RP53-7		内外面口クロナデ	内外面厚減 内面厚減	
86	1	75	赤焼土器	坏	SX54・SX54(1801)・1800	RP53-2	底径 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面旋付着か
	2	75	赤焼土器	坏	SX54(1801)		底径 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	3	75	赤焼土器	坏	SX54	RP53-6	底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転へう	

表 18 上曾根遺跡 土器観察表 15

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
86	4	75	赤埴土器	坏	SX54	RP53-10	底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	5	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)		底径 (44)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	6	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)		底径 (56)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	7	75	赤埴土器	坏	SX54(1901)		底径 47	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面保付着	
	8	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)		底径 (56)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	9	75	赤埴土器	坏	SX54	RP53-7	底径 48	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	10	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)		底径 44	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	11	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)		口径 (130)	内外面口クロナデ		
	12	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)・ 1800・1801・1901 周辺		器高 (48)	内外面口クロナデ / 底部回転系	サンドイッチ状焼成 未接合	
	13	75	赤埴土器	坏	SX54(1901)・1901		口径 (113)	内外面口クロナデ		
	14	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)			内外面口クロナデ		
	15	75	赤埴土器	坏	SX54(1801)・1701			内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成	
	16	75	赤埴土器	坏	SX54	RP53-7		内外面口クロナデ		
	17	75	上埴器	坏	SX54(1801)・1901 周辺		底径 46	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系		
	18	75	赤埴土器	甕	SX54・SX54(1801)	RP53-3	口径 (230)	内外面口クロナデ	内面保付着	
	19	75	赤埴土器	甕	SX54	RP53-9		外面力キメ / 内面口クロナデ	内外面保付着	
	20	75	赤埴土器	甕	SX54(1801)・SP69			内外面口クロナデ	内外面保付着	
	21	75	赤埴土器	甕	SX54(1801)		底径 (72)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	22	75	赤埴土器	鉢	SX54・1800	RP53-7	底径 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	特殊器形	
	87	1	76	赤埴土器	罎	SX54・SX54(1801)・ SD18 東平 (1002)	RP53-9・ RP53-10・ RP53-11		内外面口クロナデ・力キメ	外面保付着 接合主体は SX54
		2	76	赤埴土器	罎	SX54(1801)			内外面口クロナデ・外面力キメ	
		3	76	須恵器	甕	SX54・SX54(1801)	RP53-7		外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕	
4		76	須恵器	甕	SX54(1901)・1901			外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕	サンドイッチ状焼成	
5		76	須恵器	甕	SX54(1801)			外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕		
6		76	須恵器	甕	SX54(1801)			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕		
7		76	須恵器	甕	SX54	RP53-5		外面ナデ・タタキ / 内面力キメ・ナデ	サンドイッチ状焼成	
8		76	須恵器	甕	SX54(1901)			内外面口クロナデ		
9		76	須恵器	甕	SX54・SX54(1801)	RP53-3		内外面口クロナデ	接合主体は SX54	
10		76	須恵器	甕	SX54・SD18 東平 (2002)	RP53-7		内外面口クロナデ		
88	1	77	赤埴土器	坏	SK56		底径 54	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	2	77	上埴器	有台坏	SK61			外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系か		
	3	77	赤埴土器	坏	SP63			内外面口クロナデ	歪み著しい	
	4	77	赤埴土器	坏	SD72(2797)		底径 (62)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	5	77	須恵器	甕	SD72(2896)			内外面口クロナデ		
	6	77	須恵器	坏	SP73	RP139	底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	7	77	須恵器	坏	SP73	RP143		内外面口クロナデ		
	8	77	赤埴土器	坏	SP73	RP140	底径 44	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	9	77	赤埴土器	坏	SP73	RP142・ RP143	口径 (118)	内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成	
	10	77	赤埴土器	甕	SP73	RP141		外面ナデ・ケズリ / 内面ナデ・ 平行ア字痕		
	11	77	須恵器	蓋	SK75			内外面口クロナデ	摘み部	
	12	77	須恵器	坏	SK77F		底径 (55)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	13	77	赤埴土器	甕	SK77F			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕		
	14	77	赤埴土器	甕	SK77F			外面タタキ・力キメ / 内面ア字痕・力キメ		
	15	77	須恵器	蓋	SD78			内外面口クロナデ		

表 19 上管根遺跡 土器観察表 16

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
88	16	77	須恵器	甕	SD82			外面平行タタキ / 内面同心円・平行アテ痕	
	17	77	赤焼土器	坏	SD83F		底径 (50)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	18	77	須恵器	坏	SP84		口径 (126) / 底径 (85) / 器高 38	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	墨痕か
	19	77	須恵器	有台皿	SP88		口径 (128) / 底径 (58) / 器高 29	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 転用説か
	20	77	赤焼土器	甕	SP88			内外面口クロナデ	内面覆付着
89	1	78	青磁	碗	SD89(2698)				稜花か
	2	78	青磁	皿か	SD89(ベルト)			内外面口クロナデ	
	3	78	珠洲	甕	SD89(2605)			外面タタキ / 内面アテ痕	
	4	78	須恵器	蓋	SD2・SD89(2605)・ SD238 ベルト・2605			内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ	SD2・89・238 の合流部
	5	78	須恵器	坏	SD89(2698)		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	転用説か
	6	78	須恵器	坏	SD89(2500)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	7	78	須恵器	坏	SD89(2602)		底径	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	
	8	78	須恵器	坏	SD89(2605)		底径 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	転用説か
	9	78	須恵器	坏	SD89(2500)		底径 (40)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	10	78	須恵器	有台坏	SD89(2604)		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
	11	78	須恵器	有台坏	SD89(2500)		底径 (62)	内外面口クロナデ / 底部回転系	転用説か
	12	78	須恵器	有台坏	SD89(2501)		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	内面厚減
	13	78	須恵器	有台坏	SD89(2605)		底径 (75)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	内面厚減 使用痕か
	14	78	須恵器	有台坏	SD89(2598)			内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	15	78	須恵器	坏	SD89(2500)			内外面口クロナデ	
	16	78	須恵器	坏	SD89(2500)			内外面口クロナデ	
	17	78	須恵器	坏	SD89(2599)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	18	78	赤焼土器	有台坏	SD89(2598)		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	19	78	赤焼土器	坏	SD89(2599)		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	20	78	赤焼土器	坏	SD89(2598)		底径 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	21	78	赤焼土器	坏	SD89(2598)		底径 (51)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	22	78	赤焼土器	坏	SD89(2500)		底径 (44)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	23	78	赤焼土器	坏	SD89(2500)		底径 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	かわかけ状
24	78	土師器	有台坏	SD89・SD89(2500)	RP145	口径 (138) / 底径 64 / 器高 (51)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	内面割離 底部・外面下部「X」 複数鋭角	
25	78	赤焼土器	甕	SD89(2597)			内外面口クロナデ		
26	78	須恵器	甕	SD89・XD			内外面口クロナデ		
27	78	須恵器	甕	SD89(2604)			内外面口クロナデ		
28	78	須恵器	甕	SD89(2599)			外面平行タタキ / 内面アテ痕	サンドイッチ状焼成	
29	78	須恵器	甕	SD89(2596)・SD238	RP92		外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕		
30	78	須恵器	甕	SD89(2598)			外面口クロナデ・ケズリ / 内面口 クロナデ	サンドイッチ状焼成	
31	78	須恵器	甕	SD89・2604RP1 周辺	RP103		内外面口クロナデ		
32	78	赤焼土器	坏	SP90		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
90	1	79	土師器	坏	SK95・SK97F			外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理	外面欠ハネ
	2	79	須恵器	坏	SK97(RP 下)		底径 (52)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
	3	79	赤焼土器	坏	SK97・SK97F・ 2696・2698	RP126・ RP127	口径 (136) / 底径 54 / 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	4	79	赤焼土器	坏	SK97(RP 下)		口径 (121) / 底径 (65) / 器高 44	外面口クロナデ / 内面ケズリ / 底 部回転系	

表 20 上曾根遺跡 土器観察表 17

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
90	5	79	赤焼土器	坯	SK97	RP129	口径 142/ 底径 69/ 器高 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	内外面煤付着	
	6	79	赤焼土器	坯	SK97	RP130	口径 125/ 底径 52/ 器高 46	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面煤付着	
	7	79	赤焼土器	坯	SK97F・2606		底径 56	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面煤付着	
	8	79	赤焼土器	坯	SK97F		底径 (63)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	9	79	赤焼土器	坯	SK97F		底径 (56)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	10	79	赤焼土器	坯	SK97F		底径 (54)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	11	79	赤焼土器	坯	SK97F		底径 (66)	外面口クロナデ / 内面ケズリ / 底部回転系		
	12	79	赤焼土器	坯	SK97	RP128		内外面口クロナデ / 底部回転系	内面煤付着	
	13	79	赤焼土器	坯	SK97F			内外面口クロナデ	歪み著しい	
	14	79	赤焼土器	坯	SK97F			内外面口クロナデ	歪み著しい	
	15	79	赤焼土器	坯	SK97F		底径 52	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面煤付着	
	16	79	土師器	有台杯	SK97・SK97F	RP131	底径 73	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	底部柱状・筋輪模痕	
	17	79	土師器	坯	SK97			外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理		
	91	1	80	赤焼土器	甕	SK97・SK97F	RP132		内外面口クロナデ	内外面煤付着 口縁部沈殿層
		2	80	赤焼土器	罎	SK97・SK97F	RP131		内外面口クロナデ	内面煤付着 小型
		3	80	赤焼土器	罎	SK97			内外面口クロナデ	
		4	80	赤焼土器	甕	SK97F			内外面口クロナデ	
5		80	赤焼土器	甕	SK97F			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕		
6		80	赤焼土器	甕	SK97・SK97F	RP126・ RP131		外面口クロナデ・平行タタキ / 内面口クロナデ・平行アテ痕		
7		80	赤焼土器	甕	SK97	RP129		外面口クロナデ・平行タタキ / 内面ナデ・平行アテ痕		
8		80	須恵器	壺	SK97	RP128		内外面口クロナデ	サンドイッチ状形成	
9		80	赤焼土器	坯	SK98		口径 (132)/ 底径 (56)/ 器高 42	内外面口クロナデ / 底部回転系		
10		80	赤焼土器	坯	SK98・SK98F		底径 (50)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
11		80	赤焼土器	坯	SK98・SK98F	RP136	底径 51	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面煤付着	
12		80	赤焼土器	坯	SK98			内外面口クロナデ		
13		80	赤焼土器	甕	SK98F	RP137	底径 70	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面割れ 外面煤付着 小型	
14		80	赤焼土器	有台鉢	SK98F	RP135	底径 (130)	内外面口クロナデ		
15		80	肥前磁器	皿	SK101F			外面唐草文・團扇 / 内面植物文か	表底見 V 期	
92	1	81	肥前陶器	皿	SK104	RP15	底径 48	内外面口クロナデ / 底部ケズリ / 砂目	II 期	
	2	81	肥前陶器	壺	SK104			内外面口クロナデ		
	3	81	肥前磁器	小皿	SK104F		底径 (40)	内面口クロナデ / 外面植物文	I 期か	
	4	81	須恵器	蓋	SK104F・3815・3912		口径 (158)	内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ		
	5	81	須恵器	坯	SK104		口径	内外面口クロナデ	内面厚減	
	6	81	須恵器	坯	SK104			内外面口クロナデ / 底部回転系		
	7	81	肥前陶器	壺	SD105(3917)		底径 56	外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ / 底部回転系 + ケズリ	I 期か	
	8	81	肥前陶器	皿	SD105F(3711)		口径 (126)/ 底径 (40)/ 器高 31	外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ / 底部ケズリ / 見込み砂目	II 期	
	9	81	肥前陶器	皿	SD105(3917)				I 期か	
	10	81	緑釉陶器	水注	SD105(3507)		長さ [31]/ 幅 [23]/ 厚さ [8]	外面ケズリ	外面輪割	
	11	81	須恵器	蓋	SD105F(3711)		口径 (140)	内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ		
	12	81	須恵器	坯	SD105(3711)・ SD105(3712)		口径 (129)/ 底径 84/ 器高 37	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ		

表 21 上管根遺跡 土器観察表 18

図版番号	写真図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
92	13	81	須恵器 坏	SD105F(3710)・3811 SD105F(3711)・ SX125F(3711)・3513		底径 8(4)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅 使用痕か	
	14	81	須恵器 坏			底径 74	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ		
	15	81	須恵器 坏	SD105F(3711)・ 3612 複丸・3712		口径 122 / 底径 50 / 器高 35	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅	
	16	81	須恵器 坏	SD105F(3916)・ SD124・XO	RP85	底径 5(4)	内外面口クロナデ / 底部回転系か		
	17	81	須恵器 坏	SD105(3917)・ SD105F(3916)・ 4015・4016		口径 (123) / 底径 56 / 器高 33	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅	
	18	81	須恵器 坏	SD105F(3711)・3513		口径 (126) / 底径 50 / 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	19	81	須恵器 坏	SD105F(3711)・ SX125F(3711)		底径 (58)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅	
	20	81	須恵器 坏	SD105(3917)		底径 60	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	21	81	須恵器 坏	SD105F(3712)		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内外面摩滅	
	22	81	須恵器 有台坏	SD105(3507)		底径 (62)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	93	1	82	須恵器 有台坏	SD105(3712)		底径 58	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部墨書「足」 丁寧な筆字
		2	82	須恵器 有台坏	SD105F(3814)・ 3916 机周辺		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅 転用痕か
		3	82	須恵器 有台坏	SD105(3712)		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
		4	82	須恵器 有台坏	SD105F(3710)・ SD105F(3711)			内外面口クロナデ / 底部回転系	
		5	82	須恵器 坏	SD105F(3916)		器高 33	内外面口クロナデ / 底部回転系	
		6	82	須恵器 坏	SD105・SD118(3915)・ 4014			内外面口クロナデ	
		7	82	須恵器 坏	SD105(3814)			内外面口クロナデ	
		8	82	須恵器 坏	SD105(3917)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅
		9	82	須恵器 坏	SD105(3814)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
		10	82	須恵器 坏	SD105F(3814)			内外面口クロナデ / 底部回転系	
		11	82	須恵器 坏	SD105F(3711)			内外面口クロナデ / 底部回転系	
		12	82	須恵器 坏	SD105(3712)・ SD105F(3711)			内外面口クロナデ / 底部回転系	
13		82	須恵器 坏	SD105(3814)			内外面口クロナデ / 底部回転系		
14		82	須恵器 坏	SD105(3814)			内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅	
15		82	赤焼土器 坏	SD105(3712)		口径 (124) / 底径 (48) / 器高 50	内外面口クロナデ / 底部回転系		
16		82	赤焼土器 坏	SD105(3712)		底径 50	内外面口クロナデ / 底部回転系		
17		82	赤焼土器 坏	SD105(3712)		底径 (46)	内外面口クロナデ / 底部回転系か		
18		82	赤焼土器 坏	SD105(3712)		底径 (105)	内外面口クロナデ / 底部回転系	胎土精良	
19		82	赤焼土器 坏	SD105(3508)・3508		底径 44	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部小径	
20		82	赤焼土器 坏	SD105(3508)		底径 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部小径	
21		82	須恵器 坏	SD105F(3710)			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面覆付着	
22		82	赤焼土器 甕	SD105(3711)		長さ	外面平行タタキ / 内面平行アテ痕		
23	82	須恵器 甕	SD105F(3710)			外面ナデ・タタキ / 内面ナデ			
24	82	須恵器 甕	SD105F(3813)			外面ナデ・平行タタキ / 内面ナデ・同心円アテ痕			
25	82	須恵器 甕	SD105F(3711)・3812・ 3912			外面平行タタキ / 内面同心円・平行アテ痕			
26	82	須恵器 甕	SD105(3711)			外面ケズリ / 内面口クロナデ			
27	82	須恵器 甕	SD105(3917)・4016			内外面口クロナデ / 底部ナデ			
28	82	須恵器 甕	SD105(3712)・ SX125(3710)・ SE126 内・3611・4016・ 4114RP12 周辺			内外面口クロナデ			

表 22 上曾根遺跡 土器観察表 19

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
94	1	83	須恵器	坏	SK108F(3714)・3714		底径 50	内外面口コナデ / 底部回転系	使用痕か 見込み重傷痕 IV 期
	2	83	肥前陶器	碗	SK111F		底径 (45)	内外面口コナデ / 底部ケズリ	
	3	83	肥前陶器	皿	SK111	RP14	底径 (48)	外面ケズリ / 内面口コナデ / 底部ケズリ / 内面植物?文 / 見込み乾の目録割ぎ	破佐見 V 期
	4	83	須恵器	坏	SK111F(3713)・3612		底径 (80)	内外面口コナデ / 底部回転ヘラ	
	5	83	赤埴土器	甕	SK113F(3713)			内外面ナデ	
	6	83	赤埴土器	坏	SK115F(3613)		底径 (48)	内外面口コナデ / 底部回転系	
	7	83	肥前陶器	瓶	SD116F(3811)			外面ナデ / 内面ナデ・アテ痕	I 期か
	8	83	須恵器	蓋	SD116F(3812)・3714			内外面口コナデ / 底部回転ヘラ	
	9	83	須恵器	蓋	SD116F(3812)			内外面口コナデ / 外面ケズリ	内面摩滅 転用痕か
	10	83	須恵器	坏	SD116F(3811)		底径 (76)	内外面口コナデ / 底部回転ヘラ	
	11	83	須恵器	坏	SD116F(3821)		底径 (49)	内外面口コナデ / 底部回転系	
	12	83	須恵器	有台坏	SD116G(3811)		底径 (65)	内外面口コナデ / 底部回転系	
	13	83	赤埴土器	坏	SD116F(3812)・3712		底径 48	内外面口コナデ / 底部回転系	
	14	83	須恵器	蓋	SD116F(3811)			内外面口コナデ	
	15	83	瀬戸美濃	皿か	SD117F(3915)		底径 (38)		大塚第 1 段階か
	16	83	須恵器	坏	SD117F(4016)		底径 54	内外面口コナデ / 底部回転系	内面摩滅 使用痕か
	17	83	須恵器	坏	SD117F 東ノルト			内外面口コナデ	
	18	83	須恵器	坏	SD117F(4016)		底径 50	内外面口コナデ / 底部回転系	
	19	83	赤埴土器	甕	SD117F(3812)・3812・ 3912			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕か	
	20	83	須恵器	甕	SD117F(4016)			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	
95	1	84	珠洲	甕	SD118F(4013)			外面タタキ / 内面ナデ	
	2	84	須恵器	蓋	SD118(4013)・ 3611・3711 程度・4013		口径 (146)	内外面口コナデ	内面摩滅 内面裏付着
	3	84	須恵器	坏	SD118(4013)		口径 (134) / 底径 (47) / 器高 34	内外面口コナデ / 底部回転系	内面摩滅
	4	84	須恵器	有台坏	SD118(4013)		口径 (64)	内外面口コナデ / 底部回転系	
	5	84	須恵器	有台皿	SD118(4013)		口径 (123) / 底径 (50) / 器高 20	内外面口コナデ / 底部回転系	
	6	84	赤埴土器	甕	SD118(4013)			外面口コナデ・ケズリ / 内面口コナデ	
	7	84	須恵器	甕	SD118F(4013)			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	
	8	84	須恵器	蓋	SD118(4013)・4015			内外面口コナデ	
	9	84	瀬戸美濃 (ソノギ)	折鉢皿	SK119F(3914)・4014				大塚第 4 段階
	10	84	青磁	碗	SD119F(3914)				15 世紀
	11	84	須恵器	有台坏	SD119F(3914)		底径 64	内外面口コナデ / 底部回転系	
	12	84	須恵器	坏	SD119F(3914)			内外面口コナデ / 底部回転ヘラ	
	13	84	須恵器	甕	SD119F(3914)			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	14	84	須恵器	蓋	SD119F(3914)			内外面口コナデ	
	15	84	須恵器	甕	SD119F(3914)			内外面口コナデ	
	16	84	須恵器	坏	SK120			内外面口コナデ / 底部回転系	内面裏付着 上半部 の漆のみ光沢あり
	17	84	須恵器	有台坏	SK120	RP16	底径 62	内外面口コナデ / 底部回転系	底部磨書「足」丁寧 な筆字 転用痕か
	18	84	須恵器	有台坏	SK120F(4315)		底径 (56)	内外面口コナデ / 底部回転系	
	19	84	赤埴土器	坏	SD120F(4316)		底径 (56)	内外面口コナデ / 底部回転ヘラ	胎土精良 かわらけ状
	20	84	赤埴土器	有台皿	SK120F(4315)・ SE126 内・SE126F		口径 (136) / 底径 (68) / 器高 29	内外面口コナデ / 底部回転系	
96	1	85	須恵器	有台皿	SK122・SK122F	RP17	口径 135 / 底径 63 / 器高 32	内外面口コナデ / 底部回転系	見込摩滅 底部磨書「十」
	2	85	須恵器	甕	SK122			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	

表 23 上管根遺跡 土器観察表 20

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
96	3	85	須恵器	蓋	SE123ホリ		ツマミ径 30	内外面口クロナデ / 外面回転系	内面厚減	
	4	85	須恵器	蓋	SE123F			内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ・ケズリ	内面厚減 外面黒書 「足」 転用痕か	
	5	85	須恵器	蓋	SE123Fホリ		ツマミ径 24	内外面口クロナデ	内面厚減 転用痕 内面塗付着	
	6	85	須恵器	蓋	SE123Fホリ			内外面口クロナデ		
	7	85	須恵器	坏	SE123F		口径 134 / 底径 52 / 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 内外面傾 付着 使用痕か	
	8	85	須恵器	有台坏	SE123F(3811)		底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 転用痕か	
	9	85	須恵器	皿	SE123ホリ			内外面口クロナデ		
	10	85	赤焼土器	坏	SE123F(3811)		口径 (126) / 底径 (48) / 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面過平厚減	
	11	85	赤焼土器	坏	SE123F			内外面口クロナデ		
	12	85	赤焼土器	坏	SE123F		口径 (132)	内外面口クロナデ		
	13	85	土師器	坏	SE123・SE123(3811)・ SE123ホリ・3812・3912		口径 117 / 底径 41 / 器高 49	内面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	底部黒書「足」	
	14	85	土師器	坏	SE123F・SE123F(3811)			外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理		
	15	85	赤焼土器	皿	SE123ホリ・ SX155(3206)			外面口クロナデ / 内面カキメ		
	16	85	赤焼土器	甕	SE123F・SE123F(3811)			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕	内外面傾付着	
	17	86	須恵器	甕	SE123内			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕・同心円ア字痕		
	97	1	86	須恵器	甕	SE123			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕	
		2	86	須恵器	甕	SE123F(3811)・ 38123912			外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕	
3		86	須恵器	甕	SE123上			外面平行タタキ / 内面同心円ア字痕		
4		86	須恵器	甕	SE123内			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕・同心円ア字痕		
5		86	須恵器	甕	SE123F			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕	外面厚減	
6		86	須恵器	甕	SE123F(3811)・ 3711 複丸・3811 複丸			外面ナデ・平行タタキ / 内面ナデ		
7		86	須恵器	甕	SE123F			外面平行タタキ / 内面平行ア字痕		
98	1	87	須恵器	蓋	SD124・4015・4216	RP81・ RP82	口径 148 / 器高 35	内外面口クロナデ / 底部回転系・ケズリ	内面厚減	
	2	87	須恵器	坏	SD124・SD124F・ SD124F(4015)	RP77	口径 126 / 底径 56 / 器高 40	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」	
	3	87	須恵器	坏	SD124F(4015)・XO		口径 (124) / 底径 62 / 器高 32	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」	
	4	87	須恵器	坏	SD124F(4015)		口径 (130) / 底径 (60) / 器高 38	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	5	87	須恵器	坏	SD124・4016		口径 (122)	内外面口クロナデ		
	6	87	須恵器	坏	SD124	RP83	口径 131 / 幅 69 / 器高 36	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面塗付着	
	7	87	須恵器	坏	SD124		器高 42	内外面口クロナデ / 底部回転系		
	8	87	須恵器	坏	SD124F(3915)			内外面口クロナデ / 底部回転系		
	9	87	須恵器	有台皿	SD124・4016	RP76	口径 131 / 底径 68 / 器高 29	内外面口クロナデ / 底部回転系・ナデ・板目痕	底部黒書「足」	
	10	87	須恵器	坏	SD124F(4015)		口径 (136)	内外面口クロナデ		
	11	87	須恵器	坏	SD124F(3915)		口径 (126)	内外面口クロナデ	内外面厚減	
	12	87	須恵器	坏	SD124F			内外面口クロナデ		
	13	87	赤焼土器	坏	SD105・SD108(3915)・ SD124・SD124F(4015)・ 4016	RP75	口径 (166) / 底径 59 / 器高 59	内外面口クロナデ / 底部回転系	接合主体・RPが SD124	
	14	87	赤焼土器	坏	SD124	RP80	口径 129 / 底径 52 / 器高 48	内外面口クロナデ / 底部回転系		

表 24 上曾根遺跡 土器観察表 21

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
98	15	87	赤境土器	環	SD124	RP87	口径 123/ 底径 50/ 器高 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	接合主体・RP が SD124
	16	87	赤境土器	環	SD118(3915)・SD124・ SD124F・SE124F(3915)	RP78	口径 170/ 底径 63/ 器高 58	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	17	87	赤境土器	環	SD124	RP147	口径 158/ 底径 54/ 器高 55	内外面口クロナデ / 底部回転系	
99	1	88	赤境土器	環	SD124F(4015)		口径 (134)/ 底径 54/ 器高 49	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	2	88	赤境土器	環	SD124・SD124F・ SD124(4015)		口径 127/ 底径 51/ 器高 4015	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	3	88	赤境土器	環	SD124	RP147・ RP149	口径 136/ 底径 52/ 器高 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	4	88	赤境土器	環	SD124F(3915)		底径 60	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	5	88	赤境土器	環	SD124	RP84	底径 49	内外面口クロナデ / 底部回転系か	
	6	88	赤境土器	環	SD124F(4015)		底径 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	7	88	赤境土器	環	SD124F(4015)			内外面口クロナデ / 底部回転系	
	8	88	赤境土器	環	SD124	RP148	口径 (174)	内外面口クロナデ	
	9	88	赤境土器	環	SD124			内外面口クロナデ / 底部回転系	
	10	88	赤境土器	環	SD124・4016			内外面口クロナデ	
	11	88	土師器	環	SD124	RP79		外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理	
	12	88	土師器	環	SD124F(4015)		底径 (50)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	
	13	88	土師器	環	SD124F(3915)			外面口クロナデ / 内面ミガキ・黒色処理	
	14	88	須恵器	甕	SD124			外面ナデ・平行タタキ / 内面ナデ・ア字痕	
	15	88	須恵器	壺	SD124	RP147		内外面口クロナデ	
	16	88	須恵器	有台杯	SX125(3710)		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅
	17	88	須恵器	有台杯	SX125F(3711)		底径 (78)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	18	88	須恵器	横瓶	SX125(3710)・ 3714・3815			外面タタキ・カキメ / 内面ア字痕	
	19	88	須恵器	甕	SX125F(3711)			外面平行タタキ / 内面平行・同心円ア字痕	
100	1	89	須恵器	環	SE126F・SE126 内・ SE126 中心		口径 (142)/ 底径 45/ 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転系	内外面摩滅 底部黒書「足」 転用痕か
	2	89	須恵器	環	SE126・SE126 内・ SE126 中心		口径 136/ 底径 66/ 器高 44	内外面口クロナデ / 底部回転系	内外面摩滅 底部黒書「足」 転用痕か
	3	89	須恵器	環	SE126・SE126F		口径 (128)/ 底径 64/ 器高 45	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」 使用痕か
	4	89	須恵器	環	SE126・SE126F・ SE126-4 層・SE126 内・ SE126 中心		口径 (133)/ 底径 54/ 器高 44	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」 使用痕か
	5	89	須恵器	環	SE126F		口径 (1314)/ 底径 50/ 器高 43	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅 底部黒書「足」
	6	89	須恵器	環	SE126F・SE126 内		口径 (136)/ 底径 54/ 器高 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」
	7	89	須恵器	環	SE126F・SE126 内		口径 (131)/ 底径 60/ 器高 39	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」
	8	89	須恵器	環	SE126・SE126F・4014		口径 124/ 底径 58/ 器高 39	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅 底部黒書「足」
	9	89	須恵器	環	SE126F・SE126 内		口径 (144)/ 底径 50/ 器高 41	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部黒書「足」 使用痕か
	10	89	須恵器	環	SE126F		口径 138/ 底径 (70)/ 器高 44	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面摩滅 底部黒書 「足」 使用痕か
	11	89	須恵器	環	SE126・SE126F・SE126 内・ SD143(4014)・4014		口径 (130)/ 底径 57/ 器高 37	外面口クロナデ / 内面ナデ / 底部回転系	内外面摩滅 底部黒書「甕」

表 25 上曾根遺跡 土器観察表 22

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
100	12	89	須恵器	坏	SE126・SE126ホリ		口径(127)/ 底径(66)/器高40	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」か
101	1	90	須恵器	坏	SE126・SE126F	RP19	口径136/底径50/ 器高45	内外面口クロナデ/底部回転系	内外面厚減 体部意図的に打ち欠きか
	2	90	須恵器	坏	SE126・SE126ホリ		口径(130)/ 底径(54)/器高39	内外面口クロナデ/底部回転系	内面厚減
	3	90	須恵器	坏	SE126内		口径(139)/ 底径(62)/器高46	内外面口クロナデ/底部回転系	
	4	90	須恵器	坏	SE126内		底径(60)	内外面口クロナデ/底部回転系	内面厚減 底部墨書「□」
	5	90	須恵器	坏	SE126ホリ		底径(47)	内外面口クロナデ/底部回転系	内外面厚減 底部墨書「□」 使用前か
	6	90	須恵器	坏	SE126F		底径56	内外面口クロナデ/底部回転系	
	7	90	須恵器	坏	SE126F			内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「□」
	8	90	須恵器	坏	SE126			内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」
	9	90	須恵器	坏	SE126F			内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「□」
	10	90	須恵器	坏	SE126F		口径(134)	内外面口クロナデ	内外面厚減
	11	90	須恵器	坏	SE126内・SE126F・ SE126ホリ		口径(122)	内外面口クロナデ	内外面厚減
	12	90	須恵器	有台杯	SE126F・SE126ホリ		口径(156)	内外面口クロナデ	
	13	90	須恵器	坏	SE126・SE126F・ SE126内		口径(140)	内外面口クロナデ	
	14	90	須恵器	坏	SE126F		口径(127)	内外面口クロナデ	
	15	90	須恵器	坏	SE126F・SE126ホリ		口径(140)	内外面口クロナデ	
	16	90	須恵器	坏	SE126F・SE126内		口径(138)	内外面口クロナデ	
	17	90	須恵器	坏	SE126-3層		口径(124)	内外面口クロナデ	外面厚減
	18	90	赤焼土器	坏	SE126内		口径(128)/ 底径52/器高53	内外面口クロナデ/底部回転系	内面覆付着
	19	90	赤焼土器	坏	SE126F・SE126内		口径(138)/ 底径52/器高48	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」
	20	90	赤焼土器	坏	SE126・SE126F・ SE126内		口径(121)/ 底径52/器高48	内外面口クロナデ/底部回転系	内面覆付着
102	1	90	赤焼土器	坏	SE126F		口径(134)/ 底径54/器高46	内外面口クロナデ/底部回転系	
	2	91	赤焼土器	坏	SE126-3層		底径40	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「伴」
	3	91	赤焼土器	坏	SE126・SE126F		底径52	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」
	4	91	赤焼土器	坏	SE126		底径(50)	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」
	5	91	赤焼土器	坏	SE126F		底径(50)	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」
	6	91	赤焼土器	坏	SE126中心		底径(50)	内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「足」
	7	91	赤焼土器	坏	SE126F		底径(48)	内外面口クロナデ	
	8	91	赤焼土器	坏	SE126F・SE126内		底径(56)	内外面口クロナデ/底部回転系	
	9	91	赤焼土器	坏	SE126F・SE126内		底径44	内外面口クロナデ/底部回転系	
	10	91	赤焼土器	坏	SE126・SE126F・4014		底径57	内外面口クロナデ/底部回転系	
	11	91	赤焼土器	坏	SE126F		底径52	内外面口クロナデ/底部回転系	底部低い柱状
	12	91	赤焼土器	坏	SE126内		底径45	内外面口クロナデ/底部回転系	
	13	91	赤焼土器	坏	SE126F		底径(52)	内外面口クロナデ/底部回転系	
	14	91	赤焼土器	坏	SE126F・SE126内		底径56	内外面口クロナデ/底部不明	
	15	91	赤焼土器	坏	SE126F			内外面口クロナデ/底部回転系	底部墨書「□」
	16	91	赤焼土器	坏	SE126F			内外面口クロナデ/底部回転系	
	17	91	赤焼土器	坏	SE126F		口径(144)	内外面口クロナデ	
18	91	赤焼土器	坏	SE126F		口径(154)	内外面口クロナデ		
19	91	赤焼土器	皿	SE126・SE126F・ SE126内		口径143	内外面口クロナデ/底部回転系		
20	91	赤焼土器	坏	SE126F・SE126内		口径(111)	内外面口クロナデ		
21	91	赤焼土器	坏	SE126F			内外面口クロナデ		
22	91	赤焼土器	坏	SE126内			内外面口クロナデ		
23	91	赤焼土器	坏	SE126F			内外面口クロナデ		

表 26 上曾根遺跡 土器観察表 23

図版番号	写真図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
102	24	91	須恵器 坏	SE126・SE126 内		口径 (122)	内外面口コナデ	内面摩滅
103	1	92	土師器 坏	SE126F		口径 (128)/ 底径 58/ 器高 56	外面口コナデ/内面ミガキ・ 黒色処理/底部回転系	
	2	92	土師器 坏	SE126F		底径 50	外面口コナデ/内面ミガキ・ 黒色処理/底部回転系	体外面部位墨書「足」か
	3	92	土師器 坏	SE126F・SE126 外		底径 52	内外面口コナデ/底部回転系	内面黒色処理か
	4	92	土師器 坏	SE126 内		底径 (48)	外面口コナデ/内面ミガキ・ 黒色処理/底部回転系	
	5	92	須恵器 甕	SE126F・4014・ 4114RP12 周辺・XO			外面平行タキ/内面同心円ア字痕	
	6	92	須恵器 甕	SE126 内			外面平行タキ/内面平行ア字痕	内面摩滅
	7	92	須恵器 坏	SK132F			内外面口コナデ/ 底部回転ヘラカ	
	8	92	瀬戸美濃 丸皿	SK134		口径 (104)/ 底径 58/ 器高 26	内外面口コナデ/底部ケズリ/ 高台内輪ドナ痕	尾込摩滅/ 大塚第 3 段階後半
	9	92	須恵器 有台坏	SD143(4212)・ 4114RP12 周辺		底径 68	内外面口コナデ/底部回転系	内面摩滅
	10	92	珠洲 甕	SD143(4144)			外面タキ/内面ア字痕	
	11	92	須恵器 壺	SD143(4214)・3713		口径 (102)	内外面口コナデ	
	12	92	肥前陶器 皿	SD144			外面口コナデ/底部ケズリ	I期か
	13	92	須恵器 有台皿	SD144			内外面口コナデ/ 底部切離し不明	内面摩滅・擦面 転用痕か
	14	92	赤埃土器 坏	SX154F			内外面口コナデ	
	15	92	須恵器 壺	SX154	RP121	口径 (95)	内外面口コナデ	
104	1	93	珠洲 鉢鉢	SX155(3204)			外面口コナデ	内面摩滅 V期か
	2	93	須恵器 蓋	SX155(3205)		幅み径 32/ 厚さ 19	内外面口コナデ	幅み部 宝珠型
	3	93	須恵器 蓋	SX155(3205)		幅み径 28/ 厚さ 8		幅み部
	4	93	須恵器 蓋	SX155(3305)(3306)			内外面口コナデ/外面回転ヘラ	
	5	93	須恵器 坏	SX155・SX155(3306)	RP118	口径 (124)/ 底径 76/ 器高 36	内外面口コナデ/底部回転ヘラ	
	6	93	須恵器 坏	SX155(3205)		底径 (76)	内外面口コナデ/底部回転ヘラ	内面摩滅
	7	93	須恵器 坏	SX155(3206)		底径 (70)	内外面口コナデ/底部回転ヘラ	
	8	93	須恵器 坏	SX155(3206)		底径 96	内外面口コナデ/底部回転ヘラ	
	9	93	須恵器 坏	SX155(3305)・3305		底径 77	内外面口コナデ/底部回転ヘラ	
	10	93	須恵器 坏	SX155(3205)(3206) (3305)(3306)		口径 (130)/ 底径 (50)/ 器高 49	内外面口コナデ/底部回転系	内面摩滅
	11	93	須恵器 坏	SX155(3306)・ SX155F(3205)		底径 (66)	内外面口コナデ/底部回転系	
	12	93	須恵器 坏	SX155(3305)		底径 (52)	内外面口コナデ/底部回転系	
	13	93	須恵器 有台坏	SX155(3205)			内外面口コナデ/ 底部切離し不明	
	14	93	赤埃土器 坏	SX155(3205)(3306)		底径 50	内外面口コナデ/底部回転系か	
	15	93	赤埃土器 坏	SX155(3305)		底径 42	内外面口コナデ/底部回転系	
16	93	土師器 坏	SX155(3306)		底径 48	外面口コナデ/内面ミガキ・ 黒色処理/底部回転系		
17	93	赤埃土器 皿	SX155(3206)			内外面口コナデ	口縁部復付着	
18	93	赤埃土器 甕	SX155(3205)			内外面口コナデ・カキメ	小型	
19	93	赤埃土器 甕	SX155(3205)			内外面口コナデ		
20	93	須恵器 壺	SX155(3306)			内外面口コナデ		
21	93	須恵器 甕	SX155	RP120		内外面口コナデ		
22	93	須恵器 甕	SX155(3206)			外面平行タキ・カキメ/ 内面同心円ア字痕		
105	1	94	須恵器 甕	SX155・3305	RP119		外面タキ/内面ア字痕	
	2	94	須恵器 坏	SD156(3406)・3206		底径 48	内外面口コナデ/底部回転系	
	3	94	赤埃土器 坏	SD156(3406)		底径 (46)	内外面口コナデ/底部回転系	
	4	94	赤埃土器 甕	SD156(3406)・3406			外面カキメ/内面口コナデ	
	5	94	須恵器 坏	SD159(3009)・3006			内外面口コナデ	外面口縁部に沈線
6	94	須恵器 壺	SD159(3009)			内外面口コナデ		

表 27 上曾根遺跡 土器観察表 24

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
105	7	94	須恵器	甕	SD159	RP124		外面平行タタキ / 内面平行ア字腹		
	8	94	赤焼土器	環	SE162-1 崩			外面ケズリ / 内面クロコナデ / 底部回転系		
	9	94	赤焼土器	甕	SE162F		口径 (236)	外面カキメ / 内面クロコナデ	内外面覆付着	
	10	94	須恵器	有台環	SK205F		底径 (84)	内外面クロコナデ / 底部切離し不明	内面覆付着	
	11	94	須恵器	有台環	SP207 床面		底径 (57)	内外面クロコナデ / 底部回転ヘラカ	痕か	
	12	94	赤焼土器	甕	SP209F			外面ケズリ / 内面ハケメ・ナデ		
	13	94	須恵器	蓋	SK210F			内外面クロコナデ		
	14	94	須恵器	環	SK210F		底径 60	内外面クロコナデ / 底部回転ヘラ	底部厚減	
	15	94	須恵器	環	SK210F		底径 (70)	内外面クロコナデ / 底部回転ヘラ	火ハネ 転用痕 (墨痕)	
	106	1	95	須恵器	有台環	SK210	RP125	底径 64	内外面クロコナデ / 底部回転系カ・ナデ	内外面・底部覆付着 高台端部厚減
		2	95	須恵器	直	SK210F		底径 54	内外面クロコナデ	底部切離し不明
		3	95	赤焼土器	環	SK210F		口径 (132) / 底径 (48) / 器高 53	内外面クロコナデ / 底部回転系カ	
		4	95	赤焼土器	環	SK210F		底径 50	内外面クロコナデ / 底部回転系	
		5	95	赤焼土器	環	SK210	RP125	口径 142 / 底径 60 / 器高 57	内外面クロコナデ / 底部回転系	内外面覆付着 口縁部一部打ち欠き
		6	95	赤焼土器	甕	SK210F		底径 (70)	外面ケズリ / 内面クロコナデ / 底部回転系	
7		95	須恵器	甕	SK210F・2303			外面平行タタキ / 内面同心円ア字腹		
8		95	須恵器	甕	SK210F			外面平行タタキ / 内面平行ア字腹		
9		95	須恵器	壺	SK210F			内外面クロコナデ		
10		95	赤焼土器	甕	SK212		底径 72	内外面クロコナデ / 底部回転系	サンドイッチ状焼成 頸部に隆帯	
11		95	赤焼土器	環	SK213	RP138	口径 125 / 底径 48 / 器高 38	内外面クロコナデ / 底部回転系		
107	1	96	須恵器	有台環	SK213		底径 (68)	内外面クロコナデ / 底部切離し不明		
	2	96	赤焼土器	環	SK213		底径 (59)	内外面クロコナデ / 底部回転系		
	3	96	赤焼土器	甕	SK213			外面平行タタキ / 内面平行ア字腹		
	4	96	赤焼土器	甕	SK213F・SK215			外面平行タタキ / 内面平行ア字腹		
	5	96	赤焼土器	甕	SK213F		底径 (74)	外面ケズリ / 内面クロコナデ / 底部回転系		
	6	96	赤焼土器	甕	SK213F			内外面クロコナデ		
	7	96	須恵器	壺	SK213F			内外面クロコナデ		
	8	96	赤焼土器	甕	SD214(2602)			内外面クロコナデ	口縁部先端突る	
	9	96	赤焼土器	甕	SK216F			内外面クロコナデ / 底部切離し不明	外面覆付着	
	10	96	須恵器	皿	SD216(2601)			内外面クロコナデ		
	11	96	須恵器	甕	SP231・1901			内外面クロコナデ		
	12	96	須恵器	蓋	SD2・SD238(2504)			内外面クロコナデ / 外面ケズリ	SD2・238の合流部	
	13	96	須恵器	環	SD238	RP91	口径 (128) / 底径 (71) / 器高 32	内外面クロコナデ / 底部回転ヘラ		
	14	96	須恵器	環	SD238(2704)		底径 (52)	内外面クロコナデ・ケズリ / 底部回転系		
	15	96	須恵器	環	SD238(2704)		底径 48	内外面クロコナデ / 底部回転系		
	16	96	須恵器	環	SD238・SD238F(2704)	RP93	口径 (131) / 底径 (60) / 器高 45	内外面クロコナデ / 底部回転系	内面覆付着	
	17	96	須恵器	環	SD238	RP91		内外面クロコナデ		
	18	96	赤焼土器	環	SD238・SD238(2704)	RP100	口径 (132) / 底径 (56) / 器高 39	内外面クロコナデ / 底部回転系	内面覆付着	

表 28 上曾根遺跡 土器観察表 25

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
108	1	97	赤堊土器	坏	SD238・SD238(2704)	RP97	口径 132/ 底径 49/ 器高 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	2	97	赤堊土器	坏	SD238・SD238(2604)・ SD238(2704)・2604	RP102	口径 123/ 底径 53/ 器高 44	内外面口クロナデ / 底部回転系	内外面煤付着
	3	97	赤堊土器	坏	SD238	RP94	口径 132/ 底径 61/ 器高 42	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面煤付着
	4	97	赤堊土器	坏	SD238	RP101	底径 58	内外面口クロナデ / 底部回転系	口縁部割れ口摩滅 内外面煤付着
	5	97	赤堊土器	坏	SD238	RP98		内外面口クロナデ / 外面口クロナデ /	内面煤付着
	6	97	土師器	坏	SD238(2704)			内面ミガキ・黒色処理	内面剝離多
	7	97	赤堊土器	甕	SD238	RP102	口径 139/ 底径 66/ 器高 118	内外面口クロナデ / 底部回転系	小型
	8	97	赤堊土器	甕	SD238F(2704)・2704・ 2705		底径 (78)	外面ケズリ / 内面口クロナデ	外面煤付着
	9	97	赤堊土器	甕	SD238	RP99	口径 (246)	内外面口クロナデ	内外面煤付着 口縁部丸み
	10	97	赤堊土器	甕	SD238(2704)			内外面口クロナデ	口縁部丸み
	11	97	赤堊土器	甕	SD238	RP95		内外面口クロナデ	
	12	97	赤堊土器	甕	SD238(2804)		底径 (68)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
109	1	97	赤堊土器	甕	SD238F(2704)			外面ナデ・平行タタキ / 内面ナデ・平行アテ甕	内外面煤付着
	2	97	赤堊土器	甕	SD238F(2704)・2604			内外面口クロナデ	
	3	97	須恵器	甕	SD238(2704)・2906			外面平行タタキ・カキメ / 内面同心円アテ甕	
	4	97	赤堊土器	甕	SP242F			内外面口クロナデ	
	5	98	須恵器	蓋	SK244・SK244F		口径 (168)	内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ	体部黒書「利」 内面摩滅
	6	98	須恵器	蓋	SK244		口径 (139)	内外面口クロナデ	
	7	98	須恵器	蓋	SK244	RP110		内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ	
	8	98	須恵器	蓋	SK244F			内外面口クロナデ	
	9	98	須恵器	坏	SK244	RP112	口径 132/ 底径 70/ 器高 38	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内外面摩滅 転用痕か
	10	98	須恵器	坏	SK244	RP117	口径 130/ 底径 76/ 器高 29	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内外面摩滅 底部黒書「山か」
	11	98	須恵器	坏	SK244F		口径 134/ 底径 80/ 器高 34	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面摩滅
	12	98	須恵器	坏	SK244ベルト		口径 (74)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	底部黒書「口」
	13	98	須恵器	坏	SK244ベルト		口径 138/ 底径 60/ 器高 39	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	14	98	須恵器	有台坏	SK244	RP110・ RP113	口径 140/ 底径 76/ 器高 65	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	15	98	須恵器	壺	SK244	RP111	底径 68	外面口クロナデ / 内面口クロナデ ・ケズリ / 底部回転ヘラ	
110	1	98	赤堊土器	甕	SK244F			内外面口クロナデ	内面帯状に煤付着
	2	98	赤堊土器	甕	SK244F			外面口クロナデ・ケズリ / 内面カキメ	
	3	98	赤堊土器	甕	SK244	RP114		外面平行タタキ / 内面同心円アテ甕	内外面煤付着
	4	98	赤堊土器	甕	SK244	RP109		外面平行タタキ / 内面平行アテ甕	
	5	98	赤堊土器	甕	SK244F			外面ナデ・平行タタキ / 内面ナデ・同心円アテ甕	内外面煤付着
	6	98	赤堊土器	甕	SK244ベルト			外面平行タタキ / 内面アテ甕	
	7	98	須恵器	甕	SK244F			外面平行タタキ / 内面平行アテ甕	内面煤付着
	8	99	赤堊土器	坏	SK245(2707)		底径 (57)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	9	99	赤堊土器	甕	SK246		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	10	99	須恵器	壺	SK247			内外面口クロナデ	頸部 外面剝落か

表 29 上曾根遺跡 土器観察表 26

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
110	11	99	須恵器	壺	SP249			内外面ロクロナデ	
	12	99	須恵器	壺	SP249			外面ナデ・タタキ/ 内面ロクロナデ	
	13	99	赤焼土器	坏	SP255		底径 46	内外面ロクロナデ / 底部回転系	内面全面・外面一部 復付着
	14	99	赤焼土器	坏	SP255			内外面ロクロナデ	
	15	99	須恵器	坏	SD257		底径 (80)	内外面ロクロナデ / 底部回転へう	
	16	99	赤焼土器	坏	SD257		底径 54	内外面ロクロナデ / 底部回転系	
	17	99	赤焼土器	坏	SP266			内外面ロクロナデ	
111	1	99	肥前磁器	皿	2400		底径 (63)	内外面ロクロナデ / 内面植物文	II 期
	2	99	肥前磁器	皿	2000			内外面ロクロナデ / 内面圈線・植物文	II 期
	3	99	肥前陶器	皿	1597			内外面ロクロナデ / 内面圈線文	III 期か・鉄軸
	4	99	瀬戸美濃	皿か	3007		底径 51	内外面ロクロナデ / 底部ケズリ / 内面ソキ	大塚第 4 段階
	5	99	青磁	椀	2905			内外面ケズリ / 外面筋透行文	II 期 13 世紀後半
	6	99	肥前陶器	皿	2908 検出			内外面ロクロナデ	I 期か
	7	99	瀬戸美濃	折縁皿	3007			内外面ロクロナデ	大塚第 4 段階
	8	99	瀬戸美濃	折縁皿	2198			内外面ロクロナデ	大塚第 4 段階
	9	99	肥前陶器	皿	2202			内外面ロクロナデ	I 期か
	10	99	瀬戸美濃	皿か	2498			内外面ロクロナデ	大塚
	11	99	瀬戸美濃	皿か	2196			内外面ロクロナデ / 底部ケズリ	大塚第 1 段階
	12	99	瀬戸美濃	皿か	2905			内外面ロクロナデ	大塚
	13	99	瀬戸美濃	皿か	2604			内外面ロクロナデ	大塚
	14	99	肥前磁器	碗	1700		底径 (41)	内外面ロクロナデ / 外面植物文 高古内路「大明年製」	波佐見 V 期・くらわんか
	15	99	産地不明 磁器	碗	1901		底径 37	内外面ロクロナデ / 外面圈線・ 不明文 見込み圈線・不明文	近代か
	16	99	肥前磁器	瓶か	2002		底径 52	内外面ロクロナデ / 底部切離し不明 / 外面圈線	II 期
	17	99	青磁	碗	1901			外面筋透行文	II 期 13 世紀後半
	18	99	瀬戸美濃	天目茶 碗	2905			外面ロクロナデ・ケズリ	越中瀬戸か 16 世紀後半
	19	99	青磁	碗	3111				
	20	99	瀬戸美濃	瓶か	1901 周辺		底径 36	内外面ロクロナデ / 底部回転系	内外面輪郭難 14-15 世紀・古瀬戸
	21	100	肥前陶器	搦鉢	2908			内外面ロクロナデ	II 期
	22	100	越前	搦鉢	2500			内外面ロクロナデ / 内面脚目	16 世紀 粗い脚目
	23	100	越前	搦鉢	1901			内外面ロクロナデ / 内面脚目	16 世紀 粗い脚目
	24	100	珠洲	搦鉢	1402			内外面ロクロナデ / 内面脚目	IV 期 粗い脚目
	25	100	珠洲	搦鉢	1300			内外面ロクロナデ / 内面脚目	内面復付着 V 期か
	26	100	須恵器系 陶器	甗	2002			外面ナデ・タタキ / 内面ナデ・アナ甗	珠洲と色調異なる
	27	100	珠洲	甗	1496			外面タタキ / 内面アナ甗	
	28	100	越前か	甗	2908 検出			内外面ナデ	
	29	100	産地不明 陶器	瓶か	2696			内外面ロクロナデ	近世か
	30	100	上師瓦上 器	土鉢	2605・2705		長さ 38 / 直径 (32)		
112	1	100	須恵器	蓋	2096		幅み径 29	内外面ロクロナデ	幅み部
	2	100	須恵器	蓋	2606		幅み径 29	内外面ロクロナデ	幅み部
	3	100	須恵器	蓋	2707		幅み径 29	内外面ロクロナデ	幅み部
	4	100	須恵器	蓋	3006		幅み径 25	内外面ロクロナデ	幅み部
	5	100	須恵器	蓋	3005			内外面ロクロナデ	内面厚減
	6	100	須恵器	蓋	1996			内外面ロクロナデ	
	7	100	須恵器	蓋	1800・1901		口径 (152)	内外面ロクロナデ	内面厚減
	8	100	須恵器	蓋	2002		口径 (126)	内外面ロクロナデ / 外面回転へう	内面厚減

表 30 上曾根遺跡 土器観察表 27

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
112	9	100	須恵器	蓋	1700.1800 下層・1800		口径 (157)	内外面口クロナデ		
	10	100	須恵器	蓋	3008			内外面口クロナデ / 外面ケズリか		
	11	100	須恵器	蓋	2605・2705			内外面口クロナデ / 底部回転へら	外面摩滅	
	12	100	須恵器	蓋	1800			内外面口クロナデ		
	13	100	須恵器	蓋	1700.1800 下層			内外面口クロナデ		
	14	101	須恵器	坏	2604RP1 周辺・2604		口径 (119) / 底径 60 / 器高 33	内外面口クロナデ / 底部回転へら	外面摩滅	
	15	101	須恵器	坏	1901		口径 (140) / 底径 93 / 器高 33	内外面口クロナデ / 底部回転へら	外面摩滅	
	16	101	須恵器	坏	1700.1800 下層		口径 (140) / 底径 92 / 器高 30	内外面口クロナデ / 底部回転へら・ナデ		
	17	101	須恵器	坏	1800		口径 (134) / 底径 (71) / 器高 37	内外面口クロナデ / 底部回転へら		
	18	101	須恵器	坏	2501		底径 68	内外面口クロナデ / 底部回転へら		
	19	101	須恵器	坏	1800		底径 70	内外面口クロナデ / 底部回転へら	底部墨書「十」	
	20	101	須恵器	坏	1800		底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転へら・ケズリ	内面摩滅 使用痕か	
	21	101	須恵器	坏	2604		底径 (73)	内外面口クロナデ / 底部回転へら		
	22	101	須恵器	坏	1800		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転へら・ナデ	外面摩滅	
	23	101	須恵器	坏	1700.1800 下層・1800		底径 72 / 器高	内外面口クロナデ / 底部回転へら		
	24	101	須恵器	坏	1300		底径 (78)	内外面口クロナデ / 底部回転へら		
	25	101	須恵器	坏	1396		底径 (75)	内外面口クロナデ / 底部回転へら	胎土緻密	
	113	1	101	須恵器	坏	1901 周辺		底径 (82)	内外面口クロナデ / 底部回転へら	内外面摩滅 使用痕か
		2	101	須恵器	坏	1700.1800 下層		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転へら	
		3	101	須恵器	坏	1700.1800 下層			内外面口クロナデ / 底部回転へら	外面摩滅
		4	101	須恵器	坏	2909			内外面口クロナデ / 底部回転へら	底部板目痕
		5	101	須恵器	坏	1800			内外面口クロナデ / 底部回転へら	
		6	101	須恵器	坏	1700.1800・ 1700.1800 下層			内外面口クロナデ / 底部回転へら	底部墨書「十」
		7	101	須恵器	坏	2705		底径 (80)	内外面口クロナデ / 底部回転へら	底部墨書か「□」
		8	101	須恵器	坏	1901 周辺・1901		底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転へら	底部墨書「古」か
9		101	須恵器	坏	1901 周辺		底径 (79)	内外面口クロナデ / 底部回転へら	内外面優付着 転用痕 (墨痕)	
10		101	須恵器	坏	1102・1402		口径 (118) / 底径 57 / 器高 32	内外面口クロナデ / 底部回転係	内面摩滅 転用痕か	
11		101	須恵器	坏	3008		底径 (50)	内外面口クロナデ / 底部回転係		
12		102	須恵器	坏	2707		底径 (50)	内外面口クロナデ / 底部回転係		
13		102	須恵器	坏	1897		底径 (54)	内外面口クロナデ / 底部回転係		
14		102	須恵器	坏	2101 周辺		底径 (61)	内外面口クロナデ / 底部回転係	内面輪切か	
15		102	須恵器	坏	1901		口径 / 底径 52	内外面口クロナデ / 底部回転係	内面墨痕 転用痕か	
16		102	須恵器	坏	1700.1800		底径 57	内外面口クロナデ / 底部回転係	底部墨書「□」	
17		102	須恵器	坏	1901		底径 (56)	内外面口クロナデ / 底部回転係	底部墨書「十」	
18		102	須恵器	坏	1300・1697		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転係	底部墨書「□」	
19		102	須恵器	坏	1699			内外面口クロナデ / 底部回転係	底部墨書「豊」 内面摩滅	
20		102	須恵器	坏	1700.1800 下層			内面口クロナデ / 底部回転係	内面摩滅 底部墨書 「豊」 使用痕か	
21		102	須恵器	坏	1901			内外面口クロナデ / 底部回転係	底部「□」使用痕か	
22		102	須恵器	有台坏	1700.1800 下層		口径 (122) / 底径 (79) / 器高 55	内外面口クロナデ / 底部切離し不明		
23		102	須恵器	有台坏	2704・2705・3005		底径 76	内外面口クロナデ / 底部回転へら		
24		102	須恵器	有台坏	1901		底径 (67)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	外面下部・底部優付着 転用痕	
114		1	102	須恵器	有台坏	1798 検出		底径 (78)	内外面口クロナデ / 底部回転へら・ナデ	

表 31 上層根遺跡 土器観察表 28

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
114	2	102	須恵器	有台杯	2604RP1 周辺		底径 (61)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	3	102	須恵器	有台杯	1797・1897		底径 (58)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 使用痕か
	4	102	須恵器	有台杯	3008		底径 (74)	内外面口クロナデ / 底部回転系へラ	
	5	102	須恵器	有台杯	1696		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	6	102	須恵器	有台杯	2607		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転系へラ	
	7	102	須恵器	有台杯	2096		底径 62	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 体部円形打ち欠きか
	8	102	須恵器	杯	1800			内外面口クロナデ	内外面厚減
	9	102	須恵器	杯	1897 検出			内外面口クロナデ	
	10	102	須恵器	杯	1700,1800 下層			内外面口クロナデ	外面厚減
	11	102	須恵器	杯	1701 下層			内外面口クロナデ	
	12	102	須恵器	杯	1700,1800 下層			内外面口クロナデ	
	13	102	須恵器	杯	1800			内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成
	14	102	須恵器	皿	1797			内外面口クロナデ	
	15	102	須恵器	皿	1797・1798			内外面口クロナデ	
	16	103	赤焼土器	杯	1901		口径 (113) / 底径 49 / 器高 46	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	17	103	赤焼土器	杯	1901		口径 (120) / 底径 56 / 器高 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	18	103	赤焼土器	杯	1901・1901 周辺		口径 (128) / 底径 54 / 器高 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	19	103	赤焼土器	杯	2704		口径 (130) / 底径 (58) / 器高 39	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	20	103	赤焼土器	杯	2202		口径 (152) / 底径 54 / 器高 55	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	21	103	赤焼土器	杯	1700,1800 下層・1800		口径 (103) / 底径 (45) / 器高 39	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
	22	103	赤焼土器	甕	2403・2503		底径 (72)	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面・底部覆付着
23	103	赤焼土器	杯	2704		底径 52	内外面口クロナデ / 底部回転系		
24	103	赤焼土器	杯	1901		底径 58	内外面口クロナデ / 底部回転系	口縁目著しい	
25	103	赤焼土器	杯	1901		底径 (49)	内外面口クロナデ / 底部回転系		
26	103	赤焼土器	甕	3006		底径 62	外面ケズリ / 内面ナデ / 底部回転系・ケズリ		
115	1	103	赤焼土器	杯	1901 周辺		底径 52	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	2	103	赤焼土器	杯	2503		底径 43	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	3	103	赤焼土器	杯	1701		底径 (45)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	4	103	赤焼土器	杯	2296		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	5	103	赤焼土器	杯	1901		底径 (41)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	6	103	赤焼土器	杯	2002		底径 (38)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	7	103	赤焼土器	杯	1897	RP9	底径 (52)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	8	103	赤焼土器	杯	1701		底径 (50)	内外面口クロナデ / 底部回転系か	
	9	103	赤焼土器	杯	1901			内外面口クロナデ / 底部回転系	
	10	103	赤焼土器	有台杯	1901		底径 61	内外面口クロナデ / 底部回転系	外面覆付着 高台内底部
	11	103	赤焼土器	有台杯	1896・1897		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	12	103	赤焼土器	杯	2605・2704・2705		口径 (124)	内外面口クロナデ	口縁目著しい
	13	103	赤焼土器	杯	1901		口径 (136)	内外面口クロナデ	
	14	103	赤焼土器	杯	3110			内外面口クロナデ	外面塗着
	15	103	赤焼土器	杯	1901			内外面口クロナデ	
16	103	赤焼土器	杯	2605・2704・2705			内外面口クロナデ		
17	103	赤焼土器	杯	1800			内外面口クロナデ		
18	103	赤焼土器	杯	1901			内外面口クロナデ		
19	103	赤焼土器	杯	1701 下層			内外面口クロナデ		
20	104	土師器	有台杯	2905・2908		口径 (109) / 底径 (48) / 器高 (43)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	高台内底部	
21	104	土師器	杯	2096 検出		底径 (70)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部切離し不明		

表 32 上曾根遺跡 土器観察表 29

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
115	22	104	土師器	坏	1197		底径 (48)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	
	23	104	土師器	有台坏	2604RP1 周辺		底径 (78)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	
	24	104	土師器	有台坏	2503			外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	
	25	104	土師器	坏	2002		底径 (58)	外面口クロナデ / 内面ミガキ・ 黒色処理 / 底部回転系	
116	1	104	赤垆土器	甕	2703			内外面口クロナデ	
	2	104	赤垆土器	甕	2303			内外面口クロナデ	内面煤付着
	3	104	赤垆土器	甕	1901 周辺			内外面口クロナデ・カキメ	
	4	104	赤垆土器	甕	2704			内外面口クロナデ	内外面煤付着 小型
	5	104	赤垆土器	甕	2198			内外面口クロナデ	内外面煤付着
	6	104	赤垆土器	甕	2703			内外面口クロナデ	口縁部内面煤付着
	7	104	赤垆土器	甕	2504			内外面口クロナデ	
	8	104	赤垆土器	甕	1699 下層			内外面口クロナデ	外面煤付着
	9	104	赤垆土器	甕	2002			内外面口クロナデ	外面煤付着
	10	104	赤垆土器	甕	3008・3009			内外面口クロナデ	
	11	104	赤垆土器	甕	1901 周辺			外面平行タタキ / 内面アテ痕	
	12	104	赤垆土器	甕	2002			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	内外面煤付着
	13	104	赤垆土器	甕	1800		底径 (57)	内外面口クロナデ / 底部ナデ	内外面煤付着
	14	104	赤垆土器	甕	1901 周辺		底径 (65)	外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ / 底部回転系	外面煤付着
	15	104	赤垆土器	甕	1901 周辺		底径 (66)	外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ / 底部回転系	
117	1	105	須恵器	甕	1901 周辺			内外面口クロナデ	サンドイッチ状構成
	2	105	須恵器	甕	1901 周辺			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	サンドイッチ状構成
	3	105	須恵器	甕	2502			外面タタキ / 内面アテ痕	
	4	105	須恵器	甕	2503			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	
	5	105	赤垆土器	甕	2605・2705			外面平行タタキ / 内面アテ痕	
	6	105	須恵器	甕	2503			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	
	7	105	須恵器	甕	2503			外面平行タタキ / 内面平行・同心円アテ痕	
	8	105	須恵器	甕	1901・2002			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	9	105	須恵器	甕	3007			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	
	10	105	須恵器	甕	2708			外面平行タタキ / 内面平行・同心円アテ痕	
	11	105	須恵器	甕	1700・1800 下層・1800			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	12	105	須恵器	甕	2504			外面平行タタキ / 内面平行アテ痕	
	13	105	須恵器	甕	2504			外面平行タタキ・カキメ / 内面同心円アテ痕	
	14	105	須恵器	甕	2201			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
	15	105	須恵器	甕	2100			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	
118	1	106	須恵器	甕	1901			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕	内面煤付着
	2	106	須恵器	甕	2503		底径 (151)	内外面口クロナデ	高台内煤付着
	3	106	須恵器	甕	1700・1800 下層・1799		底径 (76)	外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ / 底部回転ヘラ	サンドイッチ状構成
	4	106	赤垆土器	甕	1701			外面平行タタキ・ケズリ / 内面ナ デ・同心円アテ痕	外面煤付着
	5	106	須恵器	甕	2504			内外面口クロナデ	
	6	106	須恵器	甕	3111			内外面口クロナデ	
	7	106	須恵器	甕	1698 下層			内外面口クロナデ	

表 33 上管根遺跡 土器観察表 30

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考	
118	8	106	須恵器	壺	2908			内外面口クロナデ	頸部隆帯	
	9	106	須恵器	壺	2604			内外面口クロナデ		
	10	106	須恵器	壺	1901			内外面口クロナデ		
	11	106	須恵器	壺	2607			内外面口クロナデ		
	12	106	須恵器	壺	1901			内外面口クロナデ		
	13	106	須恵器	蓋	XO			内外面口クロナデ		
	14	106	須恵器	坏	B 検出		底径 (68)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ		
	15	106	須恵器	壺	XO		底径 (98)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ		
	16	106	須恵器	壺	表採			内面ナデ / 底部切離し不明		
	17	106	赤焼土器	坏	XO			内外面口クロナデ	外面復付着 内面復・漆付着	
	18	106	須恵器	甕	XO			外面平行タタキ / 内面同心円アテ痕		
	19	106	肥前磁器	人形か	XO				外面上輪付け 皿期か	
	119	1	107	青花	皿	3512			外面磨擦 内面植物? 文・磨擦	E 群・景徳鎮
		2	107	肥前磁器	皿	4520		底径 48	見込植物? 文・磨擦	II 期
		3	107	青花	碗	4114RP12 周辺			外面磨擦・唐草文 内面磨擦	B 群・景徳鎮
		4	107	肥前陶器	皿	4217		口径 (126) / 底径 (56) / 器高 36	内面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ / 底部ケズリ	内面厚減 I 期
		5	107	肥前陶器	皿	3712			内面口クロナデ	I 期
		6	107	肥前陶器	皿	3612 覆瓦				I 期か
		7	107	肥前陶器	皿	3508				I 期か
8		107	肥前陶器	皿	3916				I 期か	
9		107	肥前陶器	皿	3715				I 期か	
10		107	肥前陶器	皿	4517				II 期	
11		107	肥前陶器	皿	3713 覆瓦			外面口クロナデ	II 期	
12		107	白磁	皿	3811 覆瓦				D 類	
13		107	青磁	椀	4014			内面磨擦文	15 世紀後半	
14		107	肥前陶器	皿	4419			外面ケズリ	I 期	
15		107	瀬戸美濃	皿	3716		底径 (56)	外面ケズリ / 底部ケズリ / 見込トチン痕	大窯	
16		107	青磁	碗	4016				15 世紀か	
17		107	青磁	碗	3614			外面刻花雷文	C 類	
18		107	瀬戸美濃	天目 茶碗	4416				大窯	
19		107	瀬戸美濃	天目 茶碗	3305			外面ケズリ	大窯	
20		107	肥前陶器	瓶	4013			外面タタキ / 内面アテ痕	縁込み状態土	
21		107	肥前陶器	瓶	3916			内面ナデ	I 期か	
22		107	肥前陶器	瓶	3712			内面ナデ / 外面印花文	縁り込み状態土	
23		107	肥前陶器	瓶	3713			外面タタキ / 内面アテ痕	II 期か	
24		107	珠洲	搦鉢	4416			内外面口クロナデ / 内面印目	口縁部脱状文 V 期	
25		107	肥前陶器	鉢	3714			内外面口クロナデ / 内面印目	I 期か	
26		107	瓦質土器	火鉢	3815			内外面ミガキ・黒色処理	近世	
27		107	肥前陶器	鉢	4416			外面口クロナデ・ケズリ	I 期か	
28	107	珠洲	甕	4014			外面タタキ / 内面アテ痕			
29	107	須恵系茶 陶器	甕	3812・3912			外面タタキ / 内面アテ痕			
30	107	珠洲	甕	3714			外面タタキ / 内面アテ痕			
31	107	肥前陶器	片口	3508			外面ケズリ	I 期か		
32	107	瓦質土器	搦鉢	3612 覆瓦		底径 (124)	外面口クロナデ / 内面印目	16 世紀か 粗い・印目		
120	1	108	須恵器	蓋	3916 板周辺・3815			内外面口クロナデ / 外面回転系	内面厚減 転用説か	

表 34 上曾根遺跡 土器観察表 31

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
120	2	108	須恵器 蓋	3815		直径 25 / 厚さ 15	外面口クロナデ	組み
	3	108	須恵器 蓋	3313		直径 28 / 厚さ 12	外面口クロナデ	組み
	4	108	須恵器 蓋	3512			内外面口クロナデ	組み
	5	108	須恵器 蓋	3206		口径 (150)	内外面口クロナデ	
	6	108	須恵器 蓋	3712			内外面口クロナデ	内面厚減
	7	108	須恵器 蓋	3812・3912			内外面口クロナデ / 外面回転ヘラ	内面厚減
	8	108	須恵器 坏	4016・4114RP12 周辺・4415		口径 (118) / 底径 72 / 器高 32	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナズリ	
	9	108	須恵器 坏	3411・3512・3611 周辺・3611		口径 (125) / 底径 (90) / 器高 35	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	10	108	須恵器 坏	3713		底径 62	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	11	108	須恵器 坏	3514		底径 (84)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	内面厚減
	12	108	須恵器 坏	3508		底径 (90)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	内面厚減 使用痕か
	13	108	須恵器 坏	3512			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
	14	108	須恵器 坏	3716・3815			内外面口クロナデ / 底部回転系か	
	15	108	須恵器 坏	4420		口径 (122) / 底径 (46) / 器高 38	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
	16	108	須恵器 坏	3916		底径 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部畢書「冨」
	17	108	須恵器 坏	4617		底径 (54)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内外面厚減 底部畢書「足」 使用痕か
	18	108	須恵器 坏	3917・X0		底径 54	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部「足」 使用痕か
	19	108	須恵器 坏	3508		底径 48	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部畢書「足」
	20	108	須恵器 坏	3712		底径 50	内外面口クロナデ / 底部回転系	底部畢書「足」
	21	108	須恵器 坏	3916		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	22	108	須恵器 坏	4114RP12 周辺		底径 56	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
	23	108	須恵器 坏	3711 攪乱		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	24	108	須恵器 坏	3610			内外面口クロナデ / 底部回転系	底部畢書「足」か
	121	1	109	須恵器 有台坏	3411		底径 (88)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明
2		109	須恵器 有台坏	3411		口径 (125) / 底径 (79) / 器高 42	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラか	
3		109	須恵器 有台坏	3512		底径 (80)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	体部打ち欠き
4		109	須恵器 有台坏	4016		底径 (80)	内外面口クロナデ / 底部ヘラか	
5		109	須恵器 有台坏	4016		底径 (74)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	
6		109	須恵器 有台坏	4114RP12 周辺		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
7		109	須恵器 有台坏	3305		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ・ナデ	使用痕か
8		109	須恵器 有台坏	3508		底径 70	内外面口クロナデ / 底部回転系か	
9		109	須恵器 皿	3812・3912		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転系か・ナデ	内面厚減 転用痕か
10		109	須恵器 有台坏	3610		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部切離し不明	内面厚減 使用痕か
11		109	須恵器 有台坏	3815・表採・X0		底径 59	内外面口クロナデ / 底部回転系か・ナデ	体部円形打ち欠きか
12		109	須恵器 有台坏	4016・4017		底径 66	内外面口クロナデ / 底部回転系	体部円形打ち欠き 転用痕か
13		109	須恵器 有台坏	4215		底径 (54)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
14		109	須恵器 有台坏	3206		底径 (62)	内外面口クロナデ	底部切離し不明
15		109	須恵器 有台坏	3916		底径 (70)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
16		109	須恵器 有台坏	4114RP12 周辺		底径 (66)	内外面口クロナデ / 底部回転系	使用痕か
17		109	須恵器 皿	4216		底径 (60)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減
18	109	須恵器 有台坏	3713 攪乱		底径 (63)	内外面口クロナデ / 底部回転系	内面厚減 使用痕か	
19	109	須恵器 有台坏	3912		底径 63	内外面口クロナデ / 底部回転系		
20	109	須恵器 有台坏	3305			内外面口クロナデ / 底部切離し不明		

表 35 上管根遺跡 土器観察表 32

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	調整	備考
121	21	109	須恵器	有台坏	4016			内外面口クロナデ/ 底部切離し不明	
	22	109	須恵器	壺	3713			内外面口クロナデ/ 底部切離し不明	
	23	109	須恵器	壺	3206			内外面口クロナデ / 底部回転ヘラ	
122	1	110	須恵器	坏	3712		口径 (126)	内外面口クロナデ	
	2	110	須恵器	坏	3714			内外面口クロナデ	体部外面墨書「□」
	3	110	須恵器	有台坏	3206・3305			内外面口クロナデ	
	4	110	須恵器	有台皿	3914		口径 (130)/ 底径 60/ 器高 30	内外面口クロナデ / 底部回転系	高台内墨書「吉」 内面厚減 転用疑か
	5	110	赤焼土器	坏	3712		口径 132/ 底径 49/ 器高 50	内外面口クロナデ / 底部回転系か	
	6	110	赤焼土器	坏	3712		口径 85/ 底径 46/ 器高 28	内外面口クロナデ / 底部回転系	かわらけ状
	7	110	赤焼土器	坏	3610		底径 (64)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	8	110	赤焼土器	坏	3409		底径 46	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	9	110	赤焼土器	坏	3206			内外面口クロナデ/ 底部切離し不明	
	10	110	赤焼土器	甕	3406			内外面口クロナデ	
	11	110	赤焼土器	甕	3611 周辺			内外面口クロナデ	
	12	110	赤焼土器	甕	3714			内外面口クロナデ	
	13	110	赤焼土器	甕	3206			内外面口クロナデ	
	14	110	赤焼土器	甕	3613			外面口クロナデ・平行タキ/ 内面口クロナデ	
	15	110	赤焼土器	甕	3313		底径 (76)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	16	110	赤焼土器	甕	3312・3512		底径 (72)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	17	110	赤焼土器	甕	4013		底径 62	内外面ナデ / 底部切離し不明	
	18	110	赤焼土器	甕	3206			内外面ナデ / 底部切離し不明	
	19	110	赤焼土器	甕	3206		底径 (70)	外面ケズリ / 内面口クロナデ	サンドイッチ状焼成
	20	110	須恵器	甕	4216・4517			内外面口クロナデ	
21	110	須恵器	甕	3609			外面ナデ・タキ・カキメ / 内面ナデ		
22	110	須恵器	甕	3309			外面タキ / 内面ナデ		
23	110	須恵器	甕	4418			外面平行タキ / 内面ナデ・アテ痕		
123	1	111	須恵器	甕	3712・3713 覆瓦・ 3811 覆瓦・3812・3912			外面平行タキ・カキメ / 内面平行アテ痕	
	2	111	須恵器	甕	3815			外面平行タキ / 内面同心円アテ痕	
	3	111	須恵器	甕	3916 杭周辺			外面平行タキ / 内面平行アテ痕	
	4	111	須恵器	壺	3714・4415・4416		口径 (106)	内外面口クロナデ	
	5	111	須恵器	壺	4114RP12 周辺			内外面口クロナデ	
	6	111	須恵器	壺	4016			内外面口クロナデ	
	7	111	須恵器	壺	4114RP12 周辺			内外面口クロナデ	
	8	111	須恵器	壺	3614			内外面口クロナデ	
	9	111	須恵器	壺	3406			内外面口クロナデ	
	10	111	須恵器	壺	3512・3513			内外面口クロナデ	
	11	111	須恵器	壺	4616			外面口クロナデ・ケズリ / 内面口クロナデ	
	12	111	須恵器	瓶	3814			内外面口クロナデ	サンドイッチ状焼成 底部に横
	13	111	甕前陶器	皿	XO			外面口クロナデ	I期か
	14	111	赤焼土器	坏	表探		底径 (56)	内外面口クロナデ / 底部回転系	
	15	111	須恵器系 陶器	甕	XO			外面タキ / 内面アテ痕	株淵か
	16	111	須恵器	甕	XO			外面ナデ / 内面カキメ	

表 36 上曾根遺跡 木製品観察表 1

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考
127	1	115	木製品	棒状(角)	SX3(1600)	長さ249/幅24/厚さ20	スギ	
	2	115	木製品	付け木	SX3F(1700)	長さ(69)/幅(20)/厚さ(8)	スギ	先端部炭化
	3	115	木製品	箸	SX3F(1700)	長さ(49)/幅6/厚さ4	スギ	
	4	115	木製品	板状	SX3F(1700)	長さ(48)/幅(17)/厚さ6	スギ	
	5	115	木製品	付け木	SX3F	長さ(46)/幅(9)/厚さ3	スギ	先端部炭化
	6	115	木製品	箸	SX3(1700)	長さ(82)/幅(7)/厚さ4	スギ	
	7	115	木製品	板状	SX3F(1800)	長さ(23)/幅16/厚さ4	スギ	
	8	115	木製品	付け木	SX3	長さ(83)/幅(26)/厚さ12	スギ	先端部炭化
	9	115	木製品	箸	SX3(1498)	長さ(66)/幅6/厚さ4	スギ	
	10	115	木製品	付け木	SX3F	長さ(50)/幅17/厚さ10	スギ	先端部炭化
	11	115	木製品	杭	SD4SK7 錆接	長さ594/直径65	スギ	
	12	115	木製品	杭	SD4 端	長さ(484)/直径(55)	スギ	
	13	115	木製品	礎板	SD4	長さ273/幅182/厚さ47	スギ	
128	1	116	木製品	礎板	SD4 東側	長さ163/幅41/厚さ12	スギ	
	2	116	木製品	棒状(丸)	SD4 東側	長さ(156)/直径33	ニレ属	中空 炭化
	3	116	木製品	箸	SD4(1996)	長さ(67)/幅6/厚さ5	スギ	
	4	116	木製品	曲物礎板	SD4 東(2101)	直径(240)/厚さ10	スギ	
	5	116	木製品	箸	SD4(196)	長さ(63)/幅6/厚さ6	スギ	
	6	116	木製品	板状	SD4 東(2100)	長さ50/幅(19)/厚さ6	スギ	
	7	116	木製品	円板状	SD4 東(2101)	直径(130)/厚さ25	スギ	
	8	116	木製品	箸	SD5 北側の溝? 覆土	長さ206/幅7/厚さ5	モミ属	
	9	116	木製品	板状	SD5 増積土~床面(1596)	長さ157/幅(21)/厚さ2	スギ	
	10	116	木製品	箸	SD5	長さ(124)/幅5/厚さ5	アスナロ属	
	11	116	木製品	木皿か	SD5	長さ(164)/幅(19)/厚さ2	スギ	表面黒色物質付着 墨書?
	12	116	木製品	曲物礎板	SD5 増積土~床面(1596)	直径78/厚さ7	スギ	
	13	116	木製品	箸	SD5 増積土~床面(1596)	長さ179/幅6/厚さ6	モミ属	先端部炭化
129	1	117	木製品	加工木	SD5 北側の溝? 覆土	長さ62/幅26/厚さ16	スギ	穿孔 穿孔内炭化
	2	117	木製品	付け木	SX0F	長さ(155)/幅42/厚さ22	スギ	先端部炭化
	3	117	木製品	礎板	SP10	長さ239/幅(123)/厚さ(44)	スギ	
	4	117	木製品	籬	SD18 床面付込	長さ129/幅62/厚さ10	サケ属	
	5	117	木製品	棒状(丸)	SD18Z(2001)	長さ(285)/直径16	アスナロ属	
	6	117	木製品	板状	SD18F	長さ103/幅33/厚さ10	スギ	
	7	117	木製品	木皿か	SD18	長さ(139)/幅(38)/厚さ2	スギ	墨書か 赤外スキャン合成
	8	117	木製品	板状	SD18 東側(2002)	長さ(116)/幅16/厚さ2	スギ	
130	9	117	木製品	箸	SD18(1800)	長さ(73)/幅7/厚さ5	スギ	
	10	117	木製品	棒状(丸)	SD18Z(2001)	長さ35/直径33	スギ	
	11	117	木製品	板状	SD18F	長さ61/幅49/厚さ9	スギ	2ヶ所木釘
	1	118	木製品	板状	SD18Z(2001)	長さ95/幅75/厚さ11	スギ	
	2	118	木製品	漆器椀	SD18	長さ(20)	カエデ属	外面黒色漆 内面赤色漆
	3	118	木製品	加工木	SD18 東側 F	長さ53/幅(17)/厚さ7	アスナロ属	表面 上下面黒色漆 裏面 赤色漆
	4	118	木製品	板状	SD18	長さ(254)/幅90/厚さ29	マツ属積層 曹史垂属	
	5	118	木製品	加工木	SD18F	長さ118/幅20/厚さ8	スギ	
	6	118	木製品	棒状(角)	SD185	長さ111/幅11/厚さ7	スギ	
	7	118	木製品	加工木	SD18F	長さ(118)/幅49/厚さ7	スギ	
131	8	118	木製品	箸	SD18F	長さ(98)/幅5/厚さ4	スギ	
	9	118	木製品	付け木	SD18F	長さ83/幅19/厚さ9	スギ	先端部炭化
	10	118	木製品	箸	SK52F	長さ(87)/幅6/厚さ6	スギ	
	11	118	木製品	棒状(角)	SK52F	長さ(72)/幅8/厚さ7	スギ	
	12	118	木製品	曲物礎板	SK52	直径(160)/厚さ(9)	スギ	黒色漆付着か
	13	118	木製品	棒状(角)	SX54(1801)	長さ(147)/幅19/厚さ14	スギ	
	14	118	木製品	板状	SX54(1801)	長さ(43)/幅(20)/厚さ7	スギ	
	15	118	木製品	棒状(丸)	SX54(1801)	長さ(90)/幅9/厚さ8	スギ	
	16	118	木製品	漆串	SX54(1801)	長さ(131)/幅19/厚さ4	スギ	
	1	119	木製品	棒状(丸)	SX54(1801)	長さ126/直径13	スギ	
	2	119	木製品	板状	SX054(1801)	長さ(60)/幅14/厚さ6	スギ	
	3	119	木製品	棒状(丸)	SX54(1801)	長さ(109)/幅12/厚さ9	スギ	
	4	119	木製品	漆串	SX54(1801)	長さ(58)/幅14/厚さ3	スギ	
	5	119	木製品	付け木	SX54(1801)	長さ(95)/幅22/厚さ(12)	スギ	先端部炭化
	6	119	木製品	付け木	SX54(1801)	長さ(136)/幅16/厚さ14	スギ	先端部炭化
	7	119	木製品	付け木	SX54(1801)	長さ54/幅15/厚さ9	スギ	先端部炭化 ヒノキ科

表 37 上曾根遺跡 木製品観察表 2

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考	
131	8	119	木製品	板状	SX54(1801)		長さ 42/幅 27/厚さ 10	スギ		
	9	119	木製品	付付木	SX54(1801)		長さ (46)/幅 12/厚さ 6	スギ	先端部腐化	
	10	119	木製品	板状	SX54(1901)		長さ (50)/幅 (15)/厚さ 5	スギ		
	11	119	木製品	加工木	SX54		長さ (38)/幅 21/厚さ 5	マツ属残穂		
	12	119	木製品	箸	SD116F(3812)		長さ (92)/幅 6/厚さ 5	スギ		
	13	119	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 182/幅 10/厚さ 11	スギ	接合 1 上端部切り込み	
	14	119	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 111/幅 13/厚さ 9	スギ	接合 2	
	15	119	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 120/幅 11/厚さ 10	スギ	先端部切り込み	
	16	119	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 138/幅 8/厚さ 5	スギ		
	17	119	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 144/幅 14/厚さ 13	スギ	上端部切り込み	
	132	1	120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 147/幅 11/厚さ 8	スギ	接合 32 上端部切り込み
		2	120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 135/幅 10/厚さ 6	スギ	接合 34
		3	120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 117/幅 15/厚さ 13	スギ	接合 33 上端部切り込み
		4	120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (119)/幅 16/厚さ 7	スギ	接合 34
		5	120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 168/幅 26/厚さ 13	スギ	接合 35 先端部切り込み
		6	120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 119/幅 16/厚さ 10	スギ	接合 3 上端部切り込み
		7	20	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 128/幅 11/厚さ 5	スギ	接合 4
8		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 126/幅 13/厚さ 12	スギ	先端部切り込み	
9		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 124/幅 17/厚さ 9	スギ	側面黒色付着物	
10		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 127/幅 17/厚さ 9	スギ	側面黒色付着物	
11		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (43)/幅 10/厚さ 4	スギ		
12		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 55/幅 14/厚さ 5	スギ		
13		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 44/幅 17/厚さ 5	スギ		
14		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (49)/幅 (4)/厚さ 3	スギ		
15		120	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 84/幅 12/厚さ 9	スギ	接合 36	
133		1	121	木製品	板状	SE123 榎方 (右) F		長さ (77)/幅 (10)/厚さ 3	スギ	
		2	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (95)/幅 21/厚さ 7	スギ	上端部切り込み
	3	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 81/幅 15/厚さ 7	スギ		
	4	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 48/幅 16/厚さ 9	スギ		
	5	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (40)/幅 12/厚さ 3	スギ		
	6	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (48)/幅 12/厚さ 3	スギ		
	7	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (69)/幅 14/厚さ 4	スギ		
	8	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 78/幅 15/厚さ 6	スギ	接合 33	
	9	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 36/幅 15/厚さ 4	スギ		
	10	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (66)/幅 21/厚さ (8)	スギ	接合 5	
	11	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (82)/幅 13/厚さ 8	スギ	接合 20	
	12	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 77/幅 14/厚さ 7	スギ	接合 6	
	13	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 73/幅 (6)/厚さ 3	スギ		
	14	121	木製品	板状	SE123 榎方 (右) F		長さ (47)/幅 (17)/厚さ 2	スギ		
	15	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (33)/幅 15/厚さ 3	スギ		
	16	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 89/幅 25/厚さ 15	スギ	接合 5	
	17	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 83/幅 10/厚さ 6	スギ		
18	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (73)/幅 13/厚さ 6	スギ			
19	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 76/幅 13/厚さ 5	スギ	接合 37		
20	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 73/幅 23/厚さ 10	スギ	接合 5		
21	121	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (28)/幅 17/厚さ 3	スギ			
134	1	122	木製品	板状	SE123 榎方 (右) F		長さ C10/幅 31/厚さ (10)	スギ		
	2	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 148/幅 15/厚さ 6	アヌナロ属	上端部切り込み	
	3	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (165)/幅 10/厚さ 7	スギ		
	4	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (40)/幅 12/厚さ 2	スギ		
	5	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 90/幅 15/厚さ 7	スギ		
	6	122	木製品	板状	SE123 榎方 (右) F		長さ (66)/幅 (9)/厚さ 4	スギ		
	7	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 71/幅 13/厚さ 6	スギ	摩滅	
	8	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (152)/幅 12/厚さ 11	スギ	上端部切り込み	
	9	122	木製品	板状	SE123 榎方 (右) F		長さ (40)/幅 (11)/厚さ 3	スギ		
	10	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 43/幅 17/厚さ 5	スギ		
	11	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 71/幅 21/厚さ 5	スギ		
	12	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (132)/幅 15/厚さ 10	スギ	接合 38	
	13	122	木製品	板状	SE123 榎方 (右) F		長さ (67)/幅 (18)/厚さ 6	スギ		
	14	122	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 73/幅 17/厚さ 7	スギ	接合 36 上端部切り込み	
135	1	123	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ (40)/幅 (7)/厚さ 4	スギ		
	2	123	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 96/幅 17/厚さ 9	スギ	接合 39	
	3	123	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 43/幅 18/厚さ 6	スギ		
	4	123	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 121/幅 14/厚さ 12	スギ	接合 7	
	5	123	木製品	漆舟	SE123 榎方 (右) F		長さ 39/幅 14/厚さ 3	スギ		

表 38 上曾根遺跡 木製品観察表 3

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考
135	6	123	木製品	沓串	SE123 側方 (左) F	長さ 114 / 幅 24 / 厚さ 13	スギ	接合 8
	7	123	木製品	沓串	SE123 側方 (左) F	長さ 139 / 幅 12 / 厚さ 8	スギ	接合 4
	8	123	木製品	沓串	SE123 側方 (左) F	長さ 112 / 幅 21 / 厚さ 11	スギ	接合 8
	9	123	木製品	板状	SE123 側方 (左) F	長さ 90 / 幅 (18) / 厚さ 4	スギ	
	10	123	木製品	沓串	SE123 側方 (左) F	長さ 94 / 幅 21 / 厚さ 7	スギ	
	11	123	木製品	沓串	SE123 側方床面	長さ 91 / 幅 18 / 厚さ 10	スギ	
	12	123	木製品	沓串	SE123 側方床面	長さ 35 / 幅 16 / 厚さ 4	スギ	
	13	123	木製品	棒状 (丸)	SE123 側方床面	長さ (104) / 直径 3		
	14	123	木製品	沓串	SE123F	長さ 178 / 幅 15 / 厚さ 13	スギ	接合 9
	1	124	木製品	沓串	SE123F	長さ 184 / 幅 13 / 厚さ 11	スギ	接合 35
	2	124	木製品	板状	SE123F	長さ (212) / 幅 23 / 厚さ 15	スギ	
	3	124	木製品	付け木	SE123F	長さ (179) / 幅 34 / 厚さ 9	スギ	先端部炭化
	4	124	木製品	沓串	SE123F	長さ (45) / 幅 12 / 厚さ 5	スギ	上部欠損
5	124	木製品	沓串	SE123F	長さ 168 / 幅 10 / 厚さ 6	スギ	厚さが異なるが本目の状況から接合と判断	
6	124	木製品	沓串	SE123F	長さ 48 / 幅 13 / 厚さ 3	スギ		
7	124	木製品	沓串	SET123F	長さ (37) / 幅 12 / 厚さ 5	スギ	上部部欠損	
8	124	木製品	沓串	SE123F	長さ (32) / 幅 14 / 厚さ 4	スギ	上部欠損	
9	124	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (251) / 幅 25 / 厚さ 5	スギ		
10	124	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (174) / 幅 (12) / 厚さ 2	スギ		
11	124	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (151) / 幅 27 / 厚さ 10	スギ		
137	1	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ (126) / 幅 14 / 厚さ 7	スギ	接合 10
	2	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ (107) / 幅 9 / 厚さ 7	スギ	
	3	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ (135) / 幅 17 / 厚さ 9	スギ	
	4	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ 93 / 幅 13 / 厚さ 4	スギ	接合 40
	5	125	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (119) / 幅 13 / 厚さ 5	スギ	上部部切込み
	6	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ 157 / 幅 12 / 厚さ 13	スギ	
	7	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ 51 / 幅 14 / 厚さ 5	スギ	
	8	125	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (70) / 幅 11 / 厚さ 4	スギ	
	9	125	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (75) / 幅 (12) / 厚さ 3	スギ	
	10	125	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (85) / 幅 30 / 厚さ 9	スギ	
	11	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ (77) / 幅 16 / 厚さ 7	スギ	
	12	125	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (48) / 幅 20 / 厚さ 7	スギ	
	13	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ 48 / 幅 11 / 厚さ 4	スギ	接合 11
	14	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ 56 / 幅 12 / 厚さ 5	スギ	接合 11
	15	125	木製品	板状	SE123 崩落上中央部	長さ (28) / 幅 (15) / 厚さ 3	スギ	
	16	125	木製品	沓串	SE123 崩落上中央部	長さ (107) / 幅 12 / 厚さ 13	スギ	接合 41
138	1	126	木製品	沓串	SE123	RW22-1 長さ 155 / 幅 14 / 厚さ 16	スギ	上部部切込み
	2	126	木製品	沓串	SE123	RW22-2 長さ 259 / 幅 22 / 厚さ 13	スギ	接合 12 先端部切込み
	3	126	木製品	沓串	SE123	RW22-3 長さ 152 / 幅 14 / 厚さ 14	スギ	接合 13
	4	126	木製品	沓串	SE123	RW22-4 長さ 119 / 幅 16 / 厚さ 7	スギ	接合 7 先端部切込み
	5	126	木製品	沓串	SE123	RW22-5 長さ 147 / 幅 21 / 厚さ 13	スギ	接合 14
	6	126	木製品	沓串	SE123	RW22-6 長さ 130 / 幅 17 / 厚さ 13	スギ	接合 15
	7	126	木製品	沓串	SE123	RW22-7 長さ 146 / 幅 12 / 厚さ 10	スギ	接合 32 上部部切込み
	8	126	木製品	沓串	SE123	RW22-8 長さ 123 / 幅 16 / 厚さ 9	スギ	
	9	126	木製品	沓串	SE123	RW22-9 長さ 82 / 幅 17 / 厚さ 8	スギ	
	10	126	木製品	沓串	SE123	RW22-10 長さ 43 / 幅 14 / 厚さ 6	スギ	
139	1	127	木製品	沓串	SE123	RW22-11 長さ 55 / 幅 25 / 厚さ 6	スギ	
	2	127	木製品	沓串	SE123	RW22-12 長さ 46 / 幅 28 / 厚さ 20	エゴノキ属	表面一部炭化
	4	127	木製品	沓串	SE123	RW22-14 長さ (116) / 幅 14 / 厚さ 8	スギ	接合 10 上部部切込み
	5	127	木製品	沓串	SE123	RW22-15 長さ (115) / 幅 14 / 厚さ 7	スギ	先端部切込み
	6	127	木製品	沓串	SE123	RW54 長さ 155 / 幅 12 / 厚さ 11	スギ	接合 17 上部部切込み
	7	127	木製品	沓串	SE123	RW55 長さ 132 / 幅 15 / 厚さ 10	スギ	接合 18
	8	127	木製品	沓串	SE123	RW56 長さ 104 / 幅 13 / 厚さ 6	スギ	
	9	127	木製品	沓串	SE123	RW57 長さ 57 / 幅 9 / 厚さ 4	スギ	
	10	127	木製品	沓串	SE123	RW58 長さ 76 / 幅 17 / 厚さ 7	スギ	接合 36
	11	127	木製品	沓串	SE123	RW59 長さ (24) / 幅 14 / 厚さ 3	スギ	
	12	127	木製品	沓串	SE123	RW59 長さ 150 / 幅 14 / 厚さ 21	スギ	接合 7
	13	127	木製品	沓串	SE123	RW68 長さ 125 / 幅 12 / 厚さ 12	スギ	接合 19
140	1	128	木製品	沓串	SE123	RW69 長さ (97) / 幅 15 / 厚さ 15	スギ	
	2	128	木製品	沓串	SE123	RW70 長さ 173 / 幅 15 / 厚さ 14	スギ	接合 9 先端部切込み
	3	128	木製品	沓串	SE123	RW71 長さ 122 / 幅 17 / 厚さ 11	スギ	接合 38
	4	128	木製品	沓串	SE123	RW72 長さ 192 / 幅 10 / 厚さ 13	スギ	接合 1 上部部切込み
	5	128	木製品	沓串	SE123	RW73 長さ (61) / 幅 14 / 厚さ 6	スギ	接合 40
	6	128	木製品	沓串	SE123	RW73 長さ 72 / 幅 15 / 厚さ 9	スギ	接合 20 上部部切込み
	7	128	木製品	沓串	SE123	RW73 長さ 67 / 幅 15 / 厚さ 7	スギ	接合 20 上部部切込み

表 39 上曾根遺跡 木製品観察表 4

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考
140	8	128	木製品 漆申	SE123	RW73	長さ 68/幅 15/厚さ 6	スギ	接合 20
	9	128	木製品 漆申	SE123	RW74	長さ 88/幅 14/厚さ 15	スギ	上部部切り込み
10	128	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土			長さ 178/幅 11/厚さ 23	スギ	接合 32 上部部切り込み
141	1	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ (100) / 幅 13/厚さ 4	スギ	
	2	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 35/幅 5/厚さ 3	スギ	
	3	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 101/幅 20/厚さ 10	スギ	接合 21
	4	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 138/幅 19/厚さ 15	スギ	接合 14 上部部切り込み
	5	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 142/幅 14/厚さ 15	スギ	接合 15 上部部切り込み
	6	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 149/幅 12/厚さ 9	スギ	接合 4 上部部切り込み
	7	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 127/幅 15/厚さ 12	スギ	接合 7 上部部切り込み
	8	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 158/幅 11/厚さ 7	スギ	接合 22
	9	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ (109) / 幅 (14) / 厚さ (9)	スギ	接合 23
	10	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 125/幅 16/厚さ 13	スギ	接合 21
	11	129	木製品 棒状(丸)	SE123 枠内堆積土		長さ (56) / 幅 2/厚さ 2	スギ	
	12	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 132/幅 18/厚さ 9	スギ	
	13	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 138/幅 13/厚さ 9	スギ	接合 23
	14	129	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 114/幅 15/厚さ 8	スギ	接合 3
142	1	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 71/幅 23/厚さ 8	スギ	接合 24
	2	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ (24) / 幅 17/厚さ 2	スギ	
	3	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 43/幅 17/厚さ 4	スギ	
	4	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 38/幅 21/厚さ 4	スギ	
	5	130	木製品 加工木	SE123 枠内堆積土		長さ 49/幅 13/厚さ 6	スギ	
	6	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ (50) / 幅 17/厚さ 4	スギ	接合 38
	7	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 45/幅 14/厚さ 7	スギ	上部部切り込み
	8	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 79/幅 23/厚さ 10	スギ	上部部切り込み
	9	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 86/幅 17/厚さ 15	スギ	接合 36 上部部切り込み
	10	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ (99) / 幅 16/厚さ 6	スギ	接合 25
	11	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ (75) / 幅 11/厚さ 4	スギ	接合 41
	12	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 87/幅 23/厚さ 11	スギ	接合 21
	13	130	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 95/幅 26/厚さ 18	スギ	接合 38
	14	130	木製品 漆申	SE123 枠内堆積土		長さ 306/幅 16/厚さ 15	スギ	接合 12 下部部切り込み
143	1	131	木製品 棒状(丸)	123 井戸内		長さ (103) / 直径 (44)	エゴノキ属	靱皮遺存
	2	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 68/幅 15/厚さ 7	スギ	
	3	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ (21) / 幅 12/厚さ 2	スギ	
	4	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 145/幅 9/厚さ 10	スギ	上部部切り込み
	5	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 153/幅 15/厚さ 12	スギ	上部部切り込み
	6	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ (62) / 幅 13/厚さ 5	スギ	
	7	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 150/幅 15/厚さ 13	スギ	接合 23
	8	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 82/幅 14/厚さ 10	スギ	上部部切り込み
	9	131	木製品 板状	SE123 井戸内		長さ (33) / 幅 (30) / 厚さ 5	スギ	
	10	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ (19) / 幅 14/厚さ 2	スギ	
	11	131	木製品 棒状(丸)	SE123 井戸内		長さ (44) / 幅 3/厚さ 1	スギ	
	12	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 77/幅 15/厚さ 9	スギ	
	13	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 102/幅 13/厚さ 6	スギ	
	14	131	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 63/幅 27/厚さ 7	スギ	接合 5 下部部切り込み
15	131	木製品 板状	SE123 井戸内		長さ (58) / 幅 (12) / 厚さ 2	スギ		
16	131	木製品 棒状(丸)	SE123 井戸内		長さ (82) / 直径 13	ヤナギ属		
144	1	132	木製品 漆申	SE123 井戸内		長さ 40/幅 11/厚さ 2	スギ	
	2	132	木製品 加工木	SE123 井戸内		長さ 12/幅 (22) / 厚さ 4	スギ	
	3	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ 105/幅 8/厚さ 11	スギ	上部部切り込み
	4	132	木製品 漆申	SE123		長さ 95/幅 21/厚さ 8	スギ	接合 24
	5	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ 68/幅 13/厚さ 5	スギ	上部部切り込み
	6	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ 104/幅 13/厚さ 9	スギ	接合 2
	7	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ (46) / 幅 8/厚さ 3	スギ	
	8	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ 87/幅 22/厚さ 7	スギ	接合 24
	9	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ 88/幅 14/厚さ 10	スギ	接合 26 上部部切り込み
	10	132	木製品 板状	SE123 枠外青灰土		長さ (74) / 幅 (15) / 厚さ 11	スギ	
	11	132	木製品 漆申	SE123 枠外青灰土		長さ 71/幅 12/厚さ 7	スギ	接合 19
	12	132	木製品 漆申	SE123		長さ (84) / 幅 10/厚さ 4	スギ	
	13	132	木製品 漆申	SE123		長さ (114) / 幅 14/厚さ 15	スギ	接合 18
	14	132	木製品 漆申	SE123		長さ (34) / 幅 14/厚さ 5	スギ	
15	132	木製品 漆申	SE123		長さ (44) / 幅 13/厚さ 3	スギ		
16	132	木製品 漆申	SE123		長さ 60/幅 13/厚さ 7	スギ		
17	132	木製品 漆申	SE123 中心部の西側東側		長さ 147/幅 17/厚さ 13	スギ	接合 27	
145	1	133	木製品 漆申	SE123 中心部の西側東側		長さ 140/幅 16/厚さ 10	スギ	接合 21

表 40 上曾根遺跡 木製品観察表 5

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考
145	2	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ154/幅15/厚さ10	スギ	接合21
	3	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ67/幅12/厚さ5	スギ	上部部切り込み
	4	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ67/幅11/厚さ6	スギ	
	5	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ(57)/幅15/厚さ4	スギ	
	6	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ34/幅5/厚さ4	スギ	
	7	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ88/幅13/厚さ8	スギ	
	8	133	木製品	漆串	SE123中心部の西側東側	長さ275/幅14/厚さ13	スギ	接合12
	9	133	木製品	漆串	SE123	長さ195/幅14/厚さ18	スギ	接合22 上部部切り込み
	10	133	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ210/幅13/厚さ16	スギ	上部部切り込み
	11	133	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ(148)/幅22/厚さ11	スギ	接合28
	146	1	134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ142/幅13/厚さ10	スギ
2		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ97/幅13/厚さ5	スギ	接合2
3		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ(117)/幅10/厚さ7	スギ	上部部切り込み
4		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ102/幅13/厚さ10	スギ	接合19
5		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ68/幅15/厚さ5	スギ	上部部切り込み
6		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ84/幅8/厚さ5	スギ	接合29
7		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ164/幅15/厚さ16	スギ	接合16 上部部切り込み
8		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ105/幅9/厚さ7	スギ	接合29 上部部切り込み
9		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ108/幅11/厚さ7	スギ	
10		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ122/幅29/厚さ9	スギ	接合34
11		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ149/幅12/厚さ11	スギ	接合16 上部部切り込み
12		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ140/幅7/厚さ10	スギ	接合17 上部部切り込み
13		134	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ153/幅10/厚さ8	スギ	接合17
147	1	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ135/幅15/厚さ10	スギ	接合18 上部部切り込み
	2	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ170/幅13/厚さ10	スギ	接合13 上部部切り込み
	3	135	木製品	板状	SE123 井戸枠材外側	長さ(155)/幅13/厚さ7	スギ	
	4	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ90/幅22/厚さ6	スギ	
	5	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ110/幅27/厚さ10	スギ	接合8 上部部切り込み
	6	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ(41)/幅8/厚さ4	スギ	下部切り込み
	7	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ51/幅25/厚さ5	スギ	接合5
	8	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ(83)/幅18/厚さ13	スギ	接合36
	9	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ(103)/幅15/厚さ6	スギ	接合12
	10	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ(68)/幅8/厚さ10	スギ	
	11	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ64/幅23/厚さ6	スギ	
	12	135	木製品	漆串	SE123 井戸枠材外側	長さ46/幅14/厚さ11	スギ	
	13	135	木製品	漆串	SE123 外側プラン	長さ164/幅13/厚さ13	スギ	
148	14	135	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(102)/幅14/厚さ14	スギ	接合40
	1	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ182/幅15/厚さ18	スギ	接合27 下部部切り込み
	2	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ87/幅10/厚さ11	スギ	接合30
	3	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ116/幅15/厚さ18	スギ	接合37
	4	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ130/幅18/厚さ10	スギ	
	5	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(117)/幅18/厚さ8	スギ	接合25 下部部切り込み
	6	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ161/幅12/厚さ7	スギ	接合22
	7	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ124/幅12/厚さ11	スギ	接合31 下部部切り込み
	8	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ81/幅14/厚さ5	スギ	接合6
	9	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ87/幅14/厚さ5	スギ	接合40 上部部切り込み
149	10	136	木製品	漆串	SE123 側方	長さ108/幅17/厚さ10	スギ	
	1	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ151/幅13/厚さ8	スギ	接合13
	2	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ105/幅10/厚さ10	スギ	接合29 上部部切り込み
	3	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ109/幅17/厚さ8	スギ	接合21
	4	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(97)/幅7/厚さ4	スギ	
	5	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ114/幅15/厚さ10	スギ	接合26
	6	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(162)/幅14/厚さ9	スギ	接合9 上部部切り込み
	7	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(79)/幅14/厚さ4	スギ	
	8	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(168)/幅15/厚さ22	スギ	接合31 下部部切り込み
	9	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ84/幅13/厚さ5	スギ	接合42
150	10	137	木製品	棒状(角)	SE123 側方	長さ(101)/幅18/厚さ13	スギ	表面対物前
	11	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ116/幅17/厚さ9	スギ	
	12	137	木製品	漆串	SE123 側方	長さ83/幅13/厚さ7	スギ	接合19
	1	138	木製品	漆串	SE123 側方	長さ85/幅8/厚さ6	スギ	
	2	138	木製品	漆串	SE123 側方	長さ114/幅13/厚さ21	スギ	接合42 下部部切り込み
	3	138	木製品	漆串	SE123 側方	長さ(91)/幅13/厚さ9	スギ	接合15
	4	138	木製品	漆串	SE123 側方	長さ84/幅15/厚さ7	スギ	接合39
	5	138	木製品	棒状(角)	SE123 側方	長さ(139)/幅(7)/厚さ(4)	スギ	
6	138	木製品	漆串	SE123 側方	長さ31/幅13/厚さ4	スギ	上部部切り込み	

V 出土遺物

表 41 上曾根遺跡 木製品観察表 6

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考	
150	7	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (35) / 幅 13/厚さ 3	スギ		
	8	138	木製品	棒状(角)	SE123 榎方		長さ (91) / 幅 11/厚さ 6	スギ		
	9	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ 62/幅 13/厚さ 8	スギ		
	10	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (50) / 幅 13/厚さ 10	スギ		
	11	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (49) / 幅 13/厚さ 5	スギ		
	12	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ 44/幅 14/厚さ 5	スギ		
	13	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (37) / 幅 13/厚さ 4	スギ		
	14	138	木製品	棒状(角)	SE123 榎方		長さ (34) / 幅 7/厚さ 4	スギ		
	15	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ 74/幅 14/厚さ 11	スギ	接合 42	
	16	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (61) / 幅 13/厚さ 8	スギ	接合 37 下端部切り込み	
	17	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (55) / 幅 11/厚さ 7	スギ		
	18	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (70) / 幅 11/厚さ 6	スギ	接合 30	
	19	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ 41/幅 16/厚さ 3	スギ		
	20	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (55) / 幅 10/厚さ 6	スギ	下端部切り込み	
	21	138	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (41) / 幅 11/厚さ 12	スギ		
	151	1	139	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (63) / 幅 11/厚さ 6	スギ	
		2	139	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (57) / 幅 11/厚さ 7	スギ	接合 30 下端部切り込み
		3	139	木製品	漆串	SE123 内側の榎方内		長さ 89/幅 11/厚さ 7	スギ	
		4	139	木製品	漆串	SE123 内側のプラン		長さ (108) / 幅 10/厚さ 23	スギ	
		5	139	木製品	漆串	SE123 内側のプラン		長さ 43/幅 13/厚さ 7	スギ	
6		139	木製品	漆串	SE123 内側のプラン		長さ (71) / 幅 9/厚さ 7	スギ		
7		139	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (120) / 幅 25/厚さ 16	スギ	接合 28	
8		139	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ 115/幅 15/厚さ 13	スギ		
9		139	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ (71) / 幅 12/厚さ 9	スギ	上端部切り込み	
10		139	木製品	棒状(丸)	SE123 榎方		長さ (75) / 幅 16/厚さ 9	ヤナギ属	樹皮遺存	
11		139	木製品	漆串	SE123 榎方内		長さ (24) / 幅 10/厚さ 3	スギ		
12		139	木製品	漆串	SE123 榎方		長さ 100/幅 13/厚さ 5	スギ	上端切込み	
13		139	木製品	棒状	SE123	RW89	長さ (479) / 幅 76/厚さ 17	スギ		
152	1	140	木製品	板状	SE123 板材 1		長さ (619) / 幅 168/厚さ 17	スギ		
	2	140	木製品	板状	SE123 板材 2		長さ 664/幅 100/厚さ 20	スギ		
	3	140	木製品	板状	SE123 板材 3		長さ (481) / 幅 44/厚さ 8	スギ		
153	1	141	木製品	板状	SE123 板材 4		長さ (572) / 幅 (79) / 厚さ 12	スギ		
	2	141	木製品	板状	SE123 井戸枠板材		長さ (697) / 幅 128/厚さ 19	スギ		
	3	141	木製品	板状	SE123 井戸枠板材		長さ (538) / 幅 (72) / 厚さ 11	スギ		
154	1	142	木製品	板状	SE123 井戸枠材外側		長さ (336) / 幅 50/厚さ 30	スギ		
	2	142	木製品	板状	SE123 井戸枠板材		長さ (483) / 幅 27/厚さ 8	スギ		
	3	142	木製品	板状	SE123 井戸枠板材		長さ (516) / 幅 (72) / 厚さ (23)	スギ		
	4	142	木製品	溝	SE126 4 層		長さ (192) / 幅 6/厚さ 6	スギ		
	5	142	木製品	板状	SE126 4 層		長さ (145) / 幅 (30) / 厚さ 5	スギ		
	6	142	木製品	棒状(角)	SE126 4 層		長さ (62) / 幅 (4) / 厚さ 2	スギ		
	7	142	木製品	溝	SE126 4 層		長さ (91) / 幅 7/厚さ 6	スギ		
	8	142	木製品	溝	SE126 4 層		長さ (83) / 幅 6/厚さ 5	スギ		
	9	142	木製品	板状	SE126 4 層		長さ (73) / 幅 13/厚さ 1	スギ		
	10	142	木製品	板状	SE126 4 層		長さ (90) / 幅 21/厚さ 5	スギ		
	11	142	木製品	溝	SE126 4 層		長さ (37) / 幅 6/厚さ 5	スギ		
	12	142	木製品	棒状(角)	SE126		長さ (187) / 幅 8/厚さ 2	スギ		
	13	142	木製品	溝	SE126		長さ (71) / 幅 5/厚さ 4	スギ		
	14	142	木製品	溝	SE126		長さ (84) / 幅 5/厚さ 5	スギ		
15	142	木製品	棒状(丸)	SE126		長さ (43) / 直径 6	ウルシ属			
16	142	木製品	棒状(角)	SE126		長さ (85) / 幅 19/厚さ 10	スギ			
17	142	木製品	棒状(角)	SE126		長さ (141) / 幅 5/厚さ 3	スギ			
18	142	木製品	棒状(丸)	SE126		長さ (53) / 直径 6	ヤナギ属			
155	1	143	木製品	棒状(丸)	SE126		長さ (56) / 直径 8	ヤナギ属		
	2	143	木製品	棒状(角)	SE126		長さ (138) / 幅 10/厚さ 10	スギ		
	3	143	木製品	棒状(丸)	SE126		長さ (30) / 直径 5	ワツギ属		
	4	143	木製品	加工木	SE126		長さ (96) / 幅 3/厚さ 1	スギ		
	5	143	木製品	溝	SE126		長さ (61) / 幅 6/厚さ 6	スギ		
	6	143	木製品	板状	SE126		長さ (52) / 幅 10/厚さ 4	スギ		
	7	143	木製品	板状	SE126		長さ 104/幅 16/厚さ 3	スギ		
	8	143	木製品	加工木	SE126		長さ (103) / 幅 7/厚さ 1	スギ		
	9	143	木製品	棒状(丸)	SE126		長さ (23) / 直径 7	ヤナギ属		
	10	143	木製品	棒状(角)	SE126		長さ (84) / 幅 5/厚さ 2	スギ		
	11	143	木製品	溝	SE126		長さ (49) / 幅 5/厚さ 4	スギ		
	12	143	木製品	板状	SE126		長さ (95) / 幅 22/厚さ 6	スギ	上下端片物痕	
	13	143	木製品	溝	SE126		長さ (46) / 幅 5/厚さ 4	スギ		

表 42 上曾根遺跡 木製品観察表 7

図版番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考
155	14	143	木製品 棒状(丸)	SE126		長さ(39) / 直径 7	スズ	先端部炭化
	15	143	木製品 箸	SE126		長さ(46) / 幅 6 / 厚さ 6	スズ	
	16	143	木製品 箸	SE126		長さ(62) / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
	17	143	木製品 箸	SE126		長さ(49) / 幅 8 / 厚さ 7	ヤナギ属	
	18	143	木製品 板状	SE126		長さ(387) / 幅(14) / 厚さ 3	スズ	
	19	143	木製品 板状	SE126		長さ(277) / 幅 13 / 厚さ 2	スズ	
	1	144	木製品 板状	SE126		長さ(183) / 幅 30 / 厚さ 7	スズ	
156	2	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(195) / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
	3	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(45) / 幅 5 / 厚さ 5	スズ	
	4	144	木製品 棒状(丸)	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ 83 / 直径 8	スズ	
	5	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(36) / 幅 4 / 厚さ 3	スズ	
	6	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(70) / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
	7	144	木製品 棒状(丸)	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(74) / 幅 8 / 厚さ 6	スズ	
	8	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(65) / 幅 6 / 厚さ 3	スズ	
	9	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(59) / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
	10	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(60) / 幅 6 / 厚さ 4	スズ	
	11	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(97) / 幅 6 / 厚さ 5	スズ	
	12	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(36) / 幅 5 / 厚さ 5	スズ	
	13	144	木製品 箸	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(76) / 幅 5 / 厚さ 5	スズ	
	14	144	木製品 付け木か	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ 50 / 幅 20 / 厚さ 14	モクレン 属?	
	157	15	144	木製品 板状	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(120) / 幅 10 / 厚さ 2	スズ
16		144	木製品 棒状(角)	SE126F		長さ(256) / 幅 19 / 厚さ 21	スズ	
17		144	木製品 曲物側板	SE126F		長さ(52) / 幅 15 / 厚さ 5	スズ	
18		144	木製品 箸	SE126F		長さ(80) / 幅 6 / 厚さ 3	スズ	
19		144	木製品 箸	SE126F		長さ(85) / 幅 6 / 厚さ 6	スズ	
20		144	木製品 箸	SE126F		長さ(88) / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
21		144	木製品 箸	SE126F		長さ(34) / 幅 4 / 厚さ 4	スズ	
22		144	木製品 曲物側板	SE126F		長さ(97) / 幅 16 / 厚さ 5	スズ	
1		145	木製品 箸	SE126F		長さ(117) / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
2		145	木製品 曲物側板	SE126F		長さ(45) / 幅 19 / 厚さ 5	スズ	
3		145	木製品 板状	SE126F		長さ(100) / 幅 10 / 厚さ 1	針葉樹	
4		145	木製品 箸	SE126F		長さ(116) / 幅 7 / 厚さ 5	スズ	
5		145	木製品 曲物側板	SE126F		長さ(35) / 幅(14) / 厚さ 5	スズ	
6		145	木製品 棒状(丸)	SE126F		長さ 62 / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
7	145	木製品 箸	SE126		長さ(111) / 幅 6 / 厚さ 5	スズ		
8	145	木製品 棒状(丸)	SE126F		長さ(146) / 幅 10 / 厚さ 8	スズ		
9	145	木製品 箸	SE126		長さ(56) / 幅 5 / 厚さ 5	スズ		
10	145	木製品 板状	SE126F		長さ(58) / 幅 21 / 厚さ 6	スズ		
11	145	木製品 板状	SE126	RW23-1	長さ(288) / 幅 31 / 厚さ 5	スズ		
12	145	木製品 板状	SE126	RW23-2	長さ 219 / 幅 35 / 厚さ 5	スズ		
13	145	木製品 箸	SE126 掘方		長さ(103) / 幅 6 / 厚さ 5	スズ		
14	145	木製品 板状	SE126 掘方		長さ(146) / 幅 45 / 厚さ 15	スズ	先端部厚減	
15	145	木製品 加工木	SE126 掘方		長さ(23) / 幅 16 / 厚さ 6	スズ		
16	145	木製品 加工木	SE126 掘方		長さ 29 / 幅 15 / 厚さ 5	スズ		
17	145	木製品 棒状(丸)	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(60) / 幅 24 / 厚さ 20	ウルシ属	樹皮遺存 穿孔	
18	145	木製品 香串	SE126 崩落上中及び覆土中		長さ(30) / 幅 8 / 厚さ 3	スズ	RW21 か	
158	1	146	木製品 香串	SE126 中心部	RW21 か	長さ(178) / 幅 13 / 厚さ 12	スズ	
	2	146	木製品 板状	SE126 中心部		長さ(219) / 幅(19) / 厚さ 4	スズ	
	3	146	木製品 棒状(角)	SE126 中心部か		長さ(86) / 幅(13) / 厚さ 8	スズ	
	4	146	木製品 板状	SE126 中心部		長さ(168) / 幅(6) / 厚さ 2	スズ	
	5	146	木製品 板状	SE126 中心部		長さ(115) / 幅(27) / 厚さ 12	スズ	
	6	146	木製品 棒状(角)	SE126 中心部		長さ(118) / 幅 10 / 厚さ 8	スズ	
	7	146	木製品 箸	SE126 中心部		長さ(36) / 幅 5 / 厚さ 5	スズ	
	8	146	木製品 箸	SE126 中心部		長さ(78) / 幅 5 / 厚さ 5	スズ	
	9	146	木製品 箸	SE126 中心部 3 層		長さ 264 / 幅 5 / 厚さ 4	スズ	
	10	146	木製品 板状	SE126 中心部 3 層		長さ(200) / 幅 59 / 厚さ 9	スズ	
	11	146	木製品 板状	SE126 中心部		長さ(49) / 幅 5 / 厚さ 2	スズ	
	12	146	木製品 板状	SE126 板材 1		長さ(384) / 幅 77 / 厚さ 11	スズ	
	13	146	木製品 板状	SE126		長さ(426) / 幅 48 / 厚さ 11	スズ	
159	1	147	木製品 板状	SE126 板材 3		長さ(425) / 幅 69 / 厚さ 13	スズ	上端部腐食
	2	147	木製品 板状	SE126		長さ(556) / 幅 72 / 厚さ 13	スズ	
	3	147	木製品 板状	SE162		長さ(184) / 幅(47) / 厚さ 10	スズ	
	4	147	木製品 棒状(丸)	SE162		長さ(90) / 直径 12	モクレン属	樹皮遺存
	5	147	木製品 棒状(丸)	SE162		長さ(68) / 直径 19	モクレン属	樹皮遺存
	6	147	木製品 棒状(丸)	SE162		長さ(93) / 直径 17	モクレン属	樹皮遺存

表 43 上曾根遺跡 木製品観察表 8

図版	番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	樹種	備考	
159	7	147	木製品	板状	SE162		長さ (162) / 幅 11 / 厚さ 3	スギ		
	8	147	木製品	加工木	SE162 東半部		長さ (82) / 幅 9 / 厚さ 6	スギ		
	9	147	木製品	加工木	SE162 東半部		長さ 54 / 幅 62 / 厚さ 24	ケヤキ	炭化	
	10	147	木製品	加工木	EP167		長さ 49 / 幅 23 / 厚さ 22	スギ		
	11	147	木製品	箸	SP211		長さ (85) / 幅 6 / 厚さ 4	スギ		
	12	147	木製品	棒状 (丸)	SP211		長さ (80) / 直径 6	モクレン	樹皮遺存	
	13	147	木製品	箸	SP211		長さ (73) / 幅 6 / 厚さ 5	スギ		
	14	147	木製品	棒状 (角)	SP211		長さ (81) / 幅 7 / 厚さ 3	スギ		
	160	1	148	木製品	番巾	SK213 底面	RW133	長さ 188 / 幅 36 / 厚さ 3	スギ	
		2	148	木製品	番巾	SK213 底面	RW134	長さ 178 / 幅 38 / 厚さ 3	スギ	
		3	148	木製品	礎板	SP219		長さ 251 / 幅 179 / 厚さ 45	スギ	
		4	148	木製品	礎板	SP224		長さ 200 / 幅 139 / 厚さ 75	スギ	上下側面保存処理後に拓本追加
		5	148	木製品	柱根	SP224		長さ 213 / 幅 202 / 厚さ 160	スギ	
161	1	149	木製品	板状	SK224	RW116	長さ 197 / 幅 (35) / 厚さ 14	スギ		
	2	149	木製品	礎板	SP231		長さ 188 / 幅 185 / 厚さ 60	スギ		
	3	149	木製品	柱根	SP235		直径 (162) / 高さ 94	スギ	底面片断	
	4	149	木製品	曲物礎板	SK237		直径 226 / 厚さ 6	スギ		
	5	149	木製品	付け木	SK244		長さ (118) / 幅 10 / 厚さ 8	マツ属残核	先端部炭化	
	6	149	木製品	棒状 (角)	SK244	RW115	長さ (190) / 幅 24 / 厚さ 13	スギ		
	7	149	木製品	加工木	EP271		長さ (106) / 幅 51 / 厚さ (42)	スギ	8片に分割で2点を図化。	
	8	149	木製品	棒状 (丸)	EP271		長さ (140) / 幅 44 / 厚さ (30)	スギ	161.7 は先端部加工。他の の規格は以下の通り (mm)。 50*44*24・55*22*16・ 33*19*15・30*9*7・ 27*10*6・20*10*3	
9	149	木製品	板状	3815		長さ (44) / 幅 17 / 厚さ 7	スギ			

表 44 高串接合資料観察表

接合 番号	写真 図版	接合 図版	接合部	接合資料	接合長 (mm)	接合幅 (mm)	接合厚 (mm)	分類	備考
1	151	2	140-4(Ⅱ)+131-13(Ⅱ)		216	28	10	接合A類	
2	151	3	144-6(V)+146-2(V)+131-14(N)		141	21	13	接合A類	
3	151	2	141-14(Ⅳ)+132-6(Ⅳ)		137	19	16	接合A類	
4	151	3	132-7(Ⅳ)+135-7(Ⅲ)+141-6(Ⅲ)		170	23	12	接合A類	
5	150	5	143-14(Ⅳ)+133-16(V)+147-7(Ⅳ)+133-20(Ⅳ)+133-10(Ⅳ)		97	41	27	接合C類	
6	151	2	148-8(V)+133-12(V)		85	19	14	接合A類	
7	150	4	135-4(Ⅳ)+141-7(Ⅳ)+138-4(Ⅳ)+139-12(Ⅲ)		206	50	14	接合C類	木製品か
8	151	3	135-8(Ⅳ)+135-6(Ⅳ)+147-5(Ⅳ)		149	35	27	接合A類	
9	151	3	140-2(Ⅱ)+135-14(Ⅱ)+149-6(Ⅲ折)		209	37	15	接合A類	
10	151	2	137-1(Ⅳ折)+139-4(Ⅳ折)		(126)	14	14	接合D類	
11	150	2	137-13(Ⅳ)+137-14(Ⅳ)		55	9	12	接合B類	
12	150	4	142-14(Ⅰ)+147-9(Ⅴ折)+145-8(Ⅰ)+138-2(Ⅰ)		306	52	15	接合B類	
13	150	3	149-1(Ⅲ)+147-2(Ⅱ)+138-3(Ⅲ)		182	33	14	接合A類	
14	151	2	138-5(Ⅲ)+141-4(Ⅲ)		171	28	21	接合A類	
15	151	3	141-5(Ⅲ)+150-3(Ⅴ折)+138-6(Ⅳ)		177	37	17	接合A類	
16	151	3	146-1(Ⅲ)+146-11(Ⅲ)+146-7(Ⅲ)		209	35	15	接合A類	
17	150	3	139-6(Ⅲ)+146-13(Ⅲ)+146-12(Ⅲ)		187	28	12	接合A類	
18	151	3	147-1(Ⅲ)+139-7(Ⅳ)+144-13(Ⅳ折)		161	35	14	接合A類	
19	150	4	144-11(Ⅳ)+149-12(Ⅴ)+146-4(Ⅴ)+139-13(Ⅳ)		125	34	13	接合B類	
20	150	4	140-7(Ⅳ)+140-6(Ⅳ)+140-8(Ⅳ)+133-11(Ⅴ)		116	25	15	接合C類	
21	150	6	145-2(Ⅲ)+145-1(Ⅲ)+141-10(Ⅳ)+149-3(Ⅳ)+141-3(Ⅴ)+142-12(Ⅴ)		154	52	23	接合B類	
22	151	3	141-8(Ⅲ)+148-6(Ⅲ)+145-9(Ⅱ)		216	35	14	接合A類	
23	151	3	141-9(Ⅳ折)+141-13(Ⅲ)+143-7(Ⅲ)		176	34	13	接合A類	
24	150	3	144-4(Ⅴ)+144-8(Ⅴ)+142-1(Ⅴ)		121	20	23	接合C類	

写真 番号	図版 個体	接合 部位	接合資料	接合長 (mm)	接合幅 (mm)	接合厚 (mm)	分類	備考
25	151	2	148.5(N折)+142.10(V折)	(117)	16	18	接合A類	
26	150	2	149.5(N)+144.9(V)	125	29	16	接合C類	
27	150	2	144.17(Ⅲ)+148.1(Ⅱ)	182	30	15	接合B類	
28	151	2	151.7(N折)+145.11(Ⅲ折)	(148)	28	25	接合A類	
29	151	3	146.6(V)+149.2(N)+146.8(N)	131	24	5	接合A類	
30	150	3	151.2(N)+150.18(N)+148.2(V)	87	25	10	接合B類	
31	150	2	148.7(N)+149.8(Ⅱ)	166	30	14	接合B類	
32	150	3	140.10(Ⅱ)+138.7(Ⅲ)+132.1(Ⅳ)	220	43	11	接合A類	未製品か
33	151	2	133.8(V)+132.3(N)	127	19	15	接合A類	
34	151	2	132.4(N)+146.10(N)	121	18	29	接合A類	
35	150	2	132.5(Ⅱ)+136.1(Ⅱ)	184	38	13	接合B類	
36	150	5	142.9(V)+134.14(V)+147.8(V折)+132.15(V)+139.10(V)	145	51	17	接合A類	
37	150	3	148.3(N)+133.19(V)+150.16(V)	116	30	15	接合B類	未製品か
38	150	4	134.12(N)+140.3(N)+142.6(V折)+142.13(V)	132	45	18	接合B類	未製品か
39	151	2	150.4(V)+135.2(V)	111	20	17	接合A類	
40	151	4	140.5(V折)+148.9(V)+137.4(V)+147.14(V)	122	28	14	接合A類	
41	151	2	137.16(N折)+142.11(V)	(106)	18	12	接合A類	
42	150	3	150.15(V)+149.9(V)+150.2(N)	114	38	13	接合B類	未製品か

表 45 上曾根遺跡 石製品観察表

図版 番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	石材	備考
124	1	112	石製品	磨石	SD2	長さ(89)/幅50/厚さ(29)	虎賀瀨灰岩	上面・側面摩滅
	2	112	石製品	磨石	SK3(1500)	長さ71/幅56/厚さ42	デイサイト	上面・側面摩滅
	3	112	石製品	磨石	SK3(1701)	長さ(92)/幅(52)/厚さ(56)	デイサイト	上面・側面摩滅
	4	112	石製品	磨石	SD4(1999)	長さ57/底径44/厚さ35	砂・シルト質凝灰岩	上面摩滅
	5	112	石製品	磨石	SD4東平(2101)	長さ65/幅54/厚さ41	砂質凝灰岩	全面摩滅
	6	112	石製品	礎石か	SK7	長さ(207)/幅(163)/厚さ(101)	デイサイト	埋付着 焼熱
	7	112	石製品	板状石製品	SD18(1899)	長さ(101)/幅(87)/厚さ50	デイサイト	上面埋付着 上面ノミ痕
125	1	113	石製品	中砥	SD89	長さ120/幅35/厚さ49	虎賀瀨灰岩	縁割
	2	113	石製品	磨石	SD214(2602)	長さ62/幅57/厚さ38	安山岩	全面摩滅
	3	113	石製品	磨石	SP227	長さ77/幅60/厚さ65	流紋岩	全面摩滅
	4	113	石製品	磨石	SP227	長さ91/幅(66)/厚さ38	安山岩	上下面摩滅
	5	113	石製品	磨石	SD238(2704)	長さ(89)/幅(92)/厚さ(95)	安山岩	上面摩滅
	6	113	石製品	砥石	SP259	長さ(96)/幅(47)/厚さ(57)	デイサイト	上下面摩滅
126	1	114	石製品	中砥	2101	長さ39/幅22/厚さ20	泥岩	
	2	114	石製品	中砥	2500	長さ(57)/幅33/厚さ22	シルト質凝灰岩	
	3	114	石製品	中砥	2503	長さ(38)/幅30/厚さ29	シルト質凝灰岩	
	4	114	石製品	磨石	2605	長さ(116)/幅(52)/厚さ61	デイサイト	平坦面摩滅
	5	114	石製品	磨石	1800	長さ(91)/幅(103)/厚さ(118)	安山岩	上面摩滅 全面埋付着
	6	114	石製品	砥石か	4216	長さ(77)/幅(40)/厚さ32	シルト質凝灰岩	穿孔
	7	114	石製品	紡錘車	2区北寄り	直径56/厚さ19	シルト質泥岩	
	8	114	石製品	石鏝	SK155	長さ25/幅16/厚さ4.5	頁岩	

表 46 上曾根遺跡 金属製品観察表

図版 番号	写真 図版	種別	器種	出土地点	登録番号	計測値 (mm)	材質	備考
126	9	114	古銭	寛永通寶	SG6	直径22/厚さ1	銅製	
	10	114	古銭	寛永通寶	SD18	直径24/厚さ1	銅製	
	11	114	古銭	寛永通寶	SK127	直径25/厚さ1	銅製	
	12	114	半七郎		3811	長さ58/幅11/厚さ16	銅製	

VI 理化学分析

1 放射性炭素年代測定 (1)

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹
Zaur Lomtatidze・中村賢太郎

1 はじめに

上曾根遺跡 3 次調査出土の木製品を、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

試料は、建物の柱根 3 点と礎板 3 点である。試料 No. 1 (PLD-40604) は SD 4 の礎板、試料 No. 2 (PLD-40605) は SP224 の柱根、試料 No. 3 (PLD-40606) は同じく SP224 の礎板、試料 No. 4 (PLD-40607) は SP271 の柱根、試料 No. 5 (PLD-40608) は SP231 の礎板、試料 No. 6 (PLD-40609) は SP235 の柱根である。

試料採取では、残存している中で最も外側の年輪を、1

表 47 測定試料および処理 1

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-40604	試料 No.1 遺構: SD4 部種: 礎板 木取り: 榎目 残存年輪数: 100 年輪以上	種類: 生材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40605	試料 No.2 遺構: SP224 部種: 柱根 木取り: ミカン割 残存年輪数: 40 ~ 50 年輪程度	種類: 生材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40606	試料 No.3 遺構: SP224 部種: 礎板 木取り: 榎目 残存年輪数: 40 ~ 50 年輪程度	種類: 生材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40607	試料 No.4 遺構: SP271 部種: 柱根 木取り: 破片 残存年輪数: 20 年輪程度	種類: 生材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40608	試料 No.5 遺構: SP231 部種: 礎板 木取り: 榎目 残存年輪数: 100 年輪以上	種類: 生材 試料の性状: 最終形成年輪? 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-40609	試料 No.6 遺構: SP235 部種: 柱根 木取り: 破片 残存年輪数: 50 ~ 60 年輪程度	種類: 生材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

~ 5 年輪をひとまとめで採取した。なお、試料 No. 5 (PLD-40608) は最終形成年輪が残っている可能性があるかと判断した。それ以外の試料は、最終形成年輪も辺材も確認できなかった。

測定試料の情報、調整データは表 47 のとおりである。

試料は調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンバウト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3 結果

表 48 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年代正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年代正結果を、図 162 に暦年代正結果をそれぞれ示す。暦年代正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年代正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦

年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カット内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4 考察

SD 4 の礎板である試料 No. 1 (PLD-40604) は、 2σ 暦年代範囲が 1025-1058 cal AD (26.0%) および 1076-1154 cal AD (69.4%) で、11 世紀前半～12 世

紀中頃の年代を示した。

SP224 の柱根である試料 No. 2 (PLD-40605) は、 2σ 暦年代範囲が 1020-1053 cal AD (38.2%) および 1080-1153 cal AD (57.2%) で、11 世紀前半～12 世紀中頃の年代を示した。同じく SP224 の礎板である試料 No. 3 (PLD-40606) は、1039-1162 cal AD (95.4%) で、11 世紀前半～12 世紀後半の年代を示した。

SP271 の柱根である No.4 (PLD-40607) は、 2σ 暦年代範囲が 773-884 cal AD (95.4%) で、8 世紀後半～9 世紀後半の年代を示した。

SP231 の礎板である試料 No. 5 (PLD-40608) は、 2σ 暦年代範囲が 1017-1050 cal AD (49.0%)、1083-1126 cal AD (36.9%)、1136-1152 cal AD (9.5%) で、11 世紀前半～12 世紀中頃の年代を示した。

SP235 の柱根である試料 No. 6 (PLD-40609) は、 2σ 暦年代範囲が 1058-1073 cal AD (1.3%) および 1154-1224 cal AD (94.1%) で、11 世紀中頃～後半および 12 世紀中頃～13 世紀前半の年代を示した。

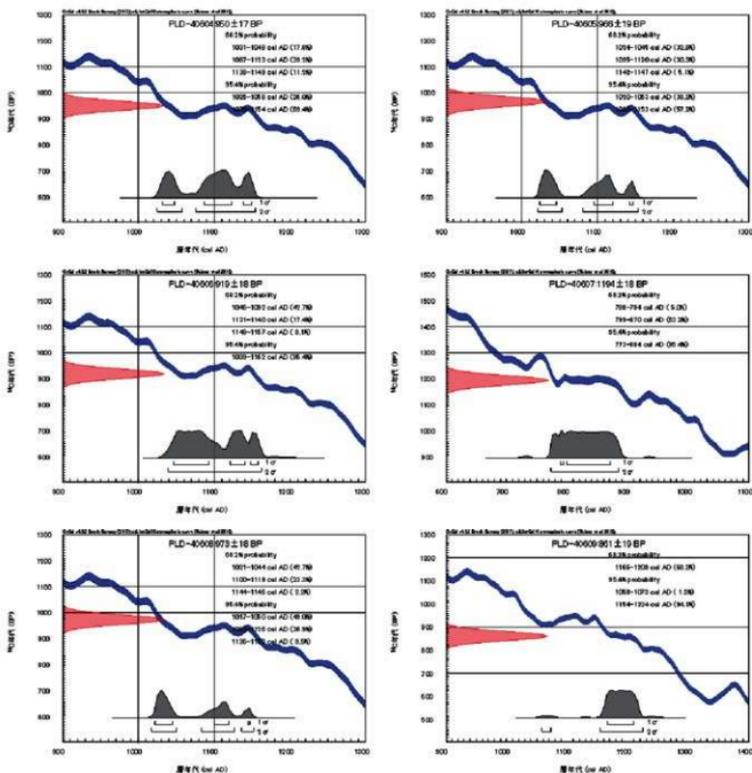
なお、木材の年輪は、樹皮直下の年輪が伐採年や枯死年を示すが、中心に近い年輪ほど伐採年 (枯死年) より古い年代を示す。今回、測定した試料では SP231 の礎板 (試料 No. 5: PLD-40608) に最終形成年輪が残っている可能性があるものの確実に樹皮直下と言える材はなく、辺材かどうか分からない試料であったため、木材の伐採年 (枯死年) は今回得られた暦年代よりも幾分新しい可能性がある。

表 48 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 1

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-40604	-24.59 \pm 0.15	950 \pm 17	950 \pm 15	1031-1048 cal AD (17.8%)	1025-1058 cal AD (26.0%) 1076-1154 cal AD (69.4%)
				1087-1123 cal AD (39.2%)	
				1138-1149 cal AD (11.2%)	
PLD-40605	-23.79 \pm 0.19	966 \pm 19	965 \pm 20	1024-1045 cal AD (32.8%)	1020-1053 cal AD (38.2%) 1080-1153 cal AD (57.2%)
				1095-1120 cal AD (30.3%)	
				1142-1147 cal AD (5.1%)	
PLD-40606	-23.77 \pm 0.18	919 \pm 18	920 \pm 20	1046-1092 cal AD (42.7%)	1039-1162 cal AD (95.4%)
				1121-1140 cal AD (17.4%)	
				1148-1157 cal AD (8.1%)	
PLD-40607	-26.15 \pm 0.14	1194 \pm 18	1195 \pm 20	788-794 cal AD (5.0%) 799-870 cal AD (63.2%)	773-884 cal AD (95.4%)
PLD-40608	-25.41 \pm 0.19	973 \pm 18	975 \pm 20	1021-1044 cal AD (42.7%)	1017-1050 cal AD (49.0%) 1083-1126 cal AD (36.9%) 1136-1152 cal AD (9.5%)
				1100-1119 cal AD (23.3%)	
				1144-1146 cal AD (2.2%)	
PLD-40609	-25.68 \pm 0.12	861 \pm 19	860 \pm 20	1166-1209 cal AD (68.2%)	1058-1073 cal AD (1.3%) 1154-1224 cal AD (94.1%)

参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1) p.337 ~ p.360
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の¹⁴C年代 日本年代編集委員会 編 p.3 ~ p.20 日本第四紀学会
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Halldason, H., Hajdas, L., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. 2013 IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.



第 162 図 暦年較正結果 (1)

2 放射性炭素年代測定 (2)

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹
Zaur Lomtatidze・小林克也

1 はじめに

上曽根遺跡第3次で採取された試料について、加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定も行っている (樹種同定の項参照)。

2 試料と方法

試料は、不明遺構 SX 3 から出土した生材 1 点 (試料 No.1: PLD-43372)、土坑 SK97 から出土した炭化材 1 点 (試料 No.3: PLD-43373) の、計 2 点である。発掘調査所見によれば、いずれも 8 ~ 9 世紀の遺構と考えられている。試料 No.1 の樹種はノリウツギで、最終形成年輪が残っていた。試料 No.3 の樹種はムクノキで、最終形成年輪は残っていない。測定試料の情報、調製データは表 49 のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3 結果

表 50 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年代に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、図 163 に暦年代較正結果をそれぞれ示す。暦年代較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年代較正曲線が更

新された際にこの年代値を用いて暦年代較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年代較正の詳細は以下のとおりである。

暦年代較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年代較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代較正曲線を示す。

4 考察

以下、2 σ 暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して結果を整理する。

SX 3 の試料 No.1 (PLD-43372) は、360-272 cal BC (56.21%)、266-242 cal BC (7.97%)、235-175 cal BC (31.27%) で、紀元前 4 世紀前半 ~ 紀元前 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、小林 (2009) を参照すると、弥生時代前期 ~ 中期に相当する。試料は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。

表 49 測定試料および処理 2

測定番号	連絡データ	試料データ	前処理
PLD-43372	試料 No.1 グリッド: DA5894- 1509 遺構: SX3	種類: 生材 (ノリウツギ) 試料の性状: 最終形成年輪 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-43373	試料 No.3 遺構: SK97 層位: 1 層	種類: 炭化材 (ムクノキ) 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

SX 3 は 8 ～ 9 世紀の遺構と考えられており、測定結果は 800 ～ 1000 年ほど古い値を示した。弥生時代前期～中期の木材が再堆積した可能性が考えられる。

SK97 の 試料 No.3 (PLD-43373) は、707-724 cal AD (5.97%)、773-776 cal AD (1.94%)、781-883 cal AD (87.54%) で、8 世紀初頭～9 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。なお、試料には最終形成年輪が残っていないかった。木材

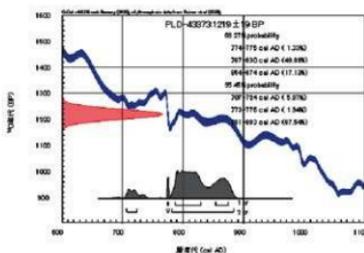
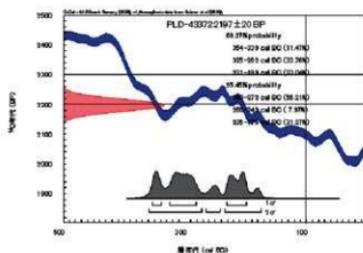
の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。したがって、今回の測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。SK97 は 8 ～ 9 世紀の遺構と考えられており、測定結果は発掘調査所見に対して整合的であった。

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1) p.337 ~ p.360
 小林謙一 2009 「近畿地方以東の地域への拡散」『新石器時代のはじまり第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代』西本豊弘編 p.55 ~ p.82 遺山園
 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の¹⁴C年代』日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編 p.3 ~ p.20 日本第四紀学会
 Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, L., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Böniggen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Kähler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

表 50 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果 2

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年代正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-43372				354-339 cal BC (11.47%)	360-272 cal BC (56.21%)
SX3	-27.99 \pm 0.14	2197 \pm 20	2195 \pm 20	325-282 cal BC (33.70%)	266-242 cal BC (7.97%)
試料 No.1				231-199 cal BC (23.04%)	235-175 cal BC (31.27%)
PLD-43373				774-775 cal AD (1.33%)	707-724 cal AD (5.97%)
SK97	-25.19 \pm 0.15	1219 \pm 19	1220 \pm 20	787-830 cal AD (49.81%)	773-776 cal AD (1.94%)
試料 No.3				854-874 cal AD (17.13%)	781-883 cal AD (87.54%)



第 163 図 暦年代較正結果 (2)

3 出土木材の樹種同定

小林克也 (ハレオ・ラボ)

1 はじめに

上曽根遺跡第3次において出土した木材の樹種同定を行った。なお、一部の試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

2 試料と方法

試料は不明遺構 SX 3 から出土した生材 1 点と、土坑 SK 7 から 1 点、SK97 から 3 点、SK244 から 1 点の出土炭化材で、計 6 点である。いずれも 8～9 世紀の試料と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

生材の樹種同定では、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(楕目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(楕目)について、カミソリと手で断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE 社製 VE-9800)にて検鏡および写真撮影を行った。

3 結果

同定の結果、広葉樹のケヤキとムクノキ、ヤナギ属、ノリウツギ、トネリコ属シオジ節(以下、シオジ節)の5分類群がみられた。シオジ節が2点で、他の樹種はいずれも1点のみであった。同定結果を表51に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 第164図 1a-1c (No.6)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。

道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織の上下端には、結晶が認められる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

(2) ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. アサ科 第164図 2a-2c (No.3)

中型の道管がほぼ単独でやや疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状、翼状、4列以上の帯状となる。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、幅1～4列となる。

ムクノキは温帯の日当たりのよい適潤地を好み、海に近い所に比較的多い落葉高木の広葉樹である。材の強さは中庸であるが、韌性があり、割裂しにくい。

(3) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 第164図 3a-3c (No.4)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管放射組織間壁孔は円形の単壁孔状となる。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、単列となる。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギなどがあり、水湿に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉大高木～灌木の広葉樹である。材は軽軟で強度があり、切削加工などは容易である。

(4) ノリウツギ *Hydrangea paniculata* Siebold アジサイ科 第164図 4a-4c (No.1)

中型の道管がほぼ単独でやや疎らに散在する散孔材である。道管は30段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1～4列が直立する異性で、幅1～4列となる。

ノリウツギは北海道から九州に分布する、落葉低木の広葉樹である。材は重硬だが、まとまって生育しないため、現在ではあまり利用されていない。

(5) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus sect. Fraxinaster* モクセイ科 第164図 5a-5c (No.2)

年輪の始めに大型で丸い道管が3～4列並び、晩材部

では小型の道管が単独ないし2個複合する環孔材である。軸方向柔細胞は周囲状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～3列である。

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の河岸や湿地などの肥沃な湿潤地に分布する、落葉高木の広葉樹である。材の性質はどちらも中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等も容易である。

4 考 察

SK 7 の炭化材はシオジ節、SK97 の炭化材はムクノキとヤチダモ属、シオジ節、SK244 の炭化材はケヤキであった。ケヤキは山地などに生育する樹種であるが、ムクノキとヤチダモ属、シオジ節は湿潤地に生育しやすい樹種である（平井1996、伊東ほか2011）。遺跡周辺の湿地や、湿潤地

周辺に生育していた樹木が伐採されたと考えられる。

SX 3 の生材は、ノリウツギであった。試料は自然木の可能性が考えられる。ノリウツギは先駆植物で、伐採跡地などに最初に出現する種の一つである（佐竹ほか1989）。8～9世紀頃の上層遺跡周辺において樹木が伐採され、その跡地にノリウツギなどの先駆植物が生育していた可能性が考えられる。

引用文献

- 平井信二 1996『木の百科—解説編—』p.642 朝倉書房
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳 2011 日本有用樹木誌 p.238 海青社
佐竹義輔・原 寛・豆理俊次・富成忠夫 1989『日本の野生植物 木本1』p.321 平凡社

表 51 出土木材の樹種同定結果一覧

試料No.	グリッド	出土遺構	層位	種類	樹種	木取り	時期	年代測定番号
1	DA5894-1599	SX3		生材	ノリウツギ	芯持丸木	8～9世紀	PLD-43372
2		SK7		炭化材	トネリコ属シオジ節	割れ	8～9世紀	
3		SK97	1層	炭化材	ムクノキ	割れ	8～9世紀	PLD-43373
4		SK97	1-4層	炭化材	ヤチダモ属	割れ	8～9世紀	
5		SK97	3-5-6層	炭化材	トネリコ属シオジ節	割れ	8～9世紀	
6		SK244		炭化材	ケヤキ	割れ	8～9世紀	



1a-1c ケヤキ (No.6)、2a-2c ムクノキ (No.3)、3a-3c ヤナギ属 (No.4)
 4a-4c ノリウツギ (No.1)、5a-5c トネリコ属シオジ彫 (No.2)
 a: 横断面 (スケール=250 μm)
 b: 接線断面 (スケール=100 μm)
 c: 放射断面 (スケール=200 μm)

第 164 図 出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真

4 出土大型植物遺体の同定

バンダリ スダルシヤン (パレオ・ラホ)

1 はじめに

上層遺跡第3次調査において検出された8～9世紀の井戸跡と性格不明遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物の一端について検討する。

2 試料と方法

試料は、発掘調査時に肉眼で確認され、採取された現地取り上げ試料、5試料である。井戸跡SE126から採取された1試料、不明遺構SX3から採取された3試料とSX155から採取された1試料で、いずれも8～9世紀の遺構である。

同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。モモとオニグルミについては、形態を観察し、完形、打撃痕のある個体、一部焦痕のある個体、破片に細分した。試料は、山形県埋蔵文化財センターに保管されている。

3 結果

同定した結果、木本植物で広葉樹のモモ核とオニグルミ核の2分類群が得られた。(表52)。

以下に、出土した大型植物遺体について遺構別に記載する。

SE126: オニグルミ (打撃痕1) が得られた。

SX3: モモ (破片1) とオニグルミ (完形1、一部焦痕1) が得られた。

SX155: モモ (完形1) が得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠し、APG 重リストの順とした。

(1) モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点があり、表面に不規則な深い皺がある。また、片側の側面には縫合線に沿って深い溝が入る。高さ27.4mm、幅18.9mm、厚さ16.0mm。

(2) オニグルミ *Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核 クルミ科

黄褐色～赤褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には、微細な皺がある。内部は二室に分かれる。完形個体の大きさは、高さ25.0mm、幅22.6mm、厚さ23.0mm、一部焦痕のある個体は、残存高21.8mm、幅21.0mm、残存厚12.4mm。打撃痕のある個体は、残存高22.2mm、幅24.0mm、残存厚11.5mm。

4 考察

8～9世紀の井戸跡SE126と不明遺構SX3とSX155から出土した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物で果樹のモモと、野生植物で食用として利用可能なオニグルミが得られた。

モモの核は、果肉を食べた後に捨てられた可能性がある。モモは、食利用以外にも観賞用や薬用、呪術用、祭祀用などさまざまな目的で利用されるため(那須2015)、食べる以外の何らかの用途に用いられた後、遺構に堆積した可能性もある。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津(1999)によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には核長が2.6～26.5mmと比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対

表52 出土した大型植物遺体 (括弧内は破片数)

分類群	試料No.	遺構		採取方法		
		9	10	11	12	13
			SX3	SX155	SE126	
			8～9世紀			
			現地取り上げ			
モモ	核 (完形)				1	
	核 (破片)			(1)		
オニグルミ	核 (完形)	1				
	核 (一部焦痕)		(1)			
	核 (打撃痕)					(1)

し、平安時代から近世になると縦長になる傾向があるとされる。さらに、奈良・平安時代の核長は23.6～26.6mmで、鎌倉期には大きさの変異幅が大きくなり、江戸時代後期になると大型になって平均核長26.9mm、最大で38.0mm程度の核がみられるとしている。今回の上曽根遺跡の

SX155 から得られたモモ核の高さは27.4mmで、山梨県から出土した平安時代から近世のモモと比較すると、やや大きめの核であった。オニグルミ核には打撃痕のある個体や一部焦痕のある個体がみられ、食用のために人為的に割られ、中の子葉が取り出された可能性がある。

引用文献

- 那須浩郎 2015 「古代のモモ」『BIOSTORY』22 p.58～p.61
 新津 健 1999 「遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—」『山梨考古学論集 IV』p.361～p.374 山梨県考古学協会
 米倉浩司・梶田 忠 2003 BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



スケール 1-4:5mm

1. モモ核 (完形) (SX155、No.12)、2. オニグルミ核 (完形) (SX3、No.9)
 3. オニグルミ核 (一部焦痕) (SX3、No.10)、4. オニグルミ核 (打撃痕) (SE126、No.13)

第165図 出土した大型植物遺体

5 出土テフラの分析

藤根 久・鈴木正章 (バレオ・ラボ)

1 はじめに

上曽根遺跡3次調査では、遺構の埋土から白色系のテフラが検出された。これらのテフラ試料について、火山ガラスと鉱物組成の分析および火山ガラスの屈折率測定を行い、テフラの同定を行った。

2 試料と方法

分析試料は、遺構の埋土から検出されたテフラ試料2点である(表153)。いずれも厚さ5mm程度のシルト質テフラである(第167図-1a, 2a)。

試料は、以下の方法で処理した。

上下層の一部を含めて、湿潤重量10g程度を秤量した後、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)、5φ(0.044mm)の5枚の篩を重ね、湿式篩分けをした。

4φ篩残渣について、重液(テトラプロモエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物については、水浸の簡易プレバートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井(2003)の分類基準に従って、バブル型平板状(b1)、バブル型Y字状(b2)、軽石型繊維状(p1)、軽石型スポンジ状(p2)、急冷破砕型フレーク状(c1)、急冷破砕型塊状(c2)に分類した。重鉱物については、封入剤レークサイドセメントを用いてプレバートを作製し、斜方輝石(Opx)、単斜輝石(Cpx)、角閃石(Ho)、磁鉄鉱(Mg)を同定・計数した。

4φ軽鉱物中の火山ガラスは、横山ほか(1986)に従い、温度変化型屈折率測定装置(株式会社古澤地質製、MAIOT)を用いて屈折率測定を行った。

3 結果

以下に、各試料の特徴、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、屈折率の測定結果について述べる。

[分析No.1(試料No.7:SE126中心堆積土)]

分析試料は、にぶい黄褐色(10YR7/2)のシルト質火山灰で、厚さ5mm程度のブロック状に堆積する(第167

図1-1b)。一部を採取して顕微鏡で観察すると、純度の高い細粒の火山ガラスからなる(第167図1-1b)。篩分けた結果、3φおよび4φ篩残渣が多い。4φ篩残渣の重液分離では、軽鉱物の割合が非常に高い(表54)。軽鉱物では、火山ガラスが含まれ、長石(Pl)や石英(Qu)を伴う。火山ガラスは、バブル型ガラス(b1、b2)や軽石型ガラス(p1、p2)が多く、急冷破砕型フレーク状ガラス(c1)を伴う。重鉱物では、単斜輝石(Cpx)が多く、斜方輝石(Opx)や磁鉄鉱(Mg)、角閃石を伴う(表55)。なお、これらの重鉱物は、テフラの鉱物組成とは関係がないと考えられる。

火山ガラスの屈折率は、範囲1.5017-1.5077(平均値1.5051)であった(第166図)。

[分析No.2(試料No.8: SX3(DA5895-1700G))]

分析試料は、灰白色(10YR8/1)のシルト質火山灰で、厚さ6mmの波状に堆積する(第167図1-2a)。一部を採取して顕微鏡で観察すると、純度の高い細粒の火山ガラスからなる(第167図1-2b)。篩分けた結果、3φ篩残渣が最も多い。4φ篩残渣の重液分離では、軽鉱物の割合が非常に高い(表54)。

軽鉱物では、火山ガラスが含まれ、長石(Pl)や石英(Qu)を伴う。火山ガラスは、バブル型ガラス(b1、b2)や軽石型ガラス(p1、p2)が多く、急冷破砕型ガラス(c1、c2)を伴う。重鉱物では、単斜輝石(Cpx)が多く、斜方輝石(Opx)や磁鉄鉱(Mg)、角閃石を伴う(表55)。なお、これらの重鉱物は、テフラの鉱物組成とは関係がないと考えられる。

火山ガラスの屈折率は、範囲1.5019-1.5093(平均値1.5054)であった(第166図)。

4 考察

各試料は、厚さ5～6mm程度のブロック状あるいは波状に堆積した純度の高いシルト質火山ガラスであった。火山ガラスは、バブル型や軽石型火山ガラスからなり、火山ガラスの屈折率は1.502-1.508前後の値を示した。これらの分析結果から、2遺構で検出されたシルト質火山灰は、十和田火山から噴出した十和田aテフラ(To-a)と同定される。上曽根遺跡は、十和田火山から南南西方向に約200km地点に位置し、十和田aテフラが層厚5～6mm程度の細粒火山灰として確認された。

十和田 a テフラ (To-a) は、AD915 年に十和田火山から噴出したテフラである。降下軽石 (pfa)、降下火山灰 (afa)、火砕流堆積物 (pfl) からなり、南側 300km、東側 80km、10,000km² の範囲に及ぶ。テフラは、斜方輝石 (opx)、単斜輝石 (cpx)、黒曜石 (ob) を特徴的に伴う。火山ガラスは、主に軽石型ガラスで構成され、火山ガラスの屈折率は 1.500-1.508 である。また、単斜輝石の屈折率 (γ) は 1.706-1.708 である (町田・新井 2003)。

引用文献

- 町田 洋・新井房夫 2003『新編火山灰アトラス』p.336 東京大学出版会
 横山卓雄・植原 徹・山下 透 1986『温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定』『第四紀研究』25 p.21～p.30 日本第四紀学会

表 53 テフラ試料とその特徴

分析 No.	サンプル番号	遺跡	遺構	堆積物の色調
1	7	上曽根遺跡 3 次調査	SE126 中心堆積上	ぶい・黄褐色 (10YR 7/2)、シルト質火山灰、厚さ 5mm、ブロック状に堆積
2	8		SX3(DA5895-1700G)	灰白色 (10YR 8/1)、シルト質火山灰、厚さ 6mm、液状に堆積

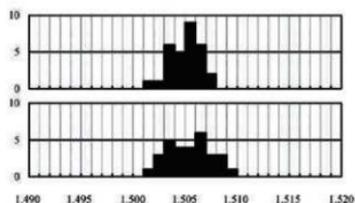
表 54 テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析 No.	サンプル番号	処理液量 (g)	砂粒分の粒度組成 (重量 g)					軽・重鉱物組成 (重量 g)	
			1 φ	2 φ	3 φ	4 φ	4.5 φ	軽鉱物	重鉱物
1	7	9.38	0.13	0.16	1.15	1.26	0.47	0.17	0.01
2	8	10.77	0.03	0.17	0.55	0.79	0.49	0.18	0.02

表 55 4 φ 篩残渣中の鉱物組成

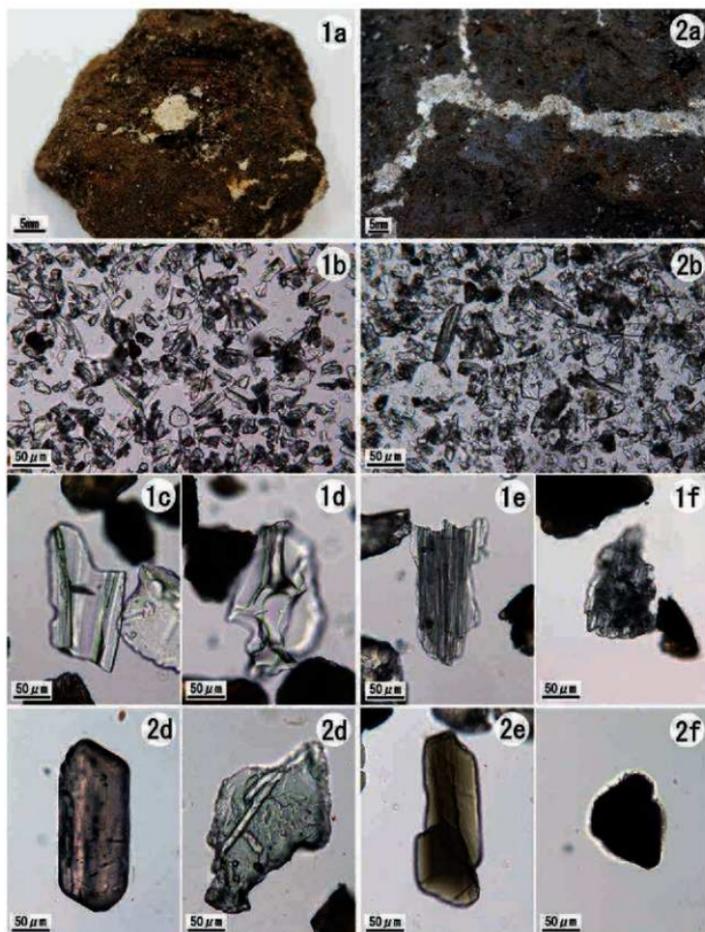
分析 No.	石英 (Qu)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	火山ガラス						ガラス合計	軽鉱物合計	重鉱物					重鉱物の合計
				バブル (泡) 型		軽石型		急冷破砕型				斜方輝石 (Opx)	単斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Ho)	磁鉄鉱 (Mg)	不明 (Opq)	
				平板状 (b1)	Y 字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	フレーク状 (c1)	塊状 (c2)								
1	9	49	158	1	16	5	10	2		34	250	74	123	5	11	38	250
2	10	52	135	5	17	7	23	1	1	54	250	74	122	9	22	22	250

分析 No.



範囲(range)	平均(mean)	個数
1.5017 - 1.5077	1.5051	30
1.5019 - 1.5093	1.5054	30

第 166 図 火山ガラスの屈折率測定結果



1a・1b. 分析 No.1 (試料 No.7: 5E126 中心堆積土) 2a・2b. 分析 No.2 (試料 No.8: SX3(DA5895-1700G))
 1c. バブル型平板状ガラス 1d. バブル型Y字状ガラス 1e. 軽石型繊維状ガラス
 1f. 軽石型スポンジ状ガラス 2c. 斜方輝石 2d. 単斜輝石 2e. 角閃石 2f. 磁鉄鉱

第 167 図 4 φ 残渣中のテフラ粒子の偏光顕微鏡写真

6 出土石製品の石材同定

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

上曾根遺跡3次調査では、古代～中世の摺石や中砥などの石製品が出土した。ここでは、これらの石製品について、肉眼観察による石材同定を行った。

2 試料と方法

石材同定を行った石製品は、3次調査において出土した古代～中世の石製品20点である(表56)。石材同定は、主に肉眼により行い、マイクロスコープを用いて石材の接写撮影を行った。

3 結果

表56に、肉眼により観察された石材の特徴と岩石名を示す。表面観察による各石材の色調や岩石組織、構成鉱物等の特徴について観察を行い、岩石名を決めた。

以下に、代表的な石材の特徴について記載する。

(1) 泥岩およびシルト質泥岩

灰白色、暗灰黄色の、泥質またはシルト質の泥岩である。

(2) 凝灰岩類

白色、灰白色、浅黄褐色、淡黄色を呈する泥質、シルト質、砂・シルト質、砂質の凝灰岩が見られた。

(3) 流紋岩

灰色の斑晶質組織を呈し、主に石英・長石類の斑晶からなる。

(4) デイサイト

灰白～にぶい橙色、灰白色、灰黄色、灰色、灰白色の斑晶質組織を呈し、主に長石類・輝石類の斑晶からなる。

(5) 安山岩

褐灰色、暗褐色、褐灰色、黄灰色の斑晶組織を呈し、主に長石類・輝石類の斑晶からなる。

表56 岩石同定試料とその詳細

分析No.	試料No.	種類	出土地点	岩石の特徴	岩石名	備考
1	14	礎石か	SK7	灰白～にぶい橙色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	デイサイト	擬付着
2	15	紡錘車	RP12	暗灰黄色、シルト質泥	シルト質泥岩	
3	16	中砥	SD89(RQ90)	白色、泥質	泥質凝灰岩	
4	17	中砥	DA5895-2500	灰白色、斑晶質様、シルト質	シルト質凝灰岩	
5	18	中砥	DA5895-2503	浅黄褐色、シルト質	シルト質凝灰岩	裾鉄籠籠状に付着
6	19	中砥	DA5895-2101	灰白色、泥質	泥岩	
7	20	砥石	SP259	灰白色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	デイサイト	
8	21	砥石か	DA5895-4216	淡黄色、シルト質、石英粒含む	シルト質凝灰岩	
9	22	摺石	SD2(RQ106)	灰白色、泥岩質	泥質凝灰岩	裾鉄籠籠付着
10	23	摺石	SX3(DA5895-1701)	灰黄色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	デイサイト	
11	24	摺石	SX3(DA5895-1500)	灰色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	デイサイト	
12	25	摺石	SD4 東平 (DA5895-2101)	灰白色、砂質	砂質凝灰岩	
13	26	摺石	SD4(DA5894-1999)	灰白色、砂質シルト	砂・シルト質凝灰岩	軽い
14	27	摺石	SD214(DA5895-2602)	褐灰色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	安山岩	
15	28	摺石	SP227	暗褐色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	安山岩	
16	29	摺石	SP227	灰色、斑晶質、斑晶：石英・長石類	流紋岩	
17	30	摺石	SD238(DA5895-2704)	褐灰色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	安山岩	
18	31	摺石	DA5895-1800	黄灰色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	安山岩	
19	32	摺石	DA5895-2605	灰白色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	デイサイト	
20	33	板状石製品	DS18(DA5894-1899)	灰白色、斑晶質、斑晶：長石類・輝石類	デイサイト	裾鉄籠籠付着

4 考 察

表 57 に、石製品の種類とその石材についてまとめた。

紡錘車はシルト質泥岩である。摺石では、凝灰岩類が 3 点、流紋岩が 1 点、デイサイトが 3 点、安山岩が 4 点である。砥石類（中砥と砥石かの石材を含む）は、泥岩が 1 点、凝灰岩類が 4 点、デイサイトが 1 点である。板状石製品と、礎石の可能性のある石材は、デイサイトである。

遺跡周辺では、新しい時代から、第四紀更新世中期～完新世に噴火活動した島海火山の輝石安山岩溶岩（図 168 の凡例 Vc3 や Vc1）やかんらん石輝石安山岩溶岩（凡例 Vc2）、鮮新世後期～更新世後期の砂岩及び砂からなる笹岡層及び観音寺層（凡例 Ss）、輝石安山岩溶岩及び

火砕岩からなる国見山安山岩など（凡例 An3）、鮮新世のシルト岩（泥岩・砂岩及び酸性凝灰岩を伴う）からなる天徳寺層・桶山層及び丸山層（凡例 Ts）、暗灰色泥岩（酸性凝灰岩及び泥岩を伴う）からなる船川層・北俣層及び吉口層（凡例 Fm）、中新世中期硬質泥岩（酸性凝灰岩及び砂岩を伴う）からなる女川層及び草薙層（凡例 Om）、流紋岩-デイサイト（凡例 R3 および R2）が分布する（大沢ほか，1988：図 168）。

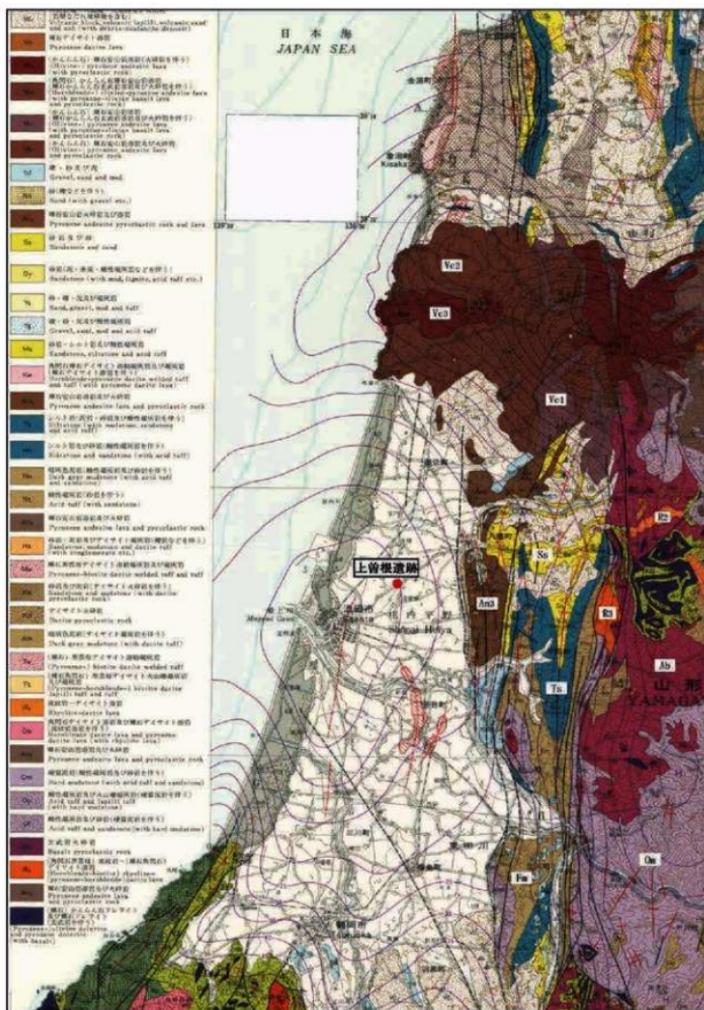
遺跡から出土した石製品には、遺跡の北側を流れる日向川あるいは南側を流れる最上川によってもたらされた周辺岩石の河川礫等が利用されたと推定される。

引用文献

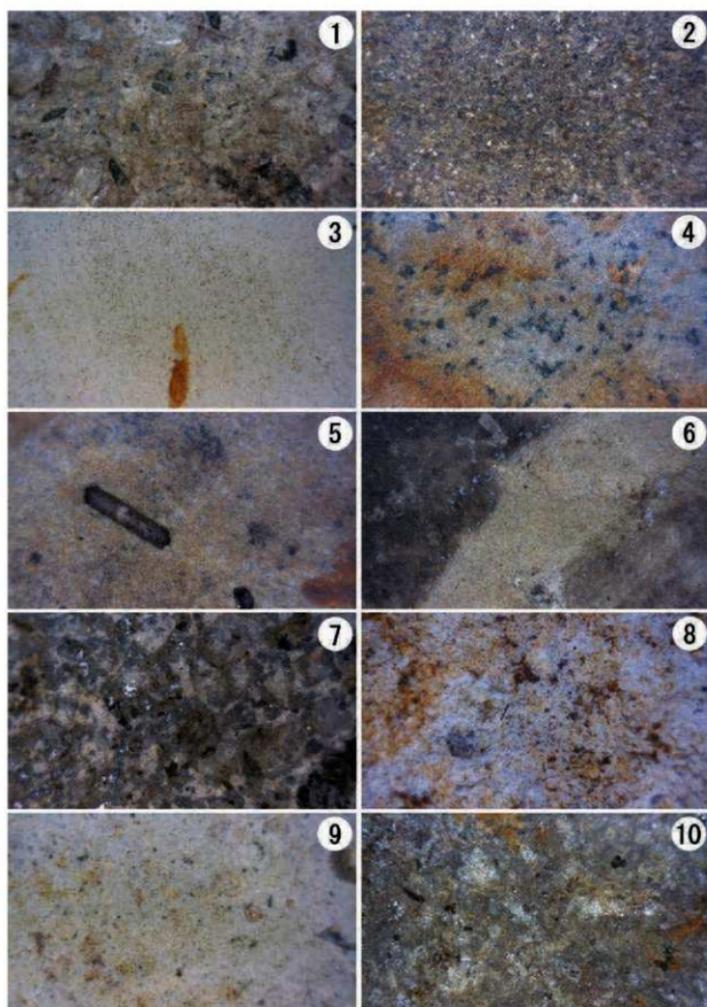
大沢あつし・広島俊男・駒沢正夫・須田芳朗 1988 『20 万分の 1 地質図編「新庄及び酒田」地質調査所

表 57 石製品と石材の関係

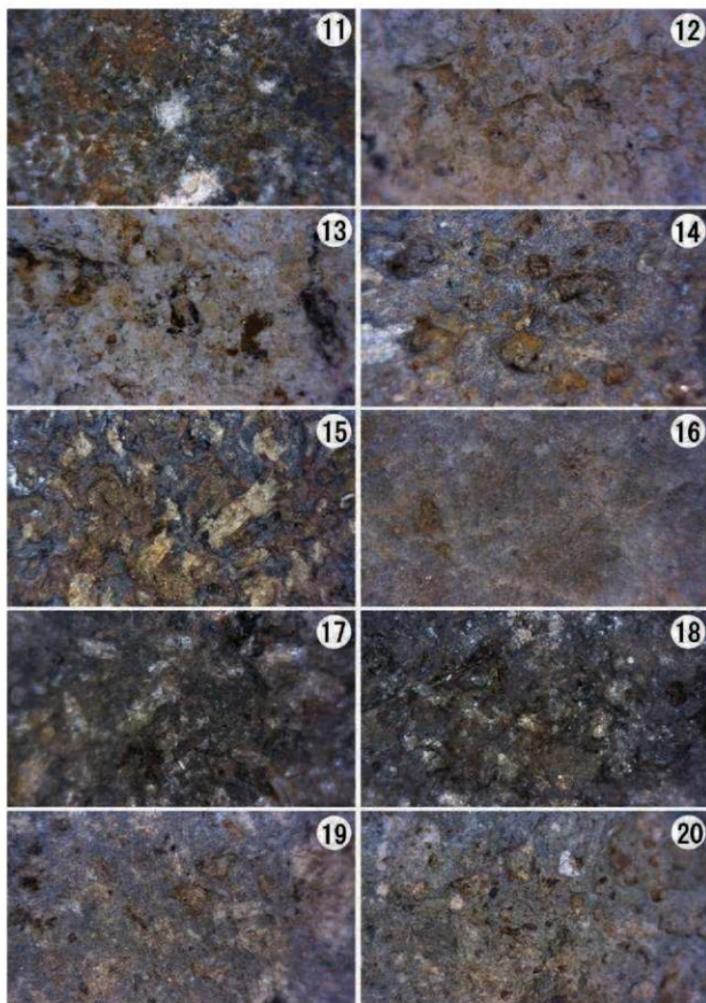
大分類	中分類	岩石名	紡錘車	摺石	砥石	中砥	砥石か	板状石製品	礎石か	総計	
堆積岩	砕屑岩	泥岩				1				1	
		シルト質泥岩	1							1	
	火山砕屑岩	泥質凝灰岩		1			1				2
		シルト質凝灰岩					2	1			3
		砂・シルト質凝灰岩		1							1
		砂質凝灰岩		1							1
火成岩	火山岩	流紋岩		1						1	
		デイサイト		3	1			1	1	6	
		安山岩		4							4
		総計		1	11	1	4	1	1	1	20



第168図 遺跡と周辺の地質 (大沢ほか1988『20万分の1地質図幅「新庄及び酒田」』を編集)



第 169 図 各石製品のマイクロスコープ写真 (1) (スケール: 1mm)
No. は分析 No. に対応



第 170 図 各石製品のマイクログラフ写真 (2) (スケール: 1mm)
No. は分析 No. に対応

VII 総 括

上曽根遺跡3次調査では、縄文時代の石器も出土したが、古代と中近世の集落跡などが発見された。

古代の遺構は、掘立柱建物跡や井戸跡、土坑、溝跡、落込み状遺構、柱列跡などが確認された。遺物は、須恵器や土師器、赤焼土器の時期幅のある土器群と共に、多様な木製品、石製品も出土した。

中近世の遺構は、土坑や溝跡、畝状遺構、落込み状遺構などが確認された。遺物は、陶磁器類と共に、木製品や古銭やキセルなど金属製品、石製品も若干出土した。

最後に、これら主体的な時期を古い時代順に、特徴的な遺構や遺物を整理して、まとめにかえる。

1 縄文時代

今調査では、最も古い遺物として、縄文時代の石器が出土した。Toolとしては頁岩製の有茎石鏃(161・8)があり、縄文時代終末の後・晩期のもと考えられる。他にも、頁岩製剥片などがグリッドから出土した。

近年、上曽根遺跡(標高約6.7m)から、西に約1.5kmにある酒田市中谷地遺跡(標高約3.2m)、南西に約1.5kmの同市梵天塚遺跡(標高約3.2m)などでも、古代より下層で、弥生時代初期の土器群がまとめて出土する事例が報告されている(石井他1996)。

これは、従来は確認されなかった庄内平野の沖積地の深い部分に縄文～弥生時代の集落跡が分布している可能性があり、今後の調査では留意する必要がある。

2 奈良・平安時代

今調査では、主体的な時代として奈良・平安時代の集落跡が確認された。上曽根遺跡の北東約1.5kmには、平安時代の出羽国府である城輪柵跡があり、その関連性も窺える。古い時期順に主な遺構や遺物を概述する。

8世紀4/4～9世紀1/4 今回の調査で、最古相のものは、奈良時代～平安時代にかかる8世紀末～9世紀第1四半期がある。遺構では、1区中央部のSX3・SK54・SD18・SD4・SD89、1区東端と2区南半のSE162・SK244・SX1・SD2・SD159などが遺物か

らあげられる。このうち、SD18・SX1・SD2は中近世の遺物が僅かに入り中近世の時期としたが、遺物量は当該期の土器が多い。そのため当該期の遺物の多くは、古代からの開口や堆積時の流れ込みなどの可能性が考えられた。他にも1区の東西大溝SD89・SD4でも古相の土器が散見される。

これからは、明確な建物は不明だが、当時期に大きく1区中央のSX3周辺と、1区東端と2区南端のSE162・SK244・SX1周辺の2つの地域に集落が出現したことが推測される。なお、SD2と南北に並走するSD159も出土土器が概ね当該期にあたる。両者は古代に開口し、道路状遺構の側溝跡であった可能性もある。

遺物は、供膳器である須恵器の箱形の環類が主体となる。また、当該期では、墨書土器も注目され、SX3の複数の「十」や単体で「二」「卅」「〇」、SK244の「利」「山か」の字種がある。(第171～174図)。

この時期は、出羽国府が秋田城から城輪柵跡に南下する8世紀末～9世紀初期の延暦・弘仁年間期にあたる。一般には城輪柵周辺には当該期の集落は少ないとされ、国府創建に係る古代の「計画村落」(佐藤1985)とも称される。しかし、今調査で僅かながら城輪柵跡と同時期かやや遡る土器も散見され、城輪柵跡成立以前の在地集落や国府建設に伴う集落の性格も窺える。

9世紀2/4 次の9世紀第四半期には、遺構からは集落がやや縮小化するようである。当該期の遺物は、前の時期に続き1区のSX3・SK54・SD18、1区東端のSK244・SD2などに限定的で、調査区中央部にまとまる。

遺物では、須恵器の底径が小さいヘラ切りの環類が主である。なお、底部切離しはナデなどで不明瞭なものも多い。墨書土器は、SX3の複数の「十」が継続し、単体で「亥」・「生」・「万」・「豊」など吉祥的な字種が墨書され、時期的な変遷も推測される(第173～174図)。

特に「亥」は、全国的にも類例に乏しく、近接する出羽国府「城輪柵跡」との関連や、在地有力者主導の農耕儀礼に伴う共同飲食の可能性も窺える(三上喜孝氏の御教示による)。

この時期は、一般に城柵跡跡跡以後の周辺集落の出現期で、墨書の字種も吉祥なものの祭的なものに変化する。遺構の少なさに比してSX 3は、これらの祭的な墨書土器が集中し、祭的な遺構の性格も窺われる。

9世紀3/4 次の9世紀第3中期には、遺構や遺物から集落が大きく展開する。主な遺構は、1区で引き続きSX 3・SX54・SD18、新たに1区中央～北半部のSP73・SP88・SK52・SK210、2区の南端部のSX155・同北半部にSE123・SE126などがある。

他に、2区のSB163とした建物やSA152の小規模な柱列も、遺物が少なく判然としなが、破片資料からは概ね当該期の可能性がある。また、両者は主軸方向もやや北西方向に傾く様相はほぼ同じで、同時期性も窺える。

特にSA152は、小規模な柱列で、集落の東側を区切るように立地する。当該期の庄内地方の周辺遺跡では、一般的に板材列が区画施設として知られ、同じ酒田市内の城輪周辺遺跡でも複数確認されている(熊野田遺跡・手蔵田5遺跡・生石2遺跡・南興野遺跡・依田遺跡〔柱列も含む〕・堂の前遺跡)。一方、SA152は、小規模な柱列で、やや上記遺跡とは様相が異なり、遺物の希薄さも含め区画施設かは判然としない。但し、今調査区は、上記遺跡群とは性格が異なる可能性もあり、国府近辺の集落のあり方の一つとして留意しておきたい。

遺物では、須恵器環の底部切離しが回転系切のものが主で、器高の高い赤焼土器環がほぼ同等の量で作う。

特に墨書土器では、多量の「足」墨書が出土したSE126が注目される。この「足」は周辺のSE123やSD124で出土し、2区北端部の時期は中世が主と考えられるが、SK120・SK122の覆土中からも出土したため、当該期に集落が北端部まで広がる可能性がある。なお、SE126とSE123は、近接した井戸跡で、同一の「足」墨書土器が出土するが、他の出土土器からSE126→SE123の新旧関係が推測される。これはSE126廃棄時の多量の「足」墨書土器の一部が、SE123掘方出土の「足」墨書土器(96-13)に見られ、SE123井戸構築時に混入した可能性などが考えられ、近接した時期とも推測される。他に、SE126の墨書土器の見込みは、摩耗著しいものが多く、他のSX 3も同様に、墨書土器には使用痕が顕著な傾向が窺える。

他の墨書土器では、SX 3の複数の「豊」、単体の「守」・

「得」・「申」、SX54の「井」も当該期と考えられる。また、SK52の赤焼土器環の体部に線描きによる図像表現のものもあり(96-13)、注目される。なお、墨書土器は、当該期で概ね最終段階を迎え、次期には不明瞭になる。

他の出土品では、木製品で番車として取り上げた特徴的なものがある。一つは、SX54から出土した番車群で、頭部が三角状を呈するもの(131-4)、頭部が欠損するが、両肩に斜めの刻みが入るもの(130-16)があり、両者とも体部下半が欠損し不明な部分が多い。しかし、両者は、県内出土の番車を集成した山内七恵氏の論考(山内2008)に照らせば、前者の頭部はBかC形式、後者の刻みはIVかV式と考えられ、県内では一般的にみられる番車の形態と考えられる。

もう一つは、SE123の掘方からまとまって出土した一群がある。これは、側面形が概ね平行四辺形を呈するもの(a類)で、前述した山内氏論考の「A型式」にあたり、従来「A型式の資料(中略)は山形県内からの出土例がない型式である」(山内2008)とされた。しかし、これは西日本の兵庫県砂押遺跡や、近年本県村山市柳田遺跡(齋藤他2017)の出土品と類似する。

一方、この同じ掘方からは、出土量が少ないものの、板状の先端がa類と同じだが、もう片方の末端が平坦なもの(b類)、両端とも同じ面を削り側面形が細長い台形状になるもの(c類)が一定量ある。両者は、先端がa類と同じ加工で、長さなども同等で、a類との関連が推測され、未製品や簡易品などの可能性が窺えた。

これらは、全体では247点あり、折損品を除いた形状が分かる184点では、a類が大半で131点(71.2%)、b類が50点(27.2%)で一定量あり、c類は3点(1.6%)で非常に少ない(表3)。また、これらは、長さも多様性があり、概ね約3cm(約1寸)を基準に、1寸毎に増え、6cm、9cm、12cm、15cm、最大で21cm(約7寸)以上のものがある(第60図)。そして、21cm以上(I類)のもの以外は各々30点前後の数量があり、概ね9cm(V類)～12cm(IV類)の長さのものが多く、規格性も推測された(第60図・第177図)。

当初、これらは単体で廃棄されたものと考えられたが、整理の過程で接合することが分かった。

その結果、同等の長さのa類が横に接合し菱形の板状になるもの(接合資料A類:写真図版150(2)～

151(4))、長さの異なるb類同士が平坦な下端を合わせ横に接合し、先端の斜めに板状になるもの(接合資料B類:写真図版150(1))が一定量接合した。これらは、加工された板状製品が堆積土中で自然に割れた可能性も窺えたが、割れ面の腐朽や劣化などもあり判断としない。

一方で、一部接合資料には、A類やB類で、段差のある接合品(接合資料C類:写真図版150(2))も認められた。このC類からは、①最初に大きく菱形や台形などに板材を加工し、②必要とする長さで板材を側面から割り、片方の先端が斜めの細長い素材を取り出し、③その素材のもう片方の先端を斜めに割り、側面形がa類やb類になるように加工した、規格性のある長さや形状を意識した製作過程などが復元された。

この製作過程からは、側面形が平行四辺形で、平面が一般的な斎串よりやや小振りの長方形基調の板材を作出する製作意図が窺え、同一遺構内での多量の出土状況からも、祭祀的な意味合いが強い「斎串」群と考えられた。

この特異な斎串群は、東北地方の当該期の遺跡では、管見の限り類例がほぼなく、その性格や用途は不明瞭だが、前述した規格性や多量の出土数、当該跡が国府近辺の集落であること、後述する当該期の出羽国の社会背景から、祭祀的な性格が強いものと推測されない。

この時期は、『六国史』にも登場する当時の出羽国国府(城輪榑跡)が見舞われた嘉祥地震(950年)や鳥海山噴火(871年)など自然災害が多く起こった時期で、出羽国に中央の陰陽師が全国に先駆け派遣された記事も残る。そのため前述した特異な斎串群もこれらの影響化で作出されたものではないか。但し、当該期に遺跡では最も集落の範囲が広がり、黒書土器の点数も増えており、地震か噴火の被害が限定的だった可能性もある。

9世紀4/4 次の9世紀第四半期には、遺構の面からは前の時期と同じく調査区全体に広がるが、明確な遺構は散発的で、やや北側に移動する分布傾向になる。1区では、SX52・SK97・SK98・SK213・SD238、2区ではSX155・SD124などが推測される。

遺物では、赤焼土器が主体となり、器高が徐々に低いものが主になる。当該期で注目されるものでは、2区の南端の擾乱としたSD105(3507グリッド)から、近江を含む東海産と考えられる緑輪陶器の水瓶片(92-10)が出土し、県内では類例が乏しい三条の線刻が入る。

他に、SK213の底面から出土した2個の人形の斎串がある。体部上下から切込みを入れる県内では希少な斎串である。類例は庄内地方北部の城輪榑跡周辺の酒田市(新青波遺跡・後田遺跡)や遊佐町(大坪遺跡)などに限られる。これら遺跡の時期も概ね当該期と前後する9世紀後半が主体で、城輪榑跡(国府)周辺の遺跡と同様の祭祀具として関連が窺える(第176図)。

10世紀1/4 古代の最終段階である10世紀初頭頃と考えられる。遺構では、前の時期より更に範囲が狭まり、SK52・SK213・SK97・SK98・SD238など、1区北半部に限られ、集落規模の縮小が窺える。

遺物では、赤焼土器の高径指数30前後の浅い杯や皿が主体を占める。なお、理化学分析の結果からは、10世紀初頭(915年)降下の青森県の十和田火山灰が、SX3(厚さ6mm。波状に堆積)やSE126の堆積土中(厚さ5mm。ブロック状に堆積)などで検出され、出土遺物の下限時期や遺構の開口時期が窺えた。

庄内平野では、特に10世紀段階に遺跡の減少が指摘されており(植松1997・山口2005)、本遺跡でも出羽国府城輪榑跡に近接はするが、同様の傾向が看取される。今回の調査では、十和田火山灰降下や洪水などの自然災害の影響かは不明瞭だが、概ねこの段階で、古代の集落は停止し、集落の移転や廃絶が推測される。

そして、古代末期の10世紀後半～12世紀代は、当地域は国衙領として機能し、周辺は摂関家や皇室領荘園となる(柏倉他1982)。今調査区では、遺構・遺物とも希薄で、次代の中世前半の13世紀前半の鎌倉時代前半まで、集落は不明瞭になることが判った。

3 中世・近世

今調査では、前述した古代の集落の他に、中近世の遺構群や遺物が一定量認められた。本遺跡周辺には、中世城館などは不明で、今回の調査区内にも明確な中近世の建物跡は未検出だが、当該期の集落の存在が確定された。遺物が小破片で時期の判別が難しいものもあるが、大きく中世・近世に分け、各々前半・後半に分け、古い順に主な遺構や遺物を概述する。

中世前半(13～15世紀) 今回の調査で、古相の中世前半の遺構では、当該期の遺物が1区中央部のSX54・SD18・SD4・SD89、2区南端のSX155、同

北端のSD119から出土する。当該期の遺構外出土品も概ね上記遺構の周辺グリッドに分布し、概ね上記3地域に集中がある。特に2区北端部(3612～3615・4112～4115グリッド)は輸入陶磁器も一定量あり、3地域の中でも分布の濃淡があることが窺われる。

遺物では、珠洲や須恵系陶器の播鉢・甕などが一定量出土し、概ね13～15世紀代が主体である。また、輸入陶磁器の白磁・青磁もこの段階のものが多く、皿・碗類などが一定量認められ、13世紀代と15世紀代のものが多い傾向がある。

この時期は、大きく鎌倉時代後半・南北朝時代・室町時代前半にあたり、周辺には上曾根遺跡から南に約1kmに、築城時期が不明な酒田市漆曾根館の方形居館(1辺約100m四方)があるのみで、周囲には当該期の城館などは未発見である。当該期には、鎌倉時代に国府の代わりの統治機構を形成した留守所が酒田市新田目域に置かれたとされ、南北朝時代には酒田市生地区の板碑群(1322～1371年間の遺造)などが著名である。また、室町時代には、庄内南部の大泉荘地頭の武藤氏と最上川川北の国人領主砂越氏の対立(1477年)も知られる。

今回の調査で新たに確認された当該期の遺構や遺物も、その集落の主体は判然としないが、これら遺跡群と関連がある中で出現したものと考えられる。

中世後半(16世紀) 中世後半も前代を引き継ぎ、大きくは上記3地域に分布し、遺構では当該期の遺物が1区中央部のSD4、2区南端のSX155付近、同北端のSD119・SK134で出土し、遺構外出土品も概ね上記遺構の周辺グリッドにまわって分布する。

特に2区北端部付近(3512・4114グリッド)は、青花などの輸入陶磁器が出土し、畝状溝跡(SD119)や大小の土坑(SK134)もあり、前代も含め集落の主体的な地域と考えられる。一方、1区では、当該期の遺物が、前の時期に主体的な東西の溝跡群の中で、SD4と散発的なグリッド出土に限られ、やや当該期には希薄になる傾向が窺える。

遺物では、瀬戸美濃の大窯段階の皿や碗類が多く、大窯1段階(95・9)など古相もあるが、大半は同3～4段階の16世紀後半の戦国期のものが多い。輸入陶磁器の青花の碗皿も古相の15世紀代のB群(119・3)もあるが、16世紀中～後葉のE群(119・1)が主であり、

概ね瀬戸美濃の主体時期とも重なる。

この時期は、室町時代後半～戦国時代にあたり、「庄内飽海地区は、国人領主の対立する混乱期に入る」(石井他1996)とされ、前述した武藤氏と砂越氏の対立以後、武藤氏と土佐林氏の対立などもある。天正期に入り武藤義氏は上杉氏に従い、庄内三部を支配した。そして、天正9年(1579年)以降には最上氏と上杉氏の対立、天正18年(1588年)には武藤氏が滅亡し、最上氏が庄内地方を支配した。しかし、十五里ヶ原の合戦(1589)以後は再び上杉氏、関ヶ原合戦(1600年)以後は最上氏の支配など領主層が度々変わった。

前述した当遺跡と南西に約1.5kmに近接する梵天塚遺跡では、15～16世紀の古銭埋納が出土し、その原因を「社会情勢の不安定さが基盤」(石井他1996)と指摘する。酒田市内の東禅寺域では、関ヶ原合戦と同時期の上杉氏と最上氏の合戦に関わる荷札木簡も出土する。

今回の調査では、当該期の遺構や遺物が一定量確認され、梵天塚遺跡と同じく、文献史料には見えない当該期の在地集落の様相を示すものとして注目される。

近世前半(17世紀) 次期の近世前半の遺構分布は、大きくは前代の3地域を引き継ぐが、一部2区南端部のSX155付近は希薄になり、SX1付近に若干遺物がみられる程である。また、1区でもSD4・SD18など1区中央～南半部の溝跡に限られる。

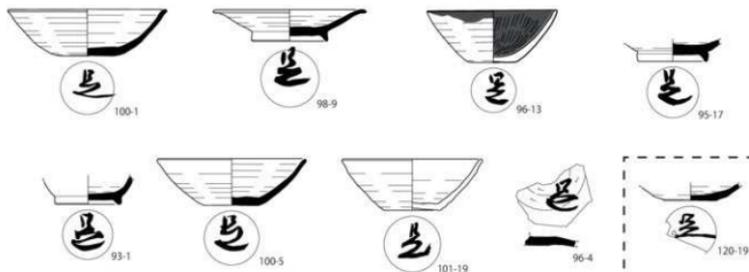
これは、1次調査の1辺約13mで高さ1.18mの中世以降の構築とされたSM3塚跡があり、今回の調査の2803～2806・3003～3006グリッド付近に立地すると考えられる。それ故に1区北端部や2区南端部には遺構や遺物が希薄である可能性が高く、前代の遺構の重複からは、SM3構築が近世以降とも推測される。

他に、特に当該期の最古相の17世紀初頭～前半の肥前陶磁器編年の1期段階は、前代に続き2区北半～北端部に遺物が集中する傾向がある。遺構でも小形の土坑のSK101・104、古銭が出土し墓坑の可能性もあるSK127などがあり、SM3の塚跡も含め、当該期の集落の性格を考える上でも示唆的である。

なお、続く17世紀後半の肥前陶磁器編年の2期段階では、1区中央部のSD4・SD18やその周辺グリッドで遺物が散見され、やや集落が拡大した様相を示す。

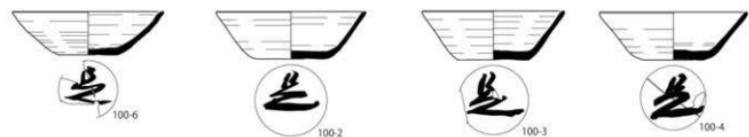
遺物では、肥前陶磁器の碗・皿類が多く、他に肥前陶

「足」

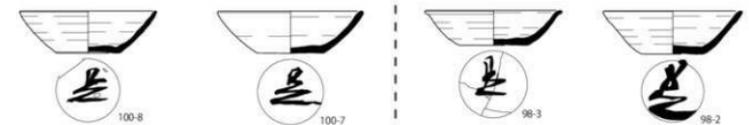


※文字が小さい

※略字風の「足」



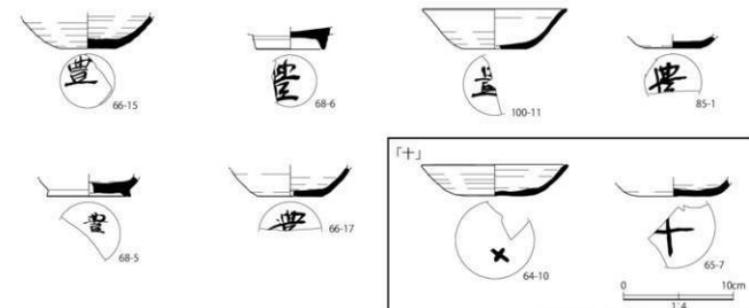
※文字が大きい



※文字下部が略字状

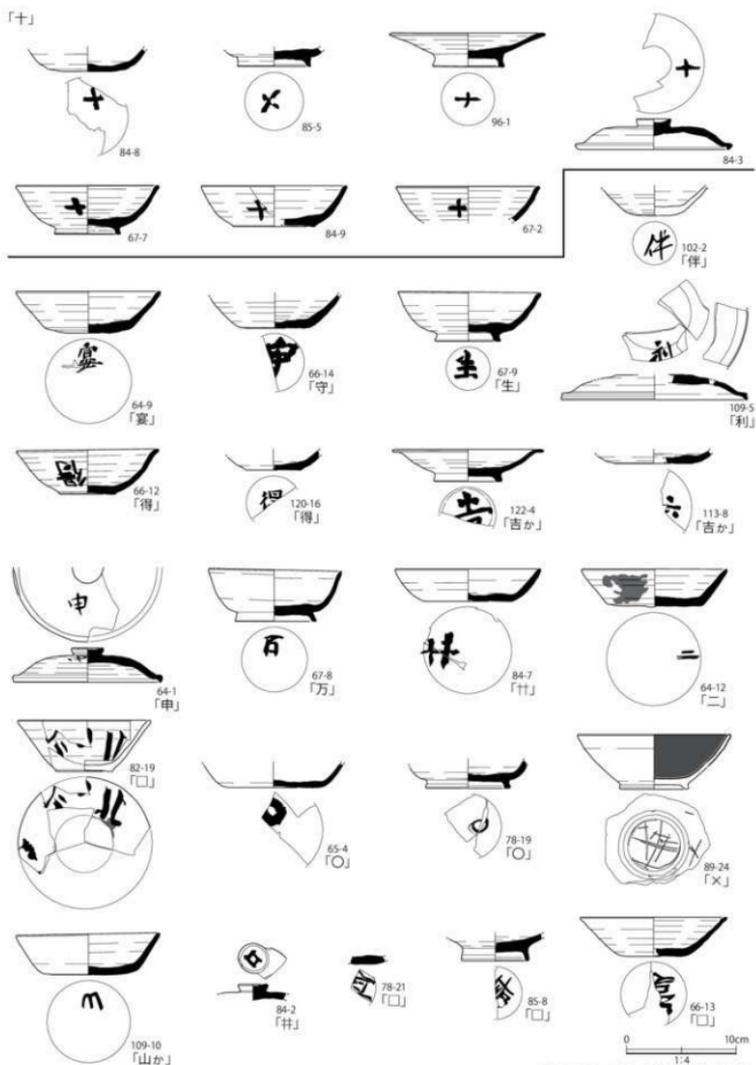
※略字風の「足」

「豊」



「十」

第 171 図 墨書・刻書土器集成 (1)



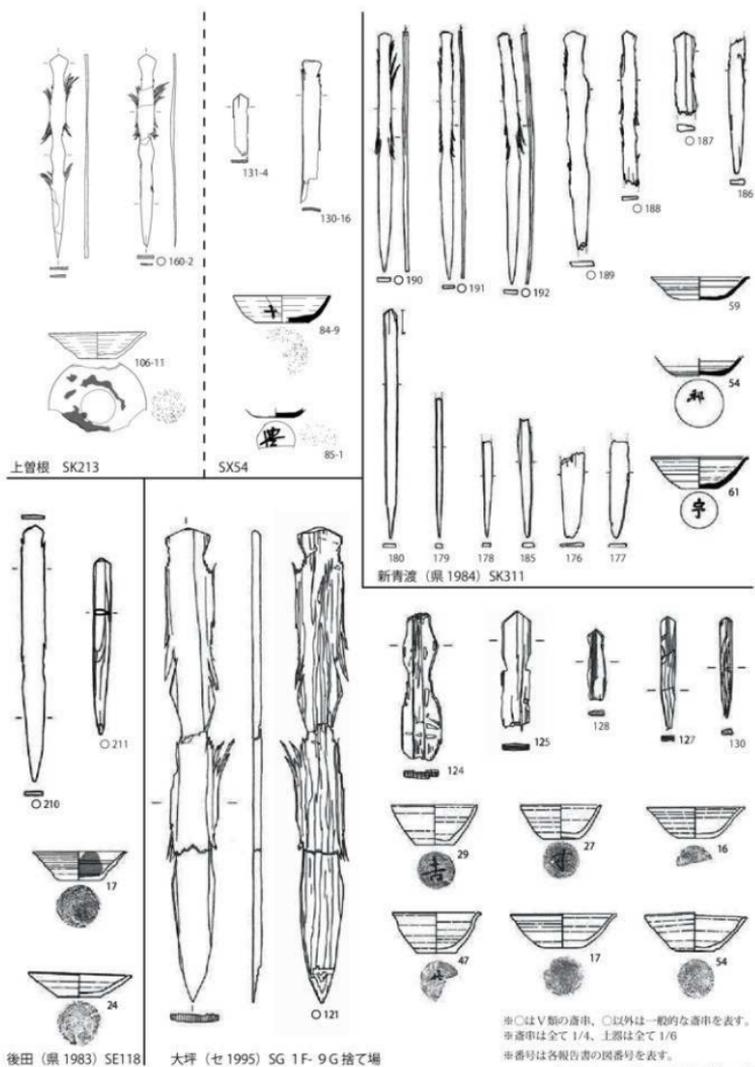
第172図 墨書・刻書土器集成(2)

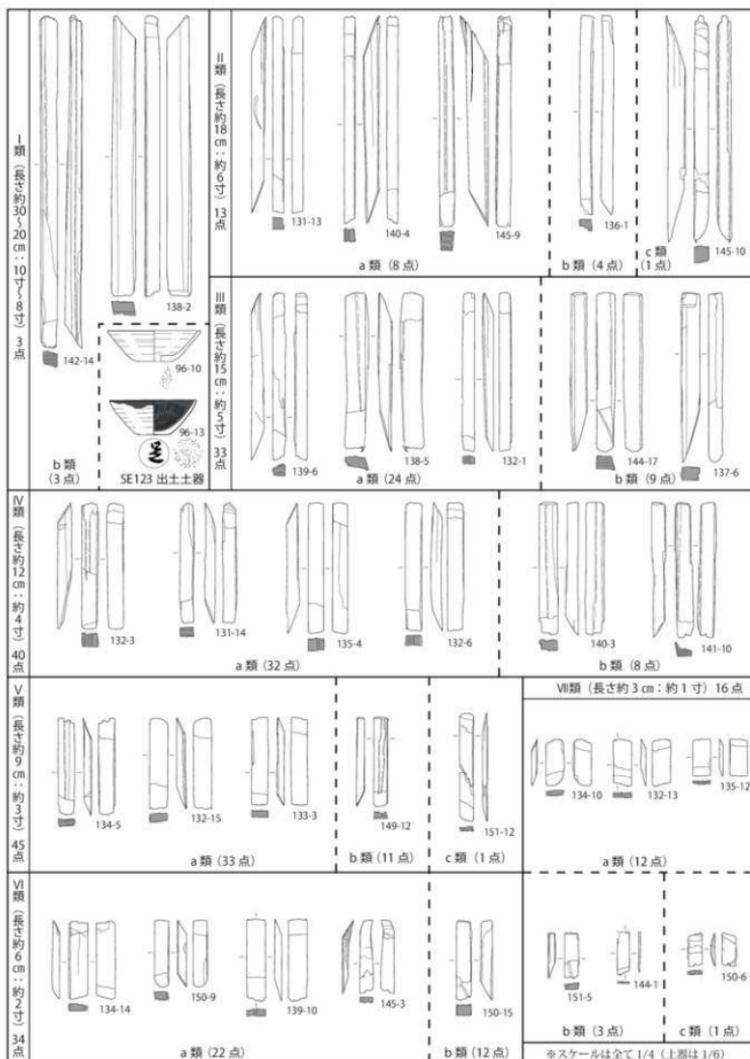
	SX3 (1区)	SK244 (2区)	SET26 (2区)
8世紀第4四半紀 9世紀第1四半紀	<p>同一字種</p> <p>64-10 「十」</p> <p>65-7 「十」</p> <p>單一字種</p> <p>64-12 「二」</p> <p>64-9 「萬」</p> <p>67-8 「万」</p>	<p>109-5 「利」</p> <p>109-10 「山」</p>	
9世紀第2四半紀	<p>67-7 「中」</p> <p>67-14 「中」</p> <p>64-1 「中」</p> <p>67-9 「生」</p>		
9世紀第3四半紀	<p>同一字種</p> <p>66-15 「豊」</p> <p>66-14 「守」</p> <p>66-17 「豊」</p> <p>68-6 「豊」</p> <p>單一字種</p> <p>66-12 「得」</p> <p>100-11 「豊」</p>	<p>同一字種「足」</p> <p>100-4 「足」</p> <p>100-2 「足」</p> <p>100-3 「足」</p> <p>100-1 「足」</p> <p>100-8 「足」</p> <p>100-7 「足」</p> <p>100-5 「足」</p> <p>100-6 「足」</p> <p>100-9 「足」</p>	
9世紀第4四半紀	<p>100-11 「豊」</p> <p>102-2 「伴」</p>	<p>101-19 「足」</p> <p>102-3 「足」</p> <p>103-2 「伴」</p>	
	※スケールは全て1/6		

第173図 墨書土器変遷図(1)

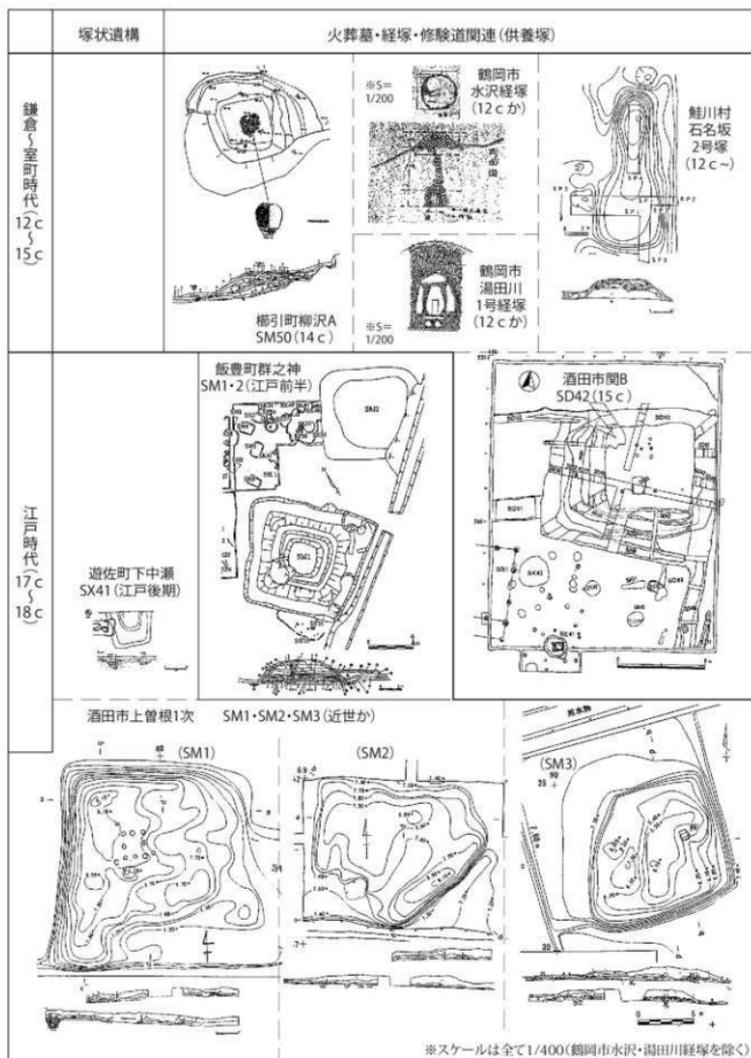


第174図 墨書土器変遷図(2)





第177図 SE123 井戸跡出土 斎串形態



第178図 山形県内の塚状遺構集成

器の甕・瓶・擂鉢などが一定量出土した。

この時期は、江戸時代前半で、最上氏改易（1622年）後に、庄内地方に徳川家譜代の酒井氏が入部する。戦国時代の東禅寺城は、酒井氏の本拠地である鶴岡市鶴ヶ岡城と対比させ亀ヶ崎城と改名され、以後城代が置かれる。

また、同市酒田港は、寛文12年（1672年）の河村瑞賢の西廻り航路開発などを契機に、東日本屈指の港として発展を始める段階である。今回の調査では、当該期の溝跡や土坑のみと集落形態は不明瞭だが、西廻り航路開発以前の時期の碗・皿類が主体で、当期まで中世から続く集落が存続したものと考えられる。

近世後半（18・19世紀） 今調査で最新相の近世後半では、前代の主体的な1区中央部のSD18、2区北半部の前代のSK101・SK104付近（3713・4013グリッド）に遺物が散見される程で、明確な遺構は判然とせず、集落が縮小・断絶した可能性がある。

これらは、前述した第1次調査のSM3塚跡が1区と2区の境界付近に当該期にも存続したと考えられ、当該期に徐々に集落の主体が現代の上曾根地区である調査区南側に移動した可能性があり、調査区内は塚跡などの祭祀場やSD18の溝跡のみが残るようである。

遺物は、肥前陶磁器編年のⅢ～Ⅴ期の碗や擂鉢が出土するが、前述した遺構の希薄さとも関連してか、出土量も減少し、幕末の19世紀代には概ね当地での集落は廃絶したのであろう。

この時期は、江戸時代中～後半で、西廻り航路の充実などから貨幣経済や流通経済が発達した時期である。今調査でも所謂くらわんかなどが出土し、全国的な盛隆の中で捉えられる。

なお、前述したSM3塚跡は、形状や規模から、県内で調査された中世の経塚（柳沢A遺跡）や修験に関わるとされる塚跡（関B遺跡）や土壇（郡之神遺跡）などより、長大で方形基調の周溝を持たない形態で、前述した性格以外を有した可能性がある（第178図）。SM3の西側に約100m（約一町）毎に並ぶSM1・SM2塚跡との関連が1次調査でも報告されており、現集落の縁辺の立地も含め、今後の類似の塚跡の発掘事例を待ちたい。

最後に、今回の調査では、出羽国府城輪軸跡に近接した古代集落の多様な特徴と、その後の中近世での集落の変容や様相が明らかになってきた。今後、既存の出羽国府周辺の集落遺跡を同様に分析することで、現代に繋がる酒田市北東部の新たな開発史が描かれると思う。

引用・参考文献

- 阿部明彦・水戸弘美 1998 『庄内平野』東北地方の古代集落 第24回古代城館官能検討会資料集
 上田秀夫 1981 『14～16世紀の青磁の分類』貿易陶磁研究№1～5 日本貿易陶磁研究会
 石井浩幸 1996 『土崎遺跡 梵天塚遺跡 中谷遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第42集（公財）山形県埋蔵文化財センター
 伊藤清郎他 1997 『山形県中世城館遺跡調査報告書 第3集（庄内・最上地域）』山形県教育委員会
 横松敏彦 1997 『庄内高瀬川比月光川流域の平安時代の集落変遷』山形考古 第27号 山形考古学会
 横松敏彦 2008 『庄内地方北部の10～11世紀代の土器群の様相』研究紀要第5号（公財）山形県埋蔵文化財センター
 大橋康二他 2000 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
 小野寺雅昭他 2004 『平野町史 上巻』平野町教育委員会
 小野正敏 1981 『15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代』貿易陶磁研究№1～5 日本貿易陶磁研究会
 柏倉吉吉他 1982 『山形県史』山形県
 齋藤主税・渋谷孝雄 1989 『上曾根遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第147集 山形県教育委員会
 齋藤主税・後藤枝里子 2017 『舞田遺跡第1・2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第226集（公財）山形県埋蔵文化財センター
 佐藤庄一 1985 『城輪輪跡周辺の村落』庄内考古学 第19号 庄内考古学会
 竹田純子・稲村圭一他 2018 『分布調査報告書(44)』山形県埋蔵文化財調査報告書第223集 山形県教育委員会
 土岐正勝他 1995 『酒田市史 上巻』酒田市教育委員会
 名和達朗・黒坂雅人 1987 『上曾根遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第116集 山形県教育委員会
 兵庫県教育委員会 1997 『砂入遺跡』兵庫県文化財調査報告書第161冊
 藤澤良祐 1993 『瀬戸大冨の変遷』瀬戸市史 陶史編 四 愛知瀬戸市
 森田 勉 1981 『14～16世紀の白磁の型式分類と編年』貿易陶磁研究№1～5 日本貿易陶磁研究会
 山形県 1994 『土地分類基本調査 酒田』国土調査
 山口博之 2005 『佐佐庄大橋遺跡の展開』研究紀要 第3号（公財）山形県埋蔵文化財センター
 山内七恵 2008 『山形県内出土土器の集積と分類』研究紀要 第5号（公財）山形県埋蔵文化財センター
 吉岡康暢他 1989 『総論 珠洲古陶』珠洲の名陶 珠洲市立珠洲焼資料館

写真図版



調査区全景（南西から）



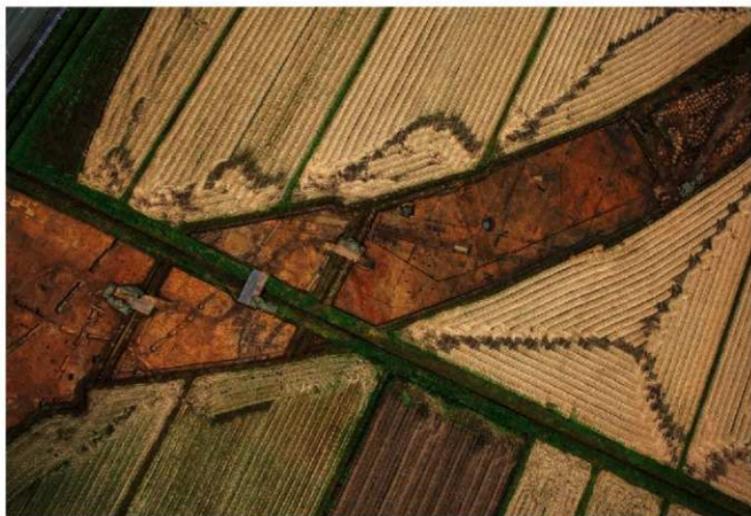
調査区全景（北から）



調査区全景 (西から)



調査区全景 (東から)



2区全景 (上空から)



1区北半部・2区南半部全景 (上空から)



1区中央～南半部全景（北から）



1区中央～南半部全景（東から）



1区北半部・2区全景（西から）



1区北半部全景（上空から）



2区全景 (北東から)



2区全景 (西から)



1区調査前状況（南から）



2区調査前状況（北東から）



1区南半部検出状況(南から)



1区北半部検出状況(南から)



1区北半部検出状況(南から)



1区北端部検出状況(北西から)



1区北端部検出状況(北西から)



1区西端部水路南地区西側検出状況(西から)



1区西端部水路南地区東側部検出状況(東から)



1区西端部水路南地区東側部検出状況(西から)



1区中央～南半部完掘状況(北から)



1区北半部完掘状況(東から)



2区水路地区検出状況(東から)



2区西半部検出状況(西から)



2区中央部検出状況(東から)



2区東半部検出状況(南から)



1区北半・2区西端部完掘状況(北東から)



2区中央部完掘状況（西から）



2区南半部完掘状況（北西から）



1区北半部 (SD89) 基本層序 (東から)



2区中央部 (SE123) 基本層序



SB163 精査状況（北から）



SB163 精査状況（北西から）



SB163 精査状況（北から）



SB163 完掘状況（南から）



SB163 完掘状況（3D画像）



SB163 精査状況 (上空から)



SB163EP164 土層断面 (南から)



SB163EP164 完掘状況 (南から)



SB163EP165 土層断面 (北から)



SB163EP165 完掘状況 (北から)



SB163EP166 土層断面 (南から)



SB163EP166 発掘状況 (南から)



SB163EP167 土層断面 (南から)



SB163EP167 発掘状況 (南から)



SB163EP168 土層断面 (南から)



SB163EP168 発掘状況 (東から)



SB163EP169 土層断面 (北から)



SB163EP169 発掘状況 (北から)



SB163EP170 土層断面 (南から)



SB163EP170 完掘状況 (南から)



SB163EP171 土層断面 (北から)



SB163EP171 完掘状況 (北から)



SB163EP172 土層断面 (北から)



SB163EP172 完掘状況 (北から)



SB163EP173 土層断面 (北から)



SB163EP173 完掘状況 (北から)



SE123 土層断面 (南東から)



SE123 精査状況 (南西から)



SE123 井戸枠材出土状況 (南から)



SE123RW 出土状況 (南から)



SE123 斎串出土状況 (南から)



SE123 斎串出土状況 (南から)



SE123 遺物出土状況 (南西から)



SE123 斎串出土状況 (南東から)



SE123 斎串出土状況 (南から)



SE123RW73 出土状況 (南から)



SE123 井戸枠材出土状況 (南から)



SE123 完掘状況 (南から)



SE123RW89 出土状況 (南から)



SE126 完掘状況 (上空から)



SE126RP19 出土状況 (東から)



SE126RP19 出土状況 (東から)



SE126 土層断面 (東から)



SE126 板材出土状況 (東から)



SE126RW21 出土状況 (南から)



SE126RW21 出土状況 (南から)



SE126RW23 出土状況 (東から)



SE126 完掘状況 (南から)



SE162 完掘状況 (西から)



SE162 土層断面 (南西から)



SE162 完掘状況 (東から)



SE162・SX155 完掘状況 (上空から)



SK 9 土層断面 (西から)



SK 9 完掘状況 (西から)



SK52 遺物出土状況 (南から)



SK52RP24- 1 ~ 17 出土状況 (西から)



SK52RP24-18 ~ 32 出土状況 (北から)



SK52 遺物出土状況 (真上から)



SK52 土層断面 (北西から)



SK52 完掘状況 (北から)



SK97 土層断面 (東から)



SK97RP126 ~ RP132 出土状況 (東から)



SK98 遺物出土状況 (南から)



SK98 遺物出土状況 (南から)



SK210・SK213 完掘状況 (上空から)



SK210 遺物出土状況 (西から)



SK210 土層断面 (西から)



K210 遺物出土状況 (西から)



SK212 土層断面 (南西から)



SK212 完掘状況 (南西から)



SK213 土層断面 (西から)



SK213 完掘状況 (西から)



SK213RW133・134 斎串出土状況 (西から)



SK213 斎串出土状況 (西から)



SK213 斎串下遺物出土状況 (西から)



SK216 土層断面 (北西から)



SK244RP109～117 出土状況 (東から)



SK244RP109～117 出土状況 (北から)



SK244RP112～117 出土状況 (東から)



SK244RP117 出土状況 (北から)



SK244 土層断面 (北から)



SK244 完掘状況 (北西から)



SK246 土層断面 (北から)



SK246 完掘状況 (北から)



SP10 土層断面 (北から)



SP10 完掘・礎板出土状況 (北から)



SP73 遺物出土状況 (南から)



SP87 柱根出土状況 (北東から)



SP87 完掘状況 (西から)



SP88 遺物出土状況 (東から)



SP99 土層断面 (南から)



SP100 土層断面 (南から)



SP219 遺物出土状況 (南西から)



SP219 完掘状況 (南西から)



SP223 土層断面 (南から)



SP224 精査状況 (北西から)



SP224 柱根出土状況 (南から)



SP224 完掘状況 (南から)



SP226 土層断面 (南から)



SP227 礎出土状況 (西から)



SP228 土層断面 (南東から)



SP228 遺物出土状況 (南東から)



SP231 土層断面 (南から)



SP231 遺物出土状況 (南から)



1 区北端部柱穴群完掘状況 (SP235 周辺) (東から)



SP235 遺物出土状況 (西から)



SP251 検出状況 (西から)



SP255 土層断面 (西から)



SP264 土層断面 (南から)



SP265 土層断面 (南から)



SK269 土層断面 (北から)



SP271 土層断面 (南から)



SP271 完備状況 (南から)



1区西端部発掘状況（上空から）



SD2 精査状況（西から）



SD2 南ベルト土層断面（北から）



SD2RP104・105 出土状況（東から）



SD2RP104 出土状況（東から）



SD 2 RP88 出土状況 (北から)



SD 2 RQ106 出土状況 (東から)



SD 2 RP107 出土状況 (東から)



SD 2 RP108 出土状況 (北から)



SD 2 (SD156)・SD159 完掘状況 (北東から)



SD 2 (SD156)・SD159 完掘状況 (東から)



SD 2 (SD156)・SD159 完掘状況 (北東から)



SD159 土層断面 (北から)



SD238 遺物出土状況 (西から)



SD238RP83-102 出土状況 (東から)



SD238・SD2・SK244 完掘状況 (北から)



SD238 土層断面 (北から)



SD238RP91 出土状況 (北から)



SD 238RP92 出土状況 (東から)



SD238RP93・94 出土状況 (東から)



SD238RP95 出土状況 (東から)



SD238RP96～99 出土状況 (東から)



SD238RP100 出土状況 (東から)



SD238RP101・102 出土状況 (東から)



SD257 完掘状況 (北から)



SD257 完掘状況 (南から)



SX 1 発掘状況 (北東から)



SX 1 発掘状況 (上空から)



SX 1 RP122 出土状況 (南から)



SX 1 RP123 出土状況 (南から)



1 区中央部精査状況 (上空から)



SX 3 白色火山灰出土状況 (東から)



SX 3 検出状況 (東から)



SX 3 検出状況 (北東から)



SX 3 土層断面 (南から)



SX 3 遺物出土状況 (南から)



SX 3 RP20 出土状況 (北から)



SX 3 RP20 二枚目出土状況 (北から)



SX 3 RP29 出土状況 (南から)



SX 3 RP27 出土状況 (南から)



SX 3 RP28・30・31 出土状況 (東から)



SX 3 RP38 出土状況 (東から)



SX 5 精査状況 (南から)



SX54 遺物出土状況 (東から)



SX54 遺物出土状況 (南から)



SX54RP53-1・2 出土状況 (南から)



SX54RP53-13 遺物出土状況 (南から)



SK 7 土層断面 (北から)



SK 7 完掘状況 (西から)



SK 8 土層断面 (西から)



SK 8 完掘状況 (西から)



SK49 炭化物出土状況 (南から)



SK49 土層断面 (南から)



SP207 完掘状況 (西から)



SP208 完掘状況 (南から)



SP209 完掘状況 (北西から)



SP211 土層断面 (東から)



SP211 完掘状況 (東から)



SP249 土層断面 (西から)



SP261 土層断面 (南から)



SKS2 完掘状況 (上空から)



SKS1 土層断面 (西から)



SKS1 完掘状況 (西から)



SD89 発掘状況 (上空から)



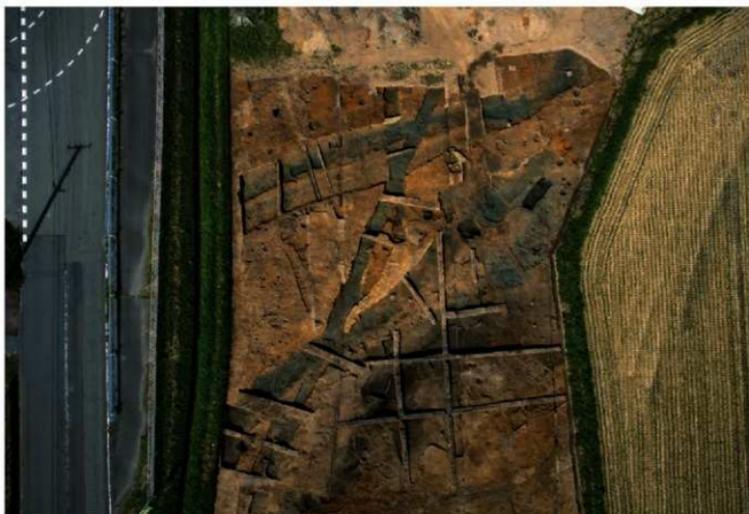
SD89 周辺 (北から)



SD89 西半部土層断面 (東から)



SD89RP103 出土状況 (北東から)



SD 4・SD18 精査状況 (上空から)



SD 4・SD18 完掘状況（北から）



SD 4 精査状況（東から）



SD 4 精査状況（西から）



SD 4 西側ベルト土層断面（東から）



SD 4 東側ベルト土層断面（東から）



SD 4 内壁板出土状況（北から）



SD18 東ベルト土層断面（西から）



SD18 西ベルト土層断面（南東から）



SD18RP11 出土状況 (南から)



SD18RP49 出土状況 (南から)



SD18RP48 遺物出土状況 (南から)



SD18RW11 出土状況 (南から)



SD 5 南側土層断面 (南西から)



SD5・SD17c-d ベルト土層断面 (北から)



SD89・SD 4・SD18 完掘状況 (上空から)



SD17 (攪乱) Ff ベルト土層断面 (北から)



SK120・SK122・SA152 (上空から)



SK120 精査状況 (南から)



SK122 遺物出土状況 (南から)



SK122 土層断面 (南西から)



SK127 土層断面 (南から)



SD119・SD138～SK142 完掘状況 (南西から)



SD119・SD138～SK142 完掘状況 (上空から)



SD124RP75～87 出土状況 (北から)



SD124RP75～87 出土状況 (南から)



SD124RP75～87 出土状況 (西から)



SD124RP147～149 出土状況 (北から)



SD124RP147～149 出土状況 (西から)



SD124RP147～149 出土状況 (西から)



SA152 精査状況 (上空から)



SA152 検出状況 (南東から)



SA152 検出状況 (南東から)



SA152 究掘状況 (北から)



SA152 究掘状況 (南から)



SA152 北半部検出状況 (南から)



SA152 北半～中央部検出状況 (南から)



SA152 中央～南半部検出状況 (南から)



SA152 南半部検出状況 (北から)



SA152EP 1・2 完掘状況 (西から)



SA152EP 2～4 完掘状況 (東から)



SA152EP 4～7 完掘状況 (西から)



SA152EP 6～8 完掘状況 (西から)



SA152EP 7～11 発掘状況 (南から)



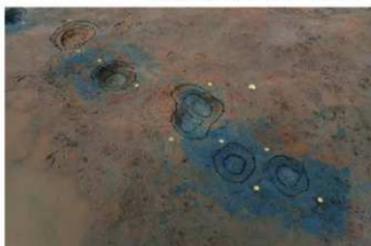
SA152EP11～16 発掘状況 (西から)



SA152EP15～18 発掘状況 (西から)



SA152EP18～23 発掘状況 (西から)



SA152EP24～28 発掘状況 (西から)



SA152EP27～33 発掘状況 (西から)



SA152EP30～35 発掘状況 (西から)



SA152EP35～38 発掘状況 (西から)



SA152EP 1~4 土層断面 (南から)



SA152EP 3 土層断面 (南から)



SA152EP 5~8 土層断面 (南から)



SA152EP 5 土層断面 (南から)



SA152EP 9~12 土層断面 (東から)



SA152EP13~16 土層断面 (南から)



SA152EP17~20 土層断面 (南から)



SA152EP17 土層断面 (南から)



SA152EP21 ~ 24 土層断面 (南から)



SA152EP21 土層断面 (南から)



SA152EP25 ~ 28 土層断面 (南から)



SA152EP29 ~ 32 土層断面 (東から)



SA152EP32 土層断面 (東から)



SA152EP33 ~ 36 土層断面 (西から)



SA152EP37 ~ 38 土層断面 (西から)



SA152 南端 SX 攪乱検出状況 (西から)



SD105・SD107・SD117 (攪乱) の精査状況 (上空から)



SD117 西側完掘状況 (東から)



SD105・117 精査状況 (西から)



SD117 東端土層断面 (西から)



SD159 土層断面 (北から)



SD159RP124 出土状況 (北から)



SK134 土層断面 (東から)



SK137 土層断面 (北から)



SK137 発掘状況 (北から)



SX155 発掘状況 (北東から)



SX155 精査状況 (西から)



SX155RP119 出土状況 (南東から)



SX155RP118 出土状況 (北東から)



SX 1



SD 2 (1)





SD 2 (3)



SX 3 (1)

写真图版 53



65-1



65-2



65-3



65-4



65-5



65-6



65-7



65-8



65-9



65-10



65-11



65-12



65-13



65-14



65-15



65-16



65-17

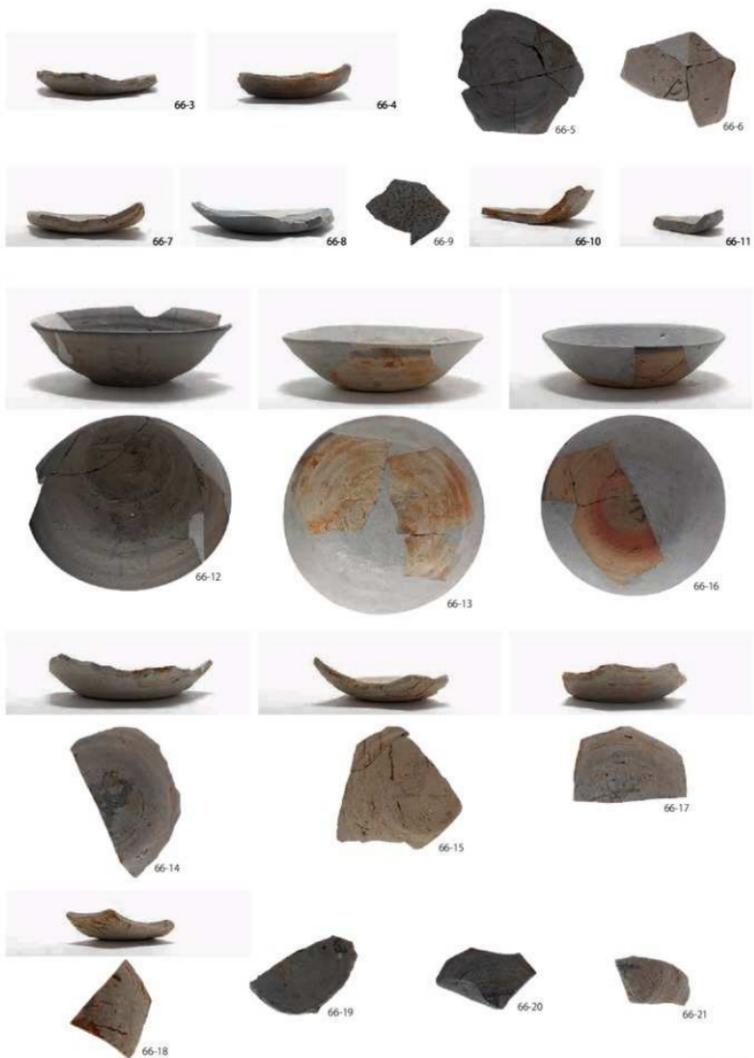


66-1



66-2

SX 3 (2)



SX 3 (3)





69-1



69-2



69-3



69-4



69-5



69-6



69-7



69-8



69-9



69-10



69-11



69-12



69-13



69-14



69-16

69-15



69-17



69-18



69-19



69-20

SX 3 (6)





SX 3 (8)



SD 4 (1)





SD 4 (3)



SD 5



SK 7



SK 8



SK 9



SP10







SD18 (2)



SD18 (3)



SD18 (4)



81-1



81-2



81-3



81-4



81-5



81-6



81-7



81-8



81-9



81-10



81-11
SD18 (5)







SX54 (1)





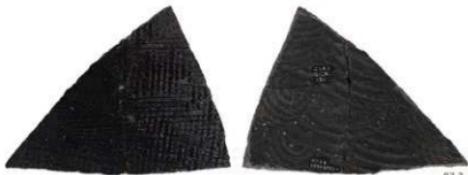
SX54 (3)



87-1



87-2



87-3



87-4



87-5



87-6



87-7



87-8

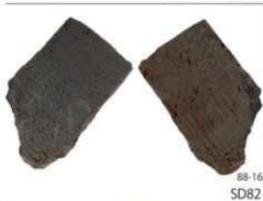


87-9



87-10

SX54 (4)







90-1

SK95



90-2



90-3



90-4



90-5



90-6



90-7



90-8



90-9



90-10



90-11



90-12



90-13



90-14



90-15



90-16



90-17

SK97 (1)





SK104



SD105 (1)





94-1
SK108



94-3



94-4

SK111



94-2



94-4

SK111



94-5

SK113



94-6

SK115



94-7



94-8



94-9



94-10



94-11



94-12



94-13



94-14

SD116



94-15



94-16



94-17



94-18



94-19

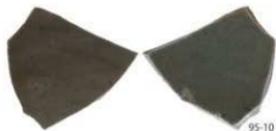


94-20

SD117



SD118



SD119



SK120



96-1



96-2

SK122



96-3

96-4

96-5

96-6



96-7



96-8



96-9



96-10



96-11



96-12



96-13



96-14



96-15



96-16

SE123 (1)





98-1



98-2



98-5



98-3



98-3



98-2



98-4



98-6



98-7



98-7



98-8



98-9



98-10



98-11



98-12



98-14



98-13



98-15

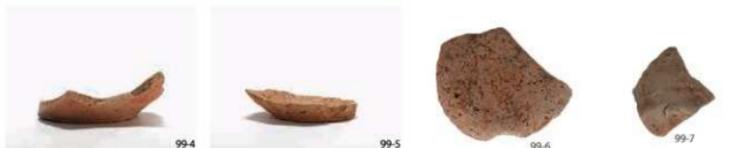


98-16



98-17

SD124 (1)



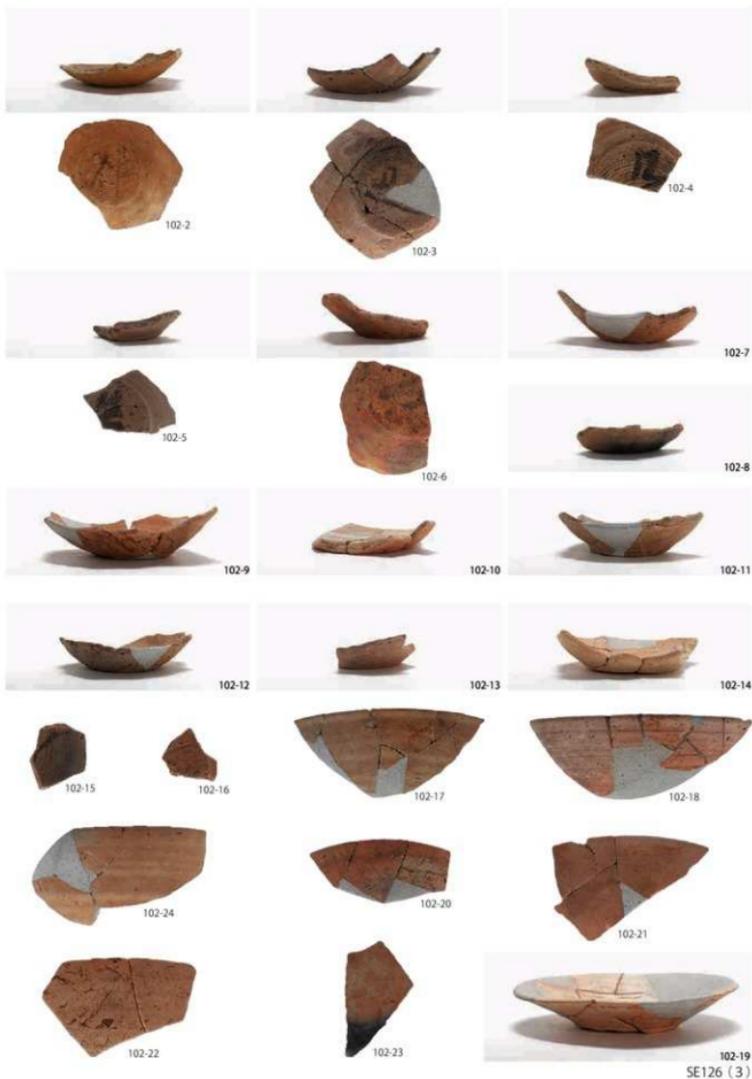
SX125



SE126 (1)



SE126 (2)





103-1



103-3



103-4



103-2



103-5



103-6

SE126 (4)

103-7
SK132103-8
SK134

103-9



103-10



103-11

SD143



103-12



103-13

SD144



103-14



103-15

SX154



104-1



104-2

104-3



104-4



104-5



104-6



104-7



104-8



104-9



104-10



104-11



104-12



104-13



104-14



104-15



104-16



104-17



104-18



104-19



104-20



104-21



104-22

SX155 (1)



105-1

SX155 (2)



105-2



105-3



105-4

SD156



105-5



105-6



105-8



105-9

SE162



105-7

SD159



105-10



SK205



105-11

SP207



105-12

SP209



105-13



105-14



105-15

SK210 (1)



106-1



106-2



106-3



106-4



106-5



106-6



106-7



106-8



106-9 SK210 (2)



106-10

SK212



106-11

SK213 (1)







108-1



108-2



108-3



108-4



108-5



108-6



108-7



108-8



108-9



108-10



108-11



108-12



109-1



109-2



109-3

SD238 (2)



109-4

SP242





1区 グリッド (1)



1区 グリッド(2)

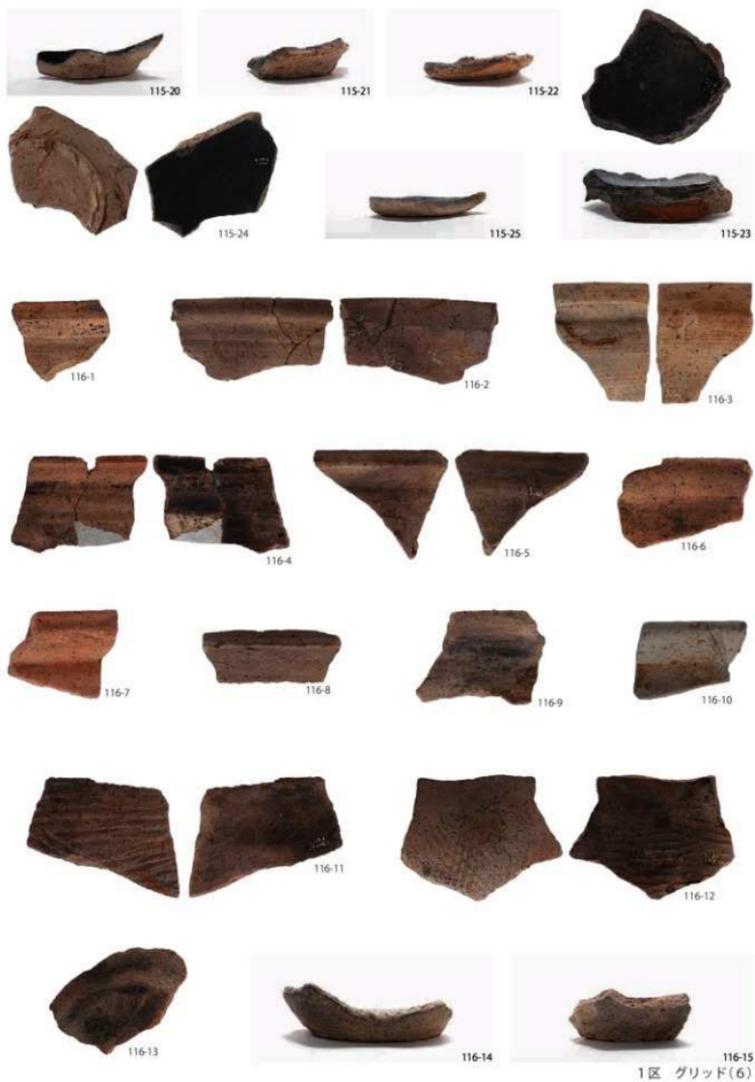




1区 グリッド(4)



1区 グリッド(5)





1区 グリッド(7)



118-1



118-2



118-3



118-4



118-5



118-6



118-7



118-8



118-9



118-10



118-11

1区 グリッド (8)



118-12



118-13



118-14



118-15



118-16



118-17



118-18



118-19

1区 調査区



2区 グリッド(1)



2区 グリッド(2)









SD18
石製品(1)



125-1

SD89



125-2

SD214



125-3



125-4

SP227



125-5

SD238



125-6

SP259
石製品(2)



1区 グリッド



2区 グリッド



2区 グリッド
石製品 (3)・石器・金属製品



SD 4
木製品 SX 3・SD 4 (1)



SD 4



SD 5

木製品 SD 4 (2)・SD 5 (1)



SD18
木製品SD 5 (2)・SK 9・SP10・SD18 (1)



130-1



130-2



130-3



130-5



130-6



130-7



130-8



130-9

SD18



130-4



130-10



130-11



130-12

SK52



130-13



130-14



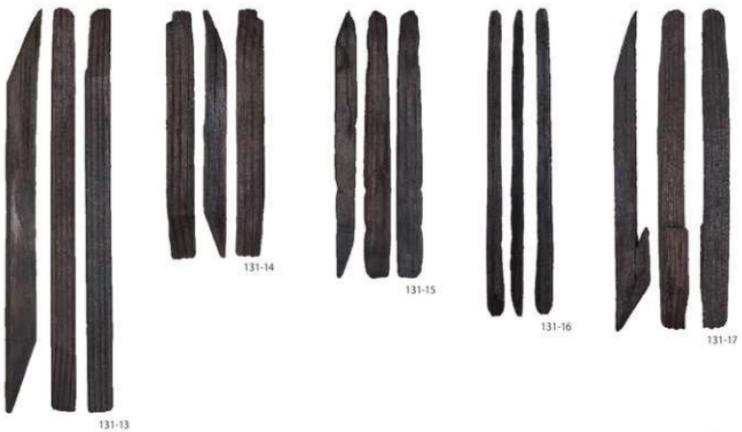
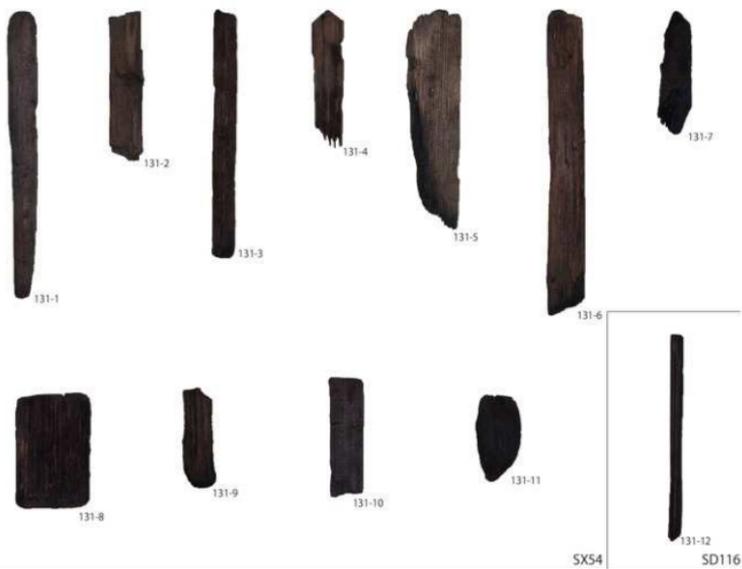
130-15



130-16

SX54

木製品 SD18 (2)・SK52・SX54 (1)



SE123
木製品 SX54 (2)・SD116・SE123 (1)



132-1



132-2



132-3



132-4



132-5



132-6



132-7



132-8



132-9



132-10



132-11



132-12



132-13

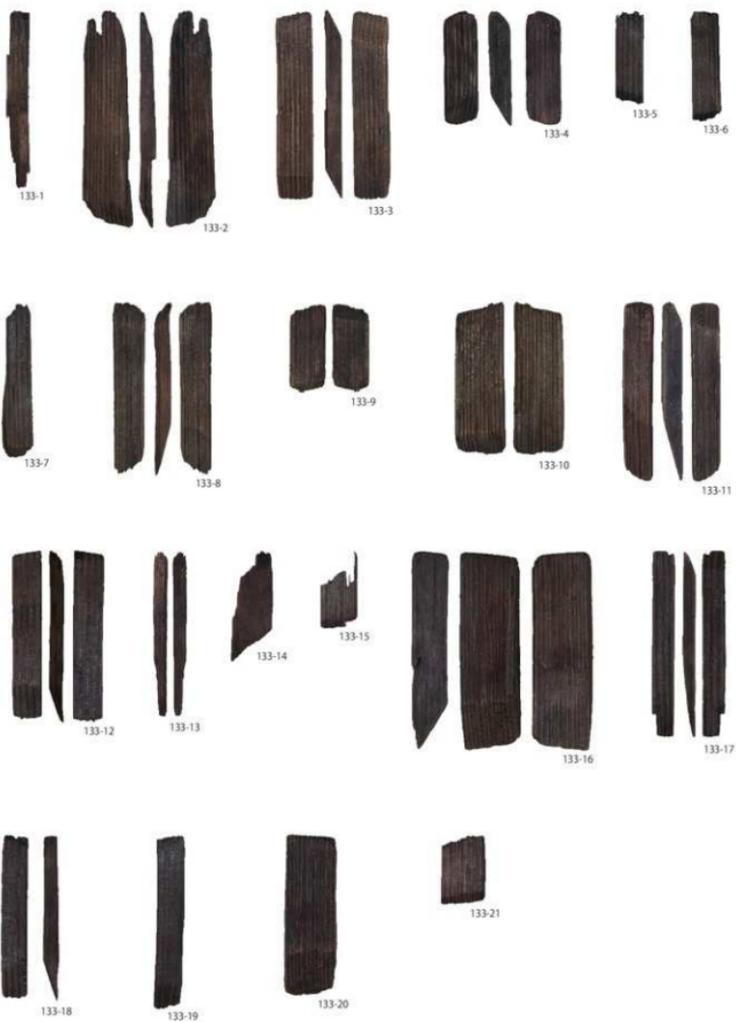


132-14



132-15

木製品 SE123(2)



木製品 SE123 (3)



134-1



134-2



134-3



134-4



134-5



134-6



134-7



134-8



134-9



134-10



134-11



134-12



134-13



134-14

木製品 SE123(4)



135-1



135-2



135-3



135-4



135-5



135-6



135-7



135-8



135-9



135-10



135-11



135-12



135-13



135-14

木製品 SE123 (5)



木製品 SE123 (6)



木製品 SE123 (7)



138-1



138-2



138-3



138-4



138-5



138-6



138-7



138-8



138-9

木製品 SE123 (B)



木製品 SE123 (9)



140-1



140-2



140-3



140-4



140-5



140-6



140-7



140-10



140-8



140-9

木製品 SE123 (10)



木製品 SE123(11)



142-1



142-2



142-3



142-4



142-5



142-6



142-7



142-8



142-9



142-10



142-11



142-12



142-13



142-14

木製品 SE123 (12)



143-1



143-2



143-3



143-4



143-5



143-6



143-7



143-8



143-9



143-10



143-11



143-12



143-13



143-14



143-15



143-16

木製品 SE123 (13)



144-1



144-2



144-3



144-4



144-5



144-6



144-7



144-8



144-9



144-10



144-11



144-12



144-13



144-14



144-15



144-16

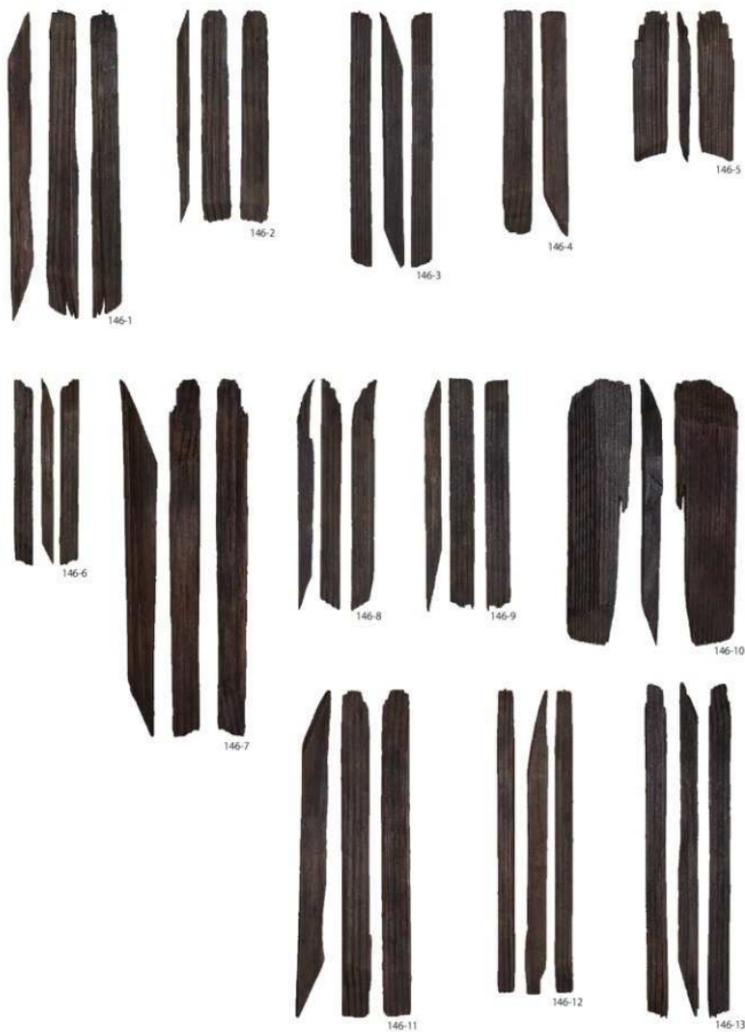


144-17

木製品 SE123 (14)



木製品 SE123 (15)



木製品 SE123 (16)



147-1



147-2



147-3



147-4



147-5



147-6



147-7



147-8



147-9



147-10



147-11



147-13



147-12



147-14

木製品 SE123 (17)



148-1



148-2



148-3



148-4



148-5



148-6



148-7



148-8



148-9



148-10

木製品 SE123 (18)



149-1



149-2



149-3



149-4



149-5



149-6



149-7



149-8



149-9



149-10

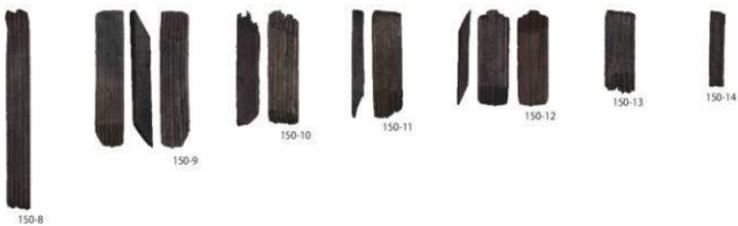


149-11



149-12

木製品 SE123(19)



木製品 SE123 (20)



151-1



151-2



151-3



151-4



151-5



151-6



151-7



151-8



151-13



151-9



151-10



151-11



151-12

木製品 SE123 (21)



152-1



152-2



152-3

木製品 SE123 (22)



153-1



153-2



153-3

木製品 SE123 (23)

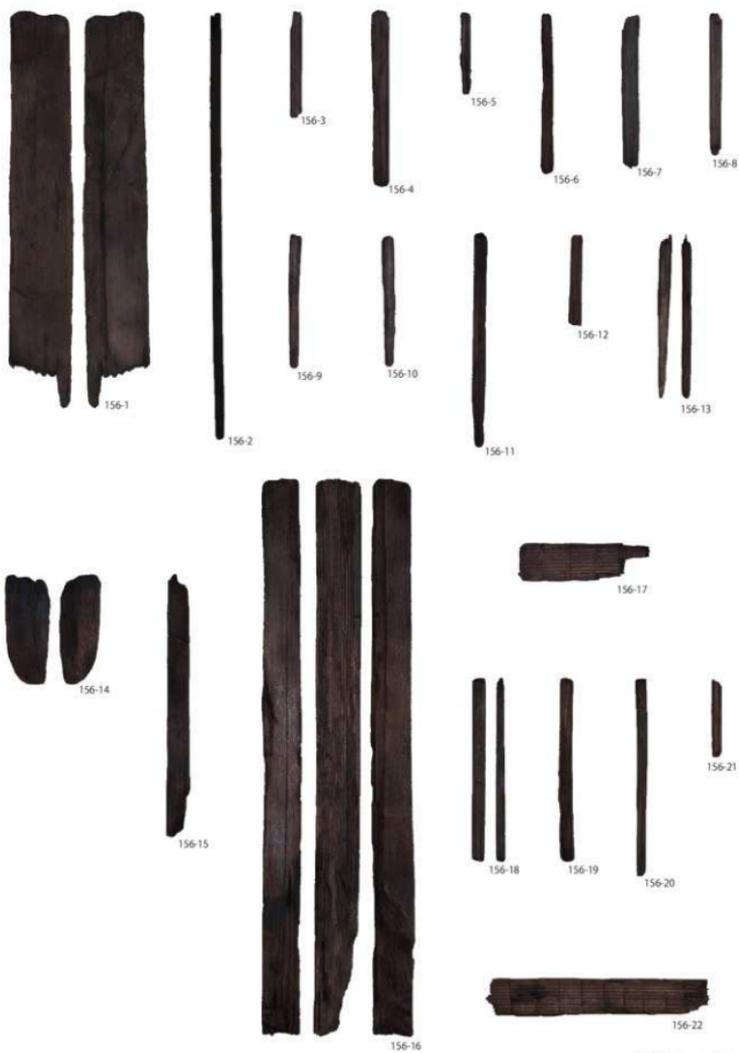
写真図版 141



木製品 SE123 (24)・SE126 (1)



木製品 SE126(2)



木製品 SE126(3)



木製品 SE126(4)



木製品 SE126 (5)



159-1



159-2

SE126



159-3



159-4



159-5



159-9



159-10

EP167



159-6



159-7



159-8



159-11



159-12



159-13



159-14

SE162

SK211

木製品 SE126 (6)・SE162・EP167・SK211



160-1

160-2

SK213



160-3

SP219



160-4



160-5

SP224

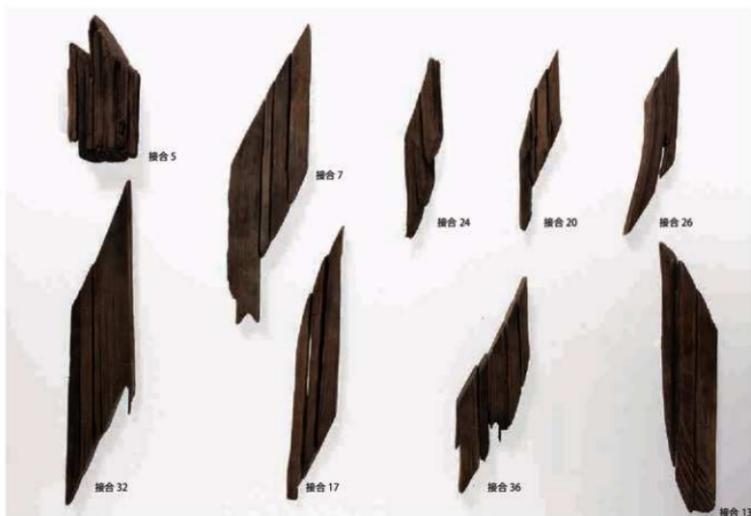
木製品 SK213・SP219・SP224 (1)



木製品 SP224 (2)・SP231・SP235・SK237・SK244・EP271・2区グリッド



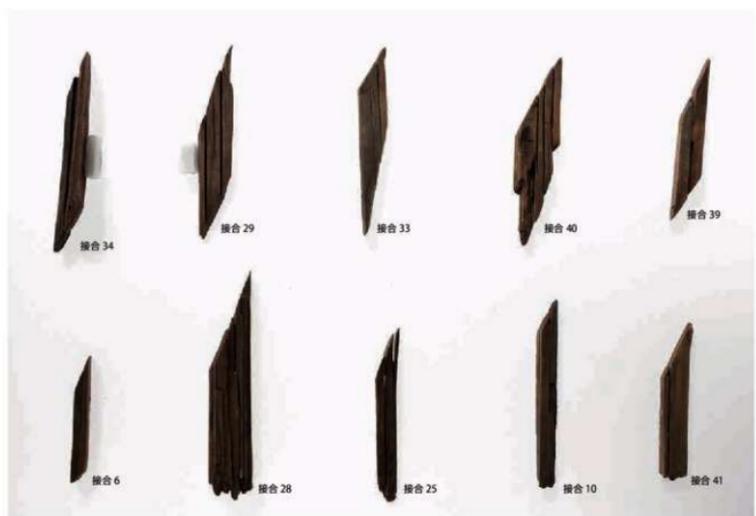
齐串接合(1)



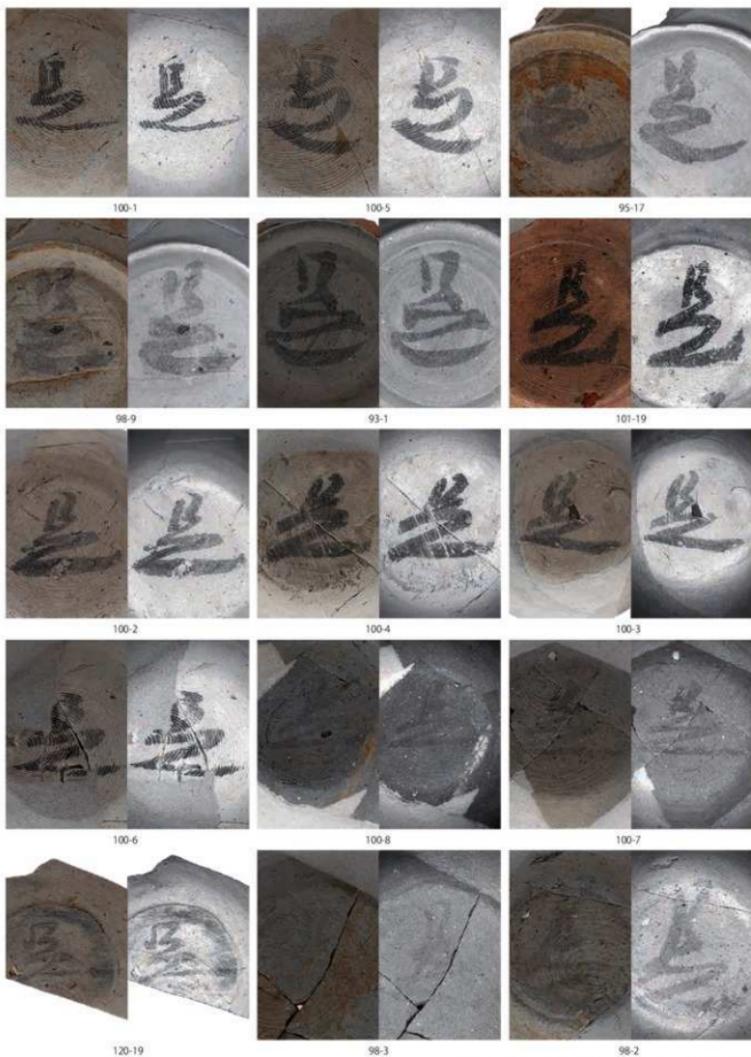
齐串接合(2)



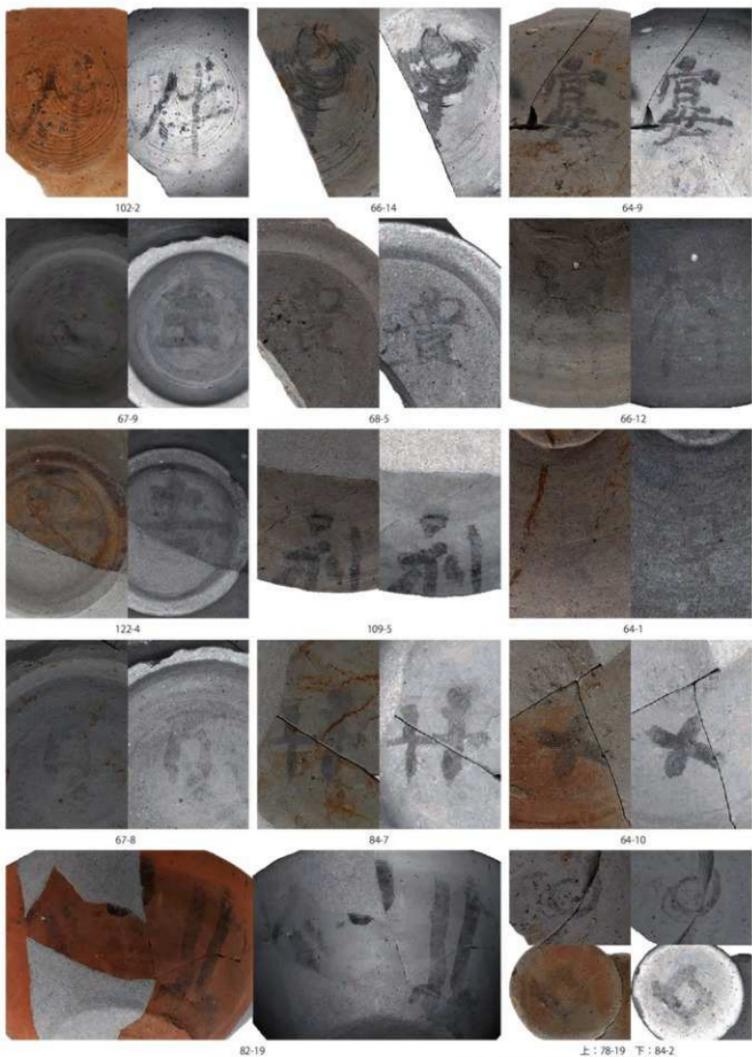
高串接合 (3)



高串接合 (4)



墨書土器集成(1) ※左:写真 右:赤外線写真



墨書土器集成(2) ※左：写真 右：赤外線写真



表土除去作業 (南から)



遺構検出作業 (北から)



白線引き作業 (北から)



遺構精査作業 (東から)



SX 3 遺構精査作業 (北東から)



記録作業 (南から)



空中写真測量 (南から)



調査説明会風景 (北から)



接合作業



復元作業



実測作業



実測作業（墨書土器）



トレース作業



写真撮影



版組作業



編集作業

報告書抄録

ふりがな	かみそねいせきだい3じはつくつちようさほうこくしょ							
書名	上曽根遺跡第3次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第245集							
編著者名	植松峻彦							
編集機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3246 山形県上市市中山字壁原敷5608番地 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
かみそねいせき 上曽根遺跡	山形県 酒田市 上野曽根 字上中割	204	076	38° 56' 41" 52	139° 53' 15" 01	20190604 ? 20191206	5.400	一般国道 344号道路 改築事業(安 田バイパス)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
かみそねいせき 上曽根遺跡	集落跡	古代	掘立柱建物	1	土師器 赤埴土器 須恵器 転用硯 斎串 曲物底板 柱根 井戸材(縦板)	県内で希少な側面の上 端と斜め下から左右2 箇所以上に切込みを入 れる斎串や、平行四辺 形基調の斎串状木製品 が130点以上出土。墨 書土器で複数の「足」、 県内初出の「夏」が出 土。緑釉陶器も出土。	(文化財認定箱数: 61)	
		中近世	土坑 溝					須恵器系陶器 白磁青磁 中国産青花 瀬戸美濃陶器
		近世	畝状溝跡					肥前陶磁器 砥石 木製品 金属製品
要 約	<p>上曽根遺跡は、これまで第1・第2次調査が行われ、古代や中近世の集落跡として知られる。今回の第3次調査でも古代の8世紀末～10世紀前半の掘立柱建物跡や井戸跡、大小の土坑、区画施設と考えられる柱穴列などが確認された。遺物では、県内では希少な側面の上端と斜め下から左右2箇所に切込みを入れる斎串や、東北地方では類例に乏しい平行四辺形基調の斎串状木製品が130点以上出土した。他に墨書土器で複数の「足」、県内初出の「夏」、緑釉陶器片も出土し、出羽国府城輪軸跡に近接する集落の特殊性が窺える。</p> <p>中近世では、大小の土坑や畝状溝跡、大溝などが検出され、遺構や出土遺物の分布の濃淡から当該期の集落の拡張や消長が推測された。</p>							

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 245 集
上曽根遺跡第 3 次発掘調査報告書

2022 年 3 月 31 日発行

発行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話 023-672-5301
印刷 株式会社アサヒマーケティング
〒990-2251 山形県山形市立谷川二丁目 486-14
電話 023-686-4331

この PDF データは下記の報告書を底本として作成しました。

閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。

底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：上曽根遺跡第3次発掘調査報告書

発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

〒 999-3246

山形県上市市中山字壁屋敷 5608 番地

電話 :023-672-5301

URL:<http://www.yamagatamaibun.or.jp/>

mail:yac@yamagatamaibun.or.jp

電子版作成日：2022 年 3 月 31 日